【鐺】鐺の本字。

【鐃】ダウ、デウ。女交切 [肴]
㊀軍中に用ふる小鉦、かね、どら。鼓うつを止どむるにうちならすもの。○[周禮]「以二金ー一止レ鼓」。㊁奏樂に用ふる小鉦、樂のをはりにうちならすもの。○[禮、註]「ー聲爲レ陰」。㊂譊に通じ用ふ、さわがし。○[後漢]「今年尚可、後年ー」。
(鐃鈸) さらのたぐひ。○[詩、箋]「鉦ー、ー相類、俱得レ以レ鉦名レ之」。

【鐃】ダウ、デウ。女敎切 [效]
橈に同じ、たわむ。○[莊]「萬物無下足二以ー一レ心者上」。

【鐄】クワウ、ワウ。戶盲切 [庚]
㊀鐘の聲にいふ字、一說に、大いなる鐘。㊁物の聲にいふ字。○[馬融]「錚ー嘈ー」「嗃」。㊂かま、(鎌)。

【鐅】ヘツ、ヘチ。芳滅切 [屑]
鐅刃、すきのは。○[方言、註]「呼二鐅-刃一爲レー」。

【鐝】鐅に用じ。

【鐓】ラン、ロン。盧含切 [覃]
ー鐆は、馬の口中の鐵、くつばみ。

【鐩】スヰ、ズヰ。除醉切 [寘]
日光を受けて火を取る鏡。

【鐇】ヘン、ボン。附袁切 [元]
㊀うつ、(椎)、きる、(鍦)。○[後漢]「ー二鑊株-林一」。㊁廣刃の斧、なの。

【鐈】ケウ、ゲウ。巨嬌切 [蕭] 渠廟切 [嘯]
鼎に似て長き足ある器、物を溫むるに用ふるもの。

【鐉】セン。此緣切 [先]
門戶の樞を鉤くるもの、かぎ、一說に、門戶を治むる器。

【鐬】俗の鉞の字。

【鐊】ヤウ。與章切 [陽]
馬頭の飾り、おもがい、一說に、車輪の鐵、わがれ、一說に、鍚に同じ。○[急就篇]「鞍鑣ー」。

【鐋】タウ。他浪切 [漾]
木を治むる器、かんな。

【鐌】シヤウ、ザウ。似兩切 [養]
㊀器の鈕、つまみ、とッて。㊁錦の名。

【鐗】セン、ナン。人絹切 [霰]
まろかれ、(鋧)。

【鐍】ケツ、ケチ。古穴切 [屑]
㊀觼に同じ、舌ある環。○[後漢]「得レ施二玉-鐶ー一」。㊁日傍の氣氣。○[史、註]「有レ氣刺レ日爲レー」。㊂かけがね、(鈕)、ぢやう、(鎖)。○[莊]「固二扃-ー一」。㊃樞要。○[李嶠]「扣二ー-機之ー-鑰一」。

【鐍】井ツ、井チ。允律切 [質]
きり、(錐)。

【鐞】コ、ゴ。古胡切 [虞]
鏷ーは、矢の名。

【鐎】セウ。即消切 [蕭]
物を溫むる器、なべ、三足にして柄と流(くち)とあるもの。○[周、註]「煮二之ー-中一」。
(銅鐎) あかゞねのなべ。○[漢、註]「刀斗以ー作」。

【鐎】セウ、ゼウ。昨焦切 [蕭]
銚に似て物を溫むる器。

【鐎】シウ、シユ。即由切 [尤]
釜の屬。

【鐏】ソン、ゾン。徂寸切 [願] サン、ザン。祖管切 [旱]
㊀槍矛などの柲の下端を包みたる金、いしづき。○[禮]「進レ戈者前二其ー一」。㊁撞く。○[釋名]「有レ所二ー-入一也」。

【鐐】レウ。洛蕭切 [蕭]
㊀美しき銀。○[何晏]「ー-質輪-菌」。㊁孔ある爐。

【鐐】レウ。力弔切 [嘯] ラウ、ロウ。郎到切 [號]
美しき金。

【鐼】鈿に同じ。○[晉]「公-主夫-人五ーー」。

【鐑】ケツ、ケチ。吉屑切 [屑]
鍥に同じ。

【鑵】クワン。口煥切 [翰] 苦管切 [旱]
鐵を燒きて物を炙るにいふ字、あぶる、鐵を燒きて物に識すにいふ字、やきいん。

【鐓】タイ、デ。杜對切 [隊] 杜罪切 [賄] タン。都玩切 [翰] トン。都昆切 [元]
矛の下の銅鐏、いしづき。○[禮]「進二矛-戟一者前二其ー一」。

【鐓】タイ、テ。都回切 [灰]
下がり垂る、たる、一說に、千斤の椎、おほづち。

【鐔】シン、ジン。徐林切 [侵] イン。夷針切 [侵] タン、ドン。徒含切 [覃]
㊀劍鼻、ふちがしら、又、劍口、つば、又、劍珥、つるぎのわがれ。○[莊]「周宋爲レー」。㊁小さき劍。○[漢]「鐔作二刀-劍一鉤レー」。
(劍鐔) つるぎのつばもと。○[陸龜蒙]「黃-金-飾ーー」。

【鐔】タン、ドン。徒感切 [感]
前條の㊀に同じ。

【鐔】シン、ジン。尋浸切 [沁]
刀の本。

【鐔】タク、ダク。達各切 [藥]
劍の珥、わがれ。

【鏙】サン、ザン。士山切 [刪] シン。側詵切 [眞]

セン、ゼン。士連切 [先]
小鑿のみ。

【鑐】シユ、ズ。詢趨切 [虞]
鎖牝、ぢやう。

【鐖】キ、ケ。居依切 [微]
㊀鉤の逆鐖、さかばり、かゞり。○[集韻]「無レー之鉤不レ可三以得二魚」。㊁彈き發つ機、はじき。○[淮]「工-匠之爲二連-ー一」。

【鐖】キ、渠希切 [微] ゲ、ガイ。魚開切 [灰]
大鎌、おほがま。

【鐗】カン、ケン。古莧切 [諫]
車軸の鐵、おほひがれ。

【鐟】古文の錯の字。

【鐟】ソ、ス。刋五切 [麌]
やすり、(鋁)。

【鏑】鏑に同じ。

【鐘】ショウ、シウ。職容切 [冬]
內部と下方と空虛にしてつきうちて聲をなす樂器、つりがね、かつ。○[詩]「ーー鼓樂レ之」。
(林鐘) 百鐘ともいふ音律の名、六月に配す。○[禮]「律中二林ー一」。
(應鐘) 音律の名、十月に配す。○[禮]「律中二應ー一」。
(夾鐘) 音律の名、二月に配す。○[禮]「律中二夾ー一」。
(黃鐘) 音律の名、十一月に配す。○[禮]「律中二黃ー一」。
(撞鐘) つりがねをつきならす。○[鮑照]「ーー吹レ笙、鄒陽客館」。
(景鐘) 前に同じ。○[楚辭]「ー、ー鐘、流」。
(五鐘) いつゝの樂器、即ち青鐘、赤鐘、黃鐘、景鐘、黑鐘をいふ。○[管]「黃帝以二其鐘-數一作二五聲一以正二ーー一」。
(靈鐘) つりがねをうちならす。○[庾信]「兩-鄒-造」。
(撮鐘) 前に同じ。○[賈誼]「ーー鐘-兩-鼓-鳴」。
(豆鐘) おほつりがね。○[揚]「撞二ーーー一」。
(洪鐘) 前に同じ。○[孫綽]「鼓-柄-經二ーー一」。
(鴻鐘) 前に同じ。○[揚雄]「撞二ーーー、建二九-旂一」。
(剝鐘) つりがねをうつ、又、つりかねを析る。○[說]「ーーーー」。
(鼎鐘) かなへとつりがねと。○[司馬相如]「銘二功-施一」「ーーーー」。
(晨鐘) よあけにうちならすかね。○[庾信]「山-寺-鐘-ーーー」。
(新鐘) 前に同じ。○[王褒]「虛谷-應二ーーー一」。
(暝鐘) 前に同じ。○[駱賓王]「風-霜-入二ーーー一」。
(暮鐘) ひぐれにうちならすかね。○[杜甫]「衣-疏-起二ーーー一」。
(古鐘) むかしのつりがね。○[宋]「豫-章-滿二ーーー一」。
(梵鐘) 佛寺のつりがね。○[樊晃]「半-樹-殘-陽-又ー」。

【鑈】チ。展几切 [紙]
うがつ、(鑽)。

【鐙】トウ。都滕切 [蒸]
㊀燭錠、ひともし、轉じて燈火。○[楚辭]「華-ー錯些」。㊁瓦登、やきもののたかつき。○[儀]「實二于ーー一」。

【鐙】トウ。都鄧切 [徑]
㊀馬鞍の兩旁につけて跨がりのれる人の足をかくる具、あぶみ。○[韓偓]「和-褐穿二玉-ーー一」「執レー」。㊁豆の下の斷たかつきのだい。○[禮]
(金鐙) あぶみ。○[李白]「驄-駒ー白-玉-鞍」。
(銀鐙) しろがねのあぶみ。○[王志堅]「只數二馬ーーー」。
(鞍鐙) くつわとあぶみと。○[白居易]「鞍騎ーー」。
(跨鐙) あぶみにまたがりのる。○[張籍]「ー如-霜-騎二ー錦ー」。

【鐚】錏に同じ。

【鐛】エイ、ヤウ。於敬切 [敬]
あく、(鉋)。

【鑙】シ。脂利切 [寘]
㊀羊箠、むち、其の端に鐵あり。㊁田器、すき。

【鑙】セツ、セチ。人列切 [屑] ヘイ、バイ。蒲計切 [霽] テフ。丁協切 [葉]
㊀つち、(椎)。㊁田器、すき。

【鑙】シフ。之私切 [緝]
前々條の㊀に同じ。

【䥫】鐵に同じ。

十三畫

【鐩】鐆に同じ。

【鏖】アウ、オウ。於刀切 [豪] イク、オク。乙六切 [屋]
一本、鏕に作る。
㊀物を溫むる器、かま、一說に、銅の器。㊁肉を煮る器。

【鐪】ロ、ル。古郎切 [麌]
㊀膠を煎る器。㊁刀の柄。

【鐫】セン。子全切 [先]
㊀木を穿つのみ。㊁いしづき、(鐏)。㊂うがつ、(鑿)、きる、(斷)、うつ、(琢)、ほる、(鏨)、ゑる、(刻)。○[漢]「可二ー-廣-之一」。㊃おりぞく、(貶)。○[正字通]「中-外-官降レ級曰二ー-級一」。
(鐫鑱) ゑる。○[孫綽]「顯-驗-振二ーーー之跡一」。
(新鐫) きざむ。○[韓文帝]「畫ー-ー」。

【鑴】セン、ソン。專雛切 [鹽]
きり、(錐)。

【鑴】セン。子兗切 [銑]
うがつ、(鑿)。

【鐬】クワイ、ヱ。呼外切 [泰]
㊀鈴の聲にいふ字。㊁さかんなり、(盛)。

【鐭】イク、オク。乙六切 [屋] アウ、オウ。烏到切 [號]
物を溫むる器。

【鐮】鎌に同じ。

【鐯】チヤク。張略切 [藥] シヤク。職略切 [藥]
おほくは、くは、(钁)。

【鐰】セウ。七遙切 [蕭]
鍫に同じ。

【鐰】サウ、ソウ。先到切 [號]
㊀金鐵の剛きにいふ字、こはし。㊁かはく、(燥)。

【鐰】サウ、ソウ。財勞切 [豪]
鐵の剛くして折るゝにいふ字、をる。

【鐙】俗の鐙の字。

【鐥】セン。旨善切 銑
うつ（擊）、さく（割）。
【鐔】セン。式戰切 霰
築つ、むちうつ。
【鏳】クワク、カク。古獲切 陌
鐵の器。
【鑯】セン、ソン。千廉切 鹽
すき（臿）。
【鐱】ケン、ゲン。渠險切 琰
こがね（金）。
【鐓】ケウ。吉了切 篠
一耳は、さッて。
【鐩】俗の鑓の字。
【鐲】タク、ドク。直角切 覺
軍中に用ふる鉦、かね、鼓聲を節するにうちならすもの。○［周］「以二金鐲一節レ鼓」。
【鐲】ショク、ゾク。市玉切 沃
物を温る器、鐲銷。
【钃】チョク、トク。陟玉切 沃
劚に同じ。
【鏢】ヘウ。昇遙切 蕭
刀鋒、きッさき。○［後漢］「爲二一口之飾一」。
【鎬】鐍に同じ。

【鐳】ライ、レ。盧回切 灰
❶かめ（瓶）、つぼ（罍）。○［潘岳］「實二壺一一、瓶甒以實レ之」。❷一一柚は、大橘、たちばな。
【鍻】エツ、オチ。於歇切 月
鐵を以て揭ぐ。
【鍼】シン。職任切 沁
ぬふ（縫）、さす（刺）。
【鐴】ヘキ、ヒヤク。必益切 陌 必歴切 錫
犂耳、からすきのみ、
【鐾】ヘイ、バイ。蒲計切 霽
刀を研く、とぐ。
【鐊】俗の鍚の字
【鐵】テツ、テチ。天結切 屑
❶黑色を帶ぶる一種の金、くろがね。○［書］「厥貢璆、鐵、銀、鏤、砮、磬」。❷くろがねにてつくりたる器、かなもの、はもの。○［李陵］「兵盡矢窮、人無二尺鐵一」。❸黑き色。○［禮］「駕二鐵驪一」。❹堅硬なること。○［皮日休］「鐵心石腸」。
（鐵錢）ぜにとくろがねと。○［史］「頒一一事」。
（鐵鍛）くろがねをいる。○［坪籠］「又能一一爲一水」。
（鐵鑄）前に同じ。○［淮］「一一而爲レ刃」。
（鐵鑛）くろがねをなはによる。○［淮］「一一飲金」。
（尺鐵）みじかきはもの。○［李陵］「人無二一一」。
（生鐵）きたへざるくろがね。○［詩、箋］「堅者色如二一一」。
（冶鐵）くろがねをねる。○［許、後］「鐵官一一」。
（良鐵）よき質のくろがね。○［後漢］「精金一一」。
（販鐵）くろがねをあきなふ。○［晉］「乃一一於鄙市中」。
（碧鐵）あをみをふくみたるくろがね。○［山海經］「玉山北下多二一一」。
（賤鐵）くろがねをおもんぜず。○［江淹］「古昔一一」。
（精鐵）よきくろがね。○［蘇軾］「地既產二一一」。
【鐡】テツ、デチ。徒結切 屑
ときくろがねはもの
【鐶】クワン、ゲン。戸關切 刪
圜郭圜空にして物を貫き又は相繋ぎ能ふ金屬製のもの、かれのわ、たまきわ。○［揚雄］「鍾以二玉一一」。
（金鐶）こがねのゆびわ、又、かねのたまき。○［晉］「目歎二一一」。
（指鐶）ゆびわ。○［晉］「同心一一鐶、將」。
（銅鐶）あかゞねのたまき。○酉陽雜俎「鐶下黃二一一」。
（鐶錢）さし。○洛陽伽藍記「金錢二一一」。
【鐶】セン、セン。隨戀切 霰
車のくわん。
【鐷】テフ、デフ。徒協切 葉
あらがね（鍱）。
【鏶】ケフ、コフ。歳涉切 葉
あらがね（鍱）、又、かれのわ（鐶）。
ロウ、ル。力冬切 冬 魯宋切 宋
【鏚】セキ、シヤク。七役切 陌
鼓の聲にいふ字。○［史］「鏚鎗鎗一」。

【鐸】タク、ダク。待各切 藥
古昔に教令を宣言するにはじまりとをはりとに振りならせし大鈴、おほすゞ、文事には木舌のものを用ひ武事には金舌のものを用ふ。○［書］「以二木鐸一徇二于路一」。

（鐸之圖）

（木鐸）おほすゞをもつ。○［周］「兩司馬一一」。
（振鐸）おほすゞをふりならす。○［周］「司馬一一」。
（金鐸）おほすゞのもと。○［周］「以二一一通一鼓」。
（鼓鐸）つゞみとおほすゞと。○［周］「鼓其一一」。
（鳴鐸）すゞをならす、又、なるすゞ。○［高啓］「行人旅物兵、話二早晚車一一」。
（鈴鐸）すゞ。○［杜牧］「一一警耳、頓煩鼓之」。
（征鐸）軍隊中に用ふるすゞがねとすゞと。○［周、註］「謂二一一之屬一」。
（鐘鐸）つりがねとすゞと。○［拾遺記］「可以二一一」。
【鐹】クワ。古火切 哿
かま（刈鉤）。
【鍋】クワ。古禾切 歌 古臥切 箇
釭、車のかりも。
【鐅】鑿に同じ。
【鐺】タウ。都郎切 陽
鋃一は、（い）鋃と鐺と相貫きて連絛をなしたるもの、くさり。○［六書故］「鋃一一之爲レ物、連環而重」。（ろ）重くして容易に舉げ難きこと。○［六書故］「故俗以二困レ重不レ舉爲二鋃一一」。

【鐋】タウ。他郎切 陽
鏜に同じ、鼓の聲にいふ字。○［史］「鏜鎗一鞞」。
【鐺】サウ、シヤウ。楚庚切 庚
釜の屬、足ある鬲、酒を温むる三足の器、なべ、あしがなへ。○［宋］「鼎一猶有レ耳」。
（銅鐺）てつなべ。○［談苑］「以二一一一溫」之。
（茶鐺）ちやをにるなべ。○［周朝］「竹爐斜引入一一一」。
（瓦鐺）からなべ。○［林寛］「鍾落打二一一」。
（土鐺）そなべ。○［陸游］「一一爭響茶煎茶」。
（藥鐺）くすりをにるなべ。○［陸游］「自掃二輕一鐺一」。
（破鐺）われなべ。○［張羽］「茶香出二一一」。
（折脚鐺）あしをれなべ。○［蘇軾］「一一一邊燒二淡粥一」。
【鏍】ラ。力戈切 歌
銼一は、小さき釜。
【鑤】ハク、ボク。蒲角切 覺
杵頭、きねのくび。
【鐻】キヨ、ゴ。其呂切 語
虡に同じ、鐘鼓の柎、かれかけ又はたいこかけのあし。○［史］「收二天下兵一聚二之咸陽一、銷以爲二鍾一一」。
（鍾鐻）樂器に用ふるかれをいる。○［賈誼］「銷二鋒鏑一以爲二一一」。
【鐻】キヨ、コ。居御切 御
夾鍾に似たる一種の樂器、木を削りて造る。○［莊］「梓慶削レ木爲レ一、一成、見者驚猶二鬼神一」。
【鐻】キヨ、コ。求於切 魚
金銀の器の名。○［左思］「一一耳之傑」。
【鐼】クン、コン。火運切 問 フン、ボン。符分切 文
鐵の屬。
【鐼】ホン。逋昆切 元
木を平かにする器、かんな。

十四畫

【鑈】ボウ、モウ。武亘切 徑 ボウ、ム。莫鳳切 送
かれのわ（鐶）、又、重なる鐶。
【鑂】クン、コン。呼運切 問
金の色の渝はるにいふ字、かはる。
【鑢】リヨ、ロ。良據切 御
やすり（錯）。○［周、註］「磨一之器」。
【鑪】リヨ、ロ。凌如切 魚
矛の柄を受くる處。
【鑃】テウ、デウ。徒弔切 嘯
物を燒く器。
【鑄】シユ、ス。之戍切 遇 シウ、シユ。照秀切 宥
いる。（い）金を鎔かし模型に入れて器物を成すにいふ字。○［左］「一レ鼎象レ物」。（ろ）感化して才德を成さしむるにいふ字。○［揚雄］「孔子一二顏、回一矣」。
（冶鑄）金屬のたぐひをいる。○［史］「一一者」。
（盜鑄）官の許可なきに貨をひそかにいる。○［漢］「五年夏四月除二一一錢令一」。
（改鑄）前に同じ。○［漢］「民多二一一」。
（鼓鑄）よりしまりなく心のまゝに散なるをいる。○［漢］「使二民一一」。○「一大鑪一」。
（陶鑄）これまでのものとかふ。○［後漢］「宜一一」。○［北］「一一萬生一」。
（新鑄）あらたにいる。○［隋］「非二一一一二種之錢一」。
（鎔鑄）かなものをいる、又、論じて人をあらため化するにもいふ語。○［杜甫］「可レ以一二一性靈一弘風敎一」。
【鑅】クワウ、ワウ。胡盲切 庚
鐘の聲にいふ字。
【鐭】ヨ。羊茹切 御
かんざし（釵）。
【鐜】ツヰ、ヅヰ。直類切 寘
半熟の銅。
【鑈】デフ、チフ。奴協切 葉
❶たゞし（正）。❷鑷に同じ。
【鑈】デイ、ナイ。奴禮切 薺 ヂ、ニ。乃里切 紙
柅に同じ、絲を絡ふ具、いさまき。
【鑖】ビ、ミ。無非切 微
物を懸くる鉤、かぎ。
【鑹】ケン。呼典切 銑
けづる（削）。
【鑉】タフ、トフ。託盍切 合 カフ、コフ。轄臘切 合
一鑪は、箭。
【鑊】クワク。胡郭切 藥
足なき大鼎、かなへ、肉又は魚腊などを煮るに用ひしもの、又、古の極刑さして罪囚を煮殺すにも用ひしといふ。○［周］「掌レ共二鼎一一」。○［南］「以二大一一一」。
（鼎鑊）くろがねのかなへ。○「盛レ油煎レ之」。
（鉅鑊）おほがなへ。○「一一大鼎至二牛一」。
（湯鑊）ゆをわかしたるかなへ、又、かまゆでの刑罰にもいふ。○［史］「就二湯一一」。
（斧鑊）をのとかなへ（をのにて斬罪とかまゆでとの刑をいふ）。○［徐陵］「甘從二一一」。
（淵鑊）湯のにえたぎりたるかなへ。○［文選］「大禹若二一一」。
【鑋】ケイ、キヤウ。苦定切 徑 牽正切 勁
去挺切 迥
【鑋】ケイ、キヤウ。去盈切 庚
一足にて行く。
【鑌】ヒン。必鄰切 眞
❶前條に同じ。❷たつ、きる（斷）。
【鑍】エイ、ヤウ。伊盈切 庚
はがれ。
【鑒】鈁に同じ。
【鐀】キ。求位切 寘
はこ（匱）。
【鑏】ダウ、ニヤウ。女耕切 庚
刀の柄。
【鑏】デイ、ニヤウ。乃挺切 迥
刀の柄の入る處。
【鑐】シユ、ス。相俞切 虞
ぢやう（鎖牡）。

鍾 シュ、ニュ。汝朱切 虞
金鐵の鎖けて流るゝに至れるにいふ字。とく。

鍚 ヲウ　ニュ。而由切 尤
鉛に同じ柔き鐵。

鑑 カン、革鑑切 闞　古銜切 咸
㊀古昔月光をうつし受けて其れより明水を取るに用ひしさいふ鏡。みづとりかゞみ、方諸。○〔周〕「以レ取二明水於月一」。
㊁かゞみ。
(い)影をうつし觀る器。○〔左〕「王以二后之鑒一予之」。
(ろ)かんがみる法戒。いましめ。のり、てほん。○〔唐〕「銕二千秋金鑑一」。〔錄〕。
㊂みる。
(い)うつし觀るてらす。○〔國〕「無シ二手水一」。
(ろ)てらし考ふ、かんがふ、かんがみる。○〔諸葛亮〕「魏不二審一」。○〔後漢〕「其獎拔人士皆如レ所レ」。
㊃觀察識別みわけ、かんがへ。○〔宋〕「未レ亮二于高一」。
〔篇韻〕いましめ。○〔儀禮〕「賈拾鬲之一」。
〔古今注〕おかしのかゞみ。○〔梅堯臣〕「一作二磨鏡一」。
〔唐韻〕あきらかなるかゞみ、又、あきらかなるかんがみ。○〔廣〕「一所以照レ形」。
〔玉篇〕神仙なる鑑察のよにてみちに帝王の德器を說するに用ふ。○〔李德裕〕「是負一一」。
〔古今注〕おかいなるかゞりにも帝王の德器にもいふ語。○〔宋〕「題一一」。
〔篇韻〕かゞみかんがみる。○〔廣〕「一一物情」。
〔篇韻〕くはしき觀察。○〔宋〕「人事其一一」。

鑑 カン、ゲン。胡懺切 豏
大口の甕に似たる陶器。氷を盛るに用ふるもの。ごほりつぼ。○〔周〕「春始治レ一」。

鑑 カン、ゲン。胡懺切 豏
甕に同じ。

鑒 鑑に同じ。
〔篇韻〕よしあしをあきらかに鑒知す。○〔廣〕「以レ一知レ古」。
〔詩經〕國勢なる德器のよにてみちに帝王の德器を說するに用ふ。○〔郭璞〕「陛下少留一一」。
〔篇韻〕よかくあきらかなる意味。○〔宋〕「一一準遠」。
〔篇韻〕あきらかにてのよしあしを鑒知す。○〔書〕「一一盛二人畜一」。
〔書經〕か（りみ）鑒す。○〔晉〕「試加一一」。
〔書經〕まとゝして善く物情を鑒知す。○〔晉〕「明有レ一」。
〔篇韻〕いづこまでもあしきはめて鑒す。○〔周書〕「一一群伏」。
〔品藻〕人物の高下などをみ判して鑒す。○〔後〕「許主持一一才」。
〔遠遊〕目の神の異名。○〔西陽雜俎〕「目神曰一一」。
〔殷書〕玄ぴかにあきらかなるも。○〔劉勰之〕「冷一一」。
〔篇韻〕かゞみ。○〔晉書〕帝王の德器。○〔晉書〕「上說一一」。
〔篇韻〕すぐれたる德器。○〔任昉〕「一一內斷」。

鑚 俗の鑽の字。

鑽 サン、ソン。則參切 覃
㊀鑿かさなき釘、くき。○〔禮〕「用二雜金一一」。
㊁つどる〔觀〕。㊂みがく〔磨〕。

鑿 サク、ソク。測角切 覺
鉏一ほ、おほばん。

鑓 リヨ。貝據切 御　或は鋁に作る。
㊀金類を磨するに用ふる具、やすり、又やすりを以て磨す、みがくきる。○〔詩箋〕「猶可二磨一而平一」。
㊁なさむ〔治〕。○〔揚雄〕「躬自一」。

鑣 ヘウ。補嫋切 蕭
㊀馬勒くつばみの兩旁につくる鐵器、くつわかざみくつわ。○〔曹植〕「玄駟騤々揚レ一漂沫」。
㊁盛んなる貌にいふ字。○〔詩〕「朱一鏕一一」。
〔篇韻〕くつわをつらねならぶとて馬をならべある。○〔晉〕「並レ一馳」。
〔金類〕こがねのくつわ。○〔後〕「一一玉絡非レ所レ貪也」。
〔玉篇〕たまのくつわ。○〔宋祁〕「一一良師」。
〔篇韻〕馬のくつわ。○〔周禮〕「一一鉤弓玉鑣飾」。
〔篇韻〕うつくしきくつわ。○〔鏡〕「一一馬飾貌」。
〔朱駿〕あかきいろのくつわ。○〔禮〕「一一說レ文」。
〔玉篇〕馬をとゞむ。○〔許愼〕「馬銜一一」。
〔篇韻〕馬をかざりとゞむ。○〔王僧虔〕「筆足者施一一」。

鑓 俗の鎗の字。

十六畫

鑛 ケウ。呼鳥切 篠　テウ。他弔切 嘯
鐵の文くろがねのあや。

鑞 錫に同じ、すゞ。○〔吳越春秋〕「干金一一」。

鑞 タイ、デ。徒對切 隊
矛戟の柄の下の銅、いしづき。

鑢 トン。都昆切 元　本錄に作る。

鑰 扃に同じ。○〔子夏易傳〕「繫二於門一一」。

鑰 ヤク。以灼切 藥
㊀門戶などのとまりをなすに裝置したる金具、ちやう、かぎ。○〔抱朴〕「堅二玉一於命門一」。
㊁樞要。○〔李嶠〕「扣二一機之鍵一一」。
㊂閉鎖す、とづ、とざす。○〔唐〕「生平所二縅一一者」。
㊃いる〔入〕。○〔淮〕「排二關闔一一天門一」。
〔篇韻〕門のかんぬきとやうそのほかにて門のとまりをいふ。○〔廣〕「一一鍵閉」。

鑠 シヤク。式灼切 藥
㊀劍の首飾、ふちかしら。
㊁樞に同じ酒樽。

鑠 ライ、レ。落猥切 賄
鍛一は、平かならざるとき。

鑢 テキ、チヤク。丁歷切 錫
龍鎖。

鑞 クイ、古奚 齊 遺礙 灰
カイ。切 かたし〔堅〕。

鑞 俗の鑽の字。

鑞 クヮウ。古猛切 梗
金璞あらがれ。○〔王褒〕「精鍊藏二於一一朴一」。

鑤 テン。呈延切 先
一劍は、うでわ。

鑵 ホウ、ブ。蒲蠓切 東
かぶと。

鑼 ラフ、ロフ。盧盍切 合
すゞ〔鉦〕。

鑽 トク、ドク。徒谷切 屋
印の匱、いんのはこ。

鑓 バウ、ミヤウ。武庚切 庚
とかす〔鎔〕。

鎌 シヤ、セ。洗野切 馬
範金、いがた。

鑷 シヤク。式灼切 藥
㊀劍の首飾、ふちかしら。
㊁樞に同じ酒樽。

鑷 ライ、レ。落猥切 賄
鍛一は、平かならざるとき。

鑼 テキ、チヤク。丁歷切 錫
龍鎖。

鑾 クイ、古奚 齊 遺礙 灰
カイ。切 かたし〔堅〕。

鑾 俗の鑽の字。

鑾 クヮウ。古猛切 梗
金璞あらがれ。○〔王褒〕「精鍊藏二於一一朴一」。

鑽 テン。呈延切 先
一劍は、うでわ。

鑾 ホウ、ブ。蒲蠓切 東
かぶと。

鑼 ラフ、ロフ。盧盍切 合
すゞ〔鉦〕。

鑽 トク、ドク。徒谷切 屋
印の匱、いんのはこ。

鑓 バウ、ミヤウ。武庚切 庚
とかす〔鎔〕。

鎌 シヤ、セ。洗野切 馬
範金、いがた。

鑷 シヤク。式灼切 藥

鑿 ソウ、ゾウ。昨早切 皓
㊀かすかす。
(い)熱を加へて金を熔かす、とらかす、とろかす。○〔史〕「衆口一金」。
(ろ)鎔散す、とく、とらす。○〔孟〕「非二由レ外一「我也」。
㊁さくる、さく。
(い)熱を受けて金熔く、さらく、ところ。○〔史註〕「金一」。
(ろ)鎔散すちる。○〔戰〕「韓氏一」。
㊂うつくし〔美〕。○〔詩〕「於一王一師」。
㊃光顯昭明、あきらか、ひかる、かゞやく。○〔何晏〕「日消月一」。
㊄する〔膝〕。○〔韓愈〕「日消月一」。
〔爾雅〕勇健なる貌にいふ語。○〔後漢〕「一一說也」。
〔廣韻〕かねをわかしけす。○〔宋之問〕「一一黃金丸一」。
〔篇韻〕前に同じ。○〔宋〕「謚一一皇甫枯死」。
〔篇韻〕あきらかなる美德。○〔東都賦〕「歌海頌一德一一」。
〔爾雅〕前に同じ、又、うるはしくかゞやく。○〔孫通〕「一一之美」。
〔詩傳〕そしりたる。○〔晉〕「鄭黑肱一一何罪」。
〔詩傳〕よをひけす。○〔班固〕「夫先鋒一一敗生」。
〔篇韻〕ひかりあきらかなる貌にいふ語。○〔玄應〕「說文」花華表明煥々一一」。
〔詩傳〕めづらしうるはし。○〔陸德〕「兄弟日文雖多一一」。
〔篇韻〕やきけす。○〔晉傳通〕「火石之所一一」。
〔篇韻〕かねをぬりとかす。○〔宅命〕「乃一乃一」。
〔篇韻〕ひらめきかゞる。○〔劉表〕「一一動靜」。
〔篇韻〕やきとかす。○〔隋史錄序〕「金石一一」。

鑿 七灼切 藥
㊀前條の㊁に同じ。
㊁やく〔燒〕。○〔莊〕「一一絕竽·惡」。

鑿 ヤク。七灼切 藥
㊀前條の㊁に同じ。
㊁やく〔燒〕。○〔莊〕「一一絕竽·惡」。

鑿 レキ、リヤク 狼狄切 錫

鑊 サク、ソク。測角切 覺
鉏一ほ、おほばん。

鑓 リヨ。貝據切 御　或は鋁に作る。
㊀金類を磨するに用ふる具、やすり、又やすりを以て磨す、みがくきる。○〔詩箋〕「猶可二磨一而平一」。
㊁なさむ〔治〕。○〔揚雄〕「躬自一」。

鑣 ヘウ。補嫋切 蕭
㊀馬勒くつばみの兩旁につくる鐵器、くつわかざみくつわ。○〔曹植〕「玄駟騤々揚レ一漂沫」。
㊁盛んなる貌にいふ字。○〔詩〕「朱一鏕一一」。
〔篇韻〕くつわをつらねならぶとて馬をならべある。○〔晉〕「並レ一馳」。
〔金類〕こがねのくつわ。○〔後〕「一一玉絡非レ所レ貪也」。
〔玉篇〕たまのくつわ。○〔宋祁〕「一一良師」。
〔篇韻〕馬のくつわ。○〔周禮〕「一一鉤弓玉鑣飾」。
〔篇韻〕うつくしきくつわ。○〔鏡〕「一一馬飾貌」。
〔朱駿〕あかきいろのくつわ。○〔禮〕「一一說レ文」。
〔玉篇〕馬をとゞむ。○〔許愼〕「馬銜一一」。
〔篇韻〕馬をかざりとゞむ。○〔王僧虔〕「筆足者施一一」。

鑓 俗の鎗の字。

十七畫

鑛 サツ、セチ。楼結切 黠
草を薙る刀。

鑭 ラン。耶幷切 豏
金の光る貌にいふ字、ひかりかゞやく。

鑮 ハク。西各切 藥
㊀大いなる鐘かれ。○〔儀〕「其南一一」。
㊁鐸に同じすゞ。○〔釋名〕「一亦鐲類也」。
〔篇韻〕つつみとおほつりがねと。○〔晉書〕「鼓一一之聲」。

鑮 ハク。バク。補各切 藥
十二辰の頭の鈴鐘、とけいのりんがれ。

鑯 セン、ソン。子廉切 鹽
㊀するどし、さがる〔銳〕。○〔禮〕「貢二一一也」。
㊁鐵器、一に曰ふのみ〔鐫〕。

鑯 セン、ソン。千廉切 鹽
きざむ〔刻〕。

鑰 ヤク。以灼切 藥
㊀門戶などのとまりをなすに裝置したる金具、ちやう、かぎ。○〔抱朴〕「堅二玉一於命門一」。
㊁樞要。○〔李嶠〕「扣二一機之鍵一一」。
㊂閉鎖す、とづ、とざす。○〔唐〕「生平所二縅一一者」。
㊃いる〔入〕。○〔淮〕「排二關闔一一天門一」。
〔篇韻〕門のかんぬきとやうそのほかにて門のとまりをいふ。○〔廣〕「一一鍵閉」。

(門鑰) 門戸のしまり。○[元好問]「元光以後[illegible]—」。
(扃鑰) 前に同じ。○[唐]「不[illegible]扃—」。
(金鑰) かねのぢやう。○[唐]「櫃上[illegible]」。
(鎖鑰) 門戸のしまり。○[韓愈]「洞門鎖[illegible]」。
(魚鑰) えびぢやう。○[柳宗文章]「夕門掩[illegible]」。
(秘鑰) おはくのかぎ。○[續世說]「性[illegible]自[illegible]」。
(杜鑰) かぎ。○[蘇軾]「西[illegible]夜沈々」。
(管鑰) 前に同じ。○[禮、註]「—捧[illegible]」。
(宮鑰) 宮門のしまり。○[白居易]「[illegible]」。
(禁鑰) 前に同じ。○[范成大]「[illegible]」。
(銀鑰) くらのかぎ。○[宋]「大王[illegible]」。

鑱 サン、ゼン。士衘切 咸
㊀端の鋭りて刺すに用ふる具、はり、きり。○[史]「—石撟引」。
㊁犂鐵、すきのは。○[杜甫]「長—長—白木柄」。
㊂さす(刺)。○[韓愈]「九疑—天荒、是非」。
㊃ほる(劉)。○[宋郊]「鑱—物象危」。
㊄藥鼎、くすりなべ。○[抱朴]「何須乎—鼎—哉」。
(天鑱) 自然にほれてある。○[歐陽修]「[illegible]」。
(藥鑱) くすりなべ。○[陸游]「[illegible]丹[illegible]」。

鑱 サン、ゼン。士懺切 陷
土を刺す具。

鑲 ジヤウ、ニヤウ。汝羊切 陽
㊀鑄型を作るに金を鑄こむ箇處を空虚にするため繩などを以て坏胎(なかみ)となし鑄型の固まりたるを候ひて之を引き抜く其の引き抜く坏胎の稱にいふ字。
㊁兩頭に鉤ありて或は引きよせ或は推しやるの用をなす一種の兵器。

鑈 ビ、ミ。武移切 支
かま(鎌)。

鑓 鍵に同じ。

鑛 篩に同じ。

十八畫

鐁 サツ、セチ。查鎋切 黠
㊀草を切る、くさかる。㊁草を切る器、かま。

鑴 ケイ、エ。戸圭切 齊
㊀はち、ほさぎ(甕)。㊁大いなる鐘。㊂太陽の旁に氣のめぐれるを。○[周]「一曰祲、二曰象、三曰—」。㊃おくろ(餽)。

鑴 キ。許規切 支
㊀大いなる鐘。㊁鼎の屬、一に曰ふ太陽の旁の氣。

鑴 ス井。宣爲切 支
太陽の旁の氣。

鑴 ケイ、エ。涓畦切 齊
きり(錐)。

鑵 クワン。古玩切 翰
水を汲む器、つるべ。

鑡 鎡に同じ、おほすき。

鑶 サウ、ザウ。玆郎切 陽

鈴の聲にいふ字。

鑷 デフ、チフ。尼輒切 葉
㊀物をはさみて抜き取るに用ふる具、くぎぬき、けぬき。○[雲仙雜記]「王僧虔晚年惡二白髮一、一日對レ客、左右進二銅—一」。
㊁はさみて抜き取ると。○[韋莊]「朝々—復生」。
㊂首飾、かんざし。○[崔瑗]「三珠橫釵、—鬓鑽レ璧」。
(釵鑷) かんざし。○[南]「[illegible]古[illegible]—十餘枚」。
(休鑷) けぬきもて毛をぬくとをやむ。○[杜甫]「[illegible]」。

鑸 ライ、レ。洛猥切 賄
鑸—は、平かならず。

鑉 タフ、トフ。託合切 合
物の墮つる聲にいふ字。

鑹 サン。七亂切 翰
小さき矟、こぼこ。

鑺 ク、コ。其俱切 虞
兵器、戟の屬。或は、戵に作る。

鑯 ケン。古典切 銑
兵器。

十九畫

鏖 バ、マ。莫羅切 歌
こがね(金)。

鑻 ヘン。普諫切 諫
俗の襻の字。

鑼 ラ。魯何切 歌
銅にて作りたる盆の如き器にて打ち鳴らすもの、どら。○[元]「鳴レ—擊レ鼓」。

鑽 サン。借官切 寒
㊀物を穿つ器、たがね、のみの類。
㊁臏刑、あしきる。○[漢]「其次用二—鑿一」。
㊂きる。(い)斬る。○[漢、註]「—去其臏骨」。(ろ)深く入る。○[論]「—レ之彌堅」。
㊃さす。(い)さす(刺)。○[爾]「[illegible]—之」。(ろ)必ず入る。○[班固]「必—孝」。「公」。
㊄不刃、ほこさき、やじり。○[史]「施レ—如二錐鏃一」。
(鑽鑿) きりうがつ。○[鹽鐵]「挾レ策事二—一」。
(研鑽) みがきをさむ。○[機智]「問學加二—一」。

鑽 サン。子算切 翰
物を穿つ器。

鑾 ラン。落官切 寒
㊀君王の御車の馬鑣につきたる鈴、すず。○[齊]「鳴二—寄一于東郊一」。
㊁轉じて、君王の車駕。○[李賀]「隨レ—鳴二玉珂一」。
(鑾駕) うつくしきくるまのすず、又、轉じて帝王なるのみくるまのとにもいふ。○[清[illegible]]「[illegible]—之凱旋」。
(鑾輿) たづくとすへむ車のすず。○[王[illegible]]「[illegible]」。
(停鑾) みくるまをとどむ。○[illegible]
(鑾鈴) 前に同じ。○[王[illegible]]「五色[illegible]」。
(駐鑾) みくるまをめぐらす。○[illegible]

(鑾[illegible]) みくるま。○[張九齡]「[illegible]」。
(鑾[illegible]) みくるまを[illegible]す。○[illegible]

鑿 サク、ザク。在各切 藥
㊀物を穿つに用ふる一種の刃器、のみ。○[古史考]「孟莊子作レ—」。
㊁うがつ。(い)穿つ、ほる、あなあく。○[詩]「—冰冲々」。(ろ)義理に合ふとを求めずして妄りに臆測するにいふ字。○[孟]「爲二其—一也」。
㊂開疏す、ひらく。○[漢]「然鑿—空」。
㊃造意す、つくる、もくろむ。○[公羊]「—公—行也」。
㊄黥刑、いれずみ。○[漢]「其次用二鑽鑿一」。
(穿鑿) うがつ。○[漢]「以[illegible]」。
(鑿[illegible]) きりうがつ。○[晏子]「[illegible]」。
(巨鑿) おほのみ。○[唐]「[illegible]」。
(悉鑿) 火をもていぶすとあなをほりうがつと。○[莊]「以鑿—之患」。
(斜鑿) 前に同じ。○[周、註]「山林之[illegible]」。
(疎鑿) きりひらきほる。○[杜甫]「池館[illegible]」。
(鑿[illegible]) はらあな。○[李白]「[illegible]」。
(空鑿) 前に同じ。○[江淹]「[illegible]」。
(斧鑿) けづりうがつ。○[易、疏]「[illegible]」。
(井鑿) をのとのみと。○[韓愈]「[illegible]」。
(鋸鑿) のこぎりとのみと。○[illegible]
(椎鑿) つちとのみと。○[新論]「魏文[illegible]」。
(刺鑿) きざみうがつ。○[illegible]
(耕鑿) 田地をたがへしひらく。○[高適]「一身[illegible]」。
(鑿[illegible]) きりひらく。○[柳宗元]「[illegible]」。

鑿 サク。則落切 藥
㊀鮮明なる貌にいふ字。○[詩]「白石—」。
㊁米を搗きて白くす、まらぐ。○[左]「粢食不レ—」。

鑿 ソク、ゾク。昨木切 屋
花葉を鏤むるにいふ字、ほる。

鑿 サウ、ゾウ。在到切 號
穿穴、あな。○[漢]「羊入二其—一」。

䥯 ヒ。彼爲切 支
耜の屬。

鑹 ラ。昔戈切 歌
小さき釜、物を溫むる器。

二十畫

鐜 ダイ、テ。都回切 灰
下がり垂る、一に曰ふ、千斤のおほいなる椎。

钀 ゲツ、ゲチ。魚列切 屑
馬の勒の旁の鐵、くつわのかゞみ。

钀 ギ。魚羈切 支　語綺切 紙
轙に同じ、車の衡の轡を載するもの。

钁 クワク。居縛切 藥
大いなる鉏、くは。○[淮]「負二—臿一」。
(钁湯) すき。○[指月錄]「大衆各[illegible]」。
(鉏钁) 前に同じ。○[晉書]「寧無[illegible]」。
(荷钁) すきをになふ。○[illegible]「[illegible]茯茶」。

廿一畫

钃 ショク、ゾク。殊玉切　チョク、トク。陟玉切 沃
くは(鉏)、又、のぞく(除)。○[衛]「所レ謂以二孤父之戈一—二牛矢一也」。

長部

長 チヤウ、ヂヤウ。直良切 陽
㊀ながし。(い)短からず。○[漢]「尺有レ所レ短、寸有レ所レ—」。(ろ)たけたかし。○[淮]「東方之人—」。(は)近からず、とほし。○[詩]「順二彼—道一」。(に)あさはかならず、おくふかし。○[左]「心甚—」。(ほ)かはることなし、つれ、とこしなへ。○[陶潛]「門雖レ設而—關」。(へ)久し。○[詩]「—發二其祥一」。(と)大いなり。○[世說新語補]「願乘二—風一破二萬里浪一」。(ち)のび引けるにいふ字、つゞきて絕えざるにいふ字。○[禮]「—言レ之」。
㊁善きと、まされると、すぐれたると。○[戰]「誦二足下之—一」。
㊂さしはさむ(挾)。
(夜長) よぶんながし。○[illegible]「昨宵恨二——不レ能早見二公面一」。
(晝長) ひるまひろし。○[illegible]「——六十刻」。
(日長) 前に同じ、又、時日久し。○[illegible]「陛下之——」。
(短長) おとれるとまされると、又、たけひくきとながきと、又、みじかきとひさしきと。○[左]「[illegible]大小——餘侯、以相濟也」。
(山長) やまたかし。○[illegible]
(長長) すぐれてよし。○[宋]「[illegible]」。
(寸長) わづかの善。○[宋]「[illegible]」。
(取長) まさりかるをとり用ふ。○[illegible]
(太長) いたくながし。○[illegible]
(路長) みち遠し。○[illegible]
(修長) ながし。○[illegible]
(薄長) おほいにしてたけながし。○[illegible]
(博長) 前に同じ。○[春秋繁露]「[illegible]」。
(廣長) ひろからずしてながし。○[illegible]
(延長) ひさしきにわたる。○[illegible]
(身長) からだのたけ。○[家語]「——九尺」。
(久長) ひさし。○[史]「[illegible]」。
(悠長) 前に同じ。○[illegible]
(永長) 前に同じ。○[方言]「[illegible]」。
(深長) あさはかならずしてふかし。○[illegible]
(比長) ひさしきをくらぶ。○[後漢]「[illegible]」。
(細長) ほそながし。○[illegible]
(瘦長) 肉やせてたけながし。○[illegible]
(宏長) 弘大なるよ。○[柳宗元]「[illegible]」。

長 チヤウ。展兩切 養
㊀孟始、はじめ、もと。○[易]「元者善之—也」。
㊁かしら。(い)先頭、さき。○[國]「吳晉爭レ—」。(ろ)嫡首、そうりやう。○[衛]「隨二其—子一」。(は)首領、統御者、をさ。○[戰]「君—」。
㊂成人、おとな。○[公羊]「—而卑」。
㊃高齡、さしかさ。○[書]「立レ敬惟—」。
㊄老年、さしより。○[國]「齊侯—矣」。

㊅高位、尊上、めうへ。○〔書〕「立二元首一」。㊆諸侯、覇伯（采邑の主、縣令、刺史、大守、官曹のかしら。○〔周〕「立二其一」。㊇すゝむ（進）。○〔易〕「君子道一、小人道消」。㊈ます（益）。○〔國〕「不二月一」。㊉つむ（積）。○〔國〕「唯一積レ怨」。㊊さゝんなり（盛所）「以一」。神農所二以一」。㊋そだつ。

（い）生育す、おふ、おひたつ、のぶ。○〔孟〕「有得二其道一、無二物不一レ（ろ）養育す、やしなふ、おほしそだつ、のばす。○〔漢〕「以二生育一レ爲レ事」。（は）敎誨して僞まざるにいふ字、みちびくなしふ。○〔詩〕「克一克君」。

〔季長〕行燈部屋のをさ。○〔易傳〕「艮爲二居室一」。〔長長〕としたけたる者を優待す。○〔國〕「上一レ則民興」。〔爭長〕つかうのをさ。○〔左〕「凡大一之一皆民」。〔爵長〕たすけそだつ。○〔爾〕「一」。〔爵長〕えびすの部落のかしら。○〔史〕「酋豪」。〔爵長〕そだつ。○〔爾〕「蠻貊居二大夏一而以二牛育一」。〔家長〕いへのをさ。○〔爾〕「惡有二識レ婦得二師乎一」。而可二以爲一。〔官長〕官守中のをさ。○〔周禮〕「一一數戸」。〔師長〕官部中のかしら。○〔爾〕「其師無一」。〔少長〕すこしくとしたけたるを、又、をさなきものとをとゝ。○〔史〕「且以一一先立武臣一爲レ」。〔官長〕たすけてそだつ、又、つぼさをたつ。○〔左〕「余一而一之」。〔隊長〕長官社（ゆくたをてゆづる。○〔史〕「民俗一」。

〔家長〕師のかしら。○〔左〕「以二師旅一」。〔生長〕そだつ。○〔孟〕「一而一」。

㊌師の数へを受くると。○〔易〕「同レ一日レ朔」。㊍家族、家格、いへゝいへがら。○〔後漢〕「權一謂一詐」。㊎正適、よつぎ。○〔周〕「皆謂二之一子一」。㊏かざを攻む、もんをせむ。○〔左〕「一於東國一」。

〔守門〕國門のでいりぐちを護衛す。○〔禮〕「國守二之一」。〔門〕「門」。〔重門〕王宮の正門の名。○〔爾〕「王出在一一之」。〔重門〕かどぐちを厳重にたてられたるでいりぐち。○〔晉書〕「王宮の第門、又、諸侯の宮廟の外門。○〔禮〕「廟立一一」。〔衛門〕衛士もてつくりたるでいりぐちにて護者のかぎ。○〔詩〕「一一之下可以棲遲」。〔迎門〕かどぐちにいでて他人のきたるをむかふ。○〔禮〕「主人家臨一一」。〔關門〕周時代の司門の官名、又、くにの關城のでいりぐち。○〔禮〕「關一一」。〔獄門〕獄官のでいりぐち。○〔禮〕「家至于一一」。〔庶門〕せたもてつくりたるでいりぐち、又、門閥にあらはす。○〔禮〕「路一一」。〔雉門〕行師屯營のでいりぐちにて、雉のかざりをたてつらねてつくりたるもん。○〔周〕「設二重一一」。〔城門〕地名、又、邑をたてつらねてつくりたるでいりぐち。○〔周〕「註」郭百歩云一一」。〔祭門〕門前に同じ。○〔後漢〕「于是一一開一」。〔除門〕門前を掃除す。○〔禮〕「門于一一」。〔清門〕かどぐちにかゝたをよせおく。○〔禮〕「朝一一面受」。

長き貌にいふ字。

〔幼〕ラウ、ロウ。郎刀切 蕭 長き貌にいふ字。

〔蝱〕ヲウ。杳登切 蕭 髪を編む繩。

十三畫

〔躉〕ヲヨウ、ノウ。女容切 冬 おほし（多）。

十四畫

〔躔〕ダウ、ニヤウ。女耕切 庚 髪亂る、かみみだる。

〔躪〕ビ、ミ。民卑切 支 長くして久し。

十五畫

〔躚〕嗟に同じ。

十六畫

〔躟〕デウ、チウ。奴弔切 嘯 柔らかく長し。

〔躣〕チヨウ、チユ。千容切 冬 なほし（直）。

門部（門）

〔門〕ボン、モン。切 元 說文二戸。象二形一。○外郭に設けたる出入の所、かど。○〔楚辭〕「君之一以九重」。

ながし（長）。

〔長〕チヤウ、ヂヤウ。直亮切 養 ○なかきさみじかきの度、たけ、ながさ。○〔國〕「人一之極焉何」。○あまる（餘）、おほし（多）。○〔論〕「一一一身一有一牛」。○むだ（冗）、あまり（剩）。○〔陸機〕「無レ取二乎冗一」。

〔朖〕ヘイ、ハイ。必迷切 齊 惡の飾り。

〔肆〕タウ、ヂヤウ。除庚切 庚 髪の亂れたる貌にいふ字。

二畫

〔臥〕コン。丘敦切 元 ―屯は、醜き牛の貌にいふ語。○〔淮〕「一一屯邱牛」。

三畫

〔臤〕キウ、ク。己有切 有 ながし（長）。

四畫

〔殷〕タン、ダン。杜亂切 翰 なぐ（投）。

〔臽〕シヨウ、シユ。詳容切 冬 ながし（長）。

〔臾〕ヤウ。以長 養 切 タン、徒亂 翰 ダン。切 あぐ（擧）。

〔臾〕アウ、オウ。切 皓 烏浩 切 ながし（長）。○〔左思〕「爾乃地一墝埆、丸一木一蔓」。

〔臤〕髪に同じ。

五畫

〔臿〕タウ、トウ。都到切 號 長き貌にいふ字。

〔臿〕エウ。伊鳥切 篠 ―肄は、長くして勁からざると。

六畫

〔臿〕髪に同じ。○〔郭忠恕〕「鵠一一牛一生」。

〔臿〕デウ、チウ。乃丁切 靈

七畫

〔臿〕ダツ、ゲチ。魚列切 層 なぐ（投）。

〔臿〕シ。七四切 寘 漆を塗りたる器、ぬりもの。

〔臿〕デウ、チウ。奴鳥切 篠 肄に同じ。

八畫

〔臿〕ショウ、シユ。詩容切 冬 亂髪みだれがみ。

〔臿〕チユツ、チユチ。竹律切 眞 さもにたり、ほのか（髣髴）。

〔臿〕タ、ダ。吐火切 哿 ○好き髪の貌にいふ字、かみうるはし。○髣に同じ。

〔臿〕ガン。魚肝切 寒 おほいなり。

九畫

〔臿〕セイ、シヤウ 所景切 梗

長き貌にいふ字。

〔臿〕ラウ。郎刀切 豪 長き貌にいふ字。

〔臿〕ヲウ。杳登切 蕭 髪を編む繩。

十三畫

〔臿〕テキ、チヤク。他歷切 錫 ○うれふ（憂）。○〔揚雄〕「疎一貝以役、往益來」。○のぞく（除）。○〔揚雄〕「陽氣傷一陰無一敎一瘟物則平易」。

〔臿〕ヨウ、ユ。餘封切 冬 かざる（飾）。

十一畫

〔臿〕ガウ、ゴウ。午刀切 豪 長くして大いなる貌にいふ字。

〔臿〕ソウ、ス。倉紅切 東 髪の亂れたる貌にいふ字、もつれ。

〔臿〕髪に同じ。

十二畫

〔臿〕レウ。期鳥切 蕭 ながし（長）。

〔臿〕レウ。憐蕭切 蕭 細くして長し、ほそながし。

〔臿〕ケウ ゲウ。巨夭切 蕭

ながし（長）。

〔臿〕レウ。郎鳥切 蕭 泣之一貧。

十一畫

〔臿〕ガウ、ゴウ。午刀切 豪 長くして大いなる貌にいふ字。

〔臿〕ソウ、ス。倉紅切 東 髪の亂れたる貌にいふ字、もつれ。

〔臿〕髪に同じ。

十二畫

〔臿〕レウ。期鳥切 蕭 ながし（長）。

〔臿〕レウ。憐蕭切 蕭 細くして長し、ほそながし。

〔臿〕ケウ ゲウ。巨夭切 蕭

〔臿〕古文の嗟の字。○〔揚雄〕「哭一泣之一貧」。

〔臿〕ガウ、ゴウ。午刀切 豪 長くして大いなる貌にいふ字。

〔臿〕ソウ、ス。倉紅切 東 髪の亂れたる貌にいふ字、もつれ。

〔臿〕髪に同じ。

十三畫

〔臿〕テキ、チヤク。他歷切 錫 ○うれふ（憂）。○〔揚雄〕「綏一貝以役、往益來」。○のぞく（除）。○〔揚雄〕「陽氣傷一陰無一敎一瘟物則平易」。

〔臿〕ヨウ、ユ。餘封切 冬 かざる（飾）。

〔臿〕古文の嗟の字。○〔揚雄〕「哭一泣之一貧」。

〔臿〕王宮の正門の名。○〔爾〕「王出在一一之一皆重也」。○〔左〕「一一之一皆重也」。

〔臿〕ひとなら屋敷にたてられたるでいりぐち。○〔晉書〕「王宮の第門、又、諸侯の宮廟の外門。○〔禮〕「廟立一一」。

〔臿〕衛士もてつくりたるでいりぐちにて護者のかぎ。○〔詩〕「一一之下可以棲遲」。

〔臿〕かどぐちにいでて他人のきたるをむかふ。○〔禮〕「主人家臨一一」。

〔臿〕周時代の司門の官名、又、くにの關城のでいりぐち。○〔禮〕「關一一」。

〔臿〕獄官のでいりぐち。○〔禮〕「家至于一一」。

〔臿〕せたもてつくりたるでいりぐち、又、門閥にあらはす。○〔禮〕「路一一」。

〔臿〕行師屯營のでいりぐちにて、雉のかざりをたてつらねてつくりたるもん。○〔周〕「設二重一一」。

〔臿〕地名、又、邑をたてつらねてつくりたるでいりぐち。○〔周〕「註」郭百歩云一一」。

〔臿〕門前に同じ。○〔後漢〕「于是一一開一」。

〔臿〕門前を掃除す。○〔禮〕「門于一一」。

〔臿〕かどぐちにかゝたをよせおく。○〔禮〕「朝一一面受」。

〔臿〕すべて物事の出入經由する所の稱、でぐち、いりぐち。○〔周〕「其爰レ知二一一」。

〔臿〕師の数へを受くると。○〔易〕「同レ一日レ朔」。

〔臿〕家族、家格、いへゝいへがら。○〔後漢〕「權一謂一詐」。

〔臿〕正適、よつぎ。○〔周〕「皆謂二之一子一」。

〔臿〕かざを攻む、もんをせむ。○〔左〕「一一於東國一」。

〔臿〕門前のでいりぐちを護衛す。○〔禮〕「國守二之一」。

〔臿〕王宮の正門の名。○〔爾〕「王出在一一之一皆重也」。

〔臿〕ひとなら屋敷にたてられたるでいりぐち。○〔晉書〕「王宮の第門、又、諸侯の宮廟の外門。○〔禮〕「廟立一一」。

〔臿〕衛士もてつくりたるでいりぐちにて護者のかぎ。○〔詩〕「一一之下可以棲遲」。

〔臿〕かどぐちにいでて他人のきたるをむかふ。○〔禮〕「主人家臨一一」。

〔臿〕周時代の司門の官名、又、くにの關城のでいりぐち。○〔禮〕「關一一」。

〔臿〕獄官のでいりぐち。○〔禮〕「家至于一一」。

〔臿〕せたもてつくりたるでいりぐち、又、門閥にあらはす。○〔禮〕「路一一」。

〔臿〕行師屯營のでいりぐちにて、雉のかざりをたてつらねてつくりたるもん。○〔周〕「設二重一一」。

〔臿〕地名、又、邑をたてつらねてつくりたるでいりぐち。○〔周〕「註」郭百歩云一一」。

〔臿〕門前に同じ。○〔後漢〕「于是一一開一」。

〔臿〕門前を掃除す。○〔禮〕「門于一一」。

〔臿〕かどぐちにかゝたをよせおく。○〔禮〕「朝一一面受」。

〔臿〕師の数へを受くると。○〔易〕「同レ一日レ朔」。

〔臿〕家族、家格、いへゝいへがら。○〔後漢〕「權一謂一詐」。

〔臿〕正適、よつぎ。○〔周〕「皆謂二之一子一」。

〔臿〕かざを攻む、もんをせむ。○〔左〕「一一於東國一」。

〔臿〕門前のでいりぐちを護衛す。○〔禮〕「國守二之一」。

〔臿〕王宮の正門の名。○〔爾〕「王出在一一之一皆重也」。

〔臿〕ひとなら屋敷にたてられたるでいりぐち。○〔晉書〕「王宮の第門、又、諸侯の宮廟の外門。○〔禮〕「廟立一一」。

〔臿〕衛士もてつくりたるでいりぐちにて護者のかぎ。○〔詩〕「一一之下可以棲遲」。

〔臿〕かどぐちにいでて他人のきたるをむかふ。○〔禮〕「主人家臨一一」。

〔臿〕周時代の司門の官名、又、くにの關城のでいりぐち。○〔禮〕「關一一」。

〔臿〕獄官のでいりぐち。○〔禮〕「家至于一一」。

〔臿〕せたもてつくりたるでいりぐち、又、門閥にあらはす。○〔禮〕「路一一」。

〔臿〕行師屯營のでいりぐちにて、雉のかざりをたてつらねてつくりたるもん。○〔周〕「設二重一一」。

〔臿〕地名、又、邑をたてつらねてつくりたるでいりぐち。○〔周〕「註」郭百歩云一一」。

〔臿〕門前に同じ。○〔後漢〕「于是一一開一」。

〔臿〕門前を掃除す。○〔禮〕「門于一一」。

〔臿〕かどぐちにかゝたをよせおく。○〔禮〕「朝一一面受」。

(候門) かどぐちにまつ。○〔陶潛〕「稚子ーー」。
(宦門) 官位名譽ある家がら。○〔任昉〕「臣ーー見ㇾ遇」。
(沙門) 佛の道を奉ずる僧。○〔瑞應經〕「ーー之爲ㇾ道、舍ㇾ妻子ㇾ捐ㇾ愛欲ㇾ也」。
(桑門) 前に同じ。○〔北史〕「先爲ㇾ日、見ㇾ一ーー」。
(出門) 家をいでて外にゆく。○〔易〕「ーー同ㇾ人」。
(風門) かぜのいづるところ。○〔鈔經〕「既類ㇾ之ーー」「之内」。
(路門) 王城路寢門の別名。○〔書〕「立ㇾ於ーー」。
(轅門) 軍營のでいりぐち。○〔詩、疏〕「軍門曰ㇾ和、今謂ㇾ之ーー」。
(和門) 前に同じ、又、宮殿の端にいふ。○〔韓非〕「鼓ーー出ㇾ近郊」。
(軍門) 前に同じ。○〔史〕「于ㇾ是張ㇾ良至ーー」。
(閶門) くらのいりぐち、又、王宮西門の外にある門の名。○〔白居易〕「香閣須ーー」。
(關門) 門をとざす。○〔後漢〕「ーー卻居」。
(寢門) 寢所のいりぐち。○〔禮〕「ーー之内戲而不ㇾ歎」。
(關門) 門をとざす、又、土地ざかひのもん。○〔杜甫〕「ーー共ㇾ月對」。
(衡門) 柴門ともいふ横木の門。○〔詩〕「ーー」。
(入門) 門のなかにすゝみいる。○〔禮〕「主人揖ー」。
(雉門) 王宮の門の名。○〔春秋〕「新作ㇾ雉ーー及ㇾ兩觀」。
(法門) 佛法のみち。○〔魯恭〕「履文觀ㇾ道于ーー」。
(夾門) もんの左右にあるもの。「伏」。
(造門) もんのもとにいたる。○〔後漢〕「ーー而」○〔史〕「自ーー造ㇾ斂者因謝罪」。
(到門) 前に同じ。○〔後漢〕「不ㇾ敢復乘ㇾ車ーー」。
(詣門) 前に同じ。○〔劉孝〕「ーー謁ㇾ朱亥」。
(叩門) かどぐちをたゝきておとづる。○〔陶潛〕「ーー拙ㇾ言辭」。
(款門) 前に同じ。○〔晏子〕「前驅ーー」。
(譙門) 門上に高樓をつくりて望むべからしめたるもの。○〔陸游〕「ーー初報鼓三通」。
(巢門) 前に同じ、又、地名。○〔呂氏春秋〕「乃入ㇾ于ーー遂有ㇾ夏」。
(邑門) 村落のでいりぐち。○〔後漢〕「ーー不ㇾ閉」。
(水門) みづをみちびきてでいりぐちをつけたるところ。○〔後漢〕「爲ㇾ閉ーー」。

(盛門) 盛大なる家がら。○〔陸機〕「ーー無ㇾ將入」。
(突門) 城を守るためのもん。○〔後漢〕「ーー」。
(巷門) よこしまのみち。○〔後漢〕「將ㇾ令ㇾ守ㇾ閭ㇾ長ーー」。
(儒門) 學者の家がら、又、學者。○〔後漢〕「中世ーー」。
(師門) 教師のかど、又、星の名。○〔論衡〕「不ㇾ入ㇾ一ーー、無ㇾ親ㇾ傳之數」。
(豪門) 豪家の家。○〔晉〕「且勿ㇾ復取ーー子弟」。
(寒門) おちぶれたる家がら。○〔晉〕「ーー少ㇾ見ㇾ遇」。
(貴門) 高位の家がら。○〔南〕「不ㇾ爲ーー屈」。
(勳門) 國家に功勞ある家がら。○〔南〕「君以ㇾ一世ーー、而取ㇾ天下顯士」。
(異門) 繁昌の家。○〔魏〕「ーー之男」。
(專門) 獨擅なる其の門をせめとる。○〔舊唐〕「顯然ーー」。
(衙門) 政廳のでいりぐち。○〔舊唐〕「ーー未ㇾ明」。
(闇門) そとべにあらはれざるでいりぐち。○〔陸游〕「騎馬出ㇾ一ーー」。
(鐵門) くろがねにてつくりたるもん。○〔韓愈〕「土鐵ㇾ作ㇾ一ー」。
(梵門) 佛寺のもん。○〔李白〕「寬作入ㇾ於ーー」。
(名門) なたかき家がら。○〔李商隱〕「數ㇾ謂代ーー」。

一畫

閁 バツ、メチ。莫轄切 〔黠〕
なゝめに視る、にらむ。

⿵門乙 カツ、カチ。呼八切 〔黠〕
なゝめに視る、のぞく。

閂 サン、セン。數還切 〔刪〕
門の横關、くわんのき。

二畫

⿵門九 キウ、ク。居尤切 〔尤〕
うったふ、（訟）。

⿵門几 キ。居里切 〔紙〕
かど。

閃 セン。失冉切 〔琰〕 子豔切
說文从ㇾ人在ㇾ門中。
一 門を出づる貌にいふ字、又、うかゞふ、（闚）。○〔魏略〕「警自于牆壁門ー闚ーー」。
二 避す、おどろきさく、さく。○〔禮、註〕「淰之言ー也」。
三 暫く見ゆ、動きひるがへる、ちらつく、ひらめく。○〔木華〕「蜩・儵暫曉而ー・屍」。
四 ひらめかしむ、ひらめかす。○〔李戡〕「用風ーㇾ雁・行ㇾ疎又密」。
五 動く貌にいふ字、ひらひら。○〔古詩〕「寒・鴉ーー前・山去」。
六 傾き佞ふ貌にいふ字、へつらふ。○〔後漢〕「榮・納由ㇾ於ーー・楡」。
(閃閃) はねあがりうごく。○〔韓愈〕「當歌エーー」。
(閃爍) 風をうけてひらめく。○〔元稹〕「ーーオ人袖」。
(閃閃) たちまちにひらめく。○〔元稹〕「ーー寒・前「燈」。
(閃閃) めぐりうごく。○〔梅堯臣〕「曲・折ーー」。

⿵門三 チン、ヂン。直刃切 〔震〕
のぼる、（登）。

⿵門人 クワク、キャク。和𩏑切 〔陌〕
身を隱し忽ち出でて人を驚かす聲にいふ字。

三畫

⿵門王 チユ。丑注切 〔遇〕
直ちに開く、ひらく。

閈 カン。侯旰切 〔翰〕
一 さゝのもん、（閭）。○〔左〕「高ㇾ其ー・閎ㇾ」「ー」。
二 轉じて、邑里。○〔唐〕「陳亡歸ㇾ鄉ㇾー」。
三 かき、（垣）。○〔張衡〕「ー・庭詭・異」。
四 とづ、（閉）。
(同閈) 閭里をひとしくす。○〔晉〕「與ㇾ門ーㇾ里」。
(里閈) さとのもん、又、むらざと。○〔後漢〕「鄉黨ー光武同ーー」。
(閭閈) 前に同じ。○〔晉〕「ーー群人」。
(邑閈) 前に同じ。○〔唐〕「未ㇾ殷ーー如ㇾ初」。
(鄰閈) まちのもん、又、まち。○〔唐〕「羣ㇾ於ーー」。
(闤閈) 闌門の。○〔管〕「ーー不ㇾ閉」。
(城閈) 市街の。○〔鄒陽〕「負ㇾ子過ㇾーー」。

閉 ヘイ、博計 ハイ。切 〔霽〕 ヘツ、方結 ヘチ。切 〔屑〕
一 門戸のしまりをなすために裝置したる具、ちやう。○〔禮〕「修ㇾ鍵ーー」。
二 とざす、とざす
(い)門戸のしまりをなす、ちやうをおろす、しむ、門戸しまりつく、ちやうおろ、しまる。○〔左〕「門已ー矣」。
(ろ)おほふ、おほはる、（掩）。○〔書〕「予不ㇾ敢ーㇾ于天降威用」。
(は)ふさぐ、ふさがる、（塞）。○〔易〕「天・地ー」。
(に)をさむ、をさまる、（藏）。○〔淮〕「萬・物ー藏」。
三 弓檠、ゆみだめ、ゆだめ。○〔詩〕「竹・ー緄・縢」。
四 盛んなる貌にいふ字。○〔博雅〕「ー・勃々、盛也」。
(密閉) きびしくとざす。○〔晉〕「必ーー」。
(啓閉) ひらくととづると。○〔周〕「掌人以ㇾ時ーー」。
(杜閉) ふさぐ。○〔左〕「勿ㇾ使ㇾ有ㇾ所ーー、ー湫・底」。
(隔閉) 前に同じ。○〔易、疏〕「以ㇾ隔ㇾ其閉」。
(關閉) とかくとづ、又、婦人の深閉。○〔春秋〕「男子割ㇾ勢、婦人ーー」。

(潛閉) こばみとづ。○〔禮〕「季冬行ㇾ春令ㇾ、則ーー不ㇾ密」。
(密閉) 前に同じ。○〔陳〕「去冬ーー」。
(隱閉) かくれていでず。○〔後漢〕「隱ーー不ㇾ出」。
(靜閉) 前に同じ。○〔後漢〕「潛ーー智ㇾ者十餘年」。
(掩閉) おほひとづ。○〔後漢〕「辭去便自ーー」。
(藏閉) かくす。○〔晉〕「一皆ーー」。
(鄣閉) 川流などのふさがりとゞまりて流れざるをいふ。○〔晉〕「塡ㇾ一ー・滿ㇾ津梁」。
(杜閉) ふさぐ。○〔劉向〕「ー、一塞ㇾ枉之門」。
(噤閉) くちをつぐむ。○〔劉向〕「口ーー而不ㇾ言」。
(屏閉) ふさぎおほふ。○〔蔡廷之〕「ーㇾ一武・備」。

⿵門大 チン、トン。丑禁切 〔沁〕
門より出入する貌にいふ字、ではいりす。

⿵門兀 コツ、五忽 ゴチ。切 コツ、胡骨 グチ。切 〔月〕
さゞ、（括）、一說に、もとる、（婞・佷）。

⿵門丁 テイ、チヤウ。他頂切 〔迥〕
門上の關、くわんのき、さゞし。

四畫

⿵門元 クワン。古滿切 〔旱〕
くさり、（鏈）。

⿵門文 シヨウ、シユ。職容切 〔冬〕
門の外の方に開くにいふ字、ひらく。

⿵門屯 トン、ドン。徒渾切 〔元〕
門に滿つ、みつ。

開 カイ。苦哀切 〔灰〕
ひらく。
(い)閉ぢたるものをあく、閉ぢたるものあく。○〔老〕「善閉者無ㇾ關ー鍵ㇾ而不ㇾ可ㇾー」。
(ろ)張る。○〔莊〕「ーㇾ口而笑者」。
(は)通ず。○〔易、疏〕「令ㇾ使ㇾ一ー・通ー爲ㇾ亭」。
(に)釋く。○〔書〕「ーㇾ釋無・辜」。
(ほ)發す。○〔禮〕「ー而勿ㇾ達」。
(へ)陳ぶ。○〔漢〕「ーㇾ陳其端」。
(と)啓く（智識にいふ）。○〔禮〕「或ーㇾ予」。
(ち)闢く（土地にいふ）。○〔戰〕「秦ーㇾ阡・陌」、「罪於魏」。
(り)はじむ、はじまる、（始）。○〔戰〕「ーー」。
(ぬ)おこす、おこる、（興）。○〔荀〕「ー其源」。
(る)花さく。○〔梁簡文帝〕「桃・花含ㇾ雨ー」。
(洞開) 門扉などをひろびろとひらくにいふ語。○〔宋〕「令ㇾ一ーー諸・門」。
(晩開) 前に同じ。○〔西京賦〕「闘乃ーー九・市」。
(展開) てびろくはじめおこす。○〔漢〕「ーーー獻書路」。
(競開) きそひひらく。○〔蘇軾〕「爭白鬪・黃也ーー」。

閞 ケン。輕煙切 〔先〕
山の名、通じて汧に作る。

⿵門內 ズヰ、ニ。而睡切 〔寘〕
内に入る、いる。

⿵門分 フン、ホン。敷文切 〔文〕
闘に同じ。

⿵門介 ケイ、ガイ。胡計切 〔霽〕
門扉、さびら。

⿵門及 キフ、コフ。許及切 〔緝〕
さわがし、（鬧）。

⿵門亥 カイ、胡介 ケ。切 〔卦〕 ケイ、胡計 ガイ。切 〔霽〕
門扇、さびら。

閌 カウ。口浪切 〔漾〕 丘岡切 〔陽〕
一 高き門の貌にいふ字、又、盛んなる貌にいふ字。○〔漢〕「ー閬・々其寥・廓兮」。
二 伉に同じ。○〔左思〕「高・門有ㇾー」。

閍 ハウ、甫盲 ヒヤウ。切 〔庚〕 ハウ、分房 パウ。切 〔陽〕 ベン、名延 メン。切 〔先〕
一 宮中の門、又、巷の門。
二 廟門の名。

閎 クワウ、ガウ。戸萌切 〔庚〕
一 巷頭の門、ちまたのいりぐち。○〔左〕「乘ㇾ臺而入ㇾ于ーー」。
二 天上の門。○〔漢〕「臨ㇾ九ーー」。
三 門。○〔左〕「高ㇾ其閈ーー」。
四 門扉を止ざむる門旁の長杙、くひ。○〔爾雅註〕「ー長杙卽門・橜」。○〔禮〕「其器圜以ー」。
五 ひろし、（寬）。○〔莊〕「彷・徨乎馮ー、大・知入焉、而不ㇾ知ㇾ其所ㇾ窮」。
六 むなし、（虛）。
七 おほいなり、（大）。○〔楚辭〕「曾ー以迫ㇾ身」。
八 ふかし、（深）。○〔史〕「ー廓深・遠」。
九 致美なり、あつし、うつくし。○〔揚雄〕「大・閎ーー」。
(深閎) ふかくおほいなること。○〔柳宗元〕「崩雲枿ーー」。
(疑閎) おほいなること。○〔韓愈〕「枯・槁沈・滿ーー宏・遁之士」。

⿵門壬 テイ、チヤウ。他頂切 〔迥〕
門上の關、さゞし。

閏 ジュン、ニュン。如順切 〔震〕
一 暦術上にて、一年十二ヶ月の餘分の日子を積みて一ヶ月となせるものの稱、うるふ、三年に一同、五年に二同、十九年に七同ありて其の餘分盡く。○〔史〕「黃・帝起ㇾ消・息ㇾ正ㇾ閏・餘」。
二 餘分。○〔漢〕「餘・分ー位」。
三 正統ならざる天位。○〔司馬光〕「謂ㇾ秦爲ㇾー」。
(季閏) 家さかえ財あまりあること。○〔玉篇餘起〕「必有ㇾーー・季富・貴」。
(再閏) にどうるふ月のあること。○〔隋〕「五歲ー」。
(立閏) うるふ月をきたむ。○〔後漢〕「ー・ー定ㇾ時以成ㇾ歲・功」。
(正閏) うるふなきとしとうるふあるとしと、又、王者の正統と正しからざる王統とにもいふ。○〔賈誼〕「ーー更王」。

⿵門丑 ヂウ、女九 ニユ。切 〔宥〕 ダフ、女洽 子フ。切 〔洽〕
門闘、くわんのき、さゞし。

⿵門毛 サン、ソン。蘇紺切 〔勘〕
ふた、（覆・蓋）。

閑 カン、ゲン。戸閒切 〔刪〕
一 ふせぐ、（防）。○〔易〕「ーㇾ邪存ㇾ其誠」。
二 とづ、（閉）。○〔易〕「日ー輿・衛也」。
三 さへぎる、（闌）。○〔國〕「遠備ーㇾ之」。
四 のり、（法）、しきり、（限）。○〔論〕「大・德不ㇾ踰ㇾー」。
五 馬闌、なり。○〔漢〕「龍・馬ー・駒」。
六 椹枝、こまよせ。○〔周〕「舍則守ㇾ王ーー」。
七 おほいなり、（大）。○〔詩〕「旅・楹有ㇾー」。
八 男女の別なく往來する貌にいふ字。○〔詩〕「桑・者ーー兮」。
九 ならふ、（習）。○〔詩〕「游ㇾ于北・園ㇾ四・馬既ー」。

⊕動搖す、ゆらくす、うごく。○〔詩〕「噂衝一一」。
⊕閑に同じ、ひま、まづか ○〔韓愈〕「投レ一置レ散」。
〔帝閑〕王者の馬を養ふ所。○〔蘇軾〕「雪踢二飛龍一出二一一」。
〔御閑〕前に同じ。○〔陳子昂〕「百萬紫騮一一一」。
〔信閑〕馬などの壮健にしてなれなるふ。○〔詩〕「旣一且一」。
〔廐閑〕うまや。○〔魏〕「仍主二一・一」。
〔給閑〕うまやに割し草などを供給す。○〔唐〕「初税レ草以一給一一」。
〔寛閑〕ひろくとしてまづかなること。○〔韓愈〕「詳然一一之野」。

閒 カン、ケン。古閑切 〔刪〕
一あひだ。
(い)なか(中)。○〔莊〕「將レ處二夫材不材之一一」。
(ろ)うち(裏)。○〔莊〕「擴二臂子其一一」。
(は)すきま(隙)。○〔史〕「何足レ置二齒牙之一一」。
(に)あひま(際)。○〔禮〕「天・地之一也」。
二いろ(容)。○〔禮〕「遠・近一一三席一」。
三えらぶ(簡)。○〔釋名〕「一簡也、事功簡者也」。
四車のくさびの聲にいふ字。○〔詩〕「一關車之舝兮」。
五分別ある親にいふ字。○〔莊〕「小知一一」。
〔桑閒〕くはの木のあひだ。○〔禮〕「一・一濮上之音」。
〔居閒〕兩者のあひだにたちて盡力す。○〔漢〕「邑中賢豪一レ以二十萬一」。
〔俗閒〕世俗のうち。○〔漢〕「浮・游一・一」。
〔人閒〕前に同じ。○〔史〕「職事二一・一事一」。
〔兵閒〕戰爭のなか。○〔後漢〕「初寄在二一・一」。
〔田閒〕たのあひだ。○〔後漢〕「躬・鼓・畝時、既數二着於一・一」。
〔顏閒〕かほのうち。○〔唐〕「帝喜見二一・一」。
〔林閒〕はやしのなか。○〔梁元帝〕「一・一花欲然」。
〔袂閒〕わきのした。○〔盧仝〕「拂々清風生二一・一」。

閑 カン、ゲン。何艱切 〔刪〕
一やすんず(安)、やすむ(息)。○〔國〕「可二以少一一」。
二まづか(靜)、ゆるやか(寬)。○〔史〕「雍・容一・雅」。
三ひま。
(い)無事、てすき。○〔左〕「以一敵二一邑一」。
(ろ)無職、あそび。○〔周〕「九日二一・一民一」。
(は)休息、やすみ。○〔禮〕「孔・子一・居」。
(に)寬裕、くつろぎ。○〔文心雕龍〕「弄二一於才・鋒一」。
(ほ)空隙、すきま。○〔禮〕「少一一願有レ復」。
四ちかごろ(近)。○〔左〕「一蒙二甲冑一」。
〔閒閑〕おくゆかしくまづかなること。○〔詩、傳〕「是一・一貞・靜之善・女」。「事」
〔等閑〕ほなれておなしきこと。○〔孟郊〕「官・情惟一・一之女」。
〔心閑〕こゝろやすらかなること。○〔韓愈〕「一・一無事」。
〔貞閑〕たゞしくまづかなること。○〔北〕「仰レ順一・一」。
〔優閑〕ゆるくとまづかなること。○〔唐〕「府陽族人並以二一・一自保」。
〔舒閑〕のびやかにしてせまらざること。○〔唐〕「入頗一・一」。
〔退閑〕すゝんで勤務に服せず身をまりぞきてやすらかにあること。○〔宋〕「晩一・一者十四年」。
〔餘閑〕あまりのひま。○〔上林賦〕「朕以二覽聽一餘一一」。
〔安閑〕まづかにやすらかなること。○〔歐陽修〕「又愛二其俗之一・一」。

閒 カン、ケン。古莧切 〔諫〕
一あひ、あひだ。
(い)距離、差違、へだたり、ちがひ。○〔淮〕「醜・美有レ一」。
(ろ)混同、まじり。○〔詩、傳〕「綠一・一色」。
(は)ひま、⊖の(い)に同じ。
二ひま。
(い)空隙、あひ、すきま。○〔莊〕「彼節者有レ一」。
(ろ)怨隙、なかたがひ。○〔左〕「君・臣多レ一」。
(は)かゝ會、なり、まぼ。○〔後漢〕「故狂・狡乘レ一相詿誤耳」。
三少時、まばらく。○〔列〕「立有レ一」。
四陰私、ひそか。○〔史〕「請一・行言レ之」。
五かふ、かはる(代)。○〔詩〕「皇以一レ之」。
六うかゞふ、ねらふ(俔)。○〔國〕「齊人一二晉之禍一」。
七そしる(誹)。○〔論〕「人不レ一二於其父・母昆・弟之言一」。
八まじふ、まじはる(厠)。○〔左〕「遠一レ親、新一レ舊」。
九たがふ、たがひに(迭)。○〔書〕「笙・鏞以一」。
十へだつ。
(い)あひを置く。○〔漢〕「一レ歲而給」。
(ろ)はなす、遠ざく。○〔史〕「讒・人一レ之」。
(は)なかたがひを作さしむ ○〔左〕「甚一二王・室一」。
十一へだたる(隔)、はなる(離)。○〔晉〕「且夫一二父之愛一而嘉二其既一」。
十二あづかる(與)。○〔左〕「肉・食者謀レ之、又何一焉」。
十三いゆ(瘳)。○〔禮〕「旬・有・二・日乃一」。
〔有閒〕(い)やゝひいゆ。○〔左〕「晉・侯一レ一」。(ろ)まばらくあひだあること、又、あさまあること。○〔莊〕「彼節者一レ一」。
〔少閒〕疾病すこしくいゆ。○〔左〕「左衛大・將・軍二」。
〔反閒〕敵の隙によりて計謀を用ひ敵をおろかにすること。○〔五〕「疾一一以甚」。○〔賦、註〕「備・疾・人・内・賊及一・一」。
〔病閒〕やまひいゆ。○〔論〕「一一日、久矣哉由之行レ詐也」。
〔讒閒〕すきまをこひて讒言などすること。○〔晉〕「陸衰レ事因一レ一」。
〔離閒〕まれしきなかをまこうりなどして交情をあしからしむ。○〔顏氏家訓〕「一・一骨・肉一」。
〔多閒〕交際のまたしからず隙あることをいふ。○〔左〕「故君臣一レ一」。
〔遊閒〕交友君臣のあひだなどをそしりてへたつること。○〔晉〕「一一・因レ之而進」。
〔靜閒〕靜謐して間閑を行ふ。○〔史〕「大・振儲・記主一・一於秦一耳」。
〔伺閒〕すきまをうかゞふ。○〔孔叢子〕「日・夜一・一」。
〔行閒〕時の計策をおこなふ。○〔五〕「齊使レ謀一レ一於殷一」。

閒 カン、ゲン 賈限切 〔潸〕
一河一は、趙の地の名。○〔戰〕「割二河一・一以事レ秦」。二うかゞふ(覸)。

閜 カツ、ゲチ。下瞎切 〔黠〕
かはる(代)。

間 俗の閒の字。

閃 ケツ、ケチ。呼決切 〔屑〕
闋一は、門に戸なきこと。

閔 ビン、ミン。眉隕切 〔軫〕 〔說文〕弔者在レ門也。
一やむ、やまし(病)。○〔禮〕「不レ一二有司一」。
二傷み念ふ、いたむ、あはれむ。○〔詩、序〕「婦・人能一二其君・子一」。
三つとむ(勉)。○〔書〕「予惟用一二于天越民一」。
四地の名。○〔穀梁〕「伐レ宋圍レ一」。
五人の姓。○〔顏會〕「孔・子弟・子一・損」。
六人の名。○〔漢〕「邵・鄉・侯一」。
〔閔閔〕うれへにあふ。○〔詩〕「一レ一旣多」。
〔愍閔〕うれへいたむ。○〔詩、箋〕「我心則一・一」。

〔憫閔〕いたみなしむ。○〔漢〕「我乃有二負者之所一一」。

閩 ビン、ミン。眉貧切 〔眞〕
一うれふ(病)。○〔詩〕「恩レ斯勤レ斯、鬻レ子之一レ斯」。二秋の天。

閜 カ、ケ。虛加切 〔麻〕
門閉づ、さづ。

閜 ガ、ゲ。魚駕切 〔禡〕
開裂す、さく、又、空虛、うつろ。○〔司馬相如〕「谽・呀豁一」。

閱 ヘキ、ヒヤク。僻亦切 〔陌〕
ひらく(闢)。

閄 フン、ホン。芳文切 〔文〕
火の氣にいふ字、ほのほ。

五畫

閐 チュ。丑注切 〔遇〕
直ちに開く、ひらく。

閘 タウ、ダウ。大浪切 〔漾〕
門を開かざるにいふ字、さづ。

閘 アフ、エフ。烏甲切 〔洽〕
開閉し得る門。

閤 カフ、コフ。古盍切 〔合〕
一時々開閉する水門。二門を閉づ、さづ。

閙 ダウ、ナウ。奴教切 〔效〕
閙に同じ。

閊 サン、セン。側銜切 〔咸〕
立ちて待つ、まつ。

閖 デイ、ナイ。奴禮切 〔薺〕
おろか、おさる(劣)。

閛 ハウ、ヒヤウ。披庚切 〔庚〕
戸を闔づる聲にいふ字。○〔揚雄〕「閛レ之聯・然見二四・海一、閉レ之一・然不レ覩二其裡一」。

閛 ハウ、ヒヤウ。巨迸切 〔迥〕
門の開閉、あけたて。

閞 ハウ、ヒヤウ。普耕切 〔庚〕
門を開閉する聲にいふ字。

閦 イ。余支切 〔支〕
門白、くるゝ、さざし。

閞 テン、トン。鏇廉切 〔鹽〕
小しく門を開きて候ふ、外を候ひ望む、うかゞふ。○〔潘岳〕「闋二一・讌・菜一」。

閆 タン。黨旱切 〔旱〕
一さざし(扂)。二くわんのき(關)。三門の旁に在る橛、くひ扉を止ざむるに用ふるもの。

関 關の略字。

閕 ケイ、カイ。古奚切 〔齊〕
門白、くるゝ。

閜 カン、ゴン。戶感切 〔感〕
かざ(門)。

閜 カ、ケ。火下切 〔馬〕
一ひらく(開)、さく(裂)、又、空虛、うつろ。○〔史〕「谽・呀豁一」。二大杯、さかづき。○〔揚雄〕「一栖也、其大者謂二之一一」。

閜 ア。倚可切 〔哿〕
門傾く、かたぶく、又、傾き散る、さゝふ、又、相扶持する。○〔史〕「阮・衛一・一砢」。

閝 レイ、リヤウ。郎丁切 〔青〕
門の上の窓、きりまど。

閞 ヘン、ベン。皮變切 〔霰〕 ハン、パン。符萬切 〔願〕
門の欂櫨、ますがた。○〔爾〕「一謂二之楶一」。

閟 ヒ。兵媚切 〔寘〕
一さづ、さざす(閉)、轉じて、物の隱れて發せざるにもいふ字。○〔詩〕「視二爾不レ臧、我思不レ一」。
二幽深なり、くらし、ふかし、おくふかし、又、神。○〔詩〕「一宮有レ侐」。
三つゝしむ(愼)。○〔書〕「天一二毖我成・功所一」。
〔永閟〕ひさしくとぢてあかず。○〔梁〕「傷・輩・奐之一一」。
〔密閟〕あらはれず。○〔永經、註〕「淨理一・一」。
〔祈閟〕ふかくとざす。○〔元稹〕「氷・筋・値一・一」。
〔深閟〕前に同じ。○〔黃滔〕「石・林・路一・一」。
〔隱閟〕あらはれずしてかすかなること。○〔蔡邕〕「承二庭隱九重一、每一・一」。

閧 ケイ、カイ。呼計切 〔霽〕

閍 門扉、さびら。扃に同じ、くわんのき。

六畫

閡 ガイ、ゲ。五漑切 〔隊〕
一外より閉づ、さづ、さざす。○〔左〕「寒・暑隔二一於遊・宇一」。二とゞまる(止)。○〔易、註〕「進則一レ山、退則困レ險」。

閡 ガイ、ゲ。五改切 〔賄〕
臧め塞ぐ、ふさぐ。○〔漢〕「該二臧萬・物一、而雜・陽一・種」。

閾 コク。紇則切 〔職〕
さゞこほる(凝)。

閡 カイ、ケ。苦亥切 〔賄〕
ひらく(開)。

閛 ハウ、ヒヤウ。披耕切 〔庚〕
扉を閉づる聲にいふ字。

閤 カツ、ガチ。胡八切 〔黠〕
門を開閉する聲にいふ字。

閛 ボウ、ム。莫候切 〔尤〕
ひらく(開)。

閾 キヨク、ケキ。許逼切 〔職〕
門阻つ、へだつ。

閦 ソウ、ス。先總切 〔董〕
門白、くるゝ。

閃 シン。所進切 〔震〕

閘 キャウ、カウ。狹王切 陽
キョク、コク。丘玉切 沃
門の閘圖の木。

関 俗の關の字。

開 開の本字。

閫 キョク、ケキ。況逼切 職
値に同じ。まづか。

閣 カク。古洛切 藥

一門扉を止どめさづる長杙。くわんのき。○〔爾〕「所二以止一扉謂二之一一」。
二樓觀。たかどの。○〔進〕「接二屋連一一」。
三宮殿。ごてん。○〔正字通〕「秦・宸偶・殿也、謂二之一一」。
四禁省。やくしよ。○〔魏〕「取二宿・衛之臣一留二秘一一之更一」。
五棧道。棧陛。かけはしはし。○〔後漢〕「棧一絕敗」。
六庶野。くりや。○〔禮〕「天子一」。
七貧度。ぜんだな。○〔禮〕「天・夫・七十而有レ一」。
八度格。おきだな。又、おきだなありて物を藏むる所。ものおき。○〔晉〕「事二之高一一」。
九端直なる貌にいふ字。なほし。○〔詩〕「約レ之一一」。
十蛙の鳴く聲にいふ字。又、筆言の道を害するにいふ字。○〔韓愈〕「蛙黽鳴無レ謂一一蔵亂レ人」。

〔音圖〕なもびたるたかどの、又、たかきのをつらぬ。○〔後漢〕「一一雲道」。

閔 カフ、コフ。古答切 合
一門旁の戸。内中の小門。くぐりど、こもん。○〔漢〕「出二入閤一一」。
二房室宮殿。○〔齊〕「國・主居二重一一」。
三禁省。やくしよ。○〔魏〕「牽二諫官一伏レ一」。

〔後圖〕築後のこもん。○〔晉〕「方閤一一」。
〔前圖〕ねやのくちの小門をとざす。○〔禮〕「一一視レ朝」。
〔明圖〕扉月の小門をひらく。○〔王融賦〕「一一待レ月結レ軫一一」。
〔清圖〕おほづのなく壁板いた閣。○〔陸機〕「双枕一一常一一」。
〔逆圖〕おくのいりぐちにいでおかよ。○〔後漢〕「重一一複手交欄並坐」。
〔中圖〕青中の小門。○〔後漢〕「成使者レ一一」。
〔青圖〕前に同じ。○北に書室入一一」。
〔宮圖〕後宮の小門。又、後宮内のとにもいふ。○〔後漢〕「決一一」。
〔解圖〕おくむきのでいりぐちのもん。○〔前〕「解一一已開」。
〔倉圖〕さびしきこもん。○〔武帝一一安陵賦〕「一命宝閤」。

閥 ケツ、ケチ。苦穴切 屑
一むなし（穴に）。
二一閥は門戸なきこと。
ギ。魚倫 支 キ。古委 紙 切

閼 門危し。

闢 サン、セン。所晏切 諫
竹木を編みて造りたるかき、まがき。

閒 カン、ゲン。胡簡切 諫
門の閒。ふさみ。

閑 チク、トク。勅六切 屋
もろ〳〵（二衆）。

閩 コン。苦本 切 阮 苦悶 切 慁
門限。門橛。ふさみ。くひ又、内外の區限にいふ字。○〔史〕「一以内者寡人制レ之」。

〔天圖〕天・門のさかみ。○〔後〕「一一秋令無閩」。
〔出圖〕門のそとにいづ。○〔後漢〕「月離二一之百一」。
〔門圖〕あものさかみ。○〔後漢〕「一一朱穆」。

閭 ラウ 來宕切 蕩
むなし。
〔い〕空虚なり。うつろ。○〔漢〕「閭一一其空虚兮」。
〔ろ〕空曠なり。ひろし。○〔莊〕「腹有二重一一、心有二天遊一」。
〔上圖〕城郭外のかた。○〔晉〕「城外謂之郭、郭外謂之一一」。
〔里圖〕里巷也。○〔前漢〕「一一門閭」。

閭 ラウ。里無切 魚
一壕一は、寛くして明かなる貌にいふ語。ほがらか。○〔王延壽〕「鴻爐焜以燦一一」。
二人の名。○〔史〕「藺・王子惠・王一立」。

閭 リヤウ、ラウ 里養切 養
鄙に同じ。○〔史〕「一一門一一」。

閭 ラウ。魯當切 唐
門人、かどもり。

閻 リン。其忍切 軫
火の貌にいふ字。

七畫

閨 チク、トク。勅六切 屋
門を開閉する聲にいふ字。

閤 ヨウ、ユ。余顒切 鍾
門に入る、とほる、くぐる。

閼 クワク、カク。呼麥切 陌
一門を開閉する聲にいふ字。
二門を開く、ひらく。

閧 テイ、チャウ。唐丁切 青
門の中。

閬 テイ、ダヤウ。待鼎切 迥
門の外に啓らくにいふ字、ひらく。

閾 サ、セ。所穢切 祭
ひらく（開）。

閏 キク、コク。居六切 屋
一さへぎる（閑）、とづ（閉）。
二兩手にて物を捧ぐさしぐ。

閱 エツ、エチ 弋雪切 屑
一けみす。
〔い〕ひとつ〳〵に數ふ、つまびらかに察す、かぞふ、みる、ふらぶあらたむ。○〔後漢〕「明二版籍一以相數一一」。
〔ろ〕えらぶ（簡）。○〔書〕「克一一乃邑一謀レ分」。
〔は〕ふる（歴）。○〔漢〕「一一天下之義、理一多矣一」。

一車馬軍實をあらたむると、兵士の訓練を行ふと。○〔周〕「教二大一」。二事功の經歷を重ねたると。てがら。三〔史〕「發レ日日レ」。三家格門地いへがら。○〔漢〕「不レ繫二閥一」。四いる。〔容〕。○〔詩〕「我射不レ」。五あたふ。〔與〕。○〔老〕「自レ古及レ今其名不レ去、以一二衆甫一」。六實貨上の價を減ずると。○〔荷〕「舉レ價不レ貿、折一二不レ市」。七長く直くして屋際にまでさほりたる柄たるき。○〔爾〕「桷直而遂謂二之一」。

【八畫】

【門】　シュク、ソク　昌六切　屋

佛の名。

【閎】　クツ、ケチ。苦穴切　屑

門戸なきにいふ字。

八畫

【閏】　リン。良刃　實レン。耶甸　震

【閒】　エン。島前切　先

一氏は、匈奴にて皇后の號、又、匈奴にて妻の稱。○〔史〕「後有二所レ愛一氏一」。

【閘】　ガイ、ゲ。五愛切　隊

木を以て門を遮るやらいなり。

【閘】　コン。呼昆切　元

一門の開閉を主どる賤隷、特に宮門を守る者、もんばん。○〔禮〕「一者守レ門之賤者也」。二宮門ごてんのもん。○〔正字通〕「謂レ兩自恕者、曰レ叩レ一」。

【閙】　ヨク、イキ。子逼切　職

門下の横木の内外の限をなすもの、まきみ。門限、轉じて、内外の區限にいふ字。○〔論〕「不レ履レ一」。

【閩】　ビン。武巾切　眞

門の左右のまきみをよみてそむいつるる。○〔左〕「見二兄弟之不一」。一門のまきみの上をよむ。○〔論〕「行不一」。二門のまきみ。○〔禮〕「一謂之一」。三前に同じ。○〔禮記〕「謂レ一」。四前に同じ。○〔禮記〕「謂レ一」。五前に同じ。○〔禮記〕「涉レ一」。六面體字。

【閔】　ブン、モン。無分切　文

目を低れて視るみる。

【閖】　ユ。羊朱切　虞

うかがふ〔窺〕のぞむ〔望〕。○〔左思〕「距二遠關一以爲一」。

【閘】　クヲ、空媧切　麻　クヲイ、ケ。苦乖切　佳

ひらく〔開〕。

【閘】　チュン。敷尹切　軫

中門。

【閘】　ハン、ヘン。西限切　潸

門中を視るうかがふ。

【閘】　アン、オン。烏紺切　勘

一とづ〔閉〕。○〔論衡〕「其爲二閉一甚矣」。二くらし。

【閘】　アン、オン。鄔感切　感

陰晦の貌にいふ字、くらし。○〔禮〕「一然而日暮」。

【閙】　ドウ。都木切　屋　タク、竹角切　覺

水の名。○〔山海經〕「一水出焉」。

【閙】　シ。詩止切　紙

門。

【閙】　クヮン、クヮン。胡官切　刪

一深閑、おくのまもりぐち。二ごてんのもん〔關〕。

【閙】　シャウ、サウ。尺量切　陽

一いざなふ、みちびく。○〔史〕「一者倡也」。二天上の門。○〔漢〕「遊二一園一」。

【閙】　タウ。他耶切　麻

鼓の聲にいふ字。○〔司馬法〕「不レ過レ一」。

【閙】　クヮツ、クヮチ。苦活切　曷

さほし〔遠〕ひろし〔廣〕。

【閙】　ギョ、ゴ。偶舉切　語

小さき門。

【閙】　コン。苦本切　阮

宮中の門。

【閙】　セツ、士列　屑　サツ、音鎩　ヒチ。切　薛

城門の版、いた。

【閙】　エン、英廉　鹽　エン　切　衣檢　琰

一宮門の開閉を掌る賤者、宮廷に奉仕する小臣、君主に近侍せる小吏、もんばんこものそばづかひ、古昔は男の勢なくして精の閉づる者を用ひしといふ。○〔漢〕「一・尹之哲」。二陽氣の盛んなると。○〔管〕「行二夏一政一」。

【閙】　ヒツ。都木　屋　タク、竹角　覺　トク。切

水の名。○〔山海經〕「一・水出焉」。

【閙】　シ。詩止切　紙

門。

【閙】　クヮン、クヮン。胡官切　刪

一深閑、おくのまもりぐち。二ごてんのもん〔關〕。

【閙】　シャウ、サウ。尺量切　陽

一いざなふ、みちびく。○〔史〕「一者倡也」。二天上の門。○〔漢〕「遊二一園一」。

【閙】　エン。以瞻切　豏

一好くして長しみめよしながし。二衣の長き貌にいふ字。○〔史〕「眇一易」。三美しき色にいふ字、うるはし。

【閙】　アツ、アチ。烏割切　曷

一とどむ、とどまる〔止〕ふさぐ、ふさがる〔塞〕。○〔漢〕「今臣雍一不レ得レ閙」。二人の名。

【閙】　日、ヨ。依倨切　魚

一里中の門、又、里中。○〔史〕「莊生騶レ居二閭一」。二ちまた〔巷〕。○〔博雅〕「一謂二之衖一」。三開く。○〔揚雄〕「皆開二山東賓閧一戸謂二之一一皆一」。

【閙】　ヒ、ビ。字微切　微

扉に同じ。

【閙】　トウ。都木　屋　タク、竹角　覺　トク。切

水の名。○〔山海經〕「一・水出焉」。

【閙】　シ。詩止切　紙

門。

【閙】　クヮン、クヮン。胡官切　刪

一深閑、おくのまもりぐち。二ごてんのもん〔關〕。

【閙】　シャウ、サウ。尺量切　陽

一いざなふ、みちびく。○〔史〕「一者倡也」。二天上の門。○〔漢〕「遊二一園一」。

【閙】　タウ。他耶切　麻

鼓の聲にいふ字。○〔司馬法〕「不レ過レ一」。

【閙】　クヮツ、クヮチ。苦活切　曷

さほし〔遠〕ひろし〔廣〕。

【閙】　キョ、ゴ。偶舉切　語

小さき門。

【閙】　コン。苦本切　阮

宮中の門。

【閙】　セツ、士列　屑　サツ、音鎩　ヒチ。切　薛

城門の版、いた。

【閙】　エン、英廉　鹽　エン　切　衣檢　琰

一宮門の開閉を掌る賤者、宮廷に奉仕する小臣、君主に近侍せる小吏、もんばんこものそばづかひ、古昔は男の勢なくして精の閉づる者を用ひしといふ。○〔漢〕「一・尹之哲」。二陽氣の盛んなると。○〔管〕「行二夏一政一」。

【閙】　ヒツ。都木　屋　タク、竹角　覺　トク。切

水の名。○〔山海經〕「一・水出焉」。

【閙】　シ。詩止切　紙

門。

【閙】　クヮン、クヮン。胡官切　刪

一深閑、おくのまもりぐち。二ごてんのもん〔關〕。

【閙】　シャウ、サウ。尺量切　陽

一いざなふ、みちびく。○〔史〕「一者倡也」。二天上の門。○〔漢〕「遊二一園一」。

【閙】　タウ。他耶切　麻

鼓の聲にいふ字。○〔司馬法〕「不レ過レ一」。

【閙】　クヮツ、クヮチ。苦活切　曷

さほし〔遠〕ひろし〔廣〕。

【閙】　キョ、ゴ。偶舉切　語

小さき門。

【閙】　コン。苦本切　阮

宮中の門。

【閙】　セツ、士列　屑　サツ、音鎩　ヒチ。切　薛

城門の版、いた。

【閙】　エン、英廉　鹽　エン　切　衣檢　琰

一宮門の開閉を掌る賤者、宮廷に奉仕する小臣、君主に近侍せる小吏、もんばんこものそばづかひ、古昔は男の勢なくして精の閉づる者を用ひしといふ。○〔漢〕「一・尹之哲」。二陽氣の盛んなると。○〔管〕「行二夏一政一」。

―・興は、ゆるやかなる貌にいふ語。○〔漢〕「朝元―・興」。

【閟】　エン。烏前切　先

一氏は、匈奴にて皇后の號、又、匈奴にて妻の稱。○〔史〕「後有二所レ愛一氏一」。

【閘】　ガイ、ゲ。五愛切　隊

木を以て門を遮るやらいなり。

【閘】　コン。呼昆切　元

一門の開閉を主どる賤隷、特に宮門を守る者、もんばん。○〔禮〕「一者守レ門之賤者也」。二宮門ごてんのもん。○〔正字通〕「謂レ兩自恕者、曰レ叩レ一」。

【閙】　ヨク、イキ。子逼切　職　キョク、忽喊切　職

門下の横木の内外の限をなすもの、まきみ。門限、轉じて、内外の區限にいふ字。○〔論〕「不レ履レ一」。

【閩】　ビン。武巾切　眞

一門のまきみの上をよむ。○〔論〕「行不一」。二門のまきみ。○〔禮〕「一謂之一」。三前に同じ。○〔禮記〕「謂レ一」。四前に同じ。○〔禮記〕「涉レ一」。五面體字。

【閔】　ブン、モン。無分切　文

目を低れて視るみる。

【閖】　ユ。羊朱切　虞

うかがふ〔窺〕のぞむ〔望〕。○〔左思〕「距二遠關一以爲一」。

【閘】　クヲ、空媧切　麻　クヲイ、ケ。苦乖切　佳

ひらく〔開〕。

【閘】　チュン。敷尹切　軫

中門。

【閘】　ハン、ヘン。西限切　潸

門中を視るうかがふ。

【閘】　アン、オン。烏紺切　勘

一とづ〔閉〕。○〔論衡〕「其爲二閉一甚矣」。二くらし。

【閘】　アン、オン。鄔感切　感

陰晦の貌にいふ字、くらし。○〔禮〕「一然而日暮」。

【閙】　ドウ。都木　屋　タク、竹角　覺　トク。切

水の名。○〔山海經〕「一・水出焉」。

【閙】　シ。詩止切　紙

門。

【閙】　クヮン、クヮン。胡官切　刪

一深閑、おくのまもりぐち。二ごてんのもん〔關〕。

【閙】　シャウ、サウ。尺量切　陽

一いざなふ、みちびく。○〔史〕「一者倡也」。二天上の門。○〔漢〕「遊二一園一」。

【閙】　タウ。他耶切　麻

鼓の聲にいふ字。○〔司馬法〕「不レ過レ一」。

【閙】　クヮツ、クヮチ。苦活切　曷

さほし〔遠〕ひろし〔廣〕。

【閙】　キョ、ゴ。偶舉切　語

小さき門。

【閙】　コン。苦本切　阮

宮中の門。

【閙】　セツ、士列　屑　サツ、音鎩　ヒチ。切　薛

城門の版、いた。

【閙】　エン、英廉　鹽　エン　切　衣檢　琰

一宮門の開閉を掌る賤者、宮廷に奉仕する小臣、君主に近侍せる小吏、もんばんこものそばづかひ、古昔は男の勢なくして精の閉づる者を用ひしといふ。○〔漢〕「一・尹之哲」。二陽氣の盛んなると。○〔管〕「行二夏一政一」。

【閙】　ヒツ。都木　屋　タク、竹角　覺　トク。切

水の名。○〔山海經〕「一・水出焉」。

【閙】　シ。詩止切　紙

門。

【閙】　クヮン、クヮン。胡官切　刪

一深閑、おくのまもりぐち。二ごてんのもん〔關〕。

【閙】　シャウ、サウ。尺量切　陽

一いざなふ、みちびく。○〔史〕「一者倡也」。二天上の門。○〔漢〕「遊二一園一」。

【閙】　タウ。他耶切　麻

鼓の聲にいふ字。○〔司馬法〕「不レ過レ一」。

【閙】　クヮツ、クヮチ。苦活切　曷

さほし〔遠〕ひろし〔廣〕。

【閙】　キョ、ゴ。偶舉切　語

小さき門。

【閙】　コン。苦本切　阮

宮中の門。

【閙】　セツ、士列　屑　サツ、音鎩　ヒチ。切　薛

城門の版、いた。

【閙】　エン、英廉　鹽　エン　切　衣檢　琰

一宮門の開閉を掌る賤者、宮廷に奉仕する小臣、君主に近侍せる小吏、もんばんこものそばづかひ、古昔は男の勢なくして精の閉づる者を用ひしといふ。○〔漢〕「一・尹之哲」。二陽氣の盛んなると。○〔管〕「行二夏一政一」。

【閙】　ヒツ。都木　屋　タク、竹角　覺　トク。切

水の名。○〔山海經〕「一・水出焉」。

【閙】　シ。詩止切　紙

門。

【閙】　クヮン、クヮン。胡官切　刪

一深閑、おくのまもりぐち。二ごてんのもん〔關〕。

【閙】　シャウ、サウ。尺量切　陽

一いざなふ、みちびく。○〔史〕「一者倡也」。二天上の門。○〔漢〕「遊二一園一」。

【閙】　タウ。他耶切　麻

鼓の聲にいふ字。○〔司馬法〕「不レ過レ一」。

【閙】　クヮツ、クヮチ。苦活切　曷

さほし〔遠〕ひろし〔廣〕。

【閙】　キョ、ゴ。偶舉切　語

小さき門。

【閙】　コン。苦本切　阮

宮中の門。

【閙】　セツ、士列　屑　サツ、音鎩　ヒチ。切　薛

城門の版、いた。

【閙】　エン、英廉　鹽　エン　切　衣檢　琰

一宮門の開閉を掌る賤者、宮廷に奉仕する小臣、君主に近侍せる小吏、もんばんこものそばづかひ、古昔は男の勢なくして精の閉づる者を用ひしといふ。○〔漢〕「一・尹之哲」。二陽氣の盛んなると。○〔管〕「行二夏一政一」。

閵 アン、エン。乙減切 豏
陰暗くらし。

閻 イン、オン。於錦切 寢
大水の至るにいふ字。

閼 イン、オン。於金切 侵
だまる（默）。
〔說文〕 玉音の深密に信任して默して言はず與を為すをいふ。○繹「高宗ト―三年」。

閻 アン、オン。烏南切 覃
寢のいほり。

閻 ベキ、ヒヤク。匹亦切 陌
ふさぐ（塞）。

閻 ケツ、ゲチ。胡結切 屑
門を開閉する聲にいふ字。

閣 ヤヤク、ニヤク。女略切 藥
ひく（牽）。

闈 井。羽非切 微 キ。吁章切 脂
❶宮中の小門、こもん。〇〔史〕「攻ニ―與ニ大門ニ」。
❷宮中。〇〔後漢〕「正ニ位宮―ニ」。
〔類聚〕王宮の門又王宮のうち。〇〔後漢〕「在ニ―有ニ侯爵ノ風ニ」。
〔集韻〕前に同じ。〇〔左〕「鐘宮第―ニ」。
〔字彙〕前に同じ。〇〔張衡〕「立ニ象人于―ニ」。
〔字彙〕前に同じ。〇〔禮〕「祭ニ於路寢ノ―ニ」。
〔正韻〕前に同じ。〇〔張九齡〕「從ニ於戸―ニ」。
〔玉篇〕前に同じ。〇〔孟郊〕「東西―ニ儲君」。
〔玉篇〕門の小なるもの、又、宮衛を門と稱す。〇〔周禮〕「入ニ―官之ノ―ニ」。

闇 アン、オン。烏濫切 闞
寢のいほり。

闔 ケツ、ケチ。傾聿切 屑
❶事已みて門を閉づるにいふ字、轉じて物事の訖止せるにいふ字、やむ、をはる。〇〔後漢〕「不レ―二時月ニ」。
❷特に、音樂の終訖にいふ字、をはる。〇〔禮〕「以ニ樂ニ―ニ」。
❸やすむ（息）。〇〔詩〕「君子若扈偉ニ兵心ニ―ニ」。
❹つく（塞）。〇〔漢〕「物物卽レ市、日ニ―亡レ肆。
❺むなし（空）。〇〔莊〕「願ニ彼ニ―者ニ虛室生レ白。
〔字彙〕酒宴やむ。〇晉松「一一狼藉一宵散。

闕 ケイ、ケ。腰桂切 霽
やむ（止）。〇〔禮〕「卒ニ―樂而樂ニ」。

闋 ケン、巨展切 銑 ケン、其偃切 阮
門を拒ぐ木くわんのき。

闃 クツ、コチ。許勿切 物
小さき門。

闌 ラン。洛干切 寒
❶さへぎる（遮）。〇〔後〕「有ニ河山以ニ―之ニ」。
❷やらい、てすり、おばしま、らんかん、ふさり。〇〔史〕「門ニ―之斷」。
❸兵榮、やりかけ、かなかけ。〇〔左註〕「車上兵ニ―」。
❹たけなは。
〔い〕晩きと、なかばすぎ。〇〔文選〕「白露寖分成將レ―」。
〔ろ〕蕃きなんとすると、なはり。〇〔蔡琰〕「更深夜ニ―」。
〔は〕稀なるとまばら。〇〔古詩〕「拭ニ眼瞻ニ星ニ―」。
〔に〕色の褪めたると、華の衰へたると。〇〔李頎〕「無ニ令芳草ニ―」。
〔ほ〕集會の坐客中は散じ去りたると。〇〔史〕「酒ニ―」。
❺みだり（妄）。〇〔史〕「文ニ束繩以爲ニ―出財物於邊關ニ」。
❻符傳わりふなくして門關などに出入すると。〇〔漢〕「ニ―入關方擾門ニ」。
❼手鎖の類、うでわ。「百ニ日人獻ニ翠脘ニ―」。
〔字彙〕おおもりたかなをなせるもの。〇〔晉世家〕「初ニ―誅」。

闌 ラン。郎奸切 刪
彩に同じ、あや、文。

闍 ト、ツ。當孤切 虞
城門外の臺、うてな、城上の重門、もん。
〇〔詩〕「出ニ其―閣ニ」。

閵 ヘイ、ハイ。博計切 霽
❶とざし、とぼそ（扃）。
❷門のいりくち。

十畫

闒 タフ、テフ。託甲切 洽

闔 タフ、トフ。徒盍切 合
門中の梱、まきゐ、轉じて內外のまきりの義にもいふ字。〇〔漢〕「以ニ內ニ―寡人制レ之。」。
〔門閫〕もんのまきゐ。〇〔皮日休〕「談ニ―頻ニ」。
〔類聚〕前に同じ。〇〔梅堯臣〕「若ニ望ニ―乎」。
〔字彙〕もんのまきゐのうちはこれをはひとる。
〇〔禮〕「君入ニ門ニ介ニ―ニ」。
〔禮圖〕門のくさびと門のまきゐと。〇〔孝經〕「中ニ貴賤ニ―ニ」。

闕 キ。居胃 寘
門の樞、まきゐ、轉じて內外のまきりの義にもいふ字。〇〔漢〕「以ニ內ニ―寡人制レ之。」。
〔門閫〕もんのまきゐみ。〇〔皮日休〕「談ニ―頻ニ」。
〔類聚〕前に同じ。〇〔梅堯臣〕「若ニ望ニ―乎」。
〔字彙〕もんのまきゐのうちはこれをはひとる。
〇〔禮〕「君入ニ門ニ介ニ―ニ」。
〔禮圖〕門のくさびと門のまきゐと。〇〔孝經〕「中ニ貴賤ニ―ニ」。

闔 ケツ、クヲチ。苦滑切 月
❶あらし、（疏）。〇〔漢〕「方略疏ニ―」。
❷さほし、（遠）。〇〔淮〕「廻ニ―泳ニ末」。
❸ひろし、（廣）。〇〔南〕「堪ニ―的太」。
❹ゆるし、（寬）。〇〔漢〕「ニ―其租賦ニ」。
❺てがるし、（簡）。〇〔後漢〕「文ニ―簡明」。

闕 チ、ヂ。直利切 寘
級の義に同じ。〇〔揚雄〕「無ニ―閒」。

闕 カン、ゲン。下關切 潸
門のまきゐ。

闐 イン。於眞切 眞
❶城門外の副城、ついぢ、之に循ひ曲がりて城門に入る又、城內の重門、もん。〇〔詩〕「出ニ其ニ―閫ニ」。
❷ふさぐ（塞）。〇〔周〕「掌ニ―屋掌ニ斂二五ニ物屋物ニ」。
❸まがる（曲）。〇〔莊〕「ニ―枝ニ―」。
〔城闕〕城中の重門。〇〔揚雄〕「羣火集ニ―」。
〔宮闕〕前に同じ。〇〔揚雄〕「羣火集ニ―」。
〔樂闕〕城門の上にの望み。〇〔顏師古〕「ニ―謂ニ樓觀ニ」。
〔字彙〕前に同じ。〇〔顏師古〕「ニ―訪ニ川陵ニ」。
〔郊闕〕城郭の門。〇〔揚雄〕「能出ニ―ニ」。
〔帝闕〕王城の門。〇〔戴記〕「脅火循ニ―ニ」。

闕 クヲツ、クヲチ。苦活切 黠
コツ、クチ。苦滑切 月
❶あらし、（疏）。〇〔漢〕「方略疏ニ―」。
❷さほし、（遠）。〇〔淮〕「廻ニ―泳ニ末」。
❸ひろし、（廣）。〇〔南〕「堪ニ―的太」。
❹ゆるし、（寬）。〇〔漢〕「ニ―其租賦ニ」。
❺てがるし、（簡）。〇〔後漢〕「文ニ―簡明」。

闕 ケツ、クヲチ。苦穴切 屑
❶城上の重門、もん。〇〔左〕「以當ニ其ニ―ニ」。
❷過失きず。〇〔左〕「謀事補レ―」。
❸缺に同じ、あや、文。
❹―翟一に―狄は羽飾ある后衣。〇〔周〕「褕狄―狄」。
❺―鞮―は夷劒の名。〇〔周〕「鞮ニ―鞮鬼」。
❻玄―は、北極の山の名。〇〔漢〕「遠ニ屯―於玄ニ―ニ」。
❼塞の名。十人の姓。

闕 ケツ、クヲチ。秩月切 月
❶宮城の標表、ゐるしざして宮門外の兩旁に設けられたる兩個の臺上に樓觀を作る。門觀、象魏。〇〔詩〕「挑分達分在ニ城ニ―分」。
❷門。〇〔淮〕「天ニ阿者擧ニ神之ニ―」。
❸宮城、朝廷。〇〔漢〕「長ニ戟指レ―」。
❹かく。
〔い〕少くす。〇〔左〕「欲レ―ニ剪ニ我公ニ」。
〔ろ〕供へす。〇〔左〕「―而爲レ罪」。
〔は〕毀る。〇〔呂氏春秋〕「子弗ニ―ニ」。
〔に〕除く。〇〔周〕「亡者レ之ニ」。
〔ほ〕足らす。備はらす。〇〔呂氏春秋〕「其所ニ以知識一事ニ」。
〔へ〕合はす。〇〔漢〕「圖レ城爲ニ之ニ」。
〔と〕竭きて空しきにいふ字。〇〔禮〕「三ニ五而ニ」。

闕 タフ、トフ。託合切 合
鐘ニは、鐘鼓の聲にいふ語。

闕 カイ、ケ。苦亥切 賄
❶ひらく、（開）、さく、（解）。〇〔漢〕「今欲三與レ漢ニ―大關ニ」。
❷おもふ（欲）。

闕 カイ、丘哀切 灰 カイ。丘蓋切 泰
❶弓を射る時に右手の指に掛けて弦を持する具、ゆがけ。
❷あきらか（明）。

闕 カフ、ゴフ。胡臘切 合
❶門の雙扉、とびら。〇〔禮〕「修ニ―扇ニ」。
❷とづ（閉）。〇〔易〕「レ戸謂ニ之坤ニ」。
❸とま（宿）。〇〔周〕「夾ニ―贈則贈ニ」。
❹總合すすべあはすすぶ。〇〔漢〕「今戍至ニ―郡而不ニ得ニ一人ニ」。
❺天上の門。〇〔漢〕「游ニ閶ニ」。〇〔莊〕「ニ胡營視ニ其貨ニ既爲ニ秋稻之賈ニ」。
❻なんぞ、ざる（盍）。〇〔莊〕「ニ胡營視ニ其貨ニ既爲ニ秋稻之賈ニ」。
〔閶闔〕あけひろがると閉づると。〇〔老〕「天門ニ―能無ニ雌ニ」。

（新附）高大如之門觀。○（繁欽）參觀風之！

（左傳）みやこの玉宮。○（李白）三指浮雲阿去！

（左傳）くづれかけてをはらず。○（後漢）一朝度（後漢）はなれをおく。○（孫子兵）一！一！眞會ニ。（後漢）かけたるを踏ひみたす。○（韓愈）觀ニ大夫士之子弟未勝冠者ニ以筮日ニ！

闕 ケツ、クヱチ。其月切 月

ほる（掘）、うがつ（穿）。○（左）一レ地及レ泉。

閭 タウ、ダウ 徒郎切 陽

高き門。

閻 チン、トン。丑禁切 沁 チン。丑甚切 寢 疑林 陰 （說文原在門部）

❶頭を出だす貌にいふ字。○（公羊）「開レ之則一然公子陽生也」。❷うかゞふ（覗）。○（韓愈）「儒門雖ニ大啓ニ寿首不敢一ニ。

關 セン。之兗切 銑

門を開閉するにきしらざること。

僎 シュン。子閏切 震

すぐる（英）。

閟 ケツ、ケチ。苦穴切 屑

とざまる（止）、なはる（終）。

十一畫

闋 ケイ、カイ。康礙切 霽

門を開く、ひらく。

闕 トウ、ヅ。都豆切 有

門の邪なるもと。

闇 ゴク。五克切 處

とづ（閉）。

闐 クヱン、テン。知連切 先

盛んなる貌にいふ字。

闔 カツ、コフ。胡臘切 合

❶てぼこ（戟）。○（史）「執一一戟一者」。❷はこ（函）。○（漢）「風一一戟一」。❸住立する貌にいふ字。ただずむ。○（晉二）一然止曠然視」。❹安定の意にいふ字。やすむ。○（史）「一然更始」。❺とづ（閉）。○（韓愈）「一一屋惟レ書」。

闢 タフ、トフ。散盡切 合

❶谷の名、地の名。❷一茸は、あしくおとろ、いやし（猥・劣）。○（司馬遷）「在ニ一茸之中ニ」。

闐 クヱイ、胡對切 隊 キ。求位切 寘

❶市の外門、轉じて市。○（張衡）「通レ闠帶レ」。❷みち。○（博雅）「闠一道也」。

闇 カフ、コフ。呼合切 合

直視す、みつむ。

闉 ヘキ、ビヤク。房益切 陌 亦辟に作る。

ひらく。○（易）「其動也一」。（左）避く。○（周）「凡外内命夫命婦、出ニ入則爲ニ之一ニ」。

闊 セン。昌善切 銑 稱延 先

ひらく。（い）開く、あく。○（漢）「紹レ天一一緯者」。（ろ）あらはす、あらはる（顯）、あきらか（明）。○（易）「微顯一レ幽」。（は）おほいなり（大）。○（書）「惇ニ大局公之大一訓ニ」。（に）ひろむ、ひろまる（廣）。○（史）「一ニ幷天下ニ」。

闍 ケン。去劍切 豏

小しく戸を開くうかがふ。

闢 キヤク、カク。許亮切 漾

❶門の響、❷門の頭、ほとり。

（左傳）ケ、空處切 寘

（新附）門の邪なるもと。

闇 ゴク。五克切 處

とづ（閉）。

闓 クヱイ、苦亥切 海

❶のぞむ（望）、みる（視）。○（晉康）「俯一」二海潮ニ。❷骨の色の名。○（左二）叔孫昭子如（晉郊）ラカマひのそむ。○（韓愈）「伊一一山下！

闕 カン、コン。虎雚切 寰

虎の吼ゆる聲にいふ字、虎の怒れる貌にいふ字。○（詩）「如ニ豗虎ニ」。（晉ケ）たけき貌、又、武はゆる貌にいふ字。○（晉孤）見ニ孤矩ニ！一ニ。（韓愈）獣のいかりはゆるさいふ字。○（晉）！一

闞 カン、胡監 銜 カン、虎覽 感 ゲン、切 カン、切

犬の聲にいふ字、又、獣の怒れる聲にいふ字。

闡 クヱ、ケ。呼瓜切 麻

門を開く。

闖 セン。茲消切 蕭

水中に生ずる一種の木、色黒くして文あり、即ち、烏文木ここたんの類。○（王會篇）「夷用ニ一木ニ。

（左傳）キフ、許及 シフ、色入 切 コフ、切

闕 ケツ、クヱチ。其月切 月

ほる（掘）、うがつ（穿）。○（左）一レ地及レ泉。

閭 タウ、ダウ 徒郎切 陽

高き門。

閻 チン、トン。丑禁切 沁 チン。丑甚切 寢 疑林 陰 （說文原在門部）

❶頭を出だす貌にいふ字。○（公羊）「開レ之則一然公子陽生也」。❷うかゞふ（覗）。○（韓愈）「儒門雖ニ大啓ニ寿首不敢一ニ。

關 セン。之兗切 銑

門を開閉するにきしらざること。

僎 シュン。子閏切 震

すぐる（英）。

閟 ケツ、ケチ。苦穴切 屑

とざまる（止）、なはる（終）。

十一畫

闋 ケイ、カイ。康礙切 霽

門を開く、ひらく。

闕 トウ、ヅ。都豆切 有

門の邪なるもと。

闇 ゴク。五克切 處

とづ（閉）。

闐 クヱン、テン。知連切 先

盛んなる貌にいふ字。

闔 カフ、コフ。呼合切 合

直視す、みつむ。

闉 ヘキ、ビヤク。房益切 陌 亦辟に作る。

ひらく。○（易）「其動也一」。（左）避く。○（周）「凡外内命夫命婦、出ニ入則爲ニ之一ニ。

闊 セン。昌善切 銑 稱延 先

ひらく。（い）開く、あく。○（漢）「紹レ天一一緯者」。（ろ）あらはす、あらはる（顯）、あきらか（明）。○（易）「微顯一レ幽」。（は）おほいなり（大）。○（書）「惇ニ大局公之大一訓ニ」。（に）ひろむ、ひろまる（廣）。○（史）「一ニ幷天下ニ」。

闍 ケン。去劍切 豏

小しく戸を開くうかがふ。

闢 キヤク、カク。許亮切 漾

❶門の響、❷門の頭、ほとり。

闞 カン、胡監 銜 カン、虎覽 感 ゲン、切 カン、切

犬の聲にいふ字、又、獣の怒れる聲にいふ字。

闡 クヱ、ケ。呼瓜切 麻

門を開く。

闖 セン。茲消切 蕭

水中に生ずる一種の木、色黒くして文あり、即ち、烏文木ここたんの類。○（王會篇）「夷用ニ一木ニ。

闔 カフ、コフ。胡臘切 合

❶てぼこ（戟）。○（史）「執一一戟一者」。❷はこ（函）。○（漢）「風一一戟一」。❸住立する貌にいふ字。ただずむ。○（晉二）一然止曠然視」。❹安定の意にいふ字。やすむ。○（史）「一然更始」。❺とづ（閉）。○（韓愈）「一一屋惟レ書」。

闢 タフ、トフ。散盡切 合

❶谷の名、地の名。❷一茸は、あしくおとろ、いやし（猥・劣）。○（司馬遷）「在ニ一茸之中ニ」。

闐 クヱイ、胡對切 隊 キ。求位切 寘

❶市の外門、轉じて市。○（張衡）「通レ闠帶レ」。❷みち。○（博雅）「闠一道也」。

闇 カフ、コフ。呼合切 合

直視す、みつむ。

闉 ヘキ、ビヤク。房益切 陌 亦辟に作る。

ひらく。○（易）「其動也一」。（左）避く。○（周）「凡外内命夫命婦、出ニ入則爲ニ之一ニ。

闊 セン。昌善切 銑 稱延 先

ひらく。（い）開く、あく。○（漢）「紹レ天一一緯者」。（ろ）あらはす、あらはる（顯）、あきらか（明）。○（易）「微顯一レ幽」。（は）おほいなり（大）。○（書）「惇ニ大局公之大一訓ニ」。（に）ひろむ、ひろまる（廣）。○（史）「一ニ幷天下ニ」。

闍 ケン。去劍切 豏

小しく戸を開くうかがふ。

闢 キヤク、カク。許亮切 漾

❶門の響、❷門の頭、ほとり。

㊂關の關、まど。㊃兩關の間。○〔左〕「扃關閉—」。

闢 キャク、カク。許兩切 養

前條の一の解に同じ。

闡 グアン、戶關 ケン、エン。烏還切 刪

一市の門、轉じて市。○〔張衡〕「通レ—帶レ廛」。

二みち、〔道〕。○〔博雅〕「—闠道也」。

〔補遺〕まちのかき又、まち。○〔後漢〕「街字路—」。

〔補遺〕まち。○〔李白〕「萬商開—」。

〔補遺〕前に同じ。○〔王維〕「鼎好風物近—」。

闖 チン。烏昆切 元

門の關、とびら。

闥 タツ、ヨク。他達切 曷

一門內又門扉。○〔詩〕「彼姝者子、在二我—一兮」。

二宮中の小門、轉じて、宮中。○〔漢〕「不レ出二房—一」。

〔補遺〕王宮の門又、王宮のうちをいふ。○〔魏〕「入—」。

〔補遺〕前に同じ。○〔後漢、班〕「擁門曰—」。

〔補遺〕前に同じ。○〔魏〕「與二入—一俱」。

〔補遺〕前に同じ。○〔後漢〕「若—啟」。

〔補遺〕前に同じ。○〔晉〕「入侍—中」。

〔補遺〕帝王の宮中をいふ。○〔晉書〕「入而—」。

〔補遺〕關語のこと。○〔後漢、李尤〕「雲風雷于—」。

〔門關〕宮中の大小の門。○〔班固〕「—闥洞開」。

〔門關〕關語の小門。○〔後漢〕「張衡等皆侍—」。

〔補遺〕前に同じ。○〔後漢、張衡〕「入侍—中」。

〔補遺〕王宮中の小門又、王宮のうちのことをもいふ。○〔三國志〕「—宮中小門也」。

阜部（阝）

阜 フウ、ブ。房九切 有

一なか。

〔い〕大陵くが　○〔爾〕「大—陸曰レ」。

〔ろ〕土山、つちやま。○〔詩〕「如レ山如レ」。

「阪二。

二おほいなり〔大〕。○〔書〕「—成二兆」。

三こゆ〔肥〕。○〔詩〕「嗣—殺孔」。

四さかんなり〔盛〕。○〔詩〕「—烈具—」。

五おほし〔多〕。○〔詩〕「—財殺賦」。

六長ず。○〔國〕「助二生—一」也。

七山の名。

〔仙息〕今さとをかと。○〔篇韻〕「—高貌」。

〔補遺〕こだかきつちやま。○〔圓〕「地不レ—」。

〔晉息〕あかえてるみんなり。○〔左〕「鍾氏其—」。

「若—」。

〔晉息〕前に同じ。○〔晉〕「又生青—」。

〔晉息〕前に同じ。○〔左〕「百切—」。

〔晉息〕前に同じ。○〔左〕「草—」。

〔晉息〕こやせをおか。○〔晉義疏〕「百歩—」。

〔晉息〕前に同じ。○〔晉〕「敵—」。

〔晉息〕たかき陵。○〔左〕「取かニ—駿—」。

〔晉息〕なかくつつまたる陵。○〔後漢〕「—」。

「帳—」。

〔晉息〕香具ともいふ、神守のこと。○〔江賦〕「卓—

山の穴。

防 ロク、ボク。盧則切 職

一地の脈、すぢ。○〔周〕「凡溝遂二地—一、謂二之不行一」。

二餘數の一こり、又、分數はした。○〔周〕「以二其圍之一〔捐二其藪一〕。

三畫

阡 シン。息晉切 眞

陵の名、なか。

阡 セン。倉先切 先

一田間の南北の通路。みち、一說に東西の通路。○〔史〕「開二—陌一」。

二墓の道。○〔杜甫〕「新—繚水遶」。

三芋に同じ。密茂せる說にいふ字。○〔楚辭〕「導二望分一—眠」。

〔晉息〕田間のみち。○〔晉義〕「不關—與」。

〔晉息〕あれはてたる田間のみち。○〔晉息〕「—」。

〔晉息〕水谷互。

〔晉息〕よくととのへる田間のみち。○〔晉義疏〕「秋宜弄花園—」。

阮 ゴツ、五忽切 月 ギ、語韋切 微

土を載ける石山。

阮 グワイ、ゲ。五回切 灰

けはしたかし〔峻〕。

阮 ギツ、ゴチ。魚乙切 質

屹に同じ、山の說にいふ字。

阯 カイ。居代切 隊

けはしさがし、陵。

阨 チ、ヂ。丈爾切 紙

なだ〔陵二飛車於車—一〕。

きし〔崖、さか〔坂〕。○〔周〕「輪已庳、則於レ馬終—古登レ—也」。

阯 シ。施是切 紙 タ、待可切 哿

ちぶる〔墟〕。○〔後漢〕「網—紀頹—」。

阯 イ。演爾切 紙

地に同じ。

地 タ、ダ。唐何切 歌

陀に同じ。○〔史〕「登二陂—一之長阪一」。

四畫

阪 キフ。詭立切 緝

階等ばしごのきだ級に通ト作る。

阬 俗の陰の字。

阬 俗の陽の字。

阱 トウ、ツ。當口切 有

崖壁の暗絕なるにいふ字、けはしそばだつ。

阨 アイ、エ。烏懈切 卦

一隘に同ト、せまし。○〔左思〕「邦有二—泆—一而瞿陶」。

二隘道、せまきみち。○〔史〕「閉〔關〕據レ—」。

阨 アク、ヤク。乙革切 陌

阨に同じ。○〔左〕「—窮而不レ慊」。

阡 シヨウ。倉歷切 靑

東西の畦かき。

阪 ハン、ホン。甫遠切 阮

一澤障、山脅、地勢傾きて險しき處、つつみ、さか。○〔詩〕「瞻二彼—田一」。

二反に同じ、そむく。○〔荀〕「二爲先聖二」。

〔晉息〕けはしきさか。○〔國〕「—の險下—」。

〔前息〕前に同じ。○〔晉語〕「下—」「而不勝—者」。

〔前息〕るかにあがり行く。○〔後漢〕「高北—」。

〔上息〕前に同じ。○〔後漢〕「—板」「且休息」。

〔山息〕やまのかはしきところ、やまさか。○〔前息〕「—高次生〔後漢書〕」。

阪 ハン、ベン 部版切 潸

つゝみ〔陂〕。

阪 カイ、ケ。火哀切 灰

穀—は笑ふ聲にいふ語。

阡 カイ、ゼ。蒲枚切 灰

かき〔牆〕。

阬 カウ、キャウ。客庚切 庚

一大いなる岡。

二あな、狹くいけ〔池〕、ほり〔壑〕、たに〔谷〕、すべて地のほれてうつろなる處の稱。○〔莊〕「在レ—落レ—」。

三ほれてうつろなる處に入るゝ、あなにす。○〔史〕「秦王之二郎鄂一、諸侯震二王生一、趙母家一、有二仇怨一、皆—レ之」。

〔金佐〕とがねのるゐ鉱をほりとるあな。○〔後漢〕長州—一論。

〔後漢〕みぞ。○〔後漢〕前に同じ。

〔後漢〕前に同じ。○〔後漢〕「—谷相—」。

〔後漢〕前に同じ。○〔後漢〕「—谷相—」。

〔後漢〕前に同じ。○〔後漢〕「—谷相—」。

〔後漢〕前に同じ。○〔後漢〕「—谷相—」。

〔後漢〕前に同じ。○〔後漢〕「—谷相—」。

〔後漢〕前に同じ。○〔後漢〕「—谷相—」。

阬 ケツ、ケチ。古穴切 屑

陵阜の窪あな。

阬 ゲン、ゴン。渠遄切 阮

山の名、關の名、國の名、人の名。

阬 ゲン、ケヲン。愚袁切 元

古の原の字。

阯 シ。諸氏切 紙

もとぬ〔基〕。○〔漢〕「頗立二產業基—一」。

阯 ヒ、膂脂切 支 ヰ、悅吏切 寘

南遊の山の名。○〔扈平〕「朝事二—之木—廟一分」。

阡 シヨ、ソ。倉呂切 語

東西の畦かき。

阱 セイ、ショウ。疾郢切 靜 ジヨウ、疾郢切 靜

穽に同じ、あな、おとしあな。○〔周〕「—擾レ杜撲」。

防 ハウ、バウ。扶方切 陽

一つゝみ〔堤〕。○〔左〕「可二厚—一」。

二ふせぎ〔限〕。○〔穀梁〕「戈レ關以爲レ—」。

三ついたて〔屏〕。○〔顏延之〕「跗·蹠滯—」。

四物事をふせぐに設けたるものゝ稱、そなへ、おほひ、まもり、さゝへ、ふせぎ。○〔國〕「不レ—川」。

○〔楚辭〕「上察二蓁而—」。

五ふせぐ。

〔い〕さゝふ〔障〕。○〔國〕「不レ—川」。

〔ろ〕おほふ〔蔽〕。○〔楚辭〕「上察二蓁而—」。

〔は〕まもる〔衛〕。○〔淮〕「陰以—レ雨」。

〔に〕そなふ〔備〕。○〔易〕「豫レ之」。

〔ほ〕さゝむ〔禁〕。○〔禮〕「興知レ—」。

六たゞひ〔比〕、一說にあたる〔當〕。○「中二房」に通ト用ふ。○〔漢〕「生二殿—內」。

〔後防〕災害をふせぐ設備をよそをふせぐ。○〔易〕「君子以思患而—之」。

〔後防〕土を盛りて水をふせぐもの、つゝみ。○〔國〕「—一—百川」。

〔後防〕ふせぐ、とゞむ。○〔國〕「—一—之制」。

〔後防〕堤防のかため。○〔史〕「—一—之制」。

〔後防〕水のもれいでざるつゝみ。○〔後漢〕「—」。

〔後防〕ふせぐ、ふせぎ。○〔後漢〕「—」。

〔後防〕關門をまもる。○〔後漢〕「—」。

〔後防〕法律禁令のこと。○〔後漢〕「—」。

〔後防〕ふせぐる防禦。○〔後漢〕「—」。

〔後防〕前に同じ。○〔後漢〕「—」。

阮 カウ。居郎切 陽

（堤防）堤塘をあつめて敵を禦ぐ。○[illegible]

防 ハウ、バウ。符況切 漾 坊に同じ。

阺 チ、ヂ。直尼切 支 さか（陂・阪）。

阳 陽に同じ。

阴 陰に同じ。

五畫

[illegible] ク、コ。況羽切 麌 はなる（離）。

[illegible] ケン、ゲン。戸畎切 銑 あな（坑）。

[illegible] テイ、チヤウ。丑貞切 庚 ㊀をか（丘）。㊁のむ（呑）。

[illegible] ハ、バ。蒲禾切 歌 陂に同じ。

阨 アク、ヤク。於革切 陌 ㊀ふさがる（塞）、かぎる（限）、へだたる、（阻）、さまたぐ（礙）、又、險巇の地。○[史]「栗二其一塞地利一」。㊁あやふし（危）、せまる（迫）、なやむ、（艱）、又、困難の窮。○[漢]「百姓仍遭二凶一一」。（阻阨）山水などのけはしくへだたること。○[illegible]「隔山河之一一」。（狹阨）狹きこと。○[illegible]「一一不レ容レ把」。（險阨）けはしくすまること。○[illegible]「且地一一」。（隘阨）（い）山路などのせまりたるをいふ。○[illegible]「所在之地一一」。（ろ）人氣などのゆるやかならざること。○[illegible]「世俗之一一」。

阸 アイ、エ。烏懈切 卦 けはし（險）、ふさがる（塞）、へだたる、（阻）、せまし（狹）、又、險阻の地。○[史]「擁二兵阻一一」。

阹 キョ、コ。去魚切 魚 山谷に依りてつくりたる牛馬の圏なり。○[司馬相如]「江河爲レ一」。

阺 テイ、タイ。丁禮切 薺 ㊀さか（阪）、をか（陵）。○[後漢]「復助レ驪阻二一一」。㊁山の傍の堆くして墮落せんとするにいふ字。○[揚雄]「響若二一隤一」。

阺 チ、ヂ。直梨切 支 ㊀をか（陵）、さか（阪）。㊁くだる（下）。㊂をさむ（理）。

阺 テイ、タイ。丁計切 霽 さか（阪）。

阻 ショ、ソ。側呂切 語 ㊀けはし（險）、かたし（難）。○[易]「德行恆簡、以知レ一」。㊁へだつ、へだたる（隔）。○[詩]「道一且長」。㊂なやむ、なやます（艱）。○[書]「黎民一飢」。㊃やむ、とゞむ（止）。○[呂氏春秋]「故非レ之弗爲一」。㊄はゞむ（沮）。○[子華]「氣一而志沮」。㊅うたがふ（疑）。○[左]「狂夫一之」。㊆よる（依）。○[呂氏春秋]「一レ邱而保レ威」。㊇たのむ（恃）。○[左]「一レ兵安レ忍」。㊈要害地、難所、又、困難場、難事。○[詩]「深二入其一一」。㊉きまり、かぎり、へだて、さまたげ。○[漢]「南山天下之一也」。（險阻）なやみ、又、けはし。○[illegible]（艱阻）艱めてさがしきこと、又、いたく（へだたる）こと。○[杜甫]「乾坤此一一」。（遐阻）遠くへだたれること。○[illegible]「遠路一一」。（天阻）天然の險阻。○[illegible]（負阻）うたがひ、又、疑ふこと。○[illegible]「大…事一一」。（疑阻）前に同じ。○[illegible]「人懷一一」。（妨阻）うまたけ、障害。○[illegible]「及レ有一一」。（峻阻）たかくけはし。○[illegible]「高…一一」。（嶮阻）前に同じ。○[魏文帝]「…一一」。新復動移二。（艱阻）くるしみ、なやみ。○[illegible]「人事一一」。

阻 ショ、ソ。莊助切 御 行くと正しからず。

阼 ソ、昨誤切 遇 サク、ザク。疾各切 藥 ㊀祭祀の主人たる者の其の場に臨むに升り行く階、堂の東方に設けられしものをいふ。○[禮]「踐レ一臨二祭祀一」。㊁天子の即位して祭祀を行ふに東階より升らるゝより寶位の義にいふ字。○[韓愈]「皇帝即レ一」。（踐阼）帝王の位にのぞみ君主の事を行ふ。○[illegible]「成王幼不レ能レ一一」。

阽 エン、オン。余廉切 鹽 あやふし（危）。○[漢]「安有下爲二天下一一危一者若上レ是」。

阽 テン。都念切 豔 くだす、くだる（下）、おとす、おつ（墜）。○[屈平]「一二余身一而危死兮、覽二余初一其猶未レ悔」。

阾 レイ、リヤウ。力井切 梗 古文の嶺の字。

阿 ア。於何切 歌 ㊀大陵、をか。○[司馬相如]「順レ一而下」。㊁曲隅、くま。○[楚辭]「陽之一」。㊂水崖、きし。○[穆天子傳]「天子飲二河水之一一」。㊃基趾、もと。○[張衡]「流二目眺二夫衡一一」。㊄かたへの高きこと。○[詩]「陟二彼一丘一」。㊅よる（倚）。○[書]「不レ惠二于一衡一」。㊆むね（棟）、のき（簷）。○[儀]「賓升二西階一當レ一東面致レ命」。㊇美なる貌にいふ字。○[詩]「隰桑有レ一」。㊈媚び從ふ、曲げて比す、またがふ、くみす、おもねる。○[左]「一二下執事一」。㊉ちかし（近）。○[史註]「一近也」。⑪細絹、きぬ。○[淮]「著二一錫一」。⑫呵に通じ用ふ。○[老]「唯之與レ一相去幾何」。（中阿）丘陵の中。○[illegible]「…一一」。（囲阿）園庭の隅、あづまや。○[illegible]「…一一」。（太阿）劍の名。○[illegible]（山阿）山のくま、山の曲がり入りたる處。○[illegible]「…一一」。（巖阿）巖の曲がり入りたる處。○[illegible]（偏阿）正しからずかたよること。○[illegible]（迎阿）人の心をむかふ。○[illegible]

（水阿）みぎは。○[illegible]之一一」。（阿阿）○[illegible]「入一一」。（[illegible]阿）月の御、一に日ふ古の御を善くしたりし人の名。○[司馬相如]「一一爲レ御」。（[illegible]阿）鬼の名。○[illegible]「一一御名也」。（[illegible]阿）たかばのをし。○[沈約]「百丈之石…」。「一一」。

阿 ア。倚可切 哿 猗に同じ、柔き貌にいふ字。○[詩]「一一儺其枝」。

阿 オク。烏谷切 屋 人を呼ぶに冠らせ用ふる字。○[古詩]「家中有二一誰一」。

阿 アツ、アチ。阿葛切 曷 一難は有名なる佛弟子。

陀 タ、ダ。徒何切 歌 陂一は、平かならざる貌にいふ語、けはし、又、衰なる貌にいふ語、かたむく。○[司馬相如]「登二陂一之長阪一兮」。（頭陀）佛語にして斗擻と譯す、僧侶の修行のこと、又、直に僧侶のことにもいふ語。○[illegible]「江…一一」。（佛陀）佛語にして覺者と譯す、佛家の教主釋迦の如きもの。○[illegible]（彌陀）阿彌陀の略、佛語にて無量光、又、無量壽と譯す、佛家淨土の教主。○[illegible]（曼陀）○[illegible]「天…」。（[illegible]陀）佛語にて覺者と譯す、ほとけ。○[illegible]（[illegible]陀）斜めなること。○[illegible]

阤 チ、ヂ。直尼切 支 崖際、きし。○[司馬相如]「…一一」。

阤 ダ、ダ。待可切 哿 陁に同じ、やぶる。○[淮]「岸崝者必一」。

陁 俗の阤の字。

陁 イ。演爾切 紙 なゝめなる貌にいふ字。

[illegible] キク、コク。居六切 屋 きし（岸）。

[illegible] アイ、エ。烏同切 限に同じ。

陂 ヒ。彼爲切 支 ㊀ためいけ（池）。○[禮]「毋レ漉二一池一」。㊁つゝみ（障）。○[書]「九澤既一」。㊂はた（傍）。○[漢]「循二一路一」。（荒陂）あれはてたるつゝみ、又、あれたるいけ。○[李白]「…一一」。（[illegible]陂）水のあをくとしたるいけ。○[杜甫]「…」。

陂 ヒ、ビ。蒲糜切 支 一池は、傍の頽るゝ貌にいふ語。

陂 ハ。通禾切 歌 ㊀一陀は、衰ふること。㊁山坡、さか。

陂 ハ、バ。蒲波切 歌 ㊀一陀は、平かならざる貌にいふ語、なゝめなる貌にいふ語。㊁さか（阪）。

陂 ヒ。彼義切 寘 かたむく（傾）、なゝめ、よこしま（邪）。○[周]「一一擊鼓」。（陂險）○[illegible]一之墨二。（[illegible]陂）たひらかなると平かならざると。○[illegible]

附 フ、ブ。符遇切 遇 つく。（い）著く。○[易]「山一二於地一」。（ろ）寄る。○[illegible]「吾一學名實一」。（は）託す。○[後漢]「更相佐一」。（に）近づく。○[淮]「一二耳之言一聞二於千里一」。（ほ）益す。○[孟]「一レ之以二韓魏之家一」。（へ）從ふ。○[淮]「百姓一」。（と）加ふ。○[國]「一レ之以二令名一」。（ち）親しむ。○[司馬相如]「以一二夷狄一」。（り）屬す。○[禮]「一二於諸侯一」。（ぬ）施す。○[禮]「一レ從レ輕」。（る）つけて祭る。○[禮]「大夫一二于士一」。
[illegible]

附 ホウ、ブ。薄口切 有 ㊀培一、峻に同じ。㊁胕に通じ用ふ。○[漢]「臣幸託二肺一一」。

附 フ。芳無切 虞 古の孚の字、卵孚、たまごかへる。

[illegible] 帥に同じ。

六畫

陊 タ、ダ。徒可切 哿 やぶる（壞）、おつ（落）、くづる（崩）。○[子虛]「一二巖上石一隨欲レ墮」。

陊 チ。池爾切 紙 くづる（崩）。

陋 ロウ、ル。盧候切 宥

●せまし。(い)狹小なり、ほそし。○[論]「在二—巷二」。(ろ)見聞の博からざるにいふ字、器量の廣からざるにいふ字。○[禮]「獨學而無レ友、則孤—而寡聞」。
●いやし。(い)容貌の劣れるにいふ字、みにくし。○[唐]「貌—心險」。(ろ)すべて物事のいやしむべくみやびやかならざるにいふ字。○[潘尼]「義近辭—」。
●ひくし。(い)たけ短し、みじかし。○[後漢]「常自恥二短—一」。(ろ)地位賤し、いやし。○[曹植]「呂尙處二屠釣一至—也」。
●疎惡なり、あらし、あし。○[宋]「衣衾器服皆擇二其—一」。
(僻陋) せまし、又、いやしき者の居る處。○[東京賦]「[illegible]」。
(孤陋) 廣く交はらずして見聞のせまきこと。○[王十朋]「[illegible]——」。
(鄙陋) いやし。○[五]「所レ謂——」。
(淺陋) 賤からざること。○[韓]「臣等聞學——」。
(醜陋) (い)醜なること。○[五]「見レ所レ辭語——」。(ろ)いやしきこと。○[鄒陽]「臣等——」。
(頑陋) 田舍の足らざること、又、文章などの意義の深からざること。○[韓]「此臣——之罪也」。
(凡陋) 凡庸なること。○[晉]「——小臣」。
(陳陋) せまし。○[梁]「宅・谷——」。
(卑陋) 卑賤なること。○[北齊]「門・族——」。
(庸陋) 身體の醜きこと。○[晉]「元自以——不營行」。
(野陋) いやし。○[漢文帝]「朕甚——」。
(朴陋) かざりなくみにくし。○[尙書故實]「——人不レ生敢」。○「鄙人——」。
(固陋) かたくなにして見聞のせまきこと。○[韓愈]「臣受性——」。○[上林]「[illegible]」。
(卑陋) 身分のいやしきこと、又、家屋などのそまつなること。○[宋]「鄙室——」。「—湖志」。
(貧陋) まづしくいやし。○[宋]「初高祖微時—」。
(簡陋) 心智などの明かならず識小なるをいふ。○[後漢]「陳以——、未二永大業二」。

陌 ハク、ヒヤク。莫白切 陌
●田間東西の通路、みち。○[史]「開二阡—一」。
●市中の街路、まち。○[後漢]「塡二接街—一」。
●帕に通じ用ふ、はちまき。○[釋名]「綃頭或曰二—頭一」。
●百に通じ用ふ。○[夢溪筆談]「今數レ錢百錢、謂二之—一、借二—字一用レ之」。
(阡陌) 東西なる道路。○[王維]「花明——春」。
(南陌) 前に同じ。○[駱賓王]「長安——」。
(紫陌) 天子の通過し給ふ道。○[徐彥伯]「——開路次二」。
(郊陌) 野路のみち。○[孟郊]「——絶行人二」。
(畝陌) あぜみち。○[任昉]「——修直」。
(阡陌) 前に同じ。○[徐幹]「——卒迷」。
(巷陌) まちのみち。○[宋誠齋]「——風輕[illegible]」。

陡 コウ、ク。戸公切 東 古送切 送
從—は、山の名。

陯 クワウ、ワウ。姑黃切 陽
みち、(陌)。

降 カウ、コウ。下江切 江
●鳥の死ぬるにいふ字、おつ。○[禮]「羽鳥曰レ—」。
●くだる。(い)下る、おる、おつ。○[書]「—レ丘宅レ土」。(ろ)敵に伏從す、したがふ。○[左]「郕—二于齊師一」。(は)おちつく、さがる、伏す。○[詩]「我心則—」。
●くだらしむ、くだす。○[國]「王—二鄭師一」。
(乞降) との やすまること。○[魏]「投—[illegible]」。
(投降) 降参を申し入る。○[晉]「投レ—[illegible]」。
(招降) 賊して降參せしむ。○[韓愈]「城陷賊以——」。
(歸降) 歸服して降參す。○[溫庭筠]「今日——」。

降 カウ、コウ。古巷切 絳
●くだる、おる、さがる。(い)下に之く。○[禮]「升—上下」。(ろ)低きに歸す。○[北]「—爲レ公」。(は)空より落つ、ふる。○[淮]「甘雨時—」。(に)後に及ぶ。○[梁昭明太子]「自レ茲以—」。(ほ)物事の上天又は君王よりの人間又は臣下に到來せるにいふ字。○[左]「饑饉荐—」。(へ)滅す。○[南]「僥壘滅—」。
●くだらしむ、おろす、さぐ、くだす（●の條參照）。○[論]「不レ—二其志一」。
(陟降) のぼりくだり、又、あがりさがり。○[詩]「文王——」。
(昇降) 前に同じ。○[歐陽修]「——揖讓」。
(登降) 前に同じ。○[左]「——有レ數」。
(下降) くだる。○[隋]「天象——」。
(殿降) 官等をくだす。○[後漢]「願黜——」。
(減降) 刑罰などの負擔をのぞきへらすこと。○[南]「——罪人二」。
(謫降) 輕處す。○[北]「所レ謫——祖訓二」。

陎 シユ、ス。市朱切 虞
—陎は、縣の名。

陊 タ、ダ。徒果切 哿
あづち、(射垛)。●崇塾、もんべや。

陊 タ。丁戈切 歌
小堆、つみつち、又、あづち、(垛堆)。

陊 タ。丁果切 哿
小阜、きし。

陮 タイ、テ。徒罪切 賄
たかし、(高)。

限 カン、ゲン。下簡切 潸
●かぎり。(い)へだて、さかへ、(阻)。○[史]「西有二濁河之—一」。(ろ)さかひ、しきり、(界)。○[釋名]「使レ不レ得レ出二竈—一」。(は)ほど、しな、(度)。○[史]「無—度二」。(に)きめ、さだめ、又、はて。○[晉]「六年之—」。「其—二」。
●かぎりをなす、へだつ、さかふ、はかる、きむ、そろふ、かぎる。○[郭璞]「—」。(ほ)なか、(中)、かなめ、(要)。○[書]「具—」。「天—內外二」。
●門檻、しきみ。○[法書要錄]「爲二門—一」。
(門限) 門のしきみ。○[雜纂]「閫——也」。
(欽限) 欽語の定數。○[晉]「[illegible]—有守」。
(賞限) 賞のきまり。○[illegible]
(無限) 際限のはて。○[illegible]
(經限) [illegible]

(分限) 分量程度。○[宋]「各有——」。
(期限) 期限のそとはいづ。○[釋名]「不敢——」。
(界限) (たて、又、へだつ。○[王粲]「河山——」。
(權限) かぎり。○[王[illegible]]「遲延——」。
(制限) きたまりのかぎり。○[劉孝威]「[illegible]——」。
(際限) 際界、さかひ。○[韓愈]「[illegible]——」。

限 ゴン。魚懇切 阮
切急なる意にいふ字、きびし。

限 コン、ゴン。胡艮切 願
かぎる、(限)。

阝共 コウ、グ。戸工切 東
あな、(坑)。

陑 ジ、ニ。如之切 支
地の名。○[書序]「升レ自レ—」。

陒 キ。過委切 紙
毀垣、やぶれがき。

陒 キ、ケ。虛宜切 支
●けはし、(險)。○[漢]「築因レ是而坻レ—」。
●やぶる、(毀)。

陓 ウ、チ。憶俱切 ウ。汪胡切 虞
楊—は、藪の名。

阝衣 イ、エ。於希切 微
さか、(阪)。

陔 カイ、ケ。古哀切 灰
●きだはし、(階)、かさね、(重)、なか、(隴)。

○[漢]「故二亳・忌泰一壇三—」。
●上天の階級。○[淮]「朝二九—之上一」。
●燕飮のをはりに奏したる一種の樂。○[儀]「賓出奏レ—」。

陷 ケン。乎吠切 霰
あな、(坑)。

陜 陽に同じ。

除 陰に同じ。

七畫

陖 シユン。私閏切 震
けはし、(險)、たかし、(高)。○[司馬相如]「徑レ—赴レ險」。

陗 セウ。七肖切 嘯
●けはし、(陖)。●きびし、(急)。●かくる、(隱)。

陯 トン。他根切 元
あな、(阬)。

陘 ケイ、ギヤウ。戸經切 青
●山地の絶坑、あな、又、山の長く延いて忽ち斷絶せる處、きれ。○[爾]「山絶—」。
●かぎり、(限)。○[水經註]「山上有レ石、銘・題言二冀州北界一、故世謂二之石銘—一」。
●さか、(阪)。○[韓愈]「蹐山窮二絶—一」。
●地の名。●山の名。●人の名。

陘 ケイ、キヤウ。古定切 徑

隘き道。○[左]「塞二海—一」。

陙 シン、ウン。食倫切 眞
小さき阜、なか。

陸 ハウ、バウ。符方切 陽
防に同じ。

陠 ブ、ム。方遇切 遇
小さき阜、なか。

陚 ブ、ム。罔甫切 麌
平原、はら。

陛 ヘイ、バイ。傍禮切 薺 ヒ、ビ。毘意切 寘
●きだはし。(い)高きに登る階。○[楚辭]「擧レ傑陛レ—」。(ろ)君王のゐます宮殿の階。○[戰]「秦舞陽奉二地圖匣一、以レ次進至レ—」。
●衆多層次の意にいふ語。○[韓愈]「蹐々——、實取實似」。
(堂陛) 正殿ときざはしと。○[晉]「增レ—及レ—」。
(丹陛) 赤くぬりたるきざはしとて朝廷のきざはしのこと。○[岑參]「曉步——」。
(朱陛) 前に同じ。○[楊炯]「——塗々」。
(飛陛) 高ききざはし。○[管輅]「——陛道」。
(階陛) きざはし。○[溫庭筠]「瑤・石陛——」。
(殿陛) 宮殿のきざはし。○[後漢]「環宿——」。
(宮陛) 前に同じ。○[鮑照]「——伊・前觀」。
(玉陛) たまのきざはしとて宮殿のきざはしをいふ。○[韋莊]「一身——」。
(瑤陛) 前に同じ。○[劉孝]「側身伏帶——」。
(天陛) 宮殿のきざはし。○[王維]「此去飛雲——」。
([illegible]陛) 前に同じ。○[白居易]「翔・舞——」。

陪 コク。苦沃切 沃 空谷切 屋

阝高 カウ、コウ。古到切 號
大いなる阜、なか。

陜 カフ、ケフ。侯夾切 洽
陿に同じ、せまし。○[司馬相如]「踰—游レ原」。

陝 セン。失冉切 琰
古の虢の國、今の河南省の一州。○[公羊]「自レ—而東者周公主レ之、自レ—而西者召公主レ之」。

陞 シヨウ。識蒸切 蒸
のぼる、のぼす、(登)。○[爾]「紫二—龍於縿一」。

陟 チヨク、チキ。竹力切 職
●のぼる、のぼす、(陞)。○[書]「汝—二帝位一」。
●すゝむ、(進)。○[書]「三考黜二—幽明一」。
●たかし、(高)。○[爾]「山三—襲—」。
(進陟) すゝめのぼす。○[北]「何足——之祖二」。
(黜陟) のぼすべからざる者をのぼす。○[宋]「[illegible]——」。
(登陟) のぼりすゝむ。○[張協]「——守位二」。
(昇陟) 前に同じ。○[水經注]「多狂舟——」。
(仰陟) あふぎのぼる。○[陸機]「——高山峻二」。
(降陟) くだるとのぼると。○[詩]「——在天」。

陡 トク。的則切 職
う、(得)。○[周]「大卜掌二三夢之法一、一日致夢、二日觭夢、三日咸—」。

阝見 ケン。胡典切 銑
かぎる、(限)。

陠 ホ、フ。普胡切 虞
なゝめ（衺）。

陠 ホ、フ。博孤切 虞 普故切 遇
㊀陠に同じ。㊁なゝめ（衺）。

陠 ホ、ブ。蒲故切 遇
舍の下。

[illegible] トウ、ツ。丁候切 宥
たかし（峻）。

陡 トウ、ツ。當口切 宥
㊀阧に同じ。○〔杜甫〕「—上振二孤—影一」。㊁にはか（頓）。

院 エン、ヰン。王眷切 霰 クワン、胡官切 寒
圏 エン、チン。委遠切 阮
㊀屋舍の周圍の垣牆、ついぢ、かき、又、垣牆を周らしたる屋舍。○〔唐〕「作二五-王—一」。㊁官廨、やくしよ。○〔唐〕「絢爲二翰林學士一夜對二禁中一燭盡以二金蓮花炬一送レ歸レ—一」。㊂浮屠の居所、てら。○〔傳燈錄〕「老僧分二中—一「與レ汝同住」。㊃道士の居所。○〔白樂天〕「看レ—止留二雙白鶴一」。㊄學者の居所。○〔方隅勝略〕「白鹿書—在二廬山一」。
〔書院〕學者の居る所。○〔宋高僧〕「—風清字畫矢台—」。〔僧院〕僧の居る所、てら。○〔韓昌黎〕「雲興—」。〔別院〕前に同じ。○〔陸游〕「—誰出林鵲二」。〔尼院〕女僧の居る所、あまでら。○〔白居易〕「—參差有院」。

陣 チン、ヂン。直刃切 震
㊀軍兵の隊列、つら。○〔呂氏春秋〕「以爲二前—一」。㊁隊列の布設、そなへ。○〔史〕「乃使二萬人先行、出背レ水—一」。㊂戰事、兵法、いくさ。○〔論〕「問二—于孔子一」。㊃すべて物事の隊列及び其の布設。○〔王勃〕「雁—驚レ寒、聲斷二衡陽之浦一」。
〔陥陣〕敵軍の陣立を攻ちやぶる。○〔史〕「—一」。〔破陣〕前に同じ。○〔詩〕「先登—」。〔陪陣〕前に同じ。○〔邢邵〕「—玄尤之—一」。〔軍陣〕いくさのそなへ（たて）。○〔漢〕「別營地陣—一」。〔戰陣〕前に同じ。○〔蘇〕「坂内散—一」。〔戍陣〕前に同じ。○〔晉〕「—一堅壯」。〔八陣〕諸葛亮の作りたるいくさの備へ（たて）。○〔晉〕「推二演兵法一作二八—一圖二」。〔臨陣〕いくさばにのぞむ。○〔蜀〕「殺—レ—佇臨」。〔文陣〕文章を戰陣に見たてゝいふ語。○〔玉堂遺事〕「擧九節筵—一雄帥一」。〔筆陣〕前に同じ。○〔韓〕「詞筆陣」。〔奇陣〕めづらしき戰陣。○〔史〕「李牧多爲二奇陳一」。〔堅陣〕破りがたき堅固なる陣たて。○〔晉〕「前後臨陣—一」。〔強陣〕前に同じ。○〔徐陵〕「野戰—一」。〔布陣〕軍隊列をつらぬ。○〔杜甫〕「布陣—之」。〔對陣〕備をたて敵陣と對抗す。○〔宋〕「恒世忠兵」。〔完陣〕健全なる隊伍。○〔邢邵〕「野戰—一」。

[illegible] イフ、オフ。乙及切 緝

—陿は、せまし。

除 チヨ、ヂヨ。直魚切 魚
㊀宮殿の陛、きだはし。○〔班固〕「玉—彤庭」。㊁門と屏との閒、には。○〔漢〕「扶レ登二—下一」。㊂のぞく。(い)去る。○〔書〕「—レ惡務レ本」。(ろ)誅す。○〔周〕「以—レ慝」。(は)芟る。○〔左〕「蔓草猶不レ可レ—」。(に)掃ふ、淸む。○〔左〕「振二—火災一」。(ほ)癒ゆ。○〔揚雄〕「病愈者或謂二之—一」。㊃算法の一、或る數を以て或る數を分割するにいふ字、わる、わりざん。○〔漢〕「法—レ之」。㊄なさむ（治）。○〔易〕「君子以—二戎器一戒二不虞一」。㊅ひらく（開）。○〔史〕「請得レ—レ宮」。㊆官に拜すること。○〔史〕「諸買二武功爵一官首者試補レ吏先—」。㊇地を掃ひたる祭場、まつりのには。○〔左〕「使三諸侯日中造二於—一」。㊈かはる（易）。○〔孟浩然〕「靑陽逼二歲—一」。
〔掃除〕塵埃を掃ひきよむ。○〔史〕「掃—一自迎」。〔芟除〕前に同じ。○〔國〕「—而已」。〔祓除〕けがれわざはひなどをはらひきよむること。○〔國〕「敢其—一」。〔蠲除〕すゝぎきよむ。○〔魏〕「實始蠲除之」。〔階除〕きざはし。○〔登樓賦〕「循—而下降」。〔丹除〕あかくぬりたる殿陛。○〔鶴林〕「地雨近」。〔修除〕修治掃除す、又、陛はのぼるながきざはし。○〔西都賦〕「—一蹊」。〔蠲除〕蠲ひのぞく。○〔禮〕「—」。〔簡除〕賦役などをのぞきて徴收せざること、のぞく。○〔晉〕「書—之」。
〔拜除〕官に拜す。○〔後漢〕「刺史太守以下—京師」。〔開除〕のぞきひらく。○〔呂林〕「—」。〔蠲除〕掃ひきよむ。○〔國〕「—」。〔屏除〕はらひのぞく。○〔唐〕「除草—」。〔剪除〕きり去る。○〔漢〕「花草雜—」。〔駆除〕前に同じ。○〔張衡〕「刑殺其中有—」。

除 ヨ。羊諸切 魚
四月のこと。○〔詩〕「日月方—」。

除 チヨ、ト。遲倨切 御
のぞく、さる（去）、ひらく（開）。○〔詩〕「日月其—」。

陥 陷に同じ。

陃 陋の本字。

[illegible] セフ。叱涉切 葉
能く行く。

八畫

[illegible] 古文の陸の字。

陪 ハイ、ベ。薄回切 灰
㊀重なる土、一説に、みつ（滿）。㊁くはふ、くはゝる（加）。○〔左〕「猶有二—一鼎」。㊂ます（益）。○〔左〕「分二之土田—敦一」。㊃かさぬ、かさなる（重）。○〔國〕「士有二—乘一」。㊄たすく（輔）。○〔史〕「以—レ朕」。㊅うしろに隨伴す、そばに闘貳す、あたがふ、さもなふ、ついづつきしたがふ、はべる。○〔淮〕「積・聲—レ後」。㊆さも、そへ、たすけ。○〔詩〕「爾德不

明、以無レ陪無レ卿」。㊇朝す。○〔爾註〕「—レ位爲レ朝」。㊈臣下の臣下、即ち天子に對して諸侯の大夫など、またげらい。○〔禮〕「—臣敢辭」。
〔追陪〕後に附き随ふ。○〔韓愈〕「—日—」。〔奉陪〕昔随從したること。○〔李群玉〕「—」。〔侍陪〕前に同じ。○〔白居易〕「—」。〔參陪〕隨從す。○〔杜牧〕「何時得—」。〔隨陪〕家臣、めしつかひ。○〔張衡〕「—」。〔屬陪〕めうへの人に随ひ侍る。○〔高適〕「何覺—」。

陫 ハイ、ベ。蒲枚切 灰
山の名。

陫 ヒ。浮鬼切 尾
いやし（陋）。

陫 ヒ。父沸切 未
かくる（隱）。

[illegible] 隣に同じ。

[illegible] セウ。之少切 嘯
㊀耕すに畝にて下の壚土（くろつち）を淺へ出だすにいふ字、一說に、休田を耕すにいふ字。㊁つゝみ（隄）、又、さかひ（界）。

陬 ソウ、ス。子侯切 尤
㊀すみ（隅）。○〔戰〕「康王之時、有レ雀生二於—城之—一」。㊁正月の稱。○〔史〕「孟—殄滅」。㊂聚まり居る、あつまる。
〔遠陬〕遠く都を離れたる所、かたゐなか。○〔晉〕「—」。
〔四陬〕前に同じ。○〔李陵〕「—」。〔荒陬〕荒れたる地。○〔韓〕「—」。〔山陬〕山の隅。○〔張説〕「—」。〔海陬〕うみべのと。○〔謝靈運〕「—」。〔蠻陬〕蠻夷の住する地。○〔晉〕「—」。〔窮陬〕前に同じ。○〔范〕「—」。〔隅陬〕かたの隅。○〔宋書〕「—」。〔邊陬〕遠く王城を離れたる地。○〔謝靈運〕「外陬」。〔窮陬〕前に同じ。○〔魏書〕「異域—」。

陬 シウ、ス。側鳩切 尤
㊀すみ（隅）。㊁鄹に同じ。○〔史〕「孔子生二魯昌平鄉—邑一」。

陭 イ。於離切 支 於希切 微 於義切 寘
キ。奇寄切 寘
㊀—氏縣は、地の名。㊁崎に同じ。○〔史〕「—嶇而不レ安」。

陭 イ。隱綺切 紙
まがれるきし。

陮 タイ、テ。都猥切 賄
—隗は、高し、平かならず。

[illegible] ライ。耶才切 灰
㊀きだはし（階）。㊁永き貌にいふ字。

[illegible] ホウ、ボウ。悲朋切 蒸
古の崩の字。

[illegible] ロン。盧昆切 元 リン。力春切 眞
おちいる（陷）。

[illegible] ロン。盧困切 願
あな（陷）。

陰 イン、オン。於今切 侵
㊀支那の易學上の用語にて萬物化育の元氣列かれて相反對の性德を有する二樣の氣となれるものゝ一、卽ち靜かなるを、形なきを、閉ぢるを、伏するを、藏まるを、柔なるをなどの性德を具するものゝ稱にいひ、地、月、秋、冬、西、北、又は、臣、妻、女などの稱となす。○〔易〕「—雖レ有レ美含レ之、以從二王事一弗二敢成一地道也、妻道也、臣道也」。㊁男女の交情、なからひ。○〔周〕「以二—禮一敎レ親則民不レ怨」。㊂雲の光を掩ふにいふ字、くもる、くもり。○〔詩〕「以—以雨」。㊃水の物に通ずるにいふ字、志める、志めり。○〔呂氏春秋〕「下得レ—」。㊄山の北、きた。○〔書〕「至二于華—一」。㊅水の南、みなみ。○〔漢〕「河東郡汾—縣」。㊆かげ。(い)ものかげ、こかげ、光のあたらざる處。○〔晉〕「高蟬處二乎高—一」。(ろ)晷影、ひかげ。○〔晉〕「大禹惜二寸—一」。(は)背後、うしろ。○〔集古錄〕「余家所レ錄漢碑—題名頗多」。㊇夜、暮、闇。○〔呂氏春秋〕「審二堂下之—一」。㊈淺黑、あさぐろ。○〔爾〕「—白雜毛」。㊉おほひ（蔭）。○〔詩〕「—靷鋈續」。⑪水の稱。○〔張衡〕「—池幽流」。⑫ひそか（私）。○〔戰〕「齊秦之交—合」。⑬おほふ（覆）。○〔漢〕「覆—」。⑭男子の勢、へのこ。○〔史〕「私求二大—人嫪毐一爲二舍人一」。⑮つる（鶴）。○〔逸周〕「墠上張二赤奕—羽一」。
〔分陰〕一分の光陰、極てすこしの時をいふ。○〔晉〕「聖人惜二寸陰一衆人當惜—」。〔沒陰〕ひかげ、氷室。○〔詩〕「三之日納二于—」。〔輕陰〕天氣のすこし曇りたること、うすぐもり。○〔王勃〕「帶二輕陰—」。〔層陰〕前に同じ、又、陰にせまる。○〔陸機〕「層—雲—」。〔樹陰〕樹木のかげ。○〔北〕「隨—一流」。〔積陰〕天の曇りて久しく晴れざること、陰氣のかさんなること。○〔蘇軾〕「夢月渡天際—一」。〔夕陰〕ゆふぐれ、たそがれ。○〔謝朓〕「庭佇來—一」。〔秋陰〕日沒したるあとの赤黄氣をいふ。○〔謝朓〕「秋食—」。〔碧陰〕碧苔、石碑のうら。○〔蘇軾〕「住名甲族」。〔月陰〕月影、つきかげ。○〔元稹〕「園開明—」。〔秋陰〕秋のくもり。○〔錦衾〕「—散白日」。〔春陰〕春のくもり、花ぐもり。○〔常建〕「郊野春—」。〔歲陰〕年の暮れ。○〔謝惠連〕「年暮改—」。〔光陰〕歲月、ひま、とき。○〔張九齡〕「静々惜—」。〔綠陰〕若葉のかげ。○〔錦伯〕「明月清溪—」。〔國陰〕純陰にして乾德なきこと。○〔繫〕「數—」。〔晴陰〕晴日くもる。○〔詩〕「—不雨」。〔至陰〕陰氣の極まれるをいふ。○〔莊〕「—」。〔柳陰〕柳木などのたゆりたるかげ。○〔何遜〕「—」。〔秋陰〕織女的の名。○〔荊楚歲時記〕「織女神名」。〔垂陰〕前に同じ。○〔歐陽修〕「佳木秀而—」。〔湖陰〕みづうみの南。○〔陸游〕「子居—」。〔川陰〕かはの南。○〔陸游〕「桃李—」。〔夕陰〕夕日かげ。○〔謝莊〕「—」。〔樹陰〕のきばのかげ。○〔韓愈〕「—」。

(芳陰) 花のかげ。〇[孫綽]「耿・餅向ニ――」。
(草陰) 樹の葉などのみどりのかげ。〇[呂覽]「玉・樹含ニ――」。
(翠陰) 前に同じ。〇[宋玉]「――生ニ夕・涼ニ」。

陰 アン、オン。烏含切 [覃]
本、闇に作る、喪の廬、いほり。〇[論]「諒――三年不レ言」。

陰 イン、オン。於禁切 [沁]
㊀おほはる、(覆)、かくる、(蔵)。〇[禮]「骨・肉斃ニ于下ニ、――爲ニ野・土ニ」。
㊁おほふ、(覆)、かくす、(蔽)。〇[詩]「既之――女、反予來赫」。

阜 フウ、ブ。房久切 [有]
盛んなり。

陠 フウ、フ。扶富切 [宥]
兩阜の閒。

陱 キク、コク。居六切 [屋]
㊀やしなふ(養)。㊁みつ(盈)。

陲 スヰ、ズヰ。是爲切 [支]
㊀ほとり、(邊)、さかひ、(疆)。〇[史]「連ニ兵於邊――ニ」。㊁あやふし、(危)。

隝 シウ、シュ。職流切 [尤]
大いなる阜の貌にいふ字。

陰 デン、テン。奴店切 [㮇]
岸上にて遇ふ。

陳 チン、ヂン。直珍切 [眞]
㊀つらぬ、つらなる、ならぶ、(列)。〇[詩]「――レ饋八簋」。
㊁しく、(布)。〇[荀]「鑽レ龜――レ卦」。
㊂のぶ、(述)。〇[國]「相――以功」。
㊃はる、(張)。〇[禮]「不レ欲レ――」。
㊄ふるし、(故)。〇[史]「――――相因」。
㊅ひさし、(久)。〇[書]「――ニ于鼓ニ」。
㊆おほし、(衆)。
㊇つら、なみ、列次。〇[史]「充ニ下――ニ」。
㊈堂下より門に至る徑、みち、即ち、賓來たり主迎へて相ならぶ處。〇[詩]「彼何人斯、胡逝ニ我――ニ」。
㊉春秋時代の國の名、舜の後裔の封ぜられし地、今の河南省の一府。〇[廣韻]「楚滅レ――爲レ縣」。
(横陳) よこさまにつらなる、又、よこたはる。〇[司馬相如]「玉・體――」。「寶――」。
(敷陳) ふきつらぬ、又、のぶ。〇[漢]「析レ理――」。
(鋪陳) まじりならぶ。〇[王褒]「劒・戟――――」。
(羅陳) ならびつらなる。〇[韓愈]「市北曾――――」。
(列陳) 前に同じ。〇[韓愈]「有レ拘不――」。
(開陳) ときのぶ。〇[漢]「――其説ニ」。
(雙陳) ふたつならぶ。〇[鮑照]「角・枕已――」。
(綿陳) つらねのぶ、又、まさならぶ。〇[白居易]「大・鶴五――」。

陳 チン、ヂン。直刃切 [震]
陣に同じ。〇[周]「如ニ戰之――ニ」。
(巡陳) 軍伍列陣をめぐりみる。〇[周]「及レ戰――」。
(方陳) 方形の陣だて。〇[漢]「以ニ萬人ニ爲ニ――ニ」。
(圓陳) 圓形の陣だて。〇[漢]「而爲ニ――外嚮」。
(偃陳) 陣列をたてなほす。〇[漢]「――如ニ頑――ニ」。
(營陳) 屯營列陣。〇[漢]「程不識正ニ部曲行伍營陳ニ」。
(兩陳) 敵と味方との陣列。〇[漢]「――相近」。
(行陳) (い)軍陣を巡行す。〇[漢]「自將ニ萬餘人ニ――」。(ろ)行伍部陣。〇[王命論]「韓信――」。
(部陳) 軍の部曲營伍。〇[後漢]「――――」。

隇 古文の域の字。

䧂 セン、ゼン。慈衍切 [銑]
水中の阜、なか。

陴 ヒ、ビ。符支切 [支]
城上の女牆、ひめがき、ついぢ。〇[左]「閉レ門登レ――」。
(守陴) 城上のかきねのりて城を守る。〇[左]「――者皆哭」。
(城陴) 城上のかき。〇[梁簡文帝]「據――之――ニ」。

陴 ヒ。賓彌切 [支] ハイ、蒲街切 [佳] ベイ。切
裨に同じ、たすく、接ぎ益す、ます。

陵 リヨウ。力膺切 [蒸]
㊀大いなる阜、をか。〇[書]「懷レ山襄レ――」。
㊁つか、(冢)。〇[國]「――爲ニ之終ニ」。
㊂天子の冢、みさゝぎ。〇[水經注]「秦名ニ天子冢ニ曰レ山、漢曰レ――」。
㊃しのぐ。
(い)かろんず、(輕)、あなどる、(侮)。〇[周]「犯レ令――レ政」。「――ニ」。
(ろ)をかす、(犯)。〇[禮]「不ニ相――ニ」。
(は)こゆ、(踰)。〇[禮]「不レ――レ節」。
(に)のぼる、(升)。〇[張衡]「――ニ重・巘ニ」。
(ほ)ふ、(歷)。〇[史]「――レ水徑レ地」。
㊄おそる、(慄)。㊅はす、(馳)。
㊆にらぐ、(淬)。〇[荀]「兵・刃不レ待レ――而勁」。
㊇けはし、(峻)。〇[荀]「凡節・奏欲レ――、而生・民欲レ寛」。
㊈陂に同じ。〇[楚辭]「――魚何所」。
㊉次第に低くなること、次第に衰ふること。〇[荀]「何則――遲」。
(丘陵) をか。〇[孟]「爲レ高必因ニ――ニ」。
(岡陵) 前に同じ。〇[詩]「如レ岡如レ――」。
(山陵) みさゝぎ。〇[國]「可以ニ――」。
(高陵) 地の名、又、たかきをか。〇[晉]「其――」。
(京陵) 極めて高き地とおほいなるをか、又、地の名。〇[左]「陽ニ――」。
(侵陵) 侵犯す。〇[後漢]「――」。
(凌陵) おとろふ。〇[漢]「日以――」。
(延陵) 天子の諸侯に陵ぎするを。〇[李白]「――」。干嶋・首之野ニ。
(鉄陵) 高き高き。〇[王勃]「山川――」。

陶 タウ、ドウ。徒刀切 [豪]
㊀丘の上に更に丘あるもの、稱、をか。〇[爾]「再成爲ニ――丘ニ」。
㊁土を燒きて器をつくること、すゑ、やき。〇[呂氏春秋]「――ニ于河・濱ニ」。
㊂土を燒きてつくりたる器、やきもの、すゑもの。〇[詩]「――復――穴」。
㊃造ること、化すること。〇[莊]「猶將レ――ニ鑄堯舜ニ者也」。
㊄養ふこと、正すこと。〇[太元元經]「資ニ――虛・無ニ」。
㊅心に悦びを感じて未だ外に發せざるにいふ字、よろこぶ。〇[禮]「――則斯詠」。
㊆心の憂ひの未だ解けざるにいふ字、うれふ。〇[書]「鬱――乎予心」。
㊇のぶ、(暢)。〇[後漢]「粳・稻――遂」。
㊈頑嚚、(かたくな)の貌にいふ字、其の情を隱匿するにいふ字。〇[荀]「――誕突盜」。
㊉騊に通じ用ふ。〇[左]「諱ニ人爲ニ皐――ニ」。
⑪綯に通じ用ふ。〇[左]「使レ爲ニ君復――ニ」。

陶 エウ。餘昭切 [蕭]
㊀相ぎ樂しむ貌にいふ字。〇[詩]「君子――――」。

㊂相隨ひ行く貌にいふ字。〇[禮]「――遂々、如レ將ニ復入ニ然」。

陶 タウ、ドウ。大到切 [號]
驅り逐ふ貌にいふ字。〇[詩]「駟・介――」。

陝 サク、シヤク。色窄切 [陌]
碎けたる石の隕つる聲にいふ字。

陷 カン、ケン。戸韽切 [陷]
㊀おちいる、おつ。
(い)地下に入る、あなに墜つ、おちこむ。〇[禮]「毋レ使ニ其首――ニ焉」。
(ろ)沒入す、ふづむ、はまる。〇[荀子]「陷レ流而不レ――」。「不レ振」。
(は)隤下す、くづる。〇[國]「上――而」。
(に)物事の少けて足らざる處あるにいふ字。〇[淮]「猶如レ――」。
(ほ)過つにいふ字、又、罪に罹るにいふ字。〇[後漢]「自――ニ重・刑ニ」。
(へ)攻め下されたるにいふ字、くだる。〇[魏]「城――、紹生ニ執洪ニ」。
㊁おさしいる、おさす。
(い)おちいらしむ、おさしこむ、ふづむ、はむ、くづす、かく（㊀の條の(い)より(に)まで參照）。〇[家語]「毀レ穽而――レ之」。
(ろ)過ちふくじらしむ、罪に罹からしむ。
(は)攻め下す。〇[史]「欲レ――レ之」。
㊂阬坑、おちいりたる處、あな、くぼみ、おさしあな。〇[史]「戰常――レ堅」。〇[淮]「汙・壑穽・――」。
(缺陷) おし損けて罪におとしいる。〇[漢]「奈何――」。
(構陷) 前に同じ。〇[晉]「――之ニ」。
(誣陷) かまへて罪なき者に罪を被らす。〇[後漢]「――太子ニ」。
(漿陷) くだけやぶる、又、くだけおつること。〇[書]「――之衍」。〇[後漢]「――」。
(攻陷) あしざまにそしりて罪におとす。〇[後漢]「共――大樹將・軍ニ」。
(誕陷) をかしあなどる。〇[魏、註]「陷ニ謝人之所ニ――」。
(破陷) 城柵などを攻めおとす。〇[魏、註]「――」。
(攻陷) 前に同じ。〇[晉]「胡・寇――陽・城ニ」。
(擠陷) 罪なき者を罪ある如くいつはりまひて罪におとしいる。〇[晉]「――太子ニ」。
(圍陷) 城塁などを攻めかこみてうちやぶる。〇
(論陷) おとろへまづみて隆盛ならざること。〇[晉]「――如レ此、豈非ニ命歟」。
(中陷) 罪にあておとす。〇[晉]「多レ所ニ――ニ」。
(擠陷) くづれやぶる。〇[宋]「即時――」。
(抗陷) 地面のくぼみおちいりたるあな。〇[晉]「凡――井穴皆有レ欄」。
(敵陷) 前に同じ。〇[呂氏春秋]「門中有ニ――ニ」。
(傾陷) くつがへしくづす。〇[宋]「朋――安石ニ」。
(枉陷) 法をまげて罪におとす。〇[宋]「遂使ニ良民――ニ」。「一無・辜ニ」。
(冤陷) 無實の罪を負はしめて罰す。〇[宋]「――」。
(顚陷) 穴などにおちいる。〇[漢]「先皆――」。
(毀陷) 前に同じ。〇[易林]「――非治ニ」。

陸 リク、ロク。力竹切 [屋]
㊀くが、をか。
(い)高くして平かなる地。〇[易]「鴻漸ニ于――ニ」。
(ろ)水ならざる路、歩むべき地。〇[周]「作レ車以行レ――」。
㊁をどる、(跳)。〇[揚雄]「飛蒙・茸而走――梁」。
㊂碌に通じ用ふ。〇[後漢]「今更共――――」。
(北陸) 星の名、又、北方のくがち。〇[後漢]「日行ニ北――ニ」。
(西陸) 星の名、又、西方のくがち。〇[張協]「白・日――――」。
(平陸) 地名、又、高低なきくが。〇[鹽鐵]「――引長・流ニ」。
(水陸) みづとくがと。〇[書]「――之饒」。
(雙陸) すごろくといふ遊戲。〇[舊唐]「――」。
(廣陸) ひろやかなる土地。〇[晉侯傳]「陽ニ于鬱――」。
(輕陸) おほはなぐり。〇[本草]「一名――」。
(旅陸) くがにすむ。〇[晉]「――」。
(登陸) くがにあがる。〇[孫綽]「――有ニ天・塞ニ」。
(孔陸) 孔香とも稱す、焚きて香氣を發するもの。〇[五]「――」。
(海陸) うみとくがと。〇[洛陽伽藍記]「――珍」。

𨺅 フウ、ブ。房九切 [有]
㊀兩阜の閒。

陞 ショウ。書蒸切 [蒸]
㊁さかんなり、(盛)。
本、昇に作る。日の升るにいふ字。

九畫

陻 イン。於眞切 [眞]
ふさぐ、ふさがる、(塞)。〇[書]「鯀――洪・水ニ」。

陼 ショ、ソ。章與切 [語]
小洲、なぎさ。〇[國]「鼉・黿之與同レ――」。

陼 ト、ツ。當古切 [麌]
㊀水中の高き處。㊁堵に同じ、かき。

陽 ヤウ。與章切 [陽]
㊀支那の易學上の語、陰の反、即ち顯れたること、開けたること、升れること、剛なることを、仁なることなどの性德あるものにて天、外、上、春、夏、東、南などの稱にいひ、又、君、男、夫などの稱にいふ字、（陰の字の㊀の條を參照）。〇[楚辭]「陰――易レ位」。
㊁ひ、(日)。〇[詩]「匪レ――不レ晞」。
㊂日の照す處、ひなた、ひむき。〇[穀梁]「日之所レ照曰レ――」。
㊃十月、かみなづき。〇[詩]「歲亦――止」。
㊄水の北。〇[詩]「在ニ洽之――ニ」。
㊅山の南。〇[周]「刊ニ――木ニ」。
㊆あきらか、(明)。〇[詩]「我朱孔――」。
㊇きよし、(清)。〇[周]「欲ニ赤黑而――聲ニ」。
㊈あたゝか、(溫)。〇[張衡]「春・日載――」。
㊉おほやけ、(公)。〇[大戴禮]「考ニ其陰――ニ」。
⑪文章ある貌にいふ字。〇[詩]「旂――――」。
⑫心を用ふる所なき貌にいふ字。〇[詩]「君・子――――」。
⑬佯に同じ、うはべ、いつはり、あらはに。〇[禮]「――若レ瞽之」。
(太陽) (い)日輪のこと。〇[楚辭]「――」。(ろ)夏のこと。〇[張衡]「冬靜、太陰、夏――」。
(朝陽) あさひ、又、山のひんがしをもいふ。〇[詩]「于彼――」。
(夕陽) ゆふひ、又、山のにしをもいふ。〇[爾]「山――」。
(青陽) 地の名、又、殿の名、又、春のこと。〇[爾]「春爲ニ――ニ」。
(昭陽) 太歲癸にあるをいふ、又、地の名。〇[爾]「高水潮――」。
(陽月) 十月のみづのとにあたりたる月。〇[爾]「十月爲レ――」。
(秋陽) あきのひかげ。〇[孟]「――以暴レ之」。
(炎陽) 夏の日、又、夏の時節。〇[曹植]「在ニ――之中・夏ニ」。
(孟陽) 正月のこと。〇[梁元帝]「正月――」。
(仲陽) 二月のこと。〇[梁元帝]「二月――」。
(韶陽) 晩春の時節。〇[張九齡]「――時ニ」。
(九陽) (い)日のこと、又、日の出づる處。〇[後漢]「――代耀」。

(ろ)山の名、又、陽氣の極陽なるにも九天のせていふ。○〔爾雅〕「且陽」、於于——」。

〔章陽〕 日本のひかり、又、秋の時節。○〔晉〕「陽——」。

—陽日暮。

〔重陽〕 (い)九月九日。○〔杜牧〕「——酒熟」。(ろ)陽陽を天と謂し天は九重あるより天のといふ。○〔屈平〕「集——入」帝宮」。

〔天陽〕 日のと。○〔韓愈〕「——〔illegible〕」。

〔陸陽〕 陸音なきの陽らずして〔illegible〕といふ時、又、地名。○〔周〕「共陸——而陰陽」。

〔陽陽〕 ゆふひ。○〔〔illegible〕〕「鳥噪——」。

〔斜陽〕 斜に同じ。○〔〔illegible〕〕「鳴叫——」。

〔朝陽〕 〔illegible〕の名、又、地名。○〔〔illegible〕〕「〔illegible〕」。

〔〔illegible〕〕 陽々の〔illegible〕、又、〔illegible〕の名。○〔〔illegible〕〕「〔illegible〕——」。

〔陽陽〕 六月のと。○〔〔illegible〕〕「六月〔illegible〕——」。

〔〔illegible〕〕 なつのひ。○〔杜甫〕「——化〔illegible〕」。

〔〔illegible〕〕 日の入る頃にいふ語。○〔〔illegible〕〕「日——」。

—〔illegible〕。

〔〔illegible〕〕 ひぐれの日。○〔王〔illegible〕〕「〔illegible〕——之初」。

〔〔illegible〕〕 前に同じ。○〔〔illegible〕〕「〔illegible〕——」。

【陽】 チヤウ、ヂヤウ。直良切 陽

われ、（予）。○〔詩〕「—如レ之何」。

【陾】 ジヨウ、ニヨウ。如乘切 蒸 ジ、ニ。如之切 支

牆を築く聲にいふ字、又、おほし、（衆）。○〔詩〕「捄レ之——」。

【隄】 ドウ、ヌ。乃后切 有

おほし、（衆）。

【陻】 陝に同じ。○〔漢〕「郡・國或磯・—」。

【隋】 シユン、ジユン。食尹切 軫

きだはし、（階）。

【隁】 エン、オン。於建切 願

本、堰に作り、亦隁に作る。

【隁】 エン、オン。隱慪切 阮

さか、つゝみ、（阪）。

【隩】 ヒヨク、ベキ。弼力切 職

㊀くづるゝ山。㊁山隊つくづる。

【隫】 タン。都玩切 翰

けはし、さかし、（險）。

【陰】 陰に同じ。

【隔】 ヒヨク、ヘキ。芳逼切 職

陜に同じ。

【隖】 エン。以轉切 銑

高き貌にいふ字、たかし。

【隃】 シユ、ス。傷遇切 遇 式朱切 虞

㊀西——は、地の名。㊁こゆ、（越）。

【隃】 ユ。羊朱切 虞

㊀人の名。○〔史〕「子毀・—立」。㊁遙に同じ。○〔左〕「—レ隙而待レ之」。

【險】 エウ。餘招切 蕭

遙に同じ、はるか、さほし。○〔漢〕「—謂レ布何苦而反」。

【陵】 ソウ、ス。蘇后切 有

あな、（阬）。

【隄】 テイ、タイ。都兮切 齊

堤に同じ、きし、つゝみ。○〔禮〕「修二利——防一」。

【隊】 テン、ヂン。持兗切 銑 タン、ダン。徒玩切 翰

(い)道の邊の庫垣、ひめがき。(ろ)家舍の周圍の墻垣、ついぢ。

〔〔illegible〕〕 〔illegible〕中のつゝみ。○〔〔illegible〕〕「〔illegible〕」。

〔柳堤〕 柳のあるつゝみ。○〔〔illegible〕〕「不〔illegible〕——」。

〔隄〕 前に同じ。○〔許〔illegible〕〕「——〔illegible〕」。

〔〔illegible〕〕 隄の〔illegible〕たるつゝみ。○〔〔illegible〕〕「——」。

—〔illegible〕。

〔〔illegible〕〕 草木などのあをあをとしげりたるつゝみ。○〔〔illegible〕〕「乃〔illegible〕——」。

〔〔illegible〕〕 つゝみの上に〔illegible〕。○〔王〔illegible〕〕「伏兵」。

【隅】 グ、ゴ。遇俱切 虞

㊀すみ。(い)隈側、かたすみ。○〔禮〕「摳レ衣趨レ—」。(ろ)部分。○〔荀〕「安知二廉恥—積一」。(は)方角。○〔淮〕「經二營四—一」。○〔呂氏春秋〕「齊之海—」。㊁きし、（崖）、ほとり、（邊）。○〔楚辭〕「我之—」。㊂かたはら、（旁）。○〔詩〕「止二于丘—一」。㊃かど。(い)端角、ではな。○〔詩〕「維德之—」。(ろ)威廉、いつ。

〔海隅〕 うみべの〔illegible〕。○〔〔illegible〕〕「至二于——〔illegible〕」。

〔城隅〕 まろのすみ。○〔詩〕「俟二我于——一」。

〔隅隅〕 物のかどすみ。○〔〔illegible〕〕「不〔illegible〕——小〔illegible〕」。

〔一隅〕 一方のすみ。○〔〔illegible〕〕「〔illegible〕——不レ以二三隅一反一」。

〔〔illegible〕〕 よすみ。○〔左思〕「〔illegible〕——」。

〔坐隅〕 坐席のすみ。○〔北〕「不レ在二〔illegible〕——」。

〔〔illegible〕〕 にはのすみ。○〔杜甫〕「夜月〔illegible〕——」。

〔〔illegible〕〕 邊境のくに。○〔〔illegible〕〕「〔illegible〕——」。

〔〔illegible〕〕 物のはしとすみと。○〔〔illegible〕〕「〔illegible〕正其——」。

【隁】 ガク。逆各切 藥

【隆】 リウ、ル。力中切 東

阜の貌にいふ字。

㊀中央の高きと、なかだか。○〔〔illegible〕〕「宛二中—一」。㊁さかんなり、（盛）。○〔禮〕「道—則從而—」。㊂おほし、（多）。○〔禮〕「頒レ食—二諸長者一」。㊃たふとし、（尊）。○〔史〕「方二—貴一用レ事」。㊄たかし、（高）。○〔史〕「—準而日角」。㊅ゆたか、（豐）。○〔荀〕「以二—殺一爲レ要」。㊆長ず。○〔漢〕「臣莽夙夜—二就爵—子一」。㊇あつし、（厚）。○〔後漢〕「使二後世不レ見二—薄進退之際一」。㊈雷の聲にいふ字。○〔漢〕「—如二雷聲一」。㊉隆に同じ。○〔司馬相如〕「穹—雲〔illegible〕」。

〔豐隆〕 いかづち（雷師）とも、又、雨師ともいふ。○〔〔illegible〕〕「〔illegible〕——」。

〔高隆〕 たかし。○〔〔illegible〕〕「〔illegible〕——」、「世不〔illegible〕」。

〔〔illegible〕〕 低きと高きと、又、盛んなると衰ふると。○〔〔illegible〕〕「〔illegible〕——」。

〔〔illegible〕〕 前に同じ。○〔〔illegible〕〕「人〔illegible〕——」。

〔〔illegible〕〕 やはらぎて盛んなると。○〔〔illegible〕〕「王〔illegible〕——」。

〔〔illegible〕〕 く〔illegible〕とたかきと。○〔〔illegible〕〕「——〔illegible〕」。

〔〔illegible〕〕 高大の貌にいふ語。○〔〔illegible〕〕「〔illegible〕——」。

〔〔illegible〕〕 さかんなると。○〔〔illegible〕〕「〔illegible〕——」。

〔〔illegible〕〕 ますますさかんなると。○〔〔illegible〕〕「〔illegible〕——」。

〔〔illegible〕〕 極めてさかんなると。○〔〔illegible〕〕「〔illegible〕——」。

〔〔illegible〕〕 ゆたかにしてうすからず。○〔〔illegible〕〕「〔illegible〕——」。

【隇】 ヰ。於非切 微

—陜は、險阻なるとゝ。

【隈】 ワイ、エ。烏恢切 灰 烏韻切 隊

㊀くま。(い)水の岸に曲がり入りたる處。○〔進〕「曲—深—潭」。(ろ)山の内に曲がり入りたる處。○〔管〕「大山之—奚有二於深一」。(は)隱れてあらはれざる處、いりこみたるところ。○〔左〕「過二析—一」。㊁方隅、すま。○〔魏都賦〕「考二之四—一」。㊂股間、また。○〔莊〕「奎蹏曲—」。㊃弓の曲がれる處、さり、うち、弓淵。○〔儀〕「大射正執レ弓以レ袂順二左右—一」。

〔山隈〕 やまのがけぎは。○〔〔illegible〕〕「〔illegible〕之—」。

〔〔illegible〕〕 岩のがけ。○〔皮日休〕「〔illegible〕——曲」。

〔〔illegible〕〕 たにがはのくま。○〔〔illegible〕〕「〔illegible〕——」。

【隉】 ゲツ、ゲチ。五結切 屑

㊀あやふし、（危）、あし、（凶）。○〔書〕「邦之杌—」。㊁法度、のり。○〔說文〕「隉—法度也」。

【隊】 タイ、デ。徒對切 隊

隊列の部分の稱、くみ、わかち。○〔司馬相如〕「車按レ行、騎就レ—」。

〔〔illegible〕隊〕 騎兵の部隊。○〔〔illegible〕〕「——非〔illegible〕」。

〔〔illegible〕隊〕 前に同じ。○〔晉〕「——五在レ左」。

〔〔illegible〕隊〕 軍の先頭に進む隊伍。○〔〔illegible〕〕「——」。

〔部隊〕 軍の部曲隊伍のと。○〔宋〕「——相〔illegible〕」。

〔〔illegible〕隊〕 隊伍を察檢す。○〔後漢〕「——〔illegible〕部」。

〔〔illegible〕隊〕 〔illegible〕を隊列に編みたるもの。○〔〔illegible〕〕「〔illegible〕」。

〔〔illegible〕〕 —〔illegible〕、〔illegible〕——在レ前」。

〔〔illegible〕隊〕 歩兵の隊伍。○〔〔illegible〕〕「〔illegible〕——七百人」。

〔伏隊〕 伏兵の隊列。○〔宋〕「在——後」。

〔全隊〕 一隊のこらずをいふ。○〔宋〕「其法——〔illegible〕」。

【隊】 ツイ、ヅイ。直類切 寘

おつ、おとす。○〔禮〕「上如レ抗下如レ—」。

〔〔illegible〕〕 隊伍をくみたつ。○〔〔illegible〕〕「——〔illegible〕」。

〔〔illegible〕〕 隊列を齊整せさると。○〔〔illegible〕〕「〔illegible〕——」。

〔後隊〕 あとぞなへの隊列。○〔〔illegible〕〕「兵吏〔illegible〕——」。

〔〔illegible〕隊〕 勝負のわれ。○〔〔illegible〕〕「——〔illegible〕」。

【隊】 スヰ、ズヰ。徐醉切 寘

㊀くみ、（部）。○〔漢〕「分爲二六—尉六—一」。㊁隧に同じ。○〔穆天子傳〕「鈃山之—」。

【隊】 タイ、デ。杜罪切 賄

むれ、（羣）。

【隋】 タ、ダ。徒果切 哿

㊀肉を裂く、さく。㊁おつ、（落）。㊂祭りの餘物を埋む、うづむ。㊃圜くして長き形にいふ字、橢圓。○〔詩〕「—翌日レ斧」。㊄垂れ下がる、たる。○〔史〕「莚・藩四有二—一星五一」。㊅おこたる、（懈）。

【隋】 スヰ、ズヰ。旬爲切 支

㊀春秋の國の名。○〔戰〕「珍寶—珠」。㊁紀元千二百四十九年より千二百七十八年まで支那を支配せし朝の名。○〔轉注古音〕「楊堅改レ隨爲レ—」。㊂肉を裂く、さく。

【隋】 スヰ。宣隹切 キ。縣規切 支

㊀祭りの食。㊁血を搾む、ちぬる。○〔周〕「贊レ—」。

【隋】 タ。土禾切 歌

㊂やぶる。○〔晉〕「—二其前言一」。

中高く四方の下きと、なかだか。

【隫】 キ。呼恚切 寘 スヰ。思累切 紙

神前にて灌ぐに用ふる器の名。○〔周〕「既祭則藏二其—與二其服一」。

【隌】 アン、オン。烏感切 感 イン、オン。於金切

くらし、（闇）。

【隐】 於禁切 沁

【隍】 クワウ、ワウ。胡光切 陽

水なき城池、城下の坑、からほり。○〔易〕「城復二于—一」。

【隘】 エイ、ヤウ。爲命切 敬

〔城隍〕 まろのからほり。○〔〔illegible〕〕「——〔illegible〕」。

〔〔illegible〕隍〕 まろのかまとほりと。○〔〔illegible〕〕「——」。

〔〔illegible〕隍〕 城池のと。○〔金〕「〔illegible〕之——」。

〔〔illegible〕隍〕 前に同じ。○〔〔illegible〕〕「〔illegible〕——」。

〔〔illegible〕隍〕 あさからざる城池。○〔〔illegible〕〕「〔illegible〕」。

〔〔illegible〕隍〕 前に同じ。○〔水經注〕「——〔illegible〕」。

【階】 カイ。古諧切 佳

㊀きざはし、（陛）。○〔書〕「舞二干羽于兩—一」。㊁はしご、（梯）。○〔禮〕「狄—人設レ—」。㊂きだ、（級）。○〔水經注〕「壁・岸無レ—」。㊃物事の由る所。○〔詩〕「誰生二厲—一」。㊄上り進む、すゝむ。○〔禮〕「不レ得レ—主」。㊅等位、しな。○〔唐〕「有レ勳有レ—」。

〔〔illegible〕階〕 みたれのもと。○〔〔illegible〕〕「〔illegible〕」。

〔〔illegible〕階〕 きざはし。○〔〔illegible〕〕「〔illegible〕——」。

〔〔illegible〕階〕 三公のは。○〔〔illegible〕〕「——〔illegible〕」。

〔〔illegible〕階〕 にはのきざはし。○〔〔illegible〕〕「〔illegible〕——」。

—耳」。

〔土階〕 つちをもりてきづきたるきだはし。○〔〔illegible〕〕「——三等」。

〔〔illegible〕階〕 〔illegible〕。○〔白居易〕「自〔illegible〕以上〔illegible〕之——」。

〔〔illegible〕階〕 階を躐ぎこゆると。○〔〔illegible〕〕「〔illegible〕——」。

者智人者」。

〔〔illegible〕階〕 一段のきだはしに席ブラのせて踏む。○〔〔illegible〕〕「〔illegible〕——而上」。

〔石階〕 いしだん。○〔白居易〕「——〔illegible〕」。

〔〔illegible〕階〕 こけのむしたるきざはし。○〔〔illegible〕〕「——〔illegible〕」。

〔〔illegible〕階〕 かけみちののぼりだん。○〔〔illegible〕〕「——〔illegible〕」。

〔〔illegible〕階〕 あれはてたるきざはし。○〔杜甫〕「——生」。

〔〔illegible〕階〕 ちりはとりあるきだはし。○〔〔illegible〕〕「〔illegible〕——」。

〔〔illegible〕階〕 宮殿のきざはし。○〔〔illegible〕〕「——〔illegible〕」。

【隺】 ケン。去術切 〔illegible〕

—隺は、小塊、小さきつちくれ。

【隫】 カイ、ケ。居拜切 卦

堺に同じ、さかひ、（境）。

【陿】 サフ、セフ。倉夾切 洽

峒岫の峽狹なるにいふ字、けはし。○〔張誠〕「幽—陰—」。

十畫

【隁】 阸、又、隘に同じ。

【隑】 カイ。柯開切 灰

㊀はしご、（梁）。○〔方言、註〕「—レ物而登」。

㊁—企は、つまだつ、又、脚壁へて行く能はざる貌にいふ語。○[揚雄]「—企立也、東齊海岱北燕之郊、委痿謂二之—企一」。
㊂ながし（修）。

隑　キ、ゲ。渠希切　微
曲がれる岸、きし。○[史]「曲江之—州」。

隑　カイ、巨代切　隊　カイ、ガイ、ゲ。五亥切　賄
㊀はしご（梯）。㊁さか（倚）。

隒　ゲン。魚檢切　琰
㊀山岸、水岸、きし。○[郭璞]「厓—爲レ之朒·軫」。
㊁方形けた。

⿰阝旁　ハウ、バウ。蒲浪切　漾
かたはら（傍）、ちかし（近）。

⿰阝旁　ハウ、ビヤウ。蒲庚切　庚
車の聲にいふ字。

隚　タウ、ダウ。徒郎切　陽
つゝみ（隄）。

⿰阝匪
陫に同じ。

隟
隉に同じ。

隓　キ。許規切　支
すたる（廢）、やぶる（毀）、そこなふ（損）。

隋　タ、ダ。杜果切　哿
陊に同じ。

⿰阝沓　タフ、トフ。託合切　合
ひくし（墊）。

⿰阝馬　バ、メ。莫駕切　禡
㊀ます（益）。㊁たくみ（巧）。

⿰阝馬　フウ、ブ。房久切　有
㊀馬の盛んなるにいふ字。㊁ます（益）。

隔　カク、キヤク。古核切　陌
㊀へだつ。
（い）障塞す、ふさぐ、ふさぎる、せく、さゝふ、さゝへぎる。○[史]「防二—内-外一」。
（ろ）遠ざく。○[晉]「被二疏—一」。
㊁障塞せらる、ふさがる、せかる、遠ざかる、へだたる、へだたろ。○[韓愈]「日—之疏」。
㊂へだて、ふきり。○[戰]「秦無二韓魏之—一」。
㊃あはひ、へだたり。○[唐]「無二九-重之—一」。
（杜隔）ふさぐ、又、ふさがりへだたる。○[後漢]「—不レ得レ通」。
（分隔）わけへだつること。○[後漢]「—[illegible]其國一」。
（疏隔）うとんじてちかづけず。○[登樓賦]「路[illegible]鄕之—[illegible]兮」。
（懸隔）遠くかけへだたること。○[晉]「江山—[illegible]」。
（修隔）前に同じ。○[[illegible]]「山川—[illegible]」。
（阻隔）前に同じ。○[[illegible]]「東西—[illegible]」。
（睽隔）前に同じ。○[傅休奕]「[illegible]—[illegible]會無」。
（遠隔）前に同じ。○[[illegible]]「[illegible]鄕之—[illegible]」。
（遐隔）前に同じ。○[[illegible]]「山川—[illegible]」。
（逈隔）前に同じ。○[李白]「雲-漢一去已—[illegible]」。
（永隔）ながらく接近せず。○[[illegible]]「[illegible]母子之—[illegible]」。
（離隔）はなしへだつ、又、はなる。○[陶潛]「[illegible]」「復何有」。
（乖隔）はなれそむきて合一せず。○[韓愈]「分[illegible]—[illegible]」。
（間隔）へだたる、又、離れへだたる。○[陶潛]「異-外人—[illegible]」。

隕　ヰン、ウン。于敏切　軫　ウン、チン。王問切　問　ヰン。于倫切　眞
㊀おつ、おとす（墜）。○[易]「有レ—自レ天」。
㊁うす、うしなふ（失）。○[孟]「亦不レ—厥問一」。
㊂やぶる（壞）。○[淮]「景-公-[illegible]—」。
（失隕）うしなふ。○[左]「弗敢—[illegible]」。
（灰隕）花などの早く凋み落つること。○[殷仲文]「[illegible]—[illegible]」。
（飛隕）飛び落つ。○[[illegible]]「[illegible]之—[illegible]」。
（沈隕）くだり落つ。○[[illegible]]「其—[illegible]而[illegible]」。

隕　エン、チン。王權切　先
ひさし（均）。○[詩]「幅—既長」。

隖　ヲ、ウ。安古切　麌
㊀塢に同じ、村の小堤、つゝみ、こどて。○[樹萱錄]「花-卜-藥-畦」。
㊁こどろ（庳城）、とりで（壁壘）。○[後漢]「卓築二萬歲—一積二金穀一爲二三十年儲一」。
（村隖）村落の障塞。○[[illegible]]「[illegible]—[illegible]」。
（城隖）[illegible]の壁壘。○[後漢]「[illegible]—[illegible]」。
（後隖）前に同じ。○[晉]「[illegible]—[illegible]」。
（煙隖）霧烟にこめられたる村落。○[王禹偁]「水村—[illegible]」。

隖　ヲ、ウ。烏故切　遇
さゝふ（障）。

隗　グワイ、ゲ。五賄切　賄
けはし、たかし。○[揚雄]「峻-嵬—峗其相嬰」。

陸
[illegible]に同じ。

隘　アイ、エ。烏懈切　卦
㊀せまき路、けはしき地。○[戰]「塞二—阨一」。
㊁せまし（陜）。○[詩]「置二之—巷一」。
㊂いやし（陋）。○[禮]「君子以爲レ—矣」。
㊃きびし（急）。○[荀]「致二食—一」。
（[illegible]隘）狹きこと。○[詩、註]「[illegible]地—[illegible]」。
（險隘）地の險狹にして狹きこと。○[元好問]「[illegible]苦—[illegible]」。
（險隘）險阻にしてせばし。○[國[illegible]]「山林—[illegible]」。
（迫隘）前に同じ。○[[illegible]]「攻—[illegible]之國」。
（褊隘）性質などの偏狹にして寬大ならざること。○[[illegible]]「弘度—[illegible]」。
（[illegible]隘）山脈などの高くけはしくして坦平ならざること、又、性質などのきびしくして寬大ならざるをいふ。○[晉]「王由率性—[illegible]」。
（窮隘）困窮して[illegible]の甚なること。○[南]「住甚—[illegible]」。
（塡隘）物の滿ち塞がりて通せざること。○[[illegible]]「門-巷—[illegible]」。
（困隘）艱苦のこと。○[新序]「富-貴—[illegible]之時」。

隘　アク、ヤク。乙革切　陌
阨に同じ、ふさぐ。○[戰]「太子辭二於齊王一而歸、齊王—レ之」。

隙　ケキ、キヤク。綺戟切　陌　キヤク。綺略切　藥
㊀ひま。
（い）物の間の透きたる處、すきま、すき、穿穴、裂孔。○[禮]「若二駟之過レ—一」。
（ろ）間際、あはひ。○[史]「居二雍—一」。
（は）閒暇、てすき。○[左]「皆於二農—一以講レ事」。
（に）怨仇、なかたがひ。○[史]「與二沛公一有レ—」。
（ほ）敵爭、あらそひ。○[漢]「開二邊—一」。
（へ）機會、をり。○[漢]「窺レ閒伺レ—」。

㊁つゞく（際）。○[漢]「北—二烏-丸-夫-餘一」。
（過隙）時の推移をすぐると、即ち、光陰の移ると甚かなるに喩へていふ語。○[[illegible]]「[illegible]—[illegible]」。
（[illegible]隙）[illegible]おこたりて[illegible]なきあひた。○[[illegible]]「[illegible]—[illegible]」。
（間隙）[illegible]のあな。○[[illegible]]「[illegible]—[illegible]」相[illegible]。
（穴隙）[illegible]のあな。○[[illegible]]「以[illegible]—[illegible]之[illegible]」。
（有隙）相和せずして仲のあしきこと。○[史]「今[illegible]」「[illegible]—[illegible]」。
（[illegible]隙）[illegible]のさけあな。○[史]「[illegible]」。
（曠隙）土地のあれはてゝ耕作を加へざる處。○[宋]「曠土多—[illegible]」。
（作隙）仲らひ[illegible]しきこと。○[蘇軾]「[illegible]—[illegible]」。
（[illegible]隙）すきあるにつけいる。○[[illegible]]「[illegible]—[illegible]」。
（[illegible]隙）[illegible]のすきあな。○[[illegible]]「[illegible]之[illegible]也[illegible]—[illegible]」。
（[illegible]隙）すきま。○[江淹]「[illegible]—[illegible]」。
（[illegible]隙）すきま、又、ひま。○[李白]「[illegible]入之—[illegible]」。
（[illegible]隙）前に同じ。○[[illegible]]「[illegible]—[illegible]」。
（[illegible]隙）前に同じ。○[[illegible]]「[illegible]—[illegible]」。
（[illegible]隙）前に同じ。○[宋]「[illegible]—[illegible]」。
（[illegible]隙）すきま。○[[illegible]]「[illegible]—[illegible]」。
（小隙）すこしのあな、又、すこしのひま。○[[illegible]]「[illegible]—[illegible]」。
（[illegible]隙）すきまをふさぐ。○[[illegible]]「[illegible]—[illegible]」。
（[illegible]隙）あらそひ怨りて相和せず。○[[illegible]]「[illegible]—[illegible]」。
（壁隙）かべのすきま。○[[illegible]]「在[illegible]—[illegible]」「中」。
（孔隙）あな。○[[illegible]]「[illegible]若[illegible]—[illegible]」。
（[illegible]隙）前に同じ。○[[illegible]]「[illegible]—[illegible]」。

隙　コ、ク。綺路切　遇
ひま、すきま。○[韓]「牆之壞也、必通レ—」。

隸　ライ、レ。力罪切　隊
—」。

⿰阝卒　シユツ、シユチ。雪律切　質
おほくのこいし（磊）。
くづる（頽）。

陪　ハイ、ベ。蒲回切　灰
陪に同じ。

十一畫

⿰阝朋
堋に同じ。

⿰阝專
塼に同じ。

隁　エン、オン。於建切　願
堰に同じ。○[後漢]「偃立レ—」。

隝
鄢に同じ。

⿰阝斬　サン、セン。士陷切　陷
あな（陷）。

⿰阝崔　サイ、セ。倉回切　灰
崩隤す、くづる。

⿰阝崔　スヰ。遵綏切　支
高く大いなる貌にいふ字。

陮　タイ、デ。杜罪切　賄
陮に同じ。

隟
俗の隙の字。

⿰阝康　カウ。苦岡切　陽
むなし（虛）。

隰
隰に同じ。

⿰阝堂　タウ、ダウ。徒郎切　陽
殿基、いしずゑ。

際　セイ、サイ。子例切　霽
㊀あひ。
（い）ものとものとの間、あはひ、あひだ。○[易]「天-地—也」。
（ろ）合會、あひめ。○[漢]「詩有二五-—一」。
（は）機會、をり、ふほ。○[淮]「解二—天-地一」。
㊁ほとり（邊）。○[易]「天-—翔也」。
㊂きは（畔）。○[晉]「端—不レ可二得見一」。
㊃かぎり（限）。○[莊]「與レ物無レ—」。
㊄かた（方）。○[晉]「鼓二洪-流于八-—一」。
㊅つゞく（接）。○[爾]「—、接-殺、捷也」。
㊆まじはる（交）。○[唐]「不レ諧二—人-事一」。
㊇あふ（會）。○[淮]「與レ道爲レ—」。
㊈いたる（至）。○[呂氏春秋]「奇-怪之所レ—」。
（交際）まじはる、まじはり。○[晉、傳]「兩相—[illegible]」。
（雲際）くものさは。○[陳子昂]「古木生二—一」。
（日際）太陽のほとり。○[何遜]「—[illegible]」。
（涯際）はて、かぎり。○[[illegible]]「[illegible]—[illegible]」。
（實際）前に同じ。○[晉]「[illegible]々而無[illegible]」。
（邊際）はて、はとり。○[孟浩然]「水[illegible]—[illegible]」。
（分際）わけめ。○[史]「明二天人之—一」。
（水際）みづのはとり。○[歐陽修]「竹[illegible]—[illegible]」。
（海際）うみのはとり。○[[illegible]]「[illegible]—[illegible]」。
（[illegible]際）物のきはまり、はて。○[[illegible]]「本[illegible]—[illegible]」。

障　シヤウ、之亮切　漾　サウ。諸良切　陽
㊀かゝふ（捍）、おほふ（蔽）、ふせぐ（防）、さへぎる、さゝふ。○[呂氏春秋]「不レ能レ—」。
㊁ふさぐ（塞）、さかふ（界）、へだつ（隔）。○[呂氏春秋]「—二其源一」。
㊂おほはる、さゝはる、へだたる、ふさがる。○[晉]「令而不レ行謂二之—一」。
㊃あぜみち（畛）、つゝみ（隄）。○[漢]「陂—卑下」。「亭—一」。
㊄とりで（堡）、まもり（衞）。○[史]「築二[illegible]—一」。
㊅かきつ、いち、又、ついたて、屏風。○[唐]「[illegible]雖大—一」。
㊆さかひ、ふきり、へだて、かぎり。○[後漢]「陵レ海越レ—」。
㊇おほひ、さゝへ、さはり。○[晉]「香有二慾—一」。
（屏障）屏風ついたてなどすべて内外の[illegible]をなるもの。○[[illegible]]「[illegible]—[illegible]」。
（保障）扞蔽たるべきまもり。○[[illegible]]「[illegible]—[illegible]」。
（步障）塵ばりのかこひ。○[晉]「[illegible]—[illegible]」「十里」。
（[illegible]障）人を明れて屏風に代へたるもの、即ち、[illegible]。○[[illegible]]「[illegible]—[illegible]」。
（堤障）水勢をふせぐ堤防のこと。○[宋]「[illegible]—[illegible]」。
（[illegible]障）扞蔽たるべき城塞など。○[[illegible]]「[illegible]—[illegible]」。
（土障）つちを築きてつくりたる屏障。○[[illegible]]「[illegible]—[illegible]」。
（[illegible]障）[illegible]の城塞。○[[illegible]]「[illegible]—[illegible]」。
（[illegible]障）[illegible]。○[[illegible]]「[illegible]—[illegible]」。
（孽障）佛家の語にてあしき所行より生ずるつみのさはり。○[[illegible]]「[illegible]—[illegible]」。
（業障）罪行のさはり。○[[illegible]]「[illegible]—[illegible]」。
（錦障）にしきの屏風ついたて步障などをいふ。○[[illegible]]「[illegible]—[illegible]」。
（守障）城塞を護る。○[[illegible]]「[illegible]—[illegible]」。

⿰阝頃　ケイ、キヤウ。去營切　庚　犬穎切　梗

㊀かたむく(仄)。㊁あやふし(危)。㊂ふす(伏)。㊃そばだつ(欹)。

【陋】ロウ、ル。落侯切 尤　ロウ、ル。郎口切 有　ロ、ル。力主切 麌
縣の名。

【⻖島】タウ、トウ。覩老切 皓
水中の山、しま。

【⻖鳥】テウ。丁了切 篠
㊀隝に同じ。㊁前條に同じ。○[後漢]「化我一一梟鳴二[所-生]二」。

【⻖庸】ヨウ、ユ。餘封切 冬
墉に同じ、城牆、かき。

【⻖區】ク、コ。豈俱切 虞
そばだつ(敧)、又、安からざる貌にいふ字、あやふし。○[漢]「至虞陘一一河洛之閒二」。

【⻖區】オウ、ウ。烏侯切 尤
一嵎は、深く下れる貌にいふ語。

【陛】ヘイ、ハイ。邊兮切 齊　ヒ、ビ。部比切 支
罪人を拘ふる所、ひとや。

【隞】ガウ、ゴウ。牛刀切 豪
地の名。○[史]「仲丁遷二于一一」。

【隟】古文の隙の字。○[晉]「則一不レ計」。

十二畫

【⻖無】ブ、ム。武扶切 虞
弘農の陝の東陬。

【⻖菐】ホク、ボク。博木切 屋
彭一は、蠻夷の國の名。

【⻖皐】カウ、ゴウ。胡刀切 豪
㊀たに(谿)。㊁城の下の道。

【⻖爲】キ。許僞切 寘　于僞切 寘　ヰ。于軌切 紙
鄭の地にある阪。

【⻖絕】セツ、ゼチ。子悅切 屑
へだつ(隔)。

【⻖需】ジ、ニ。如之切 支
けはし(險)。

【隣】俗の鄰の字。

【⻖朁】シン、ゾン。士禁切 沁
おちいる(墜)。

【隤】タイ、デ。杜回切 灰
㊀くだす、くだる(降)。○[揚雄]「發レ祥一レ祉」。㊁壞れて隊下す、くづる、又、壞りて墜下せしむ、くづす。○[司馬相如]「一レ牆塡レ塹」。㊂柔き貌にいふ字。○[易]「夫坤一然示二人簡一矣」。㊃順ふ貌にいふ字。○[禮註]「一一然」「順矣」。
(虺隤) 馬の疲れ病むをいふ語。○[詩]「我馬一一」。
(頹隤) 水の平らかならざるをいふ語。○[木華]「[illegible]一一」。
(毀隤) くづれおつ。○[illegible]「[illegible]之一一」。
(委隤) つまづく。○[illegible]「日一一」。

【⻖貴】穨に同じ。

【隥】トウ。都鄧切 徑
㊀險阪、けはしきさか。○[穆天子傳]「天子南還升二於長松之一一」。㊁梯隥、きだ。○[李百藥]「玄武疏二遊一一」。㊂あふぐ(仰)。

【⻖尋】ジン。徐林切 侵
小さき阜、をか。

十三畫

【⻖楚】ショ、ソ。剏所切 語
さか(阪)。

【⻖豦】キヨ、コ。求於切 魚
きだはし(階)。

【⻖義】ギ。語綺切 紙
巇に同じ。

【⻖業】ゲフ、ゴフ。魚怯切 葉
けはし(險)、あやふし(危)。

【⻖業】ヒフ、ホフ。北及切 緝
匡の嶮しき貌にいふ字。

【⻖解】カイ、ゲ。胡買切 蟹
小溪、ちひさきたに。

【⻖辟】ヘイ、ハイ。普米切 薺　ヒ、ビ。避支切 支
一埤は、女牆、ひめがき。

【⻖卷】ケン、コン。其偃切 阮
おごる(倨)。

【⻖詹】セン。昌豔切 豔　サン、ゼン。仕陷切 陷
おちいる(陷)。

【隧】スヰ、ズヰ。徐醉切 寘
㊀墓道、はかみち、つかみち、すべて地を穿ちたる通路の稱、あなみち。○[左]「闕レ地及レ泉、一而相見」。㊁徑路、みち、こみち。○[詩]「大風有レ一」。㊂めぐる(轉)、まはる(回)。○[莊]「若二磨石之一一」。
(門隧) 門の出入のみち。○[illegible]「出入不レ當二一一」。
(丘隧) つかと墓道と。○[周]「以度爲二丘一」。
(埏隧) はかみち。○[潘岳]「一一既敞」。
(畜隧) 前に同じ。○[水經註]「列於一一」。
(巖隧) 山あひなどのほそみち。○[莊]「山無二一一」。
(險隧) 險難のみち。○[管]「踏險之一一者」。
(出隧) 關の一種。○[illegible]「一一[illegible]」。
(棧隧) 事上險要の處に設けたる城のみち。○[illegible]「[illegible]一一而[illegible]兮」。

【隊】ツヰ、ヅヰ。直類切 寘
墜に同じ、おつ、おとす。○[漢]「オレ一如レ髮」。

【⻖邃】スヰ。雖遂切 寘
邃に同じ、おくふかし。○[周]「以爲レ一」。

【隨】スヰ、ズヰ。旬爲切 支
㊀したがふ。

(い)つく(從)。○[詩]「無レ縱二詭一一」。(ろ)よる(順)。○[書]「一レ山刊レ木」。㊁易の卦の名、☳☱震下兌上。○[易]「一元亨」。「其一二」。㊂あし(趾)。○[易]「艮二其腓一、不レ拯二其一一」。㊃正しく前面に向ひたる前足に後足の正しく横に接せるものゝ稱。○[禮]「其閒容レ弓、距レ一長武」。
(自隨) 人の後よりなへめにつき從ひ行く。○[illegible]「驅行[illegible]一一」。
(追隨) 遂ひ從ふ。○[杜甫]「欲レ此敬一一」。
(參隨) (い)參差調和なること。○[後漢]「仁厚一一」。(ろ)首伸する能はず。○[七發]「四支一一」。(は)道路の迂遠なるにいふ語。○[王褒]「[illegible]一一」。
(委隨) むらがりてつきまたがふ。○[illegible]「[illegible]一一」。

【隨】サ、ザ。旬禾切 歌
人の名。○[論]「季一季騧」。

【隋】橢に通じ用ふ。○[淮]「有レ所レ一」。

【隩】アウ、オウ。烏到切 號
㊀くま(隈)。○[爾]「厓内爲二浦一一」。㊁かくす、かくろ(隱)。○[莊]「弱二於德一、強二於物一、其塗一矣」。
(隈隩) みづぎし。○[張衡]「一一之窮」。
(隅隩) くま、すみ。○[郭璞]「[illegible]一一」。

【隩】イク、オク。於六切 屋
㊀澳に同じ、くま。○[廣韻]「水内曰レ一」。㊁居るべき土。○[書]「四一既宅」。㊂いへ(室)、一說に、あたゝか(煖)。○[書]「厥民一」。

【⻖懇】コン。口很切 阮
おそし(遲)。

【險】ケン。虛檢切 琰
㊀けはし、あやふし。(い)行くに危し、さがし、たかし。○[漢]「巴蜀道一」。(ろ)爲すに危し、なやまし、むつかし。○[易註]「大亨則無レ一」。(は)性情の邪惡にして危害多きにいふ字、よこしま、あし。○[書]「起レ信一膚」。㊁けはしき處、あやふき事、よこしまなる者。○[史]「在レ德不レ在レ一」。㊂やぶる(傷)。○[周]「疾一一レ中」。㊃ひらたくひろし(偏・弁)。○[周]「一蠅大而一」。㊄くぼくしてうすし(汙・薄)。○[爾]「一一瞥斂」。
(天險) そら高し、又、地の天然にけはしきこと。○[illegible]「[illegible]之[illegible]」。
(設險) けはしき場所をつくる。○[博物志]「[illegible]一一」。
(絕險) 極めて險阻なるところ。○[詩]「[illegible]」。
(夷險) 地の平夷のところと險阻のところと。○[晉]「分一一」。
(釋險) 危難をさる。○[易註]「[illegible]」。
(隘險) 土地狹くして平坦ならず。○[詩]「[illegible]」。
(守險) 險阻を守備す。○[左]「莫レ如レ一一」。
(恃險) 地の險阻にして敵の攻め難きをたのむこと。○[晉]「恃仲一一」。
(怙險) 前に同じ。○[晉]「一一[illegible]」。
(憑險) 前に同じ。○[書]「[illegible]」。
(據險) 險阻を占めて防ぐ。○[史]「[illegible]」。
(踰險) けはしき地を越えゆく。○[國]「[illegible]」。
(阻險) 山川谿谷などのけはしきところ。○[illegible]「[illegible]」。
(崇險) 土地高峻にして險阻なること。○[史]「[illegible]」。
(作險) 人を欺くに巧者にして邪惡なること。○[漢]「以一一自濟」。
(姦險) 奸邪なること。○[illegible]「[illegible]」。
(險詖) 性質のあらくしく邪惡なること。
(危險) あやふくして安からず。○[illegible]「兵中一一」。
(屯險) 世の中の險阻にして平らかならざるにいふ語。○[illegible]「見世路一一」。
(探險) けはしきところをさぐる。○[illegible]「[illegible]」。
(冒險) 危難を憚からずして敢て行ふ。○[北]「[illegible]」。
(輕險) 輕薄にして奸邪なること。○[北]「浮薄一一」。
(浮險) 前に同じ。○[唐]「性一一」。
(狡險) 前に同じ。○[illegible]「尤一一」。
(兇險) わるづよくよこしまなること、又、其の者。
(詭險) 奸詐にして正直ならざること。○[唐]「其[illegible]」。
(陰險) 他人をそねみ忌みて邪惡なる心あること。○[宋]「性一一」。
(奇險) 奇異にして平易ならず。○[宋]「[illegible]」。
(峻險) 高くしてけはし。○[西京賦]「修路一一」。

【⻖斬】サン、セン。所斬切 豏
なやむ(艱)。

【險】ケン。希見切 霰
けはし(峻)。

【險】ケン。巨險切 琰
儉に同じ。

【⻖嚴】ガン、ゲン。魚銜切 咸
巖に同じ。○[史]「得二說於傅一中二」。

【⻖賁】フン、ボン。符分切 文
墳に同じ。

【⻖婁】セフ、ソフ。叱涉切 葉
女子の姿にいふ字、又、媚ぶ。

十四畫

【⻖需】陑に同じ。

【⻖厭】エフ。益涉切 葉
けはし(險)。

【隮】セイ、サイ。祖稽切 齊
㊀のぼる、のぼす(登)。○[書]「由二賓階一一」。㊁たちのぼる氣。○[詩]「朝一于西二」。㊂にじ(虹)。○[周]「十煇九曰一」。

【⻖齊】シ、ジ。津私切 支
㊀前條の㊀に同じ。○[詩]「南山朝一」。㊁おつ、おとす(墜)。○[書]「無レ指二告予顚一一」。

【⻖累】隙に同じ。

【⻖豪】カウ、ゴウ。胡刀切 豪
障に同じ。

【隰】シフ、ジフ。似入切 緝
㊀低くして濕りたる地、はら、さは。○[詩]「山有レ榛、一有レ苓」。㊁新に發したる田。○[詩]「徂レ一徂レ畛」。㊂水邊、はさり。○[左]「逐二翼侯于汾一一」。
(原隰) のはらの低く平らかなる濕地。○[詩]「[illegible]」。
(廣隰) ひろやかなる下濕の地。○[illegible]「[illegible]」。
(下隰) 低く濕めりたるはら。○[illegible]「[illegible]」。
(卑隰) 低下なるのはら一面をおほひかくす。○[illegible]「[illegible]」。

(平隱) 隱くたひらかなるのさま。○[韓愈]「穩・言——」。
(藏隱) をかくさはど。○[韓愈]「——相落」。

隱 イン、オン。於謹切 [吻]

㊀かくる。(い)逃る。○[易]「龍德而—者也」。(ろ)去る。○[禮]「大・道既—」。(は)見えず。○[易]「巽稱而—」。(に)顯れず。○[禮]「—而顯」。(ほ)潛む。○[爾雅、註]「潛二—水・底一」。
㊁かくす。(い)かくれてあらしむ。○[國]「—」「五・刃一」。(ろ)蔽ふ。○[呂氏春秋]「弗レ能レ—矣」。(は)諱む。○[禮]「事レ親有レ—而無レ犯」。(に)私す。○[論]「吾無レ—二乎爾一」。
㊂かくれたる處、みそかなること、かげ、ものび。○[禮]「不レ以二—疾一」。
㊃かくれたる事理、おほやけならざる情實。○[易]「探レ賾索レ—」。
㊄かくれて仕へざる人士。○[宋]「謂二之潛・陽之三—一」。
㊅意義をかくしたる言語、なぞ、かくしことば。○[史]「喜レ—」。
㊆ふす(伏)。○[禮]「—辟而後屨」。
㊇うらなふ(占)、はかる(度)、おもふ、(思)。○[後漢]「—視幽・心、勿レ取二浮・華一」。
㊈安定、やすらか、まづか、おだやか。○[後漢]「篤・行—約」。
㊉いたむ(痛)。○[詩]「姑有二—憂一」。
⑪うれふ(憂)。○[荀]「——兮其恐二人之不レ當一」。
⑫やむ(病)。○[莊]「相給以—」。
⑬窮困の民。○[唐]「郵レ—撫レ鰥」。
⑭盛んなる貌にいふ字、又、多き貌にいふ字。○[司馬相如]「湛湛——」。
⑮大いなる聲にいふ字、怒れる聲にいふ字。○[晉]「——有レ聲」。
⑯短牆、ひくきかき。○[左]「踰レ—而待レ之」。
⑰よる(倚)。○[孟]「—レ几而臥」。
⑱きづく(築)。○[漢]「厚築二其外一、—以二金椎一」。
⑲琴の上飾、ことのかざり。○[枚乘]「孤子之鈎以爲レ—」。

(探隱) 幽微なるものを探りもとむ。○[曾鞏]「——」「隱二明奇一」。
(大隱) すぐれたる眞の隱遁者。○[王康琚]「——隱二朝市一」。
(民隱) 人民のまづしく困しみ苦しむもの。○[東京賦]「勤二恤——一」。
(隣隱) かくれ場をはなれ世間にいづること。○[易、註]「出レ隱——」。
(晦隱) 世をのがれ深くかくる。○[晦、疏]「君子身晦——」。
(蔽隱) おほひかくす、又、おはばれかくる。○[史]「有レ能而不レ敢——」。
(秘隱) ほがかくる。○[左]「無レ所レ——」。
(伏隱) ひそみかくる。○[左]「隱昵——」。
(陰隱) かくしてあらはさず、又、あらはれず。○[左]「——」。
(惻隱) 前に同じ。○[孟]「所レ隱——」。
(探隱) おくよかくしてあらはれぬ。○[禮、疏]「——」「也」。
(惻隱) 憐れみいたむ。○[孟]「——之心、仁之端也」。
(卑隱) ひくくしてあらはれざる地位。○[史]「君子處——」。
(朝隱) 隱居の心をもて仕官せる者。○[夏侯湛]「——」。
(吏隱) 前に同じ。○[宋之問]「——隱二朝市一」。
(貧隱) 貧賤者などをあはれみ救ふ。○[晉]「以——」。
(固隱) まりぞきかくる、又、かくす。○[南]「曾無——」。
(諱隱) いみはばかりてかくす。○[北]「狼勿——」。
(姦隱) 邪惡にして明白ならぬ。○[隋]「民多——」。
(疵隱) はぢらひて事實をかくし蔽ふ。○[舊唐]「——」。
(痛隱) いたみかなしむ。○[魏]「惜然不レ爲——」。
(隱隱) なげきいたむ。○[唐]「——者」。
(隱隱) つつみかくす。○[劉歆]「——其實」。
(隱隱) 世俗を避けかくる、又、其の者。○[韓愈]「——之」。
(隱隱) 謹厚なるのどかなる樣にいふ語。「——」。
(隱隱) つつみかくしはばかる。○[魏文帝]「——」。
(隱隱) 隱をよりそきて野にかくるること。○[韓]「——門與谷」。

隱 イン。於刃切 [震]

よる、(據)。○[禮]「其高可レ—」。

十五畫

隮 トク、ドク。徒谷切 [屋]

瀆に同じ、みぞ。

隤 トウ、ヅ。徒弄切 [送]

洞に同じ、とほす、ほがらか。

隳 キ。許規切 [支]

隳に同じ、やぶる。○[左]「或戰或—」。

隧

墜に同じ。

十六畫

隯 デウ、ヂウ。乃了切 [篠]

偃し低るる貌にいふ字。

隲

古文の濱の字。

隴 リヨウ、リユ。小踵切 [腫]

㊀漢の天水郡今の甘肅省鞏昌府にある大阪。○[史]「文・公踰レ—」。
㊁陝西省鳳翔府に屬する州。○[廣韻]「漢汧・縣後、魏置二東秦・州一、改爲二——州一」。
㊂丘壟、なか。○[列]「遊二之—端一」。
㊃壟畝、はた。○[史]「起二—畝之間一」。

十七畫

巇 キ、ケ。許羈切 [支]

㊀けはし(嶮)。㊁やぶる(毀)。

隵 サン、ゼン。仕懺切 [陷]

おちいる(陷)。

十八畫

隰 ザフ、ニフ。昵立切 [緝]

隰—は狹き貌にいふ語。

隱 コン、ゴン。胡本切 [阮]

大いなる阜、なか。

廿四畫

靈 レイ、リヤウ。郎丁切 [青]

隮靈、すき。

隶部

隶 タイ、デ。徒耐切 [隊]

(説文)从レ又从二尾省一、又持レ尾者、从レ後及レ之也。

㊀およぶ(及)。㊁あたふ(與)。

隶 イ。羊至切 [寘]

㊀前條に同じ。㊁もと(本)。

隶 シ、ジ。神至切 [寘]

あまり(餘)。

隶 テイ、ダイ。大計切 [霽]

狐の子。

隶 タイ、テ。蕩亥切 [賄]

逮に同じ。

七畫

隸 シ。息利切 [寘]

㊀つらぬ(陳)。㊁つひに(遂)。㊂ゆゑ(故)。

八畫

肆

肆に同じ。

隸

隸に同じ。

九畫

隸 タイ、デ。徒亥切 [賄] 徒耐切 [隊]

およぶ(及)。

隸 レイ、ライ。郎計切 [霽]

㊀附屬者、てした、したつかさ、ども。○[後漢]「各有二配—一」。
㊁賤役者、つかはれもの、めしつかひ、しもべ。○[左]「阜—之事」。
㊂徒役者、ちようえきにん、つみびと、つみんど。○[儀]「—人涅レ廁」。
㊃つく。(い)附屬す、したがふ。○[晉]「割二此三・郡一配二—益・州一」。(ろ)從役す、つかふ。○[左]「士有二—子・弟一」。
㊄けみす(閲)。○[史]「關東吏—二郡・國出一入關一者上」。
㊅一種の書體、もと賤役者にも書するを得しむる義より出づ、或は盱陽の小篆を變じて創作したりといひ、或は程邈獄中にて創作したりといふ、古書にては今の楷書體を指していひしが、歐陽修の集古錄に八分を指していひしより今にては誤りて八分の稱ともなす。○[晉]「——書者篆之捷也」。

(罪隸) つみを犯し奴隸とせられし者。○[周]「——百有二十人」。
(僕隸) しもべ。○[方言]「——知二周孔一」。
(奴隸) 前に同じ。○[韓愈]「——亦知二北海・明一」。
(隸隸) 前に同じ。○[晉、傅]「士以二——友——一自匿走」。
(傳隸) 前に同じ。○[後漢]「與レ役——」。
(徒隸) 前に同じ。○[柳宗元]「其執レ役者爲二——一」。
(臺隸) 前に同じ。○[歐陽修]「牧・圉——」。
(阜隸) 前に同じ。○[後漢]「放於——之中」。
(賤隸) 前に同じ。○[北]「以充二——一」。
(女隸) 女のめしつかひ、はしため。○[晉]「既レ歸人及——有二——一」。
(男隸) 男女の奴。○[周]「凡——其而出入者」。
(草隸) 草書と隸書との字體。○[南]「尤工二——一」。
(楷隸) 楷書と隸書との字體。○[南]「尤工二——一」。
(篆隸) 篆書と隸書と。○[宋]「——」。
(隸隸) めしつかひ、しもべ。○[南]「——於——一」。
(附隸) 隸屬す、又、其の者。○[北]「賓客——」。
(俘隸) 俘虜を奴とした者。○[北]「俘乃——」。
(私隸) 公役に給せざる私家のしもべ。○[金史]「奴・婢——」。
(廚隸) 食物を料理せしむるめしつかひ。○[隋]「——異レ供」。

隸 リ。力智切 [寘]

つく(附)。

隸 レツ、レチ。力結切 [屑]

やつこ(僕)。

十二畫

隸 タイ、デ。徒亥切 [賄]

及ぶ。

隹部

隹 スヰ。職追切 [支]

(説文)象形。

㊀短き尾の鳥の總名、とり。
㊁崔に同じ、高大なる貌にいふ字。

隹 スヰ。祖誄切 [紙] シ。諸鬼切 [尾]

隺 サイ、セ。祖猥切 [賄]

崔に同じ、山の貌にいふ字。○[莊]「山・林之畏—」。

二畫

雄

鳩に同じ。

雉

塢に同じ。

隺 コク。胡沃切 [沃]

高く至る、いたる。

隺 カク、コク。克角切 [覺]

心志の高きにいふ字、たかし。

隺 カク。曷各切 [藥]

鳥の高く飛ぶにいふ字、たかし。

隻 セキ、シャク。之石切 [陌]

(説文)从レ又持レ隹、持二一隹一曰レ隻。

ひさつ(單)、かたわれ(奇)。○[後漢]「得二一—鳥一」。

雃

鴉に同じ。

隼 シュン、ジュン。息允切 [軫]

鷙鳥の屬、はやぶさ、たか、飛ぶこと急疾にして性猛し。○[詩]「鴥彼飛—、其飛戾レ天」。

(鷹隼) 鷙鳥の名、たか。○[漢]「立秋而——擊」。○[陸機]「鷹——」。
(翔隼) 空中を飛翔する一種のたか。○[禮、疏]「——」。
(雀隼) 一種のたか。○[魏書]「射見——」。
(鵰隼) 前に同じ。○[張融]「——飛而未レ半」。
(飛隼) はやくみをえがきうつす。○[顏氏家訓]「——以擊二其敵一」。
(驚隼) つよきはやぶさ。○[劉孝威]「驚隼——何由逐」。
(鷙隼) はやぶさを畫きたるはた。○[夏侯]「——當二朝立一」。

三畫

雃 カン。居寒切 [寒]

かり、(雁・陽・鳥)。

隿 ヨク、エキ。與職切 [職]

飛鳥を繳射すること、いぐるみ。

雄 コウ、グ。戸工切 [東] 戸孔切 [董]

㊀鳥肥ゆ。㊁やとふ(傭)。

雎

雎に同じ。

雀 シャク、サク。即略切 [藥]

㊀一種の小鳥、すずめ、行くに躍る。○[詩]「誰謂—無レ角」。
㊁小躍りすること。○[觀]「——立不レ——」。
㊂すずめの頭の色、すずめいろ。○[書]「二人—弁」。

(燕雀) つばめとすずめと、又、ども小鳥の極めて小さなるものなるより借りて小量の人物に喩へて用ふる語。○[史]「燕雀安知二鴻鵠之志一」。
(孔雀) 尾の長く極めてうつくしき鳥の名、くじやく。○[說苑]「君子愛レ口、——」。
(羅雀) あみをはりて雀を捕ふること。○[史]「門・前可レ——」。
(黃雀) めづらしきすずめ。○[——]「——」。

（鸜雀）鵲に似て小さなる水鳥、おほとり。○〔元包〕「有鳥有鳥、如二—一」。
（負雀）すゞめたかのと云て百鶻ともいふ。○〔爾雅〕「鷂—一」。
（瞿雀）きんぞくもいふ、てうせんうぐひす。○〔方言〕「武關之東鳥、或謂之—一」。
（桃雀）みそさゞいの異名、俗に巧婦と稱す。○〔爾雅〕「—一鷦」。

隺　鴿に同じ。

四畫

雉　カウ。胡耶切　〔陽〕
飛びて高下す、さびあがりさびくだる。

雁　ガン、ゲン。魚宴切　〔諫〕
鴈に同じ、かり、隨陽鳥。○〔詩〕「雝雝鳴—」。

雅　シ。章移切　〔支〕
㊀雉に同じ。㊁—度は、はかる。

雃　ケン、ゴン。巨淹切　〔鹽〕　キン、ゴン。厄金切
カン、ゴン。枯含切　〔覃〕
一種の鳥の名、ゑぎ。

雂　ガン、ゴン。五甘切　〔覃〕
人の名。

雄　鷄に同じ。

雉　鳩に同じ。

隻　キ、ギ。渠龜切　〔支〕
かへりみる（顧）。

雅　鵲に同じ。

雉　キ。均窺切　〔支〕
子—は、ほとゝぎす。

雉　フ。風無切　〔虞〕
翅に同じ。

雉　鵠に同じ。

雄　イウ、ウ。羽弓切　〔東〕
㊀雌に對して子兒を生ずる種子を有するものゝ稱、をす、をん。○〔詩〕「—雉于飛」。
㊁勢盛んなり、又、勢盛んなるもの。○〔楚辭〕「—一赫々」。
㊂武勇あり、又、武勇あるもの。○〔左〕「寡人之—也」。
㊃傑出す、すぐる、又、傑出せるもの。○〔人物志〕「韓信是—」。
㊄首長、をさ、かしら。○〔戰〕「陳二六—之利害二」。
（豪雄）他にすぐれて奸智ある人。○〔家語〕「少正卯人之—一也」。
（兩雄）二人の豪傑。○〔史〕「—一不二並立二」。
（梟雄）わるづよき豪傑。○〔三國〕「劉備—一之姿」。
（英雄）才武絕倫の者。○〔魏〕「天下—一惟使君與操耳」。
（群雄）多くのすぐれたる人物。○〔鄒陽〕「壹二群—一」。
（雄雄）勇武なる人。○〔李白〕「所二交盡—一」。
（文雄）文章に秀でたる人。○〔唐玄宗〕「是謂—一」。
（才雄）才氣拔群の者。○〔韓開陽〕「結二交—一」。
（詞雄）詞賦に長じたる人。○〔沈全期〕「恐二詞—一」。
（雌雄）鳥のめすとをすと、又、弱きものと強きものとの意に用ふることあり。○〔詩〕「誰知二鳥之—一」。
（傑雄）剛勇拔群の者。○〔張說〕「共許二—一自出二群」。

雅　ア、エ。烏加切　〔麻〕
みやまがらす、やまがらす（鴉）。
（眞雅）眞賞の英雄。○〔李山甫〕「何曾是—一」。
（扶蘇雅）かちはけをさたむ。○〔史〕「挑—」。

雅　ガ、ゲ。五下切　〔馬〕
㊀詩の六義の一、正しくして後世の法となすべきものゝ義。○〔周〕「日—」。
㊁たゞしき樂、たゞしき歌、たゞしき聲。○〔荀〕「不レ敢亂—」。
㊂たゞしき言、たゞしき道、たゞしき義。○〔史〕「救レ弊興レ—」。
㊃たゞし（正）つね（常）。○〔論〕「子所レ—言」。
㊄渢麗、優閒、鄙俗ならず、みやびやか、まさやか、ゆるやか、けだかし、おくゆかし。○〔史〕「從二車騎一雍容閒—甚都」。
㊅もとより（素）。○〔史〕「張耳—游」。
㊆一種の樂器、狀は漆筩の如くにして口弁く大さ二圍長さ五尺六寸、羊の韋にて鞔ふ。○〔周〕「應—」。
㊇さかづき（酒器）。○〔東觀漢記〕「上二—壽一」。
（爾雅）正しき道の學問、又、其の學者。○〔李、陵〕「勞來—一」。
（風雅）詩の國風と二雅と、又、正しくみやびやかなること。○〔李白〕「李壽鏗—一」。
（文雅）文章詩賦などの正しきみち。○〔吳〕「—一是貴」。
（溫雅）ゆるやかにして亂れざること。○〔北〕「閑—一」。
（博雅）學ひろく道正し。○〔王褒〕「—一好古」。
（弘雅）ゆるやかにして正し。○〔宋〕「有—一之致」。
（通雅）物事にゆきわたりて正し。○〔北〕「閑貞—一」。
（端雅）沈重にして器量あり。○〔魏〕「高尙—一」。
（沈雅）前に同じ。○〔晉〕「—一有大度」。
（方雅）正しくのりあり。○〔晉〕「謹重—一」。
（詩雅）あざやかにみやびやかなること。○〔晉〕「風—一」。
（典雅）正しきこと。○〔魏文帝〕「辭義—一」。
（清雅）前に同じ。○〔晉〕「姿性—一」。
（閑雅）俗氣を脫せること。○〔南〕「風神—一」。
（高雅）正しく高尙なり。○〔晉〕「雅容—一」。
（敦雅）質朴にして俗ならず。○〔魏〕「沖淡—一」。
（都雅）みやびやかなること。○〔吳〕「氣韻—一」。
（和雅）性質などの溫和にして鄙野ならざるにいふ語。○〔宋〕「稟性—一」。
（雋雅）前に同じ。○〔南〕「風神—一」。
（淡雅）淡泊にして俗ならざること。○〔南〕「有二—一之風一」。
（清雅）性質などのゆるやかにして俗ならざること。○〔杜甫〕「論二仁義—一」。新弘詩賦—一。
（麗雅）うつくしくみやびやかなり。○〔文心雕龍〕「文辭—一」。
（古雅）古色を帶びて鄙俗ならず。○〔抱朴子〕「—一」。
（昇雅）うつくしく俗氣なきこと。○〔埤雅〕「華靡—一」。

集　シフ、ジフ。秦入切　〔緝〕
㊀あつまる。
（い）羣をなす鳥の木上にあるにいふ字。○〔詩〕「—于灌木二」。
（ろ）聚合す、會同す、あふ、よりあふ、よりあつまる。
（は）齊一に歸す、ひさしくなる。○〔史〕「雲—霧散」。○〔漢〕「動靜不レ—」。
（に）雜はる、又、積もる。○〔孟〕「—義所レ生」。
㊁あつまらしむ、あはす、よす、ひさしくす、まとふ、つむ、あつむ。○〔後漢〕「收二—降卒二」。
㊂なる、なす（就）。○〔書〕「大統未レ—」。
㊃さゞまる（止）。○〔國〕「—於苑二」。
㊄いたる（至）。○〔左〕「不二其—亡」。
㊅もろ〳〵（衆）。○〔史〕「鱗—仰流」。

㊆やすんず（安）。○〔史〕「安二—百姓二」。
㊇やはらぐ（和）。○〔史〕「武庚未レ—」。
㊈邊境の壘壁、とりで。○〔左〕「險二其走—二」。
㊉詩文論說などをあつめたるもの。○〔隋〕「詩—五十卷」。
（翔集）鳥などの飛びきたりてあつまること。○〔晉〕「—歌—一」。
（雲集）あめのふりきたる如く多くあつまる。○〔後漢〕「飛矢—一」。
（鳥集）當故に因らずして鳥鳥の如くあにあつまること、又、其の集合のおれにいふ語。○〔史〕「英俊—一」。
（雲集）くもの如く物の多く聚ること。○〔後漢〕「賢俊多くあつまるにいふ語。○〔播尼〕「擢レ樹則能著—一」。
（輻集）あつむ。○〔唐〕「—一傳記二」。「—一」。
（蝟集）四方より集りきたる。○〔後漢〕「士爲—一」。
（群集）むらがりあつまる。○〔韓愈〕「—一東籍」。
（雜集）前に同じ。○〔詩〕「—一君之朝二」。
（會集）よりあつまる。○〔李光〕「賓流—一」。
（聚集）前に同じ。○〔左〕「晨夕—一」。
（和集）やはらぎあつまる。○〔史〕「百姓—一」。
（撰集）事實を集めまとむ。○〔後漢〕「令二班固—一其事二」。
（收集）かきあつむ。○〔後漢〕「—一所圖二」。
（采集）とりあつむ。○〔後漢〕「—一明智二」。
（招集）よびあつむ。○〔後漢〕「—一豪傑二」。
（類集）かりあつむ。○〔後漢〕「—一鳥合之衆二」。
（總集）前に同じ。○〔晉〕「足—一水部二」。
（安集）やすんじあつむ。○〔後漢〕「—一降衆二」。
（詩集）詩文などを抜きだして集む、又、其のもの。
（捜集）さがしあつむ。○〔南〕「—一諸家兵法二」。
（懐集）なつけあつむ。○〔阮籍〕「—一異類二」。

雝　シ。昌耳切　〔紙〕
めどり、めんどり（雌）。

雖　キ、ギ。姻移切　〔支〕
にはとり（雞）。

雇　コ、ク。侯古切　〔麌〕
鳲に同じ。

雇　コ、ク。古暮切　〔遇〕
やさふ（傭）。

五畫

帷　カウ、ガウ。胡廣切　〔漾〕
田器。

翟　鸐に同じ。

雉　チ、ヂ。丈几切　〔紙〕
㊀山に棲める毛羽うるはしき一種の鳥、きゞ、きゞす。○〔周〕「六摯、士執レ—」。
㊁城牆の尺度、高さ一丈長さ三丈の稱。○〔左〕「都城過二百—二」。
㊂城牆、まろ、かき。○〔晉〕「欲レ耕二於峯—二」。
㊃をさむ。○〔揚雄〕「—理也」。「災」。
㊄公宮の南門。○〔春秋〕「—門及兩觀」。
（雉堞）をのきじ。○〔詩〕「—一于飛」。
（雌雉）めすきじ。○〔顏〕「山梁—一」。
（藏雉）人になれたるきじ。○〔陸游〕「—一啄食二」。「人」。
（駁雉）まろ。○〔北〕「據二崤山一以爲二—一」。
（山雉）やまどり。○〔賀〕「麝—一」。

雉　シ、ジ。序姊切　〔紙〕
鴟に同じ。

雉　イ。演爾切　〔紙〕
縣の名。

雉　カイ、ケ。口駭切　〔蟹〕

雉　チ、ヂ。直利切　〔寘〕
雉—は、人の身のたけの短きこと。

雉　テツ、デチ。徒結切　〔屑〕
野雞、きゞ。

雄　鴆に同じ。

雌　鳩に同じ。

雌　鴟に同じ。

雌　シ。處脂切　〔支〕
鴟に同じ、とび。

雊　コウ、ク。古候切　〔宥〕　ク、ゴ。俱遇切　〔遇〕　吉候切　〔尤〕
雉の鳴くにいふ字、なく。○〔禮〕「雉—雛乳」。
（說文）雄雌而雌、其頸、从レ隹从レ句。

雕　鷳に同じ。

雉　鵰に同じ。

雉　ハツ、バチ。蒲撥切　〔曷〕
鴿に同じ、鵓に似たる一種の鳥。

雋　セン、ゼン。徂兗切　〔銑〕
㊀肥肉、こえたるまゝ、又、味の甘美なること。
㊁縣の名。○〔漢〕「曰二—永二」。㊂人の姓。

雋　セン。子兗切　〔銑〕
肥ゆ。

雋　スヰ。將遂切　〔寘〕
儁に同じ。
儁に通じ用ふ。○〔漢〕「進二用英—二」。

雁　ヨウ、オウ。於陵切　〔蒸〕
たか（鷹）。

雌　シ。七移切　〔支〕　セイ、サイ。千西切　〔齊〕
㊀雄に配して兒子の種子を雄より受け之を生出するもの、め、めす、めん。○〔詩〕「以—以雄」。
㊁雄の反にて勢鈍きこと、武勇なきこと、劣れること、又、其の者。○〔史〕「決二—雄二」。

雍　ヨウ、ユ。於容切　〔冬〕
㊀やはらぐ（和）。○〔書〕「黎民於變時—」。
㊁四方を水のとりまけること。○〔水經〕「四方有レ水曰レ—」。
（熙雍）やはらぎかなふ。○〔何承天〕「百姓—一」。
（諧雍）悉く和諧す。○〔張華〕「率土—一」。
（雍雍）雞頭の實の異名。○〔本草〕「芡實一名—一」。

雍　ヨウ、ユ。委勇切　〔腫〕
㊀隄防にて水を止どむ、ふさぐ。○〔周〕「—氏」。
㊁たすく（祐）一說に、あつむ（聚）。○〔揚雄〕「—二神休二」。

雍　ヨウ、ユ。於用切　〔宋〕
㊀九州の一、今の陝西省西安府一帶の稱。○〔書〕「黑水西河惟—州」。
㊁國の名。○〔左〕「郜、—、曹、滕」。

雎　ショ、ソ。七余切　〔魚〕

㊀一種の鳥、みさご。○〔詩〕「關々——」。㊁次——は、行くに難む、ゐざる。「鳰」。

雄 雄に同じ。

六畫

雒 鴿に同じ。

雖 ヨク。余蜀切 沃 鴿に同じ。

翟 ショ、ニョ。人諸切 魚 かやくき（鶪母）、うづら（鴽）。

雃 ケン。苦堅切 先 ㊀いしたゝき（石鳥）、一名、せきれい、（雝𪇆）、一名、にはくなぶり（精列）。㊁人の名。

雁 ガン。俄寒切 寒 カウ、キヤウ。丘耕切 庚 ——鳴は、せきれい。

雂 カク、ギヤク。逆革切 陌 ごゐさぎ（鳭鴰）。

雗 鴳に同じ。

雉 毳に同じ。

翟 習に同じ。

雅 鶯に同じ。

雉 鶉に同じ。

雜 俗の雛の字。

雉 ス井。朱惟切 支 小鳥。

䳏 鶂に同じ。

雒 ラク。盧各切 藥 ㊀みゝづく（鵋䳢）。㊁身黑くして鬣白き馬、かはらげ。○〔詩〕「有レ駱有レ—」。㊂洛に通じ用ふ。○〔周〕「豫州其水榮—」。㊃絡に通じ用ふ、おもがい。○〔莊〕「刻レ之—レ之」。㊄額に同じ。○〔漢〕「增二封龍—侯一」。

雕 テウ。他弔切 嘯 頭を低れて聽く、きく。

離 本䳕に作る。

翟 キク、コク。居六切 屋 鶪に同じ。

雅 ヤク。余略切 藥 棋の心中の一子、なかて。○〔馬融〕「横行陣亂、敵心駭惶、迫二棊一——、纔塞二其裝一」。

雓 ジン、ニン。如林切 侵 やつがしら、くそとび（戴勝鳥）。

七畫

雖 鵝に同じ。

雖 鵠に同じ。

雖 ス井。千水切 紙 細き頸、ほそくび。

雕 鵬に同じ。

雓 ヨ。以諸切 魚 蜀雞の子、大にはとりのひな。

雞 鶵に同じ。

雉 鶵に同じ。

雉 バウ、モウ。名項切 講 さび（鶌鳥）。

八畫

雖 ス井、ズ井。是僞切 寘 ㊀さび（鶌）。㊁みやまがらす、はしぶさがらす（雅「烏」）。

雖 ス井、ズ井。是爲切 支 子——は、ほとゝぎす。

雖 鵝に同じ。

雖 鴷に同じ。

雖 鵯に同じ。

雖 鶆に同じ。

雖 鶆に同じ。

雖 鶴に同じ。

雖 俗の鸊の字。

雖 鵑に同じ。

雖 鷕に同じ。

雖 鵰に同じ。

雖 井。余雖切 支 飛ぶ貌にいふ字。

雖 鶏に同じ。

雔 シウ、ジュ。市流切 尤 雙鳥。

翟 レイ、ライ。郎奚切 齊 黃——は、ちようせんうぐひす。

雕 鵰に同じ。

雕 テウ。都僚切 蕭 ㊀わし（鷲）。○〔史〕「匈奴射レ——者也」。㊁章明なる貌、あきらか。○〔荀〕「——爲二牒縣一貴二爵重賞於其前一」。㊂文飾を刻制す、ほる、ゑる、ちりばむ。○〔孟〕「必使二玉人——一琢之二」。

雖 鷂に同じ。

雖 鷞に同じ。

九畫

雖 ショウ、ジュ。充隴切 腫 シウ、ス。齒工切 東 ㊀すゞめ（雀）。㊁小鳥の飛ぶにいふ字、さぶ。

雉 鶏に同じ。

雊 ブ、ム。亡遇切 遇 ㊀雀の子。㊁雛の雛。

雖 鷚に同じ。

雖 鵝に同じ。

翟 シウ、シュ。七由切 尤 ㊀雛の雛。㊁雅の雛。

雖 ゼン、チン。儒轉切 銑 ジュン、ニュン。濡純切 ゼン、チン。而宣切 先 にはさり（鵗）。

雖 ス井。宣隹切 支 ㊀狀は蜥蜴に似たる一種の大蟲。㊁いへども、ども。（い）上を飜して下に接するときに用ふる字。○〔禮〕「——二徵レ晉而已一、天下其孰能當レ之」。（ろ）かりて說くさきに用ふる字。○〔儀〕「——レ請レ退可也」。㊂おす（推）。○〔晏〕「吾——レ之不レ能」。㊃一種の獸、かゝりざる。○〔于逖〕「傳弘業寄二天台縣一、有三人獵得二一獸一、形如レ豕、仰鼻長尾有レ岐、謂二之怪一、弘業識レ之曰、其名——、非レ怪也」。

雞 鷄に同じ。

十畫

雞 鶴に同じ。

韓 カン。侯幹切 翰 カン、ガン。何干切 寒 きじ（雉）。

䨇 ワク。烏郭切 藥 丹土の善なるもの、即ち赤色のあざやかなる丹土、あんしや。○〔山海經〕「雞山其下多二丹——一」。（青雘）青きいろあをに、又、おほの子。○〔山海經〕「青丘之山、多出——」。

䨇 コ、ウ。胡故切 遇 あかし（丹）。

雙 サウ、ソウ。所江切 江 （說文）隹二枚也、从レ讎、又持レ之。 ㊀ふたつ、そろひ（兩）。○〔儀〕「凡獻執二一——一止」。㊁ならぶ、たぐひ（偶）。○〔詩〕「冠緌——」。○〔李商隱〕「翠鳳各——」。（無雙）ならぶものなし。○〔史〕「國士——」。（少雙）ならぶもの多からず。○〔漢〕「天下——」。（一雙）ひとそろひ。○〔後漢〕「黃龍——」。（無等雙）ならぶものなし。○〔黃庭堅〕「國器——」。

雔 サウ、ソウ。朔降切 絳 たぐひ（偶）。

雕 テウ。丁浇切 蕭 鴟の屬、みさご。

雜 サウ。七岡切 陽 鶬に同じ。

藋 クワン。工換切 翰 ㊀一種の水鳥、あまさぎ。○〔詩〕「——鳴二于垤一」。

䕲 クワン。古丸切 寒 ㊁草の名、かゞみぐさ。○〔爾〕「——、芄蘭」。

雛 ス。仕于切 虞 ㊀ひな。（い）雞の子、ひよこ。○〔孟〕「力不レ能レ勝二一匹——一」。（ろ）すべて幼小なるものゝ稱。○〔晉〕「鳳皇將二九——一」。㊁ひなを伏くと、ひなを伴なふと。○〔禮〕「不レ食二——鼈一」。（鳳雛）鳳のひな、英才に比喩していふ語。○〔蜀志〕「——」。（竹雛）たけのこ、筍。○〔韓愈〕「春來相郭護——」。（僧雛）小坊主。○〔黃庭堅〕「——手入傘傭」。

雝 シュ、ス。從遇切 遇 顓——は、孔子の弟子。

雜 サフ、ゾフ。徂合切 合 ㊀まじる、まじはる。（い）相合す、あふ。○〔易〕「天地之——也」。（ろ）相會す、あつまる。○〔呂氏春秋〕「四方來——」。（は）紛亂す、いりみだる。○〔後漢〕「上下僭——」。（に）相厠す、はさまる。○〔楚辭〕「來——陳些」。㊁まじらしむ、あはす、あつむ、いれみだす、はさむ（㊀の條參照すべし）、まずまじふ。○〔周〕「——五色一」。㊂多端、おほし。○〔荀〕「——能旁魄」。㊃煩數、くだくし。○〔宋〕「不レ堪レ——」。㊄細碎、こまかし。○〔易〕「其稱レ名也、——而不レ越」。㊅斑駁、まだら。○〔淮〕「紹表而——」。㊆相偶はざるにいふ字。○〔儀〕「——裳」。㊇純ならず、精ならず。○〔荀〕「——布與レ錦」。㊈まじりて、まじへて、倶に、みな。○〔國〕「——受二其刑一」。○〔禮〕「——帶君朱綠」。㊉かざる、かざり（飾）。○〔呂氏春秋〕「圜周復——」。⑪めぐる、めぐり（匝）。 [illegible]

雍 ヨウ、ユ。於容切 冬

やはらぐ。
(い)雁の和ぐ聲にいふ字。○[詩]「━━鳴雁」。
(ろ)和ぐ。○[詩]「曷不━━」。

【雝】ヨウ、ユ。尹竦切 腫
おほふ(蔽)。○[詩]「無將大車、維塵━兮」。

【雝】ヨウ、ユ。於用切 宋
雝に同じ。

【雞】ケイ、カイ。古兮切 齊　一に、鷄に作る。
司晨鳥、にはとり、くだかけ。○[書]「牝━無晨」。
(棲雞) ねぐらにあるにはとり。○[劉孝威]「━━」
(莎雞) 鵜に似たる蟲の名、はたおり、天雞、莎雞、絡緯などの異名あり。○[詩]「六月━━振羽」。
(天雞) 前に同じ、又、星の名。○[晉]「箕四星、一曰━━」。
(鬪雞) にはとりをたゝかはす、又、けあひどり。○[列]「━━生」。○[荘]「草次━━小兒耳」。
(醯雞) 酉より生ずる小蟲の名。○[列]「━━生乎酒」。
(伏雞) 卵をいだきゐるにはとり。○[公羊、註]「━━」。
(野雞) 雉の異名。○[埤雅]「━━鷸雉」。

【巂】ケイ、エ。戸圭切 齊
一 ━周は、ほとゝぎす、子規。
二 輪轉の度、又、車輪の一周轉。○[禮]「立視五━」。

【巂】キ。均窺切 支
雉に同じ。

【巂】ス井。息委切 紙
郡の名。○[漢]「越━郡」。

【巂】セン。粗衮切 銑
地の名、或は鄰に作る。

【雋】セン。子泉切 先
ちりばむ(鑽・鏤)。

十一畫

【雚】鶩に同じ。

【雡】リウ、ル。力救切 宥
大いなる雛、一説に、晩く生まれたる雛の子。

【雝】ショウ、ジュ。牆容切 冬
にはさり(雛)。

【雝】オウ、ウ。於候切 宥
鳥の聲にいふ字。

【離】リ。呂支切 支
一 鸝に同じ。○[詩、傳]「倉庚━黃也」。
二 はなる、はなす。
(い)ちる、ちらす(散)。○[呂氏春秋]「━則復合」。
(ろ)わかる、わかつ(分)。○[列]「形━名━也」。
(は)とほざかる、とほざく(遠)。○[易]「非レ━レ羣也」。
(に)去る。○[淮]「欲レ━二其童蒙之心一」。
(ほ)違ふ。○[管]「不レ能レ━也」。
(へ)開く。○[張衡]「━二朱脣一而微笑兮」。
(と)呼く。○[國]「選者━━」。
(ち)割く。○[儀]「━レ肺」。
三 易の卦の名、☲☲ 離下離上 ○[易]「━利レ貞」。
四 雨。○[算經]「夏至從レ━」。
五 あきらか(明)。○[大戴禮]「━二顯先帝之光耀一」。
六 つく(麗)。○[張衡]「執能━」。
七 つらぬ、つらなる(陳)。○[左]「設レ備━服」。
八 つら(列)。○[晉]「昭穆之━」。
九 ふたつ(兩)。○[禮]「━坐━立」。
十 かゝる。
(い)遭ふ。○[淮]「━者必病」。
(ろ)羅す。○[儀]「━二維綱一」。
十一 すぐ(過)、ふ(歷)。○[戰]「我━二兩周一」。
十二 親しまざる貌にいふ字、遠ざかる貌にいふ字。○[荀]「━━然」。
十三 さくる貌にいふ字、ちらばる貌にいふ字。○[楚辭]「心━━兮」。
十四 垂るゝ貌にいふ字、おほふ貌にいふ字、又、善き貌にいふ字。○[詩]「其實━━」。
十五 蘼蕪、せんきうのなへ。○[屈平]「扈二江━與辟芷一兮」。
十六 山梨、やまなし。○[司馬相如]「━━朱楊」。
十七 芍藥、かほよぐさ。○[埤雅]「芍藥━草也」。
十八 藩籬、かきかこひ。○[國]「聽二命於藩━之外一」。
十九 大學。○[禮]「大學謂二之━一」。
(仳離) わかる。○[詩]「有女━━」。
(夜離) (い)鳥の名。○[詩]「━━之子」。
(支離) (い)獸の名。○[左]「━━之卒」。
(は)瑠璃のこと。○[漢]「━━」。
(ろ)手足などを切りたる者、かたは。○[荘]「━━」。
(は)流離、さすらふ。
(保離) 堅實の意。○[後漢]「━━」。
(睽離) 右の異名。○[易]「━━」。
(陸離) 参差の貌、又、分散する貌。○[屈平]「長余佩之━━」。
(別離) 人のわかれはなるゝにいふ、わかれ。○[杜甫]「━━」。
(長離) 鳥の名、一説に、鳳凰とも、又、星の名ともいふ。○[司馬相如]「前━━」。
(披離) 四方に散ずる貌にいふ語。○[宋玉]「━━」。
(分離) わかる、はなる。○[李白]「━━」。
(乖離) はなれたがひてあはず。○[韓愈]「━━」。
(合離) あふとはなるゝと、又、草の名、又、木の名。○[穀]「━━之相種」。
(散離) はなれちる。○[後漢]「━━」。
(違離) たがひはなれてあはず。○[周伯琦]「━━」。
(離離) 前に同じ。○[陸游]「━━」。

【離】チ。抽知切 支
螭に通じ用ふ、みづち。○[史]「如レ離如レ━」。

【離】リ。黎奚切 紙
━━跂は、臂を擴ふ貌にいふ語。

【離】リ。力智切 寘
去る、はなる、はなす。○[書]「昨レ官━レ次」。

【離】レイ、ライ。郎計切 霽
一 儷に同じ、たぐひ、ならぶ。○[禮]「宿━不レ貸」。
二 荔に同じ。○[司馬相如]「荅遝━支」。

【雝】アン、オン。烏含切 覃
鶉に同じ、うづら。

【難】ダン、ナン。那干切 寒
一 易ならざるにいふ字、むつかし、かたし。○[國]「善之━哉」。
二 かたしとなす、かたんず。○[書]「惟帝其━レ之」。
三 かたきこと、かたき所。○[書]「━━」。○[禮]「苦二其━一」。
四 とり(鳥)。
(艱難) なやみありて容易ならず。○[書]「先知二稼穡之━━一」。
(危難) さしせまりたる艱事。○[高適]「賢兄救━━」。
(多難) むつかしきことおほし。○[左]「季孫必━━」。
(苦難) めづらしくむつかし。○[孟]「有━━字」。
(險難) けはしくしてたひらかならず。○[陸機]「山川━且━」。
(險難) 前に同じ。○[陸機]「人道━而━」。

【難】ダ、ナ。曩何切 歌
一 儺に同じ、おにやらひ。○[禮]「季春命レ國━」。
二 盛んなる貌にいふ字。○[詩]「其葉有レ━」。

【難】ダ、ナ。乃可切 哿
橠に同じ。

【難】ダン、ナン。乃旦切 翰
一 うれふ(患)、くるしむ(苦)。○[左]「以━レ之」。
二 はゞむ、こばむ(拒)。○[書]「惇レ德允レ元而━二任人一」。
三 せむ(責)、なじる(詰)。○[孟]「於二禽獸一又何━焉」。
四 患苦、うれひ。○[易]「以二儉德一辟レ━」。
五 人の名。○[左]「━也收レ子」。
六 仇敵、あだ。○[戰]「與レ秦爲レ━」。
七 兵亂、みだれ。○[公羊]「請レ作レ━」。
八 詰問、さひ。○[唐]「發二十━一詰レ之」。○[公羊]「其言入何━焉」。
九 易からず、かたし。
(多難) すくなからざるうれひ。○[附]「━━」。
(國難) 國難にせまる。○[魏]「━━毋苟免」。
(困難) 困難をかりのぞく。○[魏]「排レ患━━」。
(排難) 和睦せずして互にこばみせむ。○[戰]「秦趙━━而天下皆悦」。
(辭難) 前に同じ。○[後漢]「━━」。
(解難) 國家の危難をたひらげおさむ。○[後漢]「志在━━」。
(內難) うちうちのなやみとて國家の內亂などにいふ。○[宋]「━━」。
(蒙難) 前に同じ。○[易]「━━」。
(寇難) 前に同じ。○[晉]「扶━━」。
(急難) うれひ。○[後漢]「自謂無二━━一」。
(外難) 兵難をおこす。○[漢]「天下初━━」。
(家難) 家にかゝる患難。○[史]「春秋━━」。
(救難) 患をすくふ。○[史]「━━紛糾之━」。
(遭難) 前に同じ。○[晉]「志━━世」。
(殷難) 危きうれへをのがる。○[史]「又與之━━」。
(危難) あやふきうれひ。○[史]「━━在二三月之內一」。
(艱難) わざはひ。○[魏]「夫智者知━━之地」。
(厄難) 前に同じ。○[易林]「━━」。
(大難) 世の中のおほいなる禍患。○[魏]「今天下━━已除」。
(國難) 國家のうれへ、卽ち、戰亂などをいふ。○[魏]「初興━━」。
(兵難) 戰爭のなやみ。○[魏、註]「敵有━━」。
(嘲難) あざけりなじる。○[與、註]「相嘲━━」。
(屯難) なやみ。○[唐]「━━未レ濟」。
(外難) そとよりきたれるうれひ。○[晉]「國家有━━」。
(死難) 國家の難事にいのちをすつ。○[唐]「無伏節━━者」。
(患難) 患苦。○[抱朴]「遭━━而不レ變者」。

【雂】ショウ、シュ。疾容切 冬
にはさり(雛)。

十二畫

【雚】鷲に同じ。

【雚】サン。蘇旰切 翰　顙旱切 旱
一 糸を著けて鳥を射ること、いぐるみ。
二 飛散す、ちる、さばしる。

【雗】鶉に同じ。

【䳝】鶯に同じ。

【雞】シン、ジン。子心切 侵　子鴆切 沁
にはさり(雛)。

十三畫

【雝】鶴に同じ。

【䨀】カク、ゴク。胡角切 覺　アク、オク。乙角切 覺
鶯に同じ。

【雟】ス井。山垂切　キ。匀規切 支
さぶ(飛)。

【雞】鷄に同じ。

【雝】鴿に同じ。

【雡】鶴に同じ。

【䨁】鷲に同じ。

十四畫

【雔】ヒン。必鄰切 眞
小き雀。

【矍】鶴に同じ。

十五畫

【黎】レイ、ライ。郎兮切 齊　リ。良脂切 支
鶯に同じ。

十六畫

【雥】サフ、ゾフ。徂合切 合
聚る。○[許善心]「嘉睨━集」。

二十畫

【雥】鶴に同じ。

【雧】集に同じ。○[屈平]「━芙蓉以爲裳」。

雨部

【雨】ウ、チ。王矩切 麌　ウ、ウ。歐許切 遇
(文說) 一象天、冂象雲、水霝其間也。
雲氣の冷え水となりて滴り降るもの、あめ。○[易]「雲行━施、品物流レ形」。
(梅雨) ながあめ。○[禮]「三日已往爲━━」。
(長雨) 前に同じ。○[禄蒼]「━━之候」。
(好雨) 時をよく時によろしきあめ。○[徐璣]「昨夜新雨━━」。
(時雨) 前に同じ。○[詩]「天降━━」。
(甘雨) 人の望みたる時に降るあめ。○[詩]「以祈━━」。
(細雨) 多きことに喩へていふ語。○[詩]「其從━━」。
(膏雨) 穀物を肥す雨。○[左]「如二百穀之仰一レ━」。
(苦雨) 人を苦しましむる雨、ながあめ。○[禮]「━━數來」。
(淫雨) 降れざる雨、ながあめ。○[禮]「━━早降」。

【雨】ウ、チ。王遇切　遇

㊀あめ雪などの下るにいふ字。あめふる。ふる。○〔詩〕「—我公田」。㊁あめ雪などを下す。ふらす。○〔詩〕「—レ雪其雰」。

二畫

【雩】タウ、チヤウ。敕庚切　庚

あめふる（雨）。

三畫

【雲】ウン、チ。羽俱切　虞

夏日に雨をふらさんと天に請ふ祭。あまごひ。○〔禮〕「仲夏大—」。

【雲】ウ、羽俱ク、況于チ、汪胡キヨ、休居コ。切　虞

—麓は、地の名。

【雪】ウ、チ。王遇切　遇

にじ。虹。○〔爾雅〕「蝃蝀謂之—」。

【雩】ユ、チ。羽俱切　虞

雩に同じ。

【雹】サン、桑感ソン。切　感　サン、所成セン。切　咸

小雨ごさめ。

【雷】ライ、魯回レ。切　灰　説文「从雨畾聲、畾象回轉形。」

雨の聲にいふ字。

【雹】ホウ、匹九フ。切　有　房尤切　尤

きり（霧）。

【雺】ム、ボ。莫浮切　虞

雨の貌。

【雰】フン、ホン　符分切　文

霧氣。

【雱】エイ、烏邁ヤウ。切　泰　同　于平切　庚

深き池。

【雱】ハウ。普郎切　陽

雪の盛んなる貌にいふ字。○〔詩〕「雨雪其—」。

【雰】フン、ホン。敷文切　文

㊀霧氣、きり。○〔郭璞〕「覩—炎—」。㊁霧のふる貌にいふ字。○〔詩〕「雨——」。㊂また〔霜〕。○〔釋名〕「凝—氣著草木上遇レ寒凍、色白曰レ—」。

【雲】ウン、王分切　文　（説文「从雨云聲、象回轉形。」）

㊀蒸氣の冷えあつまりて空中に浮び漂ふものぐも。○〔易〕「—行雨施」。㊁高きと又は高き所の義に借りいふ字。○〔後漢〕「—車十餘丈、轢二臨城中一」。

【雷】ライ、魯回レ。切　灰　説文「从雨畾聲、畾象回轉形。」

雨の貌にいふ字。

【雹】ホウ、匹九フ。切　有　房尤切　尤

きり（霧）。

【雺】ム、ボ。莫浮切　虞

雨の貌。

【雰】フン、ホン　符分切　文

霧氣。

【雱】エイ、烏邁ヤウ。切　泰　同　于平切　庚

深き池。

【雱】ハウ。普郎切　陽

雪の盛んなる貌にいふ字。○〔詩〕「雨雪其—」。

【雰】フン、ホン。敷文切　文

㊀霧氣、きり。○〔郭璞〕「覩—炎—」。㊁霧のふる貌にいふ字。○〔詩〕「雨——」。㊂また〔霜〕。○〔釋名〕「凝—氣著草木上遇レ寒凍、色白曰レ—」。

【雰】フン、ホン　符分切　文

霧氣。

【雱】エイ、烏邁ヤウ。切　泰　同　于平切　庚

深き池。

【雱】ハウ。普郎切　陽

雪の盛んなる貌にいふ字。○〔詩〕「雨雪其—」。

【雰】フン、ホン。敷文切　文

㊀霧氣、きり。○〔郭璞〕「覩—炎—」。㊁霧のふる貌にいふ字。○〔詩〕「雨——」。㊂また〔霜〕。○〔釋名〕「凝—氣著草木上遇レ寒凍、色白曰レ—」。

【雲】ウン、王分切　文　（説文「从雨云聲、象回轉形。」）

㊀蒸氣の冷えあつまりて空中に浮び漂ふものぐも。○〔易〕「—行雨施」。㊁高きと又は高き所の義に借りいふ字。○〔後漢〕「—車十餘丈、轢二臨城中一」。

【雷】ライ、魯回レ。切　灰　説文「从雨畾聲、畾象回轉形。」

雨の聲にいふ字。

【雹】ホウ、匹九フ。切　有　房尤切　尤

きり（霧）。

【雺】ム、ボ。莫浮切　虞

雨の貌。

【雰】フン、ホン　符分切　文

霧氣。

【雱】エイ、烏邁ヤウ。切　泰　同　于平切　庚

深き池。

【雱】ハウ。普郎切　陽

雪の盛んなる貌にいふ字。○〔詩〕「雨雪其—」。

【雰】フン、ホン。敷文切　文

㊀霧氣、きり。○〔郭璞〕「覩—炎—」。㊁霧のふる貌にいふ字。○〔詩〕「雨——」。㊂また〔霜〕。○〔釋名〕「凝—氣著草木上遇レ寒凍、色白曰レ—」。

【雲】ウン、王分切　文　（説文「从雨云聲、象回轉形。」）

㊀蒸氣の冷えあつまりて空中に浮び漂ふものぐも。○〔易〕「—行雨施」。㊁高きと又は高き所の義に借りいふ字。○〔後漢〕「—車十餘丈、轢二臨城中一」。

【雷】ライ、魯回レ。切　灰　説文「从雨畾聲、畾象回轉形。」

雨の聲にいふ字。

【雹】ホウ、匹九フ。切　有　房尤切　尤

きり（霧）。

【雺】ム、ボ。莫浮切　虞

雨の貌。

【雰】フン、ホン　符分切　文

霧氣。

【雱】エイ、烏邁ヤウ。切　泰　同　于平切　庚

深き池。

【雱】ハウ。普郎切　陽

雪の盛んなる貌にいふ字。○〔詩〕「雨雪其—」。

【雰】フン、ホン。敷文切　文

㊀霧氣、きり。○〔郭璞〕「覩—炎—」。㊁霧のふる貌にいふ字。○〔詩〕「雨——」。㊂また〔霜〕。○〔釋名〕「凝—氣著草木上遇レ寒凍、色白曰レ—」。

【雲】ウン、王分切　文　（説文「从雨云聲、象回轉形。」）

㊀蒸氣の冷えあつまりて空中に浮び漂ふものぐも。○〔易〕「—行雨施」。㊁高きと又は高き所の義に借りいふ字。○〔後漢〕「—車十餘丈、轢二臨城中一」。

【雷】ライ、魯回レ。切　灰　説文「从雨畾聲、畾象回轉形。」

雨の聲にいふ字。

【雹】ホウ、匹九フ。切　有　房尤切　尤

きり（霧）。

【雺】ム、ボ。莫浮切　虞

雨の貌。

（語音）腹のすきて鳴るおと。○（轉音）二酔鳴日午轉ー一。
（集韻）いかづち。○（廣）ー一鰐詩萬旦ー。
（廣韻）盛んになりともろくいかづち。○（韻）ー北ー在南山之陽ー。（韻）名ー一姜ー。
（韻會）なるかみの災をよく。○（集韻）有白石

雷 雲に同じ。○〔國〕ガー一氏之紡ー。

雷 ライ、レ。盧對切 隊
㊀石を推して高きより下す、ころばす。○〔周註〕「椎ー椎椋之屬」。
㊁鼓を撃つと。○〔古樂府〕「官家出遊ー天鼓ー」。

雷 ルイ。雲水切 紙
前條の㊀に同じ。

晉 ガン、ゴン。五甘切 覃
ふも、（轉）。

雯 フツ、ホチ。分物切 物
雨ふる貌にいふ字。

雹 ホク、蒲角 屋 ボク。切 ホク、蒲沃 沃 ボク。切
雨の凍りてふれるもの、ひさめ、あられ雨氷。○〔禮〕「仲夏行ー冬、令」則ー凍傷ー殺。
（韻會）えもいわれぬ。○（綱目）「春以降ー一。
（韻會）あられ。○（字彙）「星隕ー一地。
（韻會）はげしくこびりつきはなれぬこと。○（六書故）「晶瑩堅白ー一。
（前條）おはなれを上ちす。○（左）「大ー一。
（前條）おはなれじ。○（萬葉）「集ー一。

雾 雰に同じ。

雰 フン、ホチ。敷勿切 物

沫 ボク、モク。莫卜切 屋
霧ーはこさめ。

雰 フン、ア。縛謀切 尤
雪ふる貌にいふ字。

霑 チン、ヂン。直深切 侵
久しく陰ろ、くもる。

霞 エキ、ヤク。營隻切 陌
大雨おほあめ。

霖 サク、シヤク。色實切 陌
小雨の雰つる貌にいふ字、こまめふる。

霓 セン。孫甸切 霰
冰露雜はり下れるもの、あられ。○〔爾〕「雨ー爲ニ霄ー雪ニ」。

霄 セウ。相邀切 蕭
㊀冰露雜はり下る、あられ。○〔爾〕「雨、覓爲ニ一雪ニ」。
㊁上天の雲氣。○〔揚雄〕「騰ニ清ー一而軼ニ浮景ニ」。
㊂高峻の貌にいふ字、たかし。○〔雅〕「籐絛ー一旌」。
㊃天上、そら。○〔採器之之〕「絳ー雲在レ」。
（陸雲）（小花の名、のうぜんかづら。○宋玉園賦）「ー一花多生山中」。
（ろ）おはそらの意。○（爾）「雨ー一晴」。
（雪雅）おはそら。○（爾）「雨ー一晴」。
（九雅）おはそら。○（雅疏）「志氣ー一」。
（韻會）おはそら。○（字彙）「御ー一近」。
（集韻）おはそら。○前條の「疾雷ー一」。

霄 ヘイ、ヒヤウ。滂丁切 青
雨ふる貌にいふ字。

霆 テイ、チヤウ。特丁切 青
㊀雷の餘聲、いかづち、一說に疾雷、ときいかづち。○〔易〕「鼓レ之以ニ雷ー一」。
㊁いなびかり〔電〕。○〔穀梁〕「電ー也」。
（說雅）ときいかづち。○（後漢）「春風ー一」。
（雪雅）はげしきいかづち。○（梅磨呂）「所向若ー一」。
（說雅）ときいかづちて威力に強くていふ語。○（後漢）「ー一行ー鬼雷ニ」。
（雪雅）いなびかり又いかづちといなびかりと。○（後漢）「ー一」。
（前條）ときいなびかり。○（前條）「摩ー一」。
（前條）ときいかづち。

霆 テイ、ヂヤウ。徒徑切 徑
迅雷、いかづち。

震 シン。章刃切 震
㊀いかづち〔雷〕。○〔詩〕「爆ヶ一電」。
㊁易の卦、☳下 ☳上。○〔易〕「萬物出ニ乎ー一」。
㊂ふるふ。
（いいかづちの激撃にいふ字、いかづちの撃下にいふ字。○〔左〕「ニ夷伯之廟ニ、「ー一震朕師ニ」。
（ろ）うごく、うごかす〔動〕。○〔書〕「ー一動ニ百里ー」。
（は）おそる〔懼〕。○〔易〕「洊ー雷ー君子以恐懼修省」。
（に）おどろく〔驚〕、なのゝく〔戰〕。○〔楚辭〕「宮ー庭ー寶」。
（ほ）をどす〔威〕、いかる〔怒〕。○〔詩〕「王奮ニ厥武ー如レ一如レ怒」。
（へ）たゝかふ〔狩〕。○〔公羊〕「桓公ー而狩レ之」。
（と）おこる、おこす〔起〕。○〔易、傳〕「一起也」。
（ち）威力の振張にいふ字。○〔國〕「君之武ー」。
㊃はらむ〔娠〕。○〔詩〕「載ー載ー夙」。
㊄ふるふ貌にいふ字。○〔後漢〕「ー一于雷霆ニ」。
㊅光明なる貌にいふ字。○〔西都賦〕「ー一煇々」。
㊆盛んなる貌にいふ字。○〔羅田賦〕「ー一壎々」。
（雪雅）いかづち。○（爾）「長之如ー一」。
（旭雅）地のよるひるくもりしん。○（左）「辛酉ー一」。
（雪雅）ときれいふ。○（國）「馬黃脊伏貫下ー一」。
（前條）ときれいふ。○（後漢）「引銘ー一」。

震 娠に同じ。

霈 ハイ。普蓋切 泰

霈 サク、シヤク。色實切 陌
霰雨、ながあめ。

霍 カイ、ゲ。五佳切 佳
雨の聲にいふ字。

霖 シン、ヅ 才資切 脂
㊀大雨おほあめ。㊁雨の聲にいふ字。

霄 カフ、ケフ。俠夾切 洽
㊀洽に同じ、あまねし。
㊁うるほふ〔潤〕。

霉 フク。盧各切 鐸
雨雰つ、おつふる。

舟 ″ワイ、エ。胡卦切 卦
海ノ松。

霊 テイ、ダイ。杜奚切 齊
㊀雲ろゝ雲。㊁雨止むはる。

霑 イン。於刃切 震
氣の流行するにいふ字。

羽 ウ、王矩 麌 チ。王遇 遇 切
水の音にいふ字、又羽の聲にいふ字。

霁 ハウ、ヒヤウ。北靜切 梗
雪の聲にいふ字。

雷 古文の雷の字。

雾 カ、チ。憧俱切 虞
雨ふる貌にいふ字。

霈 ハイ、普蓋切 泰
霈に同じ。

霏 ホウ、ム。莫紅切 東
蒸氣濕りて地に近づき空開きとゝきりぐもり。○〔爾〕「天氣下地氣不レ應曰レ一」。

霧 ボウ、ム。莫綜 宋 切 莫候 宥 切
霧に同じ。

霧 ブ、ム。亡遇切 遇
露に同じ、きり。

霹 サク、シヤク。側格切 陌
雨ふる貌にいふ字。

雹 ホツ、ホチ。普沒切 月
雲の起こる貌にいふ字。

電 テン、デン。堂練切 霰
空中の陰陽兩氣の相激する際に發閃する光、いなづま、いなびかり。○〔春秋〕「大ー雨震ー一」。
（前條）ひらめくいなづま。○（爾）「疾ー一」。
（雪雅）前條に同じ。○又心即電「智當如ー一」。
（說雅）はやきいなづま。○（六韜）「ー一不及」。
（集韻）はげするとはやきにいふ語。○（前條）「迅風ー一」。
（前條）めでたきえゝこのいなづま。○（三教論衡）「ー一與ニ雨ニ」。

雷 タウ、ダウ。徒浪切 漾
洞屋、ほらあな。

雾 ケン、ゲン。切 ケイ、ゲ。疑皆 佳 切
雨ふる貌にいふ字。

霈 サク、シヤク。色實切 陌
雨雰ながあめ。

霍 カイ、ゲ。五佳切 佳
雨の聲にいふ字。

霖 シン、ヅ 才資切 脂
㊀大雨おほあめ。㊁雨の聲にいふ字。

霄 カフ、ケフ。俠夾切 洽
㊀洽に同じ、あまねし。
㊁うるほふ〔潤〕。

霧 フク。盧各切 鐸
雨雰つ、おつふる。

舟 ″ワイ、エ。胡卦切 卦
海ノ松。

霊 テイ、ダイ。杜奚切 齊
㊀雲ろゝ雲。㊁雨止むはる。

霑 イン。於刃切 震
氣の流行するにいふ字。

羽 ウ、王矩 麌 チ。王遇 遇 切
水の音にいふ字、又羽の聲にいふ字。

霁 ハウ、ヒヤウ。北靜切 梗
雪の聲にいふ字。

雷 古文の雷の字。

雾 カ、チ。憧俱切 虞
雨ふる貌にいふ字。

霈 ハイ、普蓋切 泰
霈に同じ。

霏 ホウ、ム。莫紅切 東
蒸氣濕りて地に近づき空開きとゝきりぐもり。○〔爾〕「天氣下地氣不レ應曰レ一」。

霧 ボウ、ム。莫綜 宋 切 莫候 宥 切
霧に同じ。

霧 ブ、ム。亡遇切 遇
露に同じ、きり。

霹 サク、シヤク。側格切 陌
雨ふる貌にいふ字。

雹 ホツ、ホチ。普沒切 月
雲の起こる貌にいふ字。

電 テン、デン。堂練切 霰
空中の陰陽兩氣の相激する際に發閃する光、いなづま、いなびかり。○〔春秋〕「大ー雨震ー一」。
（前條）ひらめくいなづま。○（爾）「疾ー一」。
（雪雅）前條に同じ。○又心即電「智當如ー一」。
（說雅）はやきいなづま。○（六韜）「ー一不及」。
（集韻）はげするとはやきにいふ語。○（前條）「迅風ー一」。
（前條）めでたきえゝこのいなづま。○（三教論衡）「ー一與ニ雨ニ」。

雷 洞屋、ほらあな。

雾 ケン、ゲン。切 ケイ、ゲ。疑皆 佳 切
雨ふる貌にいふ字。

霈 サク、シヤク。色實切 陌
雨雰ながあめ。

霍 カイ、ゲ。五佳切 佳
雨の聲にいふ字。

霖 シン、ヅ 才資切 脂
㊀大雨おほあめ。㊁雨の聲にいふ字。

霄 カフ、ケフ。俠夾切 洽
㊀洽に同じ、あまねし。
㊁うるほふ〔潤〕。

霧 フク。盧各切 鐸
雨雰つ、おつふる。

舟 ″ワイ、エ。胡卦切 卦
海ノ松。

霊 テイ、ダイ。杜奚切 齊
㊀雲ろゝ雲。㊁雨止むはる。

霑 イン。於刃切 震
氣の流行するにいふ字。

羽 ウ、王矩 麌 チ。王遇 遇 切
水の音にいふ字、又羽の聲にいふ字。

霁 ハウ、ヒヤウ。北靜切 梗
雪の聲にいふ字。

雷 古文の雷の字。

雾 カ、チ。憧俱切 虞
雨ふる貌にいふ字。

霈 ハイ、普蓋切 泰
霈に同じ。

霏 ホウ、ム。莫紅切 東
蒸氣濕りて地に近づき空開きとゝきりぐもり。○〔爾〕「天氣下地氣不レ應曰レ一」。

霧 ボウ、ム。莫綜 宋 切 莫候 宥 切
霧に同じ。

霧 ブ、ム。亡遇切 遇
露に同じ、きり。

霹 サク、シヤク。側格切 陌
雨ふる貌にいふ字。

雹 ホツ、ホチ。普沒切 月
雲の起こる貌にいふ字。

電 テン、デン。堂練切 霰
空中の陰陽兩氣の相激する際に發閃する光、いなづま、いなびかり。○〔春秋〕「大ー雨震ー一」。
（前條）ひらめくいなづま。○（爾）「疾ー一」。
（雪雅）前條に同じ。○又心即電「智當如ー一」。
（說雅）はやきいなづま。○（六韜）「ー一不及」。
（集韻）はげするとはやきにいふ語。○（前條）「迅風ー一」。
（前條）めでたきえゝこのいなづま。○（三教論衡）「ー一與ニ雨ニ」。

雷 洞屋、ほらあな。

雾 ケン、ゲン。切 ケイ、ゲ。疑皆 佳 切
雨ふる貌にいふ字。

一大雨、おほあめ、又、雨の多き貌にいふ字。○〔風俗通〕「大-雨霪-霪」。二水の流るゝ貌にいふ字、又、澤多き貌にいふ字。○〔獨孤及〕「雲-雨流-霪」。三物の興こる聲にいふ字。○〔宋玉〕「雲興、聲之霪-霪」。
〔霪霪〕雨多き貌にいふ語。○〔劉禹錫〕「入-閩巳-霪-霪」。
〔甘霪〕[illegible]しき時にふる雨。○〔沈約〕「[illegible]」「之流-盈」。
〔愁霪〕計なき思ひを雨に喩へていふ語。○〔張[illegible]〕「—-—及雅方」。

【霉】バイ、メ。莫裴切 灰 つゆのあめ、（梅雨）。

【[illegible]】ボツ、モチ。名勃切 月 雨下る、ふる。

【[illegible]】ス井。宣隹切 支 小雨の貌にいふ字、こさめふる。

八畫

【[illegible]】タ。都果切 哿 雲の旗がらざると。

【電】電の本字。

【[illegible]】サン、セン。所咸切 咸 微雨、ぬかあめ、又、雨の貌にいふ字。

【[illegible]】セン、ソン。子廉切 鹽 ひたす、（潰）。

【霋】セイ、サイ。七稽切 齊 一はる、（霽）。二雲の行く貌にいふ字。

【[illegible]】コチ、コチ。呼骨切 月 あめふる、又、雨の貌にいふ字。

【[illegible]】シヤウ、サウ。仕莊切 陽 急雨、にはかあめ。

【[illegible]】セフ。息葉切 葉 雪ふる貌にいふ字。

【[illegible]】サク、シヤク。山責切 陌 一あめ、（雨）。二あられ、（霰）。

【[illegible]】セキ、シヤク。先的切 錫 一小雨、こさめ。二霰ふる貌にいふ字。

【[illegible]】アン、オン。烏感切 感 雲氣、又、雲氣の盛んなると。

【[illegible]】エン。衣檢切 琰 雲の狀にいふ字。

【[illegible]】シウ、シユ。職由切 尤 雲雨の貌にいふ字。

【[illegible]】タン、ダン。徒官切 寒 露多し。

【霍】クワク、ワク。虛郭切 藥 一猝遽、急疾、にはか、とし。○〔枚乘〕「—-然病巳」。二釋け散る貌にいふ字。○〔荀〕「—-焉離耳」。三盛んなる貌にいふ字。○〔琴賦〕「—-濩紛-葩」。四大山の小山を繞れる稱。○〔爾〕「大-山宮ニ小-山ニ—」。五衡山の別名。○〔爾〕「—-山南-嶽」。六國の名。○〔左〕「滅レ—」。七邑の名。○〔公羊〕「會ニ于—ニ」。八藿に通じ用ふ、まめのは。○〔漢〕「㮚-酒—肉」。
〔揮霍〕疾き貌にいふ語。○〔陸機〕「紛紜—-—」。
〔霍霍〕前に同じ、又一說に、閃き合ふ貌にいふ語。○〔楊雄〕「雷-轟—-—」。

【[illegible]】ラク。歷各切 藥 一種の草、まろをはち。

【[illegible]】サ。山寡切 哿 —人は、地の名。○〔史〕「降ニ下—-人ニ」。

【霎】サフ、セフ。山洽切 洽 セフ。子葉切 葉 小雨、こさめ、又、雨の聲にいふ字。○〔孟郊〕「昨-夜一-—雨」。
〔霎々〕雨の聲にいふ語。○〔韓愈〕「宮寒—-—風」。

【[illegible]】サフ、ソフ。悉合切 合 霅に同じ。

【霏】ヒ。芳非切 微 一雪ふる貌にいふ字。○〔詩〕「雨-雪—-—」。二すべて細碎（こまか）なるものゝ數多く下れる貌にいふ字。○〔晉〕「木-屑—-—不レ絕」。三雲の起これる貌にいふ字、雲の飛ぶ貌にいふ字。○〔揚雄〕「雲—-—而來迎」。四烟のたなびく貌にいふ字、氛の立ちのぼる貌にいふ字。○〔晉〕「烟—-霧結」。五きり、もや、（氛）。○〔歐陽修〕「日出而林—-開」。
〔霏霏〕けむり飛ぶ、又、烟の如くに飛散す。○〔[illegible]〕「雪—-—雨散」。
〔夕霏〕ゆふがすみ、ゆふぎり。○〔謝靈運〕「雲-霞收ニ—-—ニ」。
〔[illegible]霏〕雪などのかろく飛びちるにいふ語。○〔[illegible]〕「飛雪—-—」。
〔晨霏〕あさぎり。○〔洪適〕「—-—夕霞」。
〔水霏〕水面を籠むるもや。○〔文選〕「暖煙—-—」。

【[illegible]】ホウ。北朋切 蒸 一大雨、おほあめ。二くらし、（懵）。○〔乾坤鑿度〕「氣-分萬-—」。

【[illegible]】セイ、シヤウ。親盈切 庚 女神の名。

【[illegible]】ケン、ゲン。胡畎切 銑 露の貌にいふ字。

【[illegible]】ワウ、ヲウ。烏宏切 庚 幽深なる貌にいふ字、おくふかし。○〔王延壽〕「—-窱以峥-嶸」。

【霑】テン、トン。張廉切 鹽 うるほふ、うるほす。(い)ぬるゝ、ぬらす、（濡）、まめる、まめす、（漬）。○〔禮〕「雨—レ服」。(ろ)仁惠を受く、仁惠を布く。○〔揚雄〕「仁—而恩洽」。
〔普霑〕ねくうるほす。○〔高僧傳〕「大雨—-—」。
〔[illegible]霑〕うるほふ。○〔[illegible]〕「花枝—-—紅杏雨」。

【霒】古文の陰の字。

【霓】ゲイ、ガイ。五雞切 齊 五計切 霽 ゲツ、ゲチ。五結切 屑 蜺に同じ、にじ。○〔孟子〕「若ニ大-旱之望ニ雲-霓ニ」。

〔[illegible]霓〕[illegible]にいふ語。○〔[illegible]〕「[illegible]—-—以高[illegible]」。
〔白霓〕白色の虹。○〔列〕「化-爲ニ—-—」。
〔雲霓〕前に同じ。○〔魏文帝〕「白-虹若ニ—-—」。
〔[illegible]霓〕溪谷の間に現はれたるにじ。○〔孫楚〕「行-今陽—-—」。
〔紳霓〕赤色の虹。○〔江淹〕「因-昇ニ—-—」。
〔紅霓〕前に同じ。○〔七啓〕「俟-晩-懷-成ニ—-—」。
〔斷霓〕中途に切れたるにじ。○〔韋應〕「—-—飲-澗」。

【霔】シユ、ス。之戍切 遇 —霔は、ながあめ。

【[illegible]】トン、ドン。徒昆切 元 雲の大いなる貌にいふ字。

【霖】リン。力尋切 侵 一三日以上ふりつゞく雨、ながあめ、久雨。○〔書〕「用レ汝作ニ—-雨ニ」。二あめのふりつゞく貌にいふ字。○〔蔡邕〕「懸ニ長-雨之—-—ニ」。
〔淫霖〕ながあめ。○〔宋書〕「—-—隔ニ秋-霖ニ」。
〔陰霖〕前に同じ。○〔水經、註〕「—-—不レ止」。
〔積霖〕前に同じ。○〔晉書〕「—-—彌ニ旬-日ニ」。
〔[illegible]霖〕前に同じ。○〔林宣〕「—-—毀ニ日月ニ」。
〔[illegible]霖〕前に同じ。○〔張協〕「—-—靡ニ秋-旬ニ」。
〔秋霖〕あきの季節にふりつゞく雨。○〔賈島〕「孤-館坐ニ—-—ニ」。
〔春霖〕春雨の久しくはれざるをいふ。○〔錢起〕「—-—絕未通」。
〔梅霖〕さみだれ、梅雨。○〔韓翊〕「不レ道—-—長」。
〔甘霖〕このましき時にふる雨。○〔桑悅〕「—-—被ニ郊-原ニ」。
〔膏霖〕田野をこやす雨。○〔張說〕「永夕懷ニ—-—」。
〔扶霖〕前に同じ。○〔[illegible]〕「—-—[illegible]」。
〔霖々〕雨のふる貌にいふ語。○〔都穆〕「雨—-—雨又下」。

【雴】ラフ、ロフ。落合切 合 雨の聲にいふ字。

【[illegible]】雪に同じ。

【[illegible]】タイ、デ。徒奈切 隊 雲の狀にいふ字。

九畫

【[illegible]】ウ、チ。王矩切 麌 雨の聲、又、雨ふる貌にいふ字。

【[illegible]】コ、ク。火五切 麌 ク、コ。呼句切 遇 あめ、（雨）。

【[illegible]】ウ、チ。王遇切 遇 一のぶ、（舒）。二雨ふる貌にいふ字。

【[illegible]】セン、チン。而琰切 琰 而豔切 豔 うるほす、うるほふ、（沾）。

【[illegible]】ア、エ。烏瓜切 麻 蹄の涔、たまりみづ。

【[illegible]】ハツ、バチ。蒲撥切 曷 雲のたつ貌にいふ字。

【[illegible]】タイ、ダイ。徒耐切 隊 雲のたなびく貌にいふ字。

【霙】エイ、ヤウ。於驚切 庚 雨雪雜はり下れるもの、みぞれ、あられ。○〔蘇軾〕「晩-雨纖-々、變ニ玉—ニ」。

【[illegible]】アウ、ヤウ。於良切 陽 白き雲の貌にいふ字。

【[illegible]】[illegible]に同じ。○〔謝惠連〕「連-氣累—」。

【霅】サフ、セフ。側洽切 洽 タフ、テフ。竹洽切 洽 大雨、おほあめ。

【[illegible]】コウ、グ。胡溝切 尤 雨。

【[illegible]】タン、ドン。徒感切 感 —[illegible]は、雲の貌にいふ語。

【[illegible]】ハク。匹各切 藥 カク、キヤク。古核切 陌 一雨革を濡す、ぬらす。二雨。

【雰】フン、ホン。芳文切 文 一きり、（霧）。二雪ふる貌にいふ字。

【霜】サウ。所莊切 陽 色壯切 漾 一露の凝りて白くなれるもの、しも。○〔易〕「履レ—堅-氷至」。二年を歷ると。○〔李白〕「三-千—-—」。三毛髮などの白きにいふ字。○〔李白〕「陛-下之霜」。○〔李白〕「不レ知明-鏡裏何處得ニ秋-—ニ」。
〔雨霜〕きびしきしも。○〔詩〕「九-月—-—」。
〔嚴霜〕前に同じ。○〔漢〕「成—-—之誅」。
〔繁霜〕深くおくしも。○〔詩〕「正-月—-—」。
〔風霜〕かぜとしも。○〔後漢〕「—-—以別ニ草木性ニ」。
〔朝霜〕あさがたのしも。○〔左思〕「白-露[illegible]—-—」。
〔晴霜〕前に同じ。○〔謝靈運〕「—-—楓-葉丹」。
〔晨霜〕前に同じ。○〔王勃〕「鵲-々—-—結」。
〔寒霜〕さむけなるしも。○〔鮑照〕「冬-夏[illegible]—-—」「被」。
〔清霜〕きよらかなるしも。○〔[illegible]〕「—-—大[illegible]」。
〔[illegible]霜〕うすきしも。○〔[illegible]〕「—-—中夜下」。
〔微霜〕前に同じ。○〔曹植〕「—-—沾ニ人衣ニ」。
〔薄霜〕前に同じ。○〔[illegible]〕「—-—[illegible]」。
〔雪霜〕雪霜の白きをしもに見立てゝいふ語。○〔[illegible]〕「—-—[illegible]」。
〔隕霜〕しものおくこと。○〔春秋〕「十月—-—」。
〔降霜〕前に同じ。○〔禮〕「[illegible]—-—」。「晩霜」。
〔早霜〕季節より早くおくしも。○〔易林〕「—-—」。

【霝】レイ、リヤウ。郎丁切 青 一おつ、ふる、（零）。○〔詩〕「—-雨其濛」。二靈に通じ用ふ。○〔石鼓文〕「—-雨奔[illegible]」。

【霞】カ、ゲ。胡加切 麻 一日光の雲氣に滯りて赤色の空にたなびくもの、あさやけ、ゆふやけ、かすみ。○〔張衡〕「掃ニ朝—ニ」。二遐に通じ用ふ、はるか。○〔楚辭〕「載ニ營-魄ニ而登—」。三蝦に通じ用ふ、えび。○〔吳越春秋〕「啄レ—矯ニ兮翮雲間ニ」。
〔雲霞〕くものと。○〔南〕「何[illegible]不レ出ニ—-—之上ニ」。
〔彩霞〕うつくしきいろの雲氣。○〔江淹〕「[illegible]—-—」。
〔飛霞〕みはそらにたなびきわたる雲氣。○〔[illegible]〕「—-—成ニ彩ニ」。
〔丹霞〕日傍のあかきいろの雲氣。○〔江淹〕「—-—蔽ニ陽景ニ」。
〔赤霞〕前に同じ。○〔[illegible]〕「[illegible]」。
〔紫霞〕前に同じ。○〔[illegible]〕「[illegible]」。
〔綺霞〕前に同じ。○〔宋孝武帝〕「[illegible]」。
〔紅霞〕前に同じ。○〔江淹〕「—-—旦夕生」。
〔晨霞〕あかつきにたなびく赤雲の氣、あさがすみ。○〔[illegible]〕「[illegible]」。
〔晩霞〕前に同じ。○〔李商隱〕「心々待ニ—-—」。
〔暮霞〕ゆふがすみ。○〔江淹〕「綺-曲生ニ—-—」。
〔夕霞〕前に同じ。○〔唐太宗〕「爛-大散ニ—-—」。
〔[illegible]霞〕うつくしき色の彩雲。○〔梁昭明太子〕「—-—[illegible]-水」。

【增韻】ゆふやけの雲焉。○雘本祝融時自—出。

霞 キ。胡鬼切 尾

雲の聲にいふ字。

霊 イン、オン。於金切 侵

雲の日を覆ふにいふ字、くもる、くもり。○〔宋玉〕「露—喧而莫ノ遂」。

霆 テキ、ヂヤク。徒歷切 錫

雨ふる。

霌 トク、ドク。徒沃切 沃

雨ふろ祝にいふ字。

十畫

霧 チウ、ク。鄭孔切 送

雲のたなびく祝にいふ字。

霤 カン、ゴン。胡男切 覃

久雨、ながあめ。

霣 シ。部夷切 支

雨の聲にいふ字。

霖 チン、ヂン。直吝切 震

くも（雲）。

霙 ベキ、ミヤク。莫狄切 錫

—霰は、小雨、こさめ、又、こさめの降る祝にいふ語。○〔詩〕「益ノ以ニ—一霰ニ」。

霰 霙の本字。

霏 ヒ。非尾切 尾

雲の祝にいふ字。

霎 ル、ロ。陸主切 遇

雨ふろ祝にいふ字。

霄 サク　シヤク。側革切 陌

雨ふる祝にいふ字。

霑 ホツ、ボチ。蒲沒切 月

雲の祝にいふ字。

霂 テン。都念切 豏 トフ。切 葉

㊀さむし（寒）。㊁早き霜。

霜 チフ。陟立切 緝

少しく濕ふ、まめる。

霄 霄に同じ。

霽 雲の本字。○〔埤雅〕「雪从ノ彗、若ノ彗」。

霾 バウ、マウ。毋期切 灰

雲の色にいふ字。

霪 イン。餘針切 侵

十日以上の久雨、ながあめ。○〔淮二〕「沐二浴一雨二」。

霈 ダン、ナン。尼成切 咸

どろ（泥）、ぬかるみ（潦）。

霍 ダン、ドン。徒感切 覃

雲の消ゆるにいふ字、とく、又、〔開顯の祝にいふ字、ほがらか。○〔淮〕「道始二於虛一一」。

霏 ヒ。非尾切 尾

雲の祝にいふ字。

霎 ル、ロ。陸主切 遇

雨ふろ祝にいふ字。

霄 サク　シヤク。側革切 陌

雨ふる祝にいふ字。

霑 ホツ、ボチ。蒲沒切 月

雲の祝にいふ字。

霂 テン。都念切 豏 トフ。切 葉

㊀さむし（寒）。㊁早き霜。

霜 チフ。陟立切 緝

少しく濕ふ、まめる。

霄 霄に同じ。

霽 雲の本字。○〔埤雅〕「雪从ノ彗、若ノ彗」。

霾 バウ、マウ。毋期切 灰

雲の色にいふ字。

霪 イン。餘針切 侵

十日以上の久雨、ながあめ。○〔淮二〕「沐二浴一雨二」。

霈 ダン、ナン。尼成切 咸

どろ（泥）、ぬかるみ（潦）。

霍 ダン、ドン。徒感切 覃

【增韻】ながあめ。○實昌二一一一雨雪。【字彙】雲の祝にいふ字。○〔淮〕「道始二於虛一一」。

霰 ダン、度官切 寒 セン、蠶兗切 銑

雲の祝にいふ字。

霖 サウ、ソウ。仕巷切 絳

雨ふる祝にいふ字。

霊 ロク。盧谷切 屋

大雨、おほあめ、又、暴雨、にはかあめ。

霤 シフ。先立切 緝

㊀雨ふる祝にいふ字。㊁姜—は、東北の爽の名。

霄 シフ。似入切 緝

霧 ㊀霊—は、大雨、おほあめ。㊁白—は、北狄の國の名。

霞 ハウ。普郎切 陽

—霈は、大雨、おほあめ。

霑 霈に同じ。○〔乾坤鑿度〕「一一、泊之一」。

十一畫

靄 靉に通じ用ふ。

靉 チウ、チユ。陟弓切 東

氣の往來するさま。○〔莱聞〕「陰—陽—」。

靄 ロ、ル。落故切 遇

雲の凝りて珠の如き津となれるもの、つゆ。○〔禮〕「孟秋白—降」。㊁うるほす、うるほふ（潤）。○〔漢〕「霑二—萬民一」。㊂あらはる、あらはす（いへ外表に出見す。外表に出見せしむ。○〔禮〕「底物—生」。（ろ）おほびなし、かこびなし。○〔荀〕「都邑—」。㊃外に在り、外に置くさる、さらす。○〔戰〕「見二齊之罷一一」。

靉 ダン、ドン。徒感切 覃

雲の起こる祝にいふ字。

靆 ダイ、徒冏切 灰

㊀かくる（隱）。㊁いかづち（雷）。

靇 コン。公渾切 元 ケン、王問切 問

いかづち（雷）。

靈 ツヰ。陟誰切 支 イ。延知切 支

玉の光れる色にいふ字。

靉 バク、マク。末各切 陌

雨のふる祝にいふ字。

靄 ブ、亡遇切 遇 ボウ、謨蓬切 東 蒙弄切 送

雲の聲にいふ字。

靆 ホウ、ブ。苟遇切 東

雨の聲にいふ字。

靉 レン、離鍵切 銑 ラン、盧含切 豏 ロン。切 董

久雨、ながあめ。

靄 コウ、ク。居候切 宥

大雨、おほあめ。

靉 ボウ、モウ。蒙弄切 送

雲の聲にいふ字。

靆 靆に同じ。

靄 ホウ、ブ。苟遇切 東

雨の聲にいふ字。

靉 ヒン。府巾切 眞

玉の光れる色にいふ字。

靄 バク、マク。末各切 陌

雨のふる祝にいふ字。

靄 ブ、亡遇切 遇 ボウ、謨蓬切 東 蒙弄切 送

雲の聲にいふ字。

靆 ホウ、ブ。苟遇切 東

雨の聲にいふ字。

靉 レン、離鍵切 銑 ラン、盧含切 豏 ロン。切 董

久雨、ながあめ。

靄 コウ、ク。居候切 宥

大雨、おほあめ。

靉 テキ、ヂヤク。徒歷切 錫

雨ふる。

靆 トク、ドク。徒沃切 沃

雨ふろ祝にいふ字。

靄 カン、ゴン。胡男切 覃

久雨、ながあめ。

靉 シ。部夷切 支 ヂ。切 才私

雨の聲にいふ字。

靆 チン、ヂン。直吝切 震

くも（雲）。

靉 ベキ、ミヤク。莫狄切 錫

—霰は、小雨、こさめ、又、こさめの降る祝にいふ語。○〔詩〕「益ノ以ニ—一霰ニ」。

靉 霙の本字。

靉 テキ、ヂヤク。徒歷切 錫

雨ふる。

靉 ベキ、ミヤク。莫狄切 錫

—霰は、小雨、こさめ、又、こさめの降る祝にいふ語。○〔詩〕「益ノ以ニ—一霰ニ」。

靉 霙の本字。

霪 イン。餘針切 侵

十日以上の久雨、ながあめ。○〔淮二〕「沐二浴一雨二」。

霈 ダン、ナン。尼成切 咸

どろ（泥）、ぬかるみ（潦）。

霍 ダン、ドン。徒感切 覃

雲の消ゆるにいふ字、とく、又、〔開顯の祝にいふ字、ほがらか。○〔淮〕「道始二於虛一一」。

霏 ヒ。非尾切 尾

雲の祝にいふ字。

霎 ル、ロ。陸主切 遇

雨ふろ祝にいふ字。

霄 サク　シヤク。側革切 陌

雨ふる祝にいふ字。

霑 ホツ、ボチ。蒲沒切 月

雲の祝にいふ字。

霂 テン。都念切 豏 トフ。切 葉

㊀さむし（寒）。㊁早き霜。

霜 チフ。陟立切 緝

少しく濕ふ、まめる。

霄 霄に同じ。

霽 雲の本字。○〔埤雅〕「雪从ノ彗、若ノ彗」。

霾 バウ、マウ。毋期切 灰

雲の色にいふ字。

霪 イン。餘針切 侵

十日以上の久雨、ながあめ。○〔淮二〕「沐二浴一雨二」。

霈 ダン、ナン。尼成切 咸

どろ（泥）、ぬかるみ（潦）。

霍 ダン、ドン。徒感切 覃

【增韻】ながあめ。○實昌二一一一雨雪。【字彙】雲の祝にいふ字。○〔淮〕「道始二於虛一一」。

霰 ダン、度官切 寒 セン、蠶兗切 銑

雲の祝にいふ字。

霖 サウ、ソウ。仕巷切 絳

雨ふる祝にいふ字。

霊 ロク。盧谷切 屋

大雨、おほあめ、又、暴雨、にはかあめ。

霤 シフ。先立切 緝

㊀雨ふる祝にいふ字。㊁姜—は、東北の爽の名。

霄 シフ。似入切 緝

霧 ㊀霊—は、大雨、おほあめ。㊁白—は、北狄の國の名。

霞 ハウ。普郎切 陽

—霈は、大雨、おほあめ。

霑 霈に同じ。○〔乾坤鑿度〕「一一、泊之一」。

十一畫

靄 靉に通じ用ふ。

靉 チウ、チユ。陟弓切 東

氣の往來するさま。○〔莱聞〕「陰—陽—」。

靄 ロ、ル。落故切 遇

雲の凝りて珠の如き津となれるもの、つゆ。○〔禮〕「孟秋白—降」。㊁うるほす、うるほふ（潤）。○〔漢〕「霑二—萬民一」。㊂あらはる、あらはす（いへ外表に出見す。外表に出見せしむ。○〔禮〕「底物—生」。（ろ）おほびなし、かこびなし。○〔荀〕「都邑—」。㊃外に在り、外に置くさる、さらす。○〔戰〕「見二齊之罷一一」。

靉 ダン、ドン。徒感切 覃

雲の起こる祝にいふ字。

靆 ダイ、徒冏切 灰

㊀かくる（隱）。㊁いかづち（雷）。

靇 コン。公渾切 元 ケン、王問切 問

いかづち（雷）。

靈 ツヰ。陟誰切 支 イ。延知切 支

玉の光れる色にいふ字。

靄 バク、マク。末各切 陌

雨のふる祝にいふ字。

靄 ブ、亡遇切 遇 ボウ、謨蓬切 東 蒙弄切 送

雲の聲にいふ字。

靆 ホウ、ブ。苟遇切 東

雨の聲にいふ字。

靉 レン、離鍵切 銑 ラン、盧含切 豏 ロン。切 董

久雨、ながあめ。

靄 コウ、ク。居候切 宥

大雨、おほあめ。

靉 ボウ、モウ。蒙弄切 送

雲の聲にいふ字。

靆 靆に同じ。

靄 ホウ、ブ。苟遇切 東

雨の聲にいふ字。

靉 ヒン。府巾切 眞

玉の光れる色にいふ字。

靄 バク、マク。末各切 陌

雨のふる祝にいふ字。

靄 ブ、亡遇切 遇 ボウ、謨蓬切 東 蒙弄切 送

雲の聲にいふ字。

靆 ホウ、ブ。苟遇切 東

雨の聲にいふ字。

霽 シン、ジン。時鴆切 沁
雨ふる貌にいふ字。

霖 霖に同じ。

霞 フク。芳福切 屋
水を覆すこぼす。

霎 霖に同じ。

霜 サウ。色莊切 陽
濕に同じ。霜の物を枯らすにいふ字、からす。

十三畫

霓 シフ、ゾフ 助急切 緝
漿聲の疾き貌にいふ字。○〔王褒〕「嘈—啤磤」。

霓 シフ。仕戟切 緝
㊀暴雨の貌にいふ字。
㊁雨下るあめふる。

霓 セン、子廉切 鹽 レン。力驗切 霰
ソン。切 ゼン、莊陷切 豏 セン。子豔切 豔
㊀雨の聲にいふ字。
小雨こさめ。

霑 サン、セン。子鑑切 豏
物を水に入るると。

震 ドウ、奴冬切 冬 ヂョウ、尼容切 鍾
ノウ。切 ニュ。
霧多しもげし。

霈 霈に同じ

霰 ヘキ、ヒヤク。切 匹擊 錫 匹辟 昔
—靂は、急擊せる雷、ときいかづち、疾雷。○〔賈註〕「雷之急擊爲二—靂一」。

霾 ヒ、ミ。無非切 微
小雨こさめ。

十四畫

靄 キ、ケ。虛豈切 尾 許既 未
擊—は、雲の貌にいふ語、雷かならざる貌にいふ語。○〔木華〕「擊二—其形一」。

霽 セイ、サイ。子計切 霽
㊀はる。
（い雲霧散ず雨雪止む。○〔淮二霜雪一〕「霽不レ—」。
（ろ散り止む。○〔嚴忌詩〕「怒者未レ—」。
㊁はれしむ、はらす。○〔漢〕「二威一—」。
〔魏〕あがたより周のにるくも。○〔魏周軒閣〕「—雨軒閣」。

霸 ハク。匹各切 陌
大雨、おほあめ。

霄 クワイ、エ。黃外切 蕭
あめ、雨

霄 ソイ、エ。烏外切 蕭
小さき雲。

霢 シ。卽爽切 支
雨の聲にいふ字。

霣 前條に同じ。

霍 ヨウ、ユ。委勇切 腫
雲の氣。

霧 滂に同じ。

霏 サフ、ソフ。悉盍切 合
雨降る。

霙 ヤウ。余章切 陽
十月の稱。

霸 ハク、ヒヤク。普伯切 陌
魄に同じ、月體に黑點あると。○〔漢〕「死—朔也」。

霸 ハ、ヘ。必駕切 禡

霹 ヘキ、ヒヤク。切 匹擊 錫 匹辟 昔
—靂は、雷の聲にいふ字、又雨ふること。
㊁霹—はながあめ、霧。

靉 サン、素官切 寒
小雨こさめ。

靄 レイ、リヤウ。力丁切 青
天—は、人の頂骨。

靦 ドウ、ヌ。奴鋼切 元
兎の子。○〔韓愈〕「明—踔八世孫—」。

靦 ベン、マン。無販切 願
人の姓。

靨 キ。虛器切 寘 カン、丘閑切 刪
雨を見て止どまる、あまやどり。

靨 キ、ケ。香依切 微
雨の止む貌にいふ字。

靨 メイ、ア。徒對切 隊
擊—は、雲の黑き貌にいふ語、雲の狀にいふ語。

靄 サン、素官切 寒
小雨こさめ。

靄 レイ、リヤウ。力丁切 青
天—は、人の頂骨。

靦 ドウ、ヌ。奴鋼切 元
兎の子。○〔韓愈〕「明—踔八世孫—」。

靦 ベン、マン。無販切 願
人の姓。

靨 キ。虛器切 寘 カン、丘閑切 刪
雨を見て止どまる、あまやどり。

靨 キ、ケ。香依切 微
雨の止む貌にいふ字。

靨 メイ、ア。徒對切 隊
擊—は、雲の黑き貌にいふ語、雲の狀にいふ語。

靉 サン、セン。所板切 潸
雨ふる貌にいふ字。

靄 雷に同じ。○〔詩〕「殷其—」。

靄 リウ、ル。力救切 宥
龜の名。

靉 靉に同じ。

十六畫

靉 シフ。側立切 緝
に靉同じ。

靉 レキ、リヤク。郎擊切 錫
靉の絲を見よ。

靉 クワク、ヲク。呼郭切 藥
鳥の飛ぶ聲にいふ字、はおと。

靉 スヰ。息委切 紙
—靉は、草の弱き貌にいふ語、草の風に隨ふ貌にいふ語。○〔楚辭〕「蘋草—靉」。
㊁細き貌にいふ字。㊂雲。

靉 アン、於蓋切 泰 アイ。於蓋切 泰 アイ。依亥切 賄
雲の貌にいふ字、雲の集まる貌にいふ字、あつまる、たなびく。○〔陶潛〕「停雲—」。
㊁たなびきあつまる氣氣。○〔謝靈運〕「連レ氛累—」。

靉 ヒ。芳味切 未 ヘイ。切 祭 ハイ。渺佩切 隊
—は、雲の盛んなる貌にも雲の布く貌にもいふ語、さかんなり、たなびく。○〔木華〕「靉—雲布」。

靄 サン、セン。阻懺切 豏

水。

【霖】 セン、ソン。將廉切 鹽

雨に同じ。ささめ。

【霎】 タイ、デ。徒耐切 隊 切 藹玄 蒲

雰—は、

（い）雲の狀にいふ語、雲の盛んなる貌にいふ語、さかんなり、たなびく、又、明かならざる貌にいふ字、雲の日を覆ふ貌にいふ字、くらし、くもり。○〔揚尼〕「朝—靄—」。

（ろ）眼鏡、めがね。○〔淵天清錄〕「雰—老人不レ辨二細書一以此拂レ目則明」。

【霓】 ロウ、ル。盧東切 東

雪の雰にいふ字。

【靈】 レイ、リャウ。郎丁切 靑

一鬼神、かみ。○〔楚辭〕「一皇—々兮既二降レ」。

二たましひ。

（い）萬有の精氣。○〔書〕「惟人萬物之—」。○〔莊〕「於レ府二—」。

（ろ）人身の精氣。○〔莊〕「不レ可レ入二—江二分撓一」。

三命數、いのち。○〔揚雄〕「羲二國一—二」。

四祟養よし。○〔詩〕「—雨既零」。

五神妙、不可思議、くしび。○〔史〕「生而神—」。

六昭明、あきらか。○〔莊〕「終身不レ—」。

七機感、いつくしみ、きほひ。○〔國〕「若以二君之一二」。

八寬福、いつくしみ、さきはひ。○〔後漢二〕「—顯赫」。

「蕃—祉二」。

九天地人の稱。○〔莊圖〕「答二三—一之

十日月星の稱。○〔揚雄〕「獵三三—一之流二」。

十一くしびなるもの、すぐれてよきもの。○〔禮〕「何謂二四—一」「鱗鳳龜龍」。

十二巫覡、みこ、かんなぎ。○〔楚辭〕「思二—保兮賢嫉二」。

【靈】 イン、オン 倚論切 寢

雲の貌にいふ字。

【靄】 アイ、烏代 切 隊 イ、於 切 泰

雲の字の條を見よ、たなびく、くらし。○〔潘尼〕「朝—靄—蔚」。

【靉】 アイ、エ。烏代切 隊

雲の盛んなる貌にいふ字。

【靆】 タイ、デ。徒耐切 隊

雲の字の條を見よ。

【靈】 ホウ、フ。敷馮切 東

雨ふる貌にいふ字。

【靈】 ホウ、フ。敷馮切 東

雨に同じ。

【靈】 メイ、メイ。明排切 佳

風ふきて土を雨らす、つちふる。

【靨】 シュク、ソク。式竹切 屋

—豎は、疾き貌にいふ語。○〔木華〕「—豎紲電」。

【靈】 レキ、リャク。郎狄切 錫

霹—は、雨止まざる貌にいふ語。

【靈】 シフ。七入切 緝

雨ふる貌にいふ字。

廿八畫

【靉】 タイ、デ。徒耐切 隊

雲の貌にいふ字。

廿一畫

【靈】 ヒョウ、ビョウ。皮證切 徑

雪の雰にいふ字。

靑部

【靑】 セイ、シャウ。倉經切 靑

一七色の一、晴れたる日の空の如き色、あを。○〔荀〕「—出二於藍一」。

二あをの色なり、あをし。○〔書〕「厥土——」。

三春東。○〔楚辭〕「—春受レ謀」。

四九州の一、今の山東省濟南府一帶の地。○〔書〕「海岱是—州」。

五黑鵲、やませみ。○〔禮〕「前有レ水則載二—旌一」。

六竹の皮。○〔後漢〕「殺二—簡一以寫二「經書一」。

七茂盛せる貌にいふ字。さげる。○〔詩〕「綠竹——」。

十九畫

【靉】 シュク、ソク。式竹切 屋

—豎は、疾き貌にいふ語。○〔木華〕「—豎紲電」。

【靈】 レキ、リャク。郎狄切 錫

霹—は、雨止まざる貌にいふ語。

【靈】 シフ。七入切 緝

雨ふる貌にいふ字。

廿八畫

【靉】 タイ、デ。徒耐切 隊

雲の貌にいふ字。

廿一畫

【靈】 ヒョウ、ビョウ。皮證切 徑

雪の雰にいふ字。

靑部

【靑】 セイ、シャウ。倉經切 靑

一七色の一、晴れたる日の空の如き色、あを。○〔荀〕「—出二於藍一」。

二あをの色なり、あをし。○〔書〕「厥土——」。

三春東。○〔楚辭〕「—春受レ謀」。

四九州の一、今の山東省濟南府一帶の地。○〔書〕「海岱是—州」。

五黑鵲、やませみ。○〔禮〕「前有レ水則載二—旌一」。

六竹の皮。○〔後漢〕「殺二—簡一以寫二「經書一」。

七茂盛せる貌にいふ字。さげる。○〔詩〕「綠竹——」。

【靖】 セイ、シャウ。疾正切 勁

一はかる、謀。○〔書〕「自作弗レ—」。

二おもふ、思。○〔揚雄〕「—思也、東齊海岱之間曰レ—」。

三をさむ、治。○〔詩〕「俾二予一人レ—」。

四やはらぐ、和、やすんず、安。○〔詩〕「肆其—之」。

五ただす、ただづぬ、靜。○〔晉〕「南州寧、きよし、清。○〔書〕「自一人自獻二于先王一」。

六細き貌にいふ字。○〔山海經〕「有二小人國一、日二—人一」。

【靖】 セイ、シャウ。疾正切 勁

一前條に同じ。

二たる、足。

【靚】 テイ、チャウ。丑郎切 梗

【靜】 セイ、シャウ。疾郎切 徑

一値に作る、うかがふ。

二とく、靜。

【靜】 タウ、チャウ。抽庚切 庚

正しく視る、みる、一說に、深き意。

【靚】 テイ、チャウ。鑿貞切 庚

正しく見る、みる。

【靚】 テイ、チャウ。丑郎切 梗

一うかがふ、眼。二前條に同じ。

【靚】 セイ、シャウ。千定切 徑

青黑色、あをぐろ。○〔李華〕「玄猿嘯深—」。

七畫

【靜】 セイ、シャウ。疾正切 勁

一ゆづる、召。

二粉黛を施し裝ひ飾る、かざる、けしやう。○〔司馬相如〕「—莊刻飾」。

三嫺女の容の徐かなるにいふ字、おとやか。○〔賈誼傳〕「意態閒且—」。

四靜に同じ。○〔賈誼〕「若二深淵之一」。

【靚】 セイ、シャウ。千定切 徑

冷寒、ひやゝか。

【靛】 テン、デン。堂練切 霰

藍を以て染む、あをぞめ、又、あをぞめの色、あを。○〔本草〕「藍實浮二水面一者爲二—花一」。

（靜默）おだやかにしてしづやかなること。○〔宋〕「以—以—」。
（靜肅）しづやかなること。○〔貫師表〕「靈臨—且」。

【靜】セイ、疾郢切 梗　ジヤウ、疾正切 敬

㊀しづか。
（い）不動、うごかず。○〔易〕「至—而德方」。
（ろ）安和、やすらか、おだやか。○〔詩〕「—言思レ之」。
（は）貞淑、しとやか、たゞし。○〔詩〕「—女其姝」。
（に）言なきこと。○〔國〕「吾其—也」。
（ほ）聲なきこと。○〔楚辭〕「—閑安也」。
（へ）澄めること。○〔莊〕「水—則明燭二鬚眉一」。
㊁しづかならしむ、しづかとなる、やすんず、やはらぐ、しづむ、しづまる。○〔左〕「綏二—諸侯一」。
㊂清潔、きよし、いさぎよし。○〔詩〕「籩豆—嘉」。
㊃清潔にす、きよむ。○〔國〕「—二其巾冪一」。
㊄いこふ、やすむ（息）。○〔禮〕「百官—二事毋一レ刑」。

（清靜）しづかなること。○〔史〕「—自正」。
（鎮靜）しづめやすんず。○〔晉〕「—、—鎮庶」。
（安靜）前に同じ。○〔左〕「—、—諸侯」。
（寧靜）しづかにしておだやかなること。○〔漢〕「—、—安靜」。
（恬靜）前に同じ。○〔莊〕「—而百姓定」。
（玄靜）前に同じ。○〔梵〕「—、—」。
（寂靜）やすらかにしづかなり。○〔晉〕「性—、—不好交游」。
（退靜）謙遜せずしてやすらかなり。○〔 〕「外整—」。
（動靜）うごくとしづかなると、又、人の出退擧止をいふ。○〔易〕「—有常」。
（閑靜）前に同じ。○〔魏志〕「閑居—」。
（安靜）おだやかなること。○〔後漢〕「—之吏」。
（肅靜）前に同じ。○〔後漢〕「—、—新靜」。
（平靜）前に同じ。○〔後漢〕「宮府—、—」。
（輯靜）ゆるやかなること。○〔北〕「靜欲—、—」。
（質靜）前に同じ。○〔禮〕「—而—」。
（恬靜）靜恬にして安和なること。○〔禮〕「—、—而」。
（簡靜）前に同じ。○〔魏〕「—如—、—」。
（沈靜）儉敏にして躁擾ならず。○〔後漢〕「有—、—之風」。
（虛靜）心を虛にして安和なること。○〔漢〕「明—」。
（沖靜）前に同じ。○〔晉書〕「伏—、以臨レ民」。
（貞靜）女德のたゞしくおだやかなるをいふ語。○〔後漢〕「性—」。
（靜靜）しづかに世を遁れ居る。○〔南〕「欲不—」。
（幽靜）ひろびろとびしくしづかなること。○〔北〕「一方—」。
（寂靜）たゞしくしづかなること。○〔北〕「志富—」。
（雅靜）俗をはなれてしづかなること。○〔晉〕「雅俗—」。
（澹靜）淡泊にしてやすらかなること。○〔莊〕「—而—」。
（和靜）やはらぎてやすらかなること。○〔莊〕「—、—」。
（閒靜）しづかなること。○〔韓〕「—野—、—」。
（喧靜）かまびすしきとしづかなると。○〔杜甫〕「—不同レ科」。

九畫

【靚】シン、七信切 震
ひやゝか（寒）。

十畫

【䨱】古文の天の字。

【靝】アフ、オフ、乙盍切 合
いろどり（飾、采）。

十一畫

【靜】シツ、シチ、所櫛切 質

十四畫

【靛】コ、ク、胡誤切 遇
青（ろくしやう）の屬、鸛（あかつち）の屬。○〔山海經〕「其陰多二青—一」。
青くして赤き色にいふ字。

非部

【非】ヒ、甫微切 微　〔說文〕从二飛下翄一、取二其相背一。

㊀たがふ（違）。○〔禮〕「—禮也」。
㊁不是、あし。○〔易〕「察二是與一レ—」。
㊂不眞、いつはり。○〔淮〕「其守レ節—也」。「有レ—」。
㊃隱惡、つみ。○〔漢〕「憫然念二外人之—一」。
㊄そしる（謗）。○〔孝〕「—二聖人一者無レ法」。
㊅せむ（責）。○〔漢〕「—レ我」。
㊆とがむ（咎）。○〔呂氏春秋〕「莫レ不レ—レ令尹一」。
㊇否定の意を表す字、ず、あらず。否定すべき意の語句の上に置く。○〔史〕「爲二畔逆一以憂二太后一、—長策一也」。

（乙非）心中に是とせず。○〔史〕「入則—、—、出則非議」。
（飾非）是ならざるをつくろひかざる。○〔莊〕「辯足以—」。
（餘非）あしきことなどを他人の所爲なりとす。○〔韓〕「無所レ—レ—」。
（遂非）あしきを增長す。○〔 〕「—レ長失」。
（讓非）あしき所爲をつゝみかくす。○〔家語〕「—、序」。
（百非）いろいろのよからざること。○〔家語〕「夫子見二人一非、謹二其一—一」。
（禁非）あしきをとゞむ。○〔莊〕「孔丘聽止」「—、—」。
（是非）よこしまにして正しからず、又、其の善。○〔後漢〕「明二乎得—一」。
（是非）よきとあしきと、よしあし。○〔莊〕「齊物之—、—」。
（負非）そむく、たがふ。○〔後漢〕「—、一乎此」。
（猖非）みだりがはしきこと。○〔晉〕「欲レ肆二自由一、誰—、—之地」。
（前非）もとなしたるあしきこと。○〔漢書〕「—」。
（先非）前に同じ、又、あしきをさるをとす。○〔漢書〕「事往變」。○〔詩〕「—而後レ是」。
（似而非）其のさまの是なるに似たるが如きも其の實はよからざること。○〔莊〕「—之—者」。

三畫

【非】ヒ、妃尾切 尾
本、誹に作る、そしる。○〔史〕「—謗不レ治」。

【奜】ハイ、ヘ、蒲罪切 賄
おほいなり（大）。

【𩇢】ヒ、非尾切 尾
㊀わかつ、わかる（別）。
㊁鳥の名、山梟。

【悲】ヒ、平祕切 寘　擊悲切 支
梟の如き一種の鳥。

【𩇬】ヒ、ビ、扶沸切 未
かくる（隱）。

【啡】ハイ、ヘ、鋪枚切 灰
睡る聲にいふ字、れいき、いびき。

【唯】ハイ、ベ、蒲皆切 佳
ふく（吹）。

【啡】ハイ、ヘ、匹愷切 賄
唾を出す聲にいふ字、つばはく。

【啡】ハイ、ヘ、滂佩切 隊
㊀臥し息ふ、いこふ。
㊁吐く聲にいふ字。

【扉】ヒ、ビ、符沸切 未
㊀かくる（隱）。
㊁いやし（陋）。

【𩇦】ヒ、芳輝切 微
かろし（輕）。

四畫

【𩇧】ヒ、父沸切 未
ちり（塵）。

【𩇨】ヒ、方未切 未
手を覆す、かへす。

【𩇩】ヒ、匪微切 微
㊀細き毛。
㊁みだる（紛）。

【𩇪】ヒ、符非切 微　ピ、平祕切 寘
𩇪—は、鳥の名。

【𩇫】ヒ、匹寐切 寘
わかる（別）。

【𩇬】サフ、ソフ、疾盍切 合
あし（惡）。

五畫

【𩇭】古文の師の字。

【𩇮】苦に同じ。○〔山海經〕「大—之山」。

七畫

【靠】カウ、コウ、苦到切 號
㊀たがふ（違）。
㊁よる（倚）、つく（附）。

【靠】コク、姑沃切 沃
㊀前條に同じ。
㊁つらなる（連）。

【𩇰】鞸に同じ。

【𩇱】ヒ、平祕切 寘
さかんなり（壯）。

十一畫

【靡】ビ、ミ、文彼切 紙

㊀なびく。
（い）傾き偃す、ふす。○〔左〕「望二其旗—一」。
（ろ）伏し從ふ、したがふ。「從レ風而—」。
㊁なびかしむ、ふす、したがふ。○〔荀〕「燕—レ之偃レ之」。
㊂奢侈、をごり。○〔周〕「以二政令一禁二物—一而均レ市」。
㊃私小、ちひさし。○〔揚雄〕「私小也」。「秦晉曰レ—」。
㊄細好、しなやか、きめこまか。○〔司馬相如〕「—二曼美三色於後一」。
㊅華美、はなやか、うつくし。○〔吳都賦〕「有二任俠之—一」。
㊆なし（無）。○〔書〕「命—レ常」。
㊇つみ（罪、累）。○〔詩〕「無レ封二—于爾邦一」。「—」。
㊈なびく貌にいふ字。○〔書〕「商俗——」。
㊉遲き貌にいふ字。○〔詩〕「行邁——」。「施—」。
⑪連らなる貌にいふ字。○〔史〕「登降—」。
⑫正しきを失ふ貌にいふ字。○〔史〕「—」。「斂—從」。
⑬きし（崖）。○〔司馬相如〕「礿二㶟江—一」。
⑭殘の屬。○〔禮〕「—草死」。
（風靡）相隨ひて坐する輕刑の名、又、其の凶荒。○〔史〕「殷靡—、—」。
（披靡）なびくこと。○〔史〕「項羽皆—、—」。
（風靡）なびき偃す。○〔後漢〕「百姓—、—」。
（侈靡）分に過ぎたるおごり。○〔史〕「言語—麗」。
（奢靡）前に同じ。○〔南〕「窮—、極—、—」。
（華靡）華美なること。○〔後〕「競尙—、—」。
（靡靡）うつくしき細工。○〔南〕「窮—、極—、—」。
（猗靡）相隨ふ貌にいふ語。○〔史〕「扶與—、—」。
（委靡）振はざること。○〔韓愈〕「頹墮—、—」。
（淫靡）怪艷侈靡にしてみだらなること。○〔漢〕「隨者以諸—、—不歛」。
（綺靡）うつくしきこと。○〔南〕「作レ辭必—、—」。
（浮靡）正雅ならずして細巧なること。○〔唐〕「—、—相矜」。
（猗靡）くじけなびく。○〔舊唐〕「無レ不—、—」。
（妖靡）うつくしきを淫猥のものなどにいふ語。○〔列〕「—、—盈庭」。
（逸靡）なよめに長く延きたる貌にいふ語。○〔甘泉賦〕「—、—乎連卷」。
（纖靡）纖小なること、又、細好なること。○〔論衡〕「—、—大如二茅頰一」。
（草靡）草の風になびきふすことゝて從ふ意にいふ語。○〔後漢文帝〕「十方—、—」。
（紗靡）紗靡といふに同じ。○〔王褒〕「傳—、—于帝江一」。
（江靡）江の邊、かはぎし。○〔上林賦〕「的二皪—、—」。
（麗靡）美麗なること。○〔後漢〕「窮—、極—、—」。
（迤靡）連續して絕えざるにいふ語。○〔上林賦〕「—、—旗衍」。

【𩇴】ビ、ミ、忙皮切 支
㊀ちる、ちらす（散）、わかつ、わかる（分）。○〔易〕「我有二好爵一、吾與レ爾—レ之」。
㊁ほろぼす、ほろぶ（滅）。○〔漢〕「連二日夜一—盡」。「身」。
㊂へらす、へる（損）。○〔國〕「—二王躬一」。
㊃靡に同じ。○〔揚雄〕「精二瓊—一與二秋菊一」。

【𩇵】メ、マ、眉波切 歌
㊀—𨻻は、山の名。○〔荀〕「至二於—𨻻之下一」。
㊁ちる、ちらす（散）。
㊂𩇵切す、する。○〔莊〕「與レ物相刃相—」。

【𩇶】メ、メ、莫加切 麻
𩇶—は、縣の名。

【𩇷】ビ、靡詖切 寘
ふす（偃）、ひく（曳）、ちる、ちらす（散）。○〔揚雄〕「𩇷—風雲—」。

十二畫

【𩇸】ヒ、芳非切 微
㊀細き毛。
㊁みだる（紛）。

面部

【面】ベン、彌箭切 霰　メン　〔說文〕从レ百、象二人面形一。

㊀おもて。
（い）顏の前部、卽ち、眉目鼻口のある處、つら、かほ、かほばせ、かんばせ。○〔左〕「以レ袂掩レ—而死」。
（ろ）前頭、まへ。○〔儀〕「覆レ之—レ東」。
（は）外表、そとがは、そとづら。○〔韓愈〕「徼—瀾動二水—一」。
（に）かほに擬しつくりてかほに著くるもの、おもがた。○〔晉〕「用二鐵—一自衞」。
㊁眼前、目下、まのあたり。○〔書〕「汝無二—從退有二後言一」。
㊂みる、まみゆ（見）。○〔禮〕「夫爲二人子一者、出必告、反必—」。

㊁むかふ、むく、（向）。○〔書〕「不レ學牆―」。「階―」。
㊂方角、かたむき。○〔書〕「大輅在二賓階一―」。
㊃そむく、（背）。○〔史〕「馬童―レ之」。
（南面）みなみむき、又、君主の朝にある南方に面し臣下は北面するより君主の位にあるをあらはす語に用ふ。○〔易〕「聖人―而聽」。
（私面）私覿といふに同じ、おほやけの會見にあらずしてわたくしの面接をいふ。○〔左〕「以二其乘馬八匹一―見二子皮一」。
（方面）かくばりたる面貌、又、一方の面のこと。○〔後漢〕「寧命――」。
（半面）かほの半分。○〔南〕「必爲二――一妝以俟」。
（對面）かほをあはす。○〔晉〕「猶二――一聞」。
（顔面）かほのこと。○〔蘇軾〕「蹤土汙二――」。
（露面）かほをみしる。○〔五〕「人好レ―其―」。
（仰面）おもてを擧げてのぞむこと。○〔南〕「百姓闕――目レ之」。
（醜面）あしきかほ。○〔路衞〕「戒以二――爲色」。
（照面）かほをてらしうつす。○〔蘇志〕「白玉奐若、可レ以二――」。
（鈎面）かほをそる。○〔顏氏家訓〕「貴遊子弟無レ不二熏レ衣――、傅レ粉施レ朱」。
（素面）紅粉をよそはざるかほ、すがほ。○〔太眞外傳〕「常――朝レ天」。
（磨面）かほをみがく。○〔雲仙雜記〕「但レ手――」。
（笑面）わらひがほ。○〔李白詩〕「千金――」。
（瘦面）やせおとろへたるかほ。○〔陸游〕「其奈――無二光輝一」。
（嬌面）なまめきたるかほ。○〔劉禹錫〕「顧盼明艶分――」。
（池面）いけのおも。○〔白居易〕「延風洗二――」。
（四面）四方といふに同じ。○〔韓愈〕「靑山――」。
（見面）かほをみる。○〔漢〕「或莫レ―其―」。
（玉面）玉の如くうつくしきかほばせ。○〔宋之問〕「――紅粧本姓秦」。「―」。
（唾面）面に唾をはきかく。○〔唐〕「若婦必―其―」。
（假面）瓜の類。○〔漢〕「自以二――一招レ禍」。
（胖面）前に同じ。○〔隋〕「帶索被――」。
（北面）南より北に向くこと、きたむき。○〔漢〕「自執二弟子禮一――」。

（白面）少年などのなまじろきかほ。○〔杜甫〕「用上將家――郎」。
（鬱面）氣後れする色なきこと、おくめんなきこと。○〔宋〕「京師目爲二――御史一」。
（假面）人の面の形を木などにて作りたるもの。○〔隋書〕「乃著二――一以對レ敵」。
（月面）うつくしく月の如く光りあるかほ。○〔宋瑋〕「秋扇但燈霧――」。「春曉」。
（背面）面を後に向く。○〔蘇軾〕「何曾――傷二眼序一、賜還以死」。
（皮面）面の皮をはぎとる。○〔國〕「因自―レ―抉」。
（垢面）垢づきたるかほ。○〔漢〕「蓬首――」。
（黥面）かほに入れ墨す。○〔漢〕「不レ以レ墨―其―」。
（文面）前に同じ。○〔唐〕「――褻俗稚レ面以レ靑涅レ之」。
（醜面）額に細花紋を著く。○〔白居易〕「――誰家婦」。「―」。
（酡面）かほをつくへみおほふ。○〔後漢〕「以レ被―」。
（覆面）面をおほたしにす。○〔晉〕「呆う掃具家子女――入レ殺」。
（破面）面に傷をつく。○〔晉〕「此婦――自誓」。
（金面）金色のかほ。○〔晉〕「――丹齒」。
（赭面）はづかしげを帶びたるかほ。○〔南〕「――見レ人」。
（鬚面）ひげの多くはへたるかほ。○〔北〕「晉身長九尺、――甚雄」。
（馬面）馬の如きかほつき、うまづら。○〔北〕「光―長身」。
（黄面）きいろのかほ。○〔唐〕「――兒啟齒」。
（黛面）生ゆずみしたるかほ。○〔唐〕「醉美――」。
（赤面）面色のあかきこと、あからがほ。〔○〔唐〕「國人――」〕。
（粉面）いろふろきかほ。○〔唐〕「――綠鬟」。
（圓面）まるがたのかほ。○〔河圖〕「赤帝――」。
（扁面）ひらたきかほ。○〔河圖〕「白帝――」。
（八面）八方面。○〔風俗通義〕「雷鼓――」。
（豫面）幽のよりたるかほ。○〔陸游〕「――朱鉛太不レ宜」。「背紋」。
（粧面）粉白を施したるかほ。○〔李賀〕「――樹」。
（鏡面）かゞみのおもて。○〔韓愈〕「――生塵」。
（面面）各方面のこと。○〔韓愈〕「――冒兵弊」。
（滿面）かほ一ぱい。○〔韓愈〕「風霜――無レ入處」。「天上女」。
（雪面）雪の如き白きかほ。○〔溫炎〕「――淡眉」。
（花面）花の如きうつくしきかほばせ。○〔劉禹錫〕「――丫頭十三四」。「―涼」。
（飾面）酒にゑひたるかほ。○〔蘇長慶〕「風吹――」。
（塵面）ちりによごれたるかほ。○〔楊萬里〕「――我自知」。「蹤」。
（髭面）背きかはいろ。○〔韓愈〕「叩杷――不敢無入闕」。
（土面）つちいろのかほ。○〔蘇長慶〕「灰面――」。
（粉面）おしろいなどにてまろく粧ひたるかほ。○〔陸贄〕「――仙郞謁聖朝」。

三畫

【⿰面干】カン。古旱切 旱　居案切 翰　面の黑き氣あること、すゝけがほ、くろし。

四畫

【⿰面巴】ハ、ヘ。披巴切 麻　黄色のかほ。
【⿰面今】カン、ケン。許咸切 咸　㊀頭を出だす貌にいふ語。㊁小さき頭。
【⿰面丑】ヂク、ニク。女六切 屋　はづ、（慙）、靦に、忸の俗字。
【⿰面半】ハウ、ホウ。匹降切 絳　面腫る、はる。
【⿰面冘】タン、トン。丁紺切 勘　頑劣なる貌にいふ字、にぶし。
【⿰面比】シ、ジ。是義切 寘　―⿰面比は、面の貌にいふ語。

五畫

【⿰面且】靦に同じ。
【⿰面巧】サウ、セウ。楚絞切 巧　⿰面幼―は、面の曲がれること。
【⿰面幼】アウ、エウ。於絞切 巧　前條を見よ。
【⿰面幼】イウ、ウ。於九切 宥　―⿰面幼は、面醜し、みにくし。
【⿰面皮】デン、チン。尼展切 銑　ゆるし、（寛）。
【⿰面未】バイ、メ。莫佩切 隊　面の貌にいふ字。
【靤】ハウ、ベウ。防教切 效　面の瘡、もがさ。
【⿰面乍】サン、セン。側板切 潸　―⿰面乍は、老ゆ、又、面の皺、又、慙色。
【⿰面占】タン、テン。竹咸切 咸　―⿰面今は、小さき頭、又、頭を出だす貌にいふ語。
【⿰面占】テン、トン。丁兼切 鹽　―⿰面占は、面陋し、いやし。

六畫

【⿰面舌】クワツ、グワチ。戸括切 曷　面小さし、又、短きかほ。
【⿰面并】ヘイ、ヒヤウ。必郢切 梗　疋丁切 青

面色の黄なる貌にいふ字、きいろ。
【⿰面台】タイ、テ。都回切 灰　⿰面占の字の條を見よ。

七畫

【⿰面每】クワイ、エ。呼内切 隊　面の肉多きにいふ字、おもぶくら。
【⿰面巠】ケイ、キヤウ。許令切 徑　⿰面冘―は、頑劣なる貌にいふ語。
【⿰面怒】テキ、ニヤク。乃歷切 錫　慙ぢる面。
【⿰面含】カン、コン。火含切 覃　面赤し。
【⿰面足】シユク、ソク。初六切 屋　ひさし、（齊）。
【⿰面夋】サ、セ。數瓦切 馬　面醜し、みにくし。
【⿰面甫】フ、扶雨 ホ・切 麌　フ、符遇 ホ・切 遇　ほゝ、ほゝぼね、（頬骨）。○〔楚辭〕「靨―奇牙」。
【靦】テン。他典切 銑　（說文 从二面見一）㊀まのあたり人を見る貌にいふ字。○〔詩〕「有レ―面目」。㊁面目の貌にいふ字。○〔國〕「余雖二―然而人面一哉」。㊂面色の慙づる貌にいふ字、はづ。○〔李嶠〕「鞠躬自―」。「且―且―」。○〔江淹〕
（靦靦）はづるのかほにあらはるゝこと。
（俛靦）前に同じ。○〔後漢〕「公私――」。
【⿰面免】バン、マン。母伴切 緩　謨官切 寒　面を塗る。

八畫

【⿰面官】ワン、エン。烏患切 諫　面の曲がれる貌にいふ字、ゑやくしがほ。
【⿰面宛】エン、チン。委遠切 阮　眉目の間の美しき貌にいふ字、面色の柔和なる貌にいふ字。
【⿰面兌】ワツ、ワチ。烏括切 曷　目を開く貌にいふ字。
【⿰面宜】ギ。宜奇切 支　⿰面丑―は、面の貌にいふ語。
【⿰面周】テウ、デウ。徒弔切 嘯　ならふ、（習）。
【⿰面奄】アン、エン。烏咸切 咸　面の黑子、ほくろ。

九畫

【⿰面畐】サン。蘇貫切 翰　面博し、ひらおもて。
【⿰面面】ベン、メン。美辨切 銑　⿰面冘―は、かたくなにおされるかほ。
【⿰面音】アン、オン。烏感切 感　―⿰面參は、憂ひ嗔む容にいふ語、うれふ。
【⿰面監】ラン、ロン。魯甘切 覃　―⿰面監は、面の長き貌にいふ語。
【⿰面奈】ダン、ナン。奴板切 潸　赧に同じ、はづ。

十畫

【⿰面臭】キウ、ク。去久切 有　面醜し、
【⿰面冥】ベン、メン。莫甸切 霰　―炫は、ちのあせ、（血）。

十一畫

【⿰面斬】サン、昨三 ゾン・切 覃　サン、勵銜 ゼン・切 咸　子鑒切 陷　⿰面監―は、面の長き貌にいふ語。
【⿰面麻】バ、マ。母果切 哿　㊀面の青き貌にいふ字。㊁はづ、（慙）。
【⿰面參】サン、ソン。七感切 感　⿰面音の字を見よ。
【⿱要面】チユツ、チユチ。竹律切 質　面短し。

十二畫

【⿰面單】テン。他典切 銑　面の黄色なるにいふ字。
【⿱猒面】靨に同じ。
【⿰面焦】セウ。即消切 蕭　面色焦枯す、やつるゝ、かじく。○〔楚辭〕「顔色―顇」。
【⿰面焦】セウ。子肖切 嘯　面に光澤なし。
【⿰面尞】レウ。力小切 篠　面の白き貌にいふ字。
【⿰面亶】セン、荀緣 ゼン・切 先　タン、徒玩 ダン・切 翰　圓き面、まろがほ。
【靧】クワイ、エ。荒内切 隊　頮に同じ、面を洗ふ、あらふ。○〔禮〕「沐レ稷而―レ粱」。
【⿰面然】デン、チン。乃殄切 銑　靦―は、わかき顏色。

十三畫

【⿰面亶】靦に同じ。

十四畫

【⿰面斬】セン、ゼン。子冉切 琰　色弱し、よわし。
【靨】エフ。於協切 葉　笑ふ時に頬にあらはるゝくぼみ、ゑくぼ。○〔楚辭〕「―輔奇牙」。
（笑靨）ゑくぼ。○〔東莊〕「西子去時遺二――」。
（媚靨）いろけあるゑくぼ。○〔梁簡文帝〕「妾笑開――」。
（兩靨）兩方のゑくぼ。○〔徐陵〕「北地燕脂偏開――」。
（斤靨）前に同じ。○〔溫庭筠〕「秋靨似含――」。
（歡靨）よろこばしげなるゑくぼ。○〔傅休奕〕「巧笑歡――」。

（革草）草の莖のみなはよろ。○（周）「王弓弧弓」○（社甫）「野花曾」一。

（林草）敬め正す。○（後漢）「許以」一。

（荊草）創り改む。○（文心雕龍）「通變」一。

（艸草）あらたむ。○（北）「一旨」一。

（艸草）あらたに事を創めんとしよき法を改む。○（後漢）「一所」一。

（後草）かはとっくりかはと。○（易）「以時變」一。

（後草）か（あるむ）。○（論）「此其所」一。

（後草）かたきかはて天、かたきかはのよろか。○（史）「一利兵」。

（草草）なめしがは。○（禮記）「以」一」其事」。

（雜草）あしきをあめたとしあるたむ。○（後漢）「一」。

（檢草）えらで改む。○（書）「一」其事」。

革 キョク、ケキ。訖力切 職

きびしくすみやか（急）。○（禮）「夫子之病」一矣」。

靬 テイ、當經切 青 都挺切 迥

丁定切 徑 テイ、丁計切 霽

おぎなふ（補）。

三畫

鞅 サイ、楚佳切 佳 サ、初牙切 麻

セツ、初刮切 黠

箭室、やいれ。うつぼ。○（元稹）「千一鳴鏑競初弓」。

（新）矢をいるうつぼう。○（賢良）「箭筒」一。

（後）前に同じ。○（後漢）「百箭筒」一。

（後）前に同じ。○（後漢）「百箭筒」一。

靭 ケン、居晉切 震 カン、丘寒切 寒

ゆみぶくろ（弓衣）。

鞅 カン、ケン。居閑切 刪

一は、西域の國の名。○（漢）「擊一匈奴」。

鞅 ケン、ゲン。福遊切 先

騾一は、蘇の名。

鞅 カン。苦旰切 翰

一は、矢を盛る器、やいれ。○馬の被る具。

鞅 コツ、コチ。呼骨切 月

一は、勢づよきさま。

鞅 ケン、ゲン。巨今切 寒 ケン、其淹切 鹽

ゴン。切 咸 コン。切 銜

かはぐつ（靴）。

鞅 キン、ゴン。巨禁切 沁

物を束ぬる革なめしがは。

鞅 カン、コン。其闇切 翰

たけのかは（鞣）。○（禮）「冪用二疏布一久ノ之鞣用レ一」。

鞅 カツ、カチ。古八切 黠

皮鞭、またぐつ。

鞅 ケキ、キャク。居逆切 陌

くら（鞍）。

鞅 韁に同じ。

靳 キン、コン。居近切 問

靴 クツ、ケ。呼臥切 歌

靶 鞅の本字。

四畫

鞅 キン、巨今切 寒 ケン、其淹切 鹽

ゴン。切 咸 コン。切 銜

かはぐつ（靴）。

鞅 キン、ゴン。巨禁切 沁

物を束ぬる革なめしがは。

鞅 カン、コン。其闇切 翰

たけのかは（鞣）。○（禮）「冪用二疏布一久ノ之鞣用レ一」。

鞅 カツ、カチ。古八切 黠

皮鞭、またぐつ。

鞅 ケキ、キャク。居逆切 陌

くら（鞍）。

鞅 韁に同じ。

靳 キン、コン。居近切 問

靴 クツ、ケ。呼臥切 歌

鞅 ケン、ゲン。巨今切 寒 ケン、其淹切 鹽

ゴン。切 咸 コン。切 銜

かはぐつ（靴）。

鞅 キン、ゴン。巨禁切 沁

物を束ぬる革なめしがは。

鞅 カン、コン。其闇切 翰

たけのかは（鞣）。○（禮）「冪用二疏布一久ノ之鞣用レ一」。

鞅 カツ、カチ。古八切 黠

皮鞭、またぐつ。

鞅 ケキ、キャク。居逆切 陌

くら（鞍）。

鞅 韁に同じ。

靳 キン、コン。居近切 問

靴 クツ、ケ。呼臥切 歌

鞅 ケン、ゲン。巨今切 寒 ケン、其淹切 鹽

ゴン。切 咸 コン。切 銜

かはぐつ（靴）。

鞅 キン、ゴン。巨禁切 沁

物を束ぬる革なめしがは。

鞅 カン、コン。其闇切 翰

たけのかは（鞣）。○（禮）「冪用二疏布一久ノ之鞣用レ一」。

鞅 カツ、カチ。古八切 黠

皮鞭、またぐつ。

鞅 ケキ、キャク。居逆切 陌

くら（鞍）。

鞅 韁に同じ。

靳 キン、コン。居近切 問

靴 クツ、ケ。呼臥切 歌

鞅 ケン、ゲン。巨今切 寒 ケン、其淹切 鹽

ゴン。切 咸 コン。切 銜

かはぐつ（靴）。

鞅 キン、ゴン。巨禁切 沁

物を束ぬる革なめしがは。

鞅 カン、コン。其闇切 翰

たけのかは（鞣）。○（禮）「冪用二疏布一久ノ之鞣用レ一」。

鞅 カツ、カチ。古八切 黠

皮鞭、またぐつ。

鞅 ケキ、キャク。居逆切 陌

くら（鞍）。

鞅 韁に同じ。

靳 キン、コン。居近切 問

靴 クツ、ケ。呼臥切 歌

鞅 ケン、ゲン。巨今切 寒 ケン、其淹切 鹽

ゴン。切 咸 コン。切 銜

かはぐつ（靴）。

鞅 キン、ゴン。巨禁切 沁

物を束ぬる革なめしがは。

鞅 カン、コン。其闇切 翰

たけのかは（鞣）。○（禮）「冪用二疏布一久ノ之鞣用レ一」。

鞅 カツ、カチ。古八切 黠

皮鞭、またぐつ。

鞅 ケキ、キャク。居逆切 陌

くら（鞍）。

鞅 韁に同じ。

靳 キン、コン。居近切 問

靴 クツ、ケ。呼臥切 歌

鞅 ケン、ゲン。巨今切 寒 ケン、其淹切 鹽

ゴン。切 咸 コン。切 銜

かはぐつ（靴）。

鞅 キン、ゴン。巨禁切 沁

物を束ぬる革なめしがは。

鞅 カン、コン。其闇切 翰

たけのかは（鞣）。○（禮）「冪用二疏布一久ノ之鞣用レ一」。

鞅 カツ、カチ。古八切 黠

皮鞭、またぐつ。

鞅 ケキ、キャク。居逆切 陌

くら（鞍）。

鞅 韁に同じ。

靳 キン、コン。居近切 問

靴 クツ、ケ。呼臥切 歌

鞅 ケン、ゲン。巨今切 寒 ケン、其淹切 鹽

ゴン。切 咸 コン。切 銜

かはぐつ（靴）。

鞅 キン、ゴン。巨禁切 沁

物を束ぬる革なめしがは。

鞅 カン、コン。其闇切 翰

たけのかは（鞣）。○（禮）「冪用二疏布一久ノ之鞣用レ一」。

鞅 カツ、カチ。古八切 黠

皮鞭、またぐつ。

鞅 ケキ、キャク。居逆切 陌

くら（鞍）。

鞅 韁に同じ。

靳 キン、コン。居近切 問

靴 クツ、ケ。呼臥切 歌

鞅 ケン、ゲン。巨今切 寒 ケン、其淹切 鹽

ゴン。切 咸 コン。切 銜

かはぐつ（靴）。

鞅 キン、ゴン。巨禁切 沁

物を束ぬる革なめしがは。

鞅 カン、コン。其闇切 翰

たけのかは（鞣）。○（禮）「冪用二疏布一久ノ之鞣用レ一」。

鞅 カツ、カチ。古八切 黠

皮鞭、またぐつ。

鞅 ケキ、キャク。居逆切 陌

くら（鞍）。

鞅 韁に同じ。

靳 キン、コン。居近切 問

靴 クツ、ケ。呼臥切 歌

甲 カフ、ゲフ。胡甲切 洽
—鎧は、花の相次ぎ比ぶ鎧にいふ語。
○〔何晏〕紅蕖—鎧。

靴 ハウ、ペウ。歩包切 肴
柔革の工人、なめしがはし。

靷 テフ。他協切 葉
○鞍飾くらのかはざり。
一—鎧は、馬具。

靸 ク、ゴ。檀俱切 虞
一兵器。○鞋の字の條を見よ。

鞁 ヒ、ピ。平祕切 寘
一ひきづな、〔約〕。○〔國〕「吾兩—特レ」〔策〕。
「—束レ馬」。
二馬に裝束すきすき、かざる。○〔唐韻〕

鞄 ハク、ヒヤク。匹革切 陌
まづか〔靜〕。

鞋 エン、オン。於阮切 阮
くつ〔履〕。

鞣 カツ、クチ。古對切 隊
藁の席、わらむしろ。○〔禮〕「藁—之設」。

鞜 コウ。丘弘切 蒸
車の軾、おしまづき。

鞠 コウ、胡瓜切 講 キウ、兵弓切 東
ゴウ。切 ク。切
鼓の中の韋、かはおほひ。

鞄 ハク、匹角切 覺 ホク、蒲沃切 沃
ホク。切

鞋 ケイ、エ。懸圭切 齊
ひも、いと〔系〕。

鞋 クヲ、ケ。公蛙切 麻
車上の系、ひも。

鞌 アン。烏寒切 寒
物なのする爲めに牛馬の背上に置く具、くら。○〔漢〕「投—高如レ城者數十所」。

鞍 前條に同じ。○〔漢〕「下レ馬解レ—」。

鞎 シ。脂利切 寘 軫視切 紙
蒼紅の絲、きぬがさのひも。

鞎 コン。平恩切 痕 ゴン。五根切 魂 ケン、コン。
居言切 元 ゴン、戸袞切 阮 古恨切 願
車の前にある革飾、かざりがは。

鞋 キョウ、ク。居擬切 腫
鞋に同じ。

鞏 キョウ、ク。居擬切 腫
一章を以て束ぬ、つかぬ。○〔易〕「—用二黄牛之革一」。
二かたし〔固〕。○〔詩〕「戎々吳夫、無レ不レ克—一」。
三いる〔用〕。○〔揚雄〕「—火乾也」。

鞄 アウ、ヤウ。於兩切 養
一つとむ〔強〕。二になふ〔荷〕。
三むながい〔頸韁〕。

七畫

鞅 鞅に同じ。

鞋 鞋に同じ。

鞓 テイ、チヤウ。他丁切 靑
一皮帶、かはおび。
二いんのひも〔系綬〕。

鞔 カフ、ケフ。古治切 洽
韁の屬、かはぐつ。

鞘 カフ、コフ。葛合切 合
鞘に同じ。

鞋 トウ、ヅ。田候切 宥
車のうはしき。

鞦 ヂン、母官切 寒 ヂン、武遠切 阮
マン。切 モン。切
くつ〔履〕、くつのから、履殼。○〔呂氏春秋〕「南家工人也爲レ者也」。

鞦 ボン、モン。母本切 阮
もだゆ〔靡〕。○〔呂氏春秋〕「胃充則中大—」。

靴 セイ。征例切 霽
刀鞘さや。

鞣 ト、ヅ。他胡切 虞
韜—は、わらぐつ〔履〕。

鞭 ヘン、ピエン。卑連切 先
一むち。○〔詩〕「—策—鞭」。

鞭 ヘン、ピエン。卑連切 先
一むち。○〔詩〕「—策—鞭」。

鞨 カツ、ケチ。古拶切 曷
一北狄の名。○〔後漢〕「—骨」。

鞨 カツ、ケチ。古拶切 曷
一北狄の名。○〔後漢〕「—骨」。

鞫 キク、ケチ。居六切 屋
一問ふ。○〔書〕「—人斯得」。
二窮める。○〔詩〕「—爾出話」。

鞫 キク、ケチ。居六切 屋
一問ふ。○〔書〕「—人斯得」。
二窮める。○〔詩〕「—爾出話」。

鞦 ツヰウ、ニュ。而容切 冬
鞦韆、ぶらんこ。

鞦 ツヰウ、ニュ。而容切 冬
鞦韆、ぶらんこ。

鞭 ハウ、ペウ。蒲交切 肴 蒲巧切 巧 防教切 效
柔革の工人、なめしがはし。

鞘 レイ、リヤウ。耶丁切 青
羊の子。

鞘 ハツ、マチ。亡八切 黠
皮鞘、かはぐつ。

鞙 アウ、ヤウ。於兩切 養
一牛馬の喉下に絡ふ韁紳、むながい、頸韁。○〔左〕「抽レ劍斷レ—」。
二韁紳ほだし。○〔晉〕「野逸所二以就一レ—」。
三つよし〔強〕。
四快に通じ作る、うらむ。○〔史〕「居常—一」。
五になふ〔荷〕。○〔詩〕「王事—掌」。

鞙 アウ、於良切 陽
一前條の一に同じ。
二—阿は、たのみなきこと。

鞱 チウ、ヂユ。直祐切 宥
かぶと、兜鍪。

鞴 ハウ、古治切 洽 カフ、葛合切 合
柔革の工人、なめしがはし。

鞘 レイ、リヤウ。耶丁切 青
羊の子。

鞘 ハツ、マチ。亡八切 黠
皮鞘、かはぐつ。

鞙 アウ、ヤウ。於兩切 養
一牛馬の喉下に絡ふ韁紳、むながい、頸韁。○〔左〕「抽レ劍斷レ—」。
二韁紳ほだし。○〔晉〕「野逸所二以就一レ—」。
三つよし〔強〕。
四快に通じ作る、うらむ。○〔史〕「居常—一」。
五になふ〔荷〕。○〔詩〕「王事—掌」。

鞱 チウ、ヂユ。直祐切 宥
かぶと、兜鍪。

鞴 カフ、古治切 洽 カフ、葛合切 合
柔革の工人、なめしがはし。

鞘 レイ、リヤウ。耶丁切 青
羊の子。

鞘 ハツ、マチ。亡八切 黠
皮鞘、かはぐつ。

鞙 アウ、ヤウ。於兩切 養
一牛馬の喉下に絡ふ韁紳、むながい、頸韁。○〔左〕「抽レ劍斷レ—」。
二韁紳ほだし。○〔晉〕「野逸所二以就一レ—」。
三つよし〔強〕。
四快に通じ作る、うらむ。○〔史〕「居常—一」。
五になふ〔荷〕。○〔詩〕「王事—掌」。

鞱 チウ、ヂユ。直祐切 宥
かぶと、兜鍪。

鞴 カフ、古治切 洽 カフ、葛合切 合
柔革の工人、なめしがはし。

鞘 レイ、リヤウ。耶丁切 青
羊の子。

鞘 ハツ、マチ。亡八切 黠
皮鞘、かはぐつ。

鞙 アウ、ヤウ。於兩切 養
一牛馬の喉下に絡ふ韁紳、むながい、頸韁。○〔左〕「抽レ劍斷レ—」。
二韁紳ほだし。○〔晉〕「野逸所二以就一レ—」。
三つよし〔強〕。
四快に通じ作る、うらむ。○〔史〕「居常—一」。
五になふ〔荷〕。○〔詩〕「王事—掌」。

鞱 チウ、ヂユ。直祐切 宥
かぶと、兜鍪。

鞱 ツヰウ、ニュ。而容切 冬
鞦韆、ぶらんこ。

鞦 ツヰウ、ニュ。而容切 冬
鞦韆、ぶらんこ。

鞭 ハウ、ペウ。蒲交切 肴 蒲巧切 巧 防教切 效
柔革の工人、なめしがはし。

鞘 レイ、リヤウ。耶丁切 青
羊の子。

鞘 ハツ、マチ。亡八切 黠
皮鞘、かはぐつ。

鞙 アウ、ヤウ。於兩切 養
一牛馬の喉下に絡ふ韁紳、むながい、頸韁。○〔左〕「抽レ劍斷レ—」。
二韁紳ほだし。○〔晉〕「野逸所二以就一レ—」。
三つよし〔強〕。
四快に通じ作る、うらむ。○〔史〕「居常—一」。
五になふ〔荷〕。○〔詩〕「王事—掌」。

鞱 チウ、ヂユ。直祐切 宥
かぶと、兜鍪。

鞴 カフ、古治切 洽 カフ、葛合切 合
柔革の工人、なめしがはし。

鞘 レイ、リヤウ。耶丁切 青
羊の子。

鞘 ハツ、マチ。亡八切 黠
皮鞘、かはぐつ。

鞙 アウ、ヤウ。於兩切 養
一牛馬の喉下に絡ふ韁紳、むながい、頸韁。○〔左〕「抽レ劍斷レ—」。
二韁紳ほだし。○〔晉〕「野逸所二以就一レ—」。
三つよし〔強〕。
四快に通じ作る、うらむ。○〔史〕「居常—一」。
五になふ〔荷〕。○〔詩〕「王事—掌」。

鞱 チウ、ヂユ。直祐切 宥
かぶと、兜鍪。

鞴 カフ、古治切 洽 カフ、葛合切 合
柔革の工人、なめしがはし。

鞘 レイ、リヤウ。耶丁切 青
羊の子。

鞘 ハツ、マチ。亡八切 黠
皮鞘、かはぐつ。

鞙 アウ、ヤウ。於兩切 養
一牛馬の喉下に絡ふ韁紳、むながい、頸韁。○〔左〕「抽レ劍斷レ—」。
二韁紳ほだし。○〔晉〕「野逸所二以就一レ—」。
三つよし〔強〕。
四快に通じ作る、うらむ。○〔史〕「居常—一」。
五になふ〔荷〕。○〔詩〕「王事—掌」。

鞱 チウ、ヂユ。直祐切 宥
かぶと、兜鍪。

鞴 カフ、古治切 洽 カフ、葛合切 合
柔革の工人、なめしがはし。

鞘 レイ、リヤウ。耶丁切 青
羊の子。

鞘 ハツ、マチ。亡八切 黠
皮鞘、かはぐつ。

鞙 アウ、ヤウ。於兩切 養
一牛馬の喉下に絡ふ韁紳、むながい、頸韁。○〔左〕「抽レ劍斷レ—」。
二韁紳ほだし。○〔晉〕「野逸所二以就一レ—」。
三つよし〔強〕。
四快に通じ作る、うらむ。○〔史〕「居常—一」。
五になふ〔荷〕。○〔詩〕「王事—掌」。

鞱 チウ、ヂユ。直祐切 宥
かぶと、兜鍪。

鞴 カフ、古治切 洽 カフ、葛合切 合
柔革の工人、なめしがはし。

鞘 レイ、リヤウ。耶丁切 青
羊の子。

鞘 ハツ、マチ。亡八切 黠
皮鞘、かはぐつ。

鞙 アウ、ヤウ。於兩切 養
一牛馬の喉下に絡ふ韁紳、むながい、頸韁。○〔左〕「抽レ劍斷レ—」。
二韁紳ほだし。○〔晉〕「野逸所二以就一レ—」。
三つよし〔強〕。
四快に通じ作る、うらむ。○〔史〕「居常—一」。
五になふ〔荷〕。○〔詩〕「王事—掌」。

鞱 チウ、ヂユ。直祐切 宥
かぶと、兜鍪。

鞴 カフ、古治切 洽 カフ、葛合切 合
柔革の工人、なめしがはし。

鞘 レイ、リヤウ。耶丁切 青
羊の子。

鞘 ハツ、マチ。亡八切 黠
皮鞘、かはぐつ。

鞙 アウ、ヤウ。於兩切 養
一牛馬の喉下に絡ふ韁紳、むながい、頸韁。○〔左〕「抽レ劍斷レ—」。
二韁紳ほだし。○〔晉〕「野逸所二以就一レ—」。
三つよし〔強〕。
四快に通じ作る、うらむ。○〔史〕「居常—一」。
五になふ〔荷〕。○〔詩〕「王事—掌」。

鞱 チウ、ヂユ。直祐切 宥
かぶと、兜鍪。

鞴 カフ、古治切 洽 カフ、葛合切 合
柔革の工人、なめしがはし。

鞘 レイ、リヤウ。耶丁切 青
羊の子。

鞘 ハツ、マチ。亡八切 黠
皮鞘、かはぐつ。

鞙 アウ、ヤウ。於兩切 養
一牛馬の喉下に絡ふ韁紳、むながい、頸韁。○〔左〕「抽レ劍斷レ—」。
二韁紳ほだし。○〔晉〕「野逸所二以就一レ—」。
三つよし〔強〕。
四快に通じ作る、うらむ。○〔史〕「居常—一」。
五になふ〔荷〕。○〔詩〕「王事—掌」。

鞱 チウ、ヂユ。直祐切 宥
かぶと、兜鍪。

鞴 カフ、古治切 洽 カフ、葛合切 合
柔革の工人、なめしがはし。

鞘 レイ、リヤウ。耶丁切 青
羊の子。

鞘 ハツ、マチ。亡八切 黠
皮鞘、かはぐつ。

鞙 アウ、ヤウ。於兩切 養
一牛馬の喉下に絡ふ韁紳、むながい、頸韁。○〔左〕「抽レ劍斷レ—」。
二韁紳ほだし。○〔晉〕「野逸所二以就一レ—」。
三つよし〔強〕。
四快に通じ作る、うらむ。○〔史〕「居常—一」。
五になふ〔荷〕。○〔詩〕「王事—掌」。

鞱 チウ、ヂユ。直祐切 宥
かぶと、兜鍪。

鞴 カフ、古治切 洽 カフ、葛合切 合
柔革の工人、なめしがはし。

鞘 レイ、リヤウ。耶丁切 青
羊の子。

鞘 ハツ、マチ。亡八切 黠
皮鞘、かはぐつ。

鞙 アウ、ヤウ。於兩切 養
一牛馬の喉下に絡ふ韁紳、むながい、頸韁。○〔左〕「抽レ劍斷レ—」。
二韁紳ほだし。○〔晉〕「野逸所二以就一レ—」。
三つよし〔強〕。
四快に通じ作る、うらむ。○〔史〕「居常—一」。
五になふ〔荷〕。○〔詩〕「王事—掌」。

鞱 チウ、ヂユ。直祐切 宥
かぶと、兜鍪。

鞘 縫め結びて足に著く部ち、わらぐつの類。○〔宋〕「賜以二錢一—一」。
〔廣雅〕あさをみて作りたるくつ。○〔中華古今注〕「周文王以絲爲之名曰—一」。
〔廣雅〕いとをみて作りたるくつ。○〔考工記〕「鮑人爲レ—」。

鞋 クヲ、ケ。公蛙切 麻
ひも、いと〔系〕。

鞋 ケイ、エ。懸圭切 齊
ひも、いと〔系〕。

鞌 タン、ダン。徒旱切 旱
車上の系、ひも。

鞌 アン。烏寒切 寒
物なのする爲めに牛馬の背上に置く具、くら。○〔漢〕「投—高如レ城者數十所」。

鞍 前條に同じ。○〔漢〕「下レ馬解レ—」。

鞎 シ。脂利切 寘 軫視切 紙
蒼紅の絲、きぬがさのひも。

鞎 コン。平恩切 痕 ゴン。五根切 魂 ケン、コン。
居言切 元 ゴン、戸袞切 阮 古恨切 願
車の前にある革飾、かざりがは。

鞋 キョウ、ク。居擬切 腫
鞋に同じ。

鞏 キョウ、ク。居擬切 腫
一章を以て束ぬ、つかぬ。○〔易〕「—用二黄牛之革一」。
二かたし〔固〕。○〔詩〕「戎々吳夫、無レ不レ克—一」。
三いる〔用〕。○〔揚雄〕「—火乾也」。

鞘 ギヤウ、五更切 庚 魚孟切 映
かたし〔堅〕。

鞕 ケツ、ケチ。虎結切 屑 ケキ、キヤク
紀子切 陌 キョク、訖力切 職
きびしく繫ぐ、一說に、牛の脛を繫ぐ、つなぐ、きびし〔急〕。

鞔 タン、ダン。徒旱切 旱
馬帶、はらおび。

鞋 テン。抽延切 先
かはぐつ〔韈〕。

鞴 ホ、薄故切 遇 ブ。切 ム。伴絡切 潛
くつ〔靸〕。

鞴 タイ、デ。杜外切 泰
つくのふ、おざなふ〔補〕。

鞘 サ。素何切 歌
一—鞘は、一種の樂器、又馬の尾。

鞍 サ、セ。所加切 麻
韉に同じ。

鞍 サク、セキ。山責切 陌
車の前にある革飾、かざりがは。

鞋 ヘイ、バイ。步禮切 薺
くつ〔鞋〕。

鞋 テウ、デウ。徒聊切 蕭

鞘 ギヤウ、五更切 庚 魚孟切 映
かたし〔堅〕。

鞕 ケツ、ケチ。虎結切 屑 ケキ、キヤク
紀子切 陌 キョク、訖力切 職
きびしく繫ぐ、一說に、牛の脛を繫ぐ、つなぐ、きびし〔急〕。

鞔 タン、ダン。徒旱切 旱
馬帶、はらおび。

鞋 テン。抽延切 先
かはぐつ〔韈〕。

鞴 ホ、薄故切 遇 ブ。切 ム。伴絡切 潛
くつ〔靸〕。

鞴 タイ、デ。杜外切 泰
つくのふ、おざなふ〔補〕。

鞘 サ。素何切 歌
一—鞘は、一種の樂器、又馬の尾。

鞍 サ、セ。所加切 麻
韉に同じ。

鞍 サク、セキ。山責切 陌
車の前にある革飾、かざりがは。

鞋 ヘイ、バイ。步禮切 薺
くつ〔鞋〕。

鞋 テウ、デウ。徒聊切 蕭

八畫

鞘 ギヤウ、五更切 庚 魚孟切 映
かたし〔堅〕。

鞕 ケツ、ケチ。虎結切 屑 ケキ、キヤク
紀子切 陌 キョク、訖力切 職
きびしく繫ぐ、一說に、牛の脛を繫ぐ、つなぐ、きびし〔急〕。

鞔 タン、ダン。徒旱切 旱
馬帶、はらおび。

鞋 テン。抽延切 先
かはぐつ〔韈〕。

鞴 ホ、薄故切 遇 ブ。切 ム。伴絡切 潛
くつ〔靸〕。

鞴 タイ、デ。杜外切 泰
つくのふ、おざなふ〔補〕。

鞘 サ。素何切 歌
一—鞘は、一種の樂器、又馬の尾。

鞍 サ、セ。所加切 麻
韉に同じ。

鞍 サク、セキ。山責切 陌
車の前にある革飾、かざりがは。

鞋 ヘイ、バイ。步禮切 薺
くつ〔鞋〕。

鞋 テウ、デウ。徒聊切 蕭

鞘 ギヤウ、五更切 庚 魚孟切 映
かたし〔堅〕。

鞕 ケツ、ケチ。虎結切 屑 ケキ、キヤク
紀子切 陌 キョク、訖力切 職
きびしく繫ぐ、一說に、牛の脛を繫ぐ、つなぐ、きびし〔急〕。

鞔 タン、ダン。徒旱切 旱
馬帶、はらおび。

鞋 テン。抽延切 先
かはぐつ〔韈〕。

鞴 ホ、薄故切 遇 ブ。切 ム。伴絡切 潛
くつ〔靸〕。

鞴 タイ、デ。杜外切 泰
つくのふ、おざなふ〔補〕。

鞘 サ。素何切 歌
一—鞘は、一種の樂器、又馬の尾。

鞍 サ、セ。所加切 麻
韉に同じ。

鞍 サク、セキ。山責切 陌
車の前にある革飾、かざりがは。

鞋 ヘイ、バイ。步禮切 薺
くつ〔鞋〕。

鞋 テウ、デウ。徒聊切 蕭

鞘 ギヤウ、五更切 庚 魚孟切 映
かたし〔堅〕。

鞕 ケツ、ケチ。虎結切 屑 ケキ、キヤク
紀子切 陌 キョク、訖力切 職
きびしく繫ぐ、一說に、牛の脛を繫ぐ、つなぐ、きびし〔急〕。

鞔 タン、ダン。徒旱切 旱
馬帶、はらおび。

鞋 テン。抽延切 先
かはぐつ〔韈〕。

鞴 ホ、薄故切 遇 ブ。切 ム。伴絡切 潛
くつ〔靸〕。

鞴 タイ、デ。杜外切 泰
つくのふ、おざなふ〔補〕。

鞘 サ。素何切 歌
一—鞘は、一種の樂器、又馬の尾。

鞍 サ、セ。所加切 麻
韉に同じ。

鞍 サク、セキ。山責切 陌
車の前にある革飾、かざりがは。

鞋 ヘイ、バイ。步禮切 薺
くつ〔鞋〕。

鞋 テウ、デウ。徒聊切 蕭

鞘 ギヤウ、五更切 庚 魚孟切 映
かたし〔堅〕。

鞕 ケツ、ケチ。虎結切 屑 ケキ、キヤク
紀子切 陌 キョク、訖力切 職
きびしく繫ぐ、一說に、牛の脛を繫ぐ、つなぐ、きびし〔急〕。

鞔 タン、ダン。徒旱切 旱
馬帶、はらおび。

鞋 テン。抽延切 先
かはぐつ〔韈〕。

鞴 ホ、薄故切 遇 ブ。切 ム。伴絡切 潛
くつ〔靸〕。

鞴 タイ、デ。杜外切 泰
つくのふ、おざなふ〔補〕。

鞘 サ。素何切 歌
一—鞘は、一種の樂器、又馬の尾。

鞍 サ、セ。所加切 麻
韉に同じ。

鞍 サク、セキ。山責切 陌
車の前にある革飾、かざりがは。

鞋 ヘイ、バイ。步禮切 薺
くつ〔鞋〕。

鞋 テウ、デウ。徒聊切 蕭

鞘 ギヤウ、五更切 庚 魚孟切 映
かたし〔堅〕。

鞕 ケツ、ケチ。虎結切 屑 ケキ、キヤク
紀子切 陌 キョク、訖力切 職
きびしく繫ぐ、一說に、牛の脛を繫ぐ、つなぐ、きびし〔急〕。

鞔 タン、ダン。徒旱切 旱
馬帶、はらおび。

鞋 テン。抽延切 先
かはぐつ〔韈〕。

鞴 ホ、薄故切 遇 ブ。切 ム。伴絡切 潛
くつ〔靸〕。

鞴 タイ、デ。杜外切 泰
つくのふ、おざなふ〔補〕。

鞘 サ。素何切 歌
一—鞘は、一種の樂器、又馬の尾。

鞍 サ、セ。所加切 麻
韉に同じ。

鞍 サク、セキ。山責切 陌
車の前にある革飾、かざりがは。

鞋 ヘイ、バイ。步禮切 薺
くつ〔鞋〕。

鞋 テウ、デウ。徒聊切 蕭

鞘 ギヤウ、五更切 庚 魚孟切 映
かたし〔堅〕。

鞕 ケツ、ケチ。虎結切 屑 ケキ、キヤク
紀子切 陌 キョク、訖力切 職
きびしく繫ぐ、一說に、牛の脛を繫ぐ、つなぐ、きびし〔急〕。

鞔 タン、ダン。徒旱切 旱
馬帶、はらおび。

鞋 テン。抽延切 先
かはぐつ〔韈〕。

鞴 ホ、薄故切 遇 ブ。切 ム。伴絡切 潛
くつ〔靸〕。

鞴 タイ、デ。杜外切 泰
つくのふ、おざなふ〔補〕。

鞘 サ。素何切 歌
一—鞘は、一種の樂器、又馬の尾。

鞍 サ、セ。所加切 麻
韉に同じ。

鞍 サク、セキ。山責切 陌
車の前にある革飾、かざりがは。

鞋 ヘイ、バイ。步禮切 薺
くつ〔鞋〕。

鞋 テウ、デウ。徒聊切 蕭

鞘 ギヤウ、五更切 庚 魚孟切 映
かたし〔堅〕。

鞕 ケツ、ケチ。虎結切 屑 ケキ、キヤク
紀子切 陌 キョク、訖力切 職
きびしく繫ぐ、一說に、牛の脛を繫ぐ、つなぐ、きびし〔急〕。

鞔 タン、ダン。徒旱切 旱
馬帶、はらおび。

鞋 テン。抽延切 先
かはぐつ〔韈〕。

鞴 ホ、薄故切 遇 ブ。切 ム。伴絡切 潛
くつ〔靸〕。

鞴 タイ、デ。杜外切 泰
つくのふ、おざなふ〔補〕。

鞘 サ。素何切 歌
一—鞘は、一種の樂器、又馬の尾。

鞍 サ、セ。所加切 麻
韉に同じ。

鞍 サク、セキ。山責切 陌
車の前にある革飾、かざりがは。

鞋 ヘイ、バイ。步禮切 薺
くつ〔鞋〕。

鞋 テウ、デウ。徒聊切 蕭

鞋 シ。所綺切 紙 鞋に同じ。

鞚 コウ、ク。苦貢切 送 馬勒くつわ。○〔隋〕「因提二馬―一ニ。〔増韻〕馬をはす。○〔前漢〕「以二金―一賜レ之。〔増韻〕くつわづらをとり去る。○〔晉発揮〕「馬―一は長勝。〔玉篇〕くつわづらをひかず。○〔白居易〕「―一銀勒馬ニ。〔増韻〕きつぶ。○〔後漢〕「雪耳受―一ニ。〔増韻〕くつわづらをつくるを。○〔晉詩〕「赤手調―一ズレ。

鞭 チヤウ。丑亮切 漾 ゆみぶくろ（ゆぶくろ）弓衣。

鞦 テツ、テチ。陟劣切 屑 車の具。

鞔 エン、於寘 元 於阮 阮 チン。阜 切 鞔に同じ。物を蔽ふ具。

鞔 ウン、チン。於云切 文 鞔に同じ。

鞞 ハイ、ベ。薄賣切 卦 火を吹く具、ふいがう。

鞀 エウ。餘招切 蕭 つづみ（鼓）。

鞨 メウ、ドウ。徒刀切 豪 鼓の木一説に、陶に同じ。

鞲 クワン。古滿切 旱 車のかは具。

鞡 ホウ、フ。補孔切 董 つかぬ（束）。

鞣 タツ、タチ。他達切 曷 うつ、打。

鞙 カン、ケン。丘閑切 刪 ○かたし（堅）。○〔博雅〕「固・確―也。○堅き物を破る聲にいふ字。

鞘 ヘツ、ヘチ。方結切 屑 刀鞘の飾り、さやかざり、又、邪に作る。

鞜 ダウ、ノウ。奴到切 號 優皮（ゆるきかは）。

鞗 ヨク、越逼 キヨク、忽域 井キ。切 イク、乙六 ヲク。切 職 燕表の縫、かはごろものぬひめ。

鞴 アフ、オフ。烏合切 合 ○車の具。○一説は、小兒の履。

鞳 エフ、オフ。於業切 葉 前條の○に同じ。

鞴 ホウ、フ。補孔切 董 珤に同じ。佩刀の鞘の上の飾。

鞹 コク、越逼 キヨク、忽域 井キ。切 イク、乙六 ヲク。切 職 鞹に同じ。

鞹 エキ、ヤク。夷益切 陌 柔革、なめしがは。

鞹 ホウ、フ。補孔切 董 珤に同じ。○〔左〕「藻率―一ニ。

鞹 ホウ、フ。悲陵切 蒸 車の斬ひきがは。

鞹 キク、コク。居六切 屋 ○球状になぜる玩弄用のもの、まり、けまり。○〔戰〕「六・博蹋―一ニ。○そだつ（生）やしなふ（養）。○〔詩〕「母兮―一レ我。「蓄ニ。○わかし（稚）。○〔書〕「無レ遺ニ―一子ら。○事情を推究す、おす、きはむ、とりしぶだす。○〔書〕「爾惟自―一自苦。○〔詩〕「降ニ此―一蹴ニ。○つぐ（告）。○〔詩〕「蹋レ鞠―一レ旅。○まるく體を屈す、かがむ。○〔禮〕「鞠レ圭入レ門―一躬如レ恐レ失レ之。○菊に通じ用ふ。かはらよもぎ。○〔禮〕「有二黄―一華ニ。○麴の花の如き色、始生の桑葉の如き色。○〔禮〕「天子乃薦ニ―一衣於先帝ニ。○うむ、（酒母）。○〔周・註〕「如ニ―一レ麴ニ。○〔晉語〕「―之甲ニ。○〔前漢〕「足ニて蹴ニ―一之ニ。○〔前漢〕「なでやしなふ。○〔後漢〕「鞠育ニ。○〔前漢〕「ことかに問ひ給ひよ。○〔前漢〕「鞫ニ―一其辭ニ。

鞹 キク、コク。居六切 屋 ○球状になぜる玩弄用のもの、まり、けまり。○〔戰〕「六・博蹋―一ニ。○そだつ（生）やしなふ（養）。○〔詩〕「母兮―一レ我。「蓄ニ。○わかし（稚）。○〔書〕「無レ遺ニ―一子ら。○事情を推究す、おす、きはむ、とりしぶだす。○〔書〕「爾惟自―一自苦。○〔詩〕「降ニ此―一蹴ニ。○つぐ（告）。○〔詩〕「蹋レ鞠―一レ旅。○まるく體を屈す、かがむ。○〔禮〕「鞠レ圭入レ門―一躬如レ恐レ失レ之。○菊に通じ用ふ。かはらよもぎ。○〔禮〕「有二黄―一華ニ。○麴の花の如き色、始生の桑葉の如き色。○〔禮〕「天子乃薦ニ―一衣於先帝ニ。○うむ、（酒母）。○〔周・註〕「如ニ―一レ麴ニ。○〔晉語〕「―之甲ニ。○〔前漢〕「足ニて蹴ニ―一之ニ。○〔前漢〕「なでやしなふ。○〔後漢〕「鞠育ニ。○〔前漢〕「ことかに問ひ給ひよ。○〔前漢〕「鞫ニ―一其辭ニ。

鞹 ホウ、フ。補孔切 董 珤に同じ。○〔左〕「藻率―一ニ。

鞹 ホウ、フ。悲陵切 蒸 車の斬ひきがは。

鞹 キク、コク。居六切 屋 鞹に同じ。○〔推〕「斲二牛一皮一ニ。

鞹 ホウ、フ。補孔切 董 珤に同じ。○〔左〕「藻率―一ニ。

鞹 ホウ、フ。悲陵切 蒸 車の斬ひきがは。

鞹 キク、コク。居六切 屋 鞹に同じ。○〔推〕「斲二牛一皮一ニ。

鞹 キウ、ク。丘弓切 東 弯に同じ。―鵠は、なんなかつら。○〔左〕「有二山―一鵠乎」。

鞹 セフ。蘇協切 葉 俗の韈の字。

鞭 ケン、コン。盧顯切 銑 むち（鞭）。

鞭 ホク、ボク。莫卜切 屋 ○車の軸のまばり、とこまばり。○曲がれる轅のまばり、ながえまばり。

鞭 ボク、ボク。馬角切 覺 ながえまばり（轅の束）。

鞭 ホウ、ム。莫浮切 尤 ○ぶと（首鐙）。○〔漢〕「被二甲鞭一ニ。

鞭 ヤウ。與章切 陽 馬頭の上の轅、おもがい。

鞠 キク、コク。居六切 屋 ○罪人を究問す、とひつむ、きはむ、とりしらぶ。○〔史〕「訊―一報・論ニ。○きはまる（窮）。○〔詩〕「昔育恐育―一、及レ鞫顛覆ニ。○水外、みづぎは。○〔詩〕「芮―一之卽ニ。

鞭 ベン、マン。莫管切 旱 ―鞋は、くつ（履）。

鞭 ヘン、メン。綿兗切 銑 馬の勒絡、おもがい。

鞭 ベン、メン。彌箭切 霰 馬の面に當つるはながは、轡の皮。

鞭 キヨク、ケキ。紀力切 職 ○きびし（急）。○皮の堅き貌にいふ字、かたし。

鞭 シフ。即入切 緝 くびき（車軛）。

鞭 ジウ、ニユ。耳由切 尤 ○乾革、かわきたるかは又、熟皮、なめしがは。○やはらかき（柔）。

鞭 ジウ、忍九 ニユ。切 ザウ、女敎 ニユ。切 宥 柔き皮。

鞭 シツ、シチ。式質切 質 刀鞘さや。

鞭 ハウ。博旁切 陽 鞋の革皮、くつのかは。

鞭 ケン、コン。盧顯切 銑 ○鞭は、馬の敎下にしく具、くらしき。○弓を射るとき右手の指に掛けて弦を持するもの、ゆがけ。

鞭 フウ、ブ。扶富切 宥 轡と腹とに同じ。

鞭 ベン、メン。綿兗切 銑 敎に同じ。

鞭 ベン、メン。彌箭切 霰 馬の勒絡、おもがい。

鞭 キヨク、ケキ。紀力切 職 ○きびし（急）。○皮の堅き貌にいふ字、かたし。

鞭 シフ。即入切 緝 くびき（車軛）。

鞭 ジウ、ニユ。耳由切 尤 ○乾革、かわきたるかは又、熟皮、なめしがは。○やはらかき（柔）。

鞭 ジウ、忍九 ニユ。切 ザウ、女敎 ニユ。切 宥 柔き皮。

鞭 シツ、シチ。式質切 質 刀鞘さや。

鞭 ハウ。博旁切 陽 鞋の革皮、くつのかは。

鞭 ケン、コン。盧顯切 銑 ○鞭は、かしらづつみ帕頭。○〔列〕「―巾而爰。

鞭 デイ、ナイ。奴禮切 薺 鞮―は、柔き敎にいふ語。

鞭 ユ、ヰ。羊朱切 虞 あまり（餘）。

鞭 ジユ、ス。偽遇切 遇 輪に同じ。

鞭 ジユ、ス。偽遇切 遇 ○まや（廐）。○あまり（餘）。○やはらぐ（和）。

鞭 ト、ツ。當孤切 虞 皮を析く具。○牛の韉を引くと。

鞭 セウ。息姚切 蕭 馬の轡、くつわ。

鞭 シウ、シユ。七由切 尤 ○牛馬の尾にかくる韈、ふりがき、ふりがい。○〔東觀〕「結二韈一而作レ」。

鞭 セウ。息姚切 蕭 刀の鞘。

鞭 サウ、セウ。所交切 肴 車過の皮。

鞬 ケン、コン。居言切 元
弓矢を載むる器。馬上につけて弓矢を盛る器。ゆぶくろ。やぶくろ。○〔左〕「左執二鞬弭一、右属二櫜一」。

〔考證〕ゆみぶくろ。○時、按、此皮以踏ム一一。
〔補遺〕ゆみぶくろを張につく。○〔事類賦〕「補羽
〔補遺〕箭に同じ。○〔事類賦〕「補羽

鞘 チウ、ヂユ。丈九切 有
刺に同じ。まりがい。

鞭 ウン、チン。切 圓 王分 文
虐。

鞭 ケン。虚偃 切 先
鼓を治する工。はにより。

鞭 テイ、都兮 タイ。切 齊 田黎
革革にてつくりたる履。かはぐつ。○〔戰〕「甲冑—鍪」。

鞴 ハウ、ホウ。蒲告切 號
皮を持つ。

十畫

鞣 テイ、丑郢 チヤウ。切 梗 チ、直几 ヂ。切 紙
騎馬の具。

鞦 テン。丑善切 銑
❶前條に同じ。❷絲を收むる器。

鞭 クワイ、エ。戶恢切 灰
あらぬの（鬼布）。

鞭 キ。求位切 圓
馬の轡たづな。

鞅 韁に同じ。

鞠 シウ、シユ。初九切 有
鞠に同じ。

鞠 シウ、シユ。居言切 元
革の文の麤むにいふ字。ちりむ。まわ。

鞦 シウ、シユ。速侯切 尤
軟き皮。

鞪 サ。損果切 哿
革のくさり。

鞧 タフ、トフ。吐盍切 合
兵器。

鞣 サク。昔各切 藥
かはぐつ（履）。

鞨 コウ、ク。恪侯切 尤
ーー靺は、やいれ、やなぐひ。

鞭 ソウ、ス。作弄切 送
遽に馬に駕すると。

鞭 ヘン、ベン。卑連切 先
❶鞭策、むち。○〔左〕「左執二ーー一馬」。○〔史〕「ーー草」。
❷むちうつ。
〔ロ〕むちを加ふうつ。○〔史〕「ーー草」。
〔ろ〕うちて驅る。○〔國贊〕「驅ーー復
慮々」。
〔は〕はげまし進む。○〔韓愈〕「古ー心之ーー所欺」。
〔に〕むちを以て馬を御する。○〔史〕「余御ー
〔異聞〕なかむち。○〔後漢〕「ーー鞭杖」。
〔後漢〕がまのむち。○〔後漢〕「一個月ーー」。
〔後漢〕むちをなげうつ。○〔後〕「ーー」。
〔晉書〕むちを馬にあつ。○〔晉書〕「ーー」。
馬に。
〔晉書〕馬をかるにいふ。○〔北〕「ーー」。
〔晉書〕前に同じ。○〔後漢〕「ーー」。
〔後漢〕馬のうしろをとらへ。○〔後漢〕「ーー」。

鞭 ヘン、ベン。薄官切 寒
❶大帶、おほおび。○〔易〕「或賜二之一」。「絲」。
帶に。
❷小蠻、こぶくろ。○〔禮〕「男一革、女一
〔後漢〕かはおびをからたにつくるも。○〔後〕「ーー」。
及門内ーー」。
〔後漢〕小帶に佩ぶも。○〔後〕「ーー」。

鞭 エン、於袁 元 チン、切 阮
物を量る具、かはのかめ、一に曰ふ井の水を汲むもの、つるべ。

十一畫

鞭 シ。所綺 切 紙 所劣 切 薛 サイ、セ。
かはぐつ、革履。

鞭 鞭に同じ。

鞭 クヮク。著郭 切 藥 又、韓に作る。
毛を去りたる皮、つくりかは。○〔論〕「虎豹之ーー」。
〔補遺〕あかうまのつくりがは。○〔後補〕ボーー之ーー。

鞭 ヘン、ベン。卑連切 先
鞭策、むち。○〔左〕「左執二ーー一馬」。
❷むちうつ。
〔ロ〕むちを加ふうつ。○〔史〕「ーー草」。
〔ろ〕うちて驅る。○〔國贊〕「驅ーー復
慮々」。
〔は〕はげまし進む。○〔韓愈〕「古心
〔韓愈〕むちを以て馬を御する。○〔史〕「余御ー
之ーー所欺」。
〔異聞〕なかむち。○〔後漢〕「ーー鞭杖」。
〔後漢〕がまのむち。○〔後漢〕「一個月ーー」。
〔後漢〕むちをなげうつ。○〔後〕「ーー」。
〔晉書〕むちを馬にあつ。○〔晉書〕「ーー」。
馬に。
〔晉書〕馬をかるにいふ。○〔北〕「ーー」。
〔晉書〕前に同じ。○〔後漢〕「ーー」。
〔後漢〕馬のうしろをとらへ。○〔後漢〕「ーー」。

鞭 鞭に同じ。

鞭 ヘン、ベン。卑連切 先
鞭策、むち。○〔左〕「左執二ーー一馬」。
❷むちうつ。
〔ロ〕むちを加ふうつ。○〔史〕「ーー草」。
〔ろ〕うちて驅る。○〔國贊〕「驅ーー復
慮々」。
〔は〕はげまし進む。○〔韓愈〕「古心
〔韓愈〕むちを以て馬を御する。○〔史〕「余御ー
之ーー所欺」。
〔異聞〕なかむち。○〔後漢〕「ーー鞭杖」。
〔後漢〕がまのむち。○〔後漢〕「一個月ーー」。
〔後漢〕むちをなげうつ。○〔後〕「ーー」。
〔晉書〕むちを馬にあつ。○〔晉書〕「ーー」。
馬に。
〔晉書〕馬をかるにいふ。○〔北〕「ーー」。
〔晉書〕前に同じ。○〔後漢〕「ーー」。
〔後漢〕馬のうしろをとらへ。○〔後漢〕「ーー」。

鞭 車下の索、とこばり。

鞭 ハク。方縛切 藥
車の上の蓋。

鞭 ホウ、ブ。蒲候切 宥
車の輻を裹む革。

鞭 韓に同じ。

鞭 ハン、ベン。薄官切 寒
❶大帶、おほおび。○〔易〕「或賜二之一」。「絲」。
帶に。
❷小蠻、こぶくろ。○〔禮〕「男一革、女一
〔後漢〕かはおびをからたにつくるも。○〔後〕「ーー」。
及門内ーー」。
〔後漢〕小帶に佩ぶも。○〔後〕「ーー」。

鞭 エン、於袁 元 チン、切 阮
物を量る具、かはのかめ、一に曰ふ井の水を汲むもの、つるべ。

十一畫

鞭 シ。所綺 切 紙 所劣 切 薛 サイ、セ。
かはぐつ、革履。

鞭 鞭に同じ。

鞭 クヮク。著郭 切 藥 又、韓に作る。
毛を去りたる皮、つくりかは。○〔論〕「虎豹之ーー」。
〔補遺〕あかうまのつくりがは。○〔後補〕ボーー之ーー。

鞭 ケン、コン。居言切 元
弓矢を載むる器。馬上につけて弓矢を盛る器。ゆぶくろ。やぶくろ。○〔左〕「左執二鞬弭一、右属二櫜一」。
〔考證〕ゆみぶくろ。○時、按、此皮以踏ム一一。
〔補遺〕ゆみぶくろを張につく。○〔事類賦〕「補羽
〔補遺〕箭に同じ。○〔事類賦〕「補羽

鞭 ケン、ゴン。巨偃切 阮
かはぶくろ（韜）。○〔元稹〕「文皇ーニ
乘干戈ニ」。

鞭 コ、ク。洪孤切 虞
ーー靡は、やいれ、やなぐひ。

鞭 ソウ、ス。作弄切 送
遽に馬に駕すると。

鞭 ヘン、ベン。卑連切 先
❶鞭策、むち。○〔左〕「左執二ーー一馬」。
❷むちうつ。
〔ロ〕むちを加ふうつ。○〔史〕「ーー草」。
〔ろ〕うちて驅る。○〔國贊〕「驅ーー復
慮々」。
〔は〕はげまし進む。○〔韓愈〕「古心
〔韓愈〕むちを以て馬を御する。○〔史〕「余御ー
之ーー所欺」。
〔異聞〕なかむち。○〔後漢〕「ーー鞭杖」。
〔後漢〕がまのむち。○〔後漢〕「一個月ーー」。
〔後漢〕むちをなげうつ。○〔後〕「ーー」。
〔晉書〕むちを馬にあつ。○〔晉書〕「ーー」。
馬に。
〔晉書〕馬をかるにいふ。○〔北〕「ーー」。
〔晉書〕前に同じ。○〔後漢〕「ーー」。
〔後漢〕馬のうしろをとらへ。○〔後漢〕「ーー」。

鞭 シウ、シユ。雷尤切 尤
革の文の麤むにいふ字。ちりむ。まわ。

鞭 シウ、シユ。速侯切 尤
軟き皮。

鞭 サ。損果切 哿
革のくさり。

鞭 タフ、トフ。吐盍切 合
兵器。

鞭 サク。昔各切 藥
かはぐつ（履）。

鞭 コウ、ク。恪侯切 尤
ゆごて、臂擦。

鞭 鞭に同じ。
幣に同じ。

鞭 タツ、タチ。他達切 曷
うつ（打）。

鞭 ジヨウ、ニユ。而隴切 腫 而用切 宋 而容切 冬
鞍飾くらのかざり。

鞭 タフ、トフ。託合切 合
❶兵器。❷鐙ーーは鐘鼓の聲にいふ語。

鞭 ガク、ギヤク。五陌切 陌
履頭、くつさき。

鞭 カク、ギヤク。下革切 陌
おおざなふ（補）。

鞭 シウ、シユ。雷尤切 尤
革の文の麤むにいふ字。ちりむ。まわ。

鞭 シウ、シユ。速侯切 尤
軟き皮。

鞭 サ。損果切 哿
革のくさり。

鞭 タフ、トフ。吐盍切 合
兵器。

鞭 サク。昔各切 藥
かはぐつ（履）。

鞭 コウ、ク。恪侯切 尤
ーー靡は、やいれ、やなぐひ。

鞭 鞭に同じ。
幣に同じ。

鞭 タツ、タチ。他達切 曷
うつ（打）。

鞭 ジヨウ、ニユ。而隴切 腫 而用切 宋 而容切 冬
鞍飾くらのかざり。

鞭 タフ、トフ。託合切 合
❶兵器。❷鐙ーーは鐘鼓の聲にいふ語。

鞭 ガク、ギヤク。五陌切 陌
履頭、くつさき。

鞭 カク、ギヤク。下革切 陌
おおざなふ（補）。

鞭 カク、コク。所角切 覺
きびしく束ねつつかね。○〔唐〕「作二革
鞭一ニ以束一加以レ楔」。

鞭 鞭に同じ。
歌き皮。

鞭 韓に同じ。
きがは（生皮）。

鞭 カフ、ケフ。古郟切 洽
ーー鈔はくつ。

鞭 カフ、コフ。古盍切 合
かはぐつ（鈔革履）。

鞭 ホ、ブ。蒲故切 遇
靴紙に同じ。

鞭 鞭に同じ。俗の鞭の字。

鞭 カイ、戶佳 ケ。切 佳 アイ、雄皆 エ。切 皆
革鞭、かはぐつ、底は麻棄なるかはぐつ、鞋に同じ。○〔淮〕「交ー句疏、短之」。
〔後漢〕かはぐつ。○〔後漢〕「ーー謂古之
靴也」。
〔草堂〕くさぐつ。○〔後漢〕「ーー麻山草ーー」。
〔古今注〕前に同じ。○〔後漢〕「ーー竹絲麻
身」。
〔事類〕たけのかはにてみみたるくつ。○〔後漢〕「ーー
革」。

鞭 チウ、ヂユ。鳥紅切 東
かはぐつ（靴、鞠）。

鞭 ハク。補各切 藥

鞭 車の被具、かはぐ。

鞭 ボク、陽木 モク。切 屋 封曲 沃
❶牛頭を絡ふ繩、はなづな。
❷髪を絡ふと。

鞭 ドウ、メ。奴侯切 尤
胡羊、ひつじ。

鞭 カク、キヤク。古核切 陌
キヨク、ケキ。訖力切 職
❶たづな（靶）、たづなのさき（轡首）。
❷くつわ（勒）。

鞭 トウ、ダ。徒紅切 東
馭具の飾り、うつぼのかざり。

鞭 ケウ。丘跃切 篠
繩に同じ。

鞭 キヤク、カク。訖約切 藥
屬に同じ。

鞭 セキ、シヤク。思積切 陌
くつ（履）、鳥又、韓に作る。

鞭 クヮ、ケ。呼肥切 麻
革にてつくりたる履、かはぐつ、くつ、古昔多くは其の衣服して騎馬するときに穿ちたり。○〔晉〕「晉有人著レ騎靴、至二光門外一」。
〔後漢〕かはにて作りたるくつ。○〔後〕「ーー」。
〔後漢〕たけながからざるかはぐつ。○〔後〕「ーー」。

鞭 鞭に同じ。

鞭 ハク。方縛切 藥
車の上の蓋。

鞭 ホウ、ブ。蒲候切 宥
車の輻を裹む革。

鞭 韓に同じ。

鞭 ハン、ベン。薄官切 寒
❶大帶、おほおび。○〔易〕「或賜二之一」。「絲」。
帶に。
❷小蠻、こぶくろ。○〔禮〕「男一革、女一
〔後漢〕かはおびをからたにつくるも。○〔後〕「ーー」。
及門内ーー」。
〔後漢〕小帶に佩ぶも。○〔後〕「ーー」。

鞭 エン、於袁 元 チン、切 阮
物を量る具、かはのかめ、一に曰ふ井の水を汲むもの、つるべ。

十一畫

鞭 シ。所綺 切 紙 所劣 切 薛 サイ、セ。
かはぐつ、革履。

鞭 鞭に同じ。

鞭 クヮク。著郭 切 藥 又、韓に作る。
毛を去りたる皮、つくりかは。○〔論〕「虎豹之ーー」。
〔補遺〕あかうまのつくりがは。○〔後補〕ボーー之ーー。

鞭 ケン、コン。居言切 元
弓矢を載むる器。馬上につけて弓矢を盛る器。ゆぶくろ。やぶくろ。○〔左〕「左執二鞬弭一、右属二櫜一」。
〔考證〕ゆみぶくろ。○時、按、此皮以踏ム一一。
〔補遺〕ゆみぶくろを張につく。○〔事類賦〕「補羽
〔補遺〕箭に同じ。○〔事類賦〕「補羽

鞭 ケン、ゴン。巨偃切 阮
かはぶくろ（韜）。○〔元稹〕「文皇ーニ
乘干戈ニ」。

鞭 コ、ク。洪孤切 虞
ーー靡は、やいれ、やなぐひ。

鞭 ソウ、ス。作弄切 送
遽に馬に駕すると。

（革靴）くろかはのくつ。○〔元〕「木寄ー-ー」。（紫靴）そめざるかはぐつ。○〔元〕「朱帶ー-ー」。（鬧靴）ぬひのはどとしてあるかはぐつ。○〔急就章〕「針-令-瞬ー-ー」。（尖頭靴）あしさきのとがりて細きかはぐつ。○〔北齊書〕「著ー-ー-ー」。

⿰革敦 トン。都昆切 元 胡人の酒器。

⿰革烏 釋に同じ。

鞿 キ、ケ。居依切 微 一 韁の馬口にあるもの、くつばみ、又、馬を繋ぐ絆、きづな、又、馬の絡頭、おもがひ。○〔漢〕「是猶ニ以レー而御ニ駻-突ニ」。二 束縛制御を受くるを。○〔屈平〕「以ー-羈兮」。（羈鞿）馬居のはたしとおもがいと。○〔晉陸雲〕「羈止ー-ーニ」。（韁鞿）馬のはたレブな。○〔任昉〕「散羈ー-ー」。（絆鞿）絆に同じ。○〔戴表元〕「馬貝遺ー-ー」。（脱鞿）羈絆をのがる。○〔陸游〕「丈夫本ー-ー」。

十三畫

⿰革雍 ヨウ、ユ。於容切 冬 くつ（鞾）。

⿰革匊 キク。驅菊切 屋 本、鞠鞠に作る。かうち。

⿰革亶 古文の韇の字。

⿰革意 ヨク、オク。於力切 職 一 履の下を五綵の糸にてかゞれる者。二 履頭の飾り、くつさきのかざり。

⿰革昜 ハウ、ホウ。布江切 江 くつ（鞋）。

韀 セン。將先切 先 韉に同じ、またぐら、あふり。

韁 キャウ、カウ。居良切 陽 一 馬を制し止どむる絆、つな、きづな、はづな。○〔晉〕「百-姓歌曰、青-々御-路楊、白-馬紫-遊-ー」。二 束縛制御に用ふるもの。○〔漢〕「繋ニ名-韁之-ー-鎖ニ」。（紅韁）あかいろのたづな。○〔馬戴〕「ー-ー躍駿馬ニ」。（飛韁）馬を疾く驅る。○〔李東陽〕「躍-駒ー-ー不-動-風」。

鞴 ヒ、ビ。平祕切 寘 フク、ボク。房六切 屋 本、箙に同じ、徒歩者の帶ぶる箭を盛る韋囊。

⿰革蒲 ホ、フ。滂故切 遇 ー靫は、箭を盛るもの、うつぼ。

韂 セン。昌艷切 艷 又、襜に作る。馬の障泥、あふり。

韣 ショク、シキ。殊玉切 沃 本、韥に作る、ゆぶくろ。○〔戰〕「因罷レ兵倒レー而去」。

⿰革嗇 ショク、シキ。所力切 職 轖に同じ。

⿰革豊 テイ、タイ。他禮切 薺 やはらか（軟）。

韃 タツ、タチ。他達切 曷 靼に同じ。

⿰革遂 繸に同じ。

鞨 カツ、ガチ。胡葛切 曷 靺ーは、蕃人の名。

⿰革睪 タク、ダク。徒落切 藥 鞣の字を見よ。

⿰革解 カイ、ゲ。下買切 蟹 くびきまばり（鞡）。

十四畫

⿰革需 ジュ、ニュ。而庾切 麌 かはぐつ（鞋）。

⿰革爾 デイ、ナイ。乃禮切 薺 轡の垂るゝにいふ字、たる。

⿰革聚 シウ、シュ。側救切 宥 またぐら（鞍）。

韥 韇に同じ。

⿰革遣 ケン。去戰切 霰 こしおび（腰-帶）、かはおび（韋-帶）。

⿰革僕 ホク、フク。逋玉切 沃 牛首を絡ふもの、はなづら。

韄 アク、乙白 クワク、ヤク。切 ワク。胡陌切 陌 一 佩刀の綴、かたなのさげを。二 束縛す、つかぬ。○〔莊〕「夫外ー者」。三 まばる（纏）。四 刀の靶中の韋、つかどは。

韄 コ、グ。胡誤切 遇 一 佩刀の綴、さげを。二 佩刀の飾り、かたなかざり。三 佩刀、かたな。

⿰革縣 ケン。呼典切 銑 絡頭より馬背に及ぶ革、絡頭より馬腋に著くる革。○〔荀〕「寢-兕持-虎蛟-ー絲-末彌-龍所ニ以養ニ威」。

⿰革翟 ラク、力角 ロク。切 覺 又、韄に作る。ー麥は、堅き皮。

十五畫

韆 セン。七然切 先 鞦ーは、繩を垂下し之に乘じて遊戲するもの、なはあそび、ぶらんこ。○〔開天遺事〕「競竪ニ鞦ー一令ニ宮-嬪戲ニ」。

⿰革龠 シ。章移切 支 またぐら（皮-鞍）。

韇 トク、ドク。徒谷切 屋 蓍筴を藏むる器、めどぎびつ、めどぎづつ、又、箭弓を藏むる箭、ゆみやのつつ。○〔儀〕「抽上レー」。

⿰革巤 レフ ロフ。良涉切 葉 おもがい（馬-鞚）。

韈 ベツ、モチ。望發切 月 本、韤に作る。足衣、またぐつ、たび。○〔韓〕「文-王ー繫解、因自結」。

十六畫

⿰革籥 本、鞲に作る。

⿰革憲 韆に同じ。

⿰革龍 ロウ、ル。盧紅切 東 絡頭、おもがい。

⿰革遺 井。以貴切 未 なは（絲-繩）。

十七畫

韉 セン。則前切 先 鞍下の被、またぐら。○〔北〕「織レ草爲レー」。（草韉）かまむしろの韉。○〔唐〕「以ニー-ー乘レ牛」。（錦韉）にしき織りのまたぐら。○〔開元天寶遺事〕「飾以ニー-ー金鋒ニ」。（馬韉）うまのまたぐら。○〔海錄碎事〕「坐ニ設ー-ー」。（皮韉）かはもて作りたるまたぐら。○〔宋〕「乘ニ白-ー-ーニ」。（繡韉）ぬひとりせるまたぐら。○〔周必大〕「飾ニー-ー而華ニ駿」。（虎韉）とらの皮のまたぐら。○〔歐陽修〕「宮錦ー-ーニ」。（破韉）やれたるまたぐら。○〔梅堯臣〕「曾同ニ騎ー-ー-ーニ」。（鞍韉）くらとまたぐらと。○〔木蘭辭〕「西市買ニ」。

⿰革薄 ハク、傍各切 藥 ホ、ブ。伴姥切 麌 一 杜ーは、車中の重薦、まきもの。二 ー鈴は、履中の藉、くつわら。

⿰革溥 ホウ、ブ。蒲候切 宥 車の輞を裹む革、くびきがは。

⿰革毚 韉に同じ。

⿰革韱 サン、ゼン。鋤咸切 咸 セン。仕懺切 陷

馬韉、またぐら。

⿰革纖 セン、ソン。思廉切 鹽 旌旗の末、はたのあし。

韊 ラン。落干切 寒 弩矢を盛る器、えびら。

十八畫

⿰革雟 スイ。山垂切 支 一 たれひも（綏）、一說に、むち（鞘）。二 垂るゝ貌にいふ字。

⿰革雋 サイ、セ。蘇回切 灰 韋の邊の帶、くらおび。

⿰革屬 ショク、ゾク。神蜀切 沃 かはぐつ（鞮）。

十九畫

⿰革贊 纘に同じ。

⿰革麗 躧、又、蹝に同じ。

⿰革麗 サイ、セ。所蟹切 蟹 くつ（履）。

廿一畫

⿰革蘭 ラン。力丹切 寒 弩弓を藏むる箙、えびら。○〔史〕「平-原-君負ニー-矢ニ、爲ニ公-子先-引ニ」。

廿三畫

⿰革顯 韅に同じ。

廿四畫

⿰革霸 カク、キャク。古伯切 陌 くつわ（鞿勒）。

廿九畫

⿰革欒 サン。借官切 寒 車のながえまばり。

韋部

韋 井。宇非切 微 〔說文〕从舛口聲 一 そむく（背）。○〔說文〕「可ニ以束ニ枉-戾相ー-背ニ」。二 なめしがは（柔-皮）。○〔周〕「凡兵-事ー弁服」。三 圍に通じ用ふ、かこひ。○〔漢〕「大-風拔ニ甘-泉時-中大-木十-ー以-上ニ」。（佩韋）やはらかなを。○〔韓〕「五-音大-律不-相ー-ーニ」。（韎韋）あか色のかはもて作りたる戎服のひざかけ。○〔左〕「有ニー-ー之跗注ニ」。（脂韋）佞媚なるを。○〔韓愈〕「行々正-直恒ー-ー」。

三畫

⿰韋回 クヮイ、エ。胡隈切 灰 本、回に作る。

韌 ジン、ニン。而進切 震 柔かにして固きを、まなやか。○〔皇甫嵩〕「憂ー時榮」。

四畫

⿰韋犬 ヒ。平祕切 寘 車の軾、まきみ。

⿰韋內 ダフ、ノフ。奴答切 合 やはらか（耎）。

⿰韋支 井。羽非切 微 もとる（戾）。

⿰韋支 キ。吁韋切 微 ー韋は、そむく。

⿰韋殳 カウ、ゲウ。胡茅切 肴 韋ーは、かはぶくろ。

⿰韋及 サフ、蘇合切 合 ソフ。切 シフ。先立切 緝 小兒の履、くつ。

五畫

⿰韋必 ヒ、兵媚 ビ。切 寘 ヘツ、必結 ヘチ。切 屑 ヘイ、邊惠 ヘ。切 霽 ゆみだめ、ゆだめ（弓-檠）。

⿰韋包 ハウ、ベウ。歩交切 肴 むなし（空-虛）。

⿰韋包 ハウ、ベウ。歩巧切 巧 本、鞄に作る。

⿰韋包 ハウ、ベウ。皮教切 效 かはなめし、かはた（柔-皮-工）。

⿰韋戉 エツ、チチ。王伐切 月 弁衣、なのぶくろ。

⿰韋斥 タク、チャク。丑格切 陌 刀の把中の韋、つかどは。

⿰韋它 タ、ダ。唐河切 歌

皮を帖りたる履。

【韍】フツ、ホチ。分勿切［物］ ㊀ひざかけ（韠）。○〔禮〕「一命緼—」。㊁くみいと（組）。○〔漢〕「奉二上璽—一」。〔箋註〕みどりの色にそめたる膝かけ。○〔箋〕「芾受」。「—冕衣裳」。

【韨】フツ、ハチ。方末切［曷］ ひざかけ（蔽膝）。

【𩎓】フツ、ホチ。分物切［物］ 棺を引く縄、ひつぎなは。

【𩎖】坯に同じ。

【𩎚】シユ、ス。之戍切［遇］

【韎】バイ、メ。莫佩切［隊］ 莫拜切［卦］ キ、ケ。居氣［未］ バツ、マチ。莫結切［屑］ ㊀皮袴、かはもゝひき。㊁戎服の蔽膝、ひざかけ。㊀茅蒐染の韋、あかねぞめのかは。○〔詩〕「—韐有レ奭」。「—楽」。㊁東夷の楽の名。○〔周〕「—師掌レ教二—楽一」。

【𩎡】韎に同じ。

【鞊】テフ。的協切［葉］ —韘は、帶ぶる具。

六畫

【𩎧】コン。口恩切［元］ つかぬ（束）。

【𩎨】ケイ。許罽切［霽］ もとろ（綣）。

【𩏃】カウ、ケウ。居肴切［肴］ ふくろ（囊）。

【韏】ケン、クヮン。區願切［願］ 逵眷切［線］ 己袁切［元］ 古鞠切 ㊀わかつ（分）。㊁かゞむ（詘）、まがる（曲）。㊂車上に用ふる皮。

【韏】ケン、コン。九遠切［阮］ かゞむ（屈）。

【𩎼】フク、ボク。房六切［屋］ ヒ、ビ。皮祕切［寘］ ふきみ（韍）。

【𩎷】ケン、コン。虛願切［願］ 鼓を作る工、つゞみつくり。

【韐】カフ、ケフ。古洽切［洽］ 韎—は、韋のひざかけ（蔽膝）。

【韐】カフ、コフ。葛合切［合］ 韎—は、韋の蔽膝、ひざかけ、略して—の一字となすもあり。○〔儀〕「韎—帶二」。

七畫

【𩏅】韓に同じ。

【𩏆】フ、ホ。扶雨切［麌］ ㊀車下の輔、とこしばり。㊁こしまき（尻衣）。㊂ふごし（𩋐）。

【韒】鞘に同じ。

【𩏇】韐に同じ。

八畫

【韏】ケン、クヮン。去願切［願］ ㊀まがる（曲）。㊁褌縫、ぬひめ。

【𩏈】コク、ヰキ。況逼切［職］ 俗の緎の字。

【𩏉】鞔に同じ。

【韛】ハイ、ヘ。蒲拜切［卦］ 火を吹く革嚢、ふいがう。

【𩏊】鞁に同じ。

【𩏋】キク、ゴク。巨竹切［屋］ つゝむ（裹）。

【韓】カン、ガン。胡安切［寒］ 井の垣、ゐげた。

【韔】チヤウ、丑亮切 リヤウ、力讓切［漾］ タウ、フウ。切 ゆみぶくろ（弓衣）。○〔詩〕「虎—鏤膺」。〔箋註〕ゆみぶくろ。○〔禮〕「軍有—…」。〔弓韔〕韔に同じ。○〔儀禮〕「俱玉—」。

【𩏌】タフ、トフ。託合切［合］ ゆがけ（指衣）。

【𩏍】ハウ、ベウ。蒲交切［肴］ やはらか（柔）。

九畫

【𩏎】フク、ブ。扶富切［宥］ 鞴に同じ。

㊀皮の衣。㊁車の轅くびき。

【𩏏】韗に同じ。

【𩏐】韗に同じ。

【𩏑】ジウ、ニユ。忍九切［有］ なやか（韌）。

【𩏒】カ、ケ。乎加切［麻］ くつ（履）、又くつの後帖、うしろばり。

【𩏓】タン、ダン。徒玩切［翰］ 徒管切［旱］ 履跟の後帖、うしろばり。

【𩏔】セン、ナン。乳兗切［銑］ なめしがは（柔皮）。

【韗】ウン、チン。王問切［問］ ㊀韗に同じ、かはつくり、つゞみつくり（攻皮工）。㊁かはぐつ（靴）。

【韗】クン、吁運切［問］ ケン、虛願切［願］ コン。切 カン。切 かはつくり（攻皮工）。

【韘】セフ、ソフ。失涉切［葉］ ㊀ゆがけ（射決）。○〔詩〕「童子佩レ—」。㊁鞊—は、帶の具。

【韙】ヰ。于鬼切［尾］ 愇に通じ作る。よし（是）。○〔後漢〕「五—咸備」。〔不韙〕よからざること。○〔東京賦〕「罔レ有二—一」。〔昭韙〕よきをあきらかにす。○〔漢〕「—見」。

【𩏕】前條に同じ。

【𩏖】ヰ。羽非切［微］ なゝめ（衺）。

【𩏗】韌に同じ。

【𩏘】韜に同じ。

十畫

【𩏙】ハク。匹各切［藥］ ヘキ、ヒヤク。平碧切［陌］ くびきつゝみ（軛裹）。

【𩏚】フウ、ブ。扶富切［宥］ こしまき（尻衣）。

【𩏛】ヰ。于非切［微］ つかれ（束）。

【𩏜】韙に同じ。

【𩏝】韓の本字。

【𩏞】タフ、トフ。都盍切［合］ ㊀あつし（熱）。㊁皮衣、かはごろも。

【韛】バイ、ベ。步拜切［卦］ 火を吹き熾こす革嚢、ふいがう。○〔雲笈七籤〕「入レ鍋鼓二之—一」。〔皮韛〕風を起こし火を吹く具、ふいがう。○〔北史〕「以—吹レ之」。

【𩏠】フク、ボク。房六切［屋］ 幅に同じ。

【𩏡】タフ、トフ。都合切［合］ 皮指、ゆがけ。

【𩏢】カツ、ゲチ。下瞎切［黠］ 鞨に同じ。

【韜】タウ、トウ。土刀切［豪］ ㊀ゆみぶくろ（弓衣）、つるぎぶくろ（劍衣）、又すべて物をつゝむ衣、ふくろ。○〔詩傳〕「櫜—也」。㊁兵法の秘訣。○〔庾信〕「侍二戎—于武帳一」。㊂ひろし（寬）。㊃つゝむ（裹）、をさむ（藏）。○〔詩疏〕「納二弓於衣一謂二之—弓一」。〔六韜〕太公の作りたる文韜、武韜、龍韜、虎韜、豹韜、犬韜の兵法書。○〔隋〕「太公—五卷」。〔劍韜〕つるぎぶくろ。○〔賈誼〕「——屬鏤匠」。〔韜藏〕ふくろ、又弓劍などのふくろ、又つゝむ。○〔周〕註「軍有二—一」。

【𩏣】タウ、トウ。叨号切［號］ ゆごて（臂衣）。

【韝】コウ、ク。古侯切［尤］ ゆがけ（射決）、うでぬき（臂捍）。○〔史〕「祖二—蔽一」。〔臂韝〕ひぢあて。○〔杜甫〕「臭珠—一」。〔韋韝〕かはのひぢあて。○〔李商〕「——鹽鐵」。〔射韝〕ゆがけ。○〔後〕註「—也、以—韋」之。

【韞】ヲン。烏渾切［元］ ㊀赤と黃との間色、かきいろ。㊁つゝむ（裹）。㊂ゆみぶくろ（韜）。

【韞】ウン、オン。于粉切［吻］ をさむ、かくす（藏）。○〔論〕「—レ匵而藏諸」。

【𩏤】鞥に同じ。

十一畫

【𩏥】サイ、セ。桑回切［灰］ 韉鞍、くら。

【𩏦】サウ、セウ。鋤交切［肴］ つかね（束）。

【韠】ヒツ、ヒチ。卑吉切［質］ 韋の蔽膝、ひざかけ。○〔詩〕「庶見二素—一兮」。〔祭韠〕祭を助け行ふ官人の着るもの（たれ）。○〔後〕「緇韠——」。〔緇韠〕くろ赤色のもの（たれ）。○〔後〕「緇韠——」。

【𩏧】スヰ、ズヰ。徐醉切［寘］ 璲の紐の名。

十二畫

【𩏨】タウ、チヤウ。豬孟切［梗］ 皮を張る、はる。

【𩏩】キ、ギ。巨貴切［未］ つむぐ（紐）。

【韥】クヮイ、胡對切［隊］ エ、キ。求位切［寘］ ぬひはくしたるかはぶくろ（繡韋囊）。

【𩏪】ヘン、ホン。孚袁切［元］ ㊀むらがる（羣）。㊁平方形の韋。㊂韋にて褁みたるもの、かはづつみ。

【𩏫】キ。許爲切［支］ なめしがは（柔皮）。

【𩏬】カウ、コウ。居勞切［豪］ ゆみぶくろ。

【韡】ヰ。羽鬼切［尾］ 華の盛んなる貌にいふ字、光明ある貌にいふ字、さかんなり、あきらか。○〔詩〕「棠棣之華、鄂不二——一」。〔韡韡〕うつくしくひかる。○〔…〕「——曄曄」。〔韡韡〕ひかりかゞやく。○〔…〕「—、—於赫」。〔韡韡〕前条に同じ。○〔…〕「——煒煒」。

【韢】ケイ、胡計切 セイ、此芮切［霽］ ガイ、セ。切 璲の紐、一說に、璲を盛る囊、くびぶくろ。

【韢】スヰ、ズヰ。徐醉切［寘］ 璲の紐、一說に、虎の頭を盛る囊。

十三畫

【𩏭】ヨウ、ユ。於容切［冬］ 鞥に同じ。

【𩏮】ケン、虛嚴切［鹽］ ケン、虛檢切［琰］ コン。切 ふすま、よぎ（被）。

【𩏯】セン、ソン。處占切［鹽］ おほひ（屏）。

【𩏰】エン。余廉切［鹽］ 衣蔽ふ、おほふ。

【韂】セン。昌豔切［豔］ ㊀鞍の小さき障泥、あふり。㊁ひざかけ、まへだれ（蔽膝）。

【韣】トク、ドク。徒谷切 屋　ショク、ソク。之欲切 沃　ゆみぶくろ、ゆぶくろ（韜）。○〔禮〕「帶以二弓—一」。

【[illegible]】タク、ヂヤク。直格切 陌　—韄は、刀の靶章、かたなのかざりかは。

十四畫

【韄】ワク。一號切 陌　[illegible]の條を見よ。

【[illegible]】韛に同じ。

【[illegible]】韝に同じ。

【[illegible]】韤に同じ。

【[illegible]】韣に同じ。

十五畫

【韤】ベツ、モチ。望發切 月　たび（足衣）。○〔史〕「王生曰、吾—解」。（釋名）足衣をいふ。○〔左、註〕「古者見君—」。（[illegible]）くつぞくつまたと。○〔皮日休〕「[illegible]」。（[illegible]）うすぎぬのまたぐつ。○〔徐陵〕「—生塵」。

【韇】トク、ドク。徒谷切 屋　㊀やづつ（箭箙）。㊁ゆみぶくろ（弓衣）。

十六畫

【[illegible]】ウツ、チチ。紆勿切 物

芳ばしき草。

十七畫

【[illegible]】ホ、フ。布古切 麌　鞴に同じ。

【[illegible]】ハク、バク。傍各切 藥　—[illegible]は、わらぐつ（屨）。

十八畫

【[illegible]】シウ、シユ。即由切 尤　セウ。慈消切 蕭　收め束ぬ、つかぬ。

【[illegible]】シウ、ジユ。字秋切 尤　あつまる（聚）、一說に、ほそし（細）。

【[illegible]】セウ。子肖切 嘯　物を收め束ぬ、つかぬ。

十九畫

【[illegible]】ケン、クワン。居願切 願　なめしがは（柔韋）。

二十畫

【[illegible]】キヤク、カク。厥縛切 藥　[illegible]—は、刀の靶の韋、かは。

韭部

【韭】キウ、ク。擧有切 有　一種の菜、にら。○〔儀〕「—菹」。（[illegible]）牡丹の異名。○〔本草〕「牡丹一名[illegible]」。[illegible]金、一名[illegible]、一名—」。（[illegible]）草の名、天門冬、麥門冬、[illegible]韭、馬韭、羊韭等の異名あり。○〔本草〕「麥門冬一名—」。（[illegible]）草の名、韭の山中に生ずるもの、[illegible]。○〔[illegible]〕「[illegible]—」。

四畫

【韮】前條に同じ。○〔世說新語〕「—菹」。

六畫

【[illegible]】サフ、ソフ。才盍切 合　あし（惡）。

【[illegible]】鐵に同じ。

七畫

【[illegible]】カイ、ゲ。胡介切 卦　[illegible]に同じ、せまし（陋）、一說に、すみやか（速）。

八畫

【[illegible]】サフ、ソフ。私盍切 合　—[illegible]は、起ころと。

【韱】セン、ソン。息廉切 鹽　㊀やまにら（山韭）。㊁ほそし（細）。

十畫

【[illegible]】齏に同じ。

【[illegible]】カイ、ゲ。下介切 卦　死人を送る歌。

【[illegible]】セイ、サイ。祖雞切 齊　醯醬に和する細切の菜蔬、きざみたるつけな、きざみな。○〔楚辭〕「懲二熱羹一而吹レ—兮、何不レ變二此志一」。

【韲】セイ、サイ。牋西切 齊　㊀前條に同じ、きざみたるつけな、きざみな。○〔[illegible]〕「細切—」。㊁やはらぐ（和）。○〔列〕「君子之人、若二儒墨者師一、故以二是非一相—也、而況今之人乎」。㊂うれふ（患）。○〔莊〕「使二人輕二乎貴一、老二而—二其所一ㇾ患」。

十二畫

【[illegible]】タイ、デ。徒對切 隊　きざめるつけな（[illegible]菹）。

十三畫

【[illegible]】ハン、ボン。附袁切 元　こひる（小蒜）、やまゆり（百合蒜）、さゆり（[illegible]）。

【[illegible]】前條に同じ。

十四畫

【[illegible]】カイ、ゲ。胡介切 卦　㊀韭に似たる一種の菜、おほにら、らつきよ。○〔禮〕「脂用レ葱、膏用レ—」。㊁せまし（狹）。○〔揚雄〕「何文肆而質—」。

音部

【音】イン、オン。於今切 侵　㊀耳官にひびき聞こゆるもの、おと、ね、こゑ。○〔[illegible]〕「清水—小」。

㊁聲文ふし、てうし、ひゞき、ねいろ。○〔禮〕「審レ聲以知レ—」。
㊂讀聲、よみごゑ。○〔顏延之〕「此字何—」。
㊃聲樂、おんがく。○〔禮〕「治世之—」。
㊄詞章、言語。○〔陸機〕「或寄二辭於瘁—」。
㊅傳信、おとづれ。○〔陸機〕「歸雲難レ寄レ—」。

（餘音）[illegible]のと、[illegible]は長きなり聲肥大なれば其の音長しそれより[illegible]のとにいふ。○〔[illegible]〕「—登二于天一」。「克諧」。
（八音）絲竹金石匏土革木のと。
（[illegible]音）音樂をこのむ。○〔書〕「甘レ酒—」。
（徽音）琴のふし、又、善美のこゑ。○〔[illegible]〕「因レ風吐レ—」。
（德音）仁德あるこゑ。○〔[illegible]〕「吐—」。
（好音）こゑをよくす、又、よきこゑ。○〔詩〕「[illegible]—」。
（鄭音）鄭國の音樂にて極めて淫猥なるもの。○〔史〕「—[illegible]」。
（知音）（い）人の心志をみたす音曲。○〔[illegible]〕。（ろ）音をあきらかにしる。○〔禮〕「知レ聲而不レ知レ—者」。（は）列子の伯牙の琴を鼓するに當りて鍾子期よく伯牙の志を知りたり子期の死ぬるや伯牙音を知る者なしとて絃を絕ちたる故事あるよりして心を知りあひたる親密の友なるのとにいふ語。○〔[illegible]〕「[illegible]」。
（孤音）ひとりのこゑ。○〔後漢〕「—[illegible]」。
（嘉音）嘉祝の音樂。○〔史〕「—[illegible]」。
（足音）あしおと。○〔莊〕「聞二人之—一」。
（上音）上古の聲。○〔李白〕「新聲有二—一」。
（[illegible]音）[illegible]なること。○〔[illegible]〕「[illegible]」。
（[illegible]音）正しからざるこゑ。○〔[illegible]〕「[illegible]」。
（哀音）かなしげなるこゑ。○〔杜甫〕「—何動レ人」。
（石音）[illegible]石のおと、又、他の石より發するおと。○「[illegible]」。
（[illegible]音）[illegible]。
（[illegible]音）[illegible]のこゑ。○〔後漢、註〕「[illegible]」。
（[illegible]音）あたらしきよしの音樂。○〔後漢〕「—[illegible]」。
（[illegible]音）極めてたくみなる音樂。○〔後漢〕「[illegible]」。
（[illegible]音）めづらしき音曲。○〔後漢〕「—[illegible]」。
（[illegible]音）ことのねいろ。○〔後漢〕「[illegible]」。
（[illegible]音）かたるこゑ。○〔[illegible]〕「[illegible]」。
（[illegible]音）えびすのこゑ。○〔北[illegible]〕「[illegible]」。
（[illegible]音）獸のつくりかはもて作りたる鼓などのねと。○〔[illegible]〕「[illegible]」。
（[illegible]音）なまりあるこゑ。○〔[illegible]〕「[illegible]」。
（[illegible]音）佛經を誦するこゑ。○〔[illegible]〕「[illegible]」。
（花音）はなのたより。○〔[illegible]〕「[illegible]」。
（[illegible]音）うれひのこゑ。○〔[illegible]〕「[illegible]」。

【音】イン、オン。於禁切 沁　蔭に通じ用ふ、かげ。○〔左〕「鹿之死不レ擇レ—」。

三畫

【[illegible]】コウ、グ。戶公切 東　大いなる聲にいふ字。

四畫

【韷】チ、ヂ。直離切 支　咸—は、黄帝の樂の名。

【韴】サフ、ソフ。徂合切 合　斷るゝ聲にいふ字。

【韵】ギン、ゴン。魚音切 侵　吟に同じ。

【韵】韻に同じ。

五畫

【[illegible]】フツ、ホチ。敷[illegible]切 物

【[illegible]】樂の聲の忽ち息む貌にいふ字。

【[illegible]】ホウ、ブ。蒲蓬切 東　屋の響、やなり。

【韶】セウ、ゼウ。時饒切 蕭　㊀虞舜の樂。○〔書〕「簫—九成」。㊁つぐ（繼）。○〔禮註〕「—之爲レ言紹也」。㊂うつくし（美）。○〔唐〕「—光開二令序一」。（[illegible]）韶を奏して鳳凰來儀したりといふより[illegible]の稱にいふ。○〔[illegible]〕「—九奏[illegible]」。（[illegible]）前に同じ。○〔[illegible]〕「[illegible]」。（[illegible]）[illegible]の稱。○〔[illegible]〕「—九奏[illegible]在」。

【[illegible]】ラク、リヤク。力號切 [illegible]　聲の煩鬧なるにいふ字、かまびすし、わづらはし。

六畫

【[illegible]】イン、オン。於禁切 沁　—[illegible]は、平かならざる聲にいふ語。

【[illegible]】ハク、ホク。北角切 覺　手足の指節鳴る、ふしなる。

【[illegible]】コウ、ク。呼東切 東　—訌は、大いなる聲にいふ語。

【[illegible]】シユク、ソク。子六切 屋　樂の器を懸くるものゝ斷るゝ貌にいふ字。

七畫

【[illegible]】響に同じ。

【韽】アン、オン。烏含切 覃　聲ひくし、こごゑ。

【[illegible]】ホウ、ブ。蒲紅切 東　㊀やはらぐ（和）。㊁鼓の聲にいふ字。

【[illegible]】カウ、ギヤウ。戶耕切 庚　韶に同じ、六—は、樂の名

【[illegible]】ホツ、ホチ。蒲沒切 月　物を撥する聲にいふ字。

【[illegible]】ハウ、ホウ。西江切 江　鼓の聲にいふ字。

八畫

【[illegible]】アフ、テフ。奴協切 葉　聲絕ゆ、聲止む。

九畫

【[illegible]】クワウ、ワウ。胡盲切 庚　樂の聲にいふ字。

【韹】クワウ、ワウ。胡光切 陽　樂の鐘の聲にいふ字。

【[illegible]】アウ、ヤウ。於莖切 庚　銅の器の聲にいふ字。

【韺】アウ、ヤウ。於驚切 庚　帝嚳の樂の名。

十畫

【[illegible]】シウ、シユ。楚九切 有　衆の聲にいふ字、どよめく。

【[illegible]】タウ、ズ。初口切 宥
樂の美なる音にいふ字。

【[illegible]】トウ、ヅ。徒弄切 送
鐘の聲にいふ字。

【[illegible]】エイ、ヤウ。於營切 庚
物の聲にいふ字。

【[illegible]】アウ、於莖 ヤウ。切 サウ、初耕 シヤウ。切 庚
をめく（呻）。

【[illegible]】エイ、ヤウ。烏莖切 庚
小さき聲にいふ字。

【韻】ウン、王問 チン。切 問 イン、爲鎭 切 震
㊀聲音の同和、同聲の應響、音聲の末調、こゑ、れ、てうし、ひゞき。○〔晉〕「凡音聲之體、務在レ和、—益則加レ倍、損則減レ半」。㊁支那の文字を其のひゞきにより一百六に類別せるもの〻稱、卽ち上平聲に、東、冬、江、支、微、魚、虞、齊、佳、灰、眞、文、元、寒、刪の十五、下平聲に、先、蕭、肴、豪、歌、麻、陽、庚、青、蒸、尤、侵、覃、鹽、咸の十五、上聲に、董、腫、講、紙、尾、語、麌、薺、蟹、賄、軫、吻、阮、旱、潸、銑、篠、巧、皓、哿、馬、養、梗、迥、有、寑、感、琰、豏の二十九、去聲に、送、宋、絳、寘、未、御、遇、霽、泰、卦、隊、震、問、願、翰、諫、霰、嘯、效、號、箇、禡、漾、敬、徑、宥、沁、勘、豔、陷の三十、入聲には屋、沃、覺、質、物、月、曷、黠、屑、藥、陌、錫、職、緝、合、葉、洽の十七、上古には此の類別を設けざりしをいふ。○〔南〕「將二平、上、去、入、四-聲一、以レ此制レ韻」。㊂風度、趣致、やうす、おもむき。○〔唐〕「但以二器—一自高」。㊃詩賦、歌曲、○〔文賦〕「或託二言於短—一」。

（逸韻）（い）古人の風度。○（晉）「雅有—ー」。（ろ）遠きところまでひゞくこゑ。○（宋書）「高韻多…」。
（風韻）（い）風雅のおもむき。○（宜）「愛其—ー」。（ろ）風のふくおと。○（柳子厚）「—ー諧-諸管」。
（次韻）他の詩の韻字と同音を用ひて詩を作る。○（元稹）「—ー千言曾報-答」。
（和韻）他の詩の意に和し同韻を用ひて詩を作る。○（文心雕龍）「氣力窮-于—ー」。
（疊韻）同韻を重ねて用ふること。○（南）「[illegible]—ー」。
（强韻）詩を作るに險澁韻字。○（陸游）「詩才退怯—ー」。
（險韻）前に同じ。○（金）「尤工—ー」。
（[illegible]韻）[illegible]石のおと。○（方干）「—ー鐘-澗-船」。
（[illegible]韻）[illegible]の聲。○（國野王）「風輕—ー[illegible]」。
（[illegible]韻）[illegible]のね。○（謝靈運）「—ー動-流-波」。
（[illegible]韻）節操のよ。○（宋）「—ー高-潔」。
（雅韻）（い）おもむきの俗ならざること。○（宋）「自饒有—ー」。（ろ）たゞしき音曲。○（宋書）「—ー乃播」。
（神韻）高尚なる風度、卽ちけだかきやうす。○（宋）「—ー沖-澹」。
（俗韻）高尚ならざる音。○（白居易）「古-琴無二—ー一」。
（清韻）清らかなる音。○（晉-經）「聆二舜琴之—ー一」。
（氣韻）（い）氣力、いきほひ。○（歐陽詢）「文章以二氣韻一爲レ主、—ー不レ足、雖二有二辭藻一、要非二佳作一也」。（ろ）おもむき。○（文選）「—ー[illegible]不レ[illegible]」。
（松韻）松風のおと。○（白居易）「—ー徒頃-鑑」。
（泉韻）水の流るゝおと。○（孟郊）「激石—ー清」。
（[illegible]韻）ことばづかひ。○（[illegible]）「—ー如レ流」。
（音韻）おと。○（白居易）「[illegible]—ー微」。

十一畫

【[illegible]】
韽に同じ。

【韽】アン、恩甘 オン。切 覃 イン、於金 オン。切 侵 エン、衣廉 オン。切 鹽 アン、鄔感 オン。切 感 烏紺 切 勘 於陷切 陷
聲の下くして徹れるにいふ字、聲の小さくして成らざるにいふ字、ひくし、ほそし。○〔周〕「微-聲—」。
（韽韽）聲の細き貌にいふ語。○（鼓吹）「鐘-鼓已—」。

【[illegible]】イン、挹淫 オン。切 侵 烏含 切 覃
聲和ぐ、やはらぐ。

十二畫

【[illegible]】
響に同じ。○〔字彙〕「有レ—在レ坐」。

十三畫

【[illegible]】タク、ドク。直角切 覺
聲—は、耳ふさひ。

【[illegible]】ゲフ、ゴフ。逆怯切 葉
なりもの（樂）。

【[illegible]】イ、エ。於希切 微
痛む聲にいふ字。

【響】キヤウ、カウ。許兩切 養
㊀ひゞき。（い）聲に應じて聞こゆるもの、傳はり聞こゆる聲、こゑ、おと。○〔書〕「影惟—」。（ろ）聲韻、聲聞、てうし、きこえ。○〔南〕「絶レ唱高レ蹤久無二嗣—一」。㊁ひゞきを發す、ひゞく、又、ひゞきを發せしむ、ひゞかす。○〔南〕「響二—山-谷一」。

（[illegible]響）美人の聲などにいふ語。○（丘巨源）「[illegible]—ー[illegible]」。
（[illegible]響）つゞみのおと。○（[illegible]文章）「[illegible]門之下—ー[illegible]傳」。
（[illegible]響）清水の流るゝおと。○（李嶠）「[illegible]—ー」。
（妙響）たへなるおと。○（[illegible]文章）「[illegible]之—ー」。
（[illegible]響）風の樹を吹くひゞき。○（吳均）「—ー[illegible]」。
（[illegible]響）かんざしの落ちて鳴るひゞき。○（劉孝儀）「[illegible]—ー傳」。
（[illegible]響）よえのひゞき。○（[illegible]）「[illegible]—ー」。
（[illegible]響）[illegible]のひゞめのおと。○（江淹）「[illegible]—ー」。
（弓響）ゆみづるのおと。○（[illegible]）「山[illegible]—ー」。
（[illegible]響）[illegible]のおと、らびき。○（杜易簡）「—ー林」。
（[illegible]響）よきつゞみのおと。○（[illegible]）「[illegible]」。
（[illegible]響）下駄のおと。○（李商隱）「[illegible]中—ー」。
（[illegible]響）僧侶の持ち居る錫杖のひゞき。○（柳宗元）「[illegible]—ー」「夕[illegible]」。
（吟響）詩を吟ずること。○（許渾）「—ー[illegible]山」。
（[illegible]響）のきばの[illegible]のおと。○（宋玉）「—ー[illegible]」。
（[illegible]響）[illegible]などの[illegible]へるおと。○（高[illegible]）「—ー[illegible]竹」。
（[illegible]響）よきひゞきにもよきおとにもいふ。○（[illegible]）「[illegible]—ー」。
（[illegible]響）のこりのひゞき。○（博物志）「—ー[illegible]」。
（[illegible]響）きよらかなるひゞき。○（[illegible]）「[illegible]」。
（[illegible]響）めづらしきひゞき、又、すぐれたるおと。○（[illegible]）「—ー[illegible]」。
（[illegible]響）おとへひゞきと。○（[illegible]）「—ー相和」。
（[illegible]響）かなしげなるおと。○（[illegible]）「[illegible]」。
（[illegible]響）前に同じ。○（[illegible]）「—ー有[illegible]」。
（[illegible]響）めづらしきおと。○（[illegible]）「[illegible]」。
（[illegible]響）激流のひゞき。○（[illegible]）「—ー[illegible]」。

（[illegible]）[illegible]、又、物の[illegible]ひゞき、[illegible]上聲。○（後漢）「[illegible]—ー」。

【贛】コウ、ク。古弄切 送
たまふ（賜）。

十四畫

【[illegible]】コ、グ。胡誤切 遇
大—は湯の樂の名。

【[illegible]】キヤウ、カウ。許姜切 陽
うつ（擊）。

廿四畫

【[illegible]】レイ、リヤウ。郞丁切 青
おと（音）。

頁部

【頁】ケツ、ゲチ。奚結切 屑
かしら、かうべ（頭）。〔說文〕从百从儿。

二畫

【頂】テイ、チヤウ。都挺切 迥
いたゞき（顚）。○〔易〕「過涉滅レ—」。

（[illegible]頂）山などの極めて高き處をいふ。○（王[illegible]）「山[illegible]—ー」。
（[illegible]頂）頭上をつゝます。○（[illegible]）「—ー放-踵」。
（山頂）やまの最も高き處。○（武元衡）「征途出二—ー一」。
（[illegible]頂）とがりたるいたゞき。○（沈約）「—ー之雲」。
（[illegible]頂）前に同じ。○（岑參）「—ー坐-[illegible]-端」。
（圓頂）まるきいたゞき、又、頭髮を剃りたる出家にいふ。○（蘇軾）「—ー[illegible]右」。
（絕頂）けはしき山のいたゞき。○（白居易）「—ー[illegible]」。

【[illegible]】イウ、ウ。尤救切 宥
頭顫ふ、ふるふ。

【[illegible]】ゲウ。牛召切 嘯
あなむく。

【頃】ケイ、キヤウ。去穎切 梗
㊀田百畝の稱。○〔後漢〕「叔度汪汪若二千—波一」。㊁少時、しばらく。○〔禮〕「小者至二於燕雀一、猶有二啁噍之—一焉」。㊂比時、このごろ。○〔十七帖〕「—積雪凝寒」。

（俄頃）少時の間、しばらく。○（晉）「—ー發去」。
（有頃）久しからざる間をいふ。○（史）「—ー面病」。
（食頃）食時のころ。○（史）「出如—ー」。
（半頃）五十畝の田をいふ。○（陸龜蒙）「百畝[illegible]—ー」。
（少頃）すこしの時の間。○（陸賈）「—ー百[illegible]」。
（電頃）いなびかりの閃めく間、卽ち、極めてわづかなる時刻をいふ。○（[illegible]）「[illegible]如—ー」。
（彈指頃）ゆびをはじく間とて極めてすこしの時刻にいふ語。○（[illegible]）「[illegible]—ー」。

【頃】ケイ、キヤウ。去營切 庚
傾に同じ、かたぶく。○〔詩〕「不レ盈二—筐一」。

【[illegible]】キ。犬橤切 紙
跬に同じ。○〔禮〕「君子—步而弗二敢忘一孝」。

【[illegible]】キウ、グ。巨鳩切 尤
頰の間の骨、つらぼね、面顴。○〔易〕「壯二于—一」。

【[illegible]】キ、ギ。渠追切 支
㊀前條に同じ。㊁あつし（厚）。

【[illegible]】キ。居[illegible] 切 [illegible] キ、ケ。[illegible] 切 [illegible] キン。區倫 切 [illegible]
ほゝぼね（顴骨）。

三畫

【[illegible]】サイ、楚佳 セ。切 佳 サ、初加 セ。切 麻
頷—は、ほゝげた（頤傍）。

【[illegible]】エウ。於宵切 蕭
頭の小さき貌にいふ字。

【[illegible]】カイ、ケ。己亥切 賄
頰の下、おとがひ。

【[illegible]】
俗の孩の字。

【項】カウ、ゴウ。胡講切 講
㊀頭後の枕を受くる處、うなじ。○〔儀〕「緇-布-冠缺レ—」。㊁冠の後。○〔儀〕「賓右-手執レ—」。㊂おほいなり（大）。○〔詩〕「四-牡—-領」。

（强項）うなじをさげず、剛直にして人に屈せざるにもいふ。○（後漢）「[illegible]」。
（[illegible]項）[illegible]うなじ、又、くびをまぐ。○（[illegible]）「[illegible]」。
（[illegible]項）西[illegible]の別種族の名。○（唐）「—ー寇レ邊」。
（縮項）くびをちゞむ。○（唐）「縮—ー不レ敢息」。
○（[illegible]）「寶王」「—ー內天歌」。

【[illegible]】トク、ドク。徒谷切 屋 タク、ダク。徒落切 藥

【[illegible]】タク。闥各切 藥
—顱は、かうべぼれ。

【[illegible]】タク、チヤク。丑格切 陌
あたま（髑髏）。
あたまのはち（腦-蓋）。

【[illegible]】ゴツ、ゴチ。五忽切 月
本、髮に作る、髮を去る刑。

【[illegible]】コウ、グ。烏公切 東
かほ（面-上）。

【[illegible]】コン。苦本 切 阮 ケツ、丘謁 コチ。切 月
はげあたま（禿）。

【[illegible]】コツ、コチ。苦骨切 月
㊀白き禿。㊁頰の旁の骨、ほゝぼれ。

【[illegible]】ク、コ。[illegible]子切 虞
頊—は、頭の動く貌にいふ語。

【順】ジュン。食閏切 震
㊀したがふ。（い）よる（循）。○〔詩〕「四-國—レ之」。（ろ）ならふ（放）。○〔儀〕「大-射正執レ弓、以レ袂—二左右隈一」。（は）やはらぐ（和）。○〔易〕「豫—以動」。（に）逆はず。○〔論〕「六十而耳—」。（ほ）うく（承）。○〔呂氏春秋〕「上不レ—レ天」。（へ）ついづ（敍）。○〔爾〕「舒、業、—也」。㊁しりぞく（退）。○〔小爾〕「—退也」。㊂すなほ、やさし、やはらか。○〔易、註〕「—」。㊃光澤好き目。○〔揚雄〕「目好謂二之—一」。㊄したがひ事ふるの道、又、つきしたがふ者、やさしき者。○〔王褒〕「去レ暴舉レ—」。

（柔順）ものやはらかなること。○（易）「—ー利貞」。
（和順）をりあひて逆らはぬこと。○（禮）「—ー積レ中」。

(孤順) 幼やさしくすなほなること。○〔後漢〕「弘少而—」「之」。
(孝順) 能く父母に事ふること。○〔國〕「——以納」。
(馴順) 賢人の性質の柔和なること。○〔蔡邕〕「仁孝——」。
(忠順) 一家主君などの命に順ふこと。○〔白居易〕「——發·平隷」。
(屈順) 理にそむくと理にまたがふこと。○〔管〕「事有—而—」「一而—」。
(恭順) うやまひつゝしみて従順なること。○〔左〕「節—」。
(帰順) まごころもてまたがふ。○〔漢〕「中外——」。
(服順) つきまたがふ。○〔漢〕「——者拔擢」。
(柔順) またがひてそむかさること。○〔論衡〕「無不—」。
(女順) 婦女の守るべき柔順のをしへ。○〔魏〕「後妃——」。
(順順) 前に同じ。○〔韓〕「明—發——」。
(大順) 順は下文の例に常かなり。○〔左〕「君義、臣行、父慈、子孝、兄愛、弟敬、所謂——也」。
(義順) 強良の徳と柔順の徳と。○〔楊雄論〕「故聖——」、「是謂—全德」。
(節順) 亂臣などの朝命に順ふこと。○〔杜甫〕「淳誼方——」。
(和順) まごころを盡くして和順なること。○〔禮〕「孝弟——之行立」。
(謙順) へりくだりてさからはさること。○〔晉〕「——」。
(承順) うけまたがひてそむかず。○〔韓〕「民莫不——」。
(篤順) 前に同じ。○〔孝〕「—其美」。
(率順) 前に同じ。○〔漢〕「——天德」。
(將順) 前に同じ。○〔左〕「—天法」。

【[丸頁]】 クヮン、グヮン。胡官切 〔寒〕 ㊀たま(丸)。㊁あたま(項·顱)。

【頇】 カン。許干切 〔寒〕 大いなる面の貌にいふ字、おほがほ。

【頋】 ガン。五肝切 〔翰〕 ㊀頭に髮なし、かぶろ。㊁頭の後に缺くこと。

【頢】 カツ、ガチ。五割切 〔曷〕 カン。丘寒切 〔寒〕 髮なし、かぶろ。

【須】 シュ、ジュ、ス。鷄兪切 〔虞〕 （說文）面毛也。〔註〕毛飾也。

㊀頤下の毛、ひげ。○〔易〕「賁二其—一」。㊁まつ。(い)待つ、まちうく。○〔易〕「歸妹以—」。(ろ)遲くす、緩くす。○〔左〕「子不三少—一衆懼盡」。(は)よる(資)、もちふ(用)。○〔爾〕「所レ—如レ此」。(に)止どまる。○〔書、序〕「—二于洛汭一」。㊂少時、まばらく。○〔荀〕「不レ待レ—」。㊃一種の菜。○〔爾〕「—蕵蕪」。

(斯須) まげしの間、まばらく。○〔禮〕「禮樂不可——去身」。
(所須) 必に用ふるもの。○〔晉〕「——期會[illegible]」。
(資須) とりて用ふ。○〔晉〕「相—[illegible]」。
(兵須) 前に同じ。○〔魏〕「——郵傳」。
(夫須) 草の名、すげ、はますげ。○〔爾〕「臺——」。

【頒】 ハン、ヘン。逋還切 〔刪〕 まだら(斑)。○〔禮〕「頒二大夫以二魚一一文竹」。

【頉】 イ。與之切 〔支〕 ㊀やしなふ(養)。㊁おとがひ(頷)。

四畫

【頊】 キョク、ゴク。許玉切 〔沃〕 ㊀頭の謹む貌にいふ字。○〔說文〕「頊——」。㊁自失する貌にいふ字。○〔莊〕「—然不二自得一」。

【䫂】 ホウ、ハウ。補孔切 〔董〕 ホク、ハク。補講切 〔講〕 耳の本、みゝのれ。

【䫀】 グヮ。五果切 〔哿〕 頬に同じ。

【䫁】 タン、トン。都感切 〔感〕 都紺切 〔勘〕 まづか(靜)。顒—は、あたま。

【頏】 ガウ。五剛切 〔陽〕 頭を擧ぐ、あぐ。

【頖】 額に同じ。○〔史〕「蒙·鬆髦—」。

【領】 カン、コン。口含切 〔覃〕 丘凡切 〔咸〕 みにくし(醜)。

【頌】 ヨウ、ユ。餘封切 〔冬〕 ㊀かたち(貌)。○〔漢〕「—禮甚嚴」。㊁ゆるす(容)。○〔漢〕「當二鞠·繫一者—繫之」。㊂おほやけ(公)。○〔漢〕「—共禁不レ與」。

【頌】 ショウ、ジュ。似用切 〔宋〕 ㊀稱述す、ほむ、たゝふ。○〔禮〕「—而無レ諂」。㊁稱述の詞、ほめことば。○〔漢〕「爲二聖主得二賢臣一頌」。㊂占兆の詞、うらかたのことば。○〔周〕「其—皆千有二百」。㊃磬の名。○〔儀〕「西階之西、—磬」。㊄琴の名。○〔左〕「以自爲二櫬與一—琴」。

(善頌) 善き頌辭。○〔禮〕「謂之——善禱」。
(雅頌) 朝廷にて奏する樂歌。○〔後漢〕「——[illegible]」。
(推頌) 推賞稱揚すること。○〔誠意〕「大帝時生——不敢興—」。
(偈頌) 佛經歌の一種、偈は梵語の伽陀の略にして頌の義なりとぞ。○〔晉〕「凡讚佛之王必有二偈—一讚—中——者其式也」。
(詩頌) ほめたゝへたる歌。○〔國〕「誦—歌——」。
(歌頌) 前に同じ。○〔左〕「誦之——」。
(咏頌) 盛德武功などを詩歌に作りてうたひほむること。○〔漢〕「——其美」。
(讚頌) 讚美稱述す。○〔後漢〕「——祀典」。
(稱頌) 前に同じ。○〔魏〕「稱州——」。

【頙】 サク、シャク。楚革切 〔陌〕 たゞし(正)。

【頍】 コツ、コチ。苦骨切 〔月〕 はげ(禿)。

【頠】 グヮイ、ケ。沽罪切 〔賄〕 コン。苦本切 〔阮〕 頬の高き貌にいふ字。

【頣】 コン。擧很切 〔阮〕 頬の後、ほゝぼね。

【頝】 ハイ、ペ。滂皆切 〔佳〕 蒲枚切 〔灰〕 曲がれる頭、おとがひ。

【頗】 ハイ。蘇皆切 〔佳〕 大いなる面の貌にいふ字。

【頍】 キ。丘弭切 〔紙〕 頭を擧ぐ、あふぐ。○〔詩〕「有レ—者弁」。

【頎】 ケン。犬縣切 〔銑〕 前條に同じ、一說に頭小にして鋭る、とがる。

【頠】 ギ。五委切 〔紙〕 弁の貌にいふ字。

【頎】 キ、ゲ。渠希切 〔微〕 長くして好き貌にいふ字、たけたかし、ながし、まなやか。○〔詩〕「碩人其—」。

【頎】 コン。口很切 〔阮〕 ㊀ゆきとゞく(至)、一說に、側隱の貌にいふ字、いたまし。○〔禮〕「稽顙而後拜、—乎其至也」。㊁すこし(少·小)。○〔周、註〕「唶與レ—、皆少小之義」。

【頏】 カウ、ガウ。胡郎切 〔陽〕 鳥の飛び下るゝにいふ字、くだる。○〔詩〕「燕燕于飛、頡之—之」。

【頏】 カウ。居郎切 〔陽〕 人の頸、くび。

【頏】 カウ、ガウ。戸朗切 〔養〕 吭に同じ、物の聲にいふ字。

【頏】 カウ。口朗切 〔養〕 苦浪切 〔漾〕 のんど(咽)。

【頏】 カウ、ガウ。下浪切 〔漾〕 鳥の咽。

【顉】 イン。余準切 〔軫〕 イ。於寘切 〔寘〕 面目の正しからざる貌にいふ字、面ゆがむ。

【預】 ヨ。羊洳切 〔御〕 ㊀豫に同じ。㊀事に先だちて、あらかじめ、又、あらかじめ備はること、そなへ。○〔晉〕「宜レ有二備—一」。㊁たのしむ(佚)、あそぶ(遊)。○〔白居易〕「虎丘時游—」。㊂あづかる(參)、かゝはる(干)、かゝる(及)。○〔世說〕「仲容已レ—之」。

(參預) 事にあづかる。○〔晉〕「俾——選」。
(干預) 前に同じ。○〔晉〕「好—人事」。

【頑】 クヮン、ゲン。五還切 〔刪〕 ㊀まろきのさき(㮯頭)。㊁固陋なること、貪慾なること、德義に暗きこと、愚にして才智啓けざるも、おろか、にぶし、かたくな。○〔書〕「父—母嚚」。

(頑鈍) おろかにして理を悟らぬこと。○〔五〕「[illegible]——老手」。
(頑然) 物事におろそかにしてさとからず。○〔柳宗元〕「[illegible]——」。
(頑固) かたくなにして通せず。○〔方岳〕「自憐——」、「骨肉——」。
(頑愚) おろかにしてにぶし。○〔蘇軾〕「[illegible]」。「——不靈」。
(頑冥) 事理にくらくおろかなること。○〔韓愈〕「[illegible]」。
(頑陋) 前に同じ。○〔蘇軾〕「謾我——晚聞道」。
(頑梗) かたくなにして頑悍なること。○〔元稹〕「[illegible]」。
(頑囂) 前に同じ。○〔元稹〕「先來闇——」。
(頑強) かたくなゝること、又、其の者。○〔晉書〕「[illegible]」。

【頄】 イウ、ユ。予救切 〔宥〕 ㊀ふろふ(顫)。㊁やむ(病)。

【頕】 シン、ソン。章荏切 〔寢〕 ㊀うなじ(項)。㊁頭を垂るゝ貌にいふ字。

【頕】 タン、トン。都感切 〔感〕 顒—は、みにくし(醜)。

【頓】 タン、トン。丁紺切 〔勘〕 —頷は、擬かなる貌にいふ語。

【頏】 ガウ、ゴウ。五老切 〔皓〕 顒—は、大いなる頭。

【頒】 フン、ボン。符分切 〔文〕 魚の大首、おほあたま、又、衆き貌にいふ字、おほし。○〔詩〕「魚在在レ藻、有二頒其首一」。

【頒】 ハン、ヘン。布還切 〔刪〕 ㊀わかつ。(い)班布す、班賜す、まくくばる。○〔禮〕「—度量一而天下大服」。(ろ)區分す、わく。○〔書〕「乃惟孺子—朕不レ暇」。㊁頒の兩旁、びんづら、びん。○〔正韻〕「頒兩旁曰レ—」。㊂斑雜、まだら。○〔孟〕「—白者」。

【頞】 チツ、チチ。烏沒切 ボツ、モチ。莫勃切 〔月〕 頭を水中に入る、まづむ。

【頓】 トン。都困切 〔願〕 ㊀首を下げて拜す、ぬかづく。○〔周〕「二日、—首」。㊁つまづく。(い)たふる(僵)。○〔易林〕「[illegible]—傷」。(ろ)くじく(挫)。○〔左〕「甲兵不レ—」。㊂やぶる(壞)。○〔國〕「王覇レ—乎」。㊃つかる(罷)。○〔魏〕「士馬疲—」。㊄くるしむ(困)。○〔管〕「—卒怠倦」。㊅とゝのふ(整)。○〔陸機〕「—レ綱探レ淵」。㊆とゞまる、とゞむ(止)。○〔陸機〕「—響倚二高麓一」。㊇やどる、やどす(舍)。○〔史〕「三日三夜不二—舍一」。㊈すつ(捨)。○〔曹植〕「—レ網縱レ網」。㊉すたる(廢)。○〔漢〕「綱紀廢—」。⑪にはか(遽)。○〔列〕「一·氣不二—盡一、一形不二—虧一」。⑫たくはへ(貯)。○〔唐〕「器用庇—」。⑬たび(次)。○〔世說〕「欲レ乞二一—食一」。⑭宿舍、屯營、やどり、たむろ。○〔陳〕「徙レ—對レ之」。⑮一次の食、いちどのまよくじ。○〔釋氏通鑑〕「須レ食二一—一」。⑯宿食の所、貯食の所、とまりてまよくじするところ、まよくもつのたくはへどころ。○〔陳〕「證レ—以居レ之」。

(頓頓) とゝのへるさま、とゝのかるさま。○〔[illegible]〕「——[illegible]」。
(頓挫) 挫け傷つく。○〔晉〕「以[illegible]之——」。
(頓首) 一次の食などにもちふる語。○〔杜甫〕「——食·飲」。
(頓挫) 古の宮殿の名。○〔史〕「陶朱——之富」。
(頓忘) すたれやぶる。○〔[illegible]〕「綱紀——」。
(頓悟) 前に同じ。○〔傅亮〕「[illegible]——」。
(頓筆) 制御す。○〔[illegible]〕「[illegible]——」。
(頓兵) 軍隊などの一處にとゞまるにいふ語。○〔[illegible]〕「——[illegible]」。
(頓足) 氣力などのいたく衰弱したるにいふ語。○〔[illegible]〕「——」。
(頓敝) 破壞したること。○〔韓愈〕「——[illegible]」。
(頓轡) 馬などの轡をかゞめて進み動かざるにいふ語。○〔晉〕「——[illegible]」。
(頓積) 行軍に兵糧などを貯ふる處。○〔晉〕「立——」。
(頓躓) 號哭して地に倒るゝこと、なきつまる。○〔[illegible]〕「——[illegible]」。
(頓伏) くつがへりたふる。○〔韓愈〕「——[illegible]」。
(作頓) たふるゝこと。○〔[illegible]〕「——之[illegible]」。

（後假）すたれやむ。○（晉南國）風俗！—！。
（前假）偽かなどのエゴみてひきたゝざるいふ語。
○（後假）（いつ）かれたるも。○（後假）（時）！—！語。
（後假）（う）國訓に隨ひて義語せざるいふ語。○（後假）「！—風俗」。
（後假）實なきのゆかなからずして使れたるも。
○（後）（夢）！—！。
（後假）（くたけやみ）。○（後）（秘）前に同じ。
（後假）たふる、又、木神の名。○（後）（元）（酒之）「俗」。
（後假）大神調之！—！。
（後假）うたたふる。○（後）（後）（減）！—！字。

頓 トン、ドン。徒困切 願
にぶし（鈍）。○（漢）（老）「刃不！」。
（後假）かたくなにしてさかしからざるも。○（後）「！」。
（後假）さかしからず。○（後）（！—！不及）。
（後假）前に同じ。○（後）（宿）！—！。

頓 トツ、チ。當沒切 月
賢！—は、漢の高祖時代の匈奴の單于の名。○（漢）「單于太子曰！冒！—！。

頭 カ、チ。王矩切 虞
孔子の頭。

五畫

頗 テキ、ヂヤク。徒歷切 錫
うつくし（好）。

頤 ショ、ソ。子余切 魚
おとがひ（頷）。

頭 タン。儒旱切 旱
平かなる面、ひらがほ。

頒 ライ、都黎切 齊
頭の垂れ下がれる貌にいふ字。

頸 カウ、ゴウ。胡到切 號
白首の人、さらがあたまのひと。

頴 シン。止忍切 軫
（一）穎は、事を慎む。（二）はづ、慙。

頴 シン。章刃切 震
（一）穎は前條に同じ、又、頭に髪少なき貌。

領 レイ、リヤウ。良郢切 梗
（一）頸項、うなじくび。○（詩）「交々桑-！。
（二）えり。
「翠-袞-！。
（三）衣服のくびを圍む處。○（禮）「若（う）衣服を數ふるにいふ字。○（宋）「雜-衣千-！。
（三）なさむ（理）。○（禮）「！父子君臣
（四）すぶ（統）。○（漢）（維）！—無-敵。
（五）まとる、（綠）。○（劉公幹）「沈迷簿-！書」。
（六）うく（受）。○（深書偶談）「實-驗悟」。
（七）意趣、おもむき。○（漢）「不」能」得」。

頷 ガン、ゴン。胡感切 感
おとがひ（頤）。

頷 カン、ゴン。胡南切 覃
頷に同じ、黄なる面。

頤 キヤク、カウ。曲王切 陽
まぶち（目庫）。

頬 カウ、ケウ。口交切 肴
頬びすなめかす。

頬 カウ、ケウ。苦絞切 巧
頬に同じ。

頬 コウ、ク。虎孔切 董
たちぐらみ（頭暈）。

頭 ロ、ビ。毗至切 寘
大いなる面かほ。

頭 コン。古恨切 願 テン。多忝切
（一）かしら（首）。
（二）犬初生の子、いぬころ。
頭き貌にいふ字。

頭 タウ、ヅ。都念切 豔
たれほ、（緩頬）。

頬 ケン、ケン。胡涓切 銑
顴の後。

頬 カフ、コフ。古協切 合
あご（車頷骨）。

頬 ヒン、チン。汝鄰切 震
鬢に同じ、頬の須、ほゝひげ。○（莊）「鼠-色而！」。

頬 フク、ボク。符逼切 職
髪の白き貌にいふ字。

頬 俗の顙の字。

頭 ハ、ホ。滂禾切 哿 ハ、ホ。蒲果切 哿
頭偏る、かたよる。

頬 ヘン、ベン。皮變切 霰
（一）冠の名。
（二）冠の大いなる貌にいふ字。

頬 ハン、ボン。扶晩切 阮
髪なきも、かぶろ、はげ。

頬 ハ、ホ。滂禾切 歌
偏倚、不公平、かたよる、よこしま、かたおち。○（書）「無-偏無-！」。
（後假）易平ならざるも。○（詩）（序）「刺-！私由之也。
（前假）あめ上下に敵の多きも。○（後假）「！—

頬 ハ、ホ。普火切 哿
すこぶる。
（一）少しくかたよりて、やゝ、○（史）「有-！可-采者-！。
（二）多くかたよりて、はなはだ。○（史）「！用-術。

頬 ハ、ホ。普過切 箇
かたよる（偏）、一說に、疑ふ辭。

頭 セツ、セチ。職悅切 屑
面上の秀骨、ほゝほね（顴頬）。○（玉篇）「漢高-顴隆！龍顔。

頭 シユツ、シユチ。之出切 質
頭の貌にいふ字。

頬 アン。烏旰切 翰
人の名。○（史）「秦時常-！」。

額 ガク、ギヤク。五陌切 陌
（一）額に同じ、ひたひ、かぎり。○（揚雄）「！顙也、中-夏謂-之-！」。
（二）休息せざる貌にいふ字、又、事を續す貌にいふ字。○（書）「罔-晝夜！-！」。

頭 ドウ、ヌ。奴兜切 尤
顔-！は面ゆがむ。

頬 ゲツ、ゲチ。五舌切 屑
みにくし（醜）。

頬 ハク。西各切 陌
面の大いなる貌にいふ字。

頬 ガク。逆各切 藥
額に同じ、おこそか（泰顯）。

顱 ケツ、ゲチ。胡結切 屑
頬の後。

頬 アツ、アチ。阿葛切 曷
はなすら、はなばしら、（鼻-梁）。○（玉篇）「疾言-！」面相背」。
（後假）はなばしらをさはむ。○（後漢兵事志）「！—
（後假）敵の名、王の於儀に於ける如し。○（山海經）「侍事之山、有獣、其狀如-馬、而文身、善-！人、名曰-！」。

頭 コツ、コチ。古忽切 月
つらぼね（面-額）。

頤 ライ、落猥切 賄 虞欺
おほがしら、（大首）。

頬 ライ、切 虞欺
頭正しかゝすかたむく。

頸 シ、昌旨切 紙
大いなる面かほ。

頭 コン。古恨切 願 テン。多忝切
（一）かしら（首）。
（二）犬初生の子、いぬころ。
頭き貌にいふ字。

頸 ケイ、五郎切 耕 ゲ。魚毀切 紙
（一）ならふ（閑習）。（二）まづか（雙）。
（三）かしら（頭）。

頭 ケツ、ゲチ。胡結切 屑
頬の後。

一直項、すぐなるうなじ。二飛び上がる、あがる。○〔詩〕「燕々于飛、―之頏之」。三人の名。○〔左〕「從者頡―」。

【頡】カツ、ケチ。古黠切。一すろ、きしろ（擷）。二へらす（減・尅）、かすめのぞく（掠・除）。○〔唐〕「盜―貪―權」。

【頢】クワツ、クワチ。古活切。一短き面の貌にいふ字。二小さき頭の貌にいふ字。

【頣】シン。式忍切。目を擧げて人を視る貌にいふ字。

【頤】イ。與之切。一おとがひ（顎）。○〔禮〕「―霤垂拱」。二易の卦名、☶☳（艮上震下）。○〔易〕「―貞吉」。三ふかし（深）。○〔小爾〕「―深也」。四語調を助くるに用ふる字。○〔史〕「夥―涉之爲レ王」。

(朶頤) 食らはんと欲する貌にいふ語、又、物をかむにもいふ。○〔易〕「觀我―――」。
(期頤) 老いたるをいふ。○〔禮〕「百年曰―――」。
(拄頤) をとがひを支ふ。○〔國〕「修劍―――」。
(解頤) いたく笑ふ。○〔漢書〕「匡說詩―――」。
(方頤) おとがひの廣くそげざるをいふ。○〔三國〕「豐―――」。
(豐頤) 頰に同じ。○〔唐〕「方頤―――」。
(頷頤) 食らはんと欲する貌にいふ語。○〔歐陽脩〕「流涎頷―――」。

【頣】俗の頤の字。

【頦】カイ、ガイ。戶來切、下改切。頤の下、あご。○〔韓愈〕「我手承レ―時拄レ座」。

【頦】カイ、ガイ。柯開切。みにくし（醜）。

【頦】カイ、ケ。古亥切。一前條に同じ。二ほゝ（頰）。

【頨】ゲン。倪殿切。頨―は、かほよし（姣）。

【頧】タイ、テ。都回切。母―は、冠の名。

【頧】タイ、テ。都罪切。頭の正しからざる貌にいふ字。

【頨】ヘン。紕延切。ケン。許緣切。頭姸し、うつくし。

【頨】ウ、チ。王矩切。一前條に同じ。二孔子の頭。

【頨】ヘン。卑見切。―頨は、かほよし（姣）。

【頭】トウ、ツ。他孔切。直き項、うなじ。

【頩】ヘイ、ヒヤウ。普丁切。一怒りて面色の青き貌にいふ字。○〔宋玉〕「―薄怒以自持兮」。二氣の盛んなる貌にいふ字。○〔楚辭〕「玉色―以脕レ顏」。

【頩】ヘイ、ヒヤク。匹迥切。一淺き青色、はなだいろ。二容を斂むること、かたちづくり。

【頮】ライ、レ。力外切、盧對切。一とし（疾）。二曉し難し、にぶし。三鮮白なる貌にいふ字。

【頫】フ、ホ。方矩切。ベン、メン。靡卷切。頭を低る、うつぶす、ふすうなだる。○〔揚雄〕「人面―」。

【頫】テウ。他弔切。みる。(い)大夫の衆來して天子に謁見するにいふ字、まみゆ。○〔周〕「―聘」。(ろ)天子の使臣の諸侯を訪問するにいふ字、とふ。○〔周、䟽〕「存―省聘問臣之禮」。(は)察し視る、あきらかにみる。○〔張衡〕「流―目―」「乎衡・阿」。

【頮】タウ、トウ。他刀切。てあらふ（盥）。

【頾】ショウ、シュ。尺與切。みつ（充）。

【頳】頳に同じ。

【頳】赬に同じ、―施は、せむし。

七畫

【顧】シン。之刃切。一頭動く。二古文の脣の字。

【頯】キウ、ケ。巨鳩切。一冠りの飾りの貌にいふ字、又、蔘顯の貌にいふ字。二いただく（戴）。

【頿】タツ、タチ。丑刮切。一小さき頭、こあたま、一說に、面の堀き貌にいふ字。二強き貌にいふ字。

【頷】シン。七稔切。キン。丘甚切。

【頷】カン、コン。丘凡切。―顑は、醜き貌にいふ語。

【顩】ケン。丘檢切。―顩は、面の平かならざるにいふ語。

【頾】ガ。五何切。一ひとし（齊）。二なゝめ（衺）。

【頾】ガ。五可切。一弁を側だつ、そばだつ、かたぶく。二俄に同じ、にはか。

【頤】コン。苦昆切、苦本切。一髮なし、かぶろ、はげ。二みゝのあな（耳門）。

【頪】サン、ソン。蘇紺切。頜―は、頭を搖かす貌にいふ語。

【頢】クワツ、クワチ。下括切。カツ、ガチ。牙葛切。短き面。

【頦】バイ、メ。莫佩切。クワイ、ケ。呼內切。くらし（昧）。

【頏】コウ、ク。戶孔切。頭直し、なほし。

【頸】セイ、ジヤウ。息征切。ケイ、ギヤウ。渠京切。一くび（頸）。二うなじ（項）。

【頭】トウ、ヅ。度侯切。一かしら。(い)頸喉より上部の稱、かうべ、あたま。○〔史〕「搖レ―而歌」。(ろ)毛髮、かみ。○〔晉〕「汗レ服失レ冠、蓬―偃臥」。(は)上部、うへ、いたゞき。○〔列仙傳〕「至時、果乘二白鶴一駐二山―一」。(に)先端、はし、さき。○〔晉〕「以二百錢一挂二杖―一」。(ほ)始緒、はじめ、こぐち。○〔唐〕「年―月尾」。(へ)魁長、をさ。○〔唐〕「以二彊幹者一爲二番―一」。二人を數ふるにいふ字。○〔春秋元命苞〕「九―紀」。三かうべある動物を數ふるにもいふ字。○〔舒頔〕「積斜體態百―殊」。

(低頭) 首をたれさぐ。○〔杜甫〕「稱乃欹―――」「子美親レ根」。
(島頭) 頭髮の冠の異名。○〔本草〕「―――脚」。
(叉頭) (い)脊色のはちまきをしたる士卒。(ろ)太もゝ。○〔漢〕「戰力二十萬、―――二十萬」。
(搖頭) かしらをゆるがす。○〔…〕「―――」。
(山頭) やまの頂上。○〔白居易〕「寒山―――」。
(船頭) 上れの…、又、船の監督者。○〔唐〕「…」。
(白頭) 白髮のあたま。○〔史〕「―――如新」。
(黃頭) 黃色の帽を冠るもの。○〔漢〕「―――郎」。
(竿頭) あたまを…。○〔…〕「―――」。
(竹頭) 竹のきりはし。○〔晉〕「木屑及―――」。
(蟲頭) 瓠瓜などに當虫の實として用ふるもの。○〔…〕「…之實」。
(叛頭) 承認の意をあらはすに頭を前方にすこしくさぐる、うなづく。○〔中興紀聞〕「石晉―」。
(竿頭) さをのはし。○〔吳融〕「百尺―――五兩」。
(渡頭) ふなわたしあるところ、わたしば。○〔張九齡〕「―――」「水」。
(心頭) こゝろざし、こゝろ。○〔杜甫〕「―――時和」。
(舌頭) 前に同じ。○〔李賀〕「―――」。
(叩頭) 罪を謝するときなどに頭を以て地を叩くこと。○〔後漢〕「昆陽向レ火―――」。
(鳳頭) あたまをとりみたす。○〔世說〕「―――」。
(露頭) 前に同じ、頭の生ひのびたるやうに髮の亂れ居ること。○〔…〕「―――」。
(鵲頭) 脫帽して頭を打ち出す。○〔…〕「夜眼…」。
(圓頭) まろやかなるあたま。○〔說苑〕「―――」。
(陣頭) 軍陣のまへて。○〔王建〕「―――多是用」。

【頯】クワイ、ケ。荒內切。顋に同じ、面を洗ふ、あらふ。○〔晉〕「王乃洮二―水一」。

【頯】クワイ、ケ。苦對切。一太だ質朴なる貌にいふ字。○〔莊〕「其容寂、其顙―然」。二高く露れて美を發する貌にいふ字。○〔莊〕「而顙―然」。

【頯】キ。居洧切。

【頯】キ、ギ。渠追切。一小さき頭、こあたま。○〔爾〕「博而―」。二面骨、つらぼれ。三あつし（厚）。つらぼれ（權）、ほゝぼれ（頰骨）。

【頯】キウ、ケ。渠尤切。頰に同じ、ほゝぼれ（頰骨）。

【頰】シヤ、セ。昌遮切。牙の下の骨、はごこ。

【頰】シン、ソン。七稔切。いやし（陋）。

【頰】ケフ、ゴフ。古協切。面の旁、ほゝ。○〔易〕「咸二其輔―舌一」。
(緩頰) ゆるくくとおだやかにかたりて譬喩を引くこと。○〔史〕「―――往說」。
(往頰) ほゝをさゝふ。○〔韓愈〕「入誑方―――」。
(兩頰) 雙頰ともいふ、左右のほゝ。○〔杜牧〕「但見―――生散渦」。
(紅頰) ほゝのあかきこと。○〔韓愈〕「白咽―――長」。
(豐頰) ほゝの肉のゆたかなるをいふ。○〔韓愈〕「面―――」。
(愛頰) うるはしきほゝ。○〔淮〕「―――」。
(方頰) ほゝのそげずしてかくばりたるをいふ。
(赤頰) あかきほゝ、又、鵲の異名。○〔正字通〕「―――」。
(白頰) くちもと、又、鶴香の義にもいふ。○〔高啓〕「春生只解…」。
(鉄頰) ほゝをうつ、又、やつがしらと稱する鳥の別名。○〔王安石〕「頭兩―――」。
(鋭頰) ひげの生じたるほゝ。○〔蘇軾〕「雨水落―」。

【頷】ラツ、ラチ。盧活切。―頷は、面みにくし。

【頷】セン、チン。汝鹽切。髯に同じ、ほゝひげ。

【頷】前條に同じ。

【頷】シン、ソン。士瘁切。

【頷】シン、ソン。寺嶋切。鬱―切。醜き貌にいふ字、みにくし。

【頷】ホ。扶雨切。頫―は、首を俯す。

【頤】ほゝぼれ（頰骨）。

【頤】ギン、ゴン。宜禁切。頷―は、首の動くにいふ語、かしらふる。

【顆】コウ、ク。呼公切。頭の悶ゆる貌にいふ語、かしらいたむ。

【頲】テイ、チヤウ。他鼎切。狹き頭の直きにいふ字、又、正直なるにいふ字、なほし、たゞし。○〔爾〕「輪―」「棱較―」。

【頲】テイ、チヤウ。湯丁切。狹き頭の貌にいふ字。

【頳】キ、ケ。香依切。―頳は、頭の動く貌にいふ語。

【頳】テイ、チヤウ。丑貞切。經に同じ、あかし。○〔詩〕「魴魚―尾」。
(鮮頳) 顏色などの赤きにいふ語。○〔陳書〕「修鼓廢・養頳之―――」、「皇帝重之好々」。
(微頳) すこしく赤し。○〔殷敬〕「…」「―――」。
(淺頳) 赤色のうすからざるをいふ。○〔嵐穿賦〕「黃…」「―」。
(含頳) 赤色をおびたること。○〔元稹〕「…」。

【頳】俗の頳の字。

【頶】コ、ク。詭胡切。

大頭、おほあたま。
【顤】バウ、モウ。莫江切 江 あたま（頭）。
【頵】ヰン、ウン。於倫切 キン、コン。君鈞切 眞 大頭、おほあたま。
【顉】キン、グン。巨隕切 軫 頭の貌にいふ字。
【頶】コク。胡沃切 沃 鼻の高き貌にいふ字。
【頷】カン、ゴン。胡感切 感 ㊀面の黄色なるにいふ字、又、飽かざる貌にいふ字。○［屈平］「長顑—亦何傷」。㊁口中の下骨、あぎと、あご、おとがひ。○［漢］「虎頭燕—」。（豐頷）おとがひの肉ゆたかにしてそげてあらず。○［元］「豐頷—」、「龍顏—」。（顧頷）おとがひ一面のと。○［白居易］「—…—白」。
【頷】ガン、ゴン。五感切 感 頭を搖かし低る、うなづく。○［左］「衞侯入、逆二于門一者—レ之而已」。
【顄】カン、ゴン。胡男切 覃 面色の黄なるにいふ字。
【頦】サ、セ。數瓦切 馬 みにくし（醜）。
【頪】類に同じ。
【題】テイ、タイ。天黎切 齊

頡—は、頭正しからざるを。
【頸】ケイ、キヤウ。居郢切 梗 ケイ、ギヤウ。巨成切 庚 くび。（い）頭と體とをつゞくる處、即ち、頭莖、特に前面の稱。○［禮］「頭—必中」。（ろ）物の頭莖の狀をなせる部分の稱。○［禮］「榫其—五寸」。（短頸）くびながからず。○［莊］「—…—」。（延頸）くびをのばす、遠く望む貌にいふ語。○［史］「—…而望」。（刎頸）くびをきりはなつ、又、極めてあつき交をいふ語。○［史］「—…之交」。（長頸）くびながし。○［呉越春秋］「—…鳥喙」。（縮頸）くび。○［韓］「—…必中」。（伸頸）くびをながくのばす。○［宋］「—…就刃」。（斷頸）くびをつらねならぶ。○［鄒先］「—…就戮」。
【額】貌に同じ。○［漢］「人脅二天—地之—二」。
【頹】タイ、デ。杜回切 灰 ㊀頽下、おとがひ。㊁禿首、はげ、かぶろ。㊂吹き下る暴風、はやて、つじかぜ、おろし。○［詩］「維風乃—」。㊃墜下す、おつ、おとす。○［阮籍］「晨昏兮日月—」。㊄くづる。（い）破壞しおつ。○［禮］「泰山其—乎」。（ろ）次第に下る。○［嵆康］「榮進之心日—」。（は）物事の衰退して振はざるにいふ字。○［世說］「此時風範不レ得レ不二小—一」。㊅くづれしむ、くづす。○［漢］「—其土一」。㊆物事に逆はざる貌にいふ字。○［禮］「—乎其順也」。㊇いだく、おもふ（懐）。○［司馬相如］「遂—思而就レ牀」。㊈水の下り流るゝにいふ字、ながる。○［史］「水—以絶二商顏一」。（頹齡）ころびおつ。○［柳宗元］「—路—」。（頹顏）老顏を救薦す。○［謝靈運］「—…—」。

【類】類の字の誤。
【頻】ヒン、ビン。符眞切 眞 ㊀すみやか（急）。○［詩］「國歩斯—」。㊁ならぶ（並）。○［國］「羣神—行」。㊂くり返すとのすみやかなるにいふ字、また、字、ならびつゞきて作るにいふ字、まきり。○［列］「汝何往來之—」。㊃きし（崖）、ほとり（濱）。○［詩］「池之竭矣、不レ云レ自レ—」。㊄顰に同じ、ひそむ。○［易］「—復厲无レ咎」。
【頺】ハイ、ベ。蒲枚切 灰 曲がれる頭。
【頩】ホウ、フ。普溝切 尤 髮短くして白きを。

八畫

【𩑶】シ。卽移切 支 口の上のひげ、うはひげ、くちひげ。
【頿】題に同じ。○［左］「生而有レ—」。

【顀】ツヰ、ヅヰ。直追切 支 ㊀でびたひ（出額）。㊁項—は、まくらぼね。
【顁】テイ、チヤウ。丁定切 徑 ひたひ（額）。
【頲】テイ、チヤウ。都挺切 迥 項に同じ。
【䫘】井。息危切 支 またがふ（踰）。
【䫙】タイ、デ。徒回切 灰 下り墜つ、おつ。
【頼】ヘイ、ハイ。匹米切 薺 ヒ。普弭切 紙 首を傾く、かたぶく。
【頾】ヘツ、ベチ。蒲結切 屑 —頾は、短き貌にいふ語。
【頪】ライ。力較切 隊 —頼は、おほふ。
【頼】ライ。郎才切 灰 —髑は、頭の長き貌にいふ語。
【頚】セイ、シヤウ。疾政切 敬 ㊀好き貌にいふ字、うつくし。㊁はやしかた（樂工）、わざをぎ（倡優）、まなだまつかひ（弄人）。
【𩒐】セイ、シヤウ。疾郢切 梗 頸—は、好き貌にいふ語。

【頳】タン、ドン。徒甘切 覃 エン、ヨン。余廉切 鹽 面ながし、おもなが。
【顄】カン、ゴン。胡感切 感 カン、ゴン。胡男切 覃 頷に同じ、おとがひ、あぎと。○［漢］「修口擘—」。
【䫲】セツ、セチ。職說切 屑 頭みじかし。
【頷】カン、ケン。口咸切 咸 鷸に同じ、ひよくのとり。
【頍】キ。去其切 支 みにくし（醜）。
【額】キ。居履切 紙 キ。已愚切 寘 ㊀小さき頭。㊁かぎる（畫）。
【顄】前條に同じ。
【顧】カン、ケン。苦閑切 刪 ケン。居研切 先
寠 ケウ、ゲウ。戸弔切 篠
【顆】㊀鬢の毛の少なきを、うすびん。㊁長き脰の貌にいふ字、ながし。○［禮］「數目—脰」。
【顆】カウ、コウ。古老切 晧 かしら（頭）。
【頼】リン、ロン。梨針切 侵 リン。力鴆切 沁 —頢は、首を俯す。
【頣】須に同じ。
【頽】クワ。苦果切 哿

㊀小さき頭。㊁圓き物を數ふるにいふ字、つぶ。○［六書故］「以レ—計」。㊂堁に同じ、つちくれ。○［漢］「使二其後世曾不一レ得二蹊レ—蔽レ冢而託一レ葬」。（顆顆）うみたる果實などのつぶ。○［范成大］「孌面——已如レ許」。
【顆】クワン。苦緩切 旱 —冬は、草の名、ふき。
【顏】ガン。魚肝切 寒 ひたひ（額）。
【顗】イ。於宜切 支 うつくし（好）。
【顧】ケツ、ゴチ。魚屈切 物 —頷は、面の短き貌にいふ語。
【顗】ギ。魚羈切 支 眉目。
【顇】スヰ、ズヰ。秦醉切 寘 やつる（顦）、やむ（病）。○［揚雄］「慶二夭—一而喪レ榮」。
【顀】シュツ、ジュチ。昨律切 質 顣—は、面の短き貌にいふ語。
【䫏】セイ、シヤウ。子盈切 庚 頭—は、頭。
【頭】トウ、ツ。當侯切 尤 頭—は、面のゆがむを。
【頭】オ、ウ。於五切 麌

首巾、かしらづつみ。
【頳】ロク。盧谷切 屋 ドウ、ヌ。奴鉤切 尤 うなじ（項）。
【顋】ケン、ゲン。胡典切 銑 つゞる（綴）。
【䫶】ケイ、キヤウ。口迥切 迥 消熒切 迥 ㊀苧に似たる一種の植物にて皮は布と作すべきもの。○［禮］「如二三年之喪一、則既—其練祥皆行」。㊁ひとへぎぬ（禪）。○［儀］「女從者畢袗玄、纚笄被二—黼一在二其後一」。
【頿】須の本字。
【頟】ボン、モン。莫奔切 元 頭を繫ぎ縕ゆ、もだゆ。
【頷】ガン、ゴン。五感切 感 頭を低る、うなだる。○［左］「—レ之而已」。
【頷】額に同じ。
【頷】キン、コン。去金切 侵 曲がれる頭の貌にいふ字、まやくむ。○［漢］「—頭折頞」。
【頯】ケン、ゴン。逵員切 先 まがりづの（曲角）。
【頹】タイ、デ。杜懷切 佳 頭眹る、くびほれたがふ。
【頯】シ。秦李切 紙

惡き貌にいふ字。
【顤】イ。余其切 支 おとがひ（頤）。○［韓］「貌貫レ—」。

九畫

【顡】グワイ、ゲ。五恠切 卦 かしらおほひ。
【顐】クワイ、ヱ。荒内切 隊 ㊀面の肥えたる貌にいふ字。㊁額に同じ、面を洗ふ、あらふ。
【䫟】ケイ、ガイ。胡計切 霽 人を伺ふ、うかゞふ、一說に、恐る。
【顃】ケツ、ケチ。苦結切 屑 顃—は、短き貌にいふ語。
【顋】サイ。蘇來切 灰 顋頷、あぎと、あぎ。○［南］「鼈レ—之魚」。
【頓】トン、ドン。徒困切 願 —頓は、はげ（禿）。
【顡】エン、チン。雲阮切 ゲン、ゴン。五遠切 阮 エン、チン。于元切 元 虞怨切 願 面正しからざるを。
【顲】テツ、テチ。丁結切 屑 —顲は、小さき頭の貌にいふ語。
【顚】チン。丑甚切 寑 —顚は、愩劣の貌にいふ語。

顓 シン。昌統切 眞

よわし（顚）。

顙 シン、ジン。時鴆切 沁

頭の貌にいふ字。一說に、よわし（顚）。

頭 カ、ゲ。胡加切 麻

首體度なきこと、そらごと。

顕 カツ、ガチ。胡葛切 曷

㊀健康の貌にいふ字。すこやか。㊁顕―は、聲を揚げて言ふと、又鼻と面と平かなると、ひらがほ、一說にたけし（雄）。

顯 カツ、カチ。丘葛切 曷

聲発ぐ、はげ。

顩 ケツ、クチ。吉屑切 屑

頭の小さき貌にいふ字。

題 テイ、ダイ。杜溪切 齊

㊀ひたひ、（額）。○〔禮〕「雖レ一交一跌」。㊁かしら、（頭）。○〔孟〕「檢―數尺」。㊂表標、まるし。○〔晉〕「欲レ擊二荒田一、先立二表―一」。經レ年無レ主、然後力レ作」。㊃書籍の名號、な。○〔貞觀故事〕「皆課二述作之準的一、以爲レ―」。賦レ詩」。㊄品藻、まながら。○晉〔顧愷之〕「拔人物一、各爲二一―一自一」。㊅品評、ふなさだめ。○〔李白〕「一經品―、懶作二佳士一」。㊆試同、とひ。○〔唐國史補〕「換二試―一」。

顙 ヘイ、ハイ。匹計切 霽

頭を傾くる貌にいふ字。

額 ガク、ギヤク。五陌切 陌

㊀鬢下眉上ひたひ。○〔孟〕「疾首蹙―」。㊁塊鄂、制限、かぎり、さだめ、たか。○〔宋〕「所レ收日―」。㊂門頭欄上などに掲ぐる題識。○〔晉新話〕「前一世牌―」。

顙 ガン、ゲン。五葛切 曷

短頭、みじかきあたま。

顎 ガク。五閣切 藥

㊀面の高き貌にいふ字。㊁恭敬、うや〳〵し、おごそか。

顏 ガン、ゲン。五姦切 刪

かほ。

（い）眉目の間。○〔詩〕「揚且之―也」。

（ろ）ひたひ（額）。○〔史〕「摩―龍―」。

（は）面容つらつらがまへ、つらつき、かほいろ、かんばせ、かほばせ。○〔史〕「鼻巨―肩聳」―壁觀膝攣」。

類 キ。其季切 寘

大いなる口。

顯 クヮ、ケ。姑華切 麻

短頭、みじかきあたま。

類 俗の顎の字。

顙 ヒ、ビ。涉基切 支

短き鬢の披く貌にいふ字。ちる、ちらばる。

十畫

顰 ケウ。火幺切 篠 ㊀叫切 嘯

大いなる頭。

類 ケウ。去遙切 蕭

額の大いなる貌にいふ字。

類 コン、ゴン。胡本切 阮 ㊁胡昆切 元

頭に同じ。

顆 コン、ゴン。苦緄切 混

長き面。

顆 ガン、ゴン。玉陷切 陷

儼ゑたる貌にいふ字。瘦せたる貌にいふ字。儼ゑて面色の黃ばみたる貌にいふ字。○〔韓愈〕「欲レ以二金帛一酬二擧室常一顏」。

顆 カン、コン。苦感切 感

頭の凹める貌にいふ字。くぼし、又、大いなる首にて深き目の貌にいふ字。○〔王延壽〕「―顙翼而睽睢」。

顆 ガン、ゴン。五感切 感

頬なし、おもなが。

顆 ガン、ゴン。牛豏切 豏

顙―は、醜き貌にいふ語。

顆 カン、丘檻切 豏 ㊁口陷切 陷

長き面の貌にいふ字、おもなが。

顆 ヒ。息移切 支

㊀好き貌にいふ字。㊁顙は頭の正しからざると。

顆 キン、コン。丘葉切 洽

首動くうなづく。

顆 カン、胡男切 覃 ㊁戸感切 感

㊀おとがひ、頤。㊁―淡は、水の搖く貌にいふ語。○〔嵇康〕「―淡流」。

顆 ガン、クヮン。魚怨切 願

㊀大いなる頭、おほあたま。

（い）おもふ（欲）。○〔書〕「敬修二其可レ―一」。

（ろ）のぞむ（望）。○〔禮〕「不レ―二于大」。

（は）うらやむ（羨）、ふたふ（慕）。○〔禮〕「國人稱レ―欣日、幸哉有レ子如レ此」。

（に）いのる（祈）。○〔後漢〕「及レ遭二家難一」。

（頁頭）ひたひのひろき。○〔呂氏春秋〕「禹―」。

㊃逃作。○〔禮晁〕「晉公之戲―劇―論」。

㊄俯頭にまるしたる文字。○米芾「散レ金購取重跋―」。

㊅揭げまるしたる文詞。○〔厥谿詩話〕「鬼―篇」。○〔寒山詩〕「寺紅樓閣士大夫多留レ―」。

㊆まるす（護）。○〔世說〕「二―風字」。

（我頭）たるのさきの玉のおさめ。○〔晉朱紱〕「―玉表」。

（玉頭）前に同じ。○〔禮記〕「――相對」。

（顏頭）ひたひ。○〔禮〕「―上―皆讀爲顏」。

（書頭）かきそろして其の名號をあらはしたるもの。○〔李白〕「相接在―上」。

（碑頭）詩文などの始めの句。○〔六一居士詩話〕「―用句已道盡河豚佳處」。

（序頭）かきもの、緒。○〔李白〕「新小而長中堂二丈許、頗之餘地」。○〔韓愈〕「序言―上」。

（韓頭）天子の書かれたる題字。○〔張籍〕「謹上―」。

（等頭）詩文などの題實を論ずるも。○〔徐渭詩話〕「詩不必太―上」。

（答頭）答よりは後の進士を試みる時。○〔晉書〕「―詩等官以古人詩句命題」。

（題頭）詩文などの題を定める相談をする。○〔晉書志〕「晉時新興・永寧諸郡、元康中―」。

題 テイ、ダイ。蜀計切 霽

みる（視）。○〔詩〕「―彼脊令」。

顙 ヘイ、ハイ。匹計切 霽

頭を傾くる貌にいふ字。

額 ガク、ギヤク。五陌切 陌

㊀鬢下眉上ひたひ。○〔孟〕「疾首蹙―」。㊁塊鄂、制限、かぎり、さだめ、たか。○〔宋〕「所レ收日―」。㊂門頭欄上などに掲ぐる題識。○〔晉新話〕「前一世牌―」。

顙 ガン、ゲン。五葛切 曷

短頭、みじかきあたま。

顎 ガク。五閣切 藥

㊀面の高き貌にいふ字。㊁恭敬、うや〳〵し、おごそか。

顏 ガン、ゲン。五姦切 刪

かほ。

（い）眉目の間。○〔詩〕「揚且之―也」。

（ろ）ひたひ（額）。○〔史〕「摩―龍―」。

（は）面容つらつらがまへ、つらつき、かほいろ、かんばせ、かほばせ。○〔史〕「鼻巨―肩聳」―壁觀膝攣」。

類 キ。其季切 寘

大いなる口。

顯 クヮ、ケ。姑華切 麻

短頭、みじかきあたま。

顙 俗の顎の字。

顰 ケウ。火幺切 篠 ㊀叫切 嘯

大いなる頭。

類 ケウ。去遙切 蕭

額の大いなる貌にいふ字。

類 コン、ゴン。胡本切 阮 ㊁胡昆切 元

頭に同じ。

顆 コン、ゴン。苦緄切 混

長き面。

顆 ガン、ゴン。玉陷切 陷

儼ゑたる貌にいふ字。瘦せたる貌にいふ字。儼ゑて面色の黃ばみたる貌にいふ字。○〔韓愈〕「欲レ以二金帛一酬二擧室常一顏」。

顆 カン、コン。苦感切 感

頬なし、おもなが。

顆 ガン、ゴン。五感切 感

頬なし、おもなが。

顆 ガン、ゴン。牛豏切 豏

顙―は、醜き貌にいふ語。

顆 カン、丘檻切 豏 ㊁口陷切 陷

長き面の貌にいふ字、おもなが。

顆 ヒ。息移切 支

㊀好き貌にいふ字。㊁顙は頭の正しからざると。

顆 キン、コン。丘葉切 洽

首動くうなづく。

顆 カン、胡男切 覃 ㊁戸感切 感

㊀おとがひ、頤。㊁―淡は、水の搖く貌にいふ語。○〔嵇康〕「―淡流」。

顆 ガン、クヮン。魚怨切 願

㊀大いなる頭、おほあたま。

（い）おもふ（欲）。○〔書〕「敬修二其可レ―一」。

（ろ）のぞむ（望）。○〔禮〕「不レ―二于大」。

（は）うらやむ（羨）、ふたふ（慕）。○〔禮〕「國人稱レ―欣日、幸哉有レ子如レ此」。

（に）いのる（祈）。○〔後漢〕「及レ遭二家難一」。

㊂ねがふこと、ねがふ所、ねがひ。○〔史〕「以求レ通二子之一一」。
㊃つねに、ここに（每）。○〔詩〕「一言思レ子、中心養養」。
〔巨願〕堅大なるねがひ。○〔宋之問〕「…遂之一一」。
〔弘願〕前に同じ。○〔李嶠〕「…一一」。
〔誠願〕信實なるねがひ。○〔宋〕「…私一一」。
〔宿願〕前に同じ。○〔鄧析〕「唯一一以明レ天」。
〔發願〕ねがひを起こす。○〔淨住子〕「同向一一」。
〔[illegible]〕本願をうくるねがひ。○〔梁武帝〕「但乞一一」。
〔祈願〕神佛などを禮拜して祈りねがふ。○〔蕭綱〕「…一一」。
〔誓願〕神佛などにちかひを立てねがふ。○〔梵網經〕「我本立一一」。
〔私願〕おほやけならざる自分一己のねがひ。○〔荀悦〕「…合一一」。
〔大願〕おほいなる誓願。○〔左〕「則余一人有一一矣」。
〔冥願〕死後のねがひ。○〔歐陽〕「乞遂一一」。
〔至願〕切なるねがひ。○〔後漢〕「誠不レ勝一一」。
〔素願〕上ものぞみ。○〔殷暫〕「一一乃從」。
〔上願〕最上の誓願。○〔史〕「臣之一一」。
〔夙願〕前に同じ。○〔南〕「副二率土之一一」。
〔宿願〕平生よりのねがひ。○〔晉〕「乞如一一」。
〔本願〕前に同じ。○〔後漢〕「失其一一」。
〔冀願〕のぞみのこと、又、のぞむ。○〔吳〕「…年之一一」。
〔本願〕本來の誓願。○〔白居易〕「必果一一」。
〔私願〕おのれのねがひを稱する謙辭。○〔晉〕「新渚之一一也」。
〔微願〕前に同じ。○〔李嶠〕「匪一一之遂」。
〔歸願〕かへりたきのぞみ。○〔宋〕「誠有一一」。
〔志願〕こころののぞみ。○〔命〕「一一異矣」。
〔壯願〕壯大の誓願。○〔謝昭〕「表明謝一一」。
〔祈願〕神佛などにいのりねがふ。○〔梁武帝〕「若以不然一一」。
〔夢願〕みはくの者のねがひ。○〔李商隱〕「猶一一」。
〔宿願〕久しき以前よりのねがひ。○〔李白〕「孤負一一」。

〔顏〕ゲン、ゴン。五遠切 [阮]

面の短き貌にいふ字。

〔顙〕サウ。蘇朗切 [養] 蘇郎切 [陽]
ひたひ（額）。○〔易〕「爲二的一一」。
〔廣顙〕ひろやかなるひたひ。○〔五〕「…一一」。
〔[illegible]〕前に同じ。○〔…〕「…一一」。
〔博顙〕前に同じ。○〔易林〕「雕角一一」。
〔廣顙〕前に同じ。○〔吳越春秋〕「一一而深目」。
〔稽顙〕ひたひを地につく、ぬかづく。○〔禮〕「一一而後拜」。
〔方顙〕ひたひのかくばりたること。○〔五〕「一一…」。
〔[illegible]〕あたまのこと。○〔後漢〕「一一…」。
〔隆顙〕ひたひの附たかく起こりたるをいふ。○〔孔叢〕「河目而一一」。
〔[illegible]〕前に同じ。○〔晉〕「一一大鼻」。

〔[illegible]〕ケイ、ガイ。弦雞切 [齊]
頭の正しからざること。

〔[illegible]〕キン。丘甚切 [寢]
頤に同じ、醜き貌にいふ字。

〔[illegible]〕ベイ、ミヤウ。莫經切 [青]
眉目の間、ひたひ。

〔顛〕テン。都年切 [先]
㊀いただき。(い)頭上、あたま。○〔國〕「班二序一毛一」。(ろ)額上、ひたひ。○〔詩〕「有レ馬白一」。(は)物の最高處、てっぺん。○〔蘇軾〕「山有レ時而童一」。
㊁もと（本）、さき（先）。○〔陸機〕「恒操レ末以續レ一」。
㊂さかしまにす、さかしま（倒）。○〔楚辭〕「一レ衣以爲レ裳」。
㊃くつがへる、くつがへす（覆）。○〔荀〕「以桓一倒」。
㊄たふる、たふす（仆）。○〔論〕「一沛必於レ是」。
㊅おつ、おとす（墜）。○〔書〕「告二予一一之地一」。
㊆まよふ（迷）。○〔莊〕「一一二冥乎富貴一」。
㊇癲に同じ、くるふ、きちがひ。○〔晉〕「世號二張一一」。
㊈もっぱら（專一）。○〔莊〕「至德之世、其行塡塡、其視一一」。
〔華顛〕老人のかしら、又、老人のことにいふ語。○〔…〕「…一一」。
〔顛躓〕つまづきたふる。○〔易林〕「一一踣足」。
〔樹顛〕木の枝もたかきところ。○〔杜甫〕「昔鏡在一一」。
〔詩顛〕詩の道に狂人の如くなること。○〔賈至〕「一名過一一」。
〔狂顛〕氣のくるひたること、きちがひ。○〔張翰〕「…花歌…似一一」。
〔酒顛〕酒に心を奪はるること。○〔王建〕「…衣…一一」。
〔倒顛〕くつがへす、さかしまにす。○〔歐陽修〕「…一一」。
〔傾顛〕かたぶきくつがへる。○〔梅堯臣〕「…一一」。
〔頹顛〕たふれおつ。○〔…〕「…其一一」。

〔顚〕テン、デン。亭年切 [先]
㊀憂ひ思ふ貌にいふ字。○〔禮〕「喪容纍纍、色容一一」。
㊁闐に通じ用ふ、ふさぐ、ふさがる。○〔禮〕「盛レ氣一實揚休」。

〔[illegible]〕テン。典因切 [眞]
いただき（頂）。○〔司馬相如〕「偃二蹇杪一一」。

〔[illegible]〕テン。他甸切 [霰]
塡に同じ。

〔[illegible]〕俗の顛の字。

〔[illegible]〕ベツ、メチ。莫結切 [屑]
さびあがる（額）。

〔[illegible]〕ガイ、ゲ。五罪切 [賄] キ。丘其切 [支]
㊀頭正しからず。㊁大いなる貌にいふ字。

〔顜〕カウ、コウ。古項切 [講] カク、コク。乾岳切 [覺]
あきらか（明）、やはらぐ（和）、なほし（直）。○〔史〕「蕭何爲レ法、一若二畫一一」。

〔顝〕コツ、コチ。苦骨切 [月]
㊀大いなり。㊁大いなる頭。㊂ふる（抵‐觸）。㊃みにくし（醜）。㊄獨處の貌にいふ字。○〔張衡〕「一羇旅而無レ友兮、余安能二乎留一兹」。

〔[illegible]〕クワイ、ケ。口猥切 [賄]
首の大骨、くびぼね。

〔[illegible]〕クワ、ケ。口瓦切 [馬]
くろぶし（踝）。

〔[illegible]〕クワイ、ケ。口回切 [灰]
大いなる頭。

〔[illegible]〕カフ、コフ。古盍切 [合]
頷の車骨、つがひぼね。

〔[illegible]〕カイ。丘蓋切 [泰]
頭の骨の貌にいふ字。

〔[illegible]〕トウ、ツ。當侯切 [尤]
[illegible]一は、面ゆがむこと、まやくしがほ。

〔類〕ル井。力遂切 [寘] 〔說文〕種類相似、唯犬爲甚、从犬頪聲。
㊀よし（善）。○〔詩〕「克明克一」。
㊁のり（法）。○〔楚辭〕「吾將二以爲レ一兮」。
㊂ためし（例）。○〔史〕「吾將二以爲レ一」。
㊃こと（事）。○〔淮〕「以レ一而取レ之」。
㊄かたち（形）。○〔淮〕「未レ有レ一也」。
㊅たぐひ。(い)種族、たれ、やから。○〔史〕「先祖者一之本也」。(ろ)同等、なみ、ともがら。○〔列〕「負レ一反レ倫」。(は)品別、しな、わかち。○〔荀〕「壹二統一一」。(に)比較、くらべ、てりあはせ。○〔禮〕「知レ一通‐達」。(ほ)庶衆、もろもろ。○〔淮〕「浸‐想宵‐一」。
㊆にる（似）。○〔國〕「一レ有二大憂一」。
㊇かたどる（象）。○〔呂氏春秋〕「察‐下一レ有レ人」。
㊈なむ（並）、したがふ（隨）、くらぶ（比）。○〔左〕「一レ能而使レ之」。「等二…」
㊉大概、おほむね。○〔史〕「一多二成由一」。
⊕師旅の止まる處にて行ふ室內の祭事。○〔詩〕「是一是禡」。
⊕行く時に頭の左邊に卑く下がれる龜。○〔爾〕「龜左倪不一」。
⊕獸の名。○〔山海經〕「亶爰之山有レ獸焉、其狀如レ狸而有レ髦、其名曰レ一、自爲二牝牡一、食者不レ妒」。
〔品類〕いろいろのもの、萬物といふが如し。○〔魏〕「萬作方舞一一萌動」。
〔萬類〕前に同じ。○〔陸機〕「海物錯一一」。
〔不類〕善からざること。○〔詩〕「…一一」。
〔比類〕たぐらふ。○〔禮〕「一一以成二其行一」。
〔觸類〕事物などに觸き、又、種々の部類をはたらく推類。○〔左〕「一一…」。
〔遺類〕征伏などせられて後にのこり居るもの、打ち殘されもの。○〔後漢〕「所遇無二遺一一」。
〔字類〕それぞれの區別。○〔…〕「別生一一」。
〔品類〕いろいろの類。○〔王褒〕「…一一之…」。
〔朋類〕朋友、同役。○〔魏〕「不レ能レ協‐同一一」。
〔黨類〕同黨のこと。○〔晉〕「一一以此少之」。
〔儔類〕前に同じ。○〔阮籍〕「自傷非一一」。
〔匹類〕太だしく似て居ること。○〔…〕「斯才一一」。
〔[illegible]〕一東野賓二。
〔凶類〕行惡のともがら。○〔晉〕「…一一」。
〔醜類〕惡類を謝したる間柄のもの。○〔魏〕「…」。
〔親類〕近親の間柄、みより。○〔魏〕「內外一一」。
〔名類〕名目。○〔唐〕「一一頗多」。
〔生類〕天地間に生をうけたるすべてのもの。○〔東京賦〕「常畏一一之珍也」。
〔同類〕たぐひを異にせず、なかま。○〔孟〕「聖人與レ我一一者」。
〔善類〕善良なるともがら。○〔子華子〕「其一一」。
〔出類〕たぐひの者よりすぐれまさる。○〔孟〕「一乎其一」。
〔異類〕種類の同じからざるもの、又、たぐひを同じうせず。○〔晉〕「異‐類朋一一」。
〔殊類〕前に同じ。○〔…〕「…一一」。
〔族類〕人畜などのたぐひ。○〔…〕「…一一」。
〔種類〕たぐひ。○〔論衡〕「殆無二一一」。
〔族類〕同じやからのなかま。○〔左〕「非二我一一」。
〔似類〕背似ず、にる。○〔…〕「事相一一」。
〔人類〕人のこと。○〔莊〕「一一悲レ之」。
〔等類〕等輩。○〔後漢〕「言語多好一一」。
〔黨類〕なかま。○〔後漢〕「罪…一一」。
〔植類〕植物。○〔竹譜〕「一一之中」。
〔動類〕動物。○〔諸葛亮〕「一一…」。
〔毛類〕獸類。○〔曹植〕「野…一一」。

〔[illegible]〕ライ、レ。盧對切 [隊]
かたよる（偏）。○〔左〕「刑之頗一」。

〔[illegible]〕ベイ、マイ。緜批切 [齊]
一頭は、頭の垂るる貌にいふ語。

〔[illegible]〕セン。諸延切 [先]
ひたひ（額）。○〔揚雄〕「一、頟、顙、顏也」。

〔[illegible]〕イ。以之切 [支]
㊀やしなふ（養）。㊁輔車の骨、つらがまちのほね。

十一畫

〔[illegible]〕サク、シヤク。側革切 [陌]
一頰は、頭正しからざる貌にいふ語。

〔[illegible]〕ガウ、ゴウ。五勞切 [豪] 五到切 [號]
高く大いなり、たかし、ふさし。

〔[illegible]〕ラン、ロン。盧含切 [覃]
一頷は、首を俯する貌にいふ語。

〔[illegible]〕サン、ソン。桑感切 [感]
頭を搖かすこと。

〔[illegible]〕バ、マ。莫霞切 [麻]
一頤は、語り難し、ことどもる。

〔[illegible]〕前條に同じ。

〔[illegible]〕レウ。力弔切 [嘯] 力嘲切 [蕭]
一顤は、頭の長き貌にいふ語。

〔[illegible]〕レウ。憐蕭切 [蕭]
高鼻深目の貌にいふ字。

〔[illegible]〕サウ。疎兩切 [養]
みにくし（醜）。

〔[illegible]〕ヘウ。婢小切 [篠] 匹妙切 [嘯]
髮白し。

〔[illegible]〕ヘウ。紕招切 [蕭] 匹沼切 [篠]
髮に同じ、髮の亂るる貌にいふ字。○〔楚辭〕「一一髮白」。

〔顡〕ギ。魚既切 [未] グワイ、ゲ。五怪切 [卦]
痴一は、聰明ならざること。

〔[illegible]〕タイ、テ。他怪切 [卦]
顏醜し、みにくし。

〔[illegible]〕タイ、テ。[illegible]切 [卦] ガイ、ゲ。五罪切 [賄]
㊀頭を擊つ聲にいふ字。㊁聉一は、志なきこと。

〔顢〕バン、マン。母官切 [寒]
一頇は、大いなる面。

〔[illegible]〕チウ、ウ。烏侯切 [尤]
一頤は、面ゆがむこと、まやくしがほ。

〔[illegible]〕ヒ。府移切 [支]
㊀須髮の半白なること。㊁鬢の貌にいふ字。

〔[illegible]〕[illegible]に同じ。

〔[illegible]〕シユク、ソク。子六切 [屋] セキ、シヤク。倉歷切 [錫]
面を促む、ちかむ。○〔孟〕「己頻一曰、惡用二是鶂鶂者一爲哉」。

〔[illegible]〕顒に同じ。

〔[illegible]〕コク。曉谷切 [屋]
さいはひ（祿）。

十二畫

顫 コウ、ク。呼孔切 董　頭の病にいふ字。

顯 セン。旨善切 銑　人を侮り視る、みさく。

顙 シン、メン。所綿切 霰　類に同じ。

顚 カウ、ゴウ。古老切 皓　廣大なる貌にいふ字。

顢 カウ、ゴウ。胡刀切 豪　顢頇は、大いなる面の貌にいふ語。

顩 カウ、許爽切 養　ケウ。切　ゲウ。五聊切 蕭　面の高き貌にいふ字、高く長き頭の貌にいふ字、首を擧ぐる貌にいふ字、又、たかし。（高。○王延壽「魯靈光殿賦」「顩而睽、睢。

顧 ハ、ボ。薄波切 歌　一ノ條に同じ、まろし。

顧 ヘン、メン。符眷切 元　二、勇み舞ふ貌にいふ字。

顧 ヘン、メン。符眷切 元　白き喙、くちばし。

顯 シン、ソン。章荏切 寢　一、頭を低るゝ貌にいふ語。

顯 シン、ソン。古穩切 隱　二、頭銳りて長し。

顯 シン、ソン。古穩切 隱　よわく おとる（懦弱）。

顯 クワイ、エ。戶賄切 賄　頭の貌にいふ字。

顯 クワイ、エ。胡對切 隊　人を侮り視る、みさく。

顯 サン、ソン。常含切 覃　顯は、首を俯する貌にいふ語。

顯 顯に同じ。

顯 カウ、ゴウ。胡老切 皓　一、白き貌にいふ字、光る貌にいふ字。（楚辭「天白——！」）二、おほいなり（大。）（班固「——氣之清英。」）三、天逸の情緒。（晉書「列刺映二孚——」）四、西又秩。（漢「四——沆碭」）

顯 ヘン、ボン。符眷切 元　大いに醜き貌にいふ字、みにくし。

顯 リン。其忍切 軫　一、事を慮む、つゝしむ。二、頭に髪少なし、うすし。

顯 セン。須緣切 先　圓き面、まるがほ。

顯 セウ、セウ。昨焦切 蕭　憂ひ又は羞ぢて容色のかはれるにいふ字やつる。（屈平「顏色——槁」）

顯 コ、古墓切 姥　ク。切　公戶切 麌　かへりみる。

顯 ガフ、ゴフ。五盍切 合　一、頷に同じ。

顯 カン、ゴン。胡老切 皓　一、頭面の平かならざると。

顯 ゲン。魚檢切 琰　面の平かならざる貌にいふ字。

顯 カン、コン。呼濫切 勘　寢かなる貌にいふ字。

顯 チン、ドン。直稔切　キン、コン。丘甚切 寢　カン、丘凡切 咸　一、頭は、醜し。

顯 顯に同じ。

顯 カン、ゴン。胡紺切 勘　顯は、頭面の平かならざると。

顯 カン、ゴン。胡紺切 勘　火氣に臨む、ひにあたる。

顯 トク、ドク。徒谷切 屋　（前條に同じ。○（史）「——！」歸養に、○（論）「——！」事君に、○（論）「——！」日上左袒のみつゐいつくしみをいふ。○（孟）「——！」方貌。○（孟）前に同じ。○（孟）「——！」之貌。○（孟）前に同じ。○（孟）「——！」之貌。○（孟）高きを仰ぎみる。○（江淹「——！」之貌。○（孟）うしろみる。○（元覽「——！」前後高低に於。

十三畫

顯 ガフ、ゴフ。五盍切 合　一、頷に同じ。

顯 ゲン。魚檢切 琰　一、魚の整ほざる貌にいふ字、たがふ。二、狹き面にて頤の銳りたる貌にいふ字、さがりがほ。

顯 ゲン。丘檢切 琰　面の平かならざると。

顯 カン、コン。呼濫切 勘　寢かなる貌にいふ字。

顯 チン、直稔切　キン、コン。丘甚切 寢　カン、丘凡切 咸　一、頭は、醜し。

顯 顯に同じ。

顯 カン、ゴン。胡紺切 勘　顯は、頭面の平かならざると。

顯 カン、ゴン。胡紺切 勘　火氣に臨む、ひにあたる。

顯 トク、ドク。徒谷切 屋　（前條に同じ。○（史）「——！」歸養に、○（論）「——！」事君に、○（論）「——！」日上左袒のみつゐいつくしみをいふ。○（孟）「——！」方貌。○（孟）前に同じ。○（孟）「——！」之貌。○（孟）前に同じ。○（孟）「——！」之貌。○（孟）高きを仰ぎみる。○（江淹「——！」之貌。○（孟）うしろみる。○（元覽「——！」前後高低に於。

顯 キン、ゴン。巨飲切 寢　一、額は、頭の骨。

顯 カイ、丘蓋切 泰　頭の骨の貌にいふ字。

顯 タウ、トウ。都牢切 豪　一、顯は、大いなる面の貌にいふ語。

顯 コウ、呼肱切　ホウ、薄登切 蒸　くらし（憎）。

顯 セン、メン。武延切 先　一、ひとつ（隻。）二、ふたつ（雙。）三、うつくし（美。）

顯 ボウ、モウ。冊遘切 宥　一、顯は、頭昏むくらむ、まよふ。

顯 イ。於離切 支　瞶盼（うつくしきめ）の貌にいふ字、美容の貌にいふ字。

顯 テイ、チイ。乃挺切 迥　いたゞき（頂）。

顯 ロン。必鄰切 眞　いきどほる（憤懣）。

顯 ケン、ゲン。呼典切 銑　一、あきらか。（詩「有開不レ云」著明、いちじるし。（禮「上聞」於籩、皇二、分明、あざやか。（詩「無レ日レ不レ——！」公然、おもてむき。（國「不二敢二——一然布レ幣行レ禮」（禮「謀二——一露出、むきだし。（禮「不二——！」

顯 ケン、ゲン。曉見切 霰　一、顯は、耳の穴の動くと。

十四畫

顯 ケン、ニュ。人朱切 虞　顰——！、顰は、頭の貌にいふ語。

顯 タン、トン。亭紺切 勘　高し。

顯 ガウ、ゴウ。五高切 豪　一、顯は、頭の貌にいふ語。

顯 ショク、シキ。所力切 職　ほゝ、（額）。

顯 クワイ、ケ。許穢切 隊　ほゝ、（額）又、頭の下の毛。（莊「接二其鬢一髮」其一二。

顯 セン。之誄切 銑　一、頭正しからざるにいふ字、れじくゝまがる。二、手足の痺さに感じて動くにいふ字、ふるふ、ふわなゝく。

顯 セン。尸連切 先　氣臭をかぐに審かなると。（莊「鼻徹焉レ——」。

顯 シヨク、シキ。所力切 職　ほゝ、（額）。

顯 ガウ、ゴウ。五高切 豪　高し。

顯 タン、トン。亭紺切 勘　一、顰は、頭の貌にいふ語。

顯 ケン、ゲン。晩見切 霰　顰——！、顰は、耳の穴の動くと。

【顑】キン、欽錦切 侵 コン・切 阮 ケン、丘廉切 鹽 頰ーは、醜し。

【顒】ゲン。魚檢切 琰 顒ーは、面の平かならざると。

【顚】ロ、ル。落胡切 虞 頭骨。かうべ、あたま。○〔抱朴〕「淳于能顚ー」。〔書經〕あたまたち。○〔孟子〕「方叔ー！」。〔詩經〕あたま。○〔儀禮〕「委ー於項」。〔前漢〕頭のあたまの毛の白きをいふ。○〔禮〕「花冠委ー！」。〔後漢〕さかかうべ。○〔神異經〕「一名ー！」。

【顧】ケン、ゴン。巨員切 先 ほゝぼね(頰)つらがまちのほね(輔骨)。○〔北〕「長頭高ー！」。〔禮記〕はゝぼね。○〔神異經〕「面頰生骨ー！」。相及ニ。

【顳】セフ、チフ。而涉切 葉 ー耳前、みたびら。ー顳は鬢の骨。ー顳は耳前の動くと。

【顴】エイ、ヤク。於郡切 沃 顴の痛、こぶ。

十八畫

【顯】ケン、ケン。堅典切 銑 頭長しながし。

【顰】ヒン、ビン。皮賓切 眞 まゆ、眉。

風部

【風】フウ、フ。方戎切 東 ㊀大氣の動搖せるもの、かぜ。〇〔莊〕「大塊噫氣其名爲風ー」。㊁かぜ起こるがごとく、すたつがごとくふく。〇〔詩二經一且墨。㊂かぜに乘ずかぜに中つ、すゝむ、さらす。〇〔論二浴二乎沂一詠二乎舞雩一歸」㊃散す。〇〔易〕「一以散之」。㊄放佚すがごとくなる。〇〔書〕「馬牛其ー」。㊅牝牡相誘ふと。〇〔左〕「馬牛不二相及一」。㊆疾きと。〇〔左〕「兎實而雄ー」。〇〔禮〕「記以二一節一」。㊇敎化、なしへ。〇〔書〕「咸卬二於德一時乃ー」。㊈憤發ならはし。〇〔禮〕「移レ風易レ俗天下皆寧」。㊉けしき、おもむき、やうす、ありさま。〇〔史〕「有二國土之一ー」。㊊四肢などのひきつる疾。〇〔左〕「ー淫末疾」。㊋狂疾、きちがひ。〇〔神異經〕「一名狂ー名顚一名狷一名ー」。㊌地方の詩歌音曲、うたふし。〇〔山海經〕「始作二樂ー一」。

【風】フウ、フ。方鳳切 送 ㊀風に同じ、さとす、ほのめかす。〇〔詩、序〕「以レ一刺上」。

【風】古文の風の字。〇〔正字通〕「从二天、气、形一从二日・中出・气成レ風」。

二畫

【颯】タフ、テフ。勅交切 肴 ㊀風の聲にいふ字。㊁颯は、風の吹く貌にいふ語、又、熱き風。

三畫

【颭】颯に同じ。

【颭】ホウ、薄紅ブ。切 東 フ。切 元 風の貌にいふ字。

【颭】前條に同じ。

【颭】カ、ケ。許加切 麻 ㊀風の聲にいふ字。

【颭】ラウ、レウ。力交切 蕭 風の聲にいふ字。

四畫

【颭】クワウ、ガウ。乎朗切 養 大風。

【颭】前條に同じ。

【颭】コウ。呼弘切 蒸 颯に同じ。

【颭】イツ、イチ。於筆切 質 ㊀風に同じ。㊁社〔通〕「拳引ー」。

【颭】フ、ブ。防無切 虞 ㊀風は、上より吹く風、ふきおろし。㊁大風。

【颭】トン、ドン。徒渾切 元 大風。

【颭】サウ、セウ。楚交切 肴 風起こる、おこる。

【颭】ケツ、ケチ。呼決切 屑 風。

【颭】カン、コン。姑南切 覃 風。

【颭】カ、ケ。許加切 麻 ㊀風の聲にいふ字。

【颭】ラウ、レウ。力交切 蕭 風の聲にいふ字。

五畫

【颭】ハウ、ホウ。普寃切 豪 輕き貌にいふ字。

【颭】フウ、フ。非鳳切 送 たく(焚)。

【颭】バウ、マウ。微幼切 養 たてにふくかぜ、經風。

【颭】ヘツ、ヘチ。普蔑切 屑 小風の貌にいふ字、そよかぜ。

【颭】颯又颼に同じ。

【颭】リウ、ル。力久切 有 ㊀風の聲にいふ字。㊁颯ーはばるかぜ(猪風)。

【颭】レイ、リヤウ。郎丁切 青 寒き風。

【颭】テウ。敷皆切 蕭 涼しき風清き風。

【颭】セン。占瑛切 琰 風吹きて渾動く、なみたつ、又、すべて風の物を動かすにも物の風に動くにもいふ字。うごく、うごかす。〇〔柳宗元〕「驚風亂ー芙蓉水」。

【颭】イン、於柳切 有 於斜切 尤 ㊀風の聲にいふ字。㊁大風。

【颭】ラウ、レウ。力交切 蕭 風の聲にいふ字。

四畫

【颭】クワウ、ガウ。乎朗切 養 大風。

【颭】前條に同じ。

【颭】コウ。呼弘切 蒸 颯に同じ。

【颭】イツ、イチ。於筆切 質 ㊀風に同じ。㊁社〔通〕「拳引ー」。

【颭】フ、ブ。防無切 虞 ㊀風は、上より吹く風、ふきおろし。㊁大風。

【颭】トン、ドン。徒渾切 元 大風。

【颭】サウ、セウ。楚交切 肴 風起こる、おこる。

【颭】ケツ、ケチ。呼決切 屑 風。

【颭】カン、コン。姑南切 覃 風。

【颭】カ、ケ。許加切 麻 ㊀風の聲にいふ字。

【颭】ハウ、ホウ。普寃切 豪 輕き貌にいふ字。

【颭】フウ、フ。非鳳切 送 たく(焚)。

【颭】バウ、マウ。微幼切 養 たてにふくかぜ、經風。

五畫

【颭】ヘツ、ヘチ。普蔑切 屑 小風の貌にいふ字、そよかぜ。

【颭】颯又颼に同じ。

【颭】リウ、ル。力久切 有 ㊀風の聲にいふ字。㊁颯ーはばるかぜ(猪風)。

【颭】レイ、リヤウ。郎丁切 青 寒き風。

【颭】テウ。敷皆切 蕭 涼しき風清き風。

【颭】セン。占瑛切 琰 風吹きて渾動く、なみたつ、又、すべて風の物を動かすにも物の風に動くにもいふ字。うごく、うごかす。〇〔柳宗元〕「驚風亂ー芙蓉水」。

【颭】イン、於柳切 有 於斜切 尤 ㊀風の聲にいふ字。㊁大風。

㊁—颲は、はるかぜ、(諸風)。

颵 ケツ、ケチ。許劣切〔屑〕 シユツ、シユチ。雪律切〔質〕 小風の貌にいふ字、そよかぜ。

䬛 イ。弋支切〔支〕 風旋回す、めぐる、又、旋回風、つむじ。○〔廣韻〕「小ニ—於地ニ。」

䫸 クツ、コチ。曲勿切〔物〕 風。

䬉 カウ、ゴウ。乎刀切〔豪〕 風の聲にいふ字。

䬆 ケツ、コチ。許月切〔月〕 風。

䫼 イ。羊脂切〔支〕 ㊀大風、おほかぜ。㊁風反る。

颮 ヘウ。卑遙切〔蕭〕 飆に同じ、あらし、(暴風)。○〔班固〕「風—雷—激。」

颮 ハウ、ベウ。蒲交切〔肴〕 風の聲にいふ字。

䬬 ハウ、ベウ。皮教切〔效〕 風の貌にいふ字。

颮 ハク、ホク。匹角切〔覺〕 衆多の貌にいふ字、おほし。○〔班固〕「——紛々。」

颮 ハク、ボク。弼角切〔覺〕 物の空より墮つる貌にいふ字。

䬀 カン、ゴン。戸紺切〔勘〕 ㊀風の定まる貌にいふ字。㊁風の聲にいふ字。

䬁 コウ、グ。戸孔切〔董〕 風の貌にいふ字。

颯 サフ、ソフ。蘇合切〔合〕 ソク。蘇谷切〔屋〕 ㊀颯風、はやて。㊁風の聲にいふ字。○〔宋玉〕「有レ風—然至。」㊂衰へたる貌にいふ字。○〔杜甫〕「白首—萋其。」㊃盛んなる貌にいふ字。○〔顔延之〕「賓御紛—沓。」

(颯然) 風の聲にいふ語。○〔呂向〕「——然」所謂…

(颯爾) さびしくおとろへたるさま。○〔張九齡〕「…颯—。」

(颯颯) さびしき風の聲にいふ語。○〔顧愷之〕「寒氣肅—…」

(颯沓) あめかぜなどの疾き貌にいふ語。○〔江淹〕「雨鳴林——。」

䬐 リフ。力入切〔緝〕 —颯は、大風。

𩗗 フツ、ホチ。分物切〔物〕 小風、そよかぜ、一說に、疾風、ときかぜ。

颰 ハツ、バチ。蒲撥切〔曷〕 ハツ、ホチ。方伐切〔月〕 疾き風。

䬐 颯に同じ。

䬉 イ。延知切〔支〕 微風、そよかぜ。

六畫

䬍 コウ。呼東切〔東〕 風の聲にいふ字。

颲 レツ、レチ。良薛切〔屑〕 勢の猛惡なる風、はやて、又、風雨の暴かに至ると、あらし。

䬅 レイ、ライ。郞計切〔霽〕 はやて、(急風)。○〔郭璞〕「廣莫—而氣整。」

䬋 キツ、キチ。許聿切〔質〕 小風の貌にいふ字、そよぐ。

䬈 キウ、ク。許鳩切〔尤〕 —·[illegible]は、風の聲にいふ語。

䬊 ヘウ。布遙切〔蕭〕 つじかぜ、(狂風)。

颳 クワツ、ケチ。古滑切〔黠〕 あらきかぜ、(惡風)。

䬏 キツ、キチ。関吉切〔質〕 風の貌にいふ字。

䬙 古の帆の字、亦、䑺に作る。

䬕 ケフ。欖頰切〔葉〕 風調ふ。

䬕 レフ。力協切〔葉〕 風。

七畫

䬃 ホツ、ボチ。蒲沒切〔月〕 風の貌にいふ字。

颲 リツ、リチ。力質切〔質〕 リ。力至切〔寘〕 颲—は、暴風、あらきかぜ、又、風雨にはかに至れると、あらし。

䬆 ダイ、チ。奴罪切〔賄〕 風の動く貌にいふ字。

䬌 エン。以絹切〔霰〕 ㊀穀物を揚ぐると、もみをひあぐ。㊁小風、そよかぜ。

䬄 タイ、テ。都外切〔泰〕 小風、そよかぜ。

䬂 キウ、グ。渠尤切〔尤〕 小風、そよかぜ。

䬇 クワク、カク。呼麥切〔陌〕 熱き風。

颬 サフ、セフ。所甲切〔洽〕 風疾し、とし。

䬖 䬕に同じ。

䬑 颶の字の謬り。

颹 ビ、ミ。武斐切〔尾〕 風の物を偃するにいふ字、ふきたふす。

颴 セン、ゼン。旬宣切〔先〕 風の聲にいふ字、

つじかぜ。

䬝 テツ、テチ。勅列切〔屑〕 —颲は、風。

䬀 イウ、ユ。夷周切〔尤〕 —颸は、風の聲にいふ語。

颵 サウ、セウ。所交切〔肴〕 セウ。思邀切〔蕭〕 風の聲にいふ字。

䬊 サツ、サチ。桑葛切〔曷〕 颯—は、風。

八畫

䬝 ロウ。盧登切〔蒸〕 —颺は、大風。

飍 フウ、フ。匹尤切〔尤〕 風の吹く貌にいふ字。

䬒 リウ、ル。力求切〔尤〕 力九切〔有〕 風の行く聲にいふ字。

颮 コツ、コチ。呼骨切〔月〕 クツ、コチ。許物切〔物〕 疾き風の貌にいふ字、とし。

颩 シウ、シユ。職救切〔宥〕 タウ、テウ。陟交切〔肴〕 風の貌にいふ字。

䬗 ヘイ、ベイ。駢迷切〔齊〕 風。

飉 リヤウ、ラウ。呂張切〔陽〕 力仗切〔漾〕 凉に同じ、すずかぜ、すずし。

䬅 レイ、ライ。郞計切〔霽〕 颲—は、風の聲にいふ語。

䬈 クワク、カク。古獲切〔陌〕 —颰は、赤氣熱風の怪。

䬈 キヨク、ケキ。忽域切〔職〕 風の貌にいふ字。

䬐 ワイ、エ。烏恢切〔灰〕 風の低く吹く貌にいふ字、ひくし。

䬔 スヰ、ズヰ。是爲切〔支〕 風の物を偃する貌にいふ字、なびかす。

䬜 セキ、シヤク。先的切〔錫〕 風の聲にいふ字。

䬟 箏に同じ。

䬞 セフ。息業切〔葉〕 風ふく貌にいふ字。

䬠 ホウ、ブ。蒲蠓切〔董〕 風の起こる貌にいふ字。

䬒 タウ、チヤウ。竹更切〔庚〕 風の聲にいふ字。

䬣 セイ、セ。須鋭切〔霽〕 やぶる、(破)。

颶 ク、グ。忌遇切〔遇〕 支那の南海々上に夏秋の際起これる大風、つむじ。○〔投荒雜錄〕「嶺南諸郡皆有ニ—風ニ。」

䬓 フウ、ブ。裂負切〔有〕 風のそよぐ貌にいふ字。

䬐 ズヰ、ニ。人垂切〔支〕 風の緩き貌にいふ字。○〔郭璞〕「徐而不レ—、疾而不レ猛。」

䬪 エン、オン。翁軒切〔元〕 —颮は、奄忽に同じ、たちまち。

䬤 ヘウ。布消切〔蕭〕 くるふかぜ、(狂風)。

九畫

颽 カイ、ケイ。古諧切〔佳〕 はやて、(疾風)。

颸 シ。楚持切〔支〕 風涼し、すずし、又、涼風、すずかぜ。○〔左思〕「颯ニ—風之颸々ニ。」

(涼颸) すずかぜ。○〔潘岳〕「——自ニ…」

(寒颸) さむかぜ。○〔朱熹〕「禮飈起—…」

(微颸) そよかぜ。○〔陸機〕「高樹吹——」。

(細颸) 前に同じ。○〔賈島〕「高杉韻——」。

(輕颸) 前に同じ。○〔朱熹〕「陳幽舍——」。

(飈颸) 前に同じ。○〔袁凱〕「——度谿向ニ。」

(颸々) 風雨の盛にも風の盛にもいふ語。○〔王禹偁〕「風雨夜——」「遊レ禧」。

(金颸) あきかぜ、秋風。○〔甘子布光〕「——…」

䬠 颫に同じ。

䬘 クワウ、カウ。呼宏切〔庚〕 風の聲にいふ字。

飍 イウ、ユ。於虬切〔尤〕 風の聲にいふ字。

䬃 ラツ、ラチ。郞達切〔曷〕 風の貌にいふ字。

䬑 ヰ。于鬼切〔尾〕 于歸切〔微〕 大風の貌にいふ字。○〔郭璞〕「長風—以增扇。」

䬎 コウ、グ。胡溝切〔尤〕 下遘切〔宥〕 風の貌にいふ字、かぜふく。

颼 シウ、シユ。所鳩切〔尤〕 —·[illegible]は、風の聲にいふ語。

䬥 エン。以轉切〔銑〕 小さき風の貌にいふ字、そよふくかぜ。

颹 ヰ。于貴切〔未〕 ウツ、ヲチ。王勿切〔物〕 大風。

䬟 エフ。弋涉切〔葉〕 風の動く貌にいふ字、そよぐ。

颼 シウ、シユ。所鳩切〔尤〕 所九切〔有〕 セウ。先彫切〔蕭〕 風の貌にいふ字。○〔張正元〕「——嚶淸。」

䬓 アン。烏幹切〔翰〕 —颾は、颶風。○〔沈佺期〕「—颾衆ニ海若ニ。」

䬔 ユ。孛朱切〔虞〕 颾—は、前條に同じ。

【⿰風英】エイ、ヤウ。於丙切 [梗] 於驚切 [庚]
高く吹く風。

【⿰風哥】カウ、コウ。可譟切 [號] 可降切 [絳]
ふきみだるゝかぜ（亂風）。

【颺】ヤウ。興章切 [陽] 餘亮切 [漾]
一あがる。
(い)吹き上がる、吹かれ上がる。○〔宋玉〕「激—熛怒」。
(ろ)起こる。○〔宋玉〕「上則波—」。
(は)顯はる。○〔左〕「子少不レ—」。
(に)飛び去る。○〔魏〕「譬如レ饑レ鷹、饑則爲レ用、飽則—去」。
(ほ)舟の徐行するにいふ字。○〔陶潛〕「舟遙々以輕—」。
(へ)聲音の高きにいふ字。○〔文心雕龍〕「聲—不レ還」。
二あがらしむ、ふきあぐ、おこす、あらはす、とばす、こゑをはりあぐ、あぐ。（一の條參照）。○〔書〕「時而—レ之」。
〔颺顯〕顯をあげ去る。○〔晉〕「—」之、顯揚在レ前。
〔高颺〕たかく飛び去る。○〔晉〕「飽便—」。
〔舊颺〕前に同じ。○〔異苑〕「弁レ翻而—」。
〔颺颺〕かぜにひるがへりあがる。○〔宋子侯〕「花隨何—」。「颺怒」。
〔颺颺〕物にふれてはねあがる。○〔風賦〕「—」。
〔飛颺〕とびあがる。○〔異苑〕「翩然—」。

【⿰風皇】颺に同じ。

【⿰風宣】セン。子泉切 [先]
風動く、かぜそよぐ。

【⿰風斿】イウ、ユ。以周切 [尤]
風。

十一畫

【颻】エウ。餘昭切 [蕭]
上行の風、ふきのぼるかぜ、又、風に吹かれ動く、あがる。○〔左思〕「與レ風—颻」。
〔颻々〕かぜの行く貌にいふ語。○〔曹立之〕颻々

【〓】エウ。弋笑切 [嘯]
風の高く吹く貌にいふ字。

【⿰風唐】タウ、ダウ。徒郎切 [陽]
風の貌にいふ字。

【颼】颼に同じ。○〔趙壹〕「啾々—」。
〔颼颼〕風の勢にも其の聲にもいふ語。○〔李群玉〕「龍舞琴中臥風—」。
〔颼颼〕風の聲にいふ語。○〔周權〕「含風自—」。

【颽】凱に同じ、南風。

【⿰風家】サク。昔各切 [藥] サク、シヤク。色窄切 [陌]

【⿰風氣】ヘウ、ベウ。撫招切 [蕭]
風の聲にいふ字。

【⿰風栗】リツ、リチ。力質切 [質]
一風吹く。二はやて、（疾風）、つむじかぜ（迴風）。

【⿰風高】カウ、ケウ。許交切 [肴]
一風。二ふきぶり（暴風雨）。
颮—は、風の吹く貌にいふ語、又、熱き風。

【颾】サウ、ソウ。蘇遭切 [豪]
風の聲にいふ字。○〔陵集〕「八月草白風颾—」。

【〓】颾に同じ。

【颿】ハン、ボン。扶泛切 [陷]
馬の疾く走るにいふ字、風吹きて船進むにいふ字、はしる。○〔博雅〕「—走也」。

【颿】ハン、ボン。扶嚴切 [鹽]
舟船の帆、ほ。○〔左思〕「樓船擧レ—而過レ肆」。

【⿰芻風】ス、ソ。生句切 [遇]
風の聲にいふ字。

十二畫

【⿱敖風】ガウ、ゴウ。牛刀切 [豪]
風の聲にいふ字。

【⿰風畢】ヒツ、ヒチ。壁吉切 [質]
一風吼ゆ、かぜなる。二寒き氣。

【飁】シフ、ジフ。似入切 [緝]
颯—は、大風。

【⿰風宿】シユク、ソク。息六切 [屋]
風吼ゆ。

【⿰風率】シユツ、シユチ。朔律切 [質]
風の聲にいふ字。

【⿰風留】リウ、ル。力求切 [尤]　レウ。憐蕭切 [蕭]
高く吹く風の貌にいふ字。○〔淮〕「平陰—」。

【飂】リウ、力救切 [宥] リク、力竹切 ロク。切 [屋]
一前條に同じ。二國の名。三人の姓。

【⿰風票】ヘウ。西妙切 [嘯]
風の貌にいふ字。

【⿰風票】ヘウ、ベウ。撫招切 [蕭]
旋風、つむじかぜ。

【飄】ヘウ。卑遙切 [蕭]
一旋風、つむじ。○〔詩〕「匪レ風—兮」。二疾風、はやて。○〔漢〕「—至風起」。三旋る、疾し。○〔呂氏春秋〕「不レ可二以—一矣」。

【飄】ヘウ、ベウ。符霄切 [蕭]
一前條に同じ。○〔詩〕「—風發々」。
二ひるがへる。
(い)吹かれ搖く、吹かれ飛ぶ。○〔張衡〕「蜺旌—兮飛揚」。
(ろ)落下す、おつ。○〔莊〕「不レ怨二—瓦一」。
三吹く、ひるがへす。○〔曹植〕「驚風—二白日一」。
四ひるがへる貌にいふ字、ひらく。○〔張衡〕「雨雪—々」。
五飛ぶ貌にいふ字、颺がる貌にいふ字。○〔文選〕「雁—而南飛」。
六物に著せざる貌にいふ字、處定まらざる貌にいふ字、さまよふ、たゞよふ。○〔杜甫〕「——遠自二流沙一至」。
七風の吹く貌にいふ字。○〔陶潛〕「風——而吹レ衣」。

〔孤飄〕たすけなくおちよる。○〔北〕「——秋蓬、孤生有二仕路一」。
〔飄颻〕よるべなくさまよふ。○〔鮑照〕「——」「游二許京一」。
〔飄淪〕おちぶれて發達せず。○〔國語〕「——」。
〔飄颻〕疾きかぜ。○〔秋道〕「時我——然未レ已」。

【⿰風咼】カウ、ケウ。呼交切 [肴]
颮に同じ、風。

【⿰風曹】ウツ、チチ。王物切 [物]
風の聲にいふ字。

十二畫

【飊】俗の飇の字。

【⿰風肅】シユク、ソク。息逐切 [屋]
風の聲にいふ字。

【⿰風貴】タイ、デ。徒同切 [灰]
頹に同じ、おろし。○〔爾雅〕「焚輪謂二之—一」。

【⿰風矞】イツ、イチ。餘律切 [質]
颮に作る、はやて（急風）。

【⿰風畾】リウ、ル。力求切 [尤]
風の聲にいふ字。○〔張正元〕「飂—淒清」。

【⿰風登】タウ、チヤウ。中莖切 [庚]
—颱は、風の聲にいふ語。

【⿰風黄】クワウ、ワウ。戸盲切 [庚]
暴風、あらきかぜ、のわき。○〔韓愈〕「龍驚闕二颱—一」。

【〓】タウ、チヤウ。竹盲切 [庚]
颹—は、くろふかぜ（狂風）。

【飆】ヘウ。卑遙切 [蕭]
一扶搖風、暴風、つむじかぜ、あらきかぜ、おほかぜ。○〔陳子昂〕「盲—怒號」。
二風。○〔晉〕「落葉俟二微—一以隕」。
〔商飆〕あきかぜ。○〔殷仲文〕「景落——靜」。
〔涼飆〕すずしきかぜ。○〔杜甫〕「——振二南岳一」。
〔寒飆〕さむきかぜ。○〔謝眺〕「西南——」。
〔迅飆〕疾き風。○〔盧諶〕「中原厲二——一」。
〔驚飆〕前に同じ。○〔南都賦〕「足レ逸二——一」。
〔駭飆〕前に同じ。○〔上林賦〕「遺二颿風一躍二——一」。
〔彈飆〕あらきかぜ。○〔韓愈〕「——援二孤楯一」。
〔狂飆〕前に同じ。○〔陸雲〕「——起而安瀾」。
〔淸飆〕きよらかなる風。○〔嘯賦〕「——振二乎雷一」。
〔輕飆〕そよかぜ。○〔王褒〕「——颯々涼」。
〔晨飆〕あさがたのかぜ。○〔許敬宗〕「軍——動」。
〔歸飆〕前に同じ。○〔劉禹之〕「寒色征袍拂二——一」。
〔回飆〕つじかぜ。○〔曾鞏〕「何當——擧」。
〔旋飆〕前に同じ。○〔宋玟〕「寛腕約飾從二——一」。
〔朱飆〕夏のあつきかぜ。○〔桓朴〕「——鑠レ金」。
〔炎飆〕前に同じ。○〔王褒〕「——謝レ節」。
〔秋飆〕あきかぜ。○〔顔延之〕「——冬未レ至」。
〔洪飆〕おほかぜ。○〔賈宏〕「——吹レ海」。
〔洪飆〕あらき風の聲。○〔侯方晉〕「——颳氣逸」。
〔朔飆〕あらききたかぜ。○〔何遜〕「——吹二宿莽一」。

【颷】前條に同じ。

【飉】レウ。落蕭切 [蕭]
風。

十三畫

【飋】シツ、シチ。所櫛切 [質]
秋風。

十四畫

【⿰風壽】チウ、ヂユ。直由切 [尤]
風涼し、すゞし、涼風、すゞかぜ。

【⿰風壽】タウ、ドウ。徒刀切 [豪]
大風。

十五畫

【⿰風巤】レフ。力渉切 [葉]
風の聲にいふ字。

【⿰風劉】リウ、ル。力求切 [尤]
風の行く聲にいふ字。○〔左思〕「翼二颮風之——一」。

【⿰風劉】飂に同じ。

十六畫

【⿰風歷】レキ、リヤク。狼狄切 [錫]
颮—は、風の聲にいふ語。

十七畫

【⿰燮風】セウ。蘇刁切 [蕭]
北風、きたかぜ、又、涼風、すゞしきかぜ。

【⿰風堯】コウ。呼肱切 [蒸]　クワウ、ワウ。呼宏切 [庚]
大風。

【⿰燮風】セフ。悉協切 [葉]
風の貌にいふ字。

十八畫

【飌】古文の風の字。○〔周〕「祀二——師一」。

【⿰耳風】セフ。失渉切 [葉]
風の貌にいふ字。

【⿱風風風】キウ、ク。香幽切　フウ、フ。必幽切 [尤]
一おほかぜ（驚風）。二驚き走る貌にいふ字。

飛部

【飛】ヒ。甫微切 [微]
〔說〕上旁二飛者一、〔註〕象二鳥頸一。
一とぶ。
(い)空を翔る、空を行く。○〔詩〕「燕々于—」。「—揚」。
(ろ)颺がる。○〔史〕「大風起兮雲—揚」。
(は)超ゆ。○〔淮〕「使レ行二—揚一」。
(に)散る。○〔論衡〕「精魂—散」。
(ほ)飄る。○〔後漢〕「屋瓦皆—」。
(へ)意外に至る。○〔鬼谷〕「—而箝レ之」。「—馬二—一」。
(と)急疾に行く。
(ち)無根にして傳はる。○〔晉〕「名レ—桐日」。○〔唐〕「爲二—語所一レ陷」。
二とばしむ、とばす（一の條參照）。○〔晉〕「—二檄三輔一」。
三とぶ鳥、とぶ蟲。○〔韓詩外傳〕「蜎—蠕動」。
四疾驅する馬などにもいふ字。○〔司馬相如〕「騁二六—一」。
五屋宇などの高くそばだちたるにいふ字。○〔何晏〕「—宇承レ霓」。
〔飛翻〕鳥の翼を振ひて飛ぶよ。○〔詩〕「不レ能二—一」。
〔飛揚〕勢さかんに奮起する。○〔後漢〕「大丈夫當二—一」。
〔高飛〕(く)そらたかくとぶ。○〔詩〕「有レ鳥—一」。

(ろ)白鷂の異名。○〔齊民要術〕「白鷂一名―」「―」。
（頭飛）すこしくとぶ。○〔李賀〕「―」自問二于蒼二。
（孤飛）鳥などの一羽にてとぶこと。○〔夢賦〕「雲鬱―之―」。
（傘飛）ひれとぶ。○〔射雉賦〕「翳羽族之―」。
（鳩飛）鳥などの高くとぶこと。○〔詩〕「―戻レ天」。
（高飛）みそさゞいといふ鳥の異名。○〔方言〕「―」鷦鷯二。
（雙飛）ならびてとぶ。○〔北〕「兩鳳―」。
（並飛）前に同じ　○〔九歌志〕「鳥翻―」。
（輕飛）輕捷と飛ぶこと。○〔何承天〕「高步超―」。

【飛】 古文の飛の字。

八畫

【飝】 古文の霏の字。○〔揚雄〕「霅―而來迎」。

九畫

【翥】 翥に同じ。

十畫

【翰】 翰に同じ。

【翮】 ギウ、ク。魚救切　宥　飛ぶ。

十二畫

【翻】 籀文の翼の字。

【飜】 ハン、ホン。孚袁切　元　ひるがへる、ひるがへす（翻）。○〔王粲〕「孰能飛―」。

十三畫

【飝】 ケン。虛延切　先

【飝】 クヮン、ゲン。戶關切　刪　飛び繞ろ貌にいふ字。

食　部

【食】 ショク、乘力切　職　ジキ。

〔說文〕一米。

㊀飯、食、糧、餃、饌など卽ちくらふもの丶總稱、くひもの。○〔詩〕「子有二酒―」。
㊁くひものをくらふこと、よくじ、又、日々さだめのよくじ、け、めし。○〔論〕「發レ憤忘レ―」。
㊂生計、すぎはひ。○〔漢〕「趨二末―」。
㊃祭祀、まつり。○〔禮〕「薦二其時―」。
㊄秩祿、ふち、ちぎやう。○〔禮〕「寧使三人浮二于―」。
㊅はむ、くふ、くらふ。
(い)嚙む。○〔春秋〕「鼷鼠―二郊牛之角二」。
(ろ)嚙みて嚥み下す。○〔禮〕「雖レ有二嘉肴一弗レ―不レ知二其旨一也」。
(は)よくじを爲す。○〔事文類聚〕「顧東家―而西家宿」。
(に)くひものと爲す。○〔左〕「易レ子而―レ之」。
(ほ)生活を爲す、くらす。○〔後漢〕「遊―者衆」。
(へ)養はる。○〔戰〕「願寄二―門下二」。
(と)祭らる。○〔後漢〕「死當二廟―二」。
(ち)ふちを受く。○〔詩〕「彼君子兮不二素―兮」。
(り)乳を呑む。○〔莊〕「適見三㹠子―二於其死母二」。
(ぬ)言ひて行はず、いつはり。○〔書〕「朕不レ―レ言」。
(る)飲むにもいふ字。○〔漢〕「定國―レ酒至二數石二不レ亂」。
㊆まどはす（惑）。○〔管〕「明君在レ上、便嬖不レ能レ―二其意二」。「―已」。
㊇けす（消）。○〔左〕「後雖レ悔レ之不レ可レ―」。
㊈侵蝕す、きずつく、むしばむ、かく。○〔書〕「乃卜二澗水東瀍水西二惟洛―」。
㊉日月の蝕。○〔易〕「月盈則―」。
⑪用ふ。○〔戰〕「―二高麗二」。
⑫墾耕、たがやし。○〔禮〕「不―之地」。

（耳食）聞ける所に拘泥して觀察を誤れること。○〔史〕「學者牽二于所レ聞、見二秦在二帝位一日淺、不レ察二其終始、因舉而笑レ之、不二敢道、此與二以レ耳食無レ異」。
（目食）飲食物にいろいろのかざりを施し案上をかざること。○〔宋〕「飲食所二以爲レ味也、適口斯善矣、世人取二果餌一刻二鏤之、朱二綠之、以爲二飯案、豈非二以レ―」乎」。
（大食）アラビヤ國の古名。○〔唐〕「―」國名在二西域波斯國西」、「都二郷郁門二」。
（評食）よき食物、又、よきものを食らふ。○〔文中子〕「士有二―」。
（美食）前に同じ。○〔後漢〕「君飲レ得二―」耳」。
（粗食）粗なるものを食らふ、又、そまつなる食物。○〔王安石〕「未二敢議二―」二」。
（玉食）珍味を食らふこと、又、珍味の食物。○〔書〕「惟辟―」。
（退食）朝より私宅にひきさがりて食すること。○〔詩〕「―自レ公」。
（術食）澄む所の人にはんべりて食らふ。○〔禮〕「凡―不レ盡レ食」。
（火食）火にあぶりにたきして食らふ。○〔禮〕「有二不―者矣」。
（粒食）穀物を食らふ。○〔禮〕「有二不―者」。
（強食）しひて食らふ。○〔周〕「強・飲―」。
（術食）謀議のこと。○〔周〕「均二其―」二」。
（血食）祭らるゝこと。○〔史〕「羅二今―天下二」。
（旺食）食物を飼はす。○〔左〕「一省レ用」。
（厚食）まづかに食膳に列せずまとねの中にて食事をす。○〔左〕「羅二周―」。

（旬食）納食す。○〔左〕「―者郡未二甞厚味二」。
（朝食）かてのこと。○〔左〕「―時鳥」。
（旰食）日中の勉强はげしく日くれて食事すること。○〔何遜〕「―思レ治」。
（多食）多量おほく食らふ。○〔論〕「不レ―」。
（飽食）あくほどくらふ。○〔論〕「―終レ日」。
（飯食）到る處食ひまはる。○〔書〕「以―于侯二」。「―」。
（甘食）うまくくらふ、又、うまき食物。○〔書〕「嬰二者人之食客となること。○〔史〕「願―門下二」。
（寄食）人の食客となること。
（蠶食）前に同じ。○〔史〕「―諸人辛方二」。
（霸食）かひこの桑を食らふ如くに土地などを次第に侵略すること。○〔史〕「稍―諸侯二」。
（鼠食）上よりの給米。○〔漢〕「―不レ足」。
（節食）食事のこと。○〔漢〕「強二―」。「―者二」。
（徒食）はたらかずして生活す。○〔史〕「有二無―者二」。
（坐食）前に同じ。○〔史〕「―者萬・有二餘人」。
（饕食）むさぼりと食事と。○〔漢〕「欣然而笑以忘二―」二」。
（寒食）前に同じ。○〔唐〕「行坐―手不レ釋レ卷」。
（寒食）冬至より一百五日の後疾風甚雨ある時の前にて此の日は火を斷ち冷食すといふ。○〔沈佺期〕「馬上逢二―」二」。
（伴食）官にあるも自ら職責を盡すこと能はず事をと共に同僚に陪隨するもの。○〔唐〕「開元三年、與二姚崇一同爲二宰相、自以爲二吏道不レ及レ崇、每レ事推二讓之、時人謂二之―宰相二」。
（饕食）食らふによりのみす。○〔管〕「―者不レ能レ記二其體二」。
（約食）食物をひかへて十分にくらはず。○〔劉謐〕「學者爲レ之―願死者多」。
（節食）前に同じ。○〔後〕「其俗―好レ給二官室二」。
（旅食）他郷にてくらす。○〔晁錯〕「―二思二寄居二」。
（餓食）めし。○〔高適〕「所レ思爲レ―」。
（絕食）食物をたちてくらはず。○〔詩〕「飲―而―」。「―」。
（月食）太陰蝕。○〔詩〕「因二―而―」。
（日食）太陽蝕。○〔漢〕「―則天子素服而修レ德」。
（御食）帝王の食膳。○〔北〕「―二給―」二」。
（侍食）尊長者にはんべりて食らふ。○〔禮〕「―二于長者二」。
（旅食）そまつなる食物。○〔漢〕「耽・叔・衣―」。「―」。

（寄食）前に同じ。○〔後漢書〕「―二浮衣」。
（乞食）食を他人に乞ひもとむ、又、其の者。○〔史〕「中道―レ―」。
（月食）前に同じ。○〔管〕「―レ―二鄙・郭」。
（會食）衆人の一處にあつまり食らふこと。○〔史〕「今日破二趙―二」。
（衣食）衣服と食物と。○〔史〕「無二衣以給二二―二」。
（謁食）謁擬ノ爲食。○〔漢〕「―足以支二五歲二」。
（稟食）俸給、又、俸祿をうけて生活す。○〔漢〕「―」二子榮二。
（鬻食）(い)宮人の自ら相與に夫婦となる者を稱す。○〔漢〕「所レ與二宮―二」。
(ろ)食事にむかふ。○〔漢〕「―レ―每二三時二」。
（漱食）食を禁察して自から給すること。○〔漢〕「―聞・鼠二」。
（歠食）食らふ。○〔論〕「所二―二不レ强、餅介二」。
（餘食）あまりたる食物。○〔鈔〕「嘉有二―」二」。
（蘇食）人はやとはれて生活す。○〔五〕「與二其餅二」。
（行食）はたらかずして生活す、又、食器をはこびなどす。○〔孔平仲〕「侍二臨―」二官使」。
―ゝ―率臨人饗・嶽僚二。

【食】 シ、ジ。祥吏切　寘

㊀めし（飯）。○〔禮〕「―居二人之左二」。
㊁かて（糧）。○〔周〕「廩人掌二賜稍―」二」。
㊂食を與ふ、生を養ふ、くはす、やしなふ。○〔左〕「穀也―レ子」。

【食】 イ。羊吏切　寘　人の名、審―其、酈―其など。

【飠】 食の本字。〔說文〕从皀、亼聲。〔說文〕米之氣味也。今右旁字。

【飠】 俗の食の字。

二畫

【飢】 饑に同じ。

三畫

【飣】 饕に同じ。

【飤】 ギョ、ゴ。牛據切　御　酒食もて客を送ること、はなむけ。

【飧】 俗の飱の字。

【飢】 キ。居夷切　支
㊀うゝ、うゑ。
(い)食物足らず。○〔詩〕「載渴載―」。
(ろ)五穀登らず。○〔爾〕「仍―爲レ荐」。
㊁うゑしむ、うやす。○〔孟〕「由レ己―レ之」。「―」。
（朝飢）あさがたの空腹。○〔李白〕「此輩忘―」。
（調飢）前に同じ。○〔詩〕「惄如―」。
（療飢）空腹をいやしすくふ。○〔王融〕「―レ―不二朝―于卒―食二」。
（凍飢）寒氣にこゞゆると食にうゝると。○〔漢〕「―」。

【飣】 テイ、チャウ。丁定切　徑　食を貯ふ、たくはふ。○〔玉海〕「―而不レ食」。

【飤】 シ、ジ。祥吏切　寘　かて（糧）、又、くらはす（食）。○〔東方朔〕「子推自割而―レ君兮、德日忘而怨深」。

【飥】 飫に同じ。

三畫

【飥】 タク、チャク。他各切　藥　餅の屬。○〔齊民要術〕「麥・麪堪レ作二餅―二」。

【飦】 イ。延知切　支　かゆ（粥）。

【飦】 ヤク。乙却切　藥

【飫】 キ。去訖切　未　賞を節すること。はらはる。

【飬】 キツ、キチ。許訖切　質　あく（飽）。

【飭】 古文の饋の字、又、饋に同じ。

【飪】 チ、ヂ。陳知切　支　あめ（飴）。

【飴】 餱、又、饋に同じ。

【飦】 カン。居寒切　寒　ほしいひ（燥飯）。

【飧】 ソン。思渾切　元
㊀飯に飲（のみもの）を沃ぐこと、ちやづけ、まろかけ。○〔禮〕「不二致―二」。○〔周〕「致レ―如二致・積之禮二」。
㊁食事、供食、めし、まだく。○〔詩〕「有二饛簋―」二」。
㊂煮物、熟食、にたるくひもの。○〔周〕「賓・賜之―」。「飧」。
㊃夕食、ゆふめし。○〔史〕「將レ傳レ―」。
㊄小飯、あひのめし。○〔詩〕「彼君子兮、不二素―」兮」。
（素飧）功勞なくして祿を食むこと。○〔孟〕「―而治」。
（朝飧）朝食と晩食と。○〔杜甫〕「―是草根」。
（盤飧）盤にもりたる食物。○〔左〕「乃饋二―」。
（晨飧）前に同じ。○〔陸游〕「―赤米炊」。
實壁羽」。

【飩】 飩に同じ。

【飲】 ザウ、ニュ。女救切　宥

四畫

【飩】 トン、ドン。徒渾切　元　餛―は、むしもち、餡（あん）又は肉を屑（こゞめ）の末又は麪（むぎこ）などにつゝみて蒸したるもの。○〔食物志〕「餛―或作二餫―二」。まじりめし（雜飯）。

【飩】 チュン。屯閏切　震　こきあぢはひ（厚味）。

【飪】 ヂウ、ニュ。女九切　有　女救切　宥　まじりめし（雜飯）。

【飪】 ジン、ニン。如甚切　寢　如鴆切　沁　大いに熱す、にる、又、にたる食物。○〔論〕「失レ―不レ食」。
（烹飪）食をにる、又、にたるもの。○〔孫綽〕「―」。「共飼―」。
（熟飪）あつもの。○〔漢〕「―」。

【飫】 ヨ、オ。依倨切　御
㊀あく（饜）。○〔詩〕「儐二爾籩豆一、飲・酒之―」。
㊁立禮の宴、たちてなすさかもり。○〔周〕「武・王克レ殷作二―歌二」。
㊂燕會、さかもり。○〔柳宗元〕「飲―饌・饋」。
㊃たまふ（賜）。○〔左〕「將レ賓爲レ之加レ膳、加レ膳則―賜」。
（賜飫）充分に食らひてはらのふくるゝこと。○〔後漢〕「―」二。
（饜飫）充分に飲みあくほどくらふこと。○〔唐〕「―」。

【飯】 ジョウ、ニュ。而勇切　腫

【餖】 トウ、ツ。都豆切　宥　くらふ、はむ（食）。

餟に同じ、たくはふ。

【餟】セツ、セチ。式列切 屑
飲食を嫌らぬ、つらぬ。

【䬲】グワン、吾官切 寒 ゲン、グワン。愚袁切 元
こなもち、もち、（餌）。

【𩚵】キウ、ク。居又切 宥
あく、（飽）。

【餋】養に同じ。

【飭】チョク、チキ。恥力切 職
㊀つゝしむ、（謹）。○〔禮〕「再-始以著ㇾ往、復亂以ㇾ歸」。
㊁をさむ、をさまる、（治）。○〔易〕「蠱則ー也」。
㊂つゝしむ、（勅）。○〔周〕「百工ー化二八材一」。
㊃とゝのふ、（整）。○〔詩〕「我車既ー」。
㊄たゞし、たゞす、（正）。○〔漢〕「ーㇾ躬齊ㇾ戒」。
㊅勅に同じ、いましむ。○〔國〕「ー二其子弟一、相語以ㇾ事」。
（匡飭）正し飭ふ。○〔宋〕「ーー鼻俗一」。（整飭）飭に同じ。○〔宋〕「率行ーー」。（修飭）つゝしみをさめて正す。○〔後漢〕「內自ーー」。（具飭）整備す。○〔陳〕「ーー衣裳」。（謹飭）慎重なること。○〔南〕「謹ー郡ーー」。（嚴飭）敬慎謹嚴にして謹慎なること。○〔唐〕「嚴ーーー」。（戒飭）いましめ飭ふ。○〔宋〕「ーー將士」。（約飭）つゝまやかにひきしむ。○〔後漢〕「家人自ーー」。

【䬸】ダフ、ノフ。奴盍切 合
食らふ貌にいふ字。

【飲】イン、オン。於錦切 寢
㊀のむ。（い）水などを口より腹に下し入る。○〔韓〕「渴者適ーㇾ之則生」。（ろ）酒を酌む、觴を行る、さけをのむ、さかもりをなす。○〔南〕「呼相與酣ー」。
㊁のむべきもの、卽ち水、酒など、のみもの。○〔周〕「四ーー之物」。
㊂酌酒行觴、さかもり。○〔戰〕「張ㇾ樂設ㇾー、於豐上一」。
㊃そゝぐ、（漱）。○〔儀〕「賓坐祭、遂ー、奠二」。
㊄かくる、かくす、（隱）。○〔後漢〕「邑上ㇾ疏曰、臣一入二牢獄一、當ㇾ爲二楚毒所一ㇾ迫、趣以二ー章一、辭情何緣復聞」。
（牛飲）牛の水を飲むが如くに大飲す。○〔史〕「ーー者三千餘人」。（痛飲）いたく酒を飲む。○〔杜甫〕「ーー眞吾師」。（淺飲）淺酌といふに同じ、多く飲まざること。○〔蘇〕「ーー無ㇾ由致二宿醉一」。（縱飲）思ふまゝに飲む。○〔杜甫〕「ーー久拚ㇾ人共棄」。（劇飲）はげしく酒をのむ。○〔南〕「夏ーー至ㇾ夜」。（豪飲）前に同じ。○〔金〕「劇ーーー」。（侍飲）尊長者にはんべりて酒をのむ。○〔禮〕「ーー于長者」。（肆飲）はゞかる所なくほしいまゝにのむ。○〔晉〕「ーー終日」。（對飲）相むかひて酒をのむ。○〔李白〕「兩人ーー」。（鯨飲）鯨の酒をのむ。○〔李白〕「ーー吞ㇾ海」。（狂飲）くるひたはむれていたく酒をのむ。○〔歐陽修〕「ーー不ㇾ知ㇾ醉」。（酣飲）さかんに酒をのむ。○〔晉〕「酣ーー不ㇾ知ㇾ醉」。（惜飲）前に同じ。（快飲）前に同じ。○〔李中〕「ーー花前散ㇾ十觴」。

【㱃】イン、オン。於禁切 沁
㊀のみものを與へてのましむ、のます。○〔禮〕「酌而ー寡人一」。
㊁牛馬に水をのましむ、みづかふ。○〔左〕「成人伐ㇾ齊、師之ー二馬于淄一者上」。

【飯】ヘン、ハン。扶晩切 阮
㊀めしを食らふ、くらふ、くふ。○〔禮〕「ーㇾ黍毋ㇾ以ㇾ箸」。
㊁めしを食らはしむ、くらはす、くはす。○〔史〕「見二信飢一、ーㇾ信」。
㊂常食、まよくじ、け、めし。○〔世說〕「日中忘ㇾー」。
㊃大擘指の本、おやゆびのもと。○〔儀〕「設ㇾ決麗二手擘一、自ㇾー持ㇾ之」。
（強飯）しひてめしをくふ。○〔史〕「什夫ーーー」。（放飯）おほいにめしを食らふ。○〔禮〕「毋ーーー」。（多飯）多量にめしをくふ。○〔晉〕「近數食二者不ㇾ及ーーー」。（飯飯）めしをくふ。○〔杜審言〕「粉歌ーーー」。（晚飯）ばんめしをくふ。○〔南史〕「ーー物纏前」。（朝飯）あさはやく食事す。○〔宋〕「明朝ーーー」。（晚飯）あさはやく食事す。○〔孝經〕「ーー瀏山」。（飲飯）飯鉢のこと。○〔晉〕「野有ㇾ之、ーー不ㇾ及」。

【飯】ハン、ヘン。符萬切 願 パン、ベン。符諫切 諫
五穀を炊ぎたる食物、めし、いひ。○〔禮〕「毋ㇾ搏ㇾー」。
（麥飯）むぎめし。○〔後漢〕「麥ーー蓬蒿」。（菜飯）野菜などのそまつなるめし。○〔晉〕「求ㇾ觀ーー」。（粟飯）前に同じ。○〔後漢〕「麥ーー芬香」。（粗飯）めしをくらふ。○〔唐〕「粗ーー」。（蟲飯）蟲みつを混和したるいひ。○〔晉〕「馬上ーー」。（炊飯）みそとなるめし。○〔五〕「秀飯ーーー」。（乾飯）ほしいひ。○〔後漢〕「常食ーーー」。（炊飯）いひをかしぐ。○〔晉〕「寡人ーー」。（糲飯）くろごめのいひ。○〔宋〕「粗豆羹ーー而已」。（米飯）こめのめし。○〔後漢書〕「寡人以ーー」。（寒飯）あつものといひと。○〔禮〕「ーー之」。（粗飯）はしいひ。○〔學〕「ーー」。（冷飯）さめたるいひ。○〔晉〕「ーー」。

【飰】俗の飯の字。

【飡】俗の飧の字。

【飻】テツ、テチ。他結切 屑
食を食る、むさぼる。

五畫

【䬫】テイ、ダイ。杜奚切 齊
人に寄食す、ゐさふらふ。

【䬯】餬に同じ。

【飳】シュ、ス。朱戍切 遇
ゑば、（餌）。

【𩚏】麩に同じ。

【䬗】ヤウ、於兩切 養 アウ。於亮切 漾 エイ、ヤウ。於慶切 梗
あく、（飽）、みつ、（滿）。

【飴】イ。與之切 支
㊀米の蘖（もやし）と煎りたる秫とにてつくりたる甘味あるねばきもの、あめ。○〔詩〕「菫-荼如ㇾー」。
㊁あまき味あること、あまみ。○〔周〕「共二ーー」。

【飤】シ、ジ。祥吏切 寘
くらはす、（食）。○〔晉〕「以二私米一作二饘粥一、以ー二餓者一」。

【𩛛】古文の飴の字。

【𩚯】セイ、シヤウ。諸成切 庚
ーー餅は、もち。

【䭃】アク、ヤク。於革切 陌
飢うる貌にいふ字。

【飵】サク、ザク。在各切 藥
相謁けて食らふ、くらふ。○〔揚雄〕「凡陳楚之郊、相謁而餐、或曰ㇾー」。

【飵】サク、シヤク。側格切 陌 ソ、ズ。存故切 遇
むしいひ、（餾）。

【䬳】ホウ、ブ。蒲侯切 尤
䭈ーは、食らふ。

【䬯】デン、チン。奴兼切 セン、チン。尼占切 鹽
麪を食らふ、くらふ。

【䬰】セウ。蓋照切 嘯
小しく食ふ。

【𩚩】ホン、ボン。部本切 阮
粗食、そまつなるくひもの。

【飥】古文の饎の字、又飫に同じ。

【𩛁】ジ、ニ。女夷切 支
ゑば、（餌）。

【䬹】フン、ホン。方文切 文
饙に同じ、むしいひ、（蒸飯）。

【𩚯】ケイ、キヤウ。古迥切 迥
あく、（飽）。

【飶】ヒツ、ビチ。毗必切 質 ヘツ、ベチ。蒲結切 屑
かうばし、（芬香）。

【飷】シヤ、セ。茲也切 馬
食に味なし、まづし。

【飷】ショ、ソ。臻魚切 魚
䭈ーは、食に味なし、まづし。

【𩛂】コウ、ク。居候切 宥
牛の食に飽くにいふ字。

【䬶】カフ、ケフ。訖洽切 洽
もち、（餅）。

【餅】俗の飯の字。

【䭇】ウツ、紆物切 物 エツ、チチ。於月切 月
飴に豆を和したるもの。

【飧】饔に同じ。

【䬺】カン、コン。沽三切 覃
ゑば、（餌）。

【𩚶】リウ、ル。力九切 有
ゑば、（餌）。

【䬸】ハン、バン。博管切 旱
屑米の餅、こなめもち。○〔南〕「以二五色ーー飴ㇾ之」。

【餈】シ、ジ。疾移切 支
食を嫌ふ貌にいふ字。

【𩛦】シ、ジ。才資切 支
あく、（飫）。

【𩚺】シ。蔣氏切 紙
惡しき食。○〔管〕「ーー食不ㇾ肥」。

【䬣】饎の本字。

【餙】俗の飾の字。

【飼】シ、ジ。祥吏切 寘
畜類に食を與ふ、かふ、やしなふ。○〔北〕「付ㇾ民養ーー」。

【䬴】バツ、マチ。莫撥切 曷
秣に同じ、まぐさ。

【飽】ハウ、ヘウ。博巧切 巧
㊀みつ、（滿）。○〔左、註〕「其氣盈ー」。
㊁あく。（い）腹に滿つ。○〔詩〕「既醉既ー」。（ろ）食足る。○〔孟〕「樂-歲終-身ー」。（は）滿ち足る。○〔陸機〕「耳ー二從-諫之說一」。
㊂あかしむ、あかす。○〔詩〕「既ー以ㇾ德」。
（宿飽）くひもたれ。○〔史〕「師不ーー」。（溫飽）あたゝかに食ふ。○〔後漢〕「下求ーー」。（醉飽）酒にゑひ食にあく。○〔後漢〕「其不ーー」。（飢飽）うゑとあくと。○〔北〕「同二其ーー一」。（饒飽）食物ゆたかにあく。○〔易林〕「可ㇾ以ーー」。（厭飽）食にあく。○〔易林〕「可ㇾ以ーー」。

【䭈】キ、ケ。許旣切 未
あく、（飫）。

【飾】ショク、シキ。賞職切 職
㊀かざる。（い）穢れたるを拭ひ清む、のごふ。○〔周〕「ー二其牛牲一」。（ろ）質上に文采を加ふ、物の外觀を好くす。○〔史〕「以二珠玉一ーㇾ之」。（は）覆ふ。○〔禮〕「ー二羔-鷹一者」。（に）修む。○〔穀梁〕「小邑必ーㇾ城而請ㇾ罪」。（ほ）裝ふ。○〔史〕「粉二ーー之一」。（へ）人爲を加ふ。○〔淮〕「其事素而不ㇾー」。（と）內實の非なるに外面を是なるが如くにす。○〔呂氏春秋〕「情者不ㇾー」。
㊁かざり。（い）かざること、かざりたるもの。○〔禮〕「文-采節-奏聲之ー也」。（ろ）袖の緣。○〔詩〕「羔-裘豹ー」。（は）馬の纓。○〔莊〕「有二橛ー之患一」。
（文飾）あやどりかざる。○〔論〕「不ーー也」。（內飾）前に同じ。○〔荀〕「ーー其故」。（修飾）とゝのへかざる。○〔論〕「行人子羽ーー之」。（緣飾）前に同じ。○〔漢〕「ーー以二儒術一」。（粉飾）つくろひかざる。○〔史〕「又ーー以二儒術一」。（矯飾）いつはりかざる。○〔後漢〕「佞吏ーー」。（粉飾）白粉などをぬりてよそほふ。（裝飾）よそほひかざる。○〔晉〕「ーー」。（服飾）上衣は上、又、立派なるよそほひ。○〔王安石〕「ーー出」。（首飾）ありさまみてかざる。○〔晉〕「ーー」。（盛飾）よそほひ、又、よそほひ。○〔晉〕「ーー」。

餂 テン。他典切 銑 他念切 豔

㊀鍋け取る。とる。○〔左昭〕「魚以膏—レ之」。
㊁取る。○〔大戴禮〕「—レ之」。
㊂憂ふ。○〔詩〕「於鑠王師、遵—時養晦」。
㊃使役者、炊烹者、ゑもべ、まかなひかた。○〔公羊〕「厮役扈—」。○〔荀〕「疾—冷熱滑澁輕重以形體—異」。

餃 カウ、ケウ。居狡切 效

あめ。二飴。

餄 カフ、ケフ。古治切 洽

もち。餅、こなもち。〔餌食。

餅 俗の餅の字。

餚 エウ。餘昭切 蕭

こなもち。〔餌食。

餇 トウ、ドウ。徒紅切 東

くひもの。〔食。

餈 ゴン。五恨切 願

うゐ。〔餻。

餐 シ、ひ。疾資切 支

稻米を蒸しつきて餅せたるもの、むしもち、こめのもち。○〔周〕「羞—之實、糗餌粉餈」。

餈 シヤ、セ。書冶切 馬

餌に同じ、あく。

餈 ズ、チ。女下切 馬

あく。〔餈。

餌 シヤウ、サウ。式亮切 養

始陳切 寘 尺羊切 陽

㊀食を送致す、おくる。○〔曹註〕「食、民—子田—者」。

餐 シ、ひ。千安切 寒

稻米を蒸しつきて餅せたるもの、むしもち、こめのもち。○〔周〕「羞—之實、糗餌粉餈」。

餐 ソン。蘇昆切 元

㊀おくる食、かれいひ。○〔曹註〕「奉二其—一」。
㊁說に通じ用ふ、おくる。○〔魏〕「以二所レ著典・論及詩・賦一」—孫・楚」。
㊂憂ふ。○〔詩〕「於鑠王師、遵—時養晦」。
㊃使役者、炊烹者、ゑもべ、まかなひかた。○〔公羊〕「厮役扈—」。○〔荀〕「疾—冷熱滑澁輕重以形體—異」。

餔 ブ、ホ。薄胡切 虞

食物腐りて臭しくさし。

餟 ダウ、ノウ。奴倒切 皓

めし、いひ。〔熟食〕。

餔 餵に同じ。

餵 カイ、ク。古哀切 灰

あめ。二飴。

餧 アイ、エ。於賄切 賄

㊀食の氣の通ずると、おくび。
㊁餵に同じ。〔餵りたる飯。

餂 古文の餂の字。

餃 カイ、ケイ。呼艾切 泰 ケイ。許厲切 霽

食物腐りて臭しくさし。

餟 ダウ、ノウ。奴倒切 皓

めし、いひ。〔熟食〕。

餔 餵に同じ。

餵 カイ、ク。古哀切 灰

あめ。二飴。

餧 アイ、エ。於賄切 賄

㊀食の氣の通ずると、おくび。
㊁餵に同じ。〔餵りたる飯。

餂 古文の餂の字。

餃 チヤ。陟栗切 質

地の名、一に曰ふ禾を刈る人。○〔史記〕「臣嘗遊—于齊、乞食—人二。

餡 ハン、モン。謨敢切 豏

兒に哺むはぐくむ。

餬 ヤウ。余亮切 漾

もち、ゑ、餅。

養 ヤウ。餘兩切 養

㊀やしなふ。
（い）生長せしむ、おほしたつ、そだつ。○〔管〕「地生二萬物一。
（ろ）說ぶ、ざらしむ、雖かならしむ。○〔左〕「我善—吾滑然之氣一。
（は）哺乳す、はぐくむ、ちのます。○〔荀〕「不レ能レ養之」。
（に）給膳す、まかなふ、にぎはす。○〔荀〕「—略而動罕」。
（ほ）飼畜す、かふ。○〔魏〕「騙二一大鳥一」。
（へ）擾柔す、なつく。○〔魏〕「蔡—二奸（と）治む。○〔周〕「—二其病一」。
（ち）敎ふ。○〔禮〕「以レ—レ之」。
㊁やしなふに効あること、やしなひ。○〔白虎通〕「奉二其—一」。
㊂隱す。○〔大戴禮〕「—レ之」。
㊃取る。○〔詩〕「於鑠王師、遵—時養晦」。
㊄憂ふ。○〔詩〕「中心—」。
㊅使役者、炊烹者、ゑもべ、まかなひかた。○〔公羊〕「厮役扈—」。○〔荀〕「疾—冷熱滑澁輕重以形體—異」。

餵 カイ、ケイ。許厲切 霽

食物腐りて臭しくさし。

餻 ダウ、ノウ。奴倒切 皓

めし、いひ。〔熟食〕。

餈 餵に同じ。

餵 カイ、ク。古哀切 灰

あめ。二飴。

餧 アイ、エ。於賄切 賄

㊀食の氣の通ずると、おくび。
㊁餵に同じ。〔餵りたる飯。

餂 古文の餂の字。

餌 ジ、忍止切 紙 而至切 寘

㊀層米（こめ）を粉となし漿（こる）れて搏めて蒸したるもの、こなもち、こめもち、だんご、もち。○〔楚辭〕「粔籹—」。
㊁餧食、こながき。
㊂ゑ、ゑば、ゑじき。
（い）魚を餌ひ又は誘ふに用ふる食。○〔莊二五十蓄以爲レ—」。
（ろ）鳥獸蟲魚の類に喰らはす食の稱。○〔戰〕「虎者・・・爲—鳥人者甘—」。
（は）欲望を充たすもの。○〔後漢〕「爲二吏—一」。
（に）他の欲望を充たして之を誘ふに用ふるもの、即ち爵祿城地など。○〔漢二五—三爽〕「—利」。
㊃みばを喰らはす、利を以て誘ふ、くらはす、いざなふ、ゑばす。○〔戰〕「我以二重—一レ王」。○〔後漢〕「給二—」。
㊄食物、くひもの。○〔唐二崇—不二自

餈 ジ、忍止切 紙 而至切 寘

㊀層米（こめ）を粉となし漿（こる）れて搏めて蒸したるもの、こなもち、こめもち、だんご、もち。○〔楚辭〕「粔籹—」。
㊁餧食、こながき。
㊂ゑ、ゑば、ゑじき。
（い）魚を餌ひ又は誘ふに用ふる食。○〔莊二五十蓄以爲レ—」。
（ろ）鳥獸蟲魚の類に喰らはす食の稱。○〔戰〕「虎者・・・爲—鳥人者甘—」。
（は）欲望を充たすもの。○〔後漢〕「爲二吏—一」。
（に）他の欲望を充たして之を誘ふに用ふるもの、即ち爵祿城地など。○〔漢二五—三爽〕「—利」。
㊃みばを喰らはす、利を以て誘ふ、くらはす、いざなふ、ゑばす。○〔戰〕「我以二重—一レ王」。○〔後漢〕「給二—」。
㊄食物、くひもの。○〔唐二崇—不二自

餵 カイ、ケイ。許厲切 霽

食物腐りて臭しくさし。

餻 ダウ、ノウ。奴倒切 皓

めし、いひ。〔熟食〕。

餈 餵に同じ。

餵 カイ、ク。古哀切 灰

あめ。二飴。

餧 アイ、エ。於賄切 賄

㊀食の氣の通ずると、おくび。
㊁餵に同じ。〔餵りたる飯。

餂 古文の餂の字。

餃 チヤ。陟栗切 質

地の名、一に曰ふ禾を刈る人。○〔史記〕「臣嘗遊—于齊、乞食—人二。

餡 ハン、モン。謨敢切 豏

兒に哺むはぐくむ。

餬 ヤウ。余亮切 漾

もち、ゑ、餅。

養 ヤウ。餘兩切 養

㊀やしなふ。
（い）生長せしむ、おほしたつ、そだつ。○〔管〕「地生二萬物一。
（ろ）說ぶ、ざらしむ、雖かならしむ。○〔左〕「我善—吾滑然之氣一。
（は）哺乳す、はぐくむ、ちのます。○〔荀〕「不レ能レ養之」。
（に）給膳す、まかなふ、にぎはす。○〔荀〕「—略而動罕」。
（ほ）飼畜す、かふ。○〔魏〕「騙二一大鳥一」。
（へ）擾柔す、なつく。○〔魏〕「蔡—二奸（と）治む。○〔周〕「—二其病一」。
（ち）敎ふ。○〔禮〕「以レ—レ之」。
㊁やしなふに効あること、やしなひ。○〔白虎通〕「奉二其—一」。
㊂隱す。○〔大戴禮〕「—レ之」。
㊃取る。○〔詩〕「於鑠王師、遵—時養晦」。
㊄憂ふ。○〔詩〕「中心—」。
㊅使役者、炊烹者、ゑもべ、まかなひかた。○〔公羊〕「厮役扈—」。○〔荀〕「疾—冷熱滑澁輕重以形體—異」。

餔 ブ、ホ。薄胡切 虞

食物腐りて臭しくさし。

餟 ダウ、ノウ。奴倒切 皓

めし、いひ。〔熟食〕。

餔 餵に同じ。

餵 カイ、ク。古哀切 灰

あめ。二飴。

餧 アイ、エ。於賄切 賄

㊀食の氣の通ずると、おくび。
㊁餵に同じ。〔餵りたる飯。

餂 古文の餂の字。

餃 チヤ。陟栗切 質

地の名、一に曰ふ禾を刈る人。○〔史記〕「臣嘗遊—于齊、乞食—人二。

餡 ハン、モン。謨敢切 豏

兒に哺むはぐくむ。

餬 ヤウ。余亮切 漾

もち、ゑ、餅。

養 ヤウ。餘兩切 養

㊀やしなふ。
（い）生長せしむ、おほしたつ、そだつ。○〔管〕「地生二萬物一。
（ろ）說ぶ、ざらしむ、雖かならしむ。○〔左〕「我善—吾滑然之氣一。
（は）哺乳す、はぐくむ、ちのます。○〔荀〕「不レ能レ養之」。
（に）給膳す、まかなふ、にぎはす。○〔荀〕「—略而動罕」。
（ほ）飼畜す、かふ。○〔魏〕「騙二一大鳥一」。
（へ）擾柔す、なつく。○〔魏〕「蔡—二奸（と）治む。○〔周〕「—二其病一」。
（ち）敎ふ。○〔禮〕「以レ—レ之」。
㊁やしなふに効あること、やしなひ。○〔白虎通〕「奉二其—一」。
㊂隱す。○〔大戴禮〕「—レ之」。
㊃取る。○〔詩〕「於鑠王師、遵—時養晦」。
㊄憂ふ。○〔詩〕「中心—」。
㊅使役者、炊烹者、ゑもべ、まかなひかた。○〔公羊〕「厮役扈—」。○〔荀〕「疾—冷熱滑澁輕重以形體—異」。

餵 カイ、ケイ。許厲切 霽

食物腐りて臭しくさし。

餻 ダウ、ノウ。奴倒切 皓

めし、いひ。〔熟食〕。

餈 餵に同じ。

餵 カイ、ク。古哀切 灰

あめ。二飴。

餧 アイ、エ。於賄切 賄

㊀食の氣の通ずると、おくび。
㊁餵に同じ。〔餵りたる飯。

餂 古文の餂の字。

餃 チヤ。陟栗切 質

地の名、一に曰ふ禾を刈る人。○〔史記〕「臣嘗遊—于齊、乞食—人二。

餡 ハン、モン。謨敢切 豏

兒に哺むはぐくむ。

餬 ヤウ。余亮切 漾

もち、ゑ、餅。

養 ヤウ。餘兩切 養

㊀やしなふ。
（い）生長せしむ、おほしたつ、そだつ。○〔管〕「地生二萬物一。
（ろ）說ぶ、ざらしむ、雖かならしむ。○〔左〕「我善—吾滑然之氣一。
（は）哺乳す、はぐくむ、ちのます。○〔荀〕「不レ能レ養之」。
（に）給膳す、まかなふ、にぎはす。○〔荀〕「—略而動罕」。
（ほ）飼畜す、かふ。○〔魏〕「騙二一大鳥一」。
（へ）擾柔す、なつく。○〔魏〕「蔡—二奸（と）治む。○〔周〕「—二其病一」。
（ち）敎ふ。○〔禮〕「以レ—レ之」。
㊁やしなふに効あること、やしなひ。○〔白虎通〕「奉二其—一」。
㊂隱す。○〔大戴禮〕「—レ之」。
㊃取る。○〔詩〕「於鑠王師、遵—時養晦」。
㊄憂ふ。○〔詩〕「中心—」。
㊅使役者、炊烹者、ゑもべ、まかなひかた。○〔公羊〕「厮役扈—」。○〔荀〕「疾—冷熱滑澁輕重以形體—異」。

餔 ブ、ホ。薄胡切 虞

食物腐りて臭しくさし。

餟 ダウ、ノウ。奴倒切 皓

めし、いひ。〔熟食〕。

餔 餵に同じ。

餵 カイ、ク。古哀切 灰

あめ。二飴。

餧 アイ、エ。於賄切 賄

㊀食の氣の通ずると、おくび。
㊁餵に同じ。〔餵りたる飯。

餂 古文の餂の字。

餃 チヤ。陟栗切 質

地の名、一に曰ふ禾を刈る人。○〔史記〕「臣嘗遊—于齊、乞食—人二。

餡 ハン、モン。謨敢切 豏

兒に哺むはぐくむ。

餬 ヤウ。余亮切 漾

もち、ゑ、餅。

養 ヤウ。餘兩切 養

㊀やしなふ。
（い）生長せしむ、おほしたつ、そだつ。○〔管〕「地生二萬物一。
（ろ）說ぶ、ざらしむ、雖かならしむ。○〔左〕「我善—吾滑然之氣一。
（は）哺乳す、はぐくむ、ちのます。○〔荀〕「不レ能レ養之」。
（に）給膳す、まかなふ、にぎはす。○〔荀〕「—略而動罕」。
（ほ）飼畜す、かふ。○〔魏〕「騙二一大鳥一」。
（へ）擾柔す、なつく。○〔魏〕「蔡—二奸（と）治む。○〔周〕「—二其病一」。
（ち）敎ふ。○〔禮〕「以レ—レ之」。
㊁やしなふに効あること、やしなひ。○〔白虎通〕「奉二其—一」。
㊂隱す。○〔大戴禮〕「—レ之」。
㊃取る。○〔詩〕「於鑠王師、遵—時養晦」。
㊄憂ふ。○〔詩〕「中心—」。
㊅使役者、炊烹者、ゑもべ、まかなひかた。○〔公羊〕「厮役扈—」。○〔荀〕「疾—冷熱滑澁輕重以形體—異」。

餔 ブ、ホ。薄胡切 虞

食物腐りて臭しくさし。

餟 ダウ、ノウ。奴倒切 皓

めし、いひ。〔熟食〕。

餔 餵に同じ。

餵 カイ、ク。古哀切 灰

あめ。二飴。

餧 アイ、エ。於賄切 賄

㊀食の氣の通ずると、おくび。
㊁餵に同じ。〔餵りたる飯。

餂 古文の餂の字。

餃 チヤ。陟栗切 質

地の名、一に曰ふ禾を刈る人。○〔史記〕「臣嘗遊—于齊、乞食—人二。

餡 ハン、モン。謨敢切 豏

兒に哺むはぐくむ。

餬 ヤウ。余亮切 漾

もち、ゑ、餅。

養 ヤウ。餘兩切 養

㊀やしなふ。
（い）生長せしむ、おほしたつ、そだつ。○〔管〕「地生二萬物一。
（ろ）說ぶ、ざらしむ、雖かならしむ。○〔左〕「我善—吾滑然之氣一。
（は）哺乳す、はぐくむ、ちのます。○〔荀〕「不レ能レ養之」。
（に）給膳す、まかなふ、にぎはす。○〔荀〕「—略而動罕」。
（ほ）飼畜す、かふ。○〔魏〕「騙二一大鳥一」。
（へ）擾柔す、なつく。○〔魏〕「蔡—二奸（と）治む。○〔周〕「—二其病一」。
（ち）敎ふ。○〔禮〕「以レ—レ之」。
㊁やしなふに効あること、やしなひ。○〔白虎通〕「奉二其—一」。
㊂隱す。○〔大戴禮〕「—レ之」。
㊃取る。○〔詩〕「於鑠王師、遵—時養晦」。
㊄憂ふ。○〔詩〕「中心—」。
㊅使役者、炊烹者、ゑもべ、まかなひかた。○〔公羊〕「厮役扈—」。○〔荀〕「疾—冷熱滑澁輕重以形體—異」。

餔 ブ、ホ。薄胡切 虞

食物腐りて臭しくさし。

餟 ダウ、ノウ。奴倒切 皓

めし、いひ。〔熟食〕。

餔 餵に同じ。

餵 カイ、ク。古哀切 灰

あめ。二飴。

餧 アイ、エ。於賄切 賄

㊀食の氣の通ずると、おくび。
㊁餵に同じ。〔餵りたる飯。

餂 古文の餂の字。

餃 チヤ。陟栗切 質

地の名、一に曰ふ禾を刈る人。○〔史記〕「臣嘗遊—于齊、乞食—人二。

餡 ハン、モン。謨敢切 豏

兒に哺むはぐくむ。

餬 ヤウ。余亮切 漾

もち、ゑ、餅。

養 ヤウ。餘兩切 養

㊀やしなふ。
（い）生長せしむ、おほしたつ、そだつ。○〔管〕「地生二萬物一。
（ろ）說ぶ、ざらしむ、雖かならしむ。○〔左〕「我善—吾滑然之氣一。
（は）哺乳す、はぐくむ、ちのます。○〔荀〕「不レ能レ養之」。
（に）給膳す、まかなふ、にぎはす。○〔荀〕「—略而動罕」。
（ほ）飼畜す、かふ。○〔魏〕「騙二一大鳥一」。
（へ）擾柔す、なつく。○〔魏〕「蔡—二奸（と）治む。○〔周〕「—二其病一」。
（ち）敎ふ。○〔禮〕「以レ—レ之」。
㊁やしなふに効あること、やしなひ。○〔白虎通〕「奉二其—一」。
㊂隱す。○〔大戴禮〕「—レ之」。
㊃取る。○〔詩〕「於鑠王師、遵—時養晦」。
㊄憂ふ。○〔詩〕「中心—」。
㊅使役者、炊烹者、ゑもべ、まかなひかた。○〔公羊〕「厮役扈—」。○〔荀〕「疾—冷熱滑澁輕重以形體—異」。

餔 ブ、ホ。薄胡切 虞

食物腐りて臭しくさし。

餟 ダウ、ノウ。奴倒切 皓

めし、いひ。〔熟食〕。

餔 餵に同じ。

餵 カイ、ク。古哀切 灰

あめ。二飴。

餧 アイ、エ。於賄切 賄

㊀食の氣の通ずると、おくび。
㊁餵に同じ。〔餵りたる飯。

餂 古文の餂の字。

餃 チヤ。陟栗切 質

地の名、一に曰ふ禾を刈る人。○〔史記〕「臣嘗遊—于齊、乞食—人二。

餡 ハン、モン。謨敢切 豏

兒に哺むはぐくむ。

餬 ヤウ。余亮切 漾

もち、ゑ、餅。

養 ヤウ。餘兩切 養

㊀やしなふ。
（い）生長せしむ、おほしたつ、そだつ。○〔管〕「地生二萬物一。
（ろ）說ぶ、ざらしむ、雖かならしむ。○〔左〕「我善—吾滑然之氣一。
（は）哺乳す、はぐくむ、ちのます。○〔荀〕「不レ能レ養之」。
（に）給膳す、まかなふ、にぎはす。○〔荀〕「—略而動罕」。
（ほ）飼畜す、かふ。○〔魏〕「騙二一大鳥一」。
（へ）擾柔す、なつく。○〔魏〕「蔡—二奸（と）治む。○〔周〕「—二其病一」。
（ち）敎ふ。○〔禮〕「以レ—レ之」。
㊁やしなふに効あること、やしなひ。○〔白虎通〕「奉二其—一」。
㊂隱す。○〔大戴禮〕「—レ之」。
㊃取る。○〔詩〕「於鑠王師、遵—時養晦」。
㊄憂ふ。○〔詩〕「中心—」。
㊅使役者、炊烹者、ゑもべ、まかなひかた。○〔公羊〕「厮役扈—」。○〔荀〕「疾—冷熱滑澁輕重以形體—異」。

壅葉を擣きたる汁に糯米を漬し九たび蒸し九たび曝して米粒緊小珠の如くなれるもの、之を囊にして遠方に適くに齎ふ、又、一說に柿或は楊桐などの葉を以て飯の色を染めたるもの、又一說に、楓或は烏桕の葉にて染めたる飯。

【飠良】 ラウ。魯當切　あつもの（羹）。

【折/食】 セイ。征例切　セツ、之列切　セチ。切　臭敗したる味、すえる。

【攸/食】 シウ、思留切　シユ。切　息有切　半ば蒸したる飯、むしいひ。

【餔】 ホ、フ。博孤切　㊀申時の食、ゆふめし。○〔呂氏春秋〕「昳至レ―」。㊁くらふ（食）。○〔楚辭〕「―二其糟一而啜二其醨一」。（餔餟）飯食のこと。○〔後漢〕「餔餟――」。

【餔】 ホ、ブ。蒲故切　㊀餔―は、もち（餌）。㊁餳の濁りたるもの、にごりあめ。

【餔】 ホ、フ。博故切　食を與ふ、やしなふ、くらはす。○〔史〕「老父請レ歠因―レ之」。

【餕】 シユン、ジユン。子峻切　セン、ザン。疾眷切　㊀熟食、めし、にもの。○〔公羊〕「―饔未レ就」。

㊁食餘、くひのこり。○〔禮〕「既食二恆―一」。㊂食餘を食ひ盡すこと。○〔禮〕「日中而―」。（餕餘）くひのこし。○〔王令〕「愛レ…―」。

【飠志】 シ、ジ。而志切　くひもの。

【飠甬】 ヨウ、ユ。尹竦切　餇に同じ、くひもの。

【飠邑】 イフ、於汲切　オフ。切　イツ、億姑切　イチ。切　㊀うるほふ（濕）。㊁くさし（臭）。

【飠巴】 エフ、オフ。又業切　すえくさし（饐臭）。

【飠孔】 サイ。作代切　㊀はじめ（始）。㊁食を設くること、まだく。

【餖】 トウ、ヅ。田候切　飣―は、食を貯ふること、又、殺を陳らぬること、又、文詞の因襲纍積にもいふ語。○〔韓愈〕「肴核分二飣―一」。

【餗】 ソク。桑谷切　サク、測角切　ソク。切　かなへのもりもの（實鼎）。○〔易〕「鼎折レ足、覆二公―一」。（覆餗）かなへのもりもの、又、鼎の故事より官職の任務の擔に堪へざる喩。○〔傳咸〕「安能任二――一」。

【飠呈】 テイ、チヤウ。丑正切　おくる（饋）。

【飠皃】 バウ、メウ。眉教切　あく、あきもだゆ（飽過）。

【餘】 ヨ。以諸切　㊀あまり。（い）衆多。○〔呂氏春秋〕「亦無レ使レ有レ―」。（ろ）過度。○〔荀〕「不レ求二其―一」。（は）殘り。○〔周〕「帶―之賦」。（に）零數、はした。○〔晉〕「一-月不レ盡爲二月―一」。（ほ）以外、ほか。○〔左〕「宣二其―子一」。（へ）末後、すゑ、のち。○〔南〕「備二鳴盜淺-術之―一」。（と）およそを擧げてはしたを略するときに用ふる字。○〔張華〕「食客三千―」。㊁あまりあり、あまる、又、あまりあらしむ、あます。○〔暇〕「燥衣―食」。

（餘饒）食物のあまりたるもの、くひのこし。○〔…〕「一―不レ俘」。「饌二――一」。（王餘）魚の名、ひゐめ。○〔賈、註〕「比目魚江東呼…」。（遺餘）のこりもの。○〔…〕「――」。（殘餘）前に同じ。○〔歐陽修〕「…―」。（閏餘）うるふづき。○〔…〕「今年有二――一」。（盈餘）みちあまるもの。○〔後漢〕「求二――一但自…」。（三餘）冬は歳の餘りもの、夜は日の餘りもの、陰雨は時の餘りもの。○〔魏略〕「此生有レ味在二――一」。（刑餘）一度刑に觸れたること。○〔春秋繁露〕「――…」。（雨餘）雨ふりのあと、あめあがり。○〔歐陽文忠〕「…」。（歲餘）歲の末。○〔…〕「――」。（緒餘）緒のこり。○〔…〕「…以給…」。（公餘）公務の餘暇。○〔王禹偁〕「――多暇入二山林一」。（躊餘）躊躇してすぐならざること。○〔上林賦〕「――在二洲中一」。（殘餘）鮭の食めたる後。○〔…〕「――」。

（旬餘）十日あまり。○〔…〕「…―」。（剩餘）あまりたるもの。○〔…〕「――」。（豐餘）ゆたかにあまる、又、ゆたかなるあまりもの。○〔…〕「――」。

【飠乙】 ヰク、チク。烏域切　うゝ（飢）。

八畫

【飠匊】 キク、コク。居六切　かゆ（饘）。

【巴/食】 饌又、饙、又、饘に同じ。

【餚】 肴に同じ。

【飠彔】 ロク。力谷切　くひもの（食）。

【飠匋】 タウ、ドウ。徒刀切　ゑば（餌）。

【餛】 コン、ゴン。戸昆切　飩の字の條を見よ。

【餳】 セイ、ジヤウ。徐盈切　あめ（飴）。

【飠念】 ジン、ニン。如甚切　㊀あく（飽）。㊁飪に同じ。

【飠習】 デフ、テフ。諸叶切　もち（餅）。○〔雲溪友議〕「餺-飥-鎚古-頭」。

【餜】 クワ。古火切　もち（餅）。

【飠寺】 シ、ジ。什吏切　食を嗜む、すく。

【飠垂】 ツヰ。竹恚切　うゝ（飢）。

【飠夌】 リヨウ。力膺切　ロウ。盧登切　ソウ。子孕切　馬の多く穀を食らひて氣流れ出づると、馬汗をかく。

【飠固】 コ、ク。洪孤切　もち（餅）。

【飠固】 コ、ク。古慕切　かゆ（饘）。

【餝】 飾に同じ。

【飠具】 ク、コ。衢遇切　寠―は、餅の屬。

【餞】 セン、慈演切　セン。子賤切　㊀おくる、みおくる。（い）酒食を供へて行者を送る。○〔詩〕「飲二―于禰一」。（ろ）すべて禮を供へて行者を送るにいふ字。○〔書〕「分命二和仲一、宅レ西曰二昧谷一、寅―二納日一」。㊁みおくる禮、みおくりの宴、みおくりに進むる禮物、みおくり、わかれのさかづき、はなむけ。○〔晉〕「既二―東堂一」。（追餞）去りたる者の後をおひゆきて送別の宴を設く。○〔宋〕「――至二十里一」。（贐餞）送別のおくりもの。○〔…〕「資-贐――」。

（親餞）天子自ら出御ありて征行の者を見送る。○〔晉〕「帝――于郊一」。（祖餞）前に同じ。○〔北〕「宴-餞――」。（祖餞）旅立つ者に對し道祖神を祭り途上の安全を祈りて見送る。○〔附〕「明-廷祭二――一者」。（宴餞）酒宴を張りて見送る。○〔歐陽文忠〕「一―臨二亭-池一」。（勝餞）てあつき送別の宴。○〔王勃〕「躬逢二――一」。（郊餞）郊外に出でて見送る。○〔顏延之〕「――有レ嚴」。（偉餞）盛大なる送別の宴。○〔王勃〕「幸承二恩于――一」。

【餟】 テイ、陟衞切　テツ、陟劣切　テチ。切　諸神の祭座を聯續して設け酒を酹ぎ祭るにいふ字、まつり、まつる。○〔史〕「其下四-方地爲二―一食」。

【飠昔】 ソ、ズ。昨故切　相調げ食ふ、くらふ。

【飠卷】 ケン、クワン。古倦切　さけさかな（饌）。

【餅】 ヘイ、ヒヤウ。必郢切　㊀麵（むぎのこ）を溲（こね）れて作りたるくひもの、むぎこのもち、もち。○〔揚雄〕「―謂二之飥一」。㊁麪をこれ合はす、あはす。「―レ之」。○〔釋名〕

（蒸餅）蒸したるもちとて實用なるをあらはす語。○〔魏〕「名如二畫-地作レ―、不レ可レ啖也」。（赤餅）…てつくりたるもし。○〔…〕「――」。（錢餅）錢の形のとも…。（胡餅）…。（燒餅）かたもち。○〔劍南〕「大-餅…如レ刀」。

【殹/食】 ダク、ニヤク。尼厄切　㊀炙餅、やきもち。㊁小兒の懶惰なること、なまけ。

【餡】 カン、ゲン。胡鑑切　米麪の食物の中を空虛にしそこに入れたる雜味、あん。○〔歐陽修〕「不レ知二―从レ白」。

【飠甾】 シ。莊持切　かゆ（饘）。

【飠向】 餉に同じ、かて。○〔漢〕「賜二給公-田一爲二種-耕-備-貸種―一」。

【餢】 ホウ、ブ。薄口切　麪に發酵（もと）を入れねかして浮起せしめ之を炊ぎてこしらへたる餅。○〔齊民要術〕「有二―餾一」。

【餣】 エフ、オフ。於業切　もち（餈）、こなもち（餌）。○〔揚雄〕「餌謂二之餻一、或謂二之―一」。

【餤】 タン、徒甘切　ドン。切　エン、余廉切　オン。切　すゝむ（進）。○〔詩〕「盜-言孔甘亂是以―」。

【餤】 タン、ドン。杜覽切　㊀啖に同じ、くらふ、くらはす。㊁薄き餅を以て肉を卷きたるもの。

【餤】 タン、ドン。徒濫切　くらふ、くらはす（昭）。○〔史〕「以レ齊―二天下一」。

【飠宛】 餧に同じ。

【餥】 ヒ。府尾切　方未切　切

【餦】 チヤウ。陟良切　㊀ほしいひ（餱）。㊁くらふ（食）。餦―は、あめ（餳）、こもち（餌）。○〔楚辭〕「粔-籹蜜-餌有二―餭一」。

【飠匈】 エツ、一結切　エチ。切　或は、噎に作る。喉にふさがりて下らず、むせぶ。○〔楚辭〕「仰長-嘆兮氣―結」。

【飠冋】 飣に同じ。

【餧】 ヰ。於僞切　㊀くはす（食）、かふ（飼）。○〔禮〕「―レ獸之藥」。㊁いひ（飯）、くひもの（食）。○〔楚辭〕「鳳亦不二貪レ―而妄食一」。

【餧】 ダイ、于。奴罪切　餒に同じ、うゝ、あざる。○〔漢〕「振二乏―一」。（困餧）つかれうゝ。○〔周〕「門之――」。（飢餧）前に同じ。○〔魏〕「民人――」。（窮餧）困窮して食物ゆたかならず。○〔晉〕「基！…」。

【館】 クワン。古玩切　古緩切　㊀假寓の屋舍、やど、やどや、たち、たて、やかた。○〔詩〕「適二子之―一兮」。㊁解署、學校、官舍など人の常住せざる屋舍の稱。○〔後漢〕「府-署第-―、碁二列於都-鄙一」。㊂寓舍す、又、寓舍せしむ。○〔詩〕「于レ―幽斯―」。㊃積を承くるもの。○〔周〕「道-布積-…」

（寶館）よるまやかた。〇〔王勃〕「得二仙人之—·—一」。
（客館）賓客のとまりや。〇〔左〕「諸公使二覲—一」。
（賓館）前に同じ。〇〔許渾〕「—·—有二魚謳一宋久」。
（舍館）とまりや。〇〔孟〕「—·—未レ定」。「—舍」。
（別館）諸侯なきのちにたると。〇〔史〕「李陽君—」。
（蠶館）蠶室のと。〇〔漢〕「事李—·—」。
（宮館）前に同じ。〇〔晉語〕「鎮桑—·—」。
（煖館）暖室のと。〇〔魏〕「—·—旅臺」。
（孤館）ひとつや。〇〔宋之問〕「卽馬著二—·—一」。
（公館）專官の館舍。〇〔明〕「—·—復」。「夾」。
（大館）空大なるやかた。〇〔白居易〕「—·—居中」。
（官館）官有の邸宅。〇〔後漢〕「府舍—·—」。
（陋館）狹小なるやかた。〇〔南〕「短遊—·—」。
（麗館）うるはしきやかた。〇〔李尤〕「矯鵠—·—」。
（草館）前に同じ。〇〔劉禎〕「—·—析波」。
（空館）人なきやかた。〇〔潘岳〕「—·—闃其無レ人」。
（旅館）旅人の宿舍。〇〔岑參〕「不レ沙向二—·—一」。
（閎館）ひろやかなるやかた。〇〔梁昭明太子〕「璧諸—·—」。
（學館）學校のと。〇〔楊軾〕「—·—齒鶴·鐵」。
（梵館）梵館といふに同じ、僧寺のと。〇〔王安石〕「敬·膝二」「午·飯投二—·—一」。
（驛館）驛亭の旅舍。〇〔賈師泰〕「—·—到時搖」。
（珠館）珠玉もてかざりたる美麗なるやかた、又珠館又は珠館といふに同じ。〇〔蘇軾〕「短遊—」「—見落レ淚」。

【⿰飠於】飫に同じ。〇〔後漢〕「—·—賜犒レ功」。

【餩】オク　愛黒切　職
㊀むせぶ（噎）。㊁噎ぶ聲にいふ字。

【饢】ダウ、ニヤウ。乃網切　養
㊀ちかし（近）。㊁たちまち（忽）。㊂咫尺に見る、まぢかにみる。

【餢】ホウ、フ。餅号切　東
—餢は、食を貪る、むさぼる。

【饀】餡に同じ。

九畫

【餪】ダン、ナン。乃管切　旱
女の嫁せし後三日めに食をおくるにいふ字、おくる。

【⿰飠奥】ダン、ナン。奴亂切　翰
女の嫁せし後三日めの酒宴、さかもり。

【餫】ウン、チン。禹慍切　問
糧を運び致す、おくる。〇〔左〕「晉荀首如レ齊逆レ女、宣伯—二諸穀一」。

【餫】コン、ゴン。戸昆切　元
餛に通じ用ふ。

【餬】コ、ウ。戸呉切　虞
㊀かゆ（饘）。〇〔爾雅〕「—、饘、鬻、糜、相類之物也」。㊁貧しく生活す。〇〔左〕「以—二余口一」。㊂人に寄食す。〇〔左〕「—二其口於四方一」。

【⿰飠科】クワ。苦禾切　歌
—斗は、こなもち。

【餭】クワウ、ワウ。胡光切　ワウ。于方切　陽
㊀乾飴、かわきあめ、又、粔籹、おこし。㊁餦—は、あめ（餳）、もち（餌）。

【餕】シウ、シユ。所鳩切　尤
餿に同じ、飯濕熱のために壞る、すゆ。

【⿰飠建】ケン、コン。居言切　元　セン。諸延切　先
かゆ（粥）。

【⿰飠畐】ヒヨク、ヘキ。芳逼切　職
あく（飽）。

【⿰飠青】スヰ。息委切　紙　イ。尹捶切　支
㊀豆の粉を砂糖に雜へたるもの、きなこ。㊁あめ（餹餳）。

【⿰飠甚】カン、コン。口敢切　感
うゑ（飢）。

【⿰飠复】フク、ホク。方六切　屋
くひもの、くらふ（食）。

【⿰飠勇】ヨウ、ユ。尹竦切　腫
くひもの、くらふ（食）。

【餮】テツ、テチ。他結切　屑　テン、デン。徒典切　銑
饕に同じ、食を貪る、むさぼる。〇〔左〕「縉雲氏有二不才子一、貪二於飲食一、冒二於貨賄一、天下謂二之饕—一」。

【⿰飠彖】クワイ、ケ。許濊切　隊
飯くさし。

【⿰飠兪】トウ、ツ。他口切　有
もち（餅）。

【⿰飠柔】ジウ、ニユ。如又切　宥
むしいひ（餾）。

【⿰飠柔】ザウ、ニユ。女救切　宥
まぜめし（雜飯）。

【餰】セン。諸延切　先　ケン、コン。居言切　元　セン。旨善切　銑
饘に同じ。〇〔荀〕「酒·醴·—·鬻」。

【⿱夭食】エウ。於喬切　蕭
あめ（餳）。

【⿰飠英】エイ、ヤウ。於丙切　梗
㊀こなもち（餌）。㊁あく（飽）。

【⿰飠央】ヤウ、アウ。倚兩切　養
みつ（滫）。

【餱】コウ、グ。戸鉤切　尤
ほしいひ、かれいひ（乾食）。〇〔詩〕「迺裹二—糧一」。

【餲】エイ。於例切　霽　アイ、エ。於邁切　卦　アツ、アチ。烏葛切　曷
飯の穢臭あるにいふ字、くさし、すゆ。〇〔論〕「食饐而—」。

【⿱号食】饕に同じ。

【⿰飠弱】饌に同じ。

【餳】タウ、ダウ。徒郎切　陽
米を煮て爛らしたる甜味あるもの、まるあめ、あめ。〇〔劉禹錫〕「今寶レ—者」。

【⿰飠保】飽に同じ。〇〔路史〕「有二不レ能レ—者一」。

【餴】フン、ホン。甫云切　文

米を一たび蒸し熱し更に水を沃ぎて二たび蒸すにいふ字、むす、又、其のむしたる飯、めし。〇〔詩〕「挹レ彼注レ茲、可二以—レ饎一」。

【⿱賁食】餴に同じ。

【⿰飠彥】ゲン、ゴン。五健切　願
あめ（飴）。

【饙】フン、ホン。甫文切　文
いひ（飯）。

【⿰飠盍】コ、ウ。皐盧切　虞
㊀かゆ（糜）。㊁寄食す。

十畫

【餹】タウ、ダウ。徒郎切　陽
あめ（餳）。〇〔揚雄〕「餳謂二之—一」。「也」。（餹餳）かたきあめ。〇〔釋文〕「餳又音唐、卽—·—」。

【⿰飠耆】俗の嗜の字。

【⿰飠展】テン。丑展切　銑
長き味。

【⿰飠害】カツ、ゲチ。胡瞎切　黠
あく（飽）。

【⿰飠羕】ヤウ。餘亮切　漾
こなもち（餌）。

【餺】ハク。補各切　藥
—飥は、餅の屬、うんどん。

【⿰飠兼】レン。良冉切　琰　力鹽切　鹽
㊀小しく食らふ、くらふ。㊂小飯、あひのこよくじ。㊁いさぎよし（廉潔）。

【⿰飠兼】餡に同じ。

【⿰飠兼】ケン。苦簟切　琰
飽かず、くひたらず、うゝ。

【⿰飠宛】エン、チン。於袁切　元
むさぼる（貪）。

【餻】カウ、コウ。古勞切　豪
こなもち（餌）。〇〔揚雄〕「餌謂二之—一」。

【⿰飠高】餻に同じ。

【⿰飠倉】サウ。千剛切　陽
くひもの（食）。

【⿰飠臿】サフ、セフ。測洽切　洽
こなもち（餌）。

【⿰飠臭】キウ、ク。去久切　有
食物腐る、すゆ。

【⿰飠息】ショク、シキ。悉卽切　職
㊀いき（氣息）。㊁くらふ（食）。㊂ながし（長）。

【⿰飠遣】ケン。去演切　銑
㊀ねばる（黏）。㊁にぎる（搏）。㊂ひもち（乾餌）。

【⿰飠郎】ラ。來可切　哿
あく（飽）。

【餼】キ、ケ。許旣切　未
㊀食料又は生牲を致すにいふ字、おくる。〇〔儀〕「—レ之以二其禮一」。㊁おくる禾米。〇〔周〕「廩人獻レ—」。㊂おくる食料。〇〔國〕「公與二之—一」。㊃おくる芻秣。〇〔國〕「馬—不レ過二稂莠一」。㊄おくる生牲。〇〔論〕「告朔之—羊」。
（常餼）さだまりたる饋餉。〇〔禮〕「皆有二常—一」。
（饔餼）大禮におくる殺牲と生牲と。〇〔儀〕「君使二卿韋弁歸二饔—五牢一」。
（餽餼）食物のおくりもの。〇〔晉〕「郯有二—·—一」。
（牢餼）みごとなる食物のおくりもの。〇〔宋〕「供張—·—」。
（生餼）いきたる牛羊などの食用に供すべきもの。〇〔宋〕「又明日歸二—·—一」。
（廩餼）官用の食物。〇〔楊·誕〕「官廩—·—」。

【⿰飠昜】タフ、トフ。都盍切　合
—餉は、食らふ。

【⿰飠素】ソ、ス。蘇故切　遇
膳に葷を用ひざると。

【餽】キ。求位切　寘
おくる。（い）かれいひす（饋）。〇〔漢〕「千里負擔—レ饟」。（ろ）やる（貽）。〇〔孟〕「—二兼金一百一」。
（餽餉）つゝしみうやまひて食をすゝむ。〇〔宋書〕「女—·—」。
（餽遺）食物をはこびおくる。〇〔張耒〕「—·—日」。「擁·鬯」。

【餾】リウ、ル。力救切　宥　力求切　尤
飯の氣蒸す、米を蒸す、むす、又、蒸し熟したる飯、めし。

【⿰飠豈】ゴン。五困切　願
㊀相踊げて麥を食らふ、くらふ。㊁あく（飽）。㊂あざる（饐）。

【⿰飠叟】餕に同じ。

【⿰飠追】タイ、テ。都回切　灰
もち（蒸餅）。〇〔李尋〕「拈レ—舐レ指不レ知レ休」。

【⿰飠臽】饕又麴に同じ。

【⿰飠臽】カン、コン。苦紺切　勘
味甘きに過ぐると、あまし。

【⿱齊食】俗の齋の字。

【饁】エフ。筠輒切　葉
田に饁る食、かれいひ、又、食を饁る、かれいひす。〇〔詩〕「—二彼南畝一」。

【⿰飠化】クワ、ケ。果騧切　麻
食を消化す、こなす。

【⿱將食】漿に同じ。〇〔莊〕「五—先饋」。

十一畫

【⿰飠強】キヤウ、ガウ。巨兩切　養
硬食、こはめし。

【饄】餳に同じ。

【⿰飠啇】タク、チヤク。陟革切　陌
日月の蝕。

【⿰飠參】サン、ソン。桑感切　感
㊀こながき（糝）。㊁つぶ（粒）。㊂かす（滓）。

餕 ソン、ソン。葛鍋切 寒

炒の雜りある食物。

餕 サン、ソン。七綸切 諄

餐に同じ。鼓の曲。

餮 ハ、マ。莫婆切 歌

㊀小兒に哺すはぐくむ。
㊁くひもの（食）。

餮 糜に同じ。

餵 ハン、マン。母官切 寒

一頭は、屑麪（こむぎこ）に發酵（もと）をいれかして浮起したるを餅して蒸したるもの。○〔事物紀原〕諸葛亮南征將レ渡二瀘水一、土俗殺レ人首以祭レ神、亮令下以二羊豕一代上レ麪、畫二人頭一祭之上。一頭名始レ此。

餭 饘、又餬に同じ。

餅 ヒツ、ヒナ。卑吉切 質

一團は、餅の屬にして麪を用ひて爲り中に餡あるもの。○〔資暇集〕薯中華氏羅氏好二食此味一、因名二華餻一、後人加二食旁一爲二餻一。

餧 サウ、ゾウ。昨糟切 豪

餡を食らふ、くらふ。

餲 サイ、セ。蘇回切 灰

めし、飯。

餿 サウ、ゾウ。士江切 江

食を欲す、むさぼる。

餺 ヘン、ヘン。扶萬切 寒

一頭は、餅の屬にして麪を用ひて爲り中に餡あるもの。○〔資暇集〕薯中華氏羅氏好二食此味一、因名二華餻一、後人加二食旁一爲二餻一。

餽 キ、ケ。居氣切 未

生ものゝ食を饋る、おくる。

餾 シヨウ、シユ。昌容切 冬

多く食らふ、むさぼる。

餻 キン、ゴン。渠遵切 臻

菜穀の空乏なるにいふ字。うゝうゑ。○〔論〕因レ之以二飢一二。

〔因〕（年凶歉して穀食なきを。○〔後漢〕一一無し。

餼 ソウ、ズ。勗功切 東

饑一は、食を食る、むさぼる。

餺 シウ、ス。思留切 尤

進獻す滋味を致すゝむそなふ、又、すゝめそなふる食物。

餾 シヨウ、シユ。昌容切 冬

多く食らふ、むさぼる。

餻 キン、ゴン。渠遵切 臻

菜穀の空乏なるにいふ字。うゝうゑ。○〔論〕因レ之以二飢一二。

〔因〕（年凶歉して穀食なきを。○〔後漢〕一一無し。

饈 ヨウ、ユ。於口切 有

飫に同じ、おく。○〔詩〕如二食宜一一。

饕 サン、ソン。子敢切 感 昨盍切 合

激一は、味なしまづし。

饗 セン、セン。子丹切 寒

嘗め食らふ、なむ、一說に、一饑は、味うすし。

饜 チク、トク。佇六切 屋

一食らふ、貪にいふ字。二もち（餅）。

饜 シヨ、ソ。章恕切 御

二豕の食。㊁かゆ（糜）。

饌 ソウ、ズ。撰功切 東

饑一は、食を食る、むさぼる。

饉 ヨ、依據切 御 ソ、衣遇切 遇

ヂ。切 ヲ、於口切 有

饉 饑に同じ、おく。○〔詩〕如二食宜一一。

饗 サン、子敢切 感 昨盍切 合

激一は、味なしまづし。

饗 セン、セン。子丹切 寒

嘗め食らふ、なむ、一說に、一饑は、味うすし。

饛 チク、トク。佇六切 屋

一食らふ、貪にいふ字。二もち（餅）。

饞 シヨ、ソ。章恕切 御

二豕の食。㊁かゆ（糜）。

饟 ソウ、ズ。撰功切 東

饑一は、食を食る、むさぼる。

饞 シウ、シユ。昌容切 冬

多く食らふ、むさぼる。

饟 キン、ゴン。渠遵切 臻

菜穀の空乏なるにいふ字。うゝうゑ。○〔論〕因レ之以二飢一二。

〔因〕（年凶歉して穀食なきを。○〔後漢〕一一無し。

饑 キ、ケ。紀衣切 微

飢に同じ、うゑ。○〔左〕晉一。○〔六韜〕穀物のちがひて食物の乏しきを。○〔後漢〕五穀不分爲一一。○〔兵韜〕歳凶のために五穀乏しきを。○〔後漢〕公卿多過一一。○〔荀悦〕穀熟せずしていなくうゑ。○〔後漢〕人士饑窮せずしていなくうゑ。

饒 ネウ、如招 蕭 人要 嘯

一ゆたか。
○〔漢〕資用益一一。「一」。
〔江淹〕顧二僕御一而情（は餽つると。○〔後漢〕租入之一」。
に餘りあると。○〔諸葛亮〕子孫衣食自有二餘一二。
〔莊子〕覽大。○〔書疏〕覽一之道。
（へ肥沃。○〔韓〕肥一之地。
（ど富有。○〔晉〕總二山海之一二。
二ゆたかならしむ、ゆたかにす。○〔漢〕「一人以二酹品一二。
三ます（益）。○〔舊唐〕有二加一法行二。
四ゆるす（恕）。○〔杜甫〕日月不二相一二。

饌 セン、雛綸 刪 ハン、扶萬 ハン。切 願

一酒食を具ふ、そなふ。○〔周禮〕一二膳具二官一一。
二具ふる酒食そなへもの。○〔儀禮〕膳宰具二官一一于賓東二。
〔儀禮〕立歩に膳設したる飯食。○〔禮〕有一一。
〔說苑〕めづらしき飯食。○〔後漢〕嘗レ之一一。
〔玉篇〕飯に同じ。○〔晉〕飽カ一一。
〔論語〕みさとなる飯食。○〔左傳〕琼瑤一一。
〔廣韻〕飯に同じ。○〔杜甫〕風流酒饌儒冠多。
〔字彙〕飯に同じ。○〔禮〕有不食一一。
〔正韻〕飯に同じ。○〔後漢書〕備二一一。

饍 シヤウ、サウ。青兩切 養

ひるめし、（晝食）。

餘 シヤ、サウ。青兩切 養

食を食る、むさぼる。

餽 タイ、デ。徒同切 灰

餵一は、米の屑を蜜に和して蒸したるもの、くわし。

饁 タウ、チヤウ。丑庚切 庚

一餉は、おく（餽）。

饋 キ。求位切 寘

一おくる。
（い）食を致す、かれいひす。○〔左〕一レ之。
（ろ）物を致す、やる。○〔左〕往一二之馬一二。
二尊上に致す、すゝむ。○〔淮〕說而後一一。
三食事めし、け。○〔淮〕一一而十起。
四くひもの、かれいひ、おくりもの、そなへもの。○〔詩箋〕設レ勳一之。

饑 ケイ、ケ。古外切 泰

食らふ。

饐 エン。烏鎋切 黠

飯のとに望がる、むせぶ。

饑 キ、ケ。紀衣切 微

飢に同じ、うゑ。○〔左〕晉一。○〔六韜〕穀物のちがひて食物の乏しきを。○〔後漢〕五穀不分爲一一。○〔兵韜〕歳凶のために五穀乏しきを。○〔後漢〕公卿多過一一。○〔荀悦〕穀熟せずしていなくうゑ。○〔後漢〕人士饑窮せずしていなくうゑ。

饒 ネウ、如招 蕭 人要 嘯

一ゆたか。
○〔漢〕資用益一一。「一」。
〔江淹〕顧二僕御一而情（は餽つると。○〔後漢〕租入之一」。
に餘りあると。○〔諸葛亮〕子孫衣食自有二餘一二。
〔莊子〕覽大。○〔書疏〕覽一之道。
（へ肥沃。○〔韓〕肥一之地。
（ど富有。○〔晉〕總二山海之一二。
二ゆたかならしむ、ゆたかにす。○〔漢〕「一人以二酹品一二。
三ます（益）。○〔舊唐〕有二加一法行二。
四ゆるす（恕）。○〔杜甫〕日月不二相一二。

饗 ヨウ、ユ。於容切 冬 許兩切 養

一熟食にたるもの、さかなもの、めし。○〔詩〕有二母之尸一一。
二食事めしけ、特に朝食、あさげ。○〔孟〕一一飧而治。
三割烹膳和の總稱。れうり。○〔國〕佐レ一者得レ饗。
四殺したる牲。○〔儀〕君使二卿章弁歸二一一氓五牢一二。

饘 エン。與縣切 霰

あく（餐飽）。

餬 クヲ。古胡切 模

くらふ（食）。

餬 レイ、リヤウ。郎丁切 青

食腐るずゆ。○〔晉〕食一謂二之餬一二。

餱 エツ、一結 屑 イツ。益悉 質

エチ。切 イツ。益悉 質

一餱は、食らふに餐をつけあふと。

饘 クヲ、ヲウ。胡光切 陽

かゆ、糜。

饘 膳に同じ。

饎 シ。昌志 寘 キ。虚其 支

切

一酒食。○〔爾雅註〕猶二今云一一餽一二。
二きび（黍穀）。○〔儀〕主婦視レ一饎二于四堂下一二。

餐 タン、ドン。杜寬切 寒

食に味なし、あぢなし。

餳 タウ、トウ。宅江切 江

一喫らふ、貪にいふ字。
二むさぼりくらふ。

餳 イ。乙冀 寘 エイ。於例 霽

食腐るずゆ。○〔晉〕食一謂二之餳一二。

餱 エツ、一結 屑 イツ。益悉 質

エチ。切 イツ。益悉 質

餽 饋に同じ。○〔漢〕一一人。

餾 エキ、ヤク。爽益切 麻

一祭の翌日の祭事。二飯腐るずゆ。

餼 レン。力驗 霰 良冉 琰

食に味なし、あぢなし。

餲 アウ、オウ。烏到切 號

れたむ、それむ（痂）。

餺 タウ。都郎 唐 丁浪 宕

切 切

食を與ふ、あたふ。

餺 タウ、トウ。土刀切 豪

財貨を貪る、飲食を貪る、むさぼる。○〔左〕「天下之民一比二三凶一、靡二之一一發一二。

餺 餅に同じ。○〔周〕一一人。

餺 エキ、ヤク。爽益切 麻

一祭の翌日の祭事。二飯腐るずゆ。

餼 レン。力驗 霰 良冉 琰

食に味なし、あぢなし。

餺 アウ、オウ。烏到切 號

れたむ、それむ（痂）。

餺 タウ。都郎 唐 丁浪 宕

切 切

食を與ふ、あたふ。

餺 タウ、トウ。土刀切 豪

財貨を貪る、飲食を貪る、むさぼる。○〔左〕「天下之民一比二三凶一、靡二之一一發一二。

餺 餅の屬

餺 ケン。苦堅切 銑

一食に飽かず、一說に、足らず。
二いのる（祈）。

餺 イ。於利切 寘

あく（飽）。

餺 魚一付レ餅。

餺 餅に同じ。○〔淳化帖〕得二一一。

餺 食を病ふ、うれふ。

餺 クワイ、ケ。古外切 泰

食らふ。

餺 トク、ドク。徒谷切 屋

餺 カン、コン。呼緘切 咸

かゆ（粥）。

餺 ヨウ、ユ。委勇切 腫

食に飽かず、うゝ。

餺 ヨウ、於容 冬 切 切 宋

一熟食にたるもの、さかなもの、めし。○〔詩〕有二母之尸一一。
二食事めしけ、特に朝食、あさげ。○〔孟〕一一飧而治。
三割烹膳和の總稱。れうり。○〔國〕佐レ一者得レ饗。
四殺したる牲。○〔儀〕君使二卿章弁歸二一一氓五牢一二。

餺 エン。與縣切 霰

あく（餐飽）。

餺 クヲ。古胡切 模

くらふ（食）。

餺 レイ、リヤウ。郎丁切 青

餅の屬

餺 ケン。苦堅切 銑

一食に飽かず、一說に、足らず。
二いのる（祈）。

餺 イ。於利切 寘

あく（飽）。

饐 アイ。於廢切 泰 ㊀。乙冀切 職 ㊁。飯餲る。飯臭しくなりゆくさま。

饗 キャウ、カウ。許兩切 養

㊀酒食を設けて人を待つ。酒宴を張りて人を勞ふ。もてなす。れいぎらふ。さかもり。○詩「二・朝一レ之」。

㊁酒食を供へて神を祭る。○國「大嘗—其王事敏」。

㊂獻す。侑む。○國「王一レ醴」。

㊃飲む。食らふ。○淮「先祭而後一」。

㊄うく。

(い)受く。賞たる。○左「二大利一」。

(ろ)神の祭りを受納ありて福を降さるゝにいふ字。又もてなしに應じて酒食に就くにいふ字。○詩「既右二之一」。

㊅酒食。○國「宰夫供一レ」。

㊆等に通ず。用ふ。ひびき。○漢「五音六律依一レ」。

(家)酒食を設けて賓客をもてなす。○(饗)同じ。

(饗)神をまつる祭祀。○國「祀一日」。

(饗)盛饌を設けて賓客をもてなす。○後漢「一一一晨」。

(響)たゝひびく聲をもて人を勞ふ。○後漢「考一一」。

(響)時鐘のくだりて音をうつると。○(響)同じ。

(響)まつりのもの。○(饗)同じ。

(響)前に同じ。

饗 キャウ、カウ。虛良切 陽

前條の㊂に同じ。うく。○漢「國一洗一邪二不一祥一實二百一寮一山一河一」。

饋 ダウ、ノウ。女江切 江

饟—ば、食を强ふると。

饘 セン。諸延切 先 旨善切 銑

かゆ(糜)。特に其の厚きもの。○(饘)「—一粥」。

(饘)とめのあつがゆ。○(玉篇)「由一饘稍放一」。

(饘)かゆ。○(北)「—不一饘」。

(饘)むぎのかゆ。○(皮日休)「朝食有一—」。

(饘)あつものとかゆと。○(唐律疏義)「其夕食—一」。

饒 ネウ、ニョウ。奴鳥切 篠

㊀充實す。みつ。○—饒は、食を强ふるとき。

㊁くらふ(食)。

饍 ケン。去演切 銑

㊀ほしむぎもち(乾麪餅)、一說に、ひさかむ(燒)。

㊁にぎる(捻)。

㊂ねばる(黏)。

饑 キ、ケ。居衣切 微

㊀うゑ。

㊁五穀の實らざる。

㊂凶年。

饒 ネウ、ニョウ。如招切 蕭

㊀ゆたか。

㊁ほしいまゝ。

㊂めぐむ。

㊃多し。

㊄ゆるす。

饐 イ、エ。於冀切 寘

食ものの腐敗。

饑 キ、ケ。居衣切 微

うゑ。

饕 タウ、トウ。土刀切 豪

貪食。

饗 キャウ、カウ。虛良切 陽

前條の㊂に同じ。うく。○漢「國一洗一邪二不一祥一實二百一寮一山一河一」。

饋 ダウ、ノウ。女江切 江

饟—ば、食を强ふると。

饘 セン。諸延切 先 旨善切 銑

かゆ(糜)。特に其の厚きもの。○(饘)「—一粥」。

(饘)とめのあつがゆ。○(玉篇)「由一饘稍放一」。

(饘)かゆ。○(北)「—不一饘」。

(饘)むぎのかゆ。○(皮日休)「朝食有一—」。

(饘)あつものとかゆと。○(唐律疏義)「其夕食—一」。

饒 ネウ、ニョウ。如招切 蕭

㊀充實す。みつ。○—饒は、食を强ふるとき。

㊁くらふ(食)。

饍 ケン。去演切 銑

㊀ほしむぎもち(乾麪餅)、一說に、ひさかむ(燒)。

㊁にぎる(捻)。

㊂ねばる(黏)。

饑 キ、ケ。居衣切 微

うゑ。

饕 タウ、トウ。土刀切 豪

貪食。

饗 キャウ、カウ。虛良切 陽

前條の㊂に同じ。うく。○漢「國一洗一邪二不一祥一實二百一寮一山一河一」。

饋 ダウ、ノウ。女江切 江

饟—ば、食を强ふると。

饘 セン。諸延切 先 旨善切 銑

かゆ(糜)。特に其の厚きもの。○(饘)「—一粥」。

(饘)とめのあつがゆ。○(玉篇)「由一饘稍放一」。

(饘)かゆ。○(北)「—不一饘」。

(饘)むぎのかゆ。○(皮日休)「朝食有一—」。

(饘)あつものとかゆと。○(唐律疏義)「其夕食—一」。

饐 イ。於廢切 泰 ㊀。乙冀切 職 ㊁。飯餲る。飯臭しくなりゆくさま。

饗 キャウ、カウ。許兩切 養

㊀酒食を設けて人を待つ。酒宴を張りて人を勞ふ。もてなす。れいぎらふ。さかもり。○詩「二・朝一レ之」。

㊁酒食を供へて神を祭る。○國「大嘗—其王事敏」。

㊂獻す。侑む。○國「王一レ醴」。

㊃飲む。食らふ。○淮「先祭而後一」。

㊄うく。

(い)受く。賞たる。○左「二大利一」。

(ろ)神の祭りを受納ありて福を降さるゝにいふ字。又もてなしに應じて酒食に就くにいふ字。○詩「既右二之一」。

㊅酒食。○國「宰夫供一レ」。

㊆等に通ず。用ふ。ひびき。○漢「五音六律依一レ」。

(家)酒食を設けて賓客をもてなす。○(饗)同じ。

(饗)神をまつる祭祀。○國「祀一日」。

(饗)盛饌を設けて賓客をもてなす。○後漢「一一一晨」。

(響)たゝひびく聲をもて人を勞ふ。○後漢「考一一」。

(響)時鐘のくだりて音をうつると。○(響)同じ。

(響)まつりのもの。○(饗)同じ。

(響)前に同じ。

饘 セン。諸延切 先 旨善切 銑

かゆ(糜)。特に其の厚きもの。○(饘)「—一粥」。

(饘)とめのあつがゆ。○(玉篇)「由一饘稍放一」。

(饘)かゆ。○(北)「—不一饘」。

(饘)むぎのかゆ。○(皮日休)「朝食有一—」。

(饘)あつものとかゆと。○(唐律疏義)「其夕食—一」。

饍 ケン。去演切 銑

㊀ほしむぎもち(乾麪餅)、一說に、ひさかむ(燒)。

㊁にぎる(捻)。

㊂ねばる(黏)。

饒 ネウ、ニョウ。如招切 蕭

㊀充實す。みつ。○—饒は、食を强ふるとき。

㊁くらふ(食)。

饈 シャク、サク。式灼切 藥

けす(鮨鮓)。

餐 カク。呼各切 藥

養腋あつもの。

十六畫

饘 ロウ、ル。盧紅切 東

もち(餅)。

饛 クワイ、エ。胡怪切 卦

食壞るゝすゆ。

饛 カク。黒各切 藥

養腋あつもの。

十七畫

饡 サン、セン。慙儉切 豏

食を食ろ、むさぼる。

饜 ヒ、ミ。毋彼切 紙

小兒に哺むはぐくむ。

饞 サン、セン。士咸切 咸

むさぼる(饕)。○(易林)「舌一二於腹一」。

(食穢)むさぼる。○(韓愈)「貪利而止其一」。

(若穢)としたがひて飽飫きよ。○(酸)「一一華カ切」。

饟 餉に同じ。○(詩)「北一伊饟。

(國語)かれいひのもと。○(史)「一一」。

(前漢)軍食の糧食。○(周)「一一軍食」。

饌 ダウ、ニヤウ。女耕切 庚

くらふ(食)。

饞 セン。訓酋 エイ。魚丙 梗 ㊀。ズ井。儁垂 キ。翻規 支 切 ㊁。

㊀酒食に同じ。

㊁銳に同じ。

饞 クイ、エ。戶圭切 齊

おくる(餽)。

饕 饗の本字。

饕 カク。呼各切 藥

あつもの(羹)。

十九畫

饢 ラ。魯河切 歌

もち(餅)。

饡 サン。則旰切 翰

粢を飯に和すると、まるかけ、まるかけめし。○遊仙「時混々分澆一」。

饛 バ、マ。莫婆切 歌

㊀小兒に哺むはぐくむ。

㊁食らふ貌にいふ字。

首　部

首 シウ、シュ。書久切 有

㊀かしら。

(い)かうべ(頭)。○(易)「乾爲レ一」。

(ろ)かみ(髮)。○李陵「丁年奉使、皓一而歸」。

(は)はじめ(始)。○(公羊)「一一時過

(はゝよへ、さき(前)。○(左)「註二一行一」。

(はゝたゞさ(長)、かしら(魁)。○(國)「毋レ爲二我一一不二亦善一乎」。「功一一爲二我一一第一」。最先。○(魏武帝)「盧レ爲二(ホ)つか(掃)。○(國)「進レ級者左レ」。

(ろ)いしづき(鎚)。○(周)「以爲二一

國一」。

㊁本要、かなめ。

㊂あらはす(表)。○(禮)「二其內一」。

㊃もとづく(本)。○(禮)「不レ一其義一」。

㊄踏舞馬「よしろうま。○(後)「馬四蹏皆白一」。

(白首)まちがあたま。○(史)「註一一新所一編(新首)人民のこと。人民は從ふずして離散をあらはしたるといふいふ。○(史)「百姓且日一一」。

(稽首)拜して頭を地に付けておがむこと。○(左)「九一一而畢。

(笠首)拜して頭を手の所まで下ぐ。○(周)「三日一一」。

(七首)劍なき短刀、あひくち。○(史)「註一一刺王僚」。

(反首)頭髮の亂れて顏をおほはれるも。○(左)「晉大夫一一狄會盟之」。

(叛首)叛の名。○(周)「賜一一(叛)」。

(鼠首)鼠狀の戰鉾。○(周)「兩設一一」。

(鐵首)鐵といふ大鳥の嘴を首飾となせる飾。○(後漢)「常一一」。

(鐵首)うち首をさらす。○(晉)「一一」。

(功首)てがらの第一たるもの。○(後漢)「虞詡一一」。

(陣首)戰陣のさきて。○(後漢)「(い)首主の。○(晉)「一一明敎。

(元首)(ろ)始めのこと。○(晉)「夏以十一月朔爲冬一一」。

(腦首)鳥の後部をいふ。○(晉)「鈎本鳥一一之區也。

(腦首)(は)はじめ(始)。○(公羊)「一一時過

(腦首)くびをきりおとす。○(王褒)「勇敢

(腦首)くびにいれずみをほどこす。○(宋志)「中者一

(腦首)降服するもの。○(後漢)「自縛一一」。

首 キ、ギ。渠幾切 支 ㊀。擒鎗 ケ。切 支 ㊁。

㊀罪を自白す。まうす。つぐ。○(漢)「蘇一媛不レ一」。

㊁また。ふ(服)。○(後漢)「雖レ有二降一之者」。

㊂むかふ(向)。○(戰)「以二桑之彊一レ

(自首)みのれの罪狀を自ら陳べ述るもの。○(後漢)「以一一訴一一」。

(訴首)たがひに向かひあふ。○(宋志)「中者一

(訴首)降服するもの。○(後漢)「自縛一一」。

首 シウ、シュ。舒救切 宥

㊀罪を自白す。まうす。つぐ。○(漢)「蘇一媛不レ一」。

㊁また。ふ(服)。○(後漢)「雖レ有二降一之者」。

㊂むかふ(向)。○(戰)「以二桑之彊一レ

(自首)みのれの罪狀を自ら陳べ述るもの。○(後漢)「以一一訴一一」。

(訴首)たがひに向かひあふ。○(宋志)「中者一

(訴首)降服するもの。○(後漢)「自縛一一」。

首 シウ、シュ。舒救切 宥

㊀罪を自白す。まうす。つぐ。○(漢)「蘇一媛不レ一」。

㊁また。ふ(服)。○(後漢)「雖レ有二降一之者」。

㊂むかふ(向)。○(戰)「以二桑之彊一レ

(自首)みのれの罪狀を自ら陳べ述るもの。○(後漢)「以一一訴一一」。

(訴首)たがひに向かひあふ。○(宋志)「中者一

(訴首)降服するもの。○(後漢)「自縛一一」。

首 シウ、シュ。舒救切 宥

㊀罪を自白す。まうす。つぐ。○(漢)「蘇一媛不レ一」。

㊁また。ふ(服)。○(後漢)「雖レ有二降一之者」。

㊂むかふ(向)。○(戰)「以二桑之彊一レ

(自首)みのれの罪狀を自ら陳べ述るもの。○(後漢)「以一一訴一一」。

(訴首)たがひに向かひあふ。○(宋志)「中者一

(訴首)降服するもの。○(後漢)「自縛一一」。

首 シウ、シュ。舒救切 宥

㊀罪を自白す。まうす。つぐ。○(漢)「蘇一媛不レ一」。

㊁また。ふ(服)。○(後漢)「雖レ有二降一之者」。

㊂むかふ(向)。○(戰)「以二桑之彊一レ

(自首)みのれの罪狀を自ら陳べ述るもの。○(後漢)「以一一訴一一」。

(訴首)たがひに向かひあふ。○(宋志)「中者一

(訴首)降服するもの。○(後漢)「自縛一一」。

首 シウ、シュ。舒救切 宥

㊀罪を自白す。まうす。つぐ。○(漢)「蘇一媛不レ一」。

㊁また。ふ(服)。○(後漢)「雖レ有二降一之者」。

㊂むかふ(向)。○(戰)「以二桑之彊一レ

(自首)みのれの罪狀を自ら陳べ述るもの。○(後漢)「以一一訴一一」。

(訴首)たがひに向かひあふ。○(宋志)「中者一

(訴首)降服するもの。○(後漢)「自縛一一」。

首 シウ、シュ。舒救切 宥

㊀罪を自白す。まうす。つぐ。○(漢)「蘇一媛不レ一」。

㊁また。ふ(服)。○(後漢)「雖レ有二降一之者」。

㊂むかふ(向)。○(戰)「以二桑之彊一レ

(自首)みのれの罪狀を自ら陳べ述るもの。○(後漢)「以一一訴一一」。

(訴首)たがひに向かひあふ。○(宋志)「中者一

(訴首)降服するもの。○(後漢)「自縛一一」。

首 シウ、シュ。舒救切 宥

㊀罪を自白す。まうす。つぐ。○(漢)「蘇一媛不レ一」。

㊁また。ふ(服)。○(後漢)「雖レ有二降一之者」。

㊂むかふ(向)。○(戰)「以二桑之彊一レ

(自首)みのれの罪狀を自ら陳べ述るもの。○(後漢)「以一一訴一一」。

(訴首)たがひに向かひあふ。○(宋志)「中者一

(訴首)降服するもの。○(後漢)「自縛一一」。

首 シウ、シュ。舒救切 宥

㊀罪を自白す。まうす。つぐ。○(漢)「蘇一媛不レ一」。

㊁また。ふ(服)。○(後漢)「雖レ有二降一之者」。

㊂むかふ(向)。○(戰)「以二桑之彊一レ

(自首)みのれの罪狀を自ら陳べ述るもの。○(後漢)「以一一訴一一」。

(訴首)たがひに向かひあふ。○(宋志)「中者一

(訴首)降服するもの。○(後漢)「自縛一一」。

首 シウ、シュ。舒救切 宥

㊀罪を自白す。まうす。つぐ。○(漢)「蘇一媛不レ一」。

㊁また。ふ(服)。○(後漢)「雖レ有二降一之者」。

㊂むかふ(向)。○(戰)「以二桑之彊一レ

(自首)みのれの罪狀を自ら陳べ述るもの。○(後漢)「以一一訴一一」。

(訴首)たがひに向かひあふ。○(宋志)「中者一

(訴首)降服するもの。○(後漢)「自縛一一」。

二畫

首 キ、ギ。渠幾切 支 ケ。擒鎗 ケ。切 支

古の首の字。爪は、髮に象る。

三畫

馘 クワク、コク。古獲切 陌

㊀耳を截る。首を斷つ。くびきる。みゝきる。○(詩)「執一一安々」。

㊁截りたる耳。斷ちたる首。○(禮)「以二訊一一告」。

(馘)とゞけ首實檢。○(左)「示之一一」。

(馘)首をとゞけ實檢。○(後漢)「一一明敎。

(馘)はなをきるとみゝきると。○(後漢)「不一一」。

(馘)みゝきり。「○(晉)「一一」。

(馘)歌ひていたく敵を破りおくり首級を獻ずる。

四畫

馗 キヨク、クキ。呼吳切 虞

おもて（面）。○[莊]「稿項黃ー」。

九畫

【頔】シウ、シユ。書久切　有
人の初めて產みたる子、うひご。

十畫

【馩】フツ、ホチ。數勿切　物
婦人の首飾、かみかざり。

十一畫

【馪】俗の馘の字。

十八畫

【馫】セン。主兗切　銑　タン、ダン。徒官切　寒
セン。職緣切　先　止元切　元
きる（截）、たつ（斷）。

香　部

【香】キヤウ、カウ。許良切　陽
㊀鼻に嗅ぎて知る氣、にほひ、かをり、か、特に其の好きものにいふ字。○[詩]「有ㇾ飶其ー」。「土其臭ー」。○
㊁にほひ好し、かうばし。○[禮]「中央
㊂衣に入れ又は身に佩び又は燕きなどするかうばしき料、にほひもの。○[陳]「燒ー一正ー坐」。
〔馨香〕かうばしきかをり。○[書]「至治ーー」。
〔芬香〕前に同じ。○[周]「ーー條ㇾ暢於上下ー也」。
〔麝香〕なまぐさきかをり、又、羊と牛との肉。○[周]「腥臊ーーー之不ㇾ可ㇾ食者」。○[禮]
〔蘭香〕一に雪水香といふ、名づくる香の名。

志「安息香樹、波人呼ㇾ之、先樹、其硏中老木、其形如ㇾ心、木心、狀如ㇾ不ㇾ脂、堅、黑汎、水中、印ーー也」。
〔密香〕香の名。○[本草]「ーー生ㇾ交州、大樹節如ㇾ沈、香」。
〔檀香〕香の名。○[本草]「ーー有ㇾ數種、黃白、「紫之異、今人盛用ㇾ之」。
〔降香〕降眞よりとりたる香の名。○[本草]「ーー有ㇾ三等、第一生香、名ㇾ遠香、乃蘇自剝出者、其次蕭香、其三心結香、又、有ㇾ一種水香、北香
〔焚香〕香をたく。○[北]「洗ㇾ手ーー」。「更香」
〔芳香〕（い）かうばしきかをり。○[楚辭]「ーー去ㇾ垢濁」。
（ろ）蘭草の名。○[本草]「白芷一名ㇾーー」。
〔荷香〕はすの花のかをり。○[開元寺]「ーー入ㇾ衣」。「一逸」。
〔酒香〕さけのかをり。○[白居易]「危醉飲細ーー」。
〔花香〕はなのかをり。○[王勃]「ーー染ㇾ刻衣」。
〔異香〕めづらしきかをり。○[史]「ーー殊絶」。
〔香香〕前に同じ。○[異聞實錄]「香以ーー一九ㇾ蝉柱飯梁、手指」。「之朝ㇾ留」。
〔清香〕きよらかなるかをり。○[謝靈運]「恕ーーー」。
〔聞香〕かをりをかぐ。○[劉毅]「ーー知ㇾ香」。
〔餘香〕あとにのこりたるかをり。○[西京雜記]「ーー百日不ㇾ歇」。
〔什香〕香をたき手を洗ぶるにも香の粉末を身にふりかくるにもいふ。○[西陽雜記]「ーー起於後魏及江左齊梁間」。「ーー」。
〔お香〕ふるくみきかをり。○[洞天清錄]「有ㇾ一種ーーー」。
〔丁香〕丁子香ともいふ香の名。○[本草]「ーー一名ㇾ丁子香、生ㇾ東海及崑崙國、二月三月花開、紫白色、至ㇾ七月ㇾ方始成ㇾ實、小者爲ㇾーー」。
〔麝香〕なまめきたるかをり。○[梁武帝]「ーー承ㇾ寶髮」。
〔幽香〕もすそのかをり。○[劉雲]「迴ㇾ風ーーー散」。
〔細香〕おくゆかしきかをり。○[孟郊]「風ㇾ蘭御ーー」。
〔暗香〕やみにきく花のかをり、おもに梅の香にいふ。○[林逋]「ーー浮動月黃昏」。「川谷」。
〔蘇合香〕香の名。○[本草]「ーーー出ㇾ中臺ㇾ」。
〔鷄舌香〕香の名、一に多伽羅香といふ。○[本草]「ーーー一名ㇾ馬蹄香、一名ㇾ苏香、佛香之天澤香」。
〔返魂香〕是ずる時は死者の靈魂を烟中に見るといふ香の名。○[王嘉傳]「仲ㇾ家童蘇
を得べしと稱する香の名。
ーーー」。
〔安息香〕香の名。○[香譜]「ーーー此乃樹脂、不ㇾ宜於燒、而能發ㇾ衆香、故取以和ㇾ香、今有ㇾ如ㇾ餳者、謂ㇾ之安息油」。

四畫

【馚】ヘツ、ベチ。步結切　屑
かうばし（香）。

【馛】カン、ゴン。胡男切　覃
かうばし（香）。

【馠】カン、コン。呼含切　覃
小しく香し、かうばし。

【馝】䭀に同じ。

五畫

【馞】カウ。呼郎切　陽
氣の病、いきのやまひ。

【馝】ヘツ、バチ。蒲撥切　曷
大いに香ばし、かうばし、又、香氣、にほひ。

【馟】ヘツ、ヘチ。匹蔑切　屑
かうばし（香）。

【馡】ナ、ニ。乃倚切　紙
䭀ーは、香ばし。

【馝】ヘツ、蒲結　屑　ヒツ、毗必
ベチ。切　ビチ。切　質
大いに香ばし、かうばし。○[博雅]「ー、䭀・香也」。

七畫

【馞】ホツ、ボチ。蒲沒切　月
大いに香ばし、かうばし。○[博雅]「䭀ー香也」。

【馟】ホツ、ホチ。普沒切　月
香ばしき貌にいふ字。

【馞】ト、ツ。陀胡切　虞
かうばし（香）。

【馠】カン、コン。火含切　覃
かうばし（香）。

八畫

【馣】ホウ、ブ。蒲蠓切　董
香氣の盛んなるにいふ字、かうばし。

【馡】ヘツ、ベチ。蒲結切　屑
小しく香ばし。

【馡】ヒ。甫微切　微
かうばし（香）。

【馢】セン。將先切　先
一種の香木の名。○[香譜]「ー香沈・香同・類」。

【馤】イ。隱倚切　紙
ー䭀は、香ばし。

【馣】アン、烏含　覃　鄔感
オン。切　切　感
エン、衣檢　琰　アフ、遏合
切　オフ。切　合
かうばし（香）。

九畫

【馤】アイ。於蓋切　泰　於代切　隊
かをり（香）。○[韓愈]「遥聞・館ニ曉ーー」。

【馥】フク、ボク。房六切　屋
㊀かをり。
（い）芳氣、にほひ、か。○[洛陽伽藍記]「流ㇾ香吐ㇾー」。
（ろ）德化、聲聞。○[江淹]「凝ㇾ華重ㇾー、良在ㇾ歸・西之彥」。
㊁かうばし、又、かをる。
（い）か好し、又、かを發す。○[嵇康]「ーーー蕙芳」。
（ろ）德化、聲聞の傳はるにいふ字。○[江淹]「馨ー二區中一」。
〔芳馥〕かうばし。○[拾遺記]「異香ーー」。
〔馥々〕かうばしき貌にいふ語。○[嵇康]「ーーー幽蘭」。
〔香馥〕かをり。○[徐陵]「華ーーー以生」。

【馦】ヒヨク、ヘキ。符逼切　職
物の饐に中たれる聲にいふ字。○[潘岳]「ー・爲中ㇾ饐」。

【馪】キヤウ、カウ。火良切　陽
大いに香し。

【馧】フウ、ブ。步因切　尤
かうばし（香）。

【馩】キウ、ク。香幽切　尤
かをり（香氣）。

十畫

【馩】チウ、ウ。鄔孔切　董
かうばし（香）。

【馪】ケン。許縑切　鹽

㊁香味。

【馣】カツ、カチ。許葛切　曷
㊀かうばし（香）。
香氣、かをり。

【馤】カイ。呼盤切　泰
にほふ、くさし（臭）。

【馧】ウン、チン。於云切　文
かうばし（香）。

【馤】チツ、チチ。烏沒切　月
大いに香ばし。

【馩】ハウ、ビヤウ。蒲庚切　庚
大いに香ばし。

十一畫

【馨】ケイ、キヤウ。呼刑切　青
㊀かうばし、かをる。
（い）芳氣の遠きに及ぶにいふ字、にほふ。○[詩]「爾殽既ー」。
（ろ）德化聲聞の傳はるにいふ字。○[書]「明・德惟ー」。
㊁かをり。
（い）遠きに及ぶ芳氣、にほひ、か。○[嵇康]「無ㇾー無ㇾ臭」。
（ろ）德化、聲聞。○[晉]「垂二ー千・祀一」。
〔芬馨〕かをり。○[蘇武]「ーー良・夜發」。
〔淸馨〕きよらかにかうばし。○[戴復古]「飲・食ㇾ芳ー燈香ーーー」。

【馨】ケイ、キヤウ。虛映切　敬
語を助くるに用ふる字。○[世說]「王・期之譽・中詣二王・媚一、持二其臂一、媚曰、冷如二鬼・手一ー、强來捉二人臂一」。

十二畫

【馩】フン、ボン。符文切　文
香氣、かをり。
（家香）[illegible]

【馪】タン、ドン。徒含切　覃
馪ーは、香氣、かをり。

十四畫

【馧】アイ。於蓋切　泰
かうばし（香）。

【馩】ヒン、ピン。紕民切　眞
香氣の盛んなる貌にいふ字。

十六畫

【馫】ギ。虛貴切　未
阿ーは、藥の名。

【馫】キヨウ、コウ。虛陵切　蒸
香氣。

馬　部

【馬】バ、メ。莫下切　馬　ボ、ム。滿補切　麌
（說文）象・馬・頭髦尾四足之形。
㊀家畜の一、うま。○[周]「擎二王一六ーー之屬一」、辨二
㊁投壺の勝算、かずとり。○[禮]「爲二勝・者一立ㇾー、ーー從二ー、ーー旣立ㇾ請慶二多ーー」。「卒・既・盡」。
〔司馬〕官の名。○[書]「ーー掌・邦・政、統・六・師」、
〔野馬〕晴好の日におらくと田野に浮ぶ氣、かげろふ。○[莊]「ーー也、塵埃也、生物之以ㇾ息相吹也」。
〔陰馬〕屋根の四隅に出でたる長柄、なかけた。○[何晏]「承以ーー、接以ㇾ陽力」。
〔駑馬〕鶏の名、らとや。○[西陽雜俎]「狀似ㇾ鳩、好穴ㇾ屋居、今俗呼ㇾ爲ㇾーー」。
〔竹馬〕こまよせ。○[晉]「門植ㇾーー」。「竹」。
〔奸馬〕（い）刀を劍事に致すこと。○[史]「ーー之」。
（ろ）駿馬。○[徐詩]「ーー躍ㇾ銀・鞍」。
〔乘馬〕うまにのる、又、のりうまにも車につくる四頭にもいふ。○[詩]「ーー在ㇾ廄」。
〔驥馬〕上きうま。○[易]「乾爲ㇾーー」。
〔善馬〕前に同じ。○[史]「寶有ーーー」。
〔老馬〕たけたるうま。○[詩]「ーー反爲ㇾ駒」。
〔駑馬〕鈍きおとりたるうま。○[韓]「因ㇾ卒・則ㇾ乘ーーー」。
〔荊馬〕前に同じ。○[頭毛]「ーー再拜南面」。
〔役馬〕雇用に使ふうま。○[君]「ーーー生ㇾ于郊」。
〔駿馬〕前に同じ。○[漢]「係ㇾ鞿ーーー」。
〔驪馬〕前に同じ。○[縱子男]「蒼・令賀ーーー」。
〔種馬〕母に似たる上善のうま。○[周]「ーーー、物」。「駿」。
〔斑馬〕列にわかるゝうま。○[左]「有ーーー之聲」。
〔肥馬〕うまの肥壯にして其の氣の優越するもの。○[左]「林・菀ーー及ㇾ騎而歸」。
〔洞馬〕うまの歸路せざるもの。○[左]「塞車ーー」。「ー」。
〔肥馬〕肥大なるうま。○[論]「乘ーーー衣ㇾ輕裘」。
〔文馬〕うつくしきうま。○[宣觀]「ーーー四十」。
〔傳馬〕驛傳に使用するうま。○[漢]「以ㇾ給・驛路三・輔ーー」。
〔驛馬〕前に同じ。○[漢]「安車ーーー、長安驛」。「郊」。
〔駿馬〕くちつきうま。○[李白]「ーーー如・猶・龍」。「漢」、各離ーー」。
〔竹馬〕小兒の遊戯に使用するたけうま。○[後漢]「竹・騎ーーー」。
〔騎馬〕あしゆうま。○[後漢]「常乘ーーー」。
〔流馬〕糧食を輸送せんため諸葛亮の製作したる一種の車なれども其の形狀は詳かならず。○[蜀]「木牛ーーー」。
〔驕馬〕こまとうまと。○[漢]「陵・斯ーーー」。

〔駃馬〕とくはするうま。○〔新語〕「―――尋二眞一」。
〔瘠馬〕やせうま。○〔易〕「乾爲二――一」。
〔駱馬〕淺黃色のうま。○〔西京雜記〕「有二駿――一者上」。
〔駿馬〕すぐれてよきうま。○〔韓〕「君之――殆外廐二」。
〔惡馬〕あしきうま。○〔周〕「鋼――」。
〔駑馬〕鈍馬のこと。○〔周〕「―――・廟」。
〔駙馬〕官の名に駙馬都尉あり、公主の夫たるもの必ず其の官に拜するより、女婿のこともいふ。○〔白居易〕「戚・里誇二――一」。
〔馴馬〕（い）馴馬のこと。○〔歷性〕「―――于羣」。（ろ）ようりんのこと。○〔温庭筠〕「風弄二幽葩一―」。
〔騂馬〕あかうま。○〔謝〕「兩方面――」。「―」。
〔弓馬〕射術と馬術と。○〔後漢〕「便習二――一」。
〔赤馬〕あかうま、又、定刻のこともいふ。○〔古今注〕「孫・權時名二赫馬一」。「―」。
〔健馬〕すこやかなるうま。○〔唐〕「山・東藩――」。
〔驢馬〕うさぎうま。○〔世說〕「兼二曾官一―」。
〔童馬〕馬の子。○〔後周書〕「――不レ曉」。
〔方馬〕牽馬のこと。○〔詩〕「――翻・轡」。「木」。
〔狂馬〕たけりくるへるうま。○〔淮〕「――不レ知」。
〔御馬〕おほせみの異名。○〔揚雄〕「蜩大者謂二之蟷―・減謂二之――一」。
〔疲馬〕つかれたるうま。○〔風俗通〕「――不二復食一」。
〔駑馬〕つねなみのうま。○〔劉邵〕「――雖レ不」。
〔凡馬〕前に同じ。○〔杜甫〕「一洗萬・古――空」。
〔征馬〕たびに用ふるうま。○〔江淹〕「驪――而不レ顧」。
〔悍馬〕たけきうま。○〔李商隱〕「――氣作驕」。
〔鈍馬〕おそきうま。○〔蘇軾〕「如レ騎二――一」。
〔新馬〕名駒。○〔庾信〕「先求二――一逸騎女二」。
〔騣馬〕ようりん、鳳鈴。○〔史記〕「――丁寅」。
〔塞翁馬〕禍福常なきの故事。○〔淮〕「塞上叟馬無故亡入胡、人皆弔、父曰此何遽不レ爲レ福乎、其馬將二駿馬一而歸、人皆賀曰、此何遽不レ爲レ禍乎」。
〔千里馬〕一日に千里の遠きを馳するといふ駿馬。○〔史〕「伐二大宛一得二――一」。
〔戴星馬〕馬の前額に白毛あるもの。○〔爾、註〕「――――也」。
〔鞍白馬〕あかげとあしげと雜りたるうま。○〔爾、註〕「今之―――」。
〔汗血馬〕一日千里を馳せ日中に血をあせすると稱するよきうま。○〔漢〕「獲二――一來」。
〔連錢馬〕まろき灰色の斑毛あるうま、あしげうま。○〔吳均〕「紫騮――一」。

一畫

【[illegible]】ホ、ム。米普切（麌）
馬の行く貌にいふ字。

二畫

【[illegible]】ハツ、ハチ。博拔切（黠）
八歲の馬。

【馭】ギョ、ゴ。牛倨切（御）
御に同じ、つかふ、をさむ、はべる、すゝむ。○〔周〕「―夫掌レ―二貳車・從車・使車一」、「分二公・馬一而駕二治之一」。
〔撫馭〕能く人を愛撫して使ふこと。○〔唐〕「善―得二人死力一」。
〔控馭〕人を使ふこと。○〔南〕「――自下」。
〔禦馭〕能く部下を御すること。○〔北〕「―――一軍」「雅・靜」。
〔騎馭〕馬を使ふこと。○〔南〕「招・致文武士――」。
〔統馭〕統御すること。○〔陳〕「―――歸部」。
〔統馭〕前に同じ。○〔李德裕〕「飄揚――之才」。
〔駕馭〕馬を使ふこと、それより名將などの豪雄を自在に使ふにいふ語。○〔杜甫〕「――必英雄」。
〔控馭〕統御してすべ治む。○〔庾信〕「――五十州」「――」。
〔善馭〕極めてたくみに馬を使ふこと。○〔史〕「趙父善――」。
〔馳馭〕馬を御するをおこなふ、又、轉じて國家などを治むる術の義ならさるにいふ語。○〔晉〕「晉國――」。
〔臨馭〕高き位地にありて下を治む。○〔南〕「――萬方」。
〔失馭〕馬を御する法をあやまる、又、轉じて國家などの統御をあやまることにもいふ。○〔舊唐〕「隋氏――」。

【[illegible]】クヮン、ゲン。戸關切（刪）　ケン。胡畎切（銑）
一歲の馬。

【[illegible]】前條に同じ。

【馮】ヒョウ、ビョウ。扶冰切（蒸）
㊀馬の疾行するにいふ字、はやくはす。○〔蘇轍〕「駿・馬七・尺行――」。
㊁のる（乘）、のぼる（登）、しのぐ（陵）。○〔易〕「包レ荒用レ―レ河」、「暴――」。
㊂牆を堅むる聲にいふ字。○〔詩〕「削レ屢――」。
㊃よる（依）。○〔詩〕「有レ―有レ翼」。
㊄いかる（怒）。○〔左〕「今君奮焉震電―怒」。
㊅たのむ（恃）。○〔史〕「衆庶―レ生」。
㊆ほこる（矜）。○〔莊〕「侅二溺於―氣一」。
㊇不滿の意にいふ字、あきたらす。○〔張衡〕「心猶―而未レ攄」。
㊈盛んなる貌にいふ字。○〔漢〕「―翼々」。

【馮】ハウ、ヒャウ。披耕切（庚）
大いなる貌にいふ字、虛しき貌にいふ字。○〔莊〕「彷二徨乎―閎一」。

【馮】ヘイ、ビャウ。皮命切（敬）
よる（據）。

【馮】フン、ホン。父吻切（吻）
憤に同じ、もだゆ。

【[illegible]】古の馬の字。○〔路史〕「趙・奢封二―服君一」。

三畫

【馯】カン。侯旰切（翰）
駻に同じ、はねうま。

【馯】カン、ケン。丘姦切（刪）
馬の脊黑き色、あをぐろ。

【馯】カン。河干切（寒）
東夷の別種の名。

【[illegible]】ハウ、ボウ。博考切（皓）
あしげうま（驄馬）。

【馰】テキ、チャク。都歷切（錫）
―顙は、白額の馬、うびたひ、ひたひじろ、一說に、駿馬、すぐれうま。○〔爾〕「―顙白顚」。

【馱】タイ、ダイ。徒蓋切（泰）　タ、ダ。徒何切（歌）　唐佐切（箇）
馬及び他の畜產に物を負はするにいふ字、おはす、のす。○〔李白〕「吳・姬十・五細・馬―」。

【[illegible]】ヘン、ボン。符炎切（鹽）
馬の行く貌にいふ字。

【馲】タク、チャク。陟格切（陌）
―騙は、牡驢牝馬と接して生じたるもの、一說に牡驢と牝牛と接して生じたるもの。

【馲】ラク。盧落切　タク、ダク。闥各切（藥）
―駝は、らくだ。

【馳】チ、ヂ。陳知切（支）

はす。
（い）疾走す、はしる、かける。○〔莊〕「夫子―亦―」。
（ろ）疾驅す、はしらす、かる。○〔禮〕「入レ國不レ―」。
（は）行く、行る。○〔後漢〕「―二志於伊・吾之北一」。
（に）競ふ。○〔新論〕「與レ時競―」。
（ほ）布く。○〔韓詩外傳〕「其名・聲―二于後・世一」。
〔箭馳〕飛箭の如く疾くはす。○〔張九齡〕「―――入二窮冥一」。
〔馳騁〕前に同じ、又、轉じて世の中にはたらきまはるの義にいふ。○〔論衡〕「馳レ世――」。
〔驅馳〕車馬をはすること。○〔漢〕「四・馬――」。
〔爭馳〕きそひてはす。○〔賓戲〕「漢・卒爭――」。
〔競馳〕前に同じ。○〔蜀都賦〕「羣・象――」。
〔奔馳〕疾くはしる。○〔後漢〕「赤・軍――」。
〔電馳〕はやての如くはす。○〔晉〕「虎・嘯――」。
〔匹馳〕相ならびてはす。○〔吳越春秋〕「夫飄不レ可二與――一而不レ顧」。
〔高馳〕世の風潮を追はざること。○〔九章〕「吾方――而不レ顧」。
〔周馳〕物のめぐりをはせめぐる。○〔七發〕「――手摶・跡二」。
〔飛馳〕とびはしる。○〔宋書〕「春・狸――不二自禁一」。

【馳】タ、ダ。唐何切（歌）
はしる（走）。

【馴】シュン、ジュン。洋遵切　井ン。急倫切（眞）
㊀柔順、やはらか、すなほ。○〔列〕「無下不二柔―一者上」。
㊁よし（善）。○〔史〕「皆有二―行一」。
㊂したがふ（從）。○〔太元〕「―レ幽推レ曆」。
㊃なる。
（い）馬の柔順なるにいふ字、物の親しみ從ふにいふ字。○〔莊、註〕「與レ物無レ害、故物―也」。
（ろ）漸を以て至る。○〔易〕「―二致其道一至二堅氷一」。
（は）練熟す。○〔史〕「其文不二雅―一、薦・紳先・生難レ言レ之」。
㊄なれしむ、ならす。○〔家語〕「擾二―鳥・獸一」。
〔擾馴〕ならし親ましむ。○〔史〕「―――鳥獸二」。
〔教馴〕敎へならす。○〔漢〕「―――駟害」。

【馴】古の訓の字。○〔史〕「列・侯亦無レ由レ教二―其民一」。

【[illegible]】俗の馵の字。

【馵】シュ、ス。之戍切（遇）　ショク、ソク。朱欲切（沃）
㊀足の白き馬、あしどろうま。○〔詩〕「駕二我騏―一」。「爲二―足一」。
㊁馬の足を繫ぐ、ほだす。○〔易、傳〕「震爲二―足一」。

四畫

【馶】キ、ギ。巨支切　シ。章移切（支）
馬彊し、つよし。

【馶】シ。施智切（寘）
馬の病ひ。

【[illegible]】ヒ。甫賣切（卦）　ハイ、ヘイ。方肺切（隊）
馬走る、かける。

【[illegible]】ハイ。普蓋切（泰）
馬の壯んなる貌にいふ字。

【[illegible]】獅に同じ。

【馸】キン、ゴン。許覲切（震）
馬の重さ。

【馸】キン、コン。居欣切（文）
車の中の馬。

【馹】ジツ、ニチ。人質切（質）
驛傳、つぎうま、てんま。○〔左〕「楚子乘レ―、會二師于臨・品一」。

【馺】サフ、ソフ。蘇合切（合）
馬の行きて相及ぶにいふ字、おひかく、又、馬の行く貌にいふ字、かける、又、車騎の疾きにいふ字、とし。○〔揚雄〕「輕先二疾・雷一而―二遺・風一」。
〔馺々〕馬の疾くはする貌にいふ語。○〔方言、註〕「――疾貌也」。

【[illegible]】カイ、ケ。古拜切（卦）
馬の尾を結ぶこと。

【馻】イン。余準切（軫）　エン。以轉切（銑）　シュン、ジュン。松倫切（眞）
逆に刺す毛ある馬、さかげのうま。○〔爾〕「逆・毛居―」。

【[illegible]】パウ、モウ。謨袍切（豪）　レフ、ロフ。力涉切（葉）
㊀車の鬢、おほひ。㊁馬の長き毛。

【馼】ブン、モン。無分切（文）
毛色の純ならざる馬、ぶちうま。

【馽】チフ。陟立切（緝）　タフ、トフ。德合切（合）　シュツ、ジュチ。食律切（質）
馬の足を絆す、ほだす、又、馬の足をほだすもの、ほだし。○〔韓愈〕「天脫二―羈一」。

【馾】タン、トン。丁紺切（勘）
㊀馬の步み前むにいふ字、すゝみよる。
㊁馬の睡る貌にいふ字。

【[illegible]】フ、ホ。扶雨切（麌）
牡馬、をうま。

【馿】俗の驢の字。

【駁】ハク。北角切　ホク。切（覺）
駮に同じ。
㊀色の純一ならざること、ぶち、まだら。○〔詩〕「皇―其馬」。
㊁ぶち馬、まだら馬。○〔淮〕「騂―不レ入レ牲」。
㊂物事の純正ならざるにいふ字、まじる、みだる、たがふ。○〔莊〕「其道舛―」。
㊃理に合はざるを改正す、是非を論列すだゞす。○〔魏〕「彈二―公・卿一」。
㊄赤き李子、あかすもゝ。○〔爾〕「―赤李」。
〔雜駁〕雜色まじはりて定らざること。○〔後漢〕「非常―――」。
〔斑駁〕もしりて雜雜す。○〔後漢〕「五相―――」。
〔辨駁〕辯難してよしあしを論ず。○〔晉〕「辯――」。
〔論駁〕あげつらひのぶ。○〔謝師古〕「互相――、所レ見」。
〔辨駁〕是非を論列す。○〔唐〕「入奏――」。
〔駁駁〕あかきまだら。○〔郭璞〕「馬立――」。

【[illegible]】ガウ。五剛切（陽）
㊀馬の怒る貌にいふ字、たける。
㊁千里の駒。
㊂白き腹の馬。

【[illegible]】ガウ。五剛切　五浪切（漾）
㊀馬の頭を搖かすにいふ字、うごかす、

㊁馬驚く、おどろく。

【[馬亢]】ガウ。五熱切［豪］
騆に同じ。

【駁】ハウ、ボク。博抱切［皓］
黒白雜毛の馬、くろあしげ、烏驄。○［爾］「驪白雜毛―」。

【馚】フン、ホン。數文切［文］
馬の疾行する貌にいふ字。

【駃】ケツ、ケチ。古穴切［屑］
―騠は、疾走する良馬、おほうま、一說に、馬の父にして驘の母なる子。○［古今注］「曹眞有二―騠馬一」。

【駃】クワイ、ケ。苦夬切［卦］
快に同じ、はやし。○［酉陽雜俎］「河水色渾―流」。

【[馬少]】サ。桑何切［歌］
[馬少]―は、馬の行く貌にいふ語。

【[馬斤]】古文の騏の字。

五畫

【駈】驅に同じ。

【駉】ケイ、キヤウ。古螢切［青］
駫に同じ、馬の肥えて壯盛なる貌にいふ字、たくまし。○［詩］「――牡馬、在二坰之野一」。

【駊】ハ。布火切［哿］
―騀は、(い)馬の頭を搖かすにいふ字、馬の惡行にいふ字、くびふる、はぬ。○［杜甫］「庭空四馬入、―騀揚二旆旌一」。(ろ)高大なる貌にいふ語。○［揚雄］「崇二丘陵之―騀一」。

【[馬出]】トツ、トチ。當沒切［月］
騎―は、獸の名。

【[馬夫]】イツ、イチ。夷質切［質］テツ、テチ。徒結切［屑］
㊀馬疾く走る、かける。㊁ふるし(徵)。

【[馬幼]】エウ。伊鳥切［篠］
そへうま(馬―驂)。

【駌】エン、チン。於元切［元］
面の汚れたる馬。

【[馬半]】ハン、バン。博慢切［諫］
―騑は、馬の行くさ。

【駍】ヒ、ビ。平悲切［支］
馬の名。

【[馬开]】ハウ、ヒヤウ。披耕切［庚］
軯に同じ。○［揚雄］「聲―隱而歷レ鐘」。

【駎】チウ、ヂユ。直祐切［宥］
馬競ひ馳す、はす。

【駢】俗の騈の字。

【[馬末]】バツ、マチ。莫撥切［曷］
馬の走る貌にいふ字。

【[馬叵]】俗の駊の字。

【駏】キヨ、コ。白許切［語］
驢馬に似て驢馬より小なるもの、牡馬牝驢に接して生ずといふ。○［唐］「從二小奚童一騎二―驉一」。

【[奔馬]】フン、ホン。芳問切［問］
馬走る、かける。

【駐】チユ。中句切［遇］
㊀とゞまる。(い)車馬停止す、たちどまる。○［漢］「早駕久―」。(ろ)物事の停止にいふ字。○［蔣防］「希二瞳―々而常―一」。㊁とゞまらしむ、とゞむ。○［吳註］「所二能週―一哉」。
［屯駐］軍隊などの一處に留駐すること。○［宋］「所在―――」。
［留駐］前に同じ。○［劍俠傳］「不レ敢―――」。

【[馬友]】ハツ、バチ。蒲撥切［曷］
―騇は、蕃地の馬。

【駑】ド、ヌ。乃都切［虞］
㊀馬の下鈍なるにいふ字、にぶし、又、下鈍なる馬、にぶきうま。○［曹植］「殺レ―養レ虎」。㊁才の下鈍なること、にぶし、又、鈍劣なる者、にぶきもの。○［史］「相―如雖レ―獨畏二廉將軍一哉」。
［駑蹇］疲れたる下劣なる馬、又、かりて自己の謙劣なるを謙するに用ふる謙辭にもいふ。○［漢］「―」。
［駑駘］おろかに劣りたること。○［■■］「[illegible]」。
［駑騃］愚く劣りたるさま。○［■■］「[illegible]―――」。

【駒】ク、コ。擧朱切［虞］俱遇切［遇］
二歲の馬、五尺以上六尺以下の馬、こま、こうま。○［周］「攻レ―」。
［驪駒］黒きたてがみある赤き色のこま。○［史］「其―――」。
［桔駒］桔槹の木、くひ。○［列］「若―――」。
［草駒］放たれてくさはらに在るこま。○［■］「[illegible]」。
［羸駒］すぐれたるこま。○［■］「[illegible]」。
［玄駒］ありの異名。○［大戴禮］「[illegible]」。
［春駒］かはびらこの異名。○［稽臺雜志］「[illegible]」。
［隙駒］光陰の迅速なるは白駒の隙隙を過ぐるが如しとふより光陰のとにいふ語。○［宋■］「[illegible]」。
［龍駒］すぐれたるこうま、又、すぐれたる英才のとにもいふ。○［晉］「此兒若非―――、當二爲■■一」。

【駓】ヒ。敷悲切［支］
㊀走る貌にいふ字。○［楚辭］「逐レ人――些」。㊁黃白雜毛の馬、ふらかげうま、桃花馬。○［詩］「有レ騅有レ―」。

【駔】サウ。子朗切［養］
㊀馬壯んなり、馬駿なり、さかんなり、するどし、又、壯馬、駿馬。○［左思］「猶二馬之―駿一」。㊁ふとし、あらし(麤)。○［爾］「[illegible]―也」。㊂狡捷なる牙儈、わるがしこきなかがひ、すあひ。○［呂氏春秋］「段干木晉國之大―」。

【駔】ソ、ス。徂古切［麌］
組に同じ。○［周］「―圭璋璧琮琥璜之璪眉」。

【駔】ソ、ズ。聰徂切［虞］
馬壯んなること、さかんなり。

【駔】ショ、ソ。牀魚切［魚］
人の名、公子―。

【[馬匃]】カツ、古逹切［曷］カチ。切 ケツ、居謁切［月］コチ。切
馬の足疾し、はす。

【駕】カ、ケ。古訝切［禡］居牙切［麻］
㊀馬の車軛の中にあること、又車軛につけたる馬。○［魏］「初制二三―之法一」。㊁つかふ。(い)車に乘り軛馬を馭す、軛馬を馭し車を行る、のる、ゆく、あつかふ。○［禮］「君車將レ―」。(ろ)人を制御するにもいふ字。○［吳］「一二御英雄一」。㊂車乘、のりもの。○［後漢］「天子出有二大――、有二法――、有二小――一」。㊃車馬を具ふ、くるまにうまをつく、そなふ、したくをなす。○［漢］「詔二賢士大夫一能從レ我游者郡守身勸爲二之―一遣詣二丞相一」。㊄あがる、あぐ(騰)。○［揚雄］「仲尼―說者也、如將二復―一其所レ說莫レ若使二諸儒金口而木舌一」。㊅のる、のす(乘)、くはふ、くはゝる(加)。○［淮］「大構―與二宮室一」。㊆しのぐ(陵)。○［左］「子木之信稱二於諸侯一、猶詐而―焉」。
［小駕］天子ののりものゝ名。○［丁謂］「鶴――――」。
［鶴駕］太子ののりもの。○［列仙傳］「王子喬周靈王太子晉也、吹レ笙作二鳳鳴一、後於二緱氏山一乘二白鶴一而去、故太子之駕曰二――一」。
［駐駕］前に同じ。○［王應奎］「――暫止」。
［御駕］善く馬を御する術をいふ。○［■］「[illegible]」。
［枉駕］のりものを人のもとにすゝむ。○［蜀］「將軍宜―――顧之」。
［發駕］おしたのぐ。○［宋］「用相―――」。
［車駕］天子の乘車をいふ、又、車と輓中の馬とのこと。○［漢］「―――西都長安」。
［法駕］天子ののりもの。○［漢］「奉二天子―――」。
［大駕］前に同じ。○［後漢］「乘輿―――」。
［龍駕］前に同じ。○［■］「[illegible]」。
［鸞駕］前に同じ。○［李嶠］「[illegible]」。
［鶴駕］前に同じ。○［杜審言］「―――迎京邑」。
［鑾駕］前に同じ。○［崔■］「―――西迴」。
［翠駕］前に同じ。○［魏］「―――淸道」。
［鳳駕］前に同じ。○［武三思］「―――臨二香地一」。
［駐駕］天子ののりものをとゞむ。○［後漢］「[illegible]」。
［停駕］前に同じ。○［晉］「―――觀問」。
［從駕］天子のみゆきにつきしたがふ。○［■］「[illegible]―――南郊」。

【駄】俗の馱の字、又、駄に作る。

【駭】ケン、胡涓切［先］ゲン。切 熒絹切［霰］
㊀一歲の馬。㊁黑き色の馬。

【駖】レイ、リヤウ。郎丁切［青］
―蓋は、車騎の聲にいふ語。

【[馬令]】ラウ、リヤウ。力耕切［庚］
馬の衆き聲にいふ字。

【駗】シン。章忍切［軫］チン。知鄰切［眞］
馬の重荷を載せて行くに難むにいふ字、とゞまる。

【[馬㐱]】リン。力珍切［眞］
馬の色にいふ字。

【[馬余]】俗の駼の字。

【駘】タイ、ダイ。徒哀切［灰］徒亥切［賄］
㊀馬の銜を脫するにいふ字、はづる、はなる。○［崔寔］「馬―二其銜一」。㊁駑下、にぶし。○［米芾］「色妙才―」。㊂にぶき馬、にぶき者。○［楚辭］「策二駑―一而取レ路」。㊃―蕩は、曠遠なる貌にいふ語、廣大なる貌にいふ語、光景の舒放なる貌にいふ語、むなし、ひろし、のびやか。○［夏侯湛］「蕩―儒林」。
［哀駘］醜き貌にいふ語。○［莊］「衛有二惡人一曰二哀―它一」。
［駑駘］つかれたる劣馬。○［■■］「[illegible]―――」。

【駘】跆に同じ。○［史］「兵相―藉」。

【駙】フ、ボ。符遇切［遇］
そへうま(副馬)、一說に、ちかづく(近)、一說に、疾し。○［漢］「―以二一馬一」。

【駚】アウ、ヤウ。於兩切［養］
㊀―驤は、馬の貌にいふ語。㊁―犘は、獸の跳り踏みて自から撲つこと。

【駛】シ。疎事切［寘］師止切［紙］
とし、はやし(疾)。○［益部耆舊傳］「君馬何―」。
［湍駛］水流のきよらかにして疾きこと。○［韓愈］「[illegible]」。
［奔駛］流水群馬などの極めて疾くはするにいふ語。○［洛陽名園記］「猶二瀑則―――一」。
［迅駛］極めてとし。○［蘇軾］「[illegible]」。

【駜】ヒツ、毗必切［質］ビチ。切 ヒ、毗至切［寘］ビ。切
馬の肥えて壯んなる貌にいふ字、馬の肥えて彊き貌にいふ字、馬の飽く貌にもいふ字。○［詩］「有レ―有レ―、彼乘黃」。

【駝】タ、ダ。徒何切［歌］
㊀駱―は、背上に肉鞍(こぶ)ある一種の獸、らくだ。○［漢］「鄯善國多二―一」。㊁くゞせ、せむし(背僂)。○［莊註］「佗與レ―同、言二背僂一也」。㊂畜類に物を負はす、おはす、のす。○［柳宗元郭橐駝傳註］「人背―不レ能レ仰」。
［橐駝］駱駝の異名、又、背僂のことにもいふ。○［史］「[illegible]」。
［一封駝］背上肉鞍の一峯なる駱駝。○［■］「[illegible]」。
［銅峰駝］前に同じ。○［唐］「其獻―――」。

【駞】前條に同じ。

【駟】シ。息利切［寘］シツ、シチ。息七切［質］
㊀一乘の車に四頭つけたる馬。○［詩］「載驂載―」、「終朝―乘」。㊁四頭の馬にて牽く車。○［左］「[illegible]」。㊂四つの龍。○［漢］「木宮龍一―」。
［役駟］兵車に服する駟馬。○［詩］「―――孔阜」。
［逸駟］放逸なる四馬。○［■］「[illegible]」。
［天駟］星の名。○［爾雅］「房四星一名二天駟一、三名二天龍一、四名二天馬一」。
［房駟］星の名。○［玉海］「―――之精」。
［良駟］車に服する善良なる四馬。○［■］「[illegible]」。
［騂駟］あかいろの四馬。○［易林］「―――奔走」。
［介駟］戎車に服する甲をつけたる四馬。○［■］「―――將レ動」。
［飛駟］疾くはする四馬。○［郭璞］「[illegible]」。
［疲駟］やせつかれたる四馬。○［易林］「[illegible]」。
［羸駟］前に同じ。○［■］「[illegible]」。
［文駟］うつくしき四馬。○［■］「[illegible]」。
［華駟］前に同じ。○［■］「[illegible]」。

駉 リウ、ル。力由切 尤
白き腹の馬。

駒 古文の駒の字。○〔石鼓文〕二―
言由遠」。

駘 駘に同じ。○〔考古圖寶盉銘〕
―」。舒緩。盤。

駒 駒に同じ。

六畫

罵 罵の本字。

馬 駡馬。

駢 俗の駢の字。

駮 馬奔るはしる。

駣 タウ、徒刀切 豪　徒皓切 晧
ドウ。切 號　デウ、治小切 篠
大到

至 チ。夕利切 寘
○歩―は、馬の蹄蹶して前まざるにいふ字、とゞまる。
○高くして大いなる馬。
○むさぼる。○〔淮二〕胡―人有二知レ利者一而入謂二之一一。

駾 ヲ、疎更切 庚
黒き鬣ある白馬。かはらけうま。○〔詩〕噦々―馬」。○〔詩〕陰在レ巳」。
○落に通ト用ふ。○〔史二大荒―落、
駱 幹に同じ。○〔史二非子爲二周大―一。

駱 駕に同じ。

駕 レツ、レチ。良薛切 屑
次第して馳すはす。

駕 レイ。力制切 霽
○前條に同じ。○なる〔駟〕。

駒 前條に同じ。

馬先 駟に同じ。

七畫

駱 リン。良刃切 震
牝馬めうま。

駑 タン、ダン。徒亶切 旱
―馬は、ひきうま。駄馬。

駴 カイ、侯楷 ケ。切 蟹　居拜 卦 切
○鼓を雷撃す、どろ〳〵うつ、うつ。○〔周二鼓音―車徒音榮。
○駑に同じ。おどろく、おどろかす。○〔莊二聖人之所三以二天下一二。

駟 リウ、ル。力求切 尤
黒き鬣の赤馬くりげうま。○〔詩〕駟―是中」。
〔音義〕くりげうま。○〔論〕乘―一匹。

八畫

駹 マウ、モウ。莫江切 江
黒白の毛ある馬。まだらうま。面額の白き馬、つきびたひ、ひたひじろ、一説におなうま青馬。○〔漢二東方「一可也」。
○雑色のもの、まだらもの。○〔周二用レ

駸 キム、ク。許尤切 尤
駿馬。

駒 俗の駢の字。

駈 ジ、ニ。而止切 紙
駸―は、周の穆王の馬の名。

駭 カイ、ケ。侯楷切 蟹
○おどろく。
（い驚き起つ、驚き動く。○〔公羊二皆色然而―」。
（ろ驚き亂る、さわぐ。○〔戰二國人おどろかしむ、おどろかす。○〔呂氏春秋〕「鳴將レ―レ人」。
○ちる、ちらす〔散〕。○〔陸機〕三-后始基二武不レ承二協風穹一、天喜卯レ澄」。

駮 ハク、ボク。北角切 覺
○馬に似たる虎豹を食らふ獣の名。○〔詩二薾有二三―一」。
○駁に同じ。○〔漢〕文、賈盈二於九閽一、與二奥者不一レ能二遍諫一、是以耶國承用者」。

駮 ハク、ボク。北角切 覺
○馬の行く貌にいふ字、又、たけり突くつく。○〔詩〕混夷―矣」。

駮 ハク、ミヤク。莫白切 陌
駁―は、らばば。

駩 セン。此緣切 先
駸に同じ、はやし。○〔杜甫〕源源石、間瀉二泓松上一」。

駵 ク、コ。其俱切 虞
後足の白き馬。

駖 キツ、キチ。喫吉切 質
馬の色。

駝 騨に同じ。

駪 シウ、ニュ。如融切 東
○長八尺の馬、勁き馬。○たけし〔雄〕。

駪 シウ、シュ。息弓切 東
細き毛。

駛 ユ、ヨ。容朱切 虞
とし、疾。

駕 俗の騨の字。

駒 トウ、ダ。徒弄切 送
○馬疾く走る、馬を馳せ去る、かける、はす。
○うごく、〔動〕。○〔易乾鑿度二駟―元」。

駒 シュン。相倫切 眞
駿―は、馬の走る貌にいふ語。

駒 ケン。訓麌 銑 切
齊職の馬、くろみどりのうま。

駒 バク、ミヤク。莫白切 陌
駁―はらばば。

駩 セン。此緣切 先
駸に同じ、はやし。○〔杜甫〕源源石、間瀉二泓松上一」。

駺 ホウ、ヒュ。張流切 尤
―駿は、蕃地の大馬。

駪 シン。所鄰切 眞
馬の榮き貌にいふ字、物の多き貌にいふ字、おほし。○〔詩〕「―征夫」。

駪 駸に同じ。

駒 キウ、グ。巨九切 有
八歳の馬。

駒 俗の騨の字。

駈 シ、ニ。而止切 紙
駸―は、周の穆王の馬の名。

駭 カイ、ケ。侯楷切 蟹
○おどろく。
（い驚き起つ、驚き動く。○〔公羊二皆色然而―」。
（ろ驚き亂る、さわぐ。○〔戰二國人おどろかしむ、おどろかす。○〔呂氏春秋〕「鳴將レ―レ人」。
○ちる、ちらす〔散〕。○〔陸機〕三-后始基二武不レ承二協風穹一、天喜卯レ澄」。

駮 ハク、ボク。北角切 覺
○馬に似たる虎豹を食らふ獣の名。○〔詩二薾有二三―一」。
○駁に同じ。○〔漢〕文、賈盈二於九閽一、與二奥者不一レ能二遍諫一、是以耶國承用者」。

駮 ハク、ミヤク。莫白切 陌
駁―はらばば。

駩 セン。此緣切 先
駸に同じ、はやし。○〔杜甫〕源源石、間瀉二泓松上一」。

駺 ホウ、ヒュ。張流切 尤
―駿は、蕃地の大馬。

駪 シン。所鄰切 眞
馬の榮き貌にいふ字、物の多き貌にいふ字、おほし。○〔詩〕「―征夫」。

駪 駸に同じ。

駒 キウ、グ。巨九切 有
八歳の馬。

駒 俗の騨の字。

駈 シ、ニ。而止切 紙
駸―は、周の穆王の馬の名。

駭 カイ、ケ。侯楷切 蟹
○おどろく。
（い驚き起つ、驚き動く。○〔公羊二皆色然而―」。
（ろ驚き亂る、さわぐ。○〔戰二國人おどろかしむ、おどろかす。○〔呂氏春秋〕「鳴將レ―レ人」。
○ちる、ちらす〔散〕。○〔陸機〕三-后始基二武不レ承二協風穹一、天喜卯レ澄」。

駮 ハク、ボク。北角切 覺
○馬に似たる虎豹を食らふ獣の名。○〔詩二薾有二三―一」。
○駁に同じ。○〔漢〕文、賈盈二於九閽一、與二奥者不一レ能二遍諫一、是以耶國承用者」。

駮 ハク、ミヤク。莫白切 陌
駁―はらばば。

駩 セン。此緣切 先
駸に同じ、はやし。○〔杜甫〕源源石、間瀉二泓松上一」。

○黒き鬣ある白馬。かはらけうま。○〔詩〕噦々―馬」。○〔漢〕陰在レ巳」。
○落に通ト用ふ。○〔史二大荒―落、
駱 幹に同じ。○〔史二非子爲二周大―一。

駱 駕に同じ。

駕 レツ、レチ。良薛切 屑
次第して馳すはす。

駕 レイ。力制切 霽
○前條に同じ。○なる〔駟〕。

駒 前條に同じ。

馬先 駟に同じ。

七畫

駱 リン。良刃切 震
牝馬めうま。

駑 タン、ダン。徒亶切 旱
―馬は、ひきうま。駄馬。

駴 カイ、侯楷 ケ。切 蟹　居拜 卦 切
○鼓を雷撃す、どろ〳〵うつ、うつ。○〔周二鼓音―車徒音榮。
○駑に同じ。おどろく、おどろかす。○〔莊二聖人之所三以二天下一二。

駟 リウ、ル。力求切 尤
黒き鬣の赤馬くりげうま。○〔詩〕駟―是中」。
〔音義〕くりげうま。○〔論〕乘―一匹。

駹 マウ、モウ。莫江切 江
黒白の毛ある馬。まだらうま。面額の白き馬、つきびたひ、ひたひじろ、一説におなうま青馬。○〔漢二東方「一可也」。
○雑色のもの、まだらもの。○〔周二用レ

駸 キム、ク。許尤切 尤
駿馬。

駒 俗の駢の字。

駈 シ、ニ。而止切 紙
駸―は、周の穆王の馬の名。

駭 カイ、ケ。侯楷切 蟹
○おどろく。
（い驚き起つ、驚き動く。○〔公羊二皆色然而―」。
（ろ驚き亂る、さわぐ。○〔戰二國人おどろかしむ、おどろかす。○〔呂氏春秋〕「鳴將レ―レ人」。
○ちる、ちらす〔散〕。○〔陸機〕三-后始基二武不レ承二協風穹一、天喜卯レ澄」。

駮 ハク、ボク。北角切 覺
○馬に似たる虎豹を食らふ獣の名。○〔詩二薾有二三―一」。
○駁に同じ。○〔漢〕文、賈盈二於九閽一、與二奥者不一レ能二遍諫一、是以耶國承用者」。

駮 ハク、ミヤク。莫白切 陌
駁―はらばば。

駩 セン。此緣切 先
駸に同じ、はやし。○〔杜甫〕源源石、間瀉二泓松上一」。

駺 ホウ、ヒュ。張流切 尤
―駿は、蕃地の大馬。

駪 シン。所鄰切 眞
馬の榮き貌にいふ字、物の多き貌にいふ字、おほし。○〔詩〕「―征夫」。

駪 駸に同じ。

駒 キウ、グ。巨九切 有
八歳の馬。

駒 俗の騨の字。

駈 シ、ニ。而止切 紙
駸―は、周の穆王の馬の名。

駭 カイ、ケ。侯楷切 蟹
○おどろく。
（い驚き起つ、驚き動く。○〔公羊二皆色然而―」。
（ろ驚き亂る、さわぐ。○〔戰二國人おどろかしむ、おどろかす。○〔呂氏春秋〕「鳴將レ―レ人」。
○ちる、ちらす〔散〕。○〔陸機〕三-后始基二武不レ承二協風穹一、天喜卯レ澄」。

駮 ハク、ボク。北角切 覺
○馬に似たる虎豹を食らふ獣の名。○〔詩二薾有二三―一」。
○駁に同じ。○〔漢〕文、賈盈二於九閽一、與二奥者不一レ能二遍諫一、是以耶國承用者」。

駮 ハク、ミヤク。莫白切 陌
駁―はらばば。

駩 セン。此緣切 先
駸に同じ、はやし。○〔杜甫〕源源石、間瀉二泓松上一」。

駹 ホウ、ヒュ。張流切 尤
―駿は、蕃地の大馬。

駪 シン。所鄰切 眞
馬の榮き貌にいふ字、物の多き貌にいふ字、おほし。○〔詩〕「―征夫」。

駪 駸に同じ。

駒 キウ、グ。巨九切 有
八歳の馬。

駒 俗の騨の字。

駈 シ、ニ。而止切 紙
駸―は、周の穆王の馬の名。

駭 カイ、ケ。侯楷切 蟹
○おどろく。
（い驚き起つ、驚き動く。○〔公羊二皆色然而―」。
（ろ驚き亂る、さわぐ。○〔戰二國人おどろかしむ、おどろかす。○〔呂氏春秋〕「鳴將レ―レ人」。
○ちる、ちらす〔散〕。○〔陸機〕三-后始基二武不レ承二協風穹一、天喜卯レ澄」。

駮 ハク、ボク。北角切 覺
○馬に似たる虎豹を食らふ獣の名。○〔詩二薾有二三―一」。
○駁に同じ。○〔漢〕文、賈盈二於九閽一、與二奥者不一レ能二遍諫一、是以耶國承用者」。

駮 ハク、ミヤク。莫白切 陌
駁―はらばば。

駩 セン。此緣切 先
駸に同じ、はやし。○〔杜甫〕源源石、間瀉二泓松上一」。

（騂騂）前に同じ。○〔韓主曹臣頌〕「――騂」。

騂 セイ、シヤウ。息營切 庚
㊀赤黃色の馬。○〔詩〕「有レ―有レ騏」。
㊁赤色の牲。○〔書〕「文王―牛一、武王―牛一」。
㊂赤色。○〔周〕「凡糞レ種―剛用レ牛」。
㊃弓の調和せる貌にいふ字。○〔詩〕「――角弓」。

駭 ガイ、ゲ。五駭切 蟹
㊀おろか（癡）。○〔漢〕「內實―不レ曉二政事一」。
㊁勇ましく馬行くすゝむ。
（愚駭）おろかなること、又、其の者。○〔北〕「呵愚――」。
（朴駭）郡野にしておろかなること、又、其の者。○〔抱朴〕「鄙田舍――」。
（貪駭）强慾にしておろかなること。○〔獨孤及〕「――癡暴」。
（郎駭）身分賤しくしておろかなるもの。○〔馬融〕「――論膝」。
（拙駭）つたなくにぶし。○〔抱朴〕「以切磋之事、言騃――」。

駛 シ、ジ。妹史切 紙 チ、ヂ。丈里切
駛―は、獸の行く貌にいふ語。○〔張衡〕「羣獸駓―」。

駟 駟の本字。

䭾 ガ。五何切 歌

駾 タン、トン。丁紺切 勘
馬行くすゝむ。
冠冊による。

八畫

騐 俗の驗の字。

騊 ト、ツ。土故切 遇
騊―は、良馬。

騄 リヨク、ロク。力玉切 沃
―耳は、駿馬。

騅 スヰ。職追切 支
蒼白雜毛の馬、あしげ。○〔詩〕「有レ―有レ駓」。

騲 タク、トク。竹角切 覺
―鵲は、馬前まざる貌にいふ語。

騇 シヤ、セ。始夜切 禡 書冶切 馬
めうま（牝馬）。

騊 タフ、ドフ。徒合切 合
駊―は、馬の行く貌にいふ語。

騂 スヰ。七醉切 寘
うまのくちとり、うまおひ、まご（馬卒）。

騄 リク、ロク。力竹切 屋
たけきうま（健馬）。

騈 ヘン、ベン。部田切 先 ヘイ、ビヤウ。
旁經切 青
㊀ならぶ。
(い)二馬を駕す。○〔書傳〕「乘二飾車一―馬二」。
(ろ)陳列す、比鄰す、となる。○〔張衡〕「夾二蓬萊一而―羅」。「則覺――」。
㊁朋比す、くむ。○〔管〕「入則乘―簪、出以二―聯二從」。
㊂ならび、なみ、となり、くみ。○〔史〕
㊃贅物の旁に出づること、又、旁出の贅物、むだもの。○〔莊〕「―拇枝指出二乎性一哉」。
㊄餅に同じ。○〔左〕「聞二其―脅一」。

騀 エン。烏前切 先
馬の行く貌にいふ字。

騇 ケフ、コフ。苦劫切 葉
馬前ますとゞまる。

騋 涴に同じ。

騑 ベイ、ミヤウ。謨京切 庚 眉永切 梗
あせうま（汗馬）。

騉 コン。古渾切 元
―蹄は、馬の名。

騅 チユ。株遇切 遇
馬行かずすゝます。

騷 スヰ。醉綏切 紙
小なる貌にいふ字。

騹 スヰ。子垂切 支 之壘切 紙
㊀馬の小なる貌にいふ字。㊁重騎。

騌 フウ、ブ。扶缶切 有
馬盛んなり、さかんなり、一說に、盆す。

騧 クツ、コチ。曲物切 物
―產は、良馬。

騣 テツ、テチ。株劣切 屑

騊 タウ、ドウ。徒刀切 豪
白額の馬、うびたひ。

騋 ライ。落哀切 灰 洛代切 隊
―牝は、良馬の名。
高さ七尺以上の馬。○〔詩〕「――牝三千」。

騂 ガン、ゲン。五旰切 翰
㊀騂―は、馬の行く貌にいふ字。
㊁額より脣まで白き馬、ひたひじろ。

騙 ガン、ゲン。魚凋切 諫
馬の首。

騂 カウ、コウ。枯江切 江
馬の行く貌にいふ字。

騌 俗の騣の字。

騍 クワ。苦臥切 箇
めうま（牝馬）。

騎 キ、ギ。渠羈切 支
馬に跨がる、またがる、のる。○〔史〕「常―レ之」。
（善騎）たくみに馬にのる。○〔漢〕「――習射」。
（兩騎）一馬に前後して二人相乘ること。○〔晉〕「與婢――而還」。

騎 キ。奇寄切 寘
㊀馬にのれる兵、馬にのれる人、うまのり、きへい。○〔禮〕「前有二車―一」。
㊁きへいうまのりのれる馬、のりうま、うま。○〔庾信〕「連二―長楊一」。

㊂きへいうまのり又はのりうまの數にいふ字。○〔史〕「乃有二二十八―一」。
（車騎）(い)馬を駕してひかしむる車、又、戎車の將をいふ。○〔漢〕「諸有――」。(ろ)星の名。○〔星經〕「――三星在二騎官南一、主二車騎行軍之事一」。
（斥騎）敵をうかゞふ馬軍。○〔史〕「見二候騎一以爲二――一」。「一軍驚」。
（突騎）馬軍の將。○〔後漢〕「吳漢將二――一來會」。
（遊騎）遊軍偵察の騎卒。○〔唐〕「領二――一所二困」。
（輕騎）行列の騎卒。○〔漢〕「從車――」。
（驍騎）馬軍の將、又、たけき馬軍。○〔東都賦〕「――驍騎」。
（羽騎）前に同じ。○〔魏〕「羽以――讓之」。
（飛騎）前に同じ。○〔唐〕「騎七營――」。
（游騎）前に同じ。○〔唐〕「府兵從騎而爲――」。
（虎騎）前に同じ。○〔魏〕「乃欲二――一來鑿」。
（單騎）一騎のみ。○〔徐陵〕「――歸」。
（鐵騎）前に同じ。○〔史〕「脫レ身――」「之」。
（精騎）前に同じ。○〔後漢〕「擢二右校――一追撃」。
（探騎）ものみの騎士。○〔史〕「――至二邪甘泉一」。
（從騎）ともの騎士。○〔曾松〕「時平無二――一」。
（輕騎）輕裝の馬軍。○〔史〕「――切龍馬侯生」。
（壯騎）つよき騎士。○〔史〕「遣二――二千八一」。
（强騎）前に同じ。○〔北〕「高坊牽二――一」。
（後騎）赤衣を着たる禁軍馬隊の名。○〔後漢〕「――一二百人」。
（羽騎）禁軍羽林の騎兵。○〔張衡〕「――雷巖」。
（胡騎）えびすの馬隊。○〔晉〕「晉須――所謂騎兵」。
（追騎）おひての騎士。○〔史〕「財二較――一」。
（鹿騎）前に同じ。○〔唐〕「――數百不レ敢近」。
（象騎）たけき馬隊。○〔漢〕「――動レ濃」。
（飛騎）前に同じ。○〔魏、註〕「分、穰、曳、有二――一秋・千」。
（神騎）神靈の騎兵、又、馬隊の稱。○〔陸〕「伏レ鬼・曰雷騎、曰――」。
（良騎）よき騎士。○〔後漢〕「――野合」。
（精騎）つよくすぐれたる馬隊。○〔後漢〕「――帳行」。

（步騎）步兵と騎兵と。○〔晉〕「綏――六萬、營城」。
（卒騎）士卒の乘る馬。○〔吳〕「凡當――」「方乎」「――望前」。

騏 キ、ギ。渠之切 支
毛の文の博棊（すごろくのこま）に似たる靑驪、くろみどりのこま。○〔詩〕「駕二我―弈一」。
（白騏）白騏。○〔古今注〕「兗州人呼二白騏一爲―」。

駼 ゲイ、ガイ。五奚切 齊
小さき馬。

驗 俗の驗の字。

騝 ヨク、雨逼 キヨク、忽域 切 職 ヰキ。切 ケキ。切
騝―は、馬の走る貌にいふ語。

騤 ロウ。耶䭾切 徑
―駝は、馬の病ひ。

駿 餧に同じ。

騑 ヒ。甫微切 微
㊀驂馬のなかにて左右にある兩馬の稱、そへうま。○〔禮、註〕「兩馬夾レ轅名二服馬一、兩邊名二―馬一」。
㊁馬行きて止ごまらざる貌にいふ字。○〔詩〕「四牡――」。
㊂三歲の馬。○〔本草〕「馬三歲日レ―」。
（騑驂）車に駕する四馬の中の兩邊にあるもの、そへうま。○〔禁馬〕「――如レ御」。

九畫

騅 ダウ、ノウ。乃老切 皓
騲―は、馬の名。

駒 タウ、ヂヤウ。除庚切 庚
馬住どまる貌にいふ字、とゞまる。

騣 サフ、ゼフ。實洽切 洽
馬行く、馬驟る、ゆく、はしる。

騤 エフ。弋涉切 葉
馬の輕く行く貌にいふ字。

騣 エウ。伊鳥切 篠
―褭は、良馬。○〔司馬相如〕「駕二――一」。

騠 ギヨウ、グ。魚容切 冬
顒に同じ、大いなる貌にいふ字。

騨 コン、ゴン。戶昆切 元
―騾は、野馬。

騖 ブ、ム。亡遇切 遇
亂馳す、かけまはる、かけまはす、はす。○〔淮〕「―悦・忽」。
（驕騖）はす、又、はせまはる。○〔史〕「此布衣――之時」。
（時騖）前に同じ。○〔後漢〕「――乎其中」。
（電騖）いかづちの如く疾くはす。○〔後漢〕「驅驟――」。
（競騖）きそひて馳す。○〔張衡〕「直騎――」。
（騰騖）疾くのぼりあがる。○〔十洲記〕「鮫鯖――」。
（幷騖）疾く馳す。○〔銅色〕「背二玉門一而――兮」。
（馳騖）前に同じ。○〔李充〕「――騁涇」。
（迅騖）前に同じ。○〔夏侯淳〕「飛騖化以――」。
（風騖）風のとぶが如くに疾くはす。○〔傅休奕〕「雷駭――」。

騣 前條に同じ。

騙 ヘン。匹戰切 霰
躍りて馬に乘る、とびのる。

驄 驄に同じ。

騗 騙に同じ、俗に、たばかる。

騤 タン、トン。他紺切 勘
馬前に步むすゝむ。

騶 シユン。尺尹切 軫
㊀雜文の馬、まだらうま。
㊁鈍下の馬、にぶきうま。

騚 セン、ゼン。昨先切 先
四蹄皆白き馬。

騛 カイ。戶皆切 佳
馬和ぐ、なる。

騠 ヒ。甫微切 微
㊀―兔は、古の駿馬。㊁逸足の馬。

騸 セン。須緣切 先
―䮸は、馬の名。

騜 クワウ、ワウ。胡光切 陽
黃白色の馬、たろかげ。

騝 ケン、渠焉 ゲン。切 元 ケン、居言 コン。切 元
黃脊の騂馬、きなろせのくりげ。

騣 シウ、所鳩 シユ。切 尤 ソウ、蘇后 ス。切 有
㊀騶―は、番中の大馬。
㊁馬の銜を搖かして走る、はしる。

【騞】クヮク、カク。霍虢切 バク、ミヤク。莫白切 テキ、チヤク。土益切 陌
❶行きて止まらず、はしる。❷牛を解く聲にいふ字。○[莊]「奏レ刀—然」。

【騟】ユ。羊朱切 虞
紫色の馬。

【騠】テイ、ダイ。杜奚切 齊
駃の條を見よ。

【騨】俗の驒の字。

【䮘】ダン、ダン。徒玩切 翰
款—は、馬の緩く行くこと。

【騢】カ、ケ。胡加切 麻
緒白色の雑毛ある馬、まだらうま。○[爾]「彤白雜毛—」。

【騣】ソウ、ス。子紅切 東
鬣、たてがみ。○[杜甫]「隅目靑熒夾鏡懸、肉騣碨礧連錢動」。

【䮗】ヒツ、ピチ。薄必切 質
駜に同じ、馬の肥えて壯んなる貌にいふ字、馬食に飽く貌にいふ字。

【騪】駿に同じ。

【騤】キ、ギ。渠追切 支
馬の行くに威儀ある貌にいふ字、たけし、又、强めて息まざる貌にいふ字、つとむ。○[詩]「四牡——」。

【駃】ケツ、ケチ。古穴切 屑
—騠は、背に同毛あること。

【䮜】サフ、セフ。士洽切 洽
はしる(騥)、又、馬の行く貌にいふ字。

【騥】ジウ、ニユ。耳由切 尤
美髦の靑驪。

【䮋】サ、セ。所瓦切 馬
背ふ所の當たらざること、そらごと、いつはり。

【騚】カン、ケン。諧閑切 删
馬の鬣みを習ふにいふ字、ならぶ。

【騧】クヮ、ケ。古華切 麻
喙の黒き黄馬。○[詩]「—驪是驂」。
(騧騧)はりきりたる黄馬。○(成廷珪)「白鼻—」。
(騧驪)くりげ馬。○(高啓)「背‐酒騧‐駒多—」。

【騣】駿に同じ。

【騒】騒に同じ。

十畫

【騩】キ。倶位切 寘 居追切 支
淺黒色の馬、くろくりげ。○[漢儀]「乘二—馬—白レ府歸」。

【騩】キ。居韋切 支
山の名。○[漢]「大—山」。

【騪】シウ、シユ。踈鳩切 尤
❶寄中の大馬。❷さがす、もとむ(搜)。

【騫】ケン。丘乾切 先 ケン、コン。怯建切 願
❶かく(虧)。❷馬の腹の病ひ。○[詩]「不レ—不レ崩」。❸輕儇躁進の貌にいふ字、かろがろし、さわがし。○[柳宗元]「杳杳——」。

【䮿】ケン。九件切 銑
にぶきうま、おそきうま。

【騻】サウ。蘇郎切 陽
黄色白尾の馬。

【騡】サウ。寫朗切 養
騯—は、馬の貌にいふ語。

【騒】騷の本字。

【騬】ショウ、ジョウ。食陵切 蒸 石證切 徑
馬の勢を剗く、へのこきる、又、其の馬。○[周註]「攻レ特謂レ—之」。

【䮡】キ、ケ。許既切 未
馬走る、はしる。

【䮤】タウ、ダウ。徒郎切 陽
馬の色。

【䮫】キ、ゲ。渠宜切 支
馬の項の上のたてがみ。

【䮦】カク、ガク。下各切 藥 ガク、ゴク。逆角切 覺 クヮク。忽郭切 藥
馬の白き額、ひたひじろ。

【騡】ボウ、モウ。莫紅切 東 蒙弄切 送
驢の子。

【䮞】テン。都年切 先
馬の白き額、うびたひ。

【䮥】レキ、リヤク。郞擊切 錫
馬の色。

【騭】シツ、シチ。職日切 質 チヨク、チキ。竹力切 職
❶牡馬、をうま。○[爾]「牡曰レ—」。❷のぼる(陟)。○[爾]「—陞也」。❸さだむ(定)。○[書]「陰二—下民一」。

【騊】タウ、トウ。土刀切 豪
馬の行く貌にいふ字。

【䮝】リヨ、ロ。良倨切 御
つぎうま(傳馬)、はやおひ(急遞)。

【驏】テン。陟扇切 霰
馬の土に轉び臥すにいふ字、まろぶ。

【䮚】チン。烏渾切 元
—騮は、駿馬。

【騮】リウ、ル。力求切 尤
毛尾黒き赤馬、かげ、くりげ。○[杜陽雜編]「一騅如意—」。
(紫騮)あかくりげの馬。○[晋]「夫——不レ進」。
(紫騮)前に同じ。○(徳陽)「金——」。
(金騮)くりげ馬。○(常注)「——輝耀」。

【騯】ハウ、ビヤウ。蒲庚切 庚

馬行く貌にいふ字、又、壯盛の貌にいふ字。○[詩]「四牡——」。

【䮬】ハウ、バウ。步光切 陽 逋朗切 養
馬盛んなる貌にいふ字。

【騰】トウ、ドウ。徒登切 蒸
❶のぼる、のぼす(升)。○[淮]「蹈二—崑崙一」「—止」。❷あがる、あぐ(擧)。○[史]「亢‐鳥—而」。❸のろ、のす(乘)。○[楚辭]「—二騷‐龍一以驂‐逐」。❹躍る。○[韓愈]「馬—二于槽一」。❺超ゆ。○[張衡]「乃奮翅而—驤」。❻馳す。○[楚辭]「目—レ光些」。❼傳ふ。○[淮]「子產—レ辭」。❽ますゆくつぎうま(傳)、一說に、へのこきりたるうま(犗馬)。❾騰に通じ用ふ、おくる。○[儀]「衆‐人—二羞者一、盡レ階不レ升レ堂、授以レ盡降出」。
(騰躍)わきあがる。○[詩]「百‐川——」。
(上騰)のぼる。○[禮]「地‐氣——」。
(騰驤)とびあがる。○[楚辭]「吾令二鳳‐鳥——」「兮」。
(奔騰)はせのぼる。○[蘇軾]「——過二神州一」。
(騫騰)翔け揚がること。○[劉永之]「逸‐思——八‐極」。
(喧騰)評判の高きこと。○[舊唐]「——于當代二」。
(涌騰)水の湧れて陸などにあがること。○[淮]「——大‐荒之野二」。
(蒸騰)蒸發す。○[元稹]「川‐澤方——」。
(飛騰)龍の如く勢ひさかんにのぼる、又、英雄などの飛起するさまにいふ語。○[揚雄]「鳳‐翔——、沛二」。
(超騰)飛び超ゆ。○[劉禹]「——絕レ阪」。
(沸騰)水などのふきあがるにいふ語。○[王褒]「鼓‐怒以——」。
(升騰)をどりあがる、又、のぼりあがる。○[後漢]「——躍——」。
(奮騰)たちまちにをどりあがる。○[史]「奮——上」。
(飛騰)高くそばだちあがる。○[張衡]「秀‐峰——」。
(騰踏)はす。○[韓愈]「人‐馬何——」。
(登騰)上官などをのぼりつたふ。○[晉]「——韜‐旨二」。
(歡騰)よろこびてをどりあがる。○[玉海]「歸宜——」。
(浮騰)からだを輕くうかしをどること。○[鮮賦]「———異レ觀」。

【騱】ケイ、カイ。堅奚切 齊
前足の白きうま。○[爾]「前‐足皆白—」。

【騲】サウ、ソウ。采老切 皓
牝畜の通稱、めす。○[顏氏家訓]「今以二詩‐傳良‐馬一通二於牧—一、恐失二毛‐氏意一」。

【䮳】キ。九利切 寘
❶驥に同じ、千里の馬。❷冀に通じ用ふ、こひねがふ。○[禮註]「大‐夫勤二于朝一、州‐里—二于邑一」。

【驕】ケウ。居喬切 蕭
高さ六尺の馬。

【䯫】アウ、オウ。烏高切 豪
馬の行く貌にいふ字。

【騳】トク、ドク。徒鹿切 屋
馬走る、はしる。

【驁】ゴウ、グ。五豆切 宥
馳するに齊しからず、亂れ走る。

【䮭】カツ、ケチ。丘瞎切 黠
まだらうま、ぶちうま(駮馬)。

【騴】アン、エン。於諫切 諫
尾の本の白き馬。

【騵】ゲン、グワン。愚袁切 元
白腹の騮馬、かげうま。○[詩]「四—彭‐彭」。

【䮱】カン。侯旰切 翰
毛の長き馬。

【䮱】カン、ガン。胡安切 寒
駁—は、蕃中の大馬。

【騶】シウ、ス。側鳩切 尤
❶—虞は、尾は身より長き獸にして生草を履まず自死の肉を食らひ至德の感應によりて見はるといふ靈獸の名。❷廄御、うまかひ。○[詩]「于嗟乎—虞」。○[禮]「季‐秋天‐子敎二於田‐獵一、命二僕及七—一咸駕」。❸騎士、うまのり。○[後漢]「爲二左‐右—一」「入レ谷」。❹騎馬、のりうま。○[孔德璋]「鳴—」。❺瘦に同じ、善き矢。○[漢]「材‐官—發、矢‐道同レ的」。❻趨に同じ、はしる。○[荀]「步中二武‐象一、—中二韶‐濩一、以養レ耳」。
(騶從)おはくの騎御の馬。○[謝朓]「出——」「於‐驛‐陌二」。
(騶騎)騎士のこと。○[後漢]「左右——」。
(騶御)御騶のくりげ馬。○[褚亮]「——出‐轉中二」。
(騶騎)前に同じ。○[通典]「——滿レ路」。

【䮴】ソウ、ズ。才候切 宥
驟に同じ。○[禮]「車驅而—」。

【䮨】サイ、セ。子亥切 賄
雑毛驄色の馬、あしげうま。

【騖】ブ、ム。亡遇切 遇
はす(馳)、かろし(輕)。

【䮍】テフ、トフ。他協切 葉
赤黒色の馬。

【䮧】コツ、コチ。古忽切 月
—跌は、獸の名。

【䮟】シ。霜夷切 支
野馬。

【䮰】タフ、トフ。土盍切 合
驊—は、馬進まざること。

【騷】サウ、ソウ。蘇遭切 豪 セウ。先彫切 蕭
❶擾動す、擾動せしむ、うごく、うごかす、みだる、さわぐ、さわがす。○[詩]「徐‐方‐繹—」「日レ—」。❷あしなへ(跛)。○[揚雄]「吳‐楚偏‐蹇」。❸うれふ(愁)。○[國]「遷‐者—離」。❹戰國時代、楚の屈平の放逐せられて忠憤の情に堪へず忠姦正邪を物に喩へて有名なる離騷の賦を作りしにちなみて、後世其の賦及び屈平の他の作さ楚人宋玉の屈平に倣ひたる詞賦及び其の詞體の稱にいふ字。○[杜牧]「雖二奴‐僕命一レ—可也」。❺轉じて隱遁して詩賦を作ることなどにいふ字。○[李白]「哀‐怨起二—人一」。❻急疾の貌にいふ字、擾動の貌にいふ字、にはか、さわがし、あわただし。○[禮]「——爾則野」。❼さぶし、すゞし(淒‐涼)。○[歐陽修]「君‐誤今巳白‐刀—」。

㈧風の勁き貌にいふ字、風の吹く聲にいふ字。○〔張衡〕「拂ニ穹・䬟之ーー」。
〔颯颯〕詩賦のとにも颯颯蹴事にもいふ。○〔宮選〕「秋・興引ニーー」。〔蕭颯〕なにとなくものさびしく荒涼なること。○〔宰柱〕「須・挺風・削竹ーー」。〔慄颯〕おそろ言さわぎて安からざること。○〔王安石〕「宿俸漫書散ーー」。〔驟颯〕おそれさわぐ。○〔唐〕「淮汴ーー」。

騷　サウ、ソウ。蘇老切 號　先到切 號
掃に通じ用ふ、はらふ。○〔史〕「大・王宜レーニ淮南之兵ニ」。

[illegible]　騐に同じ。

騸　セン。式戰切 霰
㊀勢を割く、へのこきる。○〔肘後經〕「ーー馬宜・牛」。㊁樹を接ぐこと、つぎ木。「有ニーー樹法ニ」。○〔月令廣義〕

騹　驥に同じ。○〔荀〕「驊・騮ー騹」。

[illegible]　騶に同じ。

騬　ショウ、ゾウ。食陵切 蒸
勢を割きたる馬。

十一畫

[illegible]　ロウ、ル。耶侯切 尤
大なる騾馬。

驉　驢に同じ。

騺　チ。陟利切 寘
㊀馬很る、もとる、一說に、馬の重きに苦しむ貌にいふ字、一說に、馬脚の曲がるにいふ字、又、馬重くして泥に陷る貌にいふ字。○〔史〕「惠・公馬ー而不レ能レ行」。㊁ーー㚈は、馬の遲く鈍き貌にいふ語、一說に、馬旁より出づ。

[illegible]　ショウ、シュ。書容切 冬
にぶきうま（駑・馬）。

騻　シヤウ、サウ。所兩切 養　色莊切 陽
騻ーは、古の良馬。

[illegible]　リ。鄰知切 支
騾馬の子。

[illegible]　騸に同じ。

[illegible]　サン、セン。所簡切 潸
馬の名。

騼　ロク。盧谷切 屋
騼ーは、馬の屬、一說に、野馬。

騽　イフ。爲立切　シフ。席入切 緝
㊀黄脊の騽馬、かげ。㊁秦骭の馬、ながきけずれのうま。

[illegible]　エイ、アイ。烟奚切 齊
黑色の馬、くろうま。

騾　ラ。落戈切 歌
驘に同じ、らば。○〔神仙別傳〕「乘ニ靑ーー」。
〔駃騾〕またらのらば。○〔洞冥記〕「修・彌國獻ーー」。〔駝騾〕らくだとらばと。○〔魏〕「有好馬ーー」。

[illegible]　ベキ、ミヤク。莫狄切 錫
㊀くせわろきうま、はねうま、人を嚙む馬。㊁馬驚き覩る、おどろく。

驀　バク、ミヤク。莫白切 陌
のる（騎）、こゆ（超）。○〔李賀〕「煙・底ーー波乘ニ一・蘂ニ」。

驀　バ、メ。莫駕切 禡
のぼる（登）。

[illegible]　バク、ミヤク。莫獲切 陌
[illegible]ーは、騾馬の屬。

驁　ガウ、ゴウ。牛刀切 豪　魚到切 號
㊀駿馬、よきうま。○〔呂氏春秋〕「良・馬不レ期ニ乎驥ーー」。㊁おごる。（い）馬の柔順ならざるにいふ字、人の不遜なるにいふ字。○〔漢〕「諸・公稍自引而怠ー」。（ろ）輕んじて受けず、かろんず。○〔呂氏春秋〕「士ーーニ祿・爵ニ」。
〔驁驁〕不屈にしてたけきよ。○〔韓愈〕「孕・材實ーー」。〔驕驁〕たけくすぐれたる馬、又、おごりて柔順ならざること。○〔漢〕「卑多ーー」。〔桀驁〕わるづよし。○〔唐〕「而ーー」。〔猾驁〕前に同じ。○〔晚、註〕「北性ーー」。〔悍驁〕おごりて勳勉ならぬ。○〔漢〕「諸公稍自引」。

驁　ゲウ。牛召切 嘯
驐ーは、馬の行く貌にいふ語。

驐　驚に同じ。

驂　サン、ソン。倉含切 覃
㊀車に駕する三頭の馬、又、そへうま、騑馬。○〔儀〕「以ニ左ーー出」。㊁鄙者の尊者に陪して同車すること、車駕に尊者は左に居り御者は中に居り車の傾かざるために更に一人の者をして右に居らしむるを古昔の乘車の法となしたるよりいふ。○〔左〕「使ニ職ー・乘ニ」。
〔兩驂〕車に駕したる服馬の外にそへたる兩馬の稱。○〔詩〕「ーー如レ舞」。〔副驂〕七頭の道路。○〔周〕「七驂謂之ーー」。〔駢驂〕服馬の左右のそへうま。○〔晉〕「左右ー」。〔疾驂〕すぐれたるそへ馬。○〔魏〕「驟驂ーー」。〔征驂〕遠行の車に駕したる馬。○〔王勃〕「長路噂而ーー動」。〔疲驂〕つかれたるそへ馬。○〔謝朓〕「ーー良夜」。〔寒驂〕前に同じ。○〔潘岳〕「ーー蒼蒼々」。

驃　ヘウ、ベウ。毗召切 嘯
㊀白き色を發せる黃馬、まらかげ、一說に、白き鬣尾の馬。㊁馬の疾行する貌にいふ字、はすし。㊂つよし、いさむ（驍・勇）。

驃　ヘウ、ベウ。卑笑切 嘯
黃色馬。○〔岑參〕「君家赤ー畫不レ得」。

驄　ソウ、ス。倉紅切 東
菌青馬、荏馥馬、あをうま、あしげ。○〔後漢〕「常乘ニ一馬ニ」。

驅　ク、コ。豈俱切 虞　區遇切 遇
[illegible]　キウ、ク。袪尤切 尤
かる。（い）おふ（逐）。○〔禮〕「ー・五・穀ニ」。（ろ）はす（馳）。○〔易〕「王用三ーー失ニ前・禽ニ」。

〔驅馳〕馬をはす。○〔詩〕「載・馳ーー」。〔驅驅〕とく馬をはしらす。○〔唐〕「開放ーー」。〔驅驂〕さきを爭ひて馬をはしらす。○〔後漢〕「不レ避强禦王車騎ーーー」。〔前驅〕行列のさきども、さきのり。○〔詩〕「爲レ王ーー」。〔先驅〕前に同じ、又、軍の先鋒にもいふ。○〔史〕「百夫荷レ殳以ーー」。〔長驅〕遠く敵を追ひ行く。○〔戰〕「ーー至レ齊」。〔安驅〕ゆる〳〵と馬をかる。○〔九歌〕「撫ニ余・馬ー兮ーー」。

[illegible]　タク、チヤク。陟革切 陌
ー駼は、騾馬の屬。

[illegible]　チク、ドク。直六切 屋
羣馬相追ふ、おふ。

[illegible]　驪に同じ。

十二畫

驈　井ツ、餘律切　井チ　質　シュツ、食聿切　ジュチ　質　キツ、戶橘切　ギチ　質
膀の白き馬。○〔詩〕「有レー有レ騜」。

[illegible]　カン、ゲン。戶閒切 刪
一目の白き馬。

[illegible]　前條に同じ。

驉　キョ、コ。朽居切 魚
駏ーは、騾馬に似たる一種の獸。

驊　クワ、ゲ。戶花切 麻
ー騮は、駿馬。

驋　ハツ、ハチ。北末切 曷
㊀馬走る、はしる。㊁馬怒る、いかる。㊂馬首を搖かす、かしらふる。

驜　騜に同じ。

驌　シュク、ソク。息逐切 屋
ー驦は、古の良馬。

驍　ケウ。古堯切 蕭
㊀勇健、たけし、つよし。○〔宋孝武帝〕「義・政還ニーー氣ニ」。㊁良馬。㊂投壺の技にて壺に投げ入れたる矢の躍り出でて地に墮ちざること、投壺の技の最もすぐれたる伎倆なりとす。○〔西京雜記〕「郭・舍・人能ニ投・壺一箭七十餘ー」。
〔驍々〕たけくいさむ貌にいふ語。○〔詩〕「ー征・夫ー」。

[illegible]　レイ、ライ。郎奚切 齊
桃ーは、つきげうま。

[illegible]　リ。良脂切 支
騑ーは、馬に似たる獸の名。

[illegible]　驎に同じ。

驎　リン。里刃切 震　力珍切 眞
㊀黑き脣の馬。㊁斑文ある馬、まだらうま。

驏　サン、ゼン。鉏版切 潸
馬に鞍を施さゞること、はだかうま。○〔令狐楚〕「少・小邊・州慣ニ放・狂ニ、ーー騎・馬射ニ黃・羊ニ」。

驐　トン。都昆切 元
畜類の勢を去るにいふ字、へのこきる。

[illegible]　ヘン、ボン。附袁切 元
生養せるもの〻蕃ゆるにいふ字、ふゆ、そだつ。

驑　騮に同じ。

[illegible]　トウ、ドウ。徒亙切 徑
トウ。他登切 蒸

[illegible]　キョク、ケキ。迄力切 職
㊀行きて倒れんと欲す、たふれかゝる。㊁驙ーは、馬の病ひ。
馬走る、かける。

[illegible]　カン。河千切 寒
馬多き貌にいふ字。

[illegible]　トウ、ドウ。徒東切 東
馬の名、一說に、小さき馬。

驒　タ、唐何切 歌　タン、徒干切 寒　テイ、都黎切 齊
ダ　ダン　タイ
㊀ー騱は、野馬。㊁錢の黑き白馬、一說に、連錢驄、あしげ。○〔詩〕「有レー有レ駱」。

驒　テン。都年切 先
ー騱は、馬に似て小さき一種の獸。

驓　ショウ、疾陵切 蒸　ソウ、昨亙切 徑
ゾウ
膝の下の白き馬、あしぶち。

驔　テン、徒玷切 琰　タン、徒含切 覃
デン　ドン
黃なる脊の驪馬、くろくりげ、一說に、脛の毛の白き馬。○〔詩〕「有レー有レ魚」。

[illegible]　キ、ゲ。巨希切 微
うま（馬）。

[illegible]　サウ。息郎切 陽
尾の白き馬。

[illegible]　サウ。師莊切 陽
騯ーは、淺黃色の馬。

驕　ケウ。舉喬切 蕭
㊀馬のたけ六尺あるにいふ字、又、壯んなる貌にいふ字。○〔詩〕「四・牡有レー」。㊁おごる。（い）馬控制に從はず。○〔楚國輔〕「白・馬ー不レ行」。（ろ）驕れす。○〔周書〕「譬若ニ畋・犬ー用逐レ禽」。（は）慢る、輕んず。○〔戰〕「勝而不レー」。（に）矜る、高ぶる。○〔呂氏春秋〕「ーニ得レ道之人ニ」。（ほ）無禮、放縱、ぶしつけ、ほしいまゝ。（へ）禁ずべからざる勢あるにいふ字。○〔孝〕「在レ上不レー」。○〔莊〕「僨ーー而不レ可レ係者其惟人・心乎」。㊂寵す。○〔戰〕「ーニ張・儀ー以ニ五・國ニ」。
〔矜驕〕たかぶりほこる。○〔晉春〕「寄驕由」。〔驕々〕盛んなる貌にいふ語。○〔詩〕「無田甫田、維莠ーー」。〔驕蹇〕おごりて君命に逆ふ。○〔詩〕「驕將ーー」。〔怜驕〕人柄あらくして從順ならぬ。○〔詩〕「河北ーー」。

驕　ケウ。嬌廟切 嘯

馬の行く貌にいふ字、又、ほしいまゝ、（謝恣。）○〔史〕二天蓋樹以—驚兮。

驕 ケウ。驕縱切 蕭

猛に同じ、短き喙の犬。○〔詩〕載獫歇—。

驀 驟に同じ。

驟 レフ、ロフ。良涉切 葉

ふむ、踐。

十三畫

驚 ヨ、オ。以諸切 魚 羊洳切 語

馬徐かにして疾し。

驅 トク、徒谷切 屋 ソク。仕足切 沃

○馬の行く貌にいふ字。○驅—は、野馬。

○將軍の牙旗たいしやうのはた。○〔宋二祭廷立伏爭レ驅旗二角觸奔熊羆太平顯扇鎗鏡嚇—驅牙。

驌 アク、於角切 覺 カク、コク。古岳切 藥

馬の行く貌にいふ字。

驥 テツ、テチ。他結切 屑

赤黒色の馬、くろくりげ。○〔詩〕騏—孔阜。

驗 ゲン。魚窆切 豏

○ためし。○〔史〕何以爲レ—。○〔謝靈運〕驗—者疾易レ銷。

驒 ケウ。驍縱切 蕭

猛に同じ、短き喙の犬。○〔楚辭〕同三驕—興二猼豽一兮。

驃 ヘウ。卑遙切 蕭

鏢に同じ、くつばみ、くつわ。○王元長「燭龍琴輕—」。

驍 レイ、耶爻切 肴 リ。良脂切 支

驕—は、馬の屬。

十六畫

驙 エン。伊甸切 銑 烏前切 先

白き尻の馬。

驢 リヨ、リユ。良用切 鍾

龍に同じ。

驤 リヨウ、リユ。力鐘切 冬

首を擧る。

驩 リヨウ、リユ。力鐘切 冬

のうま（野馬）。

驪 サウ。子期切 蒸

馬の色。

十五畫

驟 レキ、リヤク。郎篤切 屋

馳に同じ。

驢 シヤ、銀銛切 麻 ジユ。切 虞

○はす。

（い）疾歩すはしる。○〔詩〕載—載驅。（ろ）疾歩せしむ、はしらす。○〔莊〕「驅之—之。

○急疾、とく、にはかすみやか。○〔老〕「—雨不レ終レ日。

（い）まばゝ（數）。○〔左〕晉館—來。（陸璣）馬などのすこしくはさむ脚をすてゝすこしくはやく歩むと、又、攻めて疾くはせるにもいふ。○〔史〕「—一數直。（繁露）前低同じ。○〔韓詩〕「—一相及。（淮南）疾く列る。○〔莊〕「驅見之—」。

驤 ヘン、ホン。符眞切 元

—駿は、とゞまる。

驥 レフ、ロフ。力涉切 葉

馬行く。

驪 ラフ、ロフ。力盍切 合

—駿は、馬進まざると。

驫 クワウ。古黄切 唐

興—は、四毛の背に在る馬。

驗 ケイ、キヤウ。呼正切 敬

馬怒る、いかる。

驄 ヘウ。卑遙切 蕭

鏢に同じ、くつばみ、くつわ。○王元長「燭龍琴輕—」。

驍 レイ、耶爻切 肴 リ。良脂切 支

驕—は、馬の屬。

十六畫

驙 エン。伊甸切 銑 烏前切 先

白き尻の馬。

驢 リヨウ、リユ。良用切 鍾

龍に同じ。

驤 リヨウ、リユ。良用切 鍾

首を擧る。

驩 リヨウ、リユ。力鐘切 冬

のうま（野馬）。

驪 サウ。子期切 蒸

馬の色。

十七畫

驤 ジヤウ、ナウ。息良切 陽

（い）馬首昂がる、のる。○〔六書故〕「馬行迅疾首驤—」。

（ろ）遠く擧がる。○〔莊〕「龍—虎—」。

○驕す躍る。○〔張衡〕「奮レ翅而驤—」。

驫 キ、九利切 寘

○千里の馬、駿足の馬。○〔戰〕「竝レ—而走者五、里而罷。

驪 ケイ、エ。戸圭切 齊

○才能俊れたる者の稱にいふ字。○〔白帖〕「劉正見、弟二人、時號二兩—一。

驪 シヤウ、サウ。色莊切 陽

所商切 陽

擊—は、良馬。○〔郭璞〕驪—軒レ羣。

驫 キク、コク。居六切 屋

馬躍る、はぬ、などる。

驥 キク、コク。居六切 屋

背の曲がりたる馬。

驤 俗の驤の字。

驩 カク、古岳切 覺 カク。易各 藥

白き額の馬、ひたひじろ。

驚 トウ、ドウ。徒登切 蒸

驚に同じ。

驟 馳る、などる。

十七畫

驤 ジヤウ、ナウ。息良切 陽

後右足白き馬。○〔爾〕「後右足白—」。

あがる。

驥 キ、九利切 寘

○千里の馬、駿足の馬 ○〔戰〕竝レ—而走者五、里而罷。

驩 俗の驤の字。

驪 トウ、ドウ。徒登切 蒸

○奔る、躍る。○むなしく（虛）。

○わたる（度）。

驫 ケイ、エ。戸圭切 齊

驛 エキ、ヤク。羊益切 陌

（い）行旅の宿り又は舟車人馬をつぎたつるために設置したる亭舍、まゆく、やどり。○〔唐〕迎二於長樂—一。

（ろ）まゆくばよりつぎたつる舟車人馬。○〔唐〕〔晉〕略論二給レ—者官家。

（は）つぐ、つたふ。○〔禮〕「人日予二北郷一而吟之。

（に）苗の生ずる貌にいふ字。○〔詩〕「—其達。

（ほ）氣の連屬せざると。○〔晉〕「日暗日—日克。

○〔禮〕うまつぎばうまやと。○〔晉〕二軍部—。

驥 ゲフ、ゴフ。魚伐切 屑

肚んなる貌にいふ字、又、馬の高くして大いなる貌にいふ字。

驥 奔に同じ。

十四畫

馬に似て一角ある獣。

驫 デフ、ノフ。呢飄切 豪
馬疾く歩む、はしる。○晉載記「陸上獣ニ一駒交ニ馬驫、鍛鞍」。

驪 ク、ゴ。楹倶切 虞
馬行く。

驩 クヮン。呼官切 寒
㊀馬の和楽する貌にいふ字。㊁歓に同じ、よろこぶ。○〔孟〕「一一欣、如也」。

十九畫

驢 リ。呂支切 支 レイ、耶爰切 齊
㊀純黒色の馬、くろうま。○〔詩〕「四ニ一濟濟」。㊁両馬を車に駕す、ならぶ。○〔後漢〕「光武北征時、軍食急乏、寇恂以ニ聲車一一駕ニ轅前一、後不レ絶」。

驫 シン。所臻切 眞
衆馬の行く貌にいふ字、疾くして盛んなる貌にいふ字。○〔逸周書〕「一一疑沮レ事」。

驫 シフ。仕戟切 緝
木の盛んなる貌にいふ字。

骨部

骨 コツ、コチ。古忽切 月
㊀ほね。㊁動物の肉中にありて身體を支撐する堅き物質のもの。○〔周〕「以ニ鯁養ニ一」。（ろ）ほねの相貌、ほねぐみにゐながら、○〔漢〕「有ニ封侯ニ一」。（は）かばねのほねばかりとなれるもの。○〔左〕「生レ死而肉レ一」。（に）からだ、むくろ、かばね。○〔晉〕「流レ血盈レ一」。（ほ）ものゝ中につゝまれてものを支撐するところの肉に於けるが如きもの、稱。○〔博物志〕「石爲ニ之一一」。㊂風度。○〔石門頌跋〕「讀レ之嘆レ然如レ見ニ其道一一」。㊃極致。○〔文心雕龍〕「有ニ移レ檄之一一焉」。㊄意氣。○〔詩品〕「眞一一深遠」。㊅主旨。○〔文心雕龍〕「無一一之貴也」。

（骨骼）ほねぐみ。（百骨）ほねのつがさねはがら。○〔晉載記〕「陸上獣ニ一駒交ニ馬驫、鍛鞍」。（筋骨）前に同じ。○〔列〕「一一骨無レ鳴」。（筋骨）招人の死屍の骨を五百金もて買ひもとめたるごとく、いよ〳〵賢士を求むるに急なるの意にいふ語。○〔晉語〕「夏姬壻、駙馬都尉」。（仙骨）仙人の骨格。○〔神仙傳〕「子有ニ一之骨一」。（風骨）風采骨格のよき。○〔晉〕「一一秀徹」。（骨相）人のほねがら。○〔史〕「所在稱ニ一一」。（朽骨）くちほねたるはね。○〔晉〕「貴賤肌ニ一」。（骨骾）前に同じ。（骨骾）つねなみならざるはね。○〔晉〕「此兒有ニ一」。（骨骾）のどぼね。○〔宋〕「一一高者」。（骨骾）かぼそきはね。○〔南京雜記〕「一一勝肌」。（骨骾）くちくさりの屍名。○〔本草〕「亦全一一焉」。（骨體）氣力のもと。○〔晉〕「一一似弱」。（骨體）美人のはねなどいふ語。○〔竹林神話〕「永訣ニ一酒泉行」。（骨肉）はだと骨となど。○〔戴顒傳〕「好入ニ一一」。（骨肉）面後のはね。○〔晉〕「一一不離」。（凡骨）つねなみのからだ。○〔晉載記〕「仙人骨面鮮ニ金分一」。（英骨）すぐれたるものゝからだ。○〔梅福記〕「非此境ニ一一」。（尸骨）せきがら。○〔陸詩也〕「願以ニ一一」。（俠骨）俠氣のもと。○〔宋書〔良吏〕一一傳ニ一」。（病骨）病身のもと。○〔宋書〕「一一勝能在ニ人間ニ一」。

骭 ヨク、イキ。與職切 職
㊀脛の骨、かたほね。㊁小さき骨、こぼね。

骫 ワ、ヲ。烏果切 哿
ひざほね、膝骨。

骭 カ、ケ。丘寓切 禡
こしほね、腰骨。

骰 カツ、古黠切 黠 カツ、胡葛切 曷
カイ、下介切 卦
ケ。
骰子、賭ニ一一ニ。

骰 トウ、ヅ。度侯切 尤
博陸の采、すごろくのさい。○〔温庭筠〕「玲瓏ニ一子安ニ紅豆ニ」。

骰 股に同じ。

骱 カツ、古黠切 黠 カツ、胡葛切 曷
ケチ。
カイ、下介切 卦
ケ。

骸 コツ、ク。空胡切 虞
骸ニ一は、小さき骨、一説に、かたし、堅。

五畫

骭 コン。古本切 阮
㊀脛に同じ。㊁細き骨、ほそぼね。

骶 クヮ、ケ。去靴切 麻
㊀手足の疾む貌にいふ字。㊁腥ニ一は、手足の曲がれる疾。

骹 カツ、ガチ。牙葛切 曷
骹ニ一は、骨の高き貌にいふ語、ほねだか。

骾 キョウ、ケ。巨祝切 東
ちすぢみやく（脈）。

骴 テツ　デチ。徒結切 屑
骨差ふたがふ。

骰 ハク、ボク。蒲角切 覺 ハウ、ベク。薄巧切 巧
ガウ、ゲウ。五巧切 巧 ホク、ボク。普木切 屋
㊀骨鏃、ほねのやじり。○〔通鑑〕「更以ニ一箭ニ一射ニ其膊ニ」。

骷 ク、ゴ。苦骨切 月
ひざほね、膝骨。

骼 カク、ガク。胡郭切 鐸
骨のみ殘りて肉なきもの。○〔周〕「掩ニ一一者埋之」。

骽 ヘン。必駕切 禡
㊀つか（把）。㊁さじのえ（枋）。

骰 キ、ギ。渠羈切 支
跂に同じ、緩く走る。

骰 サフ、ソフ。悉合切 合
ニ一は、首の動く貌にいふ語。

骰 骰に同じ。

骷 ガ、ゲ。五加切 麻
こしほね（髀）。

骰 クヮン。五丸切 寒
ひざほね（膕）一説に、こしほね（髀）。

骰 カウ、ガウ。胡期切 豪
髀の字を見よ。

骰 アツ、アチ。烏八切 黠
咽中の息利ならずいきづかへ。

骰 セン。息淺切 銑
すくなし（少）。

骰 サン、ソン。桑惑切 屑

骨軽し小さき骨。

骰 ハ、ヘ。必駕切 禡
㊀つか（把）。㊁さじのえ（枋）。

骰 股に同じ、緩く走る。

骰 サフ、ソフ。悉合切 合
ニ一は、首の動く貌にいふ語。

骰 骰に同じ。

骷 ガ、ゲ。五加切 麻
こしほね（髀）。

骰 クヮン。五丸切 寒
ひざほね（膕）一説に、こしほね（髀）。

骰 カウ、ガウ。胡期切 豪
髀の字を見よ。

骰 アツ、アチ。烏八切 黠
咽中の息利ならずいきづかへ。

骰 セン。息淺切 銑
すくなし（少）。

骰 サン、ソン。桑惑切 屑

骰 ヨク、イキ。與職切 職
㊀肩の骨、かたほね。㊁小さき骨、こぼね。

骰 ク、ゴ。呂支切 支 レイ、耶爰切 齊
㊀純黒色の馬、くろうま。○〔詩〕「四ニ一濟濟」。㊁両馬を車に駕す、ならぶ。○〔後漢〕「光武北征時、軍食急乏、寇恂以ニ聲車一一駕ニ轅前一、後不レ絶」。

骰 ヨク、エキ。與職切 職
ニ一軒は、縣の名。

骰 フウ、フ。甫休切 尤 ヘウ。
卑盛切 蓋 シフ。仕戟切 緝

骰 ヨク、エキ。與職切 職
小さき骨、こぼね。

【案註】潰爛したるなり。○〔唐〕「破」に改む。【補註】「何遜」。【補註】つかれたる骨なり。○〔廿四史〕「一」を缺く。

骸 カイ、ガイ。柯開切 灰　胫に同じ足の大指。

髃 カイ、ゲイ。戸皆切 佳　ほね（骨）。

骹 カウ。苦光切 陽　○こぼれ（缺）。○一髁は、もゝのほね（股骨）。

骭 カン、ギヤウ。戸庚切 庚　牛の脊の骨。

骯 タイ、テ。都同切 灰　骨起ころ。

骬 ケツ、ゲ。五瓜切 麻　髁（一はほね（踝骨）。

骹 カウ、口交切 肴　カウ、下巧切　ケウ。切 後敎切 效　○脛骨の足に近き細きところ、あしくびの狀をなせるもの、稱。〇〔周〕「參二分其股圍一、去一以爲二圍一。〇〔周、註〕「齊人名二手、足脛一爲レ骹」。○膝下、ひざした。〇〔禮〕「馬四一、皆矛刃やいば。〇〔揚雄〕「謂二之釜一。〔骨部〕骨を脈の肥。○西京賦「一一擊牛觸レ骨。〔本註〕註とのやいば。○揚雄「凡一一謂如レ釜者レ。

骼 カク。剛鎩切 陌　獣の後脛の骨。〇〔儀〕「皐二及獣魚一如レ刺」。

骾 脳に同じ。

七畫

骾 テイ、チヤウ。湯丁切 青　髁（一は、長き骨の狀にいふ語。

骾 ヘン、薄玄切 先　婢典切 銑　骨の偏り生じたる狀にいふ字。

骾 カ、ケ。枯駕切 禡　膕に同じやすし。

骾 クヮ、ケ。苦瓜切 麻　膕の骨、こぼれ。〇〔漢〕「折レ骨拉一」。

骾 クヮ、ケ。苦瓜切 麻　前條に同じ。

骾 ○額上の骨。○一髄は、額上の骨。

骾 タイ、デ。徒對切 隊　髄（一は、愚かなる狀にいふ語。

骾 カツ、胡葛切 曷　ケツ、許歇切　ガチ。切　ケチ。切　髄（一は、愚かなる狀にいふ語。

骾 月　カイ。許代切 隊　（一骹は、肩の骨。

骾 ショウ、シユ。堅勇切 腫　○骨を藏む、かくす。○膕骨、こぼれ。

骾 リヨウ、ロウ。盧登切 蒸　骨の高き狀にいふ字。

骾 キ、ギ。諮支切 支　骨の狀にいふ字。

九畫

骾 髄に同じ。

骾 セイ、シヤウ。所澄切 梗　猪に同じやすし。

骾 ド、ヅ。動五切 麌　かしらぼね（顱）。

骾 カン、ゲン。魚戚切 感　髄（一は、骨の高き狀にいふ字。

骾 ケイ、ケ。苦圭切 齊　○肩の骨。○六畜の頭中の骨。

骾 コウ、戸鉤切 尤　ケ。居候切 宥　骨の端、一說に、骨の鑽。

骾 バイ、謀杯切 灰　莫代切 隊　ほね（骨）。

骾 クヮ、ケ。苦化切 禡　腰骨、こしぼね、又、股間、また。〇〔唐〕「有二從レ戎獄一之服一」。

骾 髁に同じ。

骾 カク、キヤク。古伯切 陌　食獣の骨、死人の骨、枯骨、露骨、ほね、されぼね。〇〔禮〕「掩レ之一薄レ之。〔骨部〕骸骨のこと。○〔禮〕「一一在レ牀。〔註〕すなわちねむる。○〔禮〕「一一牡犬。〔註〕なきがら。○〔禮〕「師士一一」。

骾 ヘイ、ハイ。傍禮切 薺　もゝ（股）。○〔禮〕「毋レ踞レ一」。〔詩〕ひざうちたゝく。○〔國〕「扇一一」。〔詩〕前に同じ。○〔後漢〕「所以一一仰天面笑者也。〔註〕もゝの裏のこと。○〔禮〕「一一不跌。〔註〕としともゝと。○〔說苑〕「華人有一一之病」。

骾 前條に同じ。

骾 キ、ギ。巨綺切 紙　小さき骨、こぼれ。

骾 ワン。烏貫切 翰　て流俗に從はざるにいふ字。○〔晉〕「骨一不レ同二於物一」。〔前漢〕氣質のつよくして柔順卑屈せざるもの。○〔後漢〕「一一」。〔前漢〕「一一」。

骾 クヮツ、クヮチ。古活切 曷　骨の端。

八畫

骾 シヤ、セ。詩車切 麻　ほね（骨）。

骾 日、オ。於許切 語　肩の骨、かたぼね。

骾 ヘン、ベン 部田切 先　肋骨連合して一となれるとき、いちまいあばら、幷骨。〇〔國〕「開二其一一骨一」。

骾 ヒ。拜呰切 紙　毋嬋切 支　ヘイ、バイ。傍禮切 薺　もゝ（股）。○〔禮〕「毋レ踞レ一」。〔詩〕ひざうちたゝく。○〔國〕「扇一一」。〔詩〕前に同じ。○〔後漢〕「所以一一仰天面笑者也。〔註〕もゝの裏のこと。○〔禮〕「一一不跌。〔註〕としともゝと。○〔說苑〕「華人有一一之病」。

骾 カク。北角切 覺　カク、訖岳切　ホク。切　コク。切　骨の幟、一說に、骨堅く白し。

骾 髁に同じ、かぶらや。○〔唐〕「貫二一矢一」。

骾 カイ、ガイ。柯開切 灰　胫に同じ足の大指。

骾 カイ、ゲイ。戸皆切 佳　ほね（骨）。

骾 クヮウ。苦光切 陽　○こぼれ（缺）。

骾 カウ、ギヤウ。戸庚切 庚　牛の脊の骨。

骾 タイ、テ。都同切 灰　骨起ころ。

骾 クヮ、ケ。五瓜切 麻　髁（一はほね（踝骨）。

骾 カウ、口交切 肴　カウ、下巧切　ケウ。切 後敎切 效　○脛骨の足に近き細きところ、あしくびの狀をなせるもの、稱。〇〔周〕「參二分其股圍一、去一以爲二圍一。〇〔周、註〕「齊人名二手、足脛一爲レ骹」。○膝下、ひざした。〇〔禮〕「馬四一、皆矛刃やいば。〇〔揚雄〕「謂二之釜一。〔骨部〕骨を脈の肥。○西京賦「一一擊牛觸レ骨。〔本註〕註とのやいば。○揚雄「凡一一謂如レ釜者レ。

骾 カク。剛鎩切 陌　獣の後脛の骨。〇〔儀〕「皐二及獣魚一如レ刺」。

骾 脳に同じ。

七畫

骾 テイ、チヤウ。湯丁切 青　髁（一は、長き骨の狀にいふ語。

骾 ヘン、薄玄切 先　婢典切 銑　骨の偏り生じたる狀にいふ字。

骾 カ、ケ。枯駕切 禡　膕に同じやすし。

骾 クヮ、ケ。苦瓜切 麻　膕の骨、こしぼね。〇〔漢〕「折レ骨拉一」。

骾 クヮ、ケ。苦瓜切 麻　前條に同じ。

骾 ○額上の骨。○一髄は、額上の骨。

骾 タイ、デ。徒對切 隊　髄（一は、愚かなる狀にいふ語。

骾 カツ、胡葛切 曷　ケツ、許歇切　ガチ。切　ケチ。切　髄（一は、愚かなる狀にいふ語。

骾 月　カイ。許代切 隊　（一骹は、肩の骨。

骾 ショウ、シユ。堅勇切 腫　○骨を藏む、かくす。○膕骨、こしぼね。

骾 リヨウ、ロウ。盧登切 蒸　骨の高き狀にいふ字。

骾 キ、ギ。諮支切 支　骨の狀にいふ字。

九畫

骾 髄に同じ。

骾 セイ、シヤウ。所澄切 梗　猪に同じやすし。

骾 ド、ヅ。動五切 麌　かしらぼね（顱）。

骾 カン、ゲン。魚戚切 感　髄（一は、骨の高き狀にいふ字。

骾 ケイ、ケ。苦圭切 齊　○肩の骨。○六畜の頭中の骨。

骾 コウ、戸鉤切 尤　ケ。居候切 宥　骨の端、一說に、骨の鑽。

骾 バイ、謀杯切 灰　莫代切 隊　ほね（骨）。

骾 クヮ、ケ。苦化切 禡　腰骨、こしぼね、又、股間、また。〇〔唐〕「有二從レ戎獄一之服一」。

骾 髁に同じ。

骾 カク、キヤク。古伯切 陌　食獣の骨、死人の骨、枯骨、露骨、ほね、されぼね。〇〔禮〕「掩レ之一薄レ之。〔骨部〕骸骨のこと。○〔禮〕「一一在レ牀。〔註〕すなわちねむる。○〔禮〕「一一牡犬。〔註〕なきがら。○〔禮〕「師士一一」。

骾 ヘイ、ハイ。傍禮切 薺　もゝ（股）。○〔禮〕「毋レ踞レ一」。〔詩〕ひざうちたゝく。○〔國〕「扇一一」。〔詩〕前に同じ。○〔後漢〕「所以一一仰天面笑者也。〔註〕もゝの裏のこと。○〔禮〕「一一不跌。〔註〕としともゝと。○〔說苑〕「華人有一一之病」。

骾 前條に同じ。

骾 キ、ギ。巨綺切 紙　小さき骨、こぼれ。

骾 ワン。烏貫切 翰　て流俗に從はざるにいふ字。○〔晉〕「骨一不レ同二於物一」。〔前漢〕氣質のつよくして柔順卑屈せざるもの。○〔後漢〕「一一」。〔前漢〕「一一」。

骾 クヮツ、クヮチ。古活切 曷　骨の端。

八畫

骾 シヤ、セ。詩車切 麻　ほね（骨）。

骾 日、オ。於許切 語　肩の骨、かたぼね。

骾 ヘン、ベン 部田切 先　肋骨連合して一となれるとき、いちまいあばら、幷骨。〇〔國〕「開二其一一骨一」。

骾 ヒ。拜呰切 紙　毋嬋切 支　ヘイ、バイ。傍禮切 薺　もゝ（股）。○〔禮〕「毋レ踞レ一」。〔詩〕ひざうちたゝく。○〔國〕「扇一一」。〔詩〕前に同じ。○〔後漢〕「所以一一仰天面笑者也。〔註〕もゝの裏のこと。○〔禮〕「一一不跌。〔註〕としともゝと。○〔說苑〕「華人有一一之病」。

骾 カク。北角切 覺　カク、訖岳切　ホク。切　コク。切　骨の幟、一說に、骨堅く白し。○〔呂氏春秋〕「撟レ骼犀レ一」。

骾 サ。倉何切 歌　牙骨を治む、みがく、さく（磋）。

骾 古文の體の字。

十畫

骾 パ、マ。莫波切 歌　身支牛ば意の如くならざるやまひ、ちゆうふう痛痺。

骾 前條に同じ。

骾 麿に同じ。○〔漢〕「又況乃一一」。

骾 キヨク、許玉切　コク。切 沃　顱に同じ、あたまのほね。

骾 一ヘウ。卑遙切 蕭　體の肚なるとすこやか。

ひざぼね（膝骨）。○〔唐〕「貫二一矢一」。

骾 髄に同じ。○〔漢〕「一骨之兎也」。

骾 カウ、コウ。苦江切 江　髄（一は、尻の骨。

骾 テキ、チヤク。他歷切 錫　骨の間の黄汁。

骾 セキ、シヤク。思積切 錫　胯の骨の間。

骾 スイ、ズイ。樹僞切 寘　器を漆する前にぬるもの、ぬりもの、まだち。

骾 テツ、テチ。知劣切 屑　ほねつき（纏骨）。

骾 タツ、ソチ。昨沒切 月　こぼれ（小骨）。

骾 クヮ。苦臥切 過　苦禾切 歌　もゝのほね（髀骨）、ひざのほね（膝骨）。

骾 クヮ、ケ。苦瓦切 馬　クヮイ、ケ。苦會切 泰

骾 ヘン、薄玄切 先　婢典切 銑　かたぼね、かいがね（肩甲）。〇〔夢遊錄〕「一擊レ一折レ脾。

骾 ツ井、ヅ井。傳道切 去　項の後の骨。

骾 カウ、ケウ。許交切 肴　かぶらや（鏑箭）。

骾 クヮイ、ケ。苦外切 泰　髄（一は、愚かなる狀にいふ語。

骾 ガイ。魚開切 灰　額（一は、頭の長き狀にいふ語。

骾 ハク。匹期切 霽　もゝ（股）。一說にわき（脅）。

骾 ハウ、バウ。步光切 陽　肋に同じ、ゆばりぶくろ。

骾 ハウ。匹期切 霽　髄に同じ。

骾 ホク。補各切 藥　かたぼね、かいがね（肩甲）。〇〔夢遊錄〕「一擊レ一折レ脾。

骾 ツ井、ヅ井。傳道切 去　項の後の骨。

骾 カウ、ケウ。許交切 肴　かぶらや（鏑箭）。

骾 クヮイ、ケ。苦外切 泰　髄（一は、愚かなる狀にいふ語。

骾 ガイ。魚開切 灰　額（一は、頭の長き狀にいふ語。

骾 タイ、デ。徒對切 隊　髄（一は、愚かなる狀にいふ語。

骾 カツ、胡葛切 曷　ケツ、許歇切　ガチ。切　ケチ。切　髄（一は、愚かなる狀にいふ語。

骾 月　カイ。許代切 隊　（一骹は、肩の骨。

骾 ショウ、シユ。堅勇切 腫　○骨を藏む、かくす。○膕骨、こしぼね。

骾 髄に同じ、かぶらや。○〔唐〕「貫二一矢一」。

骾 カイ、ガイ。柯開切 灰　胫に同じ足の大指。

骾 カイ、ゲイ。戸皆切 佳　ほね（骨）。

骾 クヮウ。苦光切 陽　○こぼれ（缺）。

骾 カウ、ギヤウ。戸庚切 庚　牛の脊の骨。

骾 タイ、テ。都同切 灰　骨起ころ。

骾 クヮ、ケ。五瓜切 麻　髁（一はほね（踝骨）。

骾 カウ、口交切 肴　カウ、下巧切　ケウ。切 後敎切 效　○脛骨の足に近き細きところ、あしくびの狀をなせるもの、稱。〇〔周〕「參二分其股圍一、去一以爲二圍一。〇〔周、註〕「齊人名二手、足脛一爲レ骹」。○膝下、ひざした。〇〔禮〕「馬四一、皆矛刃やいば。〇〔揚雄〕「謂二之釜一。〔骨部〕骨を脈の肥。○西京賦「一一擊牛觸レ骨。〔本註〕註とのやいば。○揚雄「凡一一謂如レ釜者レ。

髀 ガウ、ゴウ。五勞切 豪
髀の大腰、かにのはさみ。

髁 ホウ、ブ。扶用切 宋
一 龜を灼きて生ずるひび。
二 胃前の骨の會合する處。

髖 シュ。昌朱切 虞
體に同じ、からだみ。

髎 レウ。落蕭切 蕭 力弔切 嘯
ラウ、力交切 肴
レウ。
こしほね（髖、一說に「馬の胯の上の骨。
髀 バウ、マウ。毋期切 蒸
號——は體の肥ゆると。

髑 髑に同じ足のひきかゞみ。

髏 ロウ、ル。落侯切 尤
髑——は、皮肉の脫落したる頭顱、あたまのほね、されかうべ。〇列「見二百鬼髑一」。

十三畫

髕 ケツ、コチ。居月切 月
膕に同じ、ひざらひのほね（膝骨）。

體 キ。丘愧切 未
膝と脛との間の骨。

髖 クワイ、ケ。古對切 隊
顱の骨の脫にいふ字。

髕 骨に同じ。むれ。

髕 トク、ドク。徒谷切 屋
體の絡を見よ。

髑 カン、ケン。丘衙切 咸
——髑は骨の高き脫にいふ語。

髀 サウ。子期切 蕭
❶骸——は體の肿えたると。
❷抗——は、蜂蠆の脫にいふ語、もとりてなほし、かゞだつ。〇後漢「抗——倚門邊一」。

髖 クワイ、ケ。古外切 泰
髪を含はせ束ねるに用ふる骨にてつくりたるもの、もとゆひ。〇〔儀註〕「沛國人謂二反紒一爲レ——」。

髑 ガフ、ゴフ。五登切 合
——髑は、尻の骨。

髑 カウ、虛交切 肴 ケウ。切 篠
❶ほれの節。
❷白骨の脫にいふ字。〇〔莊二莊子之レ楚見二空髑髏一、然有レ形。

髑 ハク、ホク 匹角切 覺
骨の節。

髑 骸に同じ。

十四畫

髑 ヨク、イキ。乙力切 職
胸の骨。

髑 ガン、ゴン。五緘切 咸
首の骨の高き脫にいふ字。

髑 キフ、コフ。乞及切 緝
ほじし（胸膸）一說にほす、乾。

髑 クワク、ヲク。胡郭切 藥
❶骨の聲にいふ字、ほねなる。❷美肉。

髑 バ、マ。毋果切 哿
漏病、あなぢのやまひ。

髑 ヒン、ビン。毗忍切 震
膝蓋骨、ひざさら、又、ひざさらを去る、あしきる。〇史二司馬喜一髕於宋一。

十五畫

髑 クワン。苦官切 寒
脾上、股閒（胴骨、またもゝのうへ、こしほね）。〇〔後漢紀〕「脾之所」。

髑 コン。苦昆切 元
からだ、體に同じ、ねさらひ（髕）。

髑 カツ、ガチ。胡八切 黠
骨を噛む聲にいふ字。

髑 バツ、マツ。莫撥切 曷 莫八切 黠

髑 カウ、古勞切 豪 俗字 髙
コウ。切
❶たかし。
（い）上に位す。〇〔禮〕「天—地下」。
（ろ）上へ長し。〇〔詩〕「崧—維嶽」。
（は）上へ遠し。〇〔楚辭〕「天—而氣清」。
（に）上へ厚し。〇〔禮〕「絕—爲二之」。
（ほ）尊し。〇〔戰〕「位—而多レ金」。
（へ）大いなり。〇〔戰〕「志—而揚」。
（と）俗ならず、けだかし。〇〔宋玉〕「其曲彌—其和彌寡」。
（ち）長ず、多し。〇〔新序〕「春秋—矣」。
（り）著はる、勝る。〇〔史〕「功—如レ此」。

髑 カウ、コウ。居号切 號
高低の程、たかさ。〇〔左註〕「一一丈」。

二畫

髑 ケイ、犬顧 キヤウ。切 梗 渠挺 迥
傾覆切 徑
小さき堂瓜屋、こいへ。

三畫

髑 古文の敲の字。

（異體）はたあし。〇（集）「肩ノ——」。
（同體）敲物のさま。〇（管）「足ノ試ル——」。
（異體）かゞのさま、又、ものゝなりかたち。〇（左）「——一」。

（異體）かたちを同じくせず、又、みなにからざるを。〇（莊）「——同レ勝」。
（異體）よろづのかたち。〇（韓）「種種——」。
（正字）たゞしるさず。〇（史中井）「返与——」。
（俗字）前に同じ。〇（北）「並作——」。
（俗字）すがた、かたち。〇（楚）「正——」。
（俗字）なりかたち。〇（周）「破——」。
（俗字）弓のそとがはにそりたるところ。〇（周）「一幕。

（俗字）弓のうちがはにそりたるところ。〇（周）「——弦」。
（俗字）かたちをやぶるかぎり。〇（左 昭二）「——而徴」。
（異體）み體を留れず。〇（後）「肉手銭箭期」。
（俗字）前に同じ。〇（後）「——骨露。
（俗字）體して家體を尊大にせず。〇（周）「——下之士。

（俗字）かたちを盡のなにものかよ。〇（國）「天子——」。
（俗字）體強のさま、又、風姿のよ。〇（後）「美——」。
（俗字）勢はいたるからだ。〇（後漢）「家有——」。
（俗字）形のさま。〇（後）「——盛」。
（俗字）大学のかたち。〇（後）「——歌魂」。
（俗字）前に同じ。〇（後）「——」。
（又俗）文章のかまり。〇（晉）「——雄逸」。
（今俗）いきやうかまり。〇（晉史）「自二風始發一——」。
俗字。

（古俗）おかしのより。〇（前）「尤好——」。
（俗字）いのちを惜みてからだを重んず。〇（後）「重——」。
（異體）またにのかたち。〇（後漢紀）「身ハ——ニ」。
（俗字）すがた、かたち。〇（北）「——端嚴」。
（俗字）からだにかなふ。〇（北）「夜不——」。
（俗字）そのかたち。〇（後 儒林傳）「——中制」。

（俗字）からだをつゝしまずして、又、からだをそこなふ。〇（後）「——」。
（俗字）つかれたるからだ、又、からだをつかふ。〇（後）「——」。
（俗字）ちかごろのよう。〇（今）「——以——」。
（俗字）からだをこゝろよく、又、開えたるからだ。〇（後）「——自安ス——」。

（俗字）はたあし。〇（後）「肩ノ——」。
（俗字）敲物のさま。〇（管）「足ノ試ル——」。
（異體）かゞのさま、又、ものゝなりかたち。〇（左）「——一」。

（俗字）かたちを同じくせず、又、みなにからざるを。〇（莊）「——同レ勝」。
（俗字）よろづのかたち。〇（韓）「種種——」。
（正字）たゞしるさず。〇（史中井）「返与——」。
（俗字）前に同じ。〇（北）「並作——」。
（俗字）すがた、かたち。〇（楚）「正——」。
（俗字）なりかたち。〇（周）「破——」。
（俗字）弓のそとがはにそりたるところ。〇（周）「——弦」。

（俗字）弓のうちがはにそりたるところ。〇（周）「——弦」。
（俗字）かたちをやぶるかぎり。〇（左 昭二）「——而徴」。
（異體）み體を留れず。〇（後）「肉手銭箭期」。
（俗字）前に同じ。〇（後）「——骨露。
（俗字）體して家體を尊大にせず。〇（周）「——下之士。

（俗字）からだを盡のなにものかよ。〇（國）「天子——」。
（俗字）體強のさま、又、風姿のよ。〇（後）「美——」。
（俗字）勢はいたるからだ。〇（後漢）「家有——」。
（俗字）形のさま。〇（後）「——盛」。
（俗字）大学のかたち。〇（後）「——歌魂」。
（俗字）前に同じ。〇（後）「——」。
（又俗）文章のかまり。〇（晉）「——雄逸」。
（今俗）いきやうかまり。〇（晉史）「自二風始發一——」。
俗字。

（古俗）おかしのより。〇（前）「尤好——」。
（俗字）いのちを惜みてからだを重んず。〇（後）「重——」。
（異體）またにのかたち。〇（後漢紀）「身ハ——ニ」。
（俗字）すがた、かたち。〇（北）「——端嚴」。
（俗字）からだにかなふ。〇（北）「夜不——」。
（俗字）そのかたち。〇（後 儒林傳）「——中制」。

（俗字）からだをつゝしまずして、又、からだをそこなふ。〇（後）「——」。
（俗字）つかれたるからだ、又、からだをつかふ。〇（後）「——」。
（俗字）ちかごろのよう。〇（今）「——以——」。
（俗字）からだをこゝろよく、又、開えたるからだ。〇（後）「——自安ス——」。

高部

高 カウ、古勞切 豪 俗字 髙
コウ。切
❶たかし。
（い）上に位す。〇〔禮〕「天—地下」。
（ろ）上へ長し。〇〔詩〕「崧—維嶽」。
（は）上へ遠し。〇〔楚辭〕「天—而氣清」。
（に）上へ厚し。〇〔禮〕「絕—爲二之」。
（ほ）尊し。〇〔戰〕「位—而多レ金」。
（へ）大いなり。〇〔戰〕「志—而揚」。
（と）俗ならず、けだかし。〇〔宋玉〕「其曲彌—其和彌寡」。
（ち）長ず、多し。〇〔新序〕「春秋—矣」。
（り）著はる、勝る。〇〔史〕「功—如レ此」。

高 カウ、コウ。居号切 號
高低の程、たかさ。〇〔左註〕「一一丈」。

二畫

高 ケイ、犬顧 キヤウ。切 梗 渠挺 迥
傾覆切 徑
小さき堂瓜屋、こいへ。

三畫

高 古文の敲の字。

【䯧】カク。黑各切 藥 大いなり。

四畫

【髜】バウ、モウ。莫告切 號 毣ーは、つよき毛。

【髛】ケウ。苦弔切 嘯 高し。

【髝】カウ、ケウ。虛交切 肴 かまびすし、(囂)。

五畫

【髞】カウ、コウ。苦刀切 豪 あきらか、(明)。

七畫

【臺】塔に同じ。

【豪】カウ、コウ。乎刀切 豪 やまあらし。

【𩫏】クワク。古博切 藥 ㊀はかる、(度)。㊁くるわ、(郭)。

八畫

【𩫞】ケウ。輕皎切 篠 たかし、(高)。

九畫

【𩫱】カウ、コウ。苦浩切 晧 苦到切 號 ー顝は、大いなる頭。

十畫

【𩫲】ケツ、ケチ。傾雪切 屑 エツ、エチ。一決切 かく、(鈌)。

十一畫

【𩫴】サウ、セウ。勦交切 肴 ㊀高き足、たかあし。㊁高き貌にいふ字、たかし。

十二畫

【𩫷】ラウ、ロウ。郎到切 號 魯刀切 豪 ー𩬂は、驕傲なる貌にも、又、高き貌にもいふ語。

十三畫

【𩫻】顥に同じ。

【𩫺】サウ、ソウ。蘇到切 號 𩫷の字を見よ。

十四畫

【𩫽】陴に同じ。

十五畫

【𩫾】堵に同じ。

十七畫

【𩬀】樓に同じ。

【𩬁】古文の墉の字。

十八畫

【𩬂】タ。丁可切 哿 ㊀ひろし、(廣)。㊁垂れ下がる貌にいふ字。

廿一畫

【𩬄】ケウ。許嬌切 蕭 かまびすし、(喧)。

髟部

【髟】ヘウ。甫遙切 蕭 フウ、フ。甫幽切 尤 ヘウ。匹妙切 嘯 ㊀長髮の垂下する貌にいふ字、かみたる、みだる。○[潘岳]「斑鬢ー以承レ弁兮」。㊁ー䰉は、羽旄の飛び揚がる貌にいふ語。○[後漢]「羽毛紛其ー䰉」。

【髟】サン、セン。所銜切 咸 屋翼、のき。

二畫

【𩬅】セン、ソン。息廉切 鹽 好き髮の貌にいふ字。

【髶】ダイ、ナイ。囊來切 灰 ドウ、ノウ。奴登切 蒸 鬇ーは、髮の亂るゝこと。

【𩬆】キク、コク。居六切 屋 鬈に同じ、亂髮、みだれがみ。

【髨】俗の髡の字。

三畫

【髡】コン。苦昆切 元 コツ、コチ。去骨切 月 ㊀髮を去る、そる。○[周]「ー者使レ守レ積」。㊁枝を去る、きる。○[齊民要術]「髡二柳千樹一足レ柴、齒可レ二百樹一」。

【髢】テイ、ダイ。他計切 霽 セキ、シャク。思積切 陌 少き髮に他の髮を添へ益すもの、かつら、かもじ、そへがみ。○[禮]「斂レ髮毋レ髢」。〔髢髮〕あたまにそへがみを加ふ。○[註]「完而ー」「ーき」。〔髢髻〕みさとなるそへがみ。○[漢]「賈・郭・鍾之ー」。

四畫

【髩】カイ、ケ。古拜切 卦 もとどり、髻、又、髻を覆ふ巾、かみかけ。

【髰】サウ、シャウ。助庚切 庚 ー鬤は、亂髮の貌にいふ語。

【髵】ダイ、チイ。奴對切 隊 鬇ーは、髮の亂れたること。

【髣】ハウ。妃兩切 養 髣の字を見よ。

【髤】キウ、ク。許尤切 尤 シ。七四切 寘 ㊀赤多く黒少き色。○[周]「ー飾」。㊁漆を物に塗る、うるしぬる。○[漢]「殿上ー漆」。

【髬】ヒ、ピ。貧悲切 支 髮を被りて走る、はしる。

【髤】ハイ、ヘ。舖杯切 灰 ㊀前條に同じ。㊁ー髵は、髮の多きこと。

【髥】フ、ホ。峯甫切 麌

かみのけ、(髮)。

【髯】ゼン、ネン。汝鹽切 鹽 而豔切 豔 頰に在る毛、ほゝひげ、あごひげ、ひげ。○[漢]「美二須ー一」。〔髯奴〕くちひげとあごひげのひげと。○[史]「其人當爵中多ーー」。〔美髯〕うつくしきひげ。○[花成大]「蒲鬚稀上ーー白」。〔疎髯〕まばらにして密ならざるほゝひげ。○[元]「秀眉ーー」。〔赤髯〕あかひげ。○[蘇軾]「ーー碧眼老鮮卑」。〔白髯〕白きひげ。○[劉禹錫]「霜鬢ーー」。〔霜髯〕前に同じ。○[許渾]「雪頂ーー虎豹姿」。〔紫髯〕前に同じ。○[韋莊]「ーー寄曾篠鳳姿」。〔綠髯〕くろぐろとつやあるひげ。○[劉敏]「ーー長占館中春」。〔雪髯〕前に同じ。○[白居易]「氷池霜竹ーー」。〔翠髯〕年たけてつやなきひげ ○[李中]「雪髩ーー白布花」。

【𩬐】セツ、セチ。子列切 屑 束ねたる髮少し、かみすくなし。

【髦】バウ、モウ。莫袍切 豪 ㊀幼小なる者の髮を剪りて眉のあたりまで垂れたるもの、たれがみ、さげがみ、古は之を以て子の親に事ふる禮となし長大に至るも、尚之を存して兩邊に垂著せしめたりといふ。○[詩]「髧彼兩ー」。㊁毛中の長毫、ながげ。○[韓愈]「取二其ー一」。㊂すぐる、(俊)。○[詩]「烝二我ー士一」。㊃すぐれたる人。○[後漢]「時ー允集」。㊄馬鬣、たてがみ。○[儀]「馬不レ齊レー」。㊅旄に同じ。○[史]「取二其作馬犛旄ー牛一」。㊆丘の名。○[爾]「前高曰二ー丘一」。㊇かまきり、(蟷螂)。○[揚雄]「蟷螂謂二之ー一」。〔俊髦〕すぐれたる賢士。○[李德裕]「吾嘉二ーー」。〔才髦〕前に同じ。○[白帖]「羅二遺ーー一」。〔英髦〕前に同じ。○[王紹之]「世讚ーー」。〔賢髦〕前に同じ。○[李嶠]「左右羅ー俱ーー」。〔朱髦〕あかきいろの馬のたてがみ。○[韓愈]「大事多白馬ーー」。〔馬髦〕うまのたてがみ。○[周註]「立二ーー上一」。〔弁髦〕童子のさりかみとなる時に弁冠を三たび頭上に加ふる禮ありて其の弁冠は禮終ればは之を棄つるものとせり。○[左]「豈如二ーー一而因以二之一」。

【髳】ボウ、ム。迷浮切 尤 西夷の別名。○[詩]「如レ蠻如レー」。

【髧】タン、ドン。徒感切 感 髮の垂るゝにいふ字。○[詩]「ー彼兩髦」。

【髲】ハ、ヘ。披巴切 麻 髻の貌にいふ字。

【髱】ハ、ベ。步化切 禡 ー鬖は、髮の亂るゝ貌にいふ語。

【髮】チヤウ、ヂヤウ。直良切 陽 もとどり、(髻)。

五畫

【髫】テン、トン。丁兼切 鹽 ㊀もとどり、(髻)。㊁ー鬖は、髮の疎薄なる貌にいふ語、「かみうすし」。

【髾】レイ、リヤウ。郎丁切 青 疎髮、まばらのかみ、かみうすし。

【髫】テウ、デウ。徒聊切 蕭 小兒の項後に垂るゝ髮、たれがみ、うなゐ。○[後漢]「ー髮厲レ志」。〔髫髮〕小兒のたれがみのとにて轉じて小兒のとにもいふ。○[魏]「ーー執レ節」。〔髫齡〕前に同じ。○[周伯琦]「髫齡讀明ーー」。〔髫齔〕小兒の髮。○[古今註]「ーー謂二小兒髮如一此也」。

【鬒】シン。止忍切 軫 長き白髮。

【髫】エウ。伊鳥切 篠 長く勁からざる髮、よわきかみ。

【髹】髻に同じ。

【髬】ヒ。敷悲切 支 ー髵は、猛獸の鬣を振ふ貌にいふ語。○[張衡]「其猛・毅ー髵」。

【髺】カツ、カチ。牙割切 曷 ㊀髻餘の髮、かりのこりのかみ。㊁小兒の髮。

【髭】シ。卽移切 支 口上の須毛、うはひげ、くちひげ、ひげ。○[左]「生而有レー」。〔白髭〕白毛のくちひげ。○[吳融]「向レ白ーー」。〔霜髭〕前に同じ。○[劉禹錫]「俄有二白髮ーー生一」。〔白髭〕前に同じ。○[元好問]「淸鏡不明見ーー」「短書司空」。〔美髭〕うつくしきくちひげ。○[李商隱]「ーー」[illegible]

【髮】ハツ、ホチ。方伐切 月 ㊀頭上の毛、かみ、け。○[素問]「腎之華在レー」。㊁毛。○[莊]「窮ー之北」。〔短髮〕かみのけのうすきこと。○[晉]「鬢ーーー」。〔蒼髮〕老人のかみ、又、老人のことをもいふ。○[詩]「ーー蒼甘」。〔鬢髮〕くろかみ。○[神仙傳]「ーー更生」。〔沐髮〕かみをあらふ、又、あらひがみ。○[左]「ーー如此嘆」。〔被髮〕髮を結ばずしてふりみだしたること。○[論]「ーー文身」。〔斷髮〕ちゞれがみ。○[詩]「ーー如」。〔束髮〕かみをすべつかね。○[漢]「ー」「ー修學」。〔剪髮〕かみをきりて結ばざること。○[史]「ー」「ー文身」。〔鬒髮〕前に同じ。○[左]「ー」「ー文身」。〔結髮〕かみを結ぶ、又、元服すること。○[史]「結ー」。〔石髮〕みづごけの異名。○[爾、註]「水苔也一名」。「ー而舞」奴頭」。〔怒髮〕逆立ちたるかみ。○[史]「ーー上衝冠」。〔壯髮〕額前はあたりて彼下して生ずる毛にて俗に曲頭と稱す。○[國]「額上有ーー」。〔散髮〕ちらしがみ。○[後漢]「ー」「ー絶世」。〔白髮〕前髮とらふに同じ、太らず、白髮。○[後漢]「太傷ーー」。〔鶴髮〕前に同じ。○[杜甫]「明秋ーー青」。〔齒髮〕前に同じ。○[後漢]「驅萬ーー」。〔理髮〕かみをそろへとゝのふ。○[晉]「値其ーー」。〔毫髮〕ほそき毛とかみと、極めて細小のことにいふ語。○[論衡]「細大ーー之節」。〔美髮〕上きかみのけ。○[後漢]「方口ーー」。〔頭髮〕かみのけ。○[史]「ーー上指」。〔鬚髮〕くちひげとかみのけと。○[史]「ーー盡白」。〔亂髮〕かみをふりみだす、又、みだれがみ。○[後漢]「入朝ーー」「ー無形」。〔髮膚〕前に同じ。○[孝經]「ーー身體」。〔假髮〕頭にかぶりものをつけざること。○[韻]「ー」「ー待・頭」。

【髡】　サ、セ。側駕切　禡
毛多しげぶかし。

【髫】　ハウ、ベウ。皮敎切　效
髮の多き貌にいふ字。

【髮】　ヒ、ビ。平義切　寘
そへがみ。かつら。〔髮〕。○〔儀註〕「古者剔二髮者刑者之髮一以被二婦人之紒一爲レ飾因名二髮一焉」。

【髣】　ボウ、ム。莫紅切　東
髮に同じ。

【髴】　フツ、ホチ。分物切　物
婦人の首飾。かみかざり。

【髯】　ゼン、ネン。如占切　鹽
頰の毛。○毛の多き貌にいふ字。

【髭】　タイ。土來切　灰
—鬚は、婦人の假髻かりもとどり。

【髷】　フツ、ホチ。數勿切　物
髻—は、さもにたり、若似。○〔後漢〕「以二至人之髻一」。

【髫】　ヒ。芳味切　未
髮の亂れたる貌にいふ字。

六畫

【髦】　ボウ、ム。莫紅切　東
親—は、草木の叢茸蓊蔚するとき、さげるはびこる。○〔爾〕「覛—莠蕘也」。

【髣】　ホウ、ブ。薄紅切　東
—髴は、髮の亂るゝ貌にいふ語。

【髫】　テウ、徒聊切　蕭
小兒の垂髮。かみさげ。

【髽】　ソウ、ス。子紅切　東
毛亂るゝみだる。

【髻】　ケイ、カイ。古詣切　霽
髮を束ぬるところ。○〔魏註〕「結髮—」以レ巾拭レ面。

【髺】　ケツ、クヲチ。古活切　曷
髮を括す。かみゆふ。○〔儀〕「主人—髮紐」。

【髹】　キウ、ク。許尤切　尤
髮に同じ。

【髹】　タ、都果切　哿
髮垂るゝだる。

【髹】　シ。七四切　寘
かつら。かみかざり〔首飾〕。

【髹】　ケツ、キチ。喫吉切　質
髭の神。○〔莊〕「髭有レ」。

【髹】　ハウ、ホウ。補抱切　晧
髮の短き貌にいふ字。

【髹】　ハツ、ハチ。北末切　曷
女の大髻。

【髹】　キャウ、カウ。去王切　陽
—髮は、亂髮。みだれがみ。

【髹】　チ。都賢切　先
○たてがみ〔鬣〕。○美しき髮。

【髹】　シウ、シュ。息融切　東
○細き髮。○—髮ばけおり〔髮布〕。

【髹】　タウ、ドウ。杜皓切　晧
髮長し。ながし。

【髹】　タウ、ドウ。大到切　號
ながし〔長〕。

【髹】　キョク、コク。區玉切　沃
曲髮は、ちゞれげ、まげ。

【髹】　タイ、テ。陟賄切　賄
假髻かりもとどり。

【髹】　キョウ、ク。居容切　冬
—髮は、髮の亂れたる貌にいふ語。

【髹】　キウ、ク。許尤切　尤
髮に同じ。

【髹】　シ。七四切　寘
かつら。かみかざり〔首飾〕。

【髹】　ダウ、ノウ。乃老切　晧
髮の貌にいふ字。

もとどり〔髻〕。一說に、束だ長からざる髮。

七畫

【髽】　ソ。里之切　支
○髽—は、毛髮立つけたつ。○髮卷くまく。ちゞる。

【髾】　ホウ、ブ。薄紅切　東
—髴は、髮の亂るゝ貌にいふ語。

【髻】　キョク、ゴク。渠玉切　沃
ちゞれ髮。

【髻】　コン、ゴン。晉昆切　元
髮を髽る。

【髽】　レフ、ロフ。力協切　葉
髮の薄ちなる貌にいふ字。うすし。

【髽】　ソウ、ス。子紅切　東
毛亂るゝみだる。

【髽】　セン、ソン。息廉切　鹽
かみのけ〔髮〕。

【髽】　サン、セン。所銜切　咸
垂るゝ貌にいふ字。

【髽】　サ、セ。莊華切　馬
髮を結ぶ。かみゆふ。〔儀〕「婦人—」ニ于室ニ。

【髽】　ヲ。烏果切　哿
好き髮。

【髽】　シ。詩止切　紙
もとどり〔髻〕。

【髽】　アウ、子ウ。奴了切　篠
髽—は、長きこと。

【髽】　バウ、モウ。莫江切　江
○毛蒼しあをし。○髮亂るゝみだる。

【髽】　サウ、所交切　肴
サウ、所敎切　效
髮尾。かみさき。○〔史〕「髽〔纔〕垂」—」。

【髽】　サウ、セウ。山巧切　巧
毛髮長し。

【髽】　サ、所加切　麻
セ。切　サ。蘇禾切　歌
髮の垂るゝ貌にいふ字。○〔郭璞〕「綠苔髽—」。平附上ニ。

【髽】　テイ、タイ　他計切　霽
髮を剃るそる。

【髽】　シウ、シュ。宇由切　尤
髮。

【髽】　髮の本字。

八畫

【髾】　ソウ、ス。蘇宗切　冬　サウ、
ソウ。士江切　江
○高髻もとどり。○馬鬣。たてがみ。
—髾は、髮を被るとき、みだれがみ。さわぎがみ。

【髾】　ホウ、ボウ。非網切　養
—髾は、髮の短き貌にいふ字。

【髾】　ガン。魚斡切　翰
ながし〔長。

【髾】　ガン、ゴン。戶感切　感
髮の短き貌にいふ字。

【髾】　テイ、他計切　霽　シャク、切
テキ、チャク。他歷切　錫
髮の貌にいふ字、一說に好き髮。

【髾】　ホウ、フ。普后切　有
髮の短き貌にいふ字。

【髾】　ソウ、私渠切　冬　蘇叢切　東
髮—は、髮の亂るゝとき。

【髾】　ショウ、シュ。書蕤切　冬
髮—は、髮の亂るゝとき。

【髾】　ソウ、ス。蘇弄切　送
髮—は、髮の貌にいふ語。

【髾】　タフ、ドフ。遙合切　合
かみ〔髮〕。

【髾】　カン、ゴン。戶感切　感
髮の短き貌にいふ字。

【〓】ツ井、ヅ井。傳追切 支 鬌に同じ、たれがみ。

【鬇】サウ、シヤウ。鋤庚切 庚 タウ、チヤウ。中莖切 庚 ー鬡は、毛髪の亂るゝ貌にいふ語。

【鬈】ケン、ゴン。巨員切 先 ❶髪好し、かみうるはし。○〔詩〕「其人美且ー」。❷曲髪ちゞれがみ、まげがみ。○〔禮〕「燕則ー首」。

【〓】ヘイ。邊迷切 齊 冠の飾り。

【〓】ケン、ゴン。巨員切 先 髪好し、うるはし。

【〓】トウ、ツ。多貢切 送 ー鬆は、髪の貌にいふ語。

【〓】〓に同じ。

【〓】リヤウ、ラウ。力掌切 養 かみのけ(髮)。

九畫

【〓】ソウ、ス。子紅切 東 髪亂る、みだる。

【〓】フウ、フ。敷救切 宥 かりもとゞり(假髻)。

【鬅】ハウ、ビヤウ。薄庚切 庚 ハウ、バウ。北朗切 蕩 蒲浪切 宕 蒲光切 陽 ー鬙は、髪の亂るゝ貌にいふ語。

【〓】サイ、ザイ。桑才切 灰 シ。相吝切 支 ❶かみすくなし(小髪)。❷〓ーは、鬚多し。

【〓】カク、キヤク。乞格切 陌 髪甚だ長し。

【髳】バウ、モウ。謨袍切 豪 ボウ、ム。莫浮切 尤 髪眉に至る、まへがみたる、ぬかがみ。

【〓】ザツ、ヂチ。而轄切 黠 細き毛、ほそげ。

【〓】ソウ、ス。子紅切 東 ❶鬉に同じ、たてがみ。❷髪を束ぬるきぬ。

【〓】ソウ、ス。作孔切 董 あげまき。

【〓】ソウ。蘇宗切 冬 鬆に同じ。

【〓】カツ、カチ。格八切 黠 カツ、ゲチ。午轄切 黠 鬜に同じ、かぶろ。

【〓】カツ、ケチ。許鎋切 黠 鬜に同じ、かぶろ。

【〓】鬝に同じ。

【〓】須に同じ。

【髹】キウ、ク。許尤切 尤 龍車の飾り、みくるまのかざり。

【〓】ジウ、ニユ。耳由切 尤 ❶馬の繁鬣、たてがみ。❷黃髪、きばめる志らが。

【鬊】シユン、ジユン。舒閏切 尺尹切 震 ぬけげ、(隋髪)みだれがみ(亂髪)。○〔禮〕「君大夫ー爪實二于綠中一」。

【〓】ダ、チ。乃亞切 禡 〓ーは、髪の亂るゝ貌にいふ語。

【鬋】セン。子仙切 先 びん(鬢)、又、髪の垂るゝ貌にいふ字。○〔楚辭〕「盛ー不レ同レ制」。

【鬋】セン。卽淺切 作甸切 霰 髪を剔り治む、かみきる。○〔禮〕「不二蚤ー一」。

【鬌】タ。丁果切 哿 ツ井、ヅ井。直垂切 支 䝟規切 支 小兒の剪髪、きりがみ、剃餘の髪、そりのこしのかみ、一說に、髪美し、うるはし。○〔禮〕「翦ー髪曰レー」。

【鬏】シウ、シユ。將由切 尤 そへがみ、かづら(髲)。

十畫

【〓】ガイ。魚開切 灰 長き貌にいふ字。

【〓】鬢の本字。

【〓】カウ、コウ。呼高切 豪 髪の貌にいふ字。

【鬞】ジヨウ、ニユ。如容切 冬 鬤に同じ、みだれがみ。

【〓】サウ、ソウ。蘇遭切 豪 髪の貌にいふ字。

【〓】サク、シヤク。色窄切 陌 髪の竪つ貌にいふ字、かみたつ。

【鬄】テキ、チヤク。他歷切 錫 セキ、シヤク。旋隻切 陌 髪を剃る、そる。

【〓】カツ、ケチ。許轄切 黠 ー〓は、かぶろ(禿)。

【鬐】キ、ギ。渠脂切 支 ❶馬鬣、魚肢、たてがみ、ひれ。○〔莊〕「揚而奮レー」。❷毛落つ、おつ。○〔揚雄〕「ー尾稍盡」。

【〓】リ。鄰知切 支 髪卷くる。

【〓】ヘイ、ビヤウ。筆命切 敬 毛相、けのすがた。

【〓】ヨウ、ユ。餘封切 冬 ❶髪の長き貌にいふ字。❷かざる(飾)。

【〓】サ。想可切 哿 ス井。楚委切 紙 髪好し、うるはし。

【〓】サ、ザ。昨何切 歌 ❶多き貌にいふ字。❷なげく(嗟)。

【鬑】レン、ロン。勒兼切 鹽 鬢垂る、一說に、長き貌にいふ字。

【〓】ハン、バン。薄官切 寒 薄半切 翰 補滿切 旱 髪を屈め束ねたるもの、つかねがみ。

【〓】ハン、ヘン。布還切 刪 髪半ば白し、まだらあたま。○〔柳宗元〕「虎童髪未レー」。

【〓】ハク。伯各切 藥 ❶髪ーは、かづら、そへがみ。❷かみ(髪)。

【鬒】シン。止忍切 軫 之刃切 震 髪稠し、髪黑し、髪美し、こし、くろし、うつくし。○〔詩〕「ー髪如レ雲」。

【〓】前に同じ。

十一畫

【〓】ガウ、ゴウ。牛刀切 豪 髪の貌にいふ字。

【〓】鬔に同じ。

【〓】シヨウ、シユ。七恭切 冬 鬆ーは、髪の亂るゝ貌にいふ語。

【〓】ソウ、ス。祖動切 董 ❶馬の鬣。❷ー角は、あげまき。

【〓】鬆に同じ。

【〓】髹に同じ。

【〓】バ、メ。莫駕切 禡 バク、マク。末各切 藥 はちまき(袜額)。○〔張衡〕「朱ー鬆髻」。

【〓】タウ、トウ。株江切 江 ー鬡は、亂れ髪。

【〓】顥に同じ、髪の白き貌にいふ字。

【〓】ヘウ、ベウ。紕招切 蕭 亂れ髪。

【〓】ヘツ、ベチ。鋪結切 屑 髪の貌にいふ字。

【〓】サイ、セ。蘇同切 灰 髪の亂れ垂るゝ貌にいふ字。

【〓】サイ、セ。取猥切 賄 毛髪の貌にいふ字。

【〓】エイ、アイ。煙奚切 齊 黑髪、くろかみ。

【鬖】サン、ソン。蘇甘切 覃 シン。疏簪切 侵 サン、セン。師咸切 咸 所斬切 豏 サン、ソン。蘇暫切 勘 毛の垂るゝ貌にいふ字、髪の亂れたる貌にいふ字。○〔東觀餘錄〕「紅羽ーー然」。

【〓】ソウ、ス。速侯切 尤 ❶〓ーは、白頭の人、志らがあたまのひと。❷ー〓は、髪の亂れたるを、みだれがみ。

【〓】トウ、ツ。當侯切 尤 前條を見よ。

【〓】ラ。耶何切 歌 髪稠し、あつし。

【〓】バン、マン。無販切 願 母官切 寒 長き貌にいふ字、ながし。○〔漢〕「ー長馳」。

【鬘】バン、メン。莫還切 刪 一種の首飾、かづら、かみかざり、又一種の瓔珞、くびかざり。○〔白居易〕「貫レ寶爲二華ー一」。

【鬗】バン、マン。謨官切 寒 髪の美しき貌にいふ字。

【〓】鬢に同じ。

十二畫

【〓】ヒ。兵媚切 寘 ❶ー〓は、髪の多き貌にいふ語。❷かみ(髪)。

【〓】ソン、スン。子寸切 願 頂上髪なきこと、かぶろ、はげ。

【〓】〓に同じ。

【〓】ダウ、デウ。女教切 效 髪の多き貌にいふ字。

【〓】トウ。都騰切 蒸 タイ。當來切 灰 ー鬙は、毛の亂れたる貌にいふ語。

【〓】キ。丘媿切 寘 もとゞり(髻)。

【〓】シヨク、シキ。賞力切 職 髪垢づく。

【鬙】ソウ。蘇增切 蒸 ❶鬅ーは、髪の短きこと。❷髪亂る、みだる。

【〓】サツ、サチ。麤括切 曷 もとゞり(髻)。

【鬚】シユ、ス。相兪切 虞 くちひげ(須)。○〔三國〕「黃ーー兒竟太奇也」。

(龍鬚) 草の名、石龍芻の異名。○〔爾〕「山ー」「ーー」。
(好鬚) うつくしきよきひげ。
(美鬚) 前に同じ。○〔晉書〕「長大ーー」。
(虎鬚) とらのひげ、又、草の名。○〔本草〕「沙參一名ーー、又鈴兒草」。
(頭鬚) あたまのけとひげと。○〔後漢〕「ーー皓白」。
(鍼鬚) ひげ多し。○〔蜀〕「其人ーー」。
(霜鬚) 志らがのひげ。○〔李中〕「莫嘆有ーー」。
(鼻鬚) ひげのこと。○〔白居易〕「頷下ーー牛鼻絲」。
(垂鬚) たれさがりたるひげ。○〔李洞〕「ーー似髪」。

（石髮）砂石などにたれさがれるこけ。○[范大成]「又有……」。

【𩯭】レウ。落蕭切 蕭 細く長し。

【𩯠】ケキ、キヤク。九劇切 陌 くちひげ、又、くちひげの貌にいふ字。

【𩯣】ハツ、ハチ。北末切 曷 —鬆は、髮毛の多きこと。

【鬉】鬷の字の省文。

【鬷】ソウ、ゾウ。徂聰切 東 毛髮聚まり生ず。

【鬝】カン、ケン。苦閑切 サン、セン。鉏山切 刪 カツ、カチ。恪八切 黠 丘葛切 曷 髮禿、頭瘡、はげ、かさ。○[韓愈]「戎赤若二禿—一」。

【𩯵】ホク、ボク。博木切 屋 髮髮の貌にいふ字。

十三畫

【𩯈】カウ、ゲウ。魚教切 效 髮高し、もさとりたかし。

【𩯽】ロ、ル。郎古切 麌 ●たてがみ（鬣）。●かみのけ（髮）。

【𩰃】鬣に同じ。

【鬞】ジヨウ、ニユ。女容切 冬 ドウ、ノウ。奴凍切 送 ダウ、ノウ。濃江切 江 ●亂髮、みだれがみ。●毛多し。●髮長。

【𩰋】サン。蒼案切 翰 髮の光澤、つや。

【鬟】クワン、ゲン。戸關切 刪 ●總髮、わげ。○[庾信]「花—醉、顏纈」。●山の色に喩へていふ字。○[虞集詩]「窓中遠黛曉千—」。

【鬠】クワツ、クワチ。古活切 曷 クワイ、ケ。古外切 泰 髻に同じ。○[儀]「—笄用レ桑」。

十四畫

【𩰈】セイ、ザイ。在禮切 薺 セツ、セチ。姊列切 屑 子計切 霽 ●小髻を束ぬ、かみゆふ。●小にして高きもさとり。

【𩰓】チウ、ヂユ。陳留切 尤 髮多し。

【𩰄】ラン、ロン。魯甘切 覃 盧敢切 感 髮長し、髮多し、ながし、あつし、又、髮の疎なる貌にいふ字、うすし。○[韓維]「白龍垂レ—正—鬖」。

【𩰒】ボウ、モウ。莫紅切 東 髮の垂るゝ貌。

【鬡】ダウ、ニヤウ。女耕切 庚 鬡—は髮の亂るゝ貌にいふ語。

【鬢】ヒン、ピン。必刃切 震 額の旁の髮、びんづら、びん。○[國]「美—長大則賢」。

【𩰞】デイ、ナイ。奴禮切 薺 髻に同じ、髮の貌にいふ字。

十五畫

【𩰪】髮の本字。

【𩰤】ベン、メン。莫賢切 先 ●髮の貌にいふ字。●眉を描くに用ふる燬煤、まゆずみ。

【鬣】レフ、ロフ。良涉切 葉 ●かみ（髮）、又、かみの貌にいふ字。○[說文]「髮—也」。●ひげ（須）。○[左]「使二長—者相一」。●馬の頸毛、たてがみ。○[禮]「夏后氏駱馬黑—」。●鰭端、はゝきのはし。○[禮]「拚レ席不レ以レ—」。●魚肢、ひれ。○[吳均]「洞庭—之魚」。●松葉、まつば。○[酉陽雜俎]「有二五—七—者一」。
（剛鬣）豕の異名、又、參宣ともいふ。○[禮]「豕曰二—一」。
（長鬣）ながきひげ、又、ながきたてがみ。○[左]「—一」。
（赭鬣）赤色のたてがみ。○[穆]「周人黃馬—」。
（奮鬣）おはるのたてがみ。○[北]「奮毛邀如—」。
（駿鬣）馬のたてがみ。○[曹唐]「—」。

【𩰍】エフ。弋涉切 葉 鬣の端。

【𩰪】ホク、ボク。步木切 屋 髦に同じ。

【𩰹】タウ、トウ。㖒降切 江 —鬆は、髮の亂るゝ貌にいふ語。

【𩰺】サン。作旰切 翰 髮の光澤、つや。

【𩰻】サン。作旱切 旱 まめやかなる貌にいふ字。

【𩰼】サツ、サチ。子末切 曷 毛多し。

十六畫

【𩰆】リヨ、ロ。力居切 魚 ル、ロ。落胡切 虞 ●たてがみ（鬣）。●毛。●鬣—は鬣の起つ貌にいふ語。

【𩯭】レキ、リヤク。狼狄切 錫 髮の疎なる貌にいふ字。

十七畫

【鬤】ジヤウ、ナウ。汝陽切 陽 汝兩切 養 亂髮、みだれがみ、又、毛の亂れたる貌にいふ字。○[楚辭]「被レ髮—只」。

【𩰾】鬤に同じ。

【𩰿】鬣に同じ。○[張衡]「朱—鬆—」。

【𩱀】レイ、リヤウ。郎丁切 青 髮のまばらなると。

【𩱁】サン、セン。仕懺切 陷 かみ（髮）。

鬥 部

【鬥】トウ、ツ。都豆切 宥 カク、コク。克角切 覺 たゝかふ（鬭）。（說文）兩士相對、兵杖在レ後、象二鬥之形一。

四畫

【𩰊】ヘン、ベン。皮變切 霰 うつ（擊）。

【𩰋】ケン、ゲン。胡涓切 先 力士の力を試みる錘、おもり。

五畫

【鬧】ダウ、ヂウ。奴教切 效 衆くして擾る、靜かならず、さわがし、さわぐ、みだる。○[柳宗元]「以召レ—取レ怒乎」。
（□鬧）いたくさわがしきと。○[李華銘]「—」。「雷九市」。
（□鬧）かまびすしくさわがし。○[皮日休]「—」。
（□鬧）騷きして靜かならず。○[白居易]「—」。
（□鬧）おほくの者の喧譁。○[□□]「—」。
（□鬧）喧しく狂ひさわぐ。○[歐陽修]「—」。

六畫

【鬨】コウ、胡貢切 送 カウ、ゴウ。胡絳切 絳 ●たゝかふ（鬭）。○[孟]「鄒與レ魯—」。●鬨ふ聲、とき、又、鬨ぐ聲、おほごゑ。○[朱熹]「高音喧—」。
（笑鬨）わらひて大聲を發す。○[李安□]「家—笑—」。
（□鬨）群衆してときの聲をあぐ。○[名山記]「—」。

八畫

【鬩】ケキ、ギヤク。許激切 錫 カク、キヤク。郝陌切 陌 ●互に訟ふ、互に佷る、相怨恨す、もさとる、うつたふ、せめく。○[詩]「兄弟—レ牆」。●鬩に通じ用ふ、ひつそり。○[易]「—其无レ人」。
（鬩牆）他人のそしりを聞きて兄弟などの相もとり違ふと。○[國]「兄弟—」。
（□鬩）兄弟の相怨みて爭ひあふにいふ語。○[隋]「兄弟—」。
（□鬩）兄弟などのなかむつまじからず相恨みもどると。○[魏]「—」。
（□鬩）交りむつまじからずして別れ〲となりて相怨みせめく。○[唐]「—」。
（□鬩）相怨みてあしさまにそしりあふと。○[魏]「—」。

【𩰔】鬩に同じ。○[呂氏春秋]「相與私—」。

十畫

【鬪】俗の鬭の字。

十一畫

【𩰖】錄の鬭の字。

【鬮】リウ、ル。力求切 尤 くびりころす、くゝる（絞）。

【𩰗】ケウ。古了切 篠 レキ、リヤク。狼狄切 錫 春の降殺にいふ字、そぐ。

【𩰘】セン。匹賓切 眞 たゝかふ（鬭）。

十二畫

【鬫】カン、ケン。火斬切 豏 たけきもの奮怒す、いかりて聲を發す、いかる、さけぶ、ほゆ。○[詩]「—如二虓虎一」。
（鬫鬫）虎などのたけく猛りわめく聲、又、勇者の狂烈なる氣勢にもいふ。○[漢書]「七雄—」。
（鬫々）虎などの咆怒の聲にいふ語、又、たけき威勢にもいふ。○[閩、註]「軍旅之事—」。
（咆鬫）虎などのたけくわめくと。○[陸機]「—之筆」。

【𩰙】カン、コン。許鑑切 陷 獸の怒れる聲にいふ字。

【𩰚】鬭の本字。

【𩰛】鬭に同じ。

十四畫

【鬭】トウ、ツ。都豆切 宥 當侯切 尤 相擊つ、相爭ふ、あらそふ、たゝかふ、あらそひ、たゝかひ。○[禮]「遇二諸市朝一、不レ反レ兵而—」。
（□鬭）けなげに戰ふ。○[後漢]「將非不レ—」。
（□鬭）交戰すると。○[魏]「—於高雷之上」。
（□鬭）各所をめぐり戰ふと。○[史]「—轉北」。
（衆鬭）多くの人と共に戰ふと。○[史]「—」。
（□鬭）盛んに戰ふ。○[史]「中流矢—」。
（爭鬭）あらそひ、又、たゝかひあらそふ。○[王褒]「—」。
（戰鬭）たゝかひ、又、たゝかふ。○[左]「—」。
（死鬭）いのちがけに奮闘して勝敗を決すると。○[史]「—」。
（□鬭）うちあひたゝかふ。○[唐]「—」。
（私鬭）おほやけならざる各自のたゝかひ。○[史]「—」。
（力鬭）はげみて戰ふ。○[唐]「—」。
（苦鬭）いたくはねをりて戰ふ、又、困難なるたゝかひ。○[隋]「—不息」。
（□鬭）ものぐるひとなりて戰ふ。○[宋]「—」。
（□鬭）苦戰していたく敵をうちころす。○[唐]「—」。

【𩰜】アイ、ナイ。奴礙切 智少く力劣る、おろか。

【𩰝】ヒ、ミ。綿婢切 紙 ●前條に同じ。●せまし（偏狹）。

十七畫

【鬮】キウ、ク。居求切 尤 吉酉切 有 鬮ひて取る、さぐる。

十八畫

【𩰠】フン、ボン。撫文切 文 たゝかふ、あらそふ、みだれあふ。

鬯 部

【鬯】チヤウ。丑亮切 漾 ●一種の香草、にほひぐさ、又、之を黑黍に合はせ釀して宗廟に奉ずる酒。○[詩]「秬—一卣」。

㊀慎る。慾む。憂ふ。心思結ぼる。○〔書〕「一一陶乎予心」。
㊁舒びす。揚がらす。屈して發せず。○〔周〕「鐘鼓弗則一」。
㊂ふさぐ。ふさがる。〔塞〕。○〔管〕「一レ令而不レ出者幽二其君一也」。
㊃まづむ〔洗〕とさこほる〔滯〕。○〔左〕「一湮不レ育」。
㊄腐臭くさし。くさる。○〔禮〕「鳥獸色而沙一鳴一」。
㊅香ばし。○〔劉孝標〕「首二郁於蘭一」。
㊆蒸す。○〔木華〕「時一雘其如レ烟」。
㊇起こる。○〔枚乘〕「一結之輪」。○〔漢〕「玄一鹽決一」。
㊈盛氣。○〔禮〕「一氣也」。
㊉ながし。そだつ。○〔廣韻〕「一長也」。
㊊くらし。かすかなれかす。○〔廣韻〕「一幽也」。
㊋椋の屬。にはうめ。○〔詩〕「食二一及園」。○〔周〕「和二一鴈一以實レ鼎而臑レ之」。
㊌（い）泡魚の卵が孵化して幾ばくも無い上時。○〔周〕「安一一仍居此矛」。（ろ）蒸のさかんに發酵する時にいふ語。○〔後漢〕「氣蒸鼎一一羽升鼎」。（は）稻米などのさかんに殼から出る時にいふ語。○〔後漢〕「一一西陵積」。

【雲部】氣の形を等がえにいふ時。○〔周〕「子開！一其雲爾」。
【雲部】蒼白で變ぎまるにいふ時。○〔晉統〕「心中一一」。
【雲部】草木の盛んに茂る時、又雲霧などの盛んにのぼる時にいふ語。○〔後漢〕「一一之盛」。
【雲部】氣の薄くうづまいて明瞭ならざるをいふ。○〔詩〕「一一在天」。
【雲部】氣の散ゆずして、むらがるさま。○〔後漢〕「既一一既雨」。
【雲部】雲氣のさかんなるさまにいふ語。○〔後漢〕「一一羽蓋」。

【雲部】雲の形ありて雨ふらざるにいふ語。○〔書〕「一一降于西郊」。
【雲部】雲の動く狀みて雨ふらざるにいふ語。又草木などの茂く殘りたる狀にもいふ語。○〔後漢〕「一一之潤」。
【雲部】樹木などのむらがり茂りたるにいふ語。○〔晉〕「一一郁郁」。
【雲部】雲の如き物を總稱していふ語。○〔後漢〕「一一蔽空」。
【雲部】雲を招くと言ふ。雲を感和したる語。○〔後漢〕「一一告神」。
【雲部】王の諸侯の副となり雲雨を降雨せずしてゐる者。○〔周〕「凡王事有共一一」。
【雲部】雲雨降りたる。○〔白虎通〕「旁礴一一」。

五畫

靦 精に同じ。かて。

鋭 シ。爽士切 紙 よきにほひ。〔美香〕。

六畫

鍼 シ。疏更切 寘 はげし。〔烈〕。

七畫

鬱 キヨ、ゴ。其呂切 語 くろきび。〔黍〕。

八畫

鬱 カツ、チチ。舒物切 質 芳艸。かなりぐさ。

鬱 カツ、チチ。舒物切 質 俗に「鬱」に作る。

●脚曲がれる鼎。脚の開の濶き鼎。脚の中空なる鼎。かなへ。○〔周〕「一實五鼏。○〔揚雄〕「錢奚揚之聞譽二之一一。
●かま。〔鍑〕。○〔揚雄〕「錢奚揚之聞譽二之一一。
〔雲部〕鼎のたぐひ。一種のかま。○〔禮〕「大則以一一。
〔雲部〕すかきのかまの足あるもの。○〔說苑〕「——有一一。
〔雲部〕かなへの如くあしあるべきかまのたぐひ。○〔禮〕「金鼎——」。

隅部

鬲 レキ、リヤク。郎擊切 錫

鬲 カク、キヤク。各核切 麥
●瓦瓶。もたひ。○〔禮〕「陶人出二重一一」。
●隔に同じ。へだつ。へだたり。○〔儀〕「宜二廣大一一閑門戸一」。

鬲 アク、ヤク。乙革切 陌
輗に同じ。くびき。○〔周〕「凡良」轅一長六尺」。

三畫

鬲 クヲ。古禾切 戈
つちがま。土釜。

四畫

鬲 ギ。魚綺切 紙
三足の鍑。かま。一說に、米を搗く器、こめさぎ。

鬲 アン、モン。無文切 文
なべ。〔釜〕。

鬲 鍋に同じ。

五畫

鬲 レキ、リヤク。狼狄切 錫
甑に同じ。

鬲 鍋に同じ。

六畫

鬲 ケン、コン。俱願切 願

鬼の屬。

鬻 シヤウ。式羊切 陽
關に同じ。にる。〔煮〕。

鬻 レキ、狼狄切 錫 リヤク。
あしがなへ。〔鬲〕。

鬯 ケイ。戸圭切 齊
簋に同じ。こしきの下のあな。

鬲 ヲ、ニ。如之切 支
隄に同じ。にる。○〔揚雄〕「桑實之郊、謂レ熟曰レ一」。

鬳 ガイ。魚開切 灰
かたきむぎ。麪。一說に、菊中の塊。

七畫

鬴 フ。扶雨切 麌 レキ、狼狄切 錫 リヤク。
鍑の屬。かま。○〔周〕「四一上也」。

鬵 ケイ、キヤウ。古定切 徑
へだつ。〔隔〕。

八畫

鬻 ヒ。芳味切 未
沸に同じ。わく。わかす。○〔楚辭〕「氣一其若レ波」。

鬻 セン、昨鹽切 鹽 ゾン。徐林切 侵
●かま。〔釜〕。○〔詩〕「漑二之釜一一」。
●こしき。〔甑〕。○〔揚雄〕「甑自レ關而東、謂二之甗一或謂二之一一」。
●さし。〔疾〕。〔謂二之甗一或謂二之一一」。

鬻 ソウ、子孕切 徑 ソウ。 卽夜切 禡
隄に同じ。○〔揚雄〕「桑實之郊、謂レ熟曰レ一」。

鬻 シュク、之六切 屋 ソク。 ビ、忙皮切 支
俗に「粥」に作る。

鬻 イク、オク。余六切 屋
●うる。
（い）ひさぐ〔賣〕。○〔禮〕「田里不レ一」。（ろ）てらふ〔衒〕。○〔漢〕「自衒一一者」。（は）敗く。○〔戰〕「三五一國」。（に）嫁す。○〔禮〕「請レ一庶弟之母一」。
●やしなふ〔養〕。○〔莊〕「四者天一也」。
●そだつ〔生〕。○〔禮〕「毛者孕一」。
〔自部〕自れの身を育てて人に使はるゝもの。○〔王逸〕「一風鈴一一」。
〔雲部〕ひさぐ。○〔後漢〕「候一人一一骨貴賤」。
〔雲部〕前に同じ。○〔後漢〕「一一官爵」。

鬻 キク、コク。居六切 屋
なさなし〔稚〕。一說に、やしなふ〔養〕。○〔詩〕「一子之閎斯」。

鬻 ガウ、ゴウ。牛刀切 豪
いろ。〔乾煎〕。

鬻 鬻に同じ。

十三畫

鬻 鬻に同じ。

十四畫

鬻 ケン、唐韻 元 コン。切 諸延 先
かゆ。〔糜〕。

十五畫

鬻 ショ、ソ。章與切 語
煮に同じ。にる。にゆ。○〔周〕「一レ鑊以待二戒令一」。

十六畫

鬻 サウ、セウ。初爪切 巧
燒に同じ。いる。〔炒〕。

鬻 カウ、キヤウ。古行切 庚
篆書に粟に作る。あつもの。

十七畫

鬻 ソク。桑谷切 屋

戚は鉞に作る。鄙の實。

鬻 リン。紂針切 侵

淋に同じ。水を洟ぐ。

十八畫

鬻 シュウ、ソウ。子孕切 徑

鬮に作る。炊ぐ器。

二十畫

鬻 ヤク。以灼切 藥

肉及び菜を湯に浸すゆびく、ゆがく。

廿一畫

鬻 ケウ。許嬌切 蕭

炊氣の祝にいふ字、むす、ゆげ。

鬼部

鬼 キ。居偉切 紙 說人所謂死人入象（文一個）

❶おに。

（一）死者の精靈、たましひ、幽魂。○〔易〕「是故知二神之情狀一。（二）祭祀せる幽魂、かみ。○〔禮〕「列二於一神一。（三）惡害をなす陰氣又は其の現體、ものゝけ、ばけもの。○〔詩〕「爲レ鬼爲レ蜮」（四）人類以上の靈あるもの、冥々の裡に存して不可思議の力あるもの。○〔漢〕「化若レ」（五）冥々の裡に存して人に關難を齎らすもの。○〔易林〕「貧—守門」（六）想像上の一種の生物、人の體をなし額に獨角あり面貌猙獰體にして虎皮を裂とす。○〔唐逸史〕「明—皇雜錄」—藍袍」。

❷さとし（慧）。○〔揚雄〕「虎、儇—難也、自レ關而東、趙魏之閒、謂二之黠一或謂二之—一」。

❸ことほし（壽）。○〔詩〕「覃二及—方一」。

〔鬼〕疫病をつかさどる神。○〔左〕「其何—能爲」。

〔鬼〕ふしぎなる神。○〔莊〕「心—神者凶」。

〔鬼〕はかの稱號。○〔白虎通〕「死者之稱—何日」。

〔鳥〕雀の異名。○〔禮記疏〕「川人呼—雀爲」。

〔草〕半夏の縮寫。○〔本草綱目〕「—臼、雷公炮製時用」。

〔病〕貴國をつかさどる神。○〔韓愈〕「三—除」。

〔強鬼〕つよきみ。○〔後漢〕「——也」。

〔慎鬼〕うらみをよくわ銘記。○〔後漢〕「—長舌」。

〔新鬼〕ちかごろ死にたるもの。○〔左〕「舊鬼」。

「—」。

〔經鬼〕おとりの疫鬼。○〔後神經〕「—居江水源」。

〔人鬼〕人の死にたるもの、靈魂。○〔周〕「掌—邦之天神」。

〔鼠鬼〕ねずみにして國ならざる神號。○〔後漢〕「死—」。

〔故鬼〕ものをやゝよりそこなふ靈體。○〔後漢〕「死—」。

鬼 部

鬼 畫

鬼 キ。俱偉切 紙

老いたる精物、こだま、ばけもの。○〔周〕「致二地示物一」。

魁 ワイ、エ。鄔賄切 賄

—郭は、いしぢ、塊病。

魄 ワイ、エ。烏猥切 隊

❶科に同じ。○〔後漢〕「大率皆—頭露結」。

〔植鬼〕村里のをさ。○〔後漢〕「里有—」。

〔植鬼〕農業のかしら。○〔周〕「牧四郊—」。

〔植鬼〕林業のかしら。○〔周〕「職皇之—掌沙禁」。

〔八鬼〕星の名。○〔晉語〕「—在北落南」。

〔植鬼〕音信をするものゝかしら。○〔後漢〕「雷電—」。

魁 クワイ、タ。苦猥切 賄

—塊は、大枝の節の盤結すること。

魂 コン、ゴン。戶昆切 元

❶陽の精氣、性情の精氣、心の精爽、たましひ。○〔易〕「遊—爲レ變」。

❷多き祝にいふ字。○〔禮雜〕「—萬物」。

❸光氣の盛り爛く祝にいふ字。○〔山海經〕「其氣—」。

〔自魂〕太陽の氣。○〔李周翰〕「陽神—」。

〔星魂〕星辰をおどろかす。○〔後漢〕「—動心」。

〔神魂〕おどろかされたるこゝろ。○〔後漢〕「—不靜」。

〔神魂〕かたちを離れたるたましひ、又、封禪のよるのこゝろ。○〔後漢〕「多少—相不悉」。

〔植魂〕前に同じ。○〔本草〕「—根莖皮葉治用」。

〔植魂〕心をいたむ。○〔本草〕「白蓋事節正—」。

〔植魂〕前に同じ。○〔後漢〕「—根相連」。

〔人魂〕たましひ。○〔後漢〕「—遊相隨」。

〔植魂〕前に同じ。○〔後漢〕「—前有蟲」。

〔植魂〕前に同じ。○〔前方別〕「—前有蟲」。

〔植魂〕前に同じ。○〔前草圖〕「—狀似」。

〔木魂〕柳花のとびいふ語。○〔宋之問〕「五參差—」。

「—」。

〔住魂〕弱きたましひ。○〔自牢牛〕「—不安」。

〔植魂〕たゞにあるときのこゝろ。○〔杜甫〕「客—」。

〔植魂〕前に同じ。○〔杜甫〕「—依舊」。

〔木魂〕木の精。○〔宋之問〕「———依北簷」。

魄 ハク、パク。普伯切 陌

❶物の聲にいふ字、特に其の安定の意あるにいふ字。○〔史〕「其聲—云」。

❷粕に同じ、かす。○〔莊〕「古人之精—已夫」。

❸薄に同じ ○〔史〕「旁—四塞」。

魄 タク。他各切 藥

落—は、業を失ひて倚處なきこと、志行の衰惡せるとき、おちぶれる。○〔史〕「家貧落—」。

魄 タク。知高切 豪

前條に同じ。

魅 ヒ、ミ。明祕切 寘

❶異氣、怪精、ものゝけ、ばけもの。○〔後漢〕「死者—能損二我曹員一數一否」。

❷人を惑害すみいるばかす。○〔孔叢〕「容—媚諂」。

〔魔魅〕おにとばけもの。○〔風俗〕「—一變形」。

〔木魅〕老木の精。○〔前漢天官書〕「山林—」。

〔獸魅〕山林より生ずるばけもの。○〔左〕「———則」。

「予—懼」。

〔物魅〕ものゝ怪精、ばけもの。○〔周禮〕「———」。

〔物魅〕もろ〳〵のばけもの。○〔後漢〕「—鬼妖百—」。

「—今日歸」。

〔物魅〕怪物をはらふ器、長柄に於くもの。○〔後漢志〕「—以—辟兵革及疾疫」。

上有鬼面形、系以綵帛、用指揮、若今所以金鼓也。

〔精魅〕物の精氣。○〔後漢紀〕「—此」。

〔山魅〕今日のばけもの。○〔李郭〕「木—多—物神」。

〔魔魅〕みいればかする。○〔宋中郎〕「—變」。

〔魔魅〕木中の怪精。○〔禮記〕「—皆出載」。

〔野魅〕のはらのばけもの。○〔論衡〕「—其形出」。

〔魔魅〕えたるもせうばけもの。○〔晉語〕「—生男善食人」。

〔魔魅〕妖中のかたち。○〔晉令〕「—逆—」。

〔社魅〕社稷の異名。○〔武元衡〕「—守幕府」。

魅 ヒ、ミ。明祕切 寘

魅 畫

魅 ヒ、ミ。丑知切 支

すだま、魅。

魅 魅に同じ。○〔山海經〕「—山多—神」。

魅 畫

魅 エイ、ヤウ。烏澤切 陌

まじなひ「巫—獻」。

魅 モウ。相邀切 蕭

獨足の山精、すだま。○〔抱朴子〕「山—精、形如二小兒一、獨足向レ後、喜—犯レ人、名曰レ—呼二其名一則不レ能レ犯」。

魏 ギ、ゲ。五敬切 敬

みにくし、醜。

魘 タイ、吐內切 隊 テ。他潰切 隊

熱病ひのやまひ。

魏 ガウ、ゲウ。五敬切 敬

醜き貌にいふ字。

魍 ヨ。良以切 紙

惡鬼。

魑 チ。丑知切 支

敎菜 厥

えやみのかみ、厲鬼、一說に、螭魅の類すだま。

魏 前條に同じ。

魏 クツ、コチ。許屈切 錫

❶いつはる（譎）。❷にはか（猝）。

魍 チク。知高切 豪

魑 チ。丑知切 支

魑 畫

魑 チ。丑知切 支

魑 魑に同じ。

魑 ハク、パク。白各切 陌

❶物の聲にいふ字、特に其の安定の意あるにいふ字。○〔史〕「其聲—云」。

❷粕に同じ、かす。○〔莊〕「古人之精—已夫」。

❸薄に同じ ○〔史〕「旁—四塞」。

魑 タク。他各切 藥

落—は、業を失ひて倚處なきこと、志行の衰惡せるとき、おちぶれる。○〔史〕「家貧落—」。

魑 タク。知高切 豪

前條に同じ。

魑 クツ、コチ。許屈切 錫

❶いつはる（譎）。❷にはか（猝）。

魑 チク。知高切 豪

敎菜 厥

えやみのかみ、厲鬼、一說に、螭魅の類すだま。

魑 前條に同じ。

魑 ヒ、ミ。明祕切 寘

❶異氣、怪精、ものゝけ、ばけもの。○〔後漢〕「死者—能損二我曹員一數一否」。

❷人を惑害すみいるばかす。○〔孔叢〕「容—媚諂」。

〔魑魅〕おにとばけもの。○〔風俗〕「—一變形」。

〔木魅〕老木の精。○〔前漢天官書〕「山林—」。

〔獸魅〕山林より生ずるばけもの。○〔左〕「———則」。

「予—懼」。

〔物魅〕ものゝ怪精、ばけもの。○〔周禮〕「———」。

〔物魅〕もろ〳〵のばけもの。○〔後漢〕「—鬼妖百—」。

「—今日歸」。

〔物魅〕怪物をはらふ器、長柄に於くもの。○〔後漢志〕「—以—辟兵革及疾疫」。

上有鬼面形、系以綵帛、用指揮、若今所以金鼓也。

〔精魅〕物の精氣。○〔後漢紀〕「—此」。

〔山魅〕今日のばけもの。○〔李郭〕「木—多—物神」。

〔魑魅〕みいればかする。○〔宋中郎〕「—變」。

〔魑魅〕木中の怪精。○〔禮記〕「—皆出載」。

〔野魅〕のはらのばけもの。○〔論衡〕「—其形出」。

〔魑魅〕えたるもせうばけもの。○〔晉語〕「—生男善食人」。

〔魑魅〕妖中のかたち。○〔晉令〕「—逆—」。

〔社魅〕社稷の異名。○〔武元衡〕「—守幕府」。

魑 畫

魑 チ。丑知切 支

すだま、魅。

魑 魑に同じ。○〔山海經〕「—山多—神」。

魑 畫

魑 エイ、ヤウ。烏澤切 陌

まじなひ「巫—獻」。

魑 モウ。相邀切 蕭

獨足の山精、すだま。○〔抱朴子〕「山—精、形如二小兒一、獨足向レ後、喜—犯レ人、名曰レ—呼二其名一則不レ能レ犯」。

魑 テン、ダン。杜衍切 銑

醜き貌にいふ字。

魑 ヨ。良以切 紙

惡鬼。

魑 ガウ、ゲウ。五敬切 敬

みにくし、醜。

魑 タイ、吐內切 隊 テ。他潰切 隊

熱病ひのやまひ。

八畫

【䰭】トウ、ツ。都籠切 東
㊀醜き貌にいふ字。㊁鬼人を殺す。

【䰯】エン。於驗切 豔
汚し穢る、けがす。

【魌】キ、ギ。渠羈切 支
鬾に同じ、童鬼、こおに。

【䰰】ラウ。郎宕切 漾
江鬼の醜き貌にいふ字。

【魊】ヨク、井キ。雨逼切 職
㊀小兒の鬼。㊁いさごむし（短狐）。

【䰲】コク。胡國切 職
㊀前條の㊀に同じ。
㊁鬼—は、つむじかぜ（旋風）、一說に、鬼の風に因りて人を伺ふと。

【魆】
䰲に同じ。

【魋】ダイ、デ。杜回切 灰
まやぐま（赤熊）。○〔爾〕「—如二小熊一」。

【魋】ツヰ、ヅヰ。傳追切 支
椎頭髻、さいづちまげ。○〔漢〕「—結箕踞」。

【䰩】トク。丁木切 屋
醜き顏。

【魌】キ。去其切 支
㊀みにくし（醜）。㊁—頭は、まよけ。

【魓】ヘイ、ハイ。匹米切 薺
㊀みにくし（醜）。㊁妖魅、まもの。

【䰧】コ、ウ。荒烏切 虞
鬼の貌にいふ字。

【䨾】ケキ、キャク。古歷切 錫
雨鬼、あめのかみ。

【魍】
蝄に同じ。

【魎】
蜽に同じ。

【魏】ギ。魚貴切 未
㊀たかし（高）。○〔淮〕「—闕之高」。
㊁地の名、又、人の姓。○〔徐鉉〕「以爲二—國之一—二」。

【巍】ギ。語韋切 微 グヮイ、吾回切 灰
㊀おほいなり（大）。○〔莊〕「——乎其終則復始也」。
㊁小さくして形を成せるにいふ字、ほそし。○〔揚雄〕「凡細而有レ容謂二之—一」。

九畫

【䰫】ケキ、キャク。古役切 陌
まづか（靜）。

【䰬】サフ、セフ。士甲切 洽
みにくし（醜）。

【䰮】シャ、セ。昌者切 馬
䰮に同じ、みにくし。

【魠】ト、ツ。東徒切 虞
山の鬼。

【魒】ベウ、メウ。眉鑣切 蕭
蠱鬼、まじもの。

十畫

【䰻】キ、ゲ。渠希切 微
魕に同じ、南方の鬼。

十一畫

【魑】
螭に同じ。○〔左〕「—魅罔兩」。

【魔】バ、マ。莫波切 歌
人に障害をなす鬼類、心を惱亂せしむる害物。○〔法華經〕「我墮二疑網一、故謂二是—所一レ爲」。
（天魔）能く人を迷はす天上の狂鬼。○〔釋軌〕「外—・—」。
（詩魔）作詩の念をおこさしむる鬼。○〔詩話〕「詩有二下・劣—・—一」。
（睡魔）もろ〳〵の鬼。○〔百〕「—・—」。
（病魔）疾病といふに同じ。○〔參〕「—・—不レ敢窺二」。
（妖魔）あしき鬼。○〔歐陽修〕「古鑑照二—・—一」。
（惡魔）前に同じ。○〔法苑珠林〕「—・—波旬」。

【䰼】ダ、ナ。諾何切 歌 ダ、ナ。乃旦切 翰 ダウ、子ウ。尼交切 肴 ダ、ナ。乃箇切 箇
㊀疫癘の鬼を驅ろ、おにやらひ。
㊁鬼を見て驚く、おびゆ。

十二畫

【䰾】トウ、ドウ。徒登切 蒸
空中の鬼。

【䰿】シャ、セ。蠲者切 馬
醜—は、みにくし。

【魈】サウ、セウ。楚交切 肴
㊀疾き貌にいふ字、一說に、つよし（健）。
㊁剽輕にして害を爲す鬼。

【䰹】サウ、セウ。士鉸切 巧 セウ。初交切 肴
わるがしこし（譎）。

【魆】キツ、ミチ。其律切 質
狂鬼、きちがひおに、一說に、頭なき鬼。

【䰺】
前條に同じ。

【魒】ラウ、レウ。來寥切 效
おどろく（驚）。

【魕】キ、ゲ。渠希切 微 渠豈切 尾
南方の鬼。

【魖】キョ、コ。朽居切 魚
えやみのおに（耗鬼）。○〔漢〕「捎二—一」。

十三畫

【䱀】エキ、ヤク。羊益切 陌
鬼の使。

十四畫

【䰹】ヒン、ピン。符眞切 眞
鬼の貌にいふ字。

【魗】ギ。魚記切 寘 ギ、ゲ。魚旣切 未
㊀おそる（恐）。㊁まさふ。

【魗】シウ、シユ。昌九切 有 市流切 尤
すつ（棄）、にくむ（惡）。○〔詩〕「無二我—一兮」。

【䰴】ジユ、ニユ。人朱切 虞 ドウ、ヌ。奴鉤切 尤 乃豆切 宥
鬼の聲にいふ字。

【䰶】サツ、サチ。初八切 黠
羅—は、國の名。

【魘】エン。於琰切 琰 エフ。於葉切 葉
夢中に驚く、睡中に怖る、おそはる、おそふ。○〔權德輿〕「寢有レ—」。
（夢魘）夢におそはる。○〔梅堯臣〕「夜夢驚—」。

十五畫

【䰷】テキ、ヂャク。徒歷切 錫
みにくし（醜）。

【䰸】ライ、レ。盧回切 灰
雷鬼。

十七畫

【䰻】レイ、リヤウ。郎丁切 青
神の名。

【䰼】ク、コ。其俱切 虞
つぐ（亞）。

魚部

【魚】ギヨ、ゴ。牛居切 魚 （說文）水蟲也、象形、魚尾與燕尾相似。
㊀水中に棲み鰭にて泳ぐ動物の總名、うを、いを。○〔史〕「白—躍入二王舟中一」。
㊁うをの皮。○〔詩〕「—弭—服」。
㊂有位有官者の佩ぶるうをの形をなせる物、おびもの。○〔唐〕「初罷二龜袋一、復給以レ—」。
㊃兩目白き馬。○〔詩〕「有レ驔有レ—」。
㊄吾に同じ。○〔列〕「姬—語レ女」。
（蠹魚）魚の名、頭の狀に似て脂多しといふ。○〔詩〕「有—・—」。
（鮪魚）おほいなるうを。○〔漢〕「—・—」。
（京魚）前に同じ。○〔羽獵賦〕「乘二巨鱗一騎二—・—一」。
（鰒魚）あはび。○〔皮日休〕「且向二江南一問二—・—一」。
（木魚）木もて魚のかたちを造り叩きて寺を報ずる具。○〔朱熹〕「齋飯何時共二—・—一」。
（釜魚）釜の中に在る魚、久しからずして煮られて死ぬるに喩へていふ語。○〔杜甫〕「—・—」。
（枯魚）乾したるうを、ひもの。○〔家語〕「—・—銜索」。
（乾魚）前に同じ。○〔史〕「—・—」。
（游魚）およぐうを。○〔陶潛〕「臨レ水愧二—・—一」。
（鰷魚）小魚の名、はえ。○〔山海經〕「中多二—・—一」。
（魯魚）二字相似たるより往々寫し誤るとありそれより文字の誤りのことにいふ。○〔抱朴〕「書三寫、—成レ魯、虛成レ虎」。
（金魚）黃金もて作りたるうをの狀をなしたるもの、又、こがねいろの魚。○〔合璧事類〕「—・—池」。
（玉魚）魚の名、又、玉もて作りたるうを。○〔天寶遺事〕「賜二—・—一含レ之」。
（文魚）うつくしきうを。○〔張衡〕「乘二白黿一兮逐二—・—一」。
（潛魚）水上かくひそみかくるゝうを。○〔謝靈運〕「—・—媚二幽姿一」。
（奇魚）めづらしきうを。○〔山海經〕「怪獸—・—」。
（肥魚）こえたるうを。○〔詩〕「有二—・—一」。
（天魚）梟の名。○〔甘石星經〕「—・—一星在二河中一」。
（衣魚）（い）衣帛書紙などの中に生ずる蟲の名。○〔本草〕「—・—生二久藏衣帛及書紙中一」。（ろ）有位者の佩ぶる金玉などもて作りたる魚形のものを身につくること。○〔舊唐書〕「三品—・—」。
（鮫魚）前の（い）の類に同じ。○「—・—」。
（打魚）魚を捕らふること。○「—・—」。
（板魚）ひらめ、鰈の類。○〔北戶錄〕「比目魚南方謂二之—・—一」。
（比目魚）前に同じ。○〔漢〕「—・—之魚」。
（吞舟魚）舟を吞むほどの大なる魚のこと。○「—・—」。
（鯨木魚）海中に生ずるうを。○〔晉書〕「—・—之—・—不レ漁二於江一」。
（緣木求魚）決して得べからざる喩にいふ語。○〔孟〕「猶二—・—一也」。
（上山求魚）前に同じ。○〔易林〕「—・—」。

二畫

【魞】アツ、エチ。烏黠切 黠
鰈—は、身尾共に鮎に似たる一種の魚、背は青く腹は黃なり、腮の下に二の橫骨ありて兩の須あり、ぎゞとげばち。○〔本草〕「黃顙魚一名鰈—」。

【魛】タウ、トウ。都牢切 豪
鱭—は、刀形をなせる一種の魚、えつ、だつ。

【魜】セウ。先鳥切 篠 レウ。朗鳥切 篠
はえ（鰷）。

【魜】ジン、ニン。而眞切 眞
魚の名。○〔南〕「鯑—鯖鱨」。

【魝】ケツ、ケチ。吉屑切 屑
魚を治む、きる。

【魝】ケイ、カイ。吉詣切 霽
とく（解）。

【魰】ギョ、ゴ。偶擧切 語
いけす（？）。

【魤】
鮍に同じ。

三畫

【魟】コウ、ク。沽紅切 東
䱋—は、形は鼈に似て食らふべき一種の蟲。

【魟】コウ、グ。戶公切 東
㊀一種の魚、みごひ、黃白の二種あり、鱗無く頭尖り身は槲の葉の如く口は頷の下に在りて耳眼の後にあり尾の長さ一尺末に三つの刺ありて毒を含むといふ。
㊁魚肥ゆ、ふとる。

【魟】カウ、コウ。古雙切 江
前條の㊀に同じ。

【魠】タク。他各切 藥
黃頰魚、たら。○〔漢〕「鰅鰫鰬—」。

【魤】
鮀に同じ。

【魡】テキ、チャク。丁歷切 錫
弔に同じ、魚を繫ぐ。

【魡】テウ。多嘯切 嘯
餌をもて魚を取る、つる。○〔莊〕「—魚閒處一」。

【魦】セウ。私兆切 篠
細き魚。

魨 トン、ドン。徒渾切 元
一種の魚、ふぐ、背青く腹白し、物觸るれば怒りを致す。其の肝は毒を致す。○〔本草集解〕「河豚狀如三科斗一。」

魦 井。於鬼切 尾 ギ、ゴ。切 語 ギョ、語求 尤
魚の名、鯖の類。

魶 飯に同じ。

魬 ゲフ、ゴフ。吾合切 合
魚の名、こち。

魭 ケフ、コフ。去劫切 業
魚を竹に貫き乾したるものほしうを。

魦 鯊に同じ、さめ、すなふき。○〔後漢〕「鯊鰕鱉」。

魷 カフ、コフ。黒蛮切 合
鯛一は、魚の名。

魷 サフ、ソフ。作答切 合
魚の口の動く貌にいふ字。

鮭 ケイ、ボウ。部項切 講
●蟀に同じ、蟲の鵬。
●鯖に同じ、美しき殊。

魷 コウ、古紅切 東 トウ、慈公切 東
鯛の字の條を見よ。

鮫 コウ、古紅切 東 トウ、慈公切 東
鯛の別種、身圓く厚く短かくつまり味豊かなり。

五書

魷 カ、ゲ。胡歌切 歌
ぎょ、鮭。

魷 カ、賈我切 哿
つけうを、鮭。

魷 ヘイ、ビヤウ。補永切 梗
はまぐり、蚌。

魷 ヘウ、ビヤウ。白猛切 梗
蟲の名。

魷 カフ、ケフ。鰭甲切 洽
一鰈は、鱗のならびて衆多なる貌にも裝飾の重なれる貌にもいふ詞。○〔潘岳〕「一鰈參差。」

魷 キョ、丘於 魚 タフ、トフ。切 合
ケフ、乞業 コフ。切 葉
かれひ、比目魚。○〔漢〕「馬々一鰈。」

魷 甲。居郎 陽 カウ、下期 ゲウ。切 耆
●大いなる貝。 ⊜魚の膏。

魷 ヒ、ビ。貧悲切 支
●大鰓。 ⊜動、もだま。

魷 レイ、耶丁 青 リヤウ。切 迥 雛貞 切 庚
蟲の連なり行きめぐり行くものゝ稱。

魷 鱗に同じ。
タ、ダ。唐何切 歌

魷 すなふき、〔吹沙小魚〕。○〔本草圖經〕「一魚生三湖畔土窟中一。」

魷 飽の俗字。

魷 アウ、ヤウ。於喬切 篠
飢の字の條を見よ。

魷 ハツ、バチ。北末切 曷
魚の游ぐ貌にも魚の躍る貌にも魚の尾を掉ふ貌にもいふ字。

魷 ハイ、ベ。符廢切 隊
魚の名。

魷 シウ、ジュ。徐由切 尤
はえばや、條。○〔爾雅〕「黒一鰌。」

魷 フツ、ボチ。符勿切 物
海魚。

魷 ヒツ、ビチ。譚必切 質
●はらか、ます（鱒）。○〔爾雅〕「一名鱒。」
⊜石一は、一種の魚の名、谷川に産し、形はえに似て狭く長く大いなるは八九寸あり、鱗細く口大きく鬚尖り能く蟲を捕り食らふ、かはむつ、むつ。

魷 ヒ、ビ。鼻悲切 支
●大鰓。 ⊜動、もだま。

魷 レイ、耶丁 青 リヤウ。切 迥 雛貞 切 庚
蟲の連なり行きめぐり行くものゝ稱。

魷 鱗に同じ。
タ、ダ。唐何切 歌

魷 すなふき、〔吹沙小魚〕。○〔本草圖經〕「一魚生三湖畔土窟中一。」

魷 飽の俗字。

魷 アウ、ヤウ。於喬切 篠
飢の字の條を見よ。

魷 ハツ、バチ。北末切 曷
魚の游ぐ貌にも魚の躍る貌にも魚の尾を掉ふ貌にもいふ字。

魷 ハイ、ベ。符廢切 隊
魚の名。

魷 シウ、ジュ。徐由切 尤
はえばや、條。○〔爾雅〕「黒一鰌。」

魷 フツ、ボチ。符勿切 物
海魚。

魷 ヒツ、ビチ。譚必切 質
●はらか、ます（鱒）。○〔爾雅〕「一名鱒。」
⊜石一は、一種の魚の名、谷川に産し、形はえに似て狭く長く大いなるは八九寸あり、鱗細く口大きく鬚尖り能く蟲を捕り食らふ、かはむつ、むつ。

魷 ヒ、ビ。鼻悲切 支
●大鰓。 ⊜動、もだま。

魷 レイ、耶丁 青 リヤウ。切 迥 雛貞 切 庚
蟲の連なり行きめぐり行くものゝ稱。

魷 鱗に同じ。
タ、ダ。唐何切 歌

魷 すなふき、〔吹沙小魚〕。○〔本草圖經〕「一魚生三湖畔土窟中一。」

魷 飽の俗字。

魷 アウ、ヤウ。於喬切 篠
飢の字の條を見よ。

魷 ハツ、バチ。北末切 曷
魚の游ぐ貌にも魚の躍る貌にも魚の尾を掉ふ貌にもいふ字。

魷 ハイ、ベ。符廢切 隊
魚の名。

魷 シウ、ジュ。徐由切 尤
はえばや、條。○〔爾雅〕「黒一鰌。」

魷 フツ、ボチ。符勿切 物
海魚。

魷 ヒツ、ビチ。譚必切 質
●はらか、ます（鱒）。○〔爾雅〕「一名鱒。」
⊜石一は、一種の魚の名、谷川に産し、形はえに似て狭く長く大いなるは八九寸あり、鱗細く口大きく鬚尖り能く蟲を捕り食らふ、かはむつ、むつ。

魷 ヒ、ビ。鼻悲切 支
●大鰓。 ⊜動、もだま。

魷 レイ、耶丁 青 リヤウ。切 迥 雛貞 切 庚
蟲の連なり行きめぐり行くものゝ稱。

魷 鱗に同じ。
タ、ダ。唐何切 歌

魷 すなふき、〔吹沙小魚〕。○〔本草圖經〕「一魚生三湖畔土窟中一。」

魷 飽の俗字。

魷 アウ、ヤウ。於喬切 篠
飢の字の條を見よ。

魷 ハツ、バチ。北末切 曷
魚の游ぐ貌にも魚の躍る貌にも魚の尾を掉ふ貌にもいふ字。

魷 ハイ、ベ。符廢切 隊
魚の名。

魷 シウ、ジュ。徐由切 尤
はえばや、條。○〔爾雅〕「黒一鰌。」

魷 フツ、ボチ。符勿切 物
海魚。

魷 ヒツ、ビチ。譚必切 質
●はらか、ます（鱒）。○〔爾雅〕「一名鱒。」
⊜石一は、一種の魚の名、谷川に産し、形はえに似て狭く長く大いなるは八九寸あり、鱗細く口大きく鬚尖り能く蟲を捕り食らふ、かはむつ、むつ。

魷 ヒ、ビ。鼻悲切 支
●大鰓。 ⊜動、もだま。

魷 レイ、耶丁 青 リヤウ。切 迥 雛貞 切 庚
蟲の連なり行きめぐり行くものゝ稱。

魷 鱗に同じ。
タ、ダ。唐何切 歌

魷 すなふき、〔吹沙小魚〕。○〔本草圖經〕「一魚生三湖畔土窟中一。」

魷 飽の俗字。

魷 アウ、ヤウ。於喬切 篠
飢の字の條を見よ。

魷 ハツ、バチ。北末切 曷
魚の游ぐ貌にも魚の躍る貌にも魚の尾を掉ふ貌にもいふ字。

魷 ハイ、ベ。符廢切 隊
魚の名。

魷 シウ、ジュ。徐由切 尤
はえばや、條。○〔爾雅〕「黒一鰌。」

魷 フツ、ボチ。符勿切 物
海魚。

魷 ヒツ、ビチ。譚必切 質
●はらか、ます（鱒）。○〔爾雅〕「一名鱒。」
⊜石一は、一種の魚の名、谷川に産し、形はえに似て狭く長く大いなるは八九寸あり、鱗細く口大きく鬚尖り能く蟲を捕り食らふ、かはむつ、むつ。

魷 ヒ、ビ。貧悲切 支
●大鰓。 ⊜動、もだま。

魷 レイ、耶丁 青 リヤウ。切 迥 雛貞 切 庚
蟲の連なり行きめぐり行くものゝ稱。

魷 鱗に同じ。
タ、ダ。唐何切 歌

魷 すなふき、〔吹沙小魚〕。○〔本草圖經〕「一魚生三湖畔土窟中一。」

魷 飽の俗字。

魷 アウ、ヤウ。於喬切 篠
飢の字の條を見よ。

魷 ハツ、バチ。北末切 曷
魚の游ぐ貌にも魚の躍る貌にも魚の尾を掉ふ貌にもいふ字。

魷 ハイ、ベ。符廢切 隊
魚の名。

魷 シウ、ジュ。徐由切 尤
はえばや、條。○〔爾雅〕「黒一鰌。」

魷 フツ、ボチ。符勿切 物
海魚。

魷 ヒツ、ビチ。譚必切 質
●はらか、ます（鱒）。○〔爾雅〕「一名鱒。」
⊜石一は、一種の魚の名、谷川に産し、形はえに似て狭く長く大いなるは八九寸あり、鱗細く口大きく鬚尖り能く蟲を捕り食らふ、かはむつ、むつ。

魷 ヒ、ビ。鼻悲切 支
●大鰓。 ⊜動、もだま。

魷 レイ、耶丁 青 リヤウ。切 迥 雛貞 切 庚
蟲の連なり行きめぐり行くものゝ稱。

魷 鱗に同じ。
タ、ダ。唐何切 歌

魷 すなふき、〔吹沙小魚〕。○〔本草圖經〕「一魚生三湖畔土窟中一。」

魷 飽の俗字。

魷 アウ、ヤウ。於喬切 篠
飢の字の條を見よ。

魷 ハツ、バチ。北末切 曷
魚の游ぐ貌にも魚の躍る貌にも魚の尾を掉ふ貌にもいふ字。

魷 ハイ、ベ。符廢切 隊
魚の名。

魷 シウ、ジュ。徐由切 尤
はえばや、條。○〔爾雅〕「黒一鰌。」

魷 フツ、ボチ。符勿切 物
海魚。

魷 ヒツ、ビチ。譚必切 質
●はらか、ます（鱒）。○〔爾雅〕「一名鱒。」
⊜石一は、一種の魚の名、谷川に産し、形はえに似て狭く長く大いなるは八九寸あり、鱗細く口大きく鬚尖り能く蟲を捕り食らふ、かはむつ、むつ。

魷 ヒ、ビ。鼻悲切 支
●大鰓。 ⊜動、もだま。

魷 レイ、耶丁 青 リヤウ。切 迥 雛貞 切 庚
蟲の連なり行きめぐり行くものゝ稱。

魷 鱗に同じ。
タ、ダ。唐何切 歌

魷 すなふき、〔吹沙小魚〕。○〔本草圖經〕「一魚生三湖畔土窟中一。」

魷 飽の俗字。

魷 アウ、ヤウ。於喬切 篠
飢の字の條を見よ。

魷 ハツ、バチ。北末切 曷
魚の游ぐ貌にも魚の躍る貌にも魚の尾を掉ふ貌にもいふ字。

魷 ハイ、ベ。符廢切 隊
魚の名。

魷 シウ、ジュ。徐由切 尤
はえばや、條。○〔爾雅〕「黒一鰌。」

魷 フツ、ボチ。符勿切 物
海魚。

魷 ヒツ、ビチ。譚必切 質
●はらか、ます（鱒）。○〔爾雅〕「一名鱒。」
⊜石一は、一種の魚の名、谷川に産し、形はえに似て狭く長く大いなるは八九寸あり、鱗細く口大きく鬚尖り能く蟲を捕り食らふ、かはむつ、むつ。

多レ—」。

鮐 タイ。土來切 [灰] イ。盈之切 [支] ㊀一種の魚、其の狀は科斗に似て腹は白く背上は青黑にして黃なる文あり、ふぐ、河豚。○〔漢〕「—鮆千斤」。㊁老人の稱、其の肌肉消瘠にして皮膚にふぐの斑文の如きものあらはるるをいふ。○〔揚雄〕「—老也、秦晉之郊陳兗之會曰二耇—一」。

鮑 ハウ、ベウ。薄巧切 [巧] ㊀鹽漬の魚、腐臭の魚、腸開の魚、あはびうを、くさりうを、ひらきうを。○〔家語〕「如レ入二—魚之肆一」。㊁鞄に同じ。○〔周〕「攻レ皮之工函—」。

鮒 フ。符遇切 [遇] ホ、ブ。逢逋切 [虞] 一種の川魚、ふな。○〔儀〕「魚用レ—」。

(轍鮒) 車轍の中に苦み居る鮒、人の窮困に陷るに喩へていふ語。○〔莊〕「車—之中有二—魚一」。

(涸鮒) 水のかれたるあとに居る鮒、人の急を得ずして窮するに喩へていふ語。○〔吳信〕「——嘗思レ水」。

鮓 サ、セ。側下切 [馬] 魚を鹽米などに漬けたるもの、つけうを、すし。○〔釋名〕「—滓也、以二鹽米一釀レ之如レ葅」。

鮓 サ、セ。助駕切 [禡] 一種の海畜物、くらげ。○〔博物志〕「東海有レ物狀如二凝血一、從廣方員、名曰二—魚一、無二頭目處所一、內無レ藏、衆蝦附レ之」。

鮃 古文の鮨の字。

[魚出] トツ、ドチ。土乙切 [質] かむ(嚙)。

[魚且] ショ、ソ。子余切 [魚] 鯉魚の屬、うなぎ。○〔山海經〕「女戚操二魚—一」。

[魚冄] ゼン、チン。而琰切 [琰] 魚の名。

六畫

鮚 キツ、ゴチ。極乙切 [質] ケツ、ケチ。吉屑切 [屑] はまぐり(蚌)。○〔漢律〕「會稽郡獻二—醬一」。

鮚 鮨に同じ。

[魚充] 鰕に同じ、ゑび。

鮛 シュク、ソク。式竹切 [屋] 鮪の小なるもの、こしび。○〔爾雅〕「大者名二王鮪一、小者名レ—」。

[魚舟] シウ、シユ。之由切 [尤] 魚の名。○〔山海經〕「英鞮之山涴水出焉、是多二—魚一」。

鮜 コウ、ク。下遘切 [宥] 鯸。

鮝 俗の鯗の字。

[魚虫] キ。吁鬼切 [尾] ㊀みごひの赤き尾のもの、一說に、みごひの雄。㊁すッぽん(黿)。

鮞 ジ、ニ。入之切 [支] ジュク、ニク。如六切 [屋] ㊀魚の子の未だ魚とならざるもの、はらゝご。○〔國〕「魚禁二鯤—一」。㊁一種の魚。○〔呂氏春秋〕「魚之美者、洞庭之鱄、東海之—」。

䱊 ベイ、マイ。莫禮切 [薺] 魚の子、はらゝご。○〔古今注〕「魚子曰レ鮞、亦曰レ鯤、亦曰レ—、言如二散稻米一」。

[魚血] ジク、ニク。而六切 [屋] ケキ、キヤク。呼狊切 [錫] 魚の子。

鮠 クワイ、ゲ。五回切 [灰] 鮎に似て大いなる一種の魚、口小さく色白し、背に肉の翼あり、一說に、鱯の小さきもの、こなまづ、又、一說に鯸魚の口小さく背黃に腹白きもの。

鮡 テウ、デウ。直紹切 [篠] 田聊切 [蕭] タウ、ドウ。杜皓切 [皓] エウ。餘招切 [蕭] 鮎に似て白色なる一種の魚、一說に、鱣の小さきもの。

[魚共] キヨウ、ク。居悚切 [腫] うなのこ(鰻)、又鱧の子。

鮢 シユ。鐘輸切 [虞] 魚の名。○〔山海經〕「—鰅似レ蝦無レ足」。

鮣 イン。伊刃切 [震] 身の長さ三尺許りありて鱗無く四方印の如しといふ一種の魚。○〔左思〕「—鯔鯌」。

鮤 レツ、レチ。良薛切 [屑] レイ。力制切 [霽] えつ(鱭魚)。○〔爾〕「—鱴刀」。

[魚寺] 鰣に同じ。

鮥 ラク。歷各切 [藥] カク。剛鶴切 [藥] クワイ、エ。戶賄切 [賄] まび、まぐろ。○〔爾〕「—鮛鮪」。

鮦 トウ、ヅ。徒東切 [東] チヨウ、ヂユ。直隴切 [腫] 傳容切 [冬] 一種の魚。○〔爾〕「鱧大—、小者鯇」。

鮦 サウ、ザユ。丈九切 [有] —陽は、縣の名。

鮧 イ。以知切 [支] テイ、ダイ。杜奚切 [齊] ㊀鱁—は、鹽につけたる魚の腸、しほから。㊁一種の魚、なまづ、口方に頭大きく尾小し、身は滑かにして鱗無し。○〔本草〕「—魚即鯷也」。

鮨 シ。蒸夷切 [支] ㊀魚の醢醬、しほびしほ。㊁魚の名、しび。

鮨 キ、ギ。渠伊切 [支] つけうを(鮓)。

鮨 ケイ、カイ。硏計切 [霽]

魚の名、首大きく其の音嬰兒の如くこれを食すれば狂を已むるぞ。○〔山海經〕「諸懐之水、西流注二于囂水一、其中多二—魚一」。

鮩 ハウ、ビヤウ。蒲猛切 [梗] ヘイ、ビヤウ。部迥切 [迥] ヒツ、ビチ。薄必切 [質] 白魚の別名、みごひ。

[魚臣] イ。盈之切 [支] 鯸—は、ふぐ(河豚)。

鮪 井。羽軌切 [尾] イウ、ウ。云九切 [有] 魚の名、色青黑く頭小さくして嘴尖り口は頷の下に在り、しび、まぐろ、かぢき。○〔詩〕「鱣—發發」。

鮫 カウ、ケウ。居肴切 [肴] 長大なる一種の魚、さめ、目青く頰赤く背上に鬣あり腹下に翅あり子は胎生にして子其の母の口より自由に腹に出入す、皮は厚く上に沙の如きもの著けり、用ひて刀劍の鞘柄などの飾となし、又、材角を磨り治むるに用ふ。○〔荀〕「楚人—革犀兕以爲レ甲」。

(舟鮫) 官の名。○〔左〕「澤之萑蒲——守レ之」。

[魚亟] 鰽に同じ。○〔史〕「—鰽鱗離」。

鯃 ゲ、ゴ。元倶切 [虞] ゴ、グ。訛胡切 [虞] 五矩切 [麌] 鯃—は、一種の魚。

鮬 ホ、ブ。蒲故切 [遇] コ、ク。空胡切 [虞] ヒ、ピ。貫魁切 [支] クワ、ケ。栝瓜切 [麻] 鱊—は、一種の小さき魚、鰤の子に似て黑し、たなご、にがぶな。○〔爾〕「鱊—鯞」。

鮬 コ、ク。苦故切 [遇] 藏けたる魚子、しほから。

鮭 ケイ、ケ。涓畦切 [齊] ふぐ(河豚)。○〔論衡〕「—肝死レ人」。

鮭 カイ、ゲ。戶佳切 [佳] 調理したる魚菜の總稱、さかな。○〔世說〕「庾杲之淸貧、每食三韭任昉戲レ之曰、誰謂二庾郎貧一、每食—常有二二十七種一」。

鮭 アイ、エ。烏媧切 [麻] —蠪は、神の名。

鮭 クワ、ゲ。戶瓦切 [馬] 楚の冠の名。

鮮 セン。相然切 [先] ㊀生魚、生肉、生食、なまうを、なまにく、なまもの。○〔禮〕「冬宜二—羽一」。㊁あらた(新)、なま(生)。○〔書〕「暨レ益播二奏庶艱レ食—食一」。㊂よし(善)、みめよし(好)。○〔詩〕「籧篨不レ—」。㊃明潔、あきらか、いさぎよし、あざやか。○〔易〕「爲二蕃—一」。

(朝鮮) 國の名、卽ち、韓國。○〔風俗通〕「封二箕子於——一」。

(芳鮮) 善き生魚にも鳥獸などのあたらしき肉にもいふ。○〔傅毅〕「銷二旨酒割二——一」。

(華鮮) 種々の生肉。○〔杜甫〕「貴遊食之——」。

(澄鮮) きよらかにすみたること。○〔謝靈運〕「空水共——」。

(明鮮) 潔くあざやかなること。○〔宋〕「華羽——」。

(甘鮮) こえたるよき肉。○〔北〕「——不レ食」。

(生鮮) 魚などのいきいきしたること。○〔陸龜蒙〕「——可レ愛」。

(爲鮮) よき生魚。○〔沈約〕「——」。

(珍鮮) めづらしくあたらしきよき肉。○〔權德輿〕「鴉鶩朱鳧獻二——一」。

(新鮮) あたらしきこと、又、其のもの。○〔李賦用〕「傾レ怪——」。

(精鮮) あざやかにうつくし。○〔蕭統〕「文彩自——」。

(細鮮) 小鮮といふに同じ、こまかき魚。○〔文同〕「汚漢多二——一」。

鮮 セン。息淺切 [銑] ㊀つくる(盡)。○〔易〕「君子之道—矣」。㊁すくなし。(い)寡し。(ろ)乏し。(は)罕なり。○〔左〕「—食而寢」。○〔書〕「惠二—鰥寡一」。○〔禮〕「中庸民—能久矣」。㊂大いなる山。○〔詩〕「度二其—原一」。㊃誤りて獻に通じ用ふ、たてまつる。○〔禮〕「天子乃—レ羔開レ冰」。

(寡鮮) 寡少なること。○〔史〕「至——矣」。

鮯 カフ、コフ。葛合切 [合] 一種の魚。○〔山海經〕「深澤有レ魚、其狀如レ鯉、而六足鳥尾、名曰二——一」。

[魚如] ジョ、ニョ。人諸切 [魚] 魮の字の條を見よ。

[魚彡] 音未だ詳かならず。鰺の字の條を見よ。

鮀 タ、テ。陟駕切 [禡] ㊀蛇に同じ。㊁つけうを(鮓)。

七畫

鮵 タツ、ダチ。徒活切 [曷] 鱧の小さきもの。○〔爾〕「鱧大鯛、小者—」。

鮶 クン、コン。拘云切 [文] 水—は、蟲の名。

[魚役] エキ、ヤク。營隻切 [陌] 魚の名、其の狀は鮎の如しといふ。

[魚狄] テキ、チヤク。亭歷切 [錫] 馬—は、一種の魚、頰の肉霜くして美しとぞ。

[魚巠] ケイ、ギヤウ。渠成切 [庚] 胡頂切 [迥] 魴の一名、おしきうを。

鮷 テイ、ダイ。田黎切 [齊] 大計切 [霽] 大鮎、おほなまづ。○〔左思〕「—鱧鯊鱺」。

鮸 ベン、メン。美辨切 [銑] 武遠切 [阮] 一種の魚、にべ、いしもち、石頭魚、形はみごひの如く身扁くして細き鱗ありて頭の中に白き石二つあり、腹の肉のうきぶくろは用ひて膠を製すべし。

鮹 サウ、セウ。師交切 [肴] セウ。思邀切 [蕭] 一種の魚、腹は馬鞭に似尾に兩岐ありて鞭鞘の如しといふ。

鯊 サ、セ。側下切 【馬】 つけうを（鯊魚）。

鮻 鯋に同じ。○〔山海經〕「姑射山有二—魚一」。

〓 鯋に同じ、つけうを。

鮾 ダイ、于。奴罪切 【賄】 魚敗る、あざる。

〓 フ。芳無切 【虞】 いるか（江豚）。

〓 フウ、プ。縛謀切 【尤】 鯥—は、鯖發（かざみ）に似て細き文ある一種の魚。

鮿 テフ。陟涉切 【葉】 ㊀鰈—は、たなご、青衣魚。㊁ひらきうを（鰈魚）、又、ほほびきうを（鰈魚）。○〔漢〕「—鮑千鈞」。

〓 セツ、セチ。似絕切 【屑】 ㊀魟の字の條を見よ。㊁鮡—は、鯖鮮に似たる魚の名。

鯀 コン。古本切 【阮】 大魚。

〓 エフ、乙業切 【葉】 イフ。憶笈切 【緝】 ほほうを（鮑）。

〓 ラウ。盧當切 【陽】 鯨の字の條を見よ。

鯁 カウ、キヤウ。古杏切 【梗】 ㊀魚骨、ほね。○〔儀禮〕「乾魚近レ腴多二骨—一」。㊁骨の喉にさはること。○〔漢〕「祝—在レ後」。㊂梗に同じ、ふさがる。○〔後漢〕「至レ今爲レ—」。㊃正直、たゞし。○〔北〕「剛—自立」。

（骨鯁） 忠直にして正しきこと。○〔史〕「内無二骨—之臣一」。

（鯁訥） 前に同じ。○〔北〕「立言—」。

（鯁議） 前に同じ。○〔唐〕「敢二—一」。

（强鯁） 剛强不屈なること、又其の者。○〔唐〕「孱易軟脆—」。

（峭鯁） 氣質などの高峭にして正直なること、又、其の者。○〔唐〕「性—不レ耐二浮沈於時一」。

（勁鯁） 性質などの剛勁剛直なること。○〔唐〕「稟性—」。

鯅 テイ、ヂヤウ。唐丁切 【青】 ㊀鮷に同じ、ぎぎ（鮠）。㊁鯔の異名、ぼら。○〔異魚圖賛〕「鯔魚極肥、一名子頭、名曰二跳—一」。

鯅 テイ、チヤウ。他頂切 【迥】 全魚の醬、しほから。

〓 ソ、ス。孫租切 【虞】 よみがへる（蘇生）。

〓 セン。式連切 テン。抽延切 【先】 シン、矢忍切 【軫】 魚醬、ひしほ。

鯆 ホ、フ。奔模切 【虞】 普胡切 【麌】 江豚の別名、いるか。

鯇 クワン、戶板切 【潸】 ゲン。コン、胡本切 【阮】 クワン、戶管切 【旱】 胡玩切 【翰】 一種の魚、鯉に似て大いなり、江湖の間に生ず、膽はなはだ苦し、あめのうを。

鯈 テウ、田聊切 【蕭】 イウ、夷周切 【尤】 チウ、直由切 【尤】 デウ。ユ。 鰷に同じ、一種の小魚、はえ（參條魚）。○〔莊〕「—魚出游」。

〓 鰷に同じ。○〔莊〕「食二之鰌—一」。

鯉 リ。良以切 【紙】 淡水に產する一種の魚、こひ、大いなるは五六尺に至る、脊の旁の鱗は頭より尾までに一隊に三十六片ありて其の上に小さき黑點文あり、赤白黃の三種あり、神變し能く山湖を飛越すといひ傳へり。○〔詩〕「豈其食レ魚必河之—」。

（雙鯉） てがみ、書札、古人の手紙は對ひたる鯉魚の形を爲したるより名づく。○〔古樂府〕「客從二遠方一來、遺二我—・—魚一」。

（赤鯉） ひごひ。○〔古今注〕「兗州人呼二—・—一「赤驥」」。

（緋鯉） 前に同じ。○〔白居易〕「—・—鯈浮沈」。

（紅鯉） 前に同じ。○〔白居易〕「炊稻烹—・—」。

（躍鯉） いきくしたるこひ。○〔余靖〕「—・—一呑香餌」。

（鮮鯉） いきたるこひ。○〔七發〕「—・—之鱠」。

〓 ボウ、ム。莫浮切 【尤】 鰵に似たる一種の小魚、こにべ、黃花魚、黃靈魚。

〓 バイ、メ。謨杯切 【灰】 魚の行く貌にいふ字。

鰤 鯔に同じ。

〓 サン。千安切 【寒】 鰺に同じ、はえの別名。

鯊 サ、師加切 【麻】 セ。所嫁切 【禡】 ㊀はぜに似たる一種の小魚、すなふき、頭は方にして細く尖り、皮は黃にして黑き斑紋あり、常に水底に沈み口を張りて沙を吹く、吹沙小魚。○〔詩〕「魚麗二于罶一鱨—」。㊁ふかざめ（鮫）。○〔馬定國〕「利—鋼脊—定」。

鯋 前條に同じ。

〓 キヤウ、ガウ。渠王切 【陽】 大魚。

〓 ギフ、ゴフ。逆及切 【緝】 魚衆し。

八畫

鰟 魴に同じ。

〓 罩に同じ、うをあみ。

鯔 シ。莊持切 【支】 ㊀江海の淺い中に生ずる一種の魚、ぼら、身圓く頭ひらたし色黑く腹のみは白し。○〔本草〕「—魚似レ鯉」。㊁鯢に似たる一種の海產動物、さゞ。○〔左思〕「鯸—琵琶」。

鯕 キ、ギ。渠之切 【支】 おしきうを（鯕）。

鯖 セイ、シヤウ。諸成切 【庚】 煮魚、煎肉、すべて調理したる魚類肉類の稱、さかな。○〔西京雜記〕「婁護遊二五侯之門一、每旦五侯餉二—一、護合レ所レ餉爲レ—、世稱二五侯—一」。

鯖 セイ、シヤウ。倉經切 【青】 ㊀鯇に似たる一種の魚、さば、鱗甚だ細かく色青し。○〔本草圖經〕「青魚古作二—字一」。㊁鱘魚の屬。○〔左思〕「鰋鯉—鱷」。

鯗 シヤウ、サウ。息兩切 【養】 ひうを（乾魚腊）。○〔吳地記〕「思二海中所レ食魚一、所司云、暴乾矣、索食レ之甚美、因書二美下魚一爲二—字一」。

鮒 鯖に同じ。

鯘 ダイ、于。奴罪切 【賄】 魚敗る、くさる。

〓 鮭に同じ。○〔論衡〕「鮭—殺レ人」。

䱜 シヤク、サク。七約切 【藥】 サク、シヤク。倉各切 【藥】 さめ（鮫）。○〔本草〕「即裝二刀靶一—魚皮也」。

〓 ヘイ、ベ。薄佳切 【佳】 ヒ、ビ。班麋切 【支】 匹寐切 【寘】 まごひ。○〔爾雅〕「黑鯉謂二之—一」。

鯚 キ。居悸切 【寘】 喉銳く鱗細き一種の魚。

〓 ダイ、ナイ。奴帶切 【泰】 鰶—は、このしろ。

鯛 テウ。丁聊切 【蕭】 ㊀魚の名。㊁骨の端の脆きこと。

鯜 セフ、ソフ。七接切 【葉】 魚の名、たなご。

〓 ホウ。匹亙切 【徑】 一種の魚、形河豚に似て小さく、大いさ三四寸に過ぎず、背青く斑文あり鱗無く尾岐かれず腹白く刺あり、すゞめうを、すゞめふぐ。

〓 キヨ、コ。居御切 【御】 一種の魚、形は石首魚（にべ）に似て三つの牙あり鐵鋸の如し、一說に石首魚の雌なりと。

〓 〓に同じ。

〓 ニツ、ヘチ。必結切 【屑】 魚の泳ぎ行く貌にいふ字。

鯝 コ、ク。古暮切 【遇】 魚膓、魚胃、はらわた。○〔類篇〕「杭越之間謂二魚胃一爲レ—」。

（香鯝） 魚の名、狀白魚に似て長さ一尺許にして身は闊くして細き鱗あり腹に鯁多し。

〓 鯮に同じ。

〓 フン、ホン。芳問切 【問】 ホン、ボン。蒲悶切 【願】 魚の小さき者、一說に、魚の名。

鯞 シウ、シユ。之九切 【有】 鱊—は、一種の小魚、たなご。○〔爾雅〕「鱊鯞鱖—」。

鯟 トウ、ツ。德紅切 【東】 鯉に似たる一種の魚。○〔郭璞〕「鯖—鯖鮎」。

〓 クワ、ゲ。戶瓦切 【馬】 なまづ（鮎）。

〓 キク、コク。居六切 【屋】 キヨク、コク。區玉切 【沃】 いるか（鯆）。

鯠 ライ。郎才切 【灰】 ㊀うなぎ（鰻）。㊁鯠—は、おほなまづ（鮧）。

〓 俗の鮒の字。

鯡 ヒ。方未切 【未】 魚の子、一說に、海魚の名。

〓 鯡に同じ。

鯢 ゲイ、ガイ。五稽切 【齊】 ㊀山谷の中に生ずる一種の動物、形はなまづに似て四脚長尾あり、大いなるは七八尺に及び、背の皮はいぼがへるの背の如く黑き斑あり、頂の邊には疣多く聲は小兒の啼くが如し、さんせうのうを、古書は鯨の雌なりといへり。○〔爾〕「—大者謂二之鰕一」。㊁小魚、こざかな。○〔莊〕「避二灌瀆一守二—鮒一」。

鯣 エキ、ヤク。夷益切 【陌】 鰅—は、魚の名。

〓 アク。遏鄂切 【藥】 蛇の如き魚。

鯤 コン。公渾切 【元】 ㊀魚の子。○〔國〕「魚禁二—鮞一」。㊁大魚、一說に、鯨。○〔莊〕「北冥有レ魚其名爲レ—」。

鯥 リク、ロク。力竹切 【屋】 其の狀牛の如く、蛇尾にして翼ありといふ一種の動物。○〔郭璞〕「—踦二蹄於垠塠一」。

〓 サウ、シヤウ。側莖切 【庚】 魚の名、別名は竹丁。

〓 シユツ、シユチ。卽律切 【質】 はえ（鯈）、一說に、鮪の別名。

〓 カン、乎韽切 【咸】 ケン。吉念切 【陷】 ケン。切 【豔】 タウ、トウ。他刀切 【豪】 魚の名。

鯦 キウ、グ。巨九切 【有】 巨救切 【宥】 ひらこのしろ（當魱）。

〓 シク、シユ。徐由切 【尤】

魚の名、鰤に似て大いなる鱗あり、肥えて美し、鯁多し。

鰫 アイ、エ。倚亥切 [蟹] まぐろ（叔・鮪）。

鯧 シヤウ、サウ。尺良切 [陽] —鯧は、魚の名、まながつを、鯿に似て頭上突き起こりて背に連なる身圓く肉厚し。

鯨 ケイ、ギヤウ。渠京切 [庚] キヤウ、ガウ。渠良切 [陽] 古昔は魚の屬となしたる最大なる一種の動物、くぢら、身の長さ數丈に及び、鱗毛無く形肥え圓くして頂の上頭の前に孔あり、潮を吹きて呼吸す。○〔左〕「取二其—鯢一」。(長鯨)おほくぢら。○〔吳都賦〕「——吞航」。(修鯨)前に同じ。○〔許敬宗〕「長—[illegible]」。(巨鯨)前に同じ。○〔椎杜〕「見——而知二寸介之細一」。

鯩 リン。龍春切 [眞] 魚の名、其の狀鯽の如くにして黑き文あり。○〔山海經〕「來需之水多二—魚一」。

鯪 リヨウ、ロウ。閭承切 [蒸] —魚は、一に—鯉さもいふ、鯉に似たる一種の動物、せんざんかふ、四足ありて背は三角菱にて覆はる、其の皮を穿山甲さいひ、又、之を藥用として石—さいふ。○〔楚辭〕「—魚何所」。

鯫 ソウ、ス。將侯切 シウ、シユ。士尤切 [尤] シユ、ス。七逾切 [虞] セン。七演切 [銑] 一白魚、みごひ、一說に、雜小魚、ざこ、又、一說に、醇魚、ひらきうを。○〔史〕「—千—石」。二小人の貌にいふ字、又、自己の謙稱。○〔史〕「—生說レ我」。

鯯 セイ。征例切 [霽] 一鮨に爲るに適する一種の魚。○〔異魚圖贊〕「—魚之味其美在レ額」。二鰶に同じ、このしろ。

鯬 リ。良脂切 [支] レイ、ライ。郎奚切 [齊] 鯠の字の條を見よ。

鯭 蜢に同じ。

[魚亞] ア、エ。於加切 [麻] —鰕は、小さき鰕魚、ぎゞ。

鯮 鯼に同じ。○〔陳藏器本草〕「—魚多食宜レ人」。

九畫

鯶 鯇に同じ。

鯷 テイ、ダイ。大計切 [霽] テイ、ダイ。田黎切 [齊] シ、ジ。是義切 [寘] 上紙切 [紙] なまづ（鯷）。○〔戰〕「—冠秫縫」。

鯸 コウ、グ。胡溝切 [尤] ふぐ（河・豚）。

[魚耶] ヤ、エ。以遮切 [麻] 蛇に似て長さ一丈ばかりありといふ一種の魚。

鯹 鮏に同じ、なまぐさし。

[魚奏] ソウ、ス。千侯切 [尤] —[魚奏]は、蚌の屬。

鯺 鰭に同じ。

鰃 井。于貴切 [未] 一種の魚。○〔山海經〕「樂游之山桃水有二—魚一」。

[魚亙] コウ。古恆切 [蒸] まび（鮪）。○〔漢〕「—鱣漸離」。

鯼 ソウ、ス。子紅切 [東] いしもち、にべ（石・首・魚）。○〔郭璞〕「—鰶順レ時而往還」。

鯽 セキ、シヤク。資昔切 [陌] シヨク、シキ。子力切 [職] ふな（鯽）。○〔杜甫〕「鮮—銀絲膾」。

[魚卿] 鯽に同じ。

鯾 ヘン、ベン。卑連切 [先] おしきうを（魴）。○〔山海經〕「大—居二海中一」。

鯿 ヘン、ベン。卑連切 [先] ハン、ヘン。布還切 [刪] おしきうを（魴）。○〔宋玉〕「思不レ出二乎鯿—一」。

鰂 ソク。疾則切 [職] 鰂—は、一種の海棲動物、いか、狀は囊の如くにして八足あり、背上にたいら頭尖れる一骨ありて其の色白くして脆し、之を海鰾蛸（いかのかふ）さいふ、黑魚、墨魚。

[魚契] ガク、ギヤク。五陌切 [陌] 鰐—は、魚の名。

鰅 ギヨウ、グ。魚容切 [冬] グ、ゴ。遇俱切 [虞] ぎゞ（鮠）。○〔漢〕「—鰫鰬魠」。

鰆 シユン。樞倫切 [眞] 海魚の名。

鰇 ジウ、ニユ。而由切 [尤] するめ、いか。

鯙 テイ、ヂヤウ。唐丁切 [庚] ぎゞ（鮠）。

鰈 タフ、トフ。吐盍切 [合] テフ、デフ。達協切 [葉] 身扁き一種の魚、ひらめ、かれひ、比目魚、板魚、王餘魚、婢屣魚、奴屩魚。○〔爾雅〕「東方有二比・目・魚一不レ比不レ行、其名謂二之—一」。

鰈 鰨に同じ、たなご。

鰈 サフ、セフ。實洽切 [洽] 鯽の字の條を見よ。

鰉 クワウ、ワウ。胡光切 [陽] 鱑に同じ、鱣の名。

鰋 エン、オン。隱幰切 [阮]

なまづ（鮎）。○〔詩〕「魚麗二于罶一—鯉一」。

鯡 ヒ。甫微切 [微] 鯔に似たる一種の魚。

[魚重] 鮦に同じ。

鰌 シウ、シユ。此由切 [尤] 一鰍に似たる一種の魚、全身滑かにして握り難し、下き田淺き沼などに生じて泥中に潛む、どぢやう。○〔莊〕「—然乎哉」。二海—は、（い）くぢら（鯨）。○〔水經〕「海——魚長數千里、穴二居海底一」。（ろ）兵船の名。○〔宋〕「官・軍以二海—船一衝二敵・軍一」「後二」。三蹈に同じ、ふむ。○〔荀〕「大・燕—二吾」。

鰍 鰌に同じ。

鰎 ケン、コン。紀偃切 [阮] 鹽を微用したる鯢魚、しほづけ。

[魚帝] テイ、ダイ。田黎切 [齊] にんぎよ。

[魚帝] テイ、タイ。丁計切 [霽] 大いなる鯉。

鰐 ガク。五各切 [藥] 熱帶の地に產する一種の猛惡なる動物、わに、其の形は蜥蜴に似て長さ數丈に及び四足ありて全身甲に覆はる、尾と喙さ共に長し。○〔左思〕「[illegible]—」。

鰑 ヤウ。余章切 [陽] あかうなぎ。

鰒 フク、ボク。房六切 [屋] ハク、ボク。弼角切 [覺] 蛤に似たる一種の介蟲、殼偏くして蓋無く海中の石に貼著す、あはび、石決明。○〔後漢〕「詣レ闕上二獻—魚一」。

鮁 ハ、ベ。白駕切 [禡] 蒲巴切 [麻] 鮊に同じ、海魚。

鰓 サイ。桑才切 [灰] 一魚の頰中の骨、えら、あぎと。○〔宋〕「裝二鐘魚—中骨一、盤二魚・鯽・子一」。二懼るゝ貌にいふ字。○〔後漢〕「———常恐」。

鰔 カン、ケン。居咸切 [咸] カン、コン。古禫切 [感] 古斬切 [豏] 鱤に同じ、黃頰魚。

鰕 カ、ゲ。何加切 [麻] 一鯢魚、鯢魚、さんせうのうを、めくぢら、とゞ。○〔爾〕「鯢大者謂二之—一」。二蝦に同じ、えび。○〔急就篇〕「鮭」「今之海—」。

鰿 鯽に同じ。

[魚叟] 鯁の本字。

[魚僉] カン。侯幹切 [翰]

鰗 コ、ゴ。洪孤切 [虞] 鱯の字を見よ。

ふぐ（河・豚）。

十畫

鰜 ケン、コン。堅嫌切 [鹽] カン、ゲン。胡讒切 [咸] 一かれひ（比・目・魚）。二にしん（鰊）。

鰜 ケン。吉念切 [豔] 大いにして背き一種の魚。

[魚尃] 鯆に同じ、いるか。

鰝 カウ、ゴウ。胡老切 [皓] カク。黑各切 [藥] 大いなるえび。○〔爾〕「—大鰕」。

[魚翁] ヲウ、ウ。烏公切 [東] 魚の名。○〔本草〕「漳・州海中有二海—魚一」。

鰞 ヲ、ウ。哀都切 [虞] —鰂は、いか。

[魚郎] 鯨に同じ。

鱭 セイ、サイ。前西切 [齊] 漢水より出づる鯉に似たる小魚。

[魚唐] タウ、ダウ。徒郎切 [陽] ぎゞ（鮠）。

[魚鬼] 井。於鬼切 [尾] 鬼頭魚、はりせんぼん。

鰟 魴に同じ。

鰠 サウ、ソウ。蘇遭切 [豪] 魚の名。

[魚鬲] カク、キヤク。古伯切 [陌] ぎゞ（鮠）。

[魚鬲] レキ、リヤク。來的切 [錫] 鯠の字を見よ。

鰢 バ、メ。母下切 [馬] 水馬、うみえび。

鰣 シ、ジ。市之切 [支] 魴に似たる一種の魚、ひらこのしろ、肉肥えて美なり。

[魚攴] ギヨ、ゴ。牛居切 [魚] 魚據切 [御] 漁に同じ。○〔周〕「掌下以レ時—爲上レ梁」。

鰤 シ。霜夷切 [支] 老魚、一說に、毒ある魚。

鰥 クワン、ゲン。姑頑切 [刪] 一一種の大魚。○〔詩〕「其魚魴—」。二無妻の男子、やもを。○〔書〕「有レ—在レ下曰二虞・舜一」。三愁悒して寢に就くも目を閉ぢて寐ぬる能はざる貌にいふ字。○〔釋名〕「目恆——然」。四瘝に同じ、やむ。○〔爾〕「—病也」。（鰥寡）老いて妻なく夫なきもの。○〔[illegible]〕「[illegible]」。

[魚眾] 鯤に同じ、魚の子。

[魚眾] クワン、ゲン。古幻切 [霰] 視る貌にいふ字、みる。

鰦 シ。津之切 [支]

はえ（白鯈魚）。○[六書故]「今之鯈、淡水中者、長不レ踰レ尺、擧身惟首而肥、俗謂二之一一、海亦有レ之」。

[illegible] シウ、シュ。疎鳩切【尤】 鰌に同じ、まりがい。○[周]「必一二其牛後一」。

鰧 トウ、ドウ。徒登切【蒸】 身蒼く尾赤き一種の魚。○[山海經]「合水多二一魚一、狀如レ鱖」。

[illegible] チン、ザン。直稔切【寑】 鰕に似て赤き文ある一種の魚。

鰨 タフ、トフ。託盍切【合】 さんせうのうを（鯢魚）。○[漢]「禺々魼一」。

鰈 テフ、デフ。達協切【葉】 かれひ（比目魚）。

魶 ダフ、ノフ。奴答切【合】 黿に似て甲無く尾ありて足無き動物、口は腹の下にあり。

鰩 エウ。餘招切【蕭】 一種の魚、身の長さ尺許にして形はすばしりの如し、兩脇の鰭は鳥の翼に似て能く海上を直進飛行す、背は蒼く首白く喙赤し、とびのうを、飛魚。○[呂氏春秋]「藿水之魚名曰レ一、其狀若レ鯉而有レ翼」。

鮺 サ、セ。側下切【禡】 つけうを（藏魚）。○[周]「註」「若二荊州之一魚一」。

[illegible] ガイ。魚開切【灰】 鯉一は、ながに（雄蟹）。

[illegible] クワツ、グワチ。戸八切【黠】 身蛇の如くにして四つの足ありさいふ動物。○[郭璞]「一鯪鯥鮒」。

鰪 カフ、コフ。谷盍切 アフ、オフ。安盍切【合】 一鰪は、鰿（ふな）に似て小さき一種の魚、まながつを。

鰫 ヨウ、ユ。余封切【冬】 尹竦切【腫】 鱅に同じ。

鰿 セキ、シヤク。資昔切【陌】 ふな（鯽）。

鰬 ケン、ゲン。渠焉切【先】 うみへび（䱇）。○[史]「鰅鰫一魠」。

鰭 キ、ギ。渠脂切【支】 ㊀魚の脊上の鬣、ひれ。○[史]「揵レ一掉レ尾」。㊁鰭に同じ、つけうを。○[水經・註]「一一皆…」。（鱗鰭）うろことひれと。（長鰭）ながきひれ。○[韓]「揮動鬐一」。（鬐鰭）ひれに力をいれて水をきる。○[荀子]「…」。（軒鰭）ひれを振ひたつること。○[前漢]「一」「一鰭」。

[illegible] テン。知演切【銑】 セン。之膳切【霰】 一種の魚。○[臨海異物志]「一魚如レ指、長七八寸、但有二脊骨一、宜レ作レ羹」。

鮩 鯁に同じ、おしきうを。○[石鼓文]「黃帛其一」。

鰛 音詳かならず。馬鮫（さはら）に似て小なる魚。

[illegible] 鯗に同じ。

[illegible] セイ、シヤウ。諸成切【庚】 醋にて魚を賣るを、ずいり。

十一畫

鰱 レン。陵延切【先】 たなご（鱮）。○[郭璞]「鯪鯉鯿一」。

鰲 ガウ、ゴウ。牛刀切【豪】 魚の名、一說に、俗の鼇の字。

[illegible] ロウ、ル。郎侯切【尤】 ル。力朱切【虞】 こひ（鯉）、又、にしん（大青魚）。

[illegible] トウ、ダウ。徒登切【蒸】 鰧に同じ。○[郭璞]「鰆鰱一鮋」。

鰳 ロク。歷得切【職】 一種の魚、ひら、狀は鯿魚の如くにして首小さく鱗細かし、腹の下にかたき刺あり。○[正字通]「乾曰二一鮝一」。

[illegible] キ。吁韋切【微】 魚の大きくして力多きものゝ稱。

[illegible] ヂヨク、ニキ。昵力切【職】 鯇に似て小さき一種の魚。

鰶 セイ。子例切【霽】 このしろ（鰶）。

鰷 テウ。田聊切【蕭】 セウ。先了切【篠】 はえ（鯈）。○[詩]「一鱨鰋鯉」。

[illegible] シ。脂利切【寘】 魚の名。○[山海經]「嶓山江水出焉、其中多二一魚一」。

[illegible] 鰻に同じ。

鰸 ク、コ。豈俱切 ウ、ユ。邑俱切【虞】 委羽切【麌】 魚の名、蝦に似て足無し、長さ寸許ありて釵の股の如し。

鰹 ケン。經天切【先】 鯛の大いなるもの。

[illegible] シン。疏臻切【眞】 魚の尾長し。○[詩]「有二一其尾一」。

[illegible] 井。紆貴切【未】 蛇に似たる一種の魚。

鰺 鯵の字の誤り。

鰻 バン、マン。謨官切【寒】 無販切【願】 形は鱓の如くにて鱗甲なき一種の魚、うなぎ。○[本草]「一鱺似レ鱓而腹大」。

鰼 シフ。席入切【緝】 どぢやう（鰌）。○[爾雅・疏]「一一名鰌、穴二於泥中一」。

鰽 シウ、ジウ。徐由切【尤】

鰌に同じ、形は鱺に似て鱗大いなり、肉肥えて美しく鱗多し。○[異物志]「一魚一鳥所レ化」。

鰾 ヘウ、ベウ。婢少切【篠】 ㊀魚腹、いをのふえ、うきぶくろ。○[集韻]「魚一可レ作レ膠」。㊁鱁鮧の別名、にべ。

鰿 セキ、シヤク。資昔切【陌】 サク、シヤク。側革切【陌】 ㊀蜻に同じ、小さき貝。○[爾雅]「貝小者一」。㊁ふな（鯽）。○[楚辭]「煎レ一膗レ雀」。

[illegible] 鯽に同じ。○[石鼓文]「又一又鯉」。

鱀 キ。其既切【未】 ゲ。キ、ギ。巨至切【寘】 鱀の屬、さめ、腹大きく喙小さく鋭く長き齒列らなり生ず、鼻は額の上に在り能く聲を發す大いなるものは丈餘に至る、能く細魚を取りて食ふ。○[爾雅]「一是鱁」。

[illegible] 前條に同じ。

鱁 チク、ドク。直六切【屋】 ㊀鱁の字の條を見よ。㊁鱁に同じ。

鱂 シヤウ、サウ。即良切【陽】 鯧一は、なまがつを。

鱃 シウ、シュ。雌由切【尤】 こひ（鯉）、一說に、どぢやう（鰌）、又一說に、鰍。

鱢 サウ、ソウ。子皓切【皓】 サ。損果切【哿】 狀鯉に似て雞の足の如きものある一種の魚といふ。○[山海經]「多二一魚一」。

[illegible] サウ、ゼウ。鋤交切【肴】 魚の子。

鱄 セン。職緣切【先】 魚の大いなるものゝ稱。○[儀]「一一鮒九・腊」。

鱄 タン、ダン。徒官切【寒】 セン、ゼン。主兗切【銑】 一種の魚にて其の狀鮒に似て彘の尾の如きものあり其の音豚の如しといふ。○[山海經]「黑水南流注二于海一、其中多二一魚一」。

[illegible] レン、ラン。龍眷切【霰】 人の名。○[左]「晉不レ獲二一一也使レ主二社稷一」。

鱅 シヨウ、ジユ。常容切 ヨウ、ユ。余封切【冬】 鰱に似て黑き一種の魚。○[史]「鰅一鰬魠」。

鰵 ビン、ミン。眉殞切【軫】 鰵身にて鱸に類し首に石ありて口大いなる一種の魚。

[illegible] キ。居爲切【支】 ふぐ（河豚）。

鱆 シヤウ、サウ。諸昌切【陽】 たこ、一名は、望潮魚。

十二畫

鱉 鼈に同じ、すつぽん。○[莊]「東海之一」。

鱊 井ツ、井チ。餘律切 シユツ、ジユチ。食聿切【質】 コツ、クチ。古滑切【月】 ケツ、ケチ。古穴切【屑】 鮬の字の條を見よ。

鱋 キヨ、コ。丘於切【魚】 魼に同じ、かれひ。○[史]「禺々一鰨」。

[illegible] 俗の鯆の字。

[illegible] シ。相支切【支】 魚の名、一說に、鯆の別名。

鰖 タ。他果切【哿】 キ。頭規切【支】 魚の子の已に生まれたるもの。

[illegible] 井。以水切【紙】 蟹の子。

[illegible] タ、ダ。徒臥切【箇】 ㊀前々條に同じ。㊁魚の鱗を去れるもの。

鱏 シン、ジン。斟針切【侵】 魚の名、一說に、つけうを（鮓）。

[illegible] 俗の鰭の字。

[illegible] サン、セン。讃晩切【潸】 骨無き一種の魚。

鱌 シヤウ、ザウ。似兩切【養】 魟に似て鼻の長き一種の魚。

鱍 鮁に同じ。

鱬 俗の鰯の字。

鱎 ケウ。居夭切【篠】 白魚の別名、みごひ。○[說苑]「迎而吸レ之者鱎一也」。

鱏 ジン。徐林切【侵】 頷下に口ある一種の魚、かぢき、かぢきほし。○[後漢]「鮪鱣一鯿」。

鱐 シユク、ソク。息六切【屋】 シウ、シユ。思留切【尤】 ひうを（乾魚）。○[禮]「夏宜二腒一」。

鱑 クワウ、ワウ。胡光切【陽】 魚の名。

[illegible] キ。許爲切 井。于嬀切【支】 大魚、おほうを。

鱒 ソン、ゾン。才本切【阮】 セン、ザン。士晩切【阮】 テン。杜兗切【銑】 鯶魚に似たる一種の魚、鱗甚だ細かく眼赤し、ますあかめうを。○[詩]「九罭之魚一魴」。

鱒 ソン、ゾン。徂悶切【願】

魚泥中に入る。

【鰨】俗の鰻の字。

【鱆】鯛に同じ。

【鰥】クワン。苦緩切 [旱]
魚の名。

【鱌】クワン。苦喚切 [翰]
魚綱に觸る。

【鱓】セン、ゼン。上演切 [銑]
魚の名、蛇に似て體に鱗無くぬめり有り、夏淺水の泥窟の中に生ず、うみへび。○[淮]「蛇一著ㇾ泥」。

【鱓】鱣に同じ。○[史]「竈一興處」。

【鱔】セン、ゼン。上演切 [銑]
鱓に同じ。

【鱕】ハン、バン。方煩切 [元]
鼻の前に横骨ありて斤斧の形を成せる一種の魚、なのざめ。○[左思]「鯽一鱕一」。

【鱖】ケイ、エ。姑衛切 [霽]　ケツ、コチ。居月切 [月]　エツ、チチ。於月切　キ。居遂切 [寘]
鱖の字の條を見よ。

【鱗】リン。離珍切 [眞]
㊀魚蛇などの皮の上に附著せる小さく薄くして堅きもの、いろこ、うろこ。○[周]「宜於一物」。㊁うろこある動物、特に、魚の類。○[禮]「其蟲一」。

(逆鱗) 龍の喉下にさかうろこ有り之にふるゝ者ある時は怒りて其の者を殺すといふより人主は龍に比しあれば帝王の怒りに觸へていふ語。○[韓非]「人主亦有一一」。
(伏鱗) 水中に深く潜み居る魚。○[子建]「潛一一」。
(枯鱗) 乾魚のこと。○[陶]「喉燥足以活一一」。
(恬鱗) やすらかなる魚。○[曹]「川鱗一一」。
(游鱗) 前に同じ。○[孫綽]「遊見躍一一」。
(窮鱗) 魚に陥へて人の窮困し居るにいふ語。○[劉長卿]「陰游一一」。
(細鱗) こまかきうろこ、又、小魚。○[蘇軾]「巨口一一」。
(巨鱗) おほいなるうろこ、又、大魚。○[羽獵賦]「一一」。
(驚鱗) おどろきてすばやかならざる魚。○[柳宗元]「一一」。
(活鱗) いきたる魚。○[白居易]「一一」。
(凡鱗) 凡魚といふに同じ、つねなみの魚。○[鮑照]「一一凡介」。
(六々鱗) 鯉魚の稱、頭より尾まで一條に三十六枚のうろこあるよりいふ。○[陸游]「秋江一一」。
(寸鱗) 前に同じ、又、かりて大人物の意に用ふることあり。
(雲鱗) 大魚。○[黄庭堅]「一一」。○[李白]「鯉、容一一」。

【鱟】ダイ、子。諸每切 [賄]
やぶろ、(敗)。

【鱳】クワ。古火切 [哿]
魚の名。○[張衡]「鱳鯫一鰭」。

十三畫

【鱝】フン、ホン。房問切 [問]
一種の魚、形は大いなる荷の葉の如く口は腹の下に在り目は額の上に在り尾長くして節あり能く人を螫す。

【鱞】鰥に同じ。○[楚辭]「父何以一」。

【鱸】ロ、ル。耶古切 [麌]
魚の名。

【鱶】ギ。魚羈切 [支]
魚の子。

【鱰】カイ、ゲ。胡買切 [蟹]
㊀蟹に同じ。㊁鮭。

【鱟】コウ、ゴ。胡遘切 [宥]　ヨク。烏酷切　アク、オク。乙角切 [覺]
蟹の一種、色青黑し、長さ五六尺に達するものあり、短き十二本の足を具ふ、かぶとがに。○[左思]「乘一黿鼉一」。

【鱮】ジョウ、ニュ。而用切 [宋]
鮯魚、さめ。

【鱠】膾に同じ。○[博物志]「食一魚一」。

【鱥】鯽に同じ。

【鱢】サウ、ソウ。蘇遭切 [豪]
なまぐさし、(腥臊)。

【鱣】テン。張連切 [先]　タン、ダン。唐干切 [寒]
鱘に似たる一種の大魚、口は頷下にあり鱗なくして甲あり、肉の黄なるより江東にては黄魚と稱す。○[漢]「横江湖之鱣鯨」。

【鱓】セン、ゼン。上演切 [銑]
鱓に同じ。○[後漢]「銜三一魚」。

【鱤】カン、コン。古禫切 [感]
黄頰魚。○[山海經]「減水多一魚」。

【[illegible]】アウ、於到切 [號]　イウ、於九切 [有]　オウ、ウ。切
どぢやう、(鰌)。

【[illegible]】ゲン。魚檢切 [琰]　ゲン、ゴン。牛歛切 [豏]
㊀一鰅は、魚の名。㊁一喁は、魚の口の動く貌にいふ語。

【[illegible]】キャウ、ガウ。巨良切 [陽]　ケイ、ギャウ。渠京切 [庚]
鯨に同じ。○[漢]「取其一鯢」。

【鱦】ショウ、ソウ。神陵切 [蒸]　ヨウ、オウ。以證切 [徑]
小魚、又、魚子。○[家語]「魚之大者名爲ㇾ鱣、吾大夫愛ㇾ之、其小者名爲ㇾ鱦、吾大夫欲ㇾ長ㇾ之」。

【[illegible]】ベウ、ミャウ。莫幸切 [梗]
蛙の屬。

【鱧】レイ、ライ。盧啓切 [薺]
鱺に同じ、うなぎ。○[詩]「魚麗于罶一鱨一」。

【[illegible]】ラ。落戈切 [歌]　ルヰ。倫爲切 [支]
魚の名。

【[illegible]】ゲフ、ゴフ。魚怯切 [葉]
魚の盛んなるにいふ字。

【鱨】シャウ、ザウ。市羊切 [陽]
黄頰魚の別名。○[詩]「魚麗于罶一鱨一鯊」。

【[illegible]】ホ、フ。普姑切 [虞]
いるか、(江豚)。○[顧野王]「一一魚一名江豚、見ㇾ風則湧」。

【[illegible]】シャウ、ザウ。從將切 [陽]
魚の名。○[閩中海錯疏]「黄一鱨黄色」。

十四畫

【[illegible]】ソウ、ジュ。徐吊切 [宥]
みごひ、(白魚)。

【鱬】ジュ、ニュ。人朱切 [虞]
魚身人面のものなりといふ。

【[illegible]】ヘン、ビン。卑眠切 [先]　ヒン。卑民切 [眞]
鯿に同じ。

【[illegible]】チウ、ヂユ。陳留切 [尤]
魚の大いなるもの。○[家語]「魚之大者名爲一」。

【鱭】鮆に同じ。

【鱮】ショ、ソ。象呂切 [語]
たなご、(鱮)。○[詩]「其魚魴鱮」。

【鱮】ヨ。羊諸切 [魚]
鱮一は、魚の名。

【鱯】コ、ゲ。胡故切 [遇]　クワ、ゲ。胡化切 [禡]　クワク、ガク。胡陌切 [陌]
鮎の屬。○[山海經]「其中有一一鯉一」。

【[illegible]】ギョ、ゴ。語居切 [魚]
魚を捕らふ、すなどる。

十五畫

【[illegible]】セツ、セチ。子結切 [屑]
魚の名。

【[illegible]】リ。力脂切 [支]
うなぎ、(鰻)。

【鱳】ラク。盧各切 [藥]　ロク。盧谷切 [屋]
魚の名。

【[illegible]】レキ、リヤク。狼狄切 [錫]
鯿に同じ。

【鱴】ベツ、メチ。莫結切 [屑]
㊀えつ、(鱭魚)。○[爾雅]「鱴一刀」。㊁含漿の屬、ごぶがひ。○[周禮注]「蠣一物亦謂之刀」。

【鱵】シン。職深切 [侵]
針嘴魚、さより。

【鱶】鯗に同じ。

【[illegible]】ヘウ。卑遙切 [蕭]
魚の子のやゝ長じたるもの。

十六畫

【鱷】ガク。逆各切 [藥]
鰐に同じ、わに。○[唐]「惡溪有一鱷魚」。

【鱸】ロ、ル。落胡切 [虞]
巨口細鱗なる一種の魚、すゞき、吳の松江の產最も佳なりといふ。○[後漢]「所ㇾ少吳松江之一魚耳」。

【鱱】レキ、リヤク。耶擊切 [錫]
ぎぎ、(鮠)。

十七畫

【鱛】鰕に同じ、ゑび。

【[illegible]】ハク、バク。傍各切 [藥]
鯉に似たる一目の魚。

十八畫

【[illegible]】イ。勻規切 [支]　ケイ、エ。戶圭切 [齊]
龜の屬。

【鱹】クワン。古玩切 [翰]
人の名。○[左]「一鱹爲司徒」。

十九畫

【鱺】レイ、ライ。郎奚切 [齊]　リ。鄰知切 [支]
うなぎ。○[爾雅註]「呼小一爲鱺」。

二十畫

【[illegible]】タウ。丁滂切 [養]
一鱧は、一種の魚。

廿二畫

【鱻】セン。相然切 [先]
鮮に同じ。○[周]「其死生一薨之物」。

【鱻】セン。息淺切 [銑]
すくなし、(少)。

鳥部

【鳥】テウ。都了切 [篠]
二翼二脚なる動物、とり、特に其の尾の長きものゝ稱。○[書]「一獸孳尾」。

(飛鳥) そらとぶとり。○[史]「一一以其翼覆ㇾ之」。
(陽鳥) 陽に隨ふとり、即ち鴻雁などの類。○[書]「一一攸居」。
(黄鳥) 鶯の異名。○[詩]「一一于飛」。
(白鳥) (い)しろきいろの鳥、又、鶴のとにもいふ。○[詩]「一一翯翯」。(ろ)蚊の名、か、蚊蚋。○[杜甫]「江湖多一一」。
(猛鳥) たけき鳥、即ち鷹隼などの類。○[周禮]「取一一者、成以鳩刑而殺ㇾ之」。
(鷙鳥) 前に同じ。○[史]「一一之擊也」。
(隼鳥) 前に同じ。○[老]「一一不ㇾ搏」。
(丹鳥) (い)鳳凰のこと。○[韓詩]「一一銜ㇾ書」。(ろ)螢の異名。○[古今注]「螢一名一一、一名夜光」。
(朱鳥) あかきいろのとり、又、南方七宿の名。○[史]「南宮一一」。
(海鳥) うみに棲息するとり。○[莊]「一一止於魯郊」。
(瑞鳥) めでたきとり、即ち鳳凰の類をいふ。○[拾遺記]「一一也、一日鸞鳥」。
(鮮鳥) 前に同じ。○[後漢]「一一華蟲」。
(高鳥) そらたかく飛ぶとり。○[史]「一一盡良弓藏」。
(烏鳥) からす。○[管]「一一之狡」。
(孝鳥) 前に同じ。○[古今注]「烏一名一一」、又「名玄鳥」。
(寒鳥) 冬のとり。○[梁元帝]「冬鳥目一一」。
(卵鳥) 鵝鴨なるの類にて其の卵の用ふべきとり。
(候鳥) 鳥の名、みさごの異名。○[爾]「共一一」。
(怪鳥) あやしきとり。○[晉]「一一上」。

（倉頡）とりのよ。○（篇）三角一一。
（玉篇）鳥の名、五色の羽を具へたりといふ。○（字彙）一一、一羽一隻一雙。
（爾雅）鳥の名。前胥地方に棲息するとも。○（釋名）「一一、卵生而飛。」
（廣韻）めづらしきとり。○（玉篇）林中有一一。
（字彙）野生のとり。○（本草綱目）一一上禽水。
（正字）鳥の名。○（本草）「一一、一名一一。」
（好古）ふつくしきとり。○（曾侯）「一一鳴清越。」

鳥 島に同じ。○（書）「一一夷皮服。」

シヤク、サク。子削切 藥

鷟—は、鶚の名。○（淮）「武威郡鷟—縣。」

鳦 乙に同じ。

イツ、於筆切 質 イツ、乙黠切 黠

つばめ、燕。○（史、註）「吞一一子而生大業。」

二畫

鳧 古玄切 先

ふくろふ、（惡鳥）。

鴟 鳥の聲にいふ字。

シツ、シチ。尺栗切 質

鳥 鳥に同じ。○（書）「一一夷皮服。」

シヤク、サク。子削切 藥

鷟—は、鶚の名。○（淮）「武威郡鷟—縣。」

鳧 前條に同じ。○（歐陽通）「魚貫—巢。」

リヨク、リキ。林直切 職

鳧に似て小さき鳥、一說に鵠の別名。

鳩 キウ、ク。居求切 尤

一山雀に似て小さく尾の短き一種の鳥、きじばと。○（詩）「維—居之。」

二あつむ、あつまる、集。○（左）「一」歐「淨一」。

三やすし、やすんず、安。○（左）「致使」「晉無—乎。」

（篇）魚を食ふ小鳥の名、みさご。○（詩）「鶺々—。」

（詩）鳥の名、えとり、布穀、春候生の鳥名なり。○（詩）「一一在梁。」

（爾）雛の異名。○（左、註）「一一鵻也。」

（廣）短嘴叉行鵲鵲そもいと、おのぞかけばと、としよりこい。○（博）「一一鉢曾鵲鵲。」

（集）小鵠。○（莊、釋、郭）「一一鉢曾鵲鵲。」

（字）みさごすいの異名。○（爾）「南方有鳥焉、名曰一一。」「之鳧白。」

（玉）鳥の名、くらもち。○（本草）「一一紅京觀。」

鴆 鴆に同じ。○（禮）「一一毒入酒。」

チン。直禁切 沁

一羽のめでたきとりの名。○（史）「一一一至有德及遠方、則鳳皇合時朝至。」

（爾雅）鵜鶘のこと。○（詩、疏）「鵜鶘、一一一名一一。」

（音義）とりの名、もず。○（益部方物略記）「一一一。」

（字彙）一一一鵜名出南越。」

（玉篇）「一一一毒。」

（說文）前に同じ。○（爾雅、註）「百舌鳥。」

（字彙）「一一一、杜鵑の異名。○（字彙、補）「一一一、鵜名。」

（爾雅、疏）「一一一、鵜名出南越。」

（本草）「一一一、鵜名。」

鴟 鳥の聲にいふ字。

シツ、シチ。尺栗切 質

三畫

鴛 カン。古奚切 齊

一鵜は、かささぎ、鵲。

鴉 鴉に同じ。○（論衡、論）「烏々—鳴一。」

鴆 鵖に同じ。○（淮）「一一鳴不一鳴。」

鴃 鴂に同じ。

テイ、大計切 霽 タイ、徒蓋切 泰

鳥の名。○（山海經）「首山机、谷多一一、鳥一。」

鴂 鴃に同じ。

ケツ、古穴切 屑

一みさごすいに似て大いなる一種の鳥。○（司馬相如、上林賦）「一一鵁鶄。」

鴈 雁に同じ。

ガン。五患切 諫

一鵝は、ほとゝぎす。

鴉 烏に同じ。○（莊）「一一夷皮服。」

ヤク、エキ。於革切 陌

一雀は、鳥の總名。○（爾雅）「一一、鵲剖蘇。」

鴉 鵶に同じ。

ア、テイ。陟加切 麻

一鵝は、てうざんうぐひす。

鴇 ホク、博木切 屋 ホク、北角切 覺

きじ（雉）。

鴈 鴈に同じ。

ガン。五患切 諫

一鵝は、ほとゝぎす。

鴉 烏に同じ。○（莊）「一一夷皮服。」

シヤク、サク。子削切 藥

鷟—は、鶚の名。○（淮）「武威郡鷟—縣。」

鴟 鳥の聲にいふ字。

シツ、シチ。尺栗切 質

鴛 鴛に同じ。

イツ、於筆切 質 イツ、乙黠切 黠

つばめ、燕。○（史、註）「呑一一子而生大業。」

二畫

鳧 古玄切 先

ふくろふ、（惡鳥）。

鳩 キウ、ク。居求切 尤

一山雀に似て小さく尾の短き一種の鳥、きじばと。○（詩）「維—居之。」

二あつむ、あつまる、集。○（左）「一」歐「淨一」。

三やすし、やすんず、安。○（左）「致使」「晉無—乎。」

（篇）魚を食ふ小鳥の名、みさご。○（詩）「鶺々—。」

（詩）鳥の名、えとり、布穀、春候生の鳥名なり。○（詩）「一一在梁。」

（爾）雛の異名。○（左、註）「一一鵻也。」

（廣）短嘴叉行鵲鵲そもいと、おのぞかけばと、としよりこい。○（博）「一一鉢曾鵲鵲。」

（集）小鵠。○（莊、釋、郭）「一一鉢曾鵲鵲。」

（字彙）みさごすいの異名。○（爾）「南方有鳥焉、名曰一一。」「之鳧白。」

（玉）鳥の名、くらもち。○（本草）「一一紅京觀。」

鴆 鵖に同じ。○（禮）「一一毒入酒。」

チン。直禁切 沁

一羽のめでたきとりの名。○（史）「一一一至有德及遠方、則鳳皇合時朝至。」

（爾雅）鵜鶘のこと。○（詩、疏）「鵜鶘、一一一名一一。」

（音義）とりの名、もず。○（益部方物略記）「一一一。」

（字彙）一一一鵜名出南越。」

（玉篇）「一一一毒。」

（說文）前に同じ。○（爾雅、註）「百舌鳥。」

（字彙）「一一一、杜鵑の異名。○（字彙、補）「一一一、鵜名。」

（爾雅、疏）「一一一、鵜名出南越。」

（本草）「一一一、鵜名。」

鴟 鳥の聲にいふ字。

シツ、シチ。尺栗切 質

鳴 メイ、ミヤウ。武兵切 庚

一なく。

二鳥の聲を發するにいふ字。○（詩）「鳳凰—矣于彼朝陽」。

三すべて生物の聲を發するにいふ字。○（易）「其於馬也爲善—」。

四なる。

五生命なき物の聲をなすにいふ字。○（禮）「叩之以大則大—」。

六言ふ。○（韓愈）「其善—者」。

七聞こゆ。○（元）「以文章—三江東」。

八なかしむ、ならしむ、なす、ならす。○（韓愈）「不—一其善鳴者」。

（玉篇）聲かをしけむなく。○（詩）「一一啾々。」

（爾雅）前に同じ。○（孝經、援神契）「一一鳳鳥。」

（禮、曲）鳥のさへづりなく歌にいふ語。○（倉頡篇）「一一、鳥聲也。」

（說文）「一一、鳥聲也。」

（廣韻）鳥相呼ぶなく、よぶ。○（晉植）「一レ儔鳴西伯」。

鳴 メイ、ミヤウ。眉病切 庚

鳥相呼ぶなく、よぶ。○（晉植）「一レ儔鳴西伯」。

鳰 鴨に同じ。○（班固）「鵜鳧—鵁」。

鳶 エン。與專切 先 エン。于權切 先

鵄の類、とび。○（詩）「一飛戾天」。

（爾雅）いかの仮り。○（郭）「一一依水以居鳶」。

（釋名）前に同じ。○（倉頡訓）「一一鳶。」

鳴 雉に通じ用ふ。

鳰 鸊に同じ。○（漢）「筆部今之」。

四畫

鳰 キ、巨支切 支 シ、章移切 支

一雄の別名。二にはとり（雞）。三かり（鴈）。

鳩 鵄に同じ。

鳩 シ、章移切 支

はいたか。

鳩 シ、シ。常支切 支

鵄鵰、こたか。

鳳 コ、ク。後五切 慶

鶏雀、ふなしうづら。○（爾註）「諸一皆因二其毛色音聲一爲レ名」。

鳰 ヒフ。平立 キフ。居立切 緝

鮫鵠、きくいたゞき、やつがしら。

鳰 カイ、ケ。古拜切 卦

すゞめ（雀）。

鳱 ケン、巨淹切 鹽 キン、堪金切 侵 ゴン。切

一句喙鳥、くちばしのまがれるとり。二鳥の食み喙むにいふ字、ついばむ。

鳩 フ。甫無切 虞

鵓鴿、ふゆすかけど。

鳩 フ、ホウ。符牛切 尤 ハウ、符方切 陽

みぞごゐさぎ（澤虎）。

鳩 ハウ。蒲口切 有 ハウ、符右切 有

黒色なる一種の鳥。

鳩 ハウ、バウ。符咎切 有

鵓鴿、ふゆすかけど。

鳩 キウ、ク。鉅尤切 尤

鵄の類、とび。○（詩）「一飛戾天」。

（爾雅）いかの仮り。○（郭）「一一依水以居鳶」。

（釋名）前に同じ。○（倉頡訓）「一一鳶。」

鳴 メイ、ミヤウ。武兵切 庚

一なく。

二鳥の聲を發するにいふ字。○（詩）「鳳凰—矣于彼朝陽」。

三すべて生物の聲を發するにいふ字。○（易）「其於馬也爲善—」。

四なる。

五生命なき物の聲をなすにいふ字。○（禮）「叩之以大則大—」。

六言ふ。○（韓愈）「其善—者」。

七聞こゆ。○（元）「以文章—三江東」。

八なかしむ、ならしむ、なす、ならす。○（韓愈）「不—一其善鳴者」。

（玉篇）聲かをしけむなく。○（詩）「一一啾々。」

（爾雅）前に同じ。○（孝經、援神契）「一一鳳鳥。」

（禮、曲）鳥のさへづりなく歌にいふ語。○（倉頡篇）「一一、鳥聲也。」

（說文）「一一、鳥聲也。」

（廣韻）鳥相呼ぶなく、よぶ。○（晉植）「一レ儔鳴西伯」。

鳰 鸊に同じ。○（漢）「筆部今之」。

鳰 フン、ホン。府文切 文

鳥の衆まる親にいふ字、一說に飛ぶ親にいふ字。

鳰 ハン、ヘン。布還切 刪

大鳩。○（揚雄）「其大者謂二之一一鳩一。」

鳰 アン、無分切 文 ビン、眉貧切 眞

鵝の子。○（爾、註）「鵝之雛名レ一」。

鳰 キフ。其立切 緝

鶏一一は、小鳥。

鳰 キウ、ク。巨尤切 尤

雌鵰、こたか。

鳰 コ、ク。後五切 慶

鶏雀、ふなしうづら。○（爾註）「諸一皆因二其毛色音聲一爲レ名」。

鳰 ヒフ。平立 キフ。居立切 緝

鮫鵠、きくいたゞき、やつがしら。

鳰 カイ、ケ。古拜切 卦

すゞめ（雀）。

鳰 ケン、巨淹切 鹽 キン、堪金切 侵 ゴン。切

一句喙鳥、くちばしのまがれるとり。二鳥の食み喙むにいふ字、ついばむ。

鳰 フ。甫無切 虞

鵓鴿、ふゆすかけど。

鳰 フ、ホウ。符牛切 尤 ハウ、符方切 陽

みぞごゐさぎ（澤虎）。

鳰 ハウ。蒲口切 有 ハウ、符右切 有

黒色なる一種の鳥。

鳰 ハウ、バウ。符咎切 有

鵓鴿、ふゆすかけど。

鳰 キウ、ク。鉅尤切 尤

鵄の類、とび。○（詩）「一飛戾天」。

（爾雅）いかの仮り。○（郭）「一一依水以居鳶」。

（釋名）前に同じ。○（倉頡訓）「一一鳶。」

【鴄】ヒツ、ヒチ。辟吉切 質
あひる（鶩）、かも（鴨）。

【鴆】チン、直禁切 沁　タン、ドン。徒南切 覃
㊀一種の毒鳥、人その羽を浸したる酒を飲めば死ぬといふ。○〔楚辭〕「令二—爲一レ媒」。
㊁前述の鳥の羽を浸し、酒、又、其の酒を飲ましめて毒害すると。○〔國〕「使二醫—一レ之」。
（弁疑）死をはからんとて鴆酒を飲むと。○〔漢〕「飲—」。

【鴃】チウ、チユ。直衆切 送
鴃—は、むさゝび（飛鼺）。

【鴋】ハウ、ボウ。博抱切 皓
鴋に同じ、とびくだる。

【鴇】
㊀鳥の屬、のがん、後に趾（つめ）なく毛に文あり。○〔詩〕「肅々—羽」。
㊁鴇に同じ、くろあしげ。○〔詩〕「叔于田乘二乘—一」。

【鴇】バウ、モウ。莫到切 號
鳥の輕き毛、うぶげ。

【鴈】ガン、ゲン。五晏切 諫
㊀一種の鳥、かり、暖氣を追ひて去來し、羣がり飛ぶさきは斜行をなす、故に他と斜行をなすにも去來恒なきにも假りいふ、一名は、隨陽鳥。○〔周〕「—北郷」。
㊁贋に通じ用ふ、にせ。○〔韓〕「齊伐魯、索二讒鼎一、魯以二其一往、齊人曰、—也、魯人曰、眞也」。

（先腹）かもどかりと。○〔詩〕「弋—與一レ—」。
（蒼腹）鶩の異名。○〔詩〕「—一飛、一日、蒼鶻」。
（赤腹）朱鵬ともいふ、あかき色のかり。○〔史〕「行二雒京一雒、鴈二—一」。
（朱腹）北地よりうつり來たるかり。○〔陶潛〕「—有二錦一殻一」。
（鴈腹）征鴈といふに同じ、渡り鳥にうつり飛ぶかり。○〔後武帝〕「—一鳴而哀々」。
（天腹）一種の瑞星の名。○〔晉〕「瑞星有二青光一、長二三丈、名曰二—一」。
（地腹）前に同じ。○〔晉〕「瑞星色青赤小者名曰二—一、其所レ居者起兵」。

【鴒】キン。呼郷切 眞
—鴒は、小さき鳥。

【鴛】シヤウ、サウ。千羊切 陽
鳥獸の食を求むる聲にいふ字。

【鴉】ア、エ。於加切 麻
鳥の族、はしぶさがらす、からす、古昔は之を以て吉凶を卜しまた南方の人は之を惡めりといふ。○〔本草〕「烏—大嘴而性貪」。
（鉄鴉）昏鴉、夕鴉、晚鴉などと同じくひぐれのからすをいふ。○〔高適〕「門掩二—暮鴉一」。
（金鴉）太陽のと。○〔韓愈〕「—一銀蟾」。
（赤鴉）前に同じ。○〔蕭萸中〕「—一飛詩筵二」。
（喚鴉）曙鴉、晨鴉、早鴉なきと同じくあけがたのからすをいふ。○〔陸游〕「寒明送二—一」。
（晉鴉）ねぐらにかへるからす。○〔陸游〕「林昏暝鴉滿一」。
（暗鴉）歸鴉といふに同じ、なき聲をたつるからす。○〔陸游〕「—一背二雨飛」。
（雛鴉）ひなのからす。○〔張泰〕「暴頭—一失其母」。「陽ニ谷見」。
（高鴉）そらたかく飛ぶからす。○〔劉客卿〕「—一
（寒鴉）おほくのからす。○〔王褒〕「—一拾二陣飛」。

【鴉】
雅に同じ。

【鵄】セイ、シヤウ。齋旅切 庚
たか（鷂・鷹）。○〔揚雄〕「齊晉潮消二層一鴉二—一鳥二」。

【鵂】キウ、ク。胡弓切 東
鳥の交、雄を、一に日ふ武き稱。

【鴻】ハウ。數房切 陽
雛に同じ、鸊—は、鳥の名。

【鳶】フン、ボン。撫文切 文
雰に同じ、飛ぶ貌にいふ字。

【鳶】フン、ホン。非文切 文
鳥の聚まる貌にいふ字。

【鼻】ハン、ヘン。兵擊切 元　フン、ボン。扶云切 文
大いなる鳩。

【鴇】ケウ。古堯切 蕭
不孝鳥、ふくろふ。

【鶃】
鴉に同じ。

【鳶】
雀に同じ

〔五畫〕

【鴎】ヒ、ビ。符悲切 支
みさご（鶚）。

【鴨】カン、コン。古暗切 勘
鳥の聲にいふ字。

【鴳】ケン。胡涓切　エン。悅全切 先
つばめ（玄鳥）。

【鴜】トク、ドク。徒得切 職
鴉の屬。

【鵆】サク、シヤク。側革切 陌
鵆—は、あひる（鴨）。

【鴐】カ、ケ。古牙切 麻
鴐鳥、野鵝、がてう、のがり。○〔司馬相如〕「—鵝鶚鳭」。

【鴒】
鴒に同じ。

【鴒】レイ、リヤウ。郎丁切 青
鵲—また鶺—は、頸下に黒き連錢の文ある一種の小鳥、せきれい、いしたゝき、みちをしへどり。○〔爾〕「鵲、—雝渠」。

【鴩】トウ、ツ。天口切 宥
㷋に似たる黒色の鳥、くろがも、かはらがらす。

【鴩】トウ、ヅ。徒口切 宥
水鳥の名。

【鵈】ビツ、美畢切 質　ベツ、メチ。莫結切 屑
鵲に似たる一種の鳥。

【鴫】ヒツ、ビチ。璧密切 質
鵫—は、鳥の名。

【鴃】ヒフ、ホフ。鉏急切 緝
鴃—は、一種の小鳥、形は燕に似て色黒く尾長くして岐れ頭に黄色の羽あり、やつがしら、きくいたゞき、まぐそとび。○〔爾〕「鵖—鵛鵛」。

【鴕】タ、ダ。唐何切 歌
熱帶地に棲む一種の鳥、だてう、脚太く頸長く高さ八九尺ありて其の頸と脊と蹄との橐駝に似たりといふより名づく、大馬爵。○〔本草〕「—鳥如レ駝生二西戎一」。

【鴖】ビン、ミン。武巾切 眞　ブン、モン。無分切 文
—母は、かすひどり。

【鴗】セキ、ジヤク。常隻切 陌
にはくなぶり、せきれい、いしたゝき（鶺鴒）。

【鴟】タウ、トウ。都老切 晧
鴟—は、石を懸くる貌にいふ語。

【鴣】カウ、ケウ。苦絞切 巧
みそさゞい、さゞき（鷦鷯）。

【鴟】
鶩に同じ。

【鴰】バツ、マチ。莫枯切 曷
—鴰は、かも、あひる。

【鴗】リフ。力入切 緝
かはせみ（天狗）。

【鴘】ヘン。波免切 銑　ヘン。翻阮切 阮
二歲の鷹、わかたか、たかゝへり、もろかへり。○〔西陽雜俎〕「鶩色黃、一變爲二鴘一—、又、一變爲二白—一」。

【鴇】
雉、又、鶡に同じ。

【鴦】サツ、サチ。側八切 黠

㊀鳥の雜毛の色。
㊁百舌に似たる一種の鳥。

【鴃】
鴃に同じ。

【鴃】ハツ、バチ。蒲撥切 曷
㷋に似たる鳥。

【鴃】ハツ、ハチ。北末切 曷
雉に似たる鳥。

【鴒】テウ。丁聊切 蕭
㊀—鴒は、よしきり。
㊁鳥の聲にいふ字。

【鴒】テウ、デウ。田聊切 蕭
—鴒は、鳥の尾の翹毛、あげは。

【鴞】ケウ。呼幺切 蕭
羽の貌にいふ字。

【鴚】カ。古俄切 歌　カ、ケ。居牙切 麻
がてう（舒鴈）。

【鴛】エン、チン。委遠切 阮
梟に同じ、鳳の屬。

【鴛】エン、於袁切 元　チン、ウン。烏渾切 元
毛色麗しく雌雄相離れざる一種の水鳥、をし、をしどり、匹鳥、特に其の雄の稱。○〔埤雅〕「—好二內忠一」。

【鴜】シ。即夷切 支
魚虎（かはせみ）に似て蒼黑色なる一種の水鳥。

【鴲】
前條に同じ。○〔司馬相如〕「—」

「鵾—鵝鶘」

【鴟】
雌に同じ。

【鴟】シ。諸氏切　キ。蟻尒切 紙
—鴟は、鳥の如き鳥。

【鴩】シ。支義切 寘
鳥の聲にいふ字。

【鳲】
鴃に同じ。

【鴝】ハク、ビヤク。蒲陌切 陌
—郁は、鳥の名。

【鴝】ク、コ。其俱切 虞
—鵒は、形は百舌（もず）に似て頭に幘ある一種の鳥、はゝてう、其の舌端を剪りて圓くし語を教ふれば能く人言をなすといふ。

【鴝】コウ、ク。古侯切 尤
鵂鶹。

【鴝】コウ、ク。居候切 宥
鳥の聲にいふ字、又、雉鳴く。

【鴞】ケウ。干嬌切 蕭
梟に同じ、ふくろふ。○〔詩〕「有レ—萃止」。
（鵩鴞）鳥の名、ふくろふ。○〔鵩鴞〕「—而笑鳳凰」。
（鴟鴞）前に同じ。○〔本草〕「鴟赤名二—一」。

【鴘】フ。甫無切 虞
鳥の名。

【鴟】シ。處脂切 支

㊀鳥の子を捉り食らふ一種の惡鳥ふくろふ。○〔詩〕「爲レ梟爲レ—」。
㊁酒を盛る一種の瓶、かめ。○〔蘇軾〕「金・錢百・萬酒干・—」。

【鴠】タン。得案切 翰　タン。黨旱切 旱
鴠—は、寒夜鳴く一種の鳥。

【鴡】シヨ、ソ。七余切 魚
鴡の類、みさご。○〔爾〕「—鳩—王」。

【鴩】ブ、ム。文甫切 麌　ボウ、ム。莫後切 有
鸚—は、
（い）能く人の言語をまねする一種の鳥、あうむ。○〔正字通〕「鸚—能言鳥有二綠色紫赤色白色五色數種一」。
（ろ）刺桐（はりぎり）の花。○〔彭綱〕「露出二幾枝一紅鸚—一」。

【鴢】エウ。烏皎切 篠　アウ、エウ。於絞切 巧
㷋に似たる一種の鳥、あをさぎ、魚鵁。○〔山海經〕「宵要之山有レ鳥名レ—」。

【鴢】イウ。於交切 肴　イウ、ウ。伊謬切 宥

【鴣】コ、ク。古胡切 虞
鷓—は、多く古の越地に棲めりといふ一種の鳥、しやこ、形は斑鳩（おゆすかけばと）に似て臆前に白き圓き點文あり、多くは對して啼き常に日に向かひて飛びまた常に南に向かふといへり、別名は懷南、逐影。○〔李白〕「只今惟有二鷓—飛一」。

【鵃】シウ、シユ。職戎切 東
㷋に似て小さき一種の水鳥。

鴮 トウ、ツ。都宗切 冬
かひつぶり。

鴟 セキ、シヤク。昌石切 陌
小雀。

鴠 イツ、以出 質 イク、于六 屋 イチ。切 オク。切 屋
ウツ、王勿 物
鳥のはやく飛ぶにいふ字、とぶにはやし。○〔詩〕「彼晨風」。

鴦 ヤウ、アウ。於良切 陽
一匹鳥の雌、めすのをしどり、鴛の字の條を見よ。○〔詩〕「鴛―于飛」。二屋瓦の名。○〔蘇軾〕「瓦弄三寒螭一隊」月」。

鳩 ジョウ、ニュ。戎用切 宋
鵝の飛ぶ貌にいふ字。

鴨 アフ、エフ。烏甲切 洽
鳧の屬、舒緩にして飛ぶ能はずかも、あひる、あひがも、舒鳧。○〔禽經〕「一鳴呷々」。
〔家鴨〕人家にて飼ふかも、あひる。○〔埤雅〕「一鳧短。
〔鳧鴨〕野生のかもと家畜のかもと、又大小のかもをいふ。○〔孔武仲「通判泗州詩」〕「一一」。
〔土鴨〕青頭に似て鴨の大いなる一種のかも。
○〔鴨脚〕銀杏。○〔水經〕「鳥鼠山、今鳥鼠山」―首也」。
〔番鴨〕をしどりの異名。○〔本草〕「鴛鴦一名―」。

鴈 鴈に同じ。

嶋 イウ、ユ。于周切 尤

鴈 古文の鶴の字。

鴝 シュン、ウユン。詳遵切 眞
みそさゞい（鷦鷯）。

鴦 ヤウ。與章切 陽
一種の鳥。○〔呂氏春秋、註〕「鴛鴦青州謂二之一一」。

鴦 シヤウ、ザウ。徐羊切 陽
翔に同じ、かける。○〔漢二〕「擊氣遊條鳳鳥一」。

鴦 ク、ゴ。權俱切 虞
左足の白き鳥。

鴝 コウ、グ。戸鉤切 尤
猿に同じ、はれ、羽本一說に、羽の初めて生ずる貌にいふ字。

鴟 クイ、古惠 霽 ケ。切 ケツ、古穴 屑 ケチ。切
ケン。吉典 銑 キ。切 居悸 寘
鵄―は、たをさどり、ほとゝぎす子規。○〔揚雄〕「蛩二鵄一之將下鳴」。

鴟 テイ、ダイ 杜兮切 齊
一―胡は、がらんてう、洛陳。「螘。
二やまごり（山雞）。○〔左思〕「擊―山

鴟 イ。以脂切 脂 延知切 支
―鵄は、もみ、むさゝび（飛生）。

鴟 鴟に同じ、いしたゝき、せきれ

鴻 コウ、グ。戸工切 東
一鴈の屬、はくてう、びしくひ、おほとり、雁より大きく毛色純白にして頸長く其の肉美なり。○〔易〕「一漸于陸」。
二おほいなり、〔洪〕。○〔史〕「禹抑二―水」。
三混沌たると、茫漠なると。○〔孝經援神契〕「天一度圍一寧萌」。
四おほいなる功績、おほいなる事業。○〔揚雄「劇秦美新」〕「一―之業」。
五洪水、おほみづ。○〔楚辭「不遜汨鴻」〕「一―」。
六一種の鵄、ひしくひの飛ぶに列をなすの義に取るといふ。○〔禮〕「鴈二―一飛」。
七ひとしい、鵬。○〔周二梓人爲二筍虡一、小首而長搏、身而―」。
つよし、強。○〔周〕「矢人惟―之以眡其―」。殺之稱二。

鴻 コウ、グ。胡孔切 董
頌に同じ。○〔揚雄〕「一―綢繆」。

鴻 コウ、グ。胡貢切 送
深遠なる祝にいふ字、遠次ぜる祝にいふ字、おくふかし、つゞく。○〔淮二天地一―洞。

鴻 キク、ゴク。巨六切 屋
ふゞどり（鳧鷖）。

鴻 コウ、グ。戸工切 東
一鴈の屬、はくてう、びしくひ、おほとり、雁より大きく毛色純白にして頸長く其の肉美なり。○〔易〕「一漸于陸」。
二おほいなり、〔洪〕。○〔史〕「禹抑二―水」。
三混沌たると、茫漠なると。○〔孝經援神契〕「天一度圍一寧萌」。
四おほいなる功績、おほいなる事業。○〔揚雄「劇秦美新」〕「一―之業」。
五洪水、おほみづ。○〔楚辭「不遜汨鴻」〕「一―」。
六一種の鵄、ひしくひの飛ぶに列をなすの義に取るといふ。○〔禮〕「鴈二―一飛」。
七ひとしい、鵬。○〔周二梓人爲二筍虡一、小首而長搏、身而―」。
つよし、強。○〔周〕「矢人惟―之以眡其―」。殺之稱二。

鴻 シ。七四切 寘
鵄鴞みゝづく。

鵅 タク、ヂヤク。場伯切 陌
―鵅は、毛に五色を備ふる一種の鳥。

鵅 チヨク、チキ。恥力切 職
駱―は、をしどり。

鵅 井ク、オク。乙六切 屋
一種の鳥。

鵅 イウ、ウ。云九切 有
白鵅、まらきじ。

鵅 ラク。盧各切 鐸
一種の水鳥、形は鳧に似て頸短く脚と趾とは紫白にて背上は綠色なりといふ。

鵅 カク、キヤク。古伯切 陌
みゝづく（鵂鶹）。

鵅 ジヨ、ニョ。人諸切 魚
いへばさ（鵅、やくき（鵅母）でふなしうづら（鸛）。○〔義〕「雉兎鵅―」。

鵅 ボウ、ム。莫浮切 尤
―母は、やくき、ふなしうづら。○〔爾雅註〕「謂也青州人呼曰二―母一」。

鵅 カフ、コフ。古答切 合
鴿の屬、いへばと、はと。○〔陸佃「―性寡レ合」〕

鵅 テイ、丁了切 篠
―鵅は、鵜の長き觜にいふ語。〔爾二天地一―洞。

鵅 ラウ、ロウ。力到切 號
鳥の聲にいふ字。

鵅 カク、戸戈 歌 切 戸孟 駭 切
すゞめ（飛鳥）。

鵅 ケウ。古玄切 蕭
不孝鳥。ふくろふ。

鵅 クヮウ、ワウ。呼光切 陽
すゞめ（雀）。

鵅 カツ、古黠 黠 キツ、激質 質 ケチ。切
―鵅は、ふゝどり、布穀鳥。○〔爾二―鵅一〕。

鵅 クヮイ、エ。戸回切 灰
鳥の名（五色の文あり長さ一尺のもの。

鵅 レツ、レチ。良薛切 屑
啄にて樹を斲り蟲を食らふ一種の鳥、けらつゝき、きつゝき、たくみどり、斲木鳥。○〔埤雅〕「一善二―法一」。

鵅 シユ、ス。章俱切 虞
鵄に似たる一種の鳥。

鵅 キヨウ、ク。九容切 冬
雄に似たる一種の鳥。

鵅 キウ、ク。其九切 有
鵄に似て冠ある一種の鳥。

鵅 カク、五革 陌 ケン。古賢 銑 ゲン。倪堅 先 カク、丘縛 藥 キヤウ。切 ケン。切
ごゐさぎ（鷺鷥）。

鵅 シユ、ニ。如之切 支
雛―は、つばめ、玄鳥。○〔莊二鳥蔦レ智於鵅―一。

鵅 クヮツ、クヮチ。古活切 曷
鶻―は、まなづる。○〔班固「鵅―鳧、鵾。

鵅 ガイ。五蓋切 泰
みそさゞい（巧婦）。

鵅 俗の鵄の字。

鵅 シウ、シユ。息弓切 東
鷲に同じ、鷹に似て小さき一種の鳥、能く雀を捕らふ。

鵅 シ。旨寄切 寘
小青雀、ふめ、ふさゝい。

鵅 シ。至几切 紙
未だ毛の生ぜざる鳥穀、ひな。

鵅 シ。指利切 寘
雀の聲にいふ字。

鵅 キヨウ、グ。居容切 冬
水鳥。

鵅 アン、エン。於澗切 諫
ふなしうづら（鷓）。○〔呂氏春秋、「有レ菟生レ雛雛亦生レ」〕。

鵅 アン。於寒切 寒
―鵅は、鵝胡の別名、がらんてう、又一名は、なべてう胸河。

鵅 シ、ニ。如之切 支
雛―は、つばめ、玄鳥。○〔莊二鳥蔦レ智於鵅―一。

鵅 イツ、以出 質 イク、于六 屋 イチ。切 オク。切 屋
ウツ、王勿 物
鳥のはやく飛ぶにいふ字、とぶにはやし。○〔詩〕「彼晨風」。

鵅 ヤウ、アウ。於良切 陽
一匹鳥の雌、めすのをしどり、鴛の字の條を見よ。○〔詩〕「鴛―于飛」。二屋瓦の名。○〔蘇軾〕「瓦弄三寒螭一隊」月」。

鵅 ジョウ、ニュ。戎用切 宋
鵝の飛ぶ貌にいふ字。

鵅 アフ、エフ。烏甲切 洽
鳧の屬、舒緩にして飛ぶ能はずかも、あひる、あひがも、舒鳧。○〔禽經〕「一鳴呷々」。
〔家鴨〕人家にて飼ふかも、あひる。○〔埤雅〕「一鳧短。
〔鳧鴨〕野生のかもと家畜のかもと、又大小のかもをいふ。○〔孔武仲「通判泗州詩」〕「一一」。
〔土鴨〕青頭に似て鴨の大いなる一種のかも。
○〔鴨脚〕銀杏。○〔水經〕「鳥鼠山、今鳥鼠山」―首也」。
〔番鴨〕をしどりの異名。○〔本草〕「鴛鴦一名―」。

鵅 鴈に同じ。

嶋 イウ、ユ。于周切 尤

う、ふまつどり、秃鶖。

鴐 ホ、ブ。郡故切 遇 鵝に同じ。

鵝 ホ、ブ。逢模切 虞 鵝に同じ。○〔雅〕一一鵝能致いがてう（鵝）。

鵝 ホ、ブ。逢遒切 幽 鳥の雛前、むなさき。

鴐 シン、ゾン。勘譽切 侵 小鳥。

鵝 ブ、ム。武夫切 虞 雀の屬。

鵝 デフ、チフ。尼凱切 霽 鳥飛ぶ。

鵝 エキ、ヤク。營隻切 陌 小鳥、こばと。

鵝 ゴク。五孚切 虞 或は鵝に作る、むさゝび。

鵝 キ、ケ。切 香衣 微 チ。居几切 紙 北方の雉、きじ。

鵝 イ。烏而切 支 鳥鳴く。

鵝 クン、具運 問 キン、巨嗔 欣 ゴン。切 尾の無き雞。

鵝 ヨク。余蜀切 沃 鵠の字を見よ。

鵝 ホツ、ボチ。蒲沒切 月 ―鵝―鵝は、いへばさゝ勃姑、歩姑、又、鵝の聲。○〔李時珍〕〔鵝性易〕合、故名―者其聲也。

鵝 バウ、モウ。莫項切 講 ボウ、ム。 莫湩切 腫 バウ、マウ。母期切 灰 ―鵝は、鷹に似て白き一種の鳥。

鵝 シュン。私閏切 震 ―鵝は、山雞に似て小さき一種の鳥、きんけい鵝雞。○〔南越志〕〔增城縣多―鵝〕。

鵝 前條に同じ。

鵝 ヘフ、彼及 緝 ケフ。居戢切 ホフ。切 へウ。北涉切 葉

鵝 フウ、總謀 尤 フ。芳無切 虞 鵝の字を見よ。

鵝 ラウ、ロウ。郎刀切 豪 鵝―は、羽に鎗文ある一種の鳥。

鵝 ヨク。鳥酷 沃 ヲク。屋郭切 藥 水鳥。

鵝 ラウ。鳥光切 陽 鵝に同じ。

鵝 ホ、ブ。博孤切 虞 ―鵝は、鳥の名。

鵝 キョク、居玉 沃 コク。切 居六 屋 鳥の名。

鵝 キウ、ゲ。巨九切 有 百舌鳥、もず。

鵝 鵝に同じ。

鵝 鵝に同じ。

鵝 ホ、ブ。博孤切 虞 ―鵝は、鳥の名。

鵝 ホ、ブ。郡故切 遇 ―鵝は、ほとゝぎす。

鵝 ホ、ブ。逢模切 虞 鵝に同じ。○〔雅〕一一鵝能致いがてう（鵝）。

鵝 ホ、ブ。逢遒切 幽 鳥の雛前、むなさき。

鵝 シン、ゾン。勘譽切 侵 小鳥。

鵝 ブ、ム。武夫切 虞 雀の屬。

鵝 デフ、チフ。尼凱切 霽 鳥飛ぶ。

鵝 エキ、ヤク。營隻切 陌 小鳥、こばと。

鵝 ゴク。五孚切 虞 或は鵝に作る、むさゝび。

鵝 キ、ケ。切 香衣 微 チ。居几切 紙 北方の雉、きじ。

鵝 イ。烏而切 支 鳥鳴く。

鵝 クン、具運 問 キン、巨嗔 欣 ゴン。切 尾の無き雞。

鵝 ヨク。余蜀切 沃 鵠の字を見よ。

鵝 ホツ、ボチ。蒲沒切 月 ―鵝―鵝は、いへばさゝ勃姑、歩姑、又、鵝の聲。○〔李時珍〕〔鵝性易〕合、故名―者其聲也。

鵝 バウ、モウ。莫項切 講 ボウ、ム。 莫湩切 腫 バウ、マウ。母期切 灰 ―鵝は、鷹に似て白き一種の鳥。

鵝 シュン。私閏切 震 ―鵝は、山雞に似て小さき一種の鳥、きんけい鵝雞。○〔南越志〕〔增城縣多―鵝〕。

鵝 前條に同じ。

鵝 ヘフ、彼及 緝 ケフ。居戢切 ホフ。切 へウ。北涉切 葉

鵝 フウ、總謀 尤 フ。芳無切 虞 鵝の字を見よ。

鵝 ラウ、ロウ。郎刀切 豪 鵝―は、羽に鎗文ある一種の鳥。

鵝 ヨク。鳥酷 沃 ヲク。屋郭切 藥 水鳥。

鵝 ラウ。鳥光切 陽 鵝に同じ。

鵝 ガ。五何切 歌 ―鵝の屬、がてう、首長く頭は瘤の如し、眼縁にして嘴黄なり、舒脛。○〔説文〕―腹毳毛。

(二)隊陣の名。○〔左二〕其御願レ爲レ―立車上二。

(白鵝) まろがてう。○〔抱朴子〕但見一前一―立車上二。

(鵝鵝) 猿類の名。○〔蘇軾〕野塘飲啄――狎。

(家鵝) 野生のがてう。○〔食志〕―――野鵝。

(野鵝) 前に同じ。○〔本草〕―――大於鴈二。

鵝 ガ。五何切 歌 鵝に同じ。

鵝 ケイ、キヤウ。呼頂切 迥 鵝―は、鷺に似たる一種の水鳥。

鵝 キヤウ、ガウ。巨王切 陽 鵝の屬よたか。

鵝 カン。苦旰切 翰 カツ、苦曷切 カチ。切 鶡 カイ。苦蓋切 泰 ―鵝は、一種の鳥やまどり。

鵝 コク、ゴク。胡沃切 沃 (一)一種の水鳥、くゞひ、はくてう、おほとり、雁より大きく羽毛白くして澤あり、其の翔るを愛めて高しといふ、天鵝。○〔爾〕―黄―一學。「」。(二)はくてうの聲。○〔顔師古〕―其聲―!(三)おほいなり（大）。○〔呂氏春秋〕―!乎其盛レ用二智慮一也」。

鵝 ガ。五何切 歌 (一)鵝の脛、がてう、首長く脛は長く額は瘤の如し、眼縁にして嘴黄なり、舒脛。○〔説文〕―腹毳毛。

(二)隊陣の名。○〔左二〕其御願レ爲レ―立車上二。

(白鵝) まろがてう。○〔抱朴子〕但見一前一―立車上二。

(鵝鵝) 猿類の名。○〔蘇軾〕野塘飲啄―――狎。

(家鵝) 野生のがてう。○〔食志〕―――野鵝。

(野鵝) 前に同じ。○〔本草〕―――大於鴈二。

鵝 前條に同じ。

鵝 ケイ、キヤウ。呼頂切 迥 鵝―は、鷺に似たる一種の水鳥。

鵝 キヤウ、ガウ。巨王切 陽 鵝の屬よたか。

鵝 カン。苦旰切 翰 カツ、苦曷切 カチ。切 鶡 カイ。苦蓋切 泰 ―鵝は、一種の鳥やまどり。

鵝 コク、ゴク。胡沃切 沃 (一)一種の水鳥、くゞひ、はくてう、おほとり、雁より大きく羽毛白くして澤あり、其の翔るを愛めて高しといふ、天鵝。○〔爾〕―黄―一學。「」。(二)はくてうの聲。○〔顔師古〕―其聲―!(三)おほいなり（大）。○〔呂氏春秋〕―!乎其盛レ用二智慮一也」。

(四)象牙の類工。○〔管〕〔象齒三之―二。(三)企立つまだち。○〔後漢〕―瞻望―立。

(五)毛の白きもと。○〔後漢〕―大儀―髮。

(鵝鵝) 多はいなる鳥の名、おほとり、はくてう、又、かりて大人物の譬に用よるとあり。○〔史〕―雀安知―!之志哉。

(野鵝) 鳥の名、はくてう。○〔爾〕―!―因レ風以翼二子孤一飛。

(白鵝) 前に同じ。○〔抱〕〔百年氏乃獲―!之(野鵝) あかおおばとり。○〔埤雅〕〔鵝性好―群飛―!。

鵝 コク。姑沃切 沃 的の正中、まと、ほし。○〔禮〕〔發レ聲而發、不レ失二正―二。

(正鵠) 射的のはし。○〔禮〕〔發而不失―!―有北鵠賢者乎。

(發鵠) 前條的條設―!。

(發鵠) 前に同じ。○〔禮〕〔王大射則共―侯―

鵝 ブ、ム。文甫切 虞 鵝に同じ。○〔禮〕〔鸛―能育、不離二飛鳥二。

鵝 翔に同じ。

鵝 ガン、ゲン。五諫切 諫 ひしくひがん（鴈）。

鵝 アン、エン。烏諫切 諫 鴈雀ふなしうづら。

鵝 ハウ、ホウ。博稿切 皓 大鳥。

鵝 テイ、タイ。他兮切 齊 たか（鷹）。

鵝 シン。章忍切 軫 鵝鳩もず。

鵝 シヨ、ソ。失余切 魚 鳧に似たる一種の鳥。

鵝 フク、ボク。房六切 屋 鵝に似て小さき一種の鳥。

鵝 ソツ、ソチ。蘇骨切 月 鵝―は、鳥の名。

鵝 ベン、メン。莫堅切 先 鷲の語るにいふ字、うぐひすのさへづるとき。

鵝 ロク。盧谷切 屋 鳥の雑毛の色。

鵝 シヤウ、サウ。徴兩切 養 鳥の名。

鵝 シ。之利切 寘 猛き鳥。

鵝 ヘイ、步丁 青 卑盈 庚 切 ヒヤウ。切 ヒ、貧悲 支 ハイ、蒲街 佳 ヒ。切 ハイ、補買 蟹 ヘイ、ベ。蒲巴 麻 切 ヒ、ビ。房脂 脂 切

鵝 ヒツ、譬吉 質 ヒ。切 ヒチ。切 鵲鳥、はしぶとがらす、ひえどり、みやまがらす。○〔爾註〕〔鵲烏也、小而多群、腹下白、江東亦呼爲二―烏二。

鵝 前條に同じ。

鵝 テウ。都聊切 蕭 胡地の鷲鳥、わし、くまたか、みさご、形は鷹に似て大なり、尾長く翅短く

鵲　リク、ロク。力竹切　屋
のがん（野鴈）。

鵠　シャク、サク。七雀切　藥
形は鶴に似たる一種の鳥。かさ、尾長く翼尖り爪黒く背綠に腹白く上下に飛びて鳴く子を生めば巣を捨てゝ去るさいふ異名は「神女」「窮尼」。○詩「二之曝々」。〔容齋〕鳥の名。かさゝぎ。○〔爾雅翼〕宋々西峙！一聲。〔乾鑿〕前に同じ。○〔西京雜記〕「一一噪而行。〔烏鵲〕前に同じ。又、からすとかさゝぎと。○〔荘〕「一一之属、可畢捉而殺。〔孔疏〕鵲全やしなとかさゝぎ。○〔説文〕「一一阿〔爾雅〕東狄時代の異国の名。○〔史〕「一一有物。游説郎人也。〔宋景〕宋の異犬。○〔曾鞏〕「韓盧「一一。〔山海經〕名なかどり等。○〔爾雅〕「一一」説文、切韻来同鳥也。〔韓愈〕おひなもしたかさゝぎ。○〔谷讀色〕「青

鵲　ケン。古賢切　先
鶻「一」は鶏の屬、一に曰ふ鷹。

鶃　イ。弋睡切　置
小鵰、こばと。

鶤　キク、コク。居六切　屋
鵠「一」は、ふくろう〈くわッこう〈布穀〉。

鷂　シ。章移切　支
一足の鳥。

鶉　ト、湯故切　遇　ツ。切大胡　虞

鶉　シュン、ジュン。常倫切　眞
㊀原野に棲む一種の鳥。うづら、大いさは雞の雛の如く頭細く尾短し、毛色に斑點あり、俗に其の性淳（すなほ）にして前に草の横たはれるあるも避けて行くより名づくといふ。○〔陸佃〕「一無二常居一有二常匹一。㊁うづらの尾の発せるより衣の短結にいふ字。○〔揚雄〕「春木之花兮捉「一」。㊂醉に同じ。○〔漢集〕「山童衣百「一」。我手之「一兮」。

鶉　トン。都昆切　元　タン、徒官切　寒
前條の㊁に同じ。

鵪　カウ、キャウ。古行切　庚
鶉「一」は、一種の鳥でうぜんうぐひす。鶉鴿より大きく毛は黄色にして羽及び尾は黒色相間れり。雌雄雙び飛び鳴く音は機を織るが如し。翼黄。○〔阮籍〕「鶉「一」振羽」。

鵐　キヨ、コ。九魚切　魚
鵐「一」は、はしぶとがらす。

鵝　クツ、コチ。九勿切　物

鵝　ライ、レ。落哀切　灰
たか、鷹。

鶫　トウ、ツ。德紅切　東
美形の鋭にいふ字。

鶄　セイ、サイ。千四切　霽
一「一」は、東齋鳥。

鶉　シュン、ジュン。常倫切　眞
㊀原野に棲む一種の鳥。うづら、大いさは雞の雛の如く頭細く尾短し、毛色に斑點あり、俗に其の性淳（すなほ）にして前に草の横たはれるあるも避けて行くより名づくといふ。○〔陸佃〕「一無二常居一有二常匹一。㊁うづらの尾の発せるより衣の短結にいふ字。○〔揚雄〕「春木之花兮捉「一」。㊂醉に同じ。○〔漢集〕「山童衣百「一」。我手之「一兮」。

鶉　トン。都昆切　元　タン、徒官切　寒
前條の㊁に同じ。

鶊　カウ、キャウ。古行切　庚
鶊「一」は、一種の鳥でうぜんうぐひす。鶉鴿より大きく毛は黄色にして羽及び尾は黒色相間れり。雌雄雙び飛び鳴く音は機を織るが如し。翼黄。○〔阮籍〕「鶊「一」振羽」。

鶂　キヨ、コ。九魚切　魚
鶂「一」は、はしぶとがらす。

鶂　クツ、コチ。九勿切　物

鶂　ライ、レ。落哀切　灰
たか、鷹。

鶫　トウ、ツ。德紅切　東
美形の鋭にいふ字。

鶄　セイ、サイ。千四切　霽
一「一」は、東齋鳥。

鶉　ト、湯故切　遇　ツ。切大胡　虞

鶉　シュン、ジュン。常倫切　眞
㊀原野に棲む一種の鳥。うづら、大いさは雞の雛の如く頭細く尾短し、毛色に斑點あり、俗に其の性淳（すなほ）にして前に草の横たはれるあるも避けて行くより名づくといふ。○〔陸佃〕「一無二常居一有二常匹一。㊁うづらの尾の発せるより衣の短結にいふ字。○〔揚雄〕「春木之花兮捉「一」。㊂醉に同じ。○〔漢集〕「山童衣百「一」。我手之「一兮」。

鶉　トン。都昆切　元　タン、徒官切　寒
前條の㊁に同じ。

鶊　カウ、キャウ。古行切　庚
鶊「一」は、一種の鳥でうぜんうぐひす。鶉鴿より大きく毛は黄色にして羽及び尾は黒色相間れり。雌雄雙び飛び鳴く音は機を織るが如し。翼黄。○〔阮籍〕「鶊「一」振羽」。

鶂　キヨ、コ。九魚切　魚
鶂「一」は、はしぶとがらす。

鶂　クツ、コチ。九勿切　物

鵲　ライ、レ。落哀切　灰
たか、鷹。

鶫　トウ、ツ。德紅切　東
美形の鋭にいふ字。

鶄　セイ、サイ。千四切　霽
一「一」は、東齋鳥。

鶉　シュン、ジュン。常倫切　眞
㊀原野に棲む一種の鳥。うづら、大いさは雞の雛の如く頭細く尾短し、毛色に斑點あり、俗に其の性淳（すなほ）にして前に草の横たはれるあるも避けて行くより名づくといふ。○〔陸佃〕「一無二常居一有二常匹一。㊁うづらの尾の発せるより衣の短結にいふ字。○〔揚雄〕「春木之花兮捉「一」。㊂醉に同じ。○〔漢集〕「山童衣百「一」。我手之「一兮」。

鶉　トン。都昆切　元　タン、徒官切　寒
前條の㊁に同じ。

鶊　カウ、キャウ。古行切　庚
鶊「一」は、一種の鳥でうぜんうぐひす。鶉鴿より大きく毛は黄色にして羽及び尾は黒色相間れり。雌雄雙び飛び鳴く音は機を織るが如し。翼黄。○〔阮籍〕「鶊「一」振羽」。

鶂　キヨ、コ。九魚切　魚
鶂「一」は、はしぶとがらす。

鶂　クツ、コチ。九勿切　物

鶂　ライ、レ。落哀切　灰
たか、鷹。

鶫　トウ、ツ。德紅切　東
美形の鋭にいふ字。

鶄　セイ、サイ。千四切　霽
一「一」は、東齋鳥。

鶉　シュン、ジュン。常倫切　眞
㊀原野に棲む一種の鳥。うづら、大いさは雞の雛の如く頭細く尾短し、毛色に斑點あり、俗に其の性淳（すなほ）にして前に草の横たはれるあるも避けて行くより名づくといふ。○〔陸佃〕「一無二常居一有二常匹一。㊁うづらの尾の発せるより衣の短結にいふ字。○〔揚雄〕「春木之花兮捉「一」。㊂醉に同じ。○〔漢集〕「山童衣百「一」。我手之「一兮」。

鶉　トン。都昆切　元　タン、徒官切　寒
前條の㊁に同じ。

鶊　カウ、キャウ。古行切　庚
鶊「一」は、一種の鳥でうぜんうぐひす。鶉鴿より大きく毛は黄色にして羽及び尾は黒色相間れり。雌雄雙び飛び鳴く音は機を織るが如し。翼黄。○〔阮籍〕「鶊「一」振羽」。

鶂　キヨ、コ。九魚切　魚
鶂「一」は、はしぶとがらす。

鶂　クツ、コチ。九勿切　物

鵲　ライ、レ。落哀切　灰
たか、鷹。

鶫　トウ、ツ。德紅切　東
美形の鋭にいふ字。

鶄　セイ、サイ。千四切　霽
一「一」は、東齋鳥。

鶉　シュン、ジュン。常倫切　眞
㊀原野に棲む一種の鳥。うづら、大いさは雞の雛の如く頭細く尾短し、毛色に斑點あり、俗に其の性淳（すなほ）にして前に草の横たはれるあるも避けて行くより名づくといふ。○〔陸佃〕「一無二常居一有二常匹一。㊁うづらの尾の発せるより衣の短結にいふ字。○〔揚雄〕「春木之花兮捉「一」。㊂醉に同じ。○〔漢集〕「山童衣百「一」。我手之「一兮」。

鶉　トン。都昆切　元　タン、徒官切　寒
前條の㊁に同じ。

鶊　カウ、キャウ。古行切　庚
鶊「一」は、一種の鳥でうぜんうぐひす。鶉鴿より大きく毛は黄色にして羽及び尾は黒色相間れり。雌雄雙び飛び鳴く音は機を織るが如し。翼黄。○〔阮籍〕「鶊「一」振羽」。

鶂　キヨ、コ。九魚切　魚
鶂「一」は、はしぶとがらす。

鶂　クツ、コチ。九勿切　物

鶂　ライ、レ。落哀切　灰
たか、鷹。

鶫　トウ、ツ。德紅切　東
美形の鋭にいふ字。

鶄　セイ、サイ。千四切　霽
一「一」は、東齋鳥。

鶉　シュン、ジュン。常倫切　眞
㊀原野に棲む一種の鳥。うづら、大いさは雞の雛の如く頭細く尾短し、毛色に斑點あり、俗に其の性淳（すなほ）にして前に草の横たはれるあるも避けて行くより名づくといふ。○〔陸佃〕「一無二常居一有二常匹一。㊁うづらの尾の発せるより衣の短結にいふ字。○〔揚雄〕「春木之花兮捉「一」。㊂醉に同じ。○〔漢集〕「山童衣百「一」。我手之「一兮」。

鶉　トン。都昆切　元　タン、徒官切　寒
前條の㊁に同じ。

鶊　カウ、キャウ。古行切　庚
鶊「一」は、一種の鳥でうぜんうぐひす。鶉鴿より大きく毛は黄色にして羽及び尾は黒色相間れり。雌雄雙び飛び鳴く音は機を織るが如し。翼黄。○〔阮籍〕「鶊「一」振羽」。

鶂　キヨ、コ。九魚切　魚
鶂「一」は、はしぶとがらす。

鶂　クツ、コチ。九勿切　物

鵲　ライ、レ。落哀切　灰
たか、鷹。

鶫　トウ、ツ。德紅切　東
美形の鋭にいふ字。

鶄　セイ、サイ。千四切　霽
一「一」は、東齋鳥。

鶉　シュン、ジュン。常倫切　眞
㊀原野に棲む一種の鳥。うづら、大いさは雞の雛の如く頭細く尾短し、毛色に斑點あり、俗に其の性淳（すなほ）にして前に草の横たはれるあるも避けて行くより名づくといふ。○〔陸佃〕「一無二常居一有二常匹一。㊁うづらの尾の発せるより衣の短結にいふ字。○〔揚雄〕「春木之花兮捉「一」。㊂醉に同じ。○〔漢集〕「山童衣百「一」。我手之「一兮」。

鶉　トン。都昆切　元　タン、徒官切　寒
前條の㊁に同じ。

鶊　カウ、キャウ。古行切　庚
鶊「一」は、一種の鳥でうぜんうぐひす。鶉鴿より大きく毛は黄色にして羽及び尾は黒色相間れり。雌雄雙び飛び鳴く音は機を織るが如し。翼黄。○〔阮籍〕「鶊「一」振羽」。

鶂　キヨ、コ。九魚切　魚
鶂「一」は、はしぶとがらす。

鶂　クツ、コチ。九勿切　物

鶂　ライ、レ。落哀切　灰
たか、鷹。

鶫　トウ、ツ。德紅切　東
美形の鋭にいふ字。

鶄　セイ、サイ。千四切　霽
一「一」は、東齋鳥。

鶉　シュン、ジュン。常倫切　眞
㊀原野に棲む一種の鳥。うづら、大いさは雞の雛の如く頭細く尾短し、毛色に斑點あり、俗に其の性淳（すなほ）にして前に草の横たはれるあるも避けて行くより名づくといふ。○〔陸佃〕「一無二常居一有二常匹一。㊁うづらの尾の発せるより衣の短結にいふ字。○〔揚雄〕「春木之花兮捉「一」。㊂醉に同じ。○〔漢集〕「山童衣百「一」。我手之「一兮」。

鶉　トン。都昆切　元　タン、徒官切　寒
前條の㊁に同じ。

鶊　カウ、キャウ。古行切　庚
鶊「一」は、一種の鳥でうぜんうぐひす。鶉鴿より大きく毛は黄色にして羽及び尾は黒色相間れり。雌雄雙び飛び鳴く音は機を織るが如し。翼黄。○〔阮籍〕「鶊「一」振羽」。

鶂　キヨ、コ。九魚切　魚
鶂「一」は、はしぶとがらす。

鶂　クツ、コチ。九勿切　物

—鳥は、山の名。

鶼 鶼に同じ。カツ、ガチ。胡割切 曷

鶉 ❶雉に似たる一種の鳥、やまどり、色黄黒にして首は褐色なり、毛角あり冠あり、性勇敢にして鬪へば死ぬまで止めずといふ。〇〔列子〕以二鶉一—爲二旗幟一。❷やまどりの勇敢なるにあやかりて其の尾を飾りとなせる武士の冠又、勇退との義より隱士の冠にも飾りとす。〇〔後漢〕虎賁者—冠。❸—旦は、夜鳴きて旦を求むといふ鳥の名。〇〔禮〕—旦不レ鳴。

鶤 雞朝飛。コン。古渾切 元

鵾 鶤に同じ。〇〔淮〕鵾二—雞於姑餘一。

鶴 ピ、ミ。武悲切 支

—鵾は、まなづる。

鶯 コ、ケ。洪孤切 虞

鶯—は、鳥の名。

鶫 ハイ、ベ。謀杯切 灰

食を誘ひ取るに用ふる鳥なとり。

鵃 ベツ、亡沼切 藥 メツ、切 藥 瀰遠 藥

みそさゝい〔巧婦鳥〕。

鶹 バウ、モウ。莫報切 號

鵹鵌の屬。〇〔山海經〕有レ鳥人面名曰二鶹一。

鶹 バク、ミヤク。莫白切 陌

鳥の驚き視る貌にいふ字。〇〔潘岳〕「無レ見二自—一」

鶨 テン。丑緣切 先 トン、徒困切 阮 ドン。切 願 タン。吐玩切 翰

あほうどり。

鶫 フウ、房九切 有 フ。李軌切 紙 ボ。切 虞

はいたか。〇鶻。

鶩 ボク。莫卜切 屋 ブ、亡遇切 遇 ム。切 遇

❶人家に畜ふ飛ぶ能はざる鳧、あひる。舒鳧家鴨。〇〔後漢〕鶩レ鵠不レ成尚

鶺 類レ—。

❶亂れ鳴すはす。〇〔楚辭〕鶺鴒—二分江・阜二。〔續文〕雀の一種。〇上林賦〕—二鶺鴒一。〔野菜〕かも。〇蘇武〕—鴈羣一。〔魚類〕前に同じ。〇李尤〕—ほて—二。

鶺 チヨウ、ザユ。直容切 冬

—鴒は、鳥の名。

鶺 ショウ、シユ。蓑鳥切 屑

雛の飛ぶ貌にいふ字、一說にすゞめ、雀。

鶺 鴒の本字。

鶺 キ、ギ。翹移切 支

翠に似て赤き喙ある一種の鳥。

鶺 鵲に同じ。

鶺 俗の鷺の字。

鶺 サウ。七岡切 陽

大いさ鵜の如き一種の水鳥、まなづる、青蒼色のものあり灰色のものあり、てう頸長く脚高く兩頬紅なり別名は、麋鹿。〇〔司馬相如〕鷦—下。

鶺 シヤウ、サウ。千羊切 陽

❶和ぐ聲にいふ字。〇〔詩〕二八・鶺—。「有レ—。」❷金飾の貌にいふ字。〇〔詩〕〔綠草〕

鶺 ハウ。妃霜切 養

おすめどり〔澤・淡、みぞごゐさぎ〔姑澤鳥〕ひのくちまもり、〔蘇田鳥〕。

鶺 鵲に同じ。コク、ゴク。胡沃切 沃

邑の名。

鶺 鷺の本字。アウ、ヤウ。鳥塞切 皮

❶鶺鴒てうせんうぐひす、うぐひす、別名は、黄鸝、商貪、鷺黄、鸝黄、黄鳥、金衣公子。〇〔梁〕早—雁初一。❷鳥の羽の文、あや。〇〔詩〕有二—其—。〔音義〕鳥のうぐひす。〇王筠〕—鳴不レ足。〔爾雅〕鶺鴒、〔郭注〕鶺鴒—。〔疏〕鶺鴒—。〔埤雅〕鶺鴒のうぐひす。〇禮記〕—鳴。〔埤雅〕鶺鴒、明堂なせといふ上に同じ、あけがたのうぐひす。〇〔字彙〕—東林—。〔續文〕かさの中にこめられたる貴鳥。〇〔白居易〕—。〔詩話〕。

鶺 シヨク、シキ。相卽切 職

鳥食らふ、ついばむ。

鶺 シン。之鄰切 眞 章刃切 震

鷽の別名。〇〔左思〕—鷽鶺鴒。

鶺 ヨウ、ユ。餘封切 冬

—鶺は、さやつきどり。

鶺 鴨に同じ。

鶺 ケン、コン。歳貢切 元

飛ぶ貌にいふ字、かけろ、とぶ。〇〔沈約〕詩二復鶺一。

鶺 鵠に同じ。コク、ゴク。胡沃切 沃

邑の名。

鶺 鷺の本字。アウ、ヤウ。鳥塞切 皮

鶺 ❶鶺鴒てうせんうぐひす、うぐひす、別名は、黄鸝、商貪、鷺黄、鸝黄、黄鳥、金衣公子。〇〔梁〕早—雁初一。❷鳥の羽の文、あや。〇〔詩〕有二—其—。〔音義〕鳥のうぐひす。〇王筠〕—鳴不レ足。〔爾雅〕鶺鴒、〔郭注〕鶺鴒—。〔疏〕鶺鴒—。〔埤雅〕鶺鴒のうぐひす。〇禮記〕—鳴。〔埤雅〕鶺鴒、明堂なせといふ上に同じ、あけがたのうぐひす。〇〔字彙〕—東林—。〔續文〕かさの中にこめられたる貴鳥。〇〔白居易〕—。〔詩話〕。

鶺 シヨク、シキ。相卽切 職

鳥食らふ、ついばむ。

鶺 シン。之鄰切 眞 章刃切 震

鷽の別名。〇〔左思〕—鷽鶺鴒。

鶺 ヨウ、ユ。餘封切 冬

—鶺は、さやつきどり。

鶺 鴨に同じ。

鶺 ケン、コン。歳貢切 元

飛ぶ貌にいふ字、かけろ、とぶ。〇〔沈約〕詩二復鶺一。

鶺 ハン、バン。蒲官切 寒

—鵰は、鳥の名。

鶺 シ。羅夷切 支

鶺に同じ、鳥の名。

鶺 カク。下各切 藥

❶一種の水鳥、つる、頸長く脚高く丹頂白身頸と翅さは黒し、多く夜半に鳴く其の聲甚だ長しといふ。〇〔易〕「鳴—在レ陰、其子和レ之。」❷左右の翼を張る陣列。〇〔莊二無レ盛二—列於鼈一之閒一。〇〔逸雅〕翹助也、齊人謂二其頭一曰レ—」❸鶴に同じ羽毛の白きにいふ字。〇〔孟二白—鳥—一〕。

鶺 〔音義〕くろき色のつる。〇古今注〕鶴千歳則變蒼、又二千歳則變黒、所レ謂—一也。〔埤雅〕常中を翔みつる。〇〔禽經〕—一下伊川一。〔埤雅〕前に同じ。〇〔李白〕—愛二女夢一—一。〔埤雅〕めでたきさゝしのつる。〇〔宋二是時所在言—一—。〔武經〕鶴といふに同じ、ともなきつる。〇〔隋書〕—一近遊一。〔爾雅〕白鶴のとき。〇〔圖經〕—一事一靜。〔本草〕前に同じ。〇〔埤雅〕—唳前聲—一—。

鶺 雛に同じ。タフ、ドフ。徒盍切 合

鶺—は、鳥飛ぶと。

鶺 タウ、ダウ。徒耶切 陽

—鵱は、わかたか。〇〔爾雅〕—鷹—鷂。

鶺 カツ、ゲチ。胡瞎切 黠

鶺 〔音義〕鶴鳥を船首に畫きて飾りとする事は白のときにいふ鶴。〇皮日休〕天上施—一。〔文選〕前に同じ。〇〔埤雅〕相似〕浮—一—漁燈靜—。〔本草〕前に同じ。〇〔爾雅〕翔小雀—一—。〔埤雅〕たけたかき鶴鳥。〇〔洗論〕—一—甘鳥。

鶺 鶴に同じ。

鶺 ❶一種の鷺鳥、はしたか、はいたかばやぶさ、鷂貨雀。〇〔列二久復爲レ—」。

鶺 エウ。七照切 嘯

鶺 エウ。餘招切 蕭

五色の雉、きじ。

鶺 アン、エン。烏涸切 藥

鶺に同じ、かやくき〔鷃〕ふなしうづら、鵪。〇〔禮〕雉兎鶺—」。

鶺 ケイ、カイ。古奚切 齊

時を知る家禽、にはとり、くだかけ、鶏音性勇敢なり、其の種類多く長尾鶏（ながどり）食鶏（ちどり）矮鶏（ちゃぼ）鶏鶏（うまる）等あり。〇〔詩〕女曰—鳴」。〔大戴〕鶏鳥の頭、ひくひきもの。〇〔周禮〕鶏人〔後漢〕夏秋の間田澤なきに居て鳴く水鳥ぐひな。〇〔宋玉〕—一六翮小觜二。〔竹譜〕竹林の間に棲む鳥。〇〔禽經〕—一水鶏鳥。〔埤雅〕雨に生ずる鳥、おつむむ。〇〔爾雅〕—一。〔埤雅〕うすくちばたる鳥、つばきの。〇〔禮〕—翟鶏。

鶺 ヨウ、ユ。於容切 冬

—鶏は、せきれい。

鶺 リツ、リチ。力質切 質

鶺—は、ふくろふ、梟。

鶺 テン、袖年切 先 シン。之人切 眞

黄白の雑文ありて聲は鶏に似たる一種の鳥、かすひ紋鳥、吐紋鳥、駕鵞。

鷇 コウ、ク。苦候切 宥 コ、ク。古玄切 虞 **鵂** クウ。古幺切 蕭 ふくろふ（不孝鳥）。

○鳥の子の將に卵を出でんとするもの、未だ自ら啄むを得ずして親鳥に啣まるゝもの、たまこ、ひな、ひよこ、特に燕雀などの類にいふ。○〔國〕「鳥鷇」—卵」。

○はぐくむ（哺）。○〔揚雄〕「—風胎雨」。〔箋註〕わしのひな。○〔裨雅〕「—有衆雛之〔箋註〕ひなどり。○〔爾〕「—鳲鳩」。〔郭〕「—、鳥之〔爾雅〕鷹の子と鳥のひなと。○〔禮記〕「宜稼—」。

鵻 タイ、タイ。土雞切 灰 ○鵻に同じ。

鵻 前條に同じ。

鵽 ゲキ、ギヤク。五歷切 錫

○一種の鳥、頭は雉に似て體に眞珠の點文あり、頸に嗉囊ありて巾に肉綬を蔵む、清明の天氣に日に向ひて之を擺ぐるに先づ項上に兩の翠角を出だし徐に項下の肉綬を舒ぶ、采色燦爛たり、まちめんてうからくんてう（綬鳥、吐綬、功實、錦囊、胖梳、眞珠雞。○埤雅「—綬鳥」。

○一種の小草。○〔詩〕「卬有旨—」。

鵽 コウ、ク。古送切 送

鳥食を讓る。

鵻 鵻に同じ。

十一畫

鷟 シ。脂利切 寘

○疾視猛烈なる鳥、他鳥をうちて餌となす鳥あらざり、鷂、鷻の類。○〔王逸〕「—鷙也、謂三能執二伏衆一」。

○疾視猛烈なるにいふ字、あらし、としはげし、だけし。○〔禮〕「—車衆」。

○うつ（擊）。○〔後漢〕「鴻武尊御レ衆放無—之師」。○〔莊〕「馬知介倪闉扼—之患」。○〔莊〕「—馬知介倪闉扼」。

鷟 チツ。勝栗切 質

○行ひの平かならざると。○〔莊〕「時諸侯—」。

○うたがふ（疑）。○〔管〕「下愈疑—而不二聽從一」。

鷟 セツ、之列 屑 チツ。勅賀 質 セチ、リ 切

チ。勝利切 質

鷙 チヨク、キチ。勵力切 職

撃—はやぶさ。

鷄 シヤウ、サウ。諸翼切 陽

—雉はぐひな、水鷄。

鷟 シ。脂利切 寘

○疾視猛烈なる鳥、他鳥をうちて餌となす鳥あらざり、鷂、鷻の類。○〔王逸〕「—鷙也、謂三能執二伏衆一」。

○疾視猛烈なるにいふ字、あらし、としはげし、だけし。○〔禮〕「—車衆」。

○うつ（擊）。○〔後漢〕「鴻武尊御レ衆放無—之師」。○〔莊〕「馬知介倪闉扼—之患」。

鷟 セツ、之列 屑 チツ。勅賀 質 セチ、リ 切

チ。勝利切 質

鷟 ヘキ。匹沼切 篠

鳥の毛色の變はるにいふ字。かはる。

鷟 ヘウ。撫招切 蕭

鳥の輕く飛ぶ貌にいふ語。

鷟 ソツ、ソチ。蘇骨切 月

鶻—はゝぶゆすかけばと。

鷟 キヨク、渠幽 尤 リウ。力救 宥 力求 尤 フウ。迷浮 ム。切 レウ。燒蕭 蕭 切

大いさ鴨雀ふなしうづらの如く色は鶉に似て其の鳴く聲高く觀多き一種の鳥、ひばり、告天鳥。○〔張協〕「丹穴之—」。

鷟 ヨウ、ユ。餘封切 冬

—梟は、形は鴨に似て足は鵝に似たる一種の鳥。○〔司馬相如〕「煩—」。

鷟 ロウ、落侯 尤 ル。力朱 虞 切

かり（野鵝）。

鷟 ル、ロ。龍主切 麌

鶻—はくわっこうどり（郭公）。

鷟 ヒツ、ヒチ。必吉切 質

—鵯は、鳥の名。

鷟 サン、昨廿 覃 サン、仕咸 咸 ソン。切 銜

仕懺切 咸

わし、鷲。

鷟 ケツ、コチ。居月切 月

王鳴鵠鳥みさご。○〔管〕「—鳥鼠—」。

鷟 ケツ、ケチ。古屑切 屑

みさご（鶚）。

鷟 ケイ、カイ。古禮切 薺

鶏—は、鳥の名。

鷟 シン。烏連切 先

鵜に似て碧色なる一種の鳥。

鷟 シヤウ、ザウ。市羊切 陽

鶏—は、鳥の名。

鷟 コウ、ク。丘侯切 宥

○鵁鶄、えびすすめ。○鴨の屬。

鷟 ショウ、シユ。書容切 冬

ふくろう（布穀）。

鷟 ガウ、ゴウ。五勞切 豪

不祥の鳥。○〔郭璞〕「鵄—鴞」。

鷟 ガウ、五到 号 ゴウ。切 號 ギウ、倪虬 尤 ゲウ。切

—魚は、さびのうを。

鷟 エウ。以沼 小 ゲウ。切 篠 ケウ、胡了 ゲウ。切

イ。羊水切 紙

雉鳴くなく。○〔詩〕「有二—雉鳴一」。

鷟 前條に同じ。

鷟 コウ、丘候 宥 ク。空谷 屋 切

鳥の卵。○〔韓愈〕「盤—飧二食一」。

鷟 アン、オン。烏含切 覃

—鵪は、ふなしうづら。

鷟 ケツ、ケチ。古屑切 屑

鵯に同じ。

鷟 エイ、アイ。一計切 霽

青黑色、あなぐろ。○〔周〕「影レ面—雄」。

鷟 オウ、烏侯 尤 イウ、於求 尤 切

かもめ、鷺。○〔李時珍〕「—者浮二水上一輕漾如レ鷗」。

〔增韻〕海上のかもめ。○〔爾雅翼〕「—一種灰白」。〔禽經〕「—一名知—」。〔禽經〕「—知—來有レ日」。〔禽經〕「打鼎といふに同じ、みさごに居るかもめ。○〔張衡〕「—鷖鳧鳳」。〔禽經〕「—鷖鳧鳳」。〔禽經〕「—鷖鳧鳳」。

鷟 ク、コ。劇于切 虞

水鳥。

鷟 ダン、度官 寒 セン。朱遄 先 切

鷟 ダン、那干 寒 カン。許旱 旱 切

○鳥。○人の姓。

鷟 ダン、ナン。乃旦切 翰

へだつ（阻）。

鷟 ケイ、カイ。古禮切 薺

鶏に同じ、赤鷺の屬。

鷟 エイ、アイ。烏雞切 霽

○鷺の屬、かもめ、全身蒼色にして好みて水上に浮び翠飛して鳴き潮に隨ひて往來す、別名は、信鷺、水鴨。○〔詩〕「鷺—在レ涇」。

○鳳凰の別名。○〔扈平〕「以乘レ—」。

〔字彙〕かもめのと。○〔埤雅〕「鳥好讀書故曰—」。

鷟 エイ、アイ。一計切 霽

青黑色、あなぐろ。○〔周〕「影レ面—雄」。

鷟 オウ、烏侯 尤 イウ、於求 尤 切

かもめ、鷺。○〔李時珍〕「—者浮二水上一輕漾如レ鷗」。

〔增韻〕海上のかもめ。○〔爾雅翼〕「—一種灰白」。〔禽經〕「—知—來有レ日」。〔禽經〕「打鼎といふに同じ、みさごに居るかもめ。○〔張衡〕「—鷖鳧鳳」。〔禽經〕「—鷖鳧鳳」。〔禽經〕「—鷖鳧鳳」。

鷟 ク、コ。劇于切 虞

水鳥。

鷟 ダン、度官 寒 セン。朱遄 先 切

鷟 ダン、那干 寒 カン。許旱 旱 切

○鳥。○人の姓。

鷟 ダン、ナン。乃旦切 翰

へだつ（阻）。

鷟 ヤク、キヤク。五歷切 錫

○一種の鳥、頭は雉に似て體に眞珠の點文あり、頸に嗉囊ありて巾に肉綬を蔵む、清明の天氣に日に向ひて之を擺ぐるに先づ項上に兩の翠角を出だし徐に項下の肉綬を舒ぶ、采色燦爛たり、まちめんてうからくんてう（綬鳥、吐綬、功實、錦囊、胖梳、眞珠雞。○埤雅「—綬鳥」。

○一種の小草。○〔詩〕「卬有旨—」。

鷟 ヘキ。匹沼切 篠

鳥の毛色の變はるにいふ字。かはる。

鷟 ヘウ。撫招切 蕭

鳥の輕く飛ぶ貌にいふ語。

鷟 ソツ、ソチ。蘇骨切 月

鶻—はゝぶゆすかけばと。

鷟 キヨク、渠幽 尤 リウ。力救 宥 力求 尤 フウ。迷浮 ム。切 レウ。燒蕭 蕭 切

大いさ鴨雀ふなしうづらの如く色は鶉に似て其の鳴く聲高く觀多き一種の鳥、ひばり、告天鳥。○〔張協〕「丹穴之—」。

鷟 ヨウ、ユ。餘封切 冬

—梟は、形は鴨に似て足は鵝に似たる一種の鳥。○〔司馬相如〕「煩—」。

鷟 ロウ、落侯 尤 ル。力朱 虞 切

かり（野鵝）。

鷟 ル、ロ。龍主切 麌

鶻—はくわっこうどり（郭公）。

鷟 ヒツ、ヒチ。必吉切 質

—鵯は、鳥の名。

鷟 サン、昨廿 覃 サン、仕咸 咸 ソン。切 銜

仕懺切 咸

わし、鷲。

鷟 ケツ、コチ。居月切 月

王鳴鵠鳥みさご。○〔管〕「—鳥鼠—」。

鷟 ケツ、ケチ。古屑切 屑

みさご（鶚）。

鷟 ケイ、カイ。古禮切 薺

鶏—は、鳥の名。

鷟 シン。烏連切 先

鵜に似て碧色なる一種の鳥。

鷟 シヤウ、ザウ。市羊切 陽

鶏—は、鳥の名。

鷟 コウ、ク。丘侯切 宥

○鵁鶄、えびすすめ。○鴨の屬。

鷟 ショウ、シユ。書容切 冬

ふくろう（布穀）。

鷟 ガウ、ゴウ。五勞切 豪

不祥の鳥。○〔郭璞〕「鵄—鴞」。

鷟 ガウ、五到 号 ゴウ。切 號 ギウ、倪虬 尤 ゲウ。切 ク。切

—魚は、さびのうを。

鷟 エウ。以沼 小 ゲウ。切 篠 ケウ、胡了 ゲウ。切

イ。羊水切 紙

雉鳴くなく。○〔詩〕「有二—雉鳴一」。

鷟 前條に同じ。

鷟 コウ、丘候 宥 ク。空谷 屋 切

鳥の卵。○〔韓愈〕「盤—飧二食一」。

鷟 アン、オン。烏含切 覃

—鵪は、ふなしうづら。

鷟 ケツ、ケチ。古屑切 屑

鵯に同じ。

鷟 エイ、アイ。一計切 霽

青黑色、あなぐろ。○〔周〕「影レ面—雄」。

鷟 オウ、烏侯 尤 イウ、於求 尤 切

かもめ、鷺。○〔李時珍〕「—者浮二水上一輕漾如レ鷗」。

〔增韻〕海上のかもめ。○〔爾雅翼〕「—一種灰白」。〔禽經〕「—知—來有レ日」。〔禽經〕「打鼎といふに同じ、みさごに居るかもめ。○〔張衡〕「—鷖鳧鳳」。〔禽經〕「—鷖鳧鳳」。〔禽經〕「—鷖鳧鳳」。

鷟 ク、コ。劇于切 虞

水鳥。

鷟 ダン、度官 寒 セン。朱遄 先 切

鷟 ダン、那干 寒 カン。許旱 旱 切

○鳥。○人の姓。

鷟 ダン、ナン。乃旦切 翰

へだつ（阻）。

鷟 はいだか、鷂に似て灰白色。

鷟 タン、ダン。徒干切 寒

雌ぐろ。

鷟 タン、ダン。杜案切 翰

—鵪は、ほとゝぎす（子規）。○〔揚雄〕「惡—、鵯之將レ鳴兌」。

鷟 テイ、ダイ。特計切 霽

ふくろう（布穀）。

鷟 シ。新茲切 支

蟹の頭上の毛さき。

鷟 ショ、ソ。商居切 魚

あひろ（鷺）。

鷟 鷺に同じ。

鷟 セウ 卽消切 蕭

—鳴、また一鵙は、さゞき、みそさゞい、たくみどり、桃蟲、巧雀、女匠、鷦雀、巢於蓽苞。○〔說苑〕「—鵙巧女蔵雀黃胆雀。

鷟 イ。乙賣切 未

鵙鷯、うのとり。

鷟 鵙の本字。

鷟 クワ、戶花 麻 胡化 禡 ゲ。切

ふくろう。

鷟 トウ、ダ。徒紅切 東

鶏の字を見よ。

【鵶】アク。遏各切〔藥〕 水——鳥。

【鸆】グ、ゴ。牛具切〔遇〕 遇俱切〔虞〕 ——鼠は、鳥の名。

【〓】シヤウ、ザウ。似兩切〔養〕 ——鳴は鶺鴒の別名。

【〓】鷩に同じ。

【鷩】ヘツ、ヘチ。并列切〔屑〕 ヘイ、ヘ。必袂切〔霽〕 ヒ。必至切〔寘〕 山雞に似て小さき一種の鳥、冠背の毛は黄にして腹下は赤く頸は綠にて鮮明なり、きんけいてう、赤雞、錦雞、鵕鸃。○〔張衡〕「飛-晃-樓-—」。

【鷫】シユク、ソク。息逐切〔屋〕 鷫の字を見よ。

【鷬】クワウ、ワウ。胡光切〔陽〕 うぐひす。

【〓】コウ、ク。呼侯切〔尤〕 青色にして鶺鴒に似たる一種の鳥。

【〓】シヨウ。詩證切〔徑〕 きくいたゞき、やつがしら（戴勝）。

【〓】レキ、リヤク。郎擊切〔錫〕 鷹に似て大いなる一種の鳥。

【鷣】シン。徐林切〔侵〕

〓鶀、たうまる。

【〓】キ。去其切〔支〕 〓——は、みゝづく（鵂鶹）。

【〓】ダウ、チウ。女交切〔肴〕 〓——は、てうせんうぐひす。

【鷮】ケウ。擧喬切〔蕭〕 雉の屬、おほやまどり、尾甚だ長く走りつゝ鳴く。○〔詩〕「有レ集維——」。

【〓】レウ。洛蕭切〔蕭〕 鷯の字を見よ。

【〓】レウ。力照切〔嘯〕 ——鶉は、うづら。

【鷰】燕に同じ。

【鷎】カウ。古勞切〔豪〕 コウ。古老切〔皓〕 ——鳴は、おゆすかけばさ（鶏-鳩）。

【鷲】シウ、ジユ。疾僦切〔宥〕 羽族中にて最も鷙き一種の鳥、わし。○〔本草〕「——、悍多レ力、盤二旋空中一、無二細不一レ覩」。

【鷴】カン、ゲン。戶閒切〔刪〕 白鷴、しらきじ、形は山雞に似て質白く章黑く尾の長さ三四尺あり、距さ背さは純丹にてまゝ背黑のものあり。○〔宋〕「以二拄-杖一逐レ——」。

【〓】俗の鷳の字。

【〓】シユン。輸閏切〔震〕 〓——は鳥の名。

【〓】イ。以追切〔支〕 鳥飛ぶ、とぶ。

【〓】ト、ヅ。同都切〔虞〕 〓——は、わかたか。

【〓】シユク、ソク。之六切〔屋〕 おゆすかけばさ。

【〓】シ。息移切〔支〕 みやまがらす、ばしぶさがらす（鴉-鳥）。

【鷶】バイ、メ。莫蟹切〔蟹〕 ——鶆は、ほとゝぎす（子規）。

【〓】キヨ、ゴ。强魚切〔魚〕 〓——は、せきれい、にはくなぶり。

【鷷】シユン、ジユン。將倫切〔眞〕 四方の雉の名。

【〓】ソン、ゾン。徂昆切〔元〕 鷷に通じ用ふ、うづくまる。

【鷸】イツ、イチ。餘律切〔質〕 ㊀鷸の如き一種の鳥、まぎ、色蒼く喙長し。○〔戰〕「——蚌相持」。㊁翠鳥の別名、かはせみ。○〔左〕「好二聚——冠一」。㊂疾く飛ぶ貌にいふ字。○〔木華〕「——如二驚-鳧之失一レ侶」。

【〓】シユツ、ジユチ。食律切〔質〕

はしたか、はいだか（鷂）。

【鷻】タン、ダン。度官切〔寒〕 わし（鵰）、一說に、とび（鳶）。○〔詩〕「非レ——非レ鳶」。

【鷹】ヨウ、オウ。於陵切〔蒸〕 獵に使用する一種の鷙鳥、あらとり、たか、題肩、征鳥、爽鳩等の異名あり。○〔詩〕「時維——揚」。

（習鷹）鳥の名、たか。○〔韓〕「——要二于鞲上一」。○〔管〕「時有二——一」。
（野鷹）人に飼ひ馴らされざるたか、のたか。
（蒼鷹）蒼色のたか。○〔杜甫〕「——未レ離レ眼」。
（名鷹）すぐれたるたかのたか。○〔南〕「多獲——一快犬一」。
（虎鷹）虎豹の類の猛獸をつかむと稱するおほいなるたか。○〔齊志〕「——〔illegible〕」。
（新鷹）一歲のたか。○〔晉志〕「一歲日二——一」。
（鶙鷹）二歲のたか。○〔晉志〕「二歲日二——一」。
（鵃鷹）鶙鷹ともいふ、三歲のたか。○〔晉志〕「三歲日二——一」。
（角鷹）おほたか。○〔本草〕「鷹以二頭上有一毛角一、故日二——一」。
（雀鷹）たかの異名。○〔韓〕「〔illegible〕人國之攀征一、戒鷹之膂肩一、賊鷹之——一」。
（牽鷹）はやぶさ。○〔李尤〕「——鷙レ爪」。
（奇鷹）めづらしきたか。○〔謝朓〕「南山有二——一」。「立レ擁秋一」。
（鵝鷹）つよきたか。○〔梅堯臣〕「——不二高翔一」。
（鷹鷹）くまたか。
（魚鷹）みさごと稱する鳥の異名。○〔元〕「假有二——一、擇攫食之一」。

【鷺】ロ、ル。洛故切〔遇〕 ㊀一種の水鳥、しらさぎ、さぎ、林に樓み水に食らひ羣飛して序を成す、喙脚長く毛色白くして雪の如し、頭背に皆長き綸毛あり、別名は絲禽、雪

玉、父、淺水に歩み自ら低昂するさまの舂くが如く鋤くが如き狀なるより舂鋤さもいふ。○〔禽經〕「—飛則露」。㊁古昔舞をなす者の持ちて指麾するに用ひしもの、さぎの羽にてつくりしさいふ。○〔詩〕「振-々——」。
（鷺鷥）そらとぶさぎ。○〔杜甫〕「浴-鳧——、晚-飛-」。
（白鷺）前に同じ。○〔隋〕「叉-頭——于其上一」。
（春鷺）しらさぎ。○〔李嶠〕「——銜-鱗左-右來」。
（眠鷺）睡鷺といふに同じ、ねむりたるさぎ。○〔皮日休〕「細-雨-闘-珊——-睡」。

【〓】ホン、ボン。博昆切〔元〕 フン、ボン。符分切〔文〕 鳥の名。

【〓】ホク、ボク。蒲沃切〔沃〕 ——鶡は、鳥の名。

【〓】ホク、ボク。普木切〔屋〕 善く占ふさいふ一種の鳥。

【〓】鵰の本字。

【〓】〓に同じ。

【鵵】ト、ツ。通路切〔遇〕 毛角ある一種の鳥、このはづく、みゝづく。

【〓】コウ、ク。苦侯切〔宥〕 ひな（鷇）。

【〓】シヨウ、シユ。書容切〔冬〕 〓——は、ふゝどり。

【〓】〓に同じ。

十三畫

【鷽】アク、オク。於角切〔覺〕 鵲に似て文彩ある一種の鳥、尾長く嘴さ脚と赤し、さんじやく、たながごり。○〔爾〕「——山鵲」。

【〓】カク、ゴク。胡覺切〔覺〕 ヨク、オク。烏酷切〔沃〕

【〓】クワツ、ガチ。戶八切〔黠〕 小鳩。○〔莊〕「蜩與二——鳩一笑レ之」。

【〓】ドウ、ノウ。女冬切〔冬〕 ダウ、ノウ。濃江切〔江〕 ひしくひがん（鴻）。

【〓】アツ、エチ。乙鎋切〔黠〕 カツ、ケツ。午鎋切〔黠〕 カイ。居太切〔泰〕 〓——は、伯勞（もず）に似て小さき一種の鳥。

【鸰】レイ、リヤウ。郎丁切〔青〕 鶺鴒の別名、一說に、脊鴒の別名。

【鶹】リウ、ル。力求切〔尤〕 ——鶹は、むさゝび（飛鼯）。

【鷾】イ。於記切〔寘〕 ——鸍は、つばめ（燕）。○〔莊〕「莫レ知二於——鸍一」。

【〓】カ、ケ。𡨴雅切〔馬〕 鷹の屬。

【〓】キ。居爲切〔支〕 子——は、ほとゝぎす。○〔揚雄〕「〓-〓子——呼焉」。

【鷿】ヘキ、ヒヤク。普擊切〔錫〕 ハク、ヒヤク。博厄切〔陌〕 鷿の字の條を見よ。

【鸀】シヨク、ゾク。殊玉切〔沃〕 タク、ドク。直角切〔覺〕 一種の山鳥。

【〓】トク、ドク。徒谷切〔屋〕 ——鶗は、さやつきどり。

【〓】シヨク、ゾク。樞玉切〔沃〕 ㊀山鳥の別種。㊁——鵰は、狀鴨の如くにして大いなる一種の鳥、長頸赤目斑背にして毛は紫紺色なりさいふ。

【〓】キ、ギ。渠惟切〔支〕 小鳩。

【鸁】ラ。落戈切〔歌〕 クワ。魯果切〔哿〕 ㊀果——は、みそさゞい（桑飛）。㊁須——は、にほどり（䴌鷉）。

【鸂】ケイ、カイ。苦兮切〔齊〕 ——鶒は、なしどり。○〔埤雅〕「——鶒五色、尾如二船舵一」。

【鸃】ギ。魚羈切〔支〕 鵕——は、きんけいてう（鷩雉）。

【〓】シヨ、ソ。士魚切〔魚〕 〓——は、まらさぎ。

【鹮】クワン、ゲン。胡關切〔刪〕 セン、ゼン。旬宣切〔先〕 ——目は、ほしごゐさぎ、大さ鷺の如くにて尾短かく目深し、目の旁の毛長くして旋る。○〔史〕「鴻-鶃——目」。

【〓】ケン、コン。許元切〔元〕 鐃り飛ぶ、さぶ。○〔揚雄〕「朱-鳥——〓」。

【〓】ケキ、キヤク。古歷切〔錫〕 ケウ。古弔切〔嘯〕 キヤウ。堅堯切〔蕭〕 わかたか（鷂-鷹）。○〔酉陽雜俎〕「——色黄、一變爲二青鶴一」。

【〓】クワ。古禾切〔歌〕 ——鷹は、たくみどり。

【鸅】タク、ザヤク。場伯切〔陌〕 ㊀鸅——は、がらんてう。㊁——鸅は、みそごゐ。

【鸆】グ、ゴ。遇俱切〔虞〕 鸆——は、みぞごゐさぎ、一名は、ひのくちまもり（姻-澤）。

【〓】俗の鸛の字。

【鸇】セン。諸延切〔先〕 ケン。稽延切 あらさり、はやぶさ（晨-風）。○〔陸機〕「——似レ鷂黄-色、燕-頷-句-喙、嚮レ風搖レ翅、乃因レ風急-疾二擊-鳩-鴿-燕-雀一食レ之」。

【〓】ゲフ、ゴフ。魚怯切〔葉〕

人の吉凶を知るといふ一種の鳥。

鸏 ヤウ。與章切 陽 みさごうをたか（白鷹）。

鷗 鷺に同じ。○〔樊宗師〕「提―」

鷺 コウ、ク。許候切 宥 ―鷗は、かも（野鴨）。

鷖 アイ、奴丁切 靑 乃定切 徑 ニヤウ。切 ふなしうづらのこ（鶉子）。

鷞 セイ、シヤウ。杳盈切 庚 せきれい（鶺鴒）。

鷸 シ。式支切 支 ミ。切 ビ、亡支切 ―鴨に似て小さき鳥、たかべ、こがも、尾長く背の上に文あり、沈鳧、水鴨。

鷸 ボウ、ム。莫鳳切 東 くそせび。

鷸 鷸に同じ。

鷾 ヒン、ビン。紕民切 眞 飛ぶ貌にいふ字。

鷿 アウ、ヤウ。汗盍切 庚 黃鷿、うぐひす、てうせんうぐひす。○〔倉頡〕「―鳴喚々」

鷽 ボウ、モウ。莫紅切 東 水鳥の名。○水鳥の羽の未だ毛を生ぜざるもの。

鸐 ―鸐は、九眞交趾より出づる一種の鳥、ほうでん、大いさ孔雀の如し、嘴の長さ尺許あり。○〔笠眞羅浮山疏〕「―鸐不食魚止喫二木葉一」。

鸐 ―鸐は、くわっこうどり（郭・公）。

鸐 コク。古謔切 屋 ふくろう、布穀。

鸐 チウ、ヂユ。直由切 尤 南方の雉の名。○〔淮〕「貝帶鸐―」。

鸐 タウ、ドウ。徒刀切 豪 ―河は、がらんてう。

鸐 テキ、チヤク。亭歷切 靑 タク、ドク。直角切 覺 山蜮、やまどり、即ち鵁の小さきもの。○〔李時珍〕「居二山林一」。

鸑 ガク、ゴク。五角切 覺 ―鸑は、鳳の屬神鳥。○〔張揖〕「鳴―改レ觀」。

鸑 ヨ。以諸切 魚 はしぶと（鷹・居、やまがらす（鵲・烏）。○〔詩〕「弁彼―斯」。

鸒 ヨウ、ユ。影雄切 東 ―鸒は飛び起つ貌にいふ語。

鸛 ルイ。力軌切 支 ライ、盧同切 灰 きじばと（鳩）。

鸛 リウ、ル。力求切 尤 警卵、あひるのたまご。

鸛 ホク、溜水 屋 ハク、北角切 覺 ボク。切 鷸に似たる一種の水鳥、頸短く臆翅紫白にして背上綠色なり。

鸛 ラク。盧各切 鐸 赤き首の鷺。

鸛 セツ、セチ。子結切 屑 小さき鶺、ここにはとり、ちやぼ。

鸞 シン。職深切 侵 ―鸞は、魚虎（かはせみ）に似て黑色なる一種の水鳥。

鸞 ベツ、メチ。莫結切 屑 みそさゞき、（工雀）、一說に、たくみどり（巧婦）。

鸞 クワウ。古晃切 養 ―鸞は、鳳の屬。

鸞 ゲツ、ゲチ。魚列切 屑 鷽―は、兎の屬。

鸞 ラフ、ロフ。盧晝切 宥 鸞に同じ。

鸞 ルイ。力軌切 支 ライ、盧同切 灰 狀は、蝙蝠に似て大いさ鵲の如き一種の動物、肉翅あれどもたゞ飛び下り能ふのみ、もみ、むささび、のぶすま、もゝんぐわ飛生、鼯鼠。○〔李時珍〕「飛不レ能レ上易レ主二禍盜一故謂二之―一」。

鸞 ロ、洛乎 虞 リヨ、ル。切 沒如 魚 猶の字の條を見よ。

鸞 クワク、ワク。光籰切 藥 ―公は、くわっこうどり。

鸞 鸛に同じ。○〔史〕「鸞―公好レ―」。

鸞 鶴に同じ。

鸞 ボウ、モウ。亡互切 遇 鵡―は、くそせび。

鸞 リヨウ、リユ。力鐘切 冬 ロウ、ル。盧紅切 東 かも（鴨）。○〔史〕「羅―也」。

鸞 カク、ギヤク。下革切 麥 鸞―は、鳥の名。

鸞 アン、オン。烏含切 覃

―鸞は、ふなしうづら。

十七畫

鸞 コウ。呼宏切 蒸 水の名。

鸞 俗の鵁の字。○〔倉頡〕「―飛則霜」。

鸞 ヤク。以灼切 藥 ひばり（鸞）。

鸞 アウ、ヤウ。烏皓切 皓 ―鸞は、あうむ。○〔禮〕「―鳴能言不レ離二飛鳥一」。○一種の螺、あうむがひ。○〔郭璞〕「―螺旋螄」。

十八畫

鸞 ケイ、ゲ。戶圭切 齊 子―は、ほととぎす。

鸞 クワン。古玩切 翰 呼官切 寒 鵁の屬、鳴かずしてたゞ喙を擊ち聲をなす、こうのとり、こう、こうづる、ふりぐろ、貧窶、黑尻、背黃、卓礎。○〔詩〕「鳴二于垤一」。

鸞 鸛に同じ。○〔公羊〕「―鵲來巢」。

鸞 鵲に同じ。○〔春秋〕「―鵲來巢」。

鸞 鵲に同じ。○〔書傳〕「其地變爲レ―」。

鸞 ケン、コン。許運切 問 雉鳥。

鹵部

鹵 ロ、ル。郎古切 姥 ㊀鹹澤。鹹地。鹹土。ふほさは、ふほち、ふほつち。○〔書傳〕「其地變爲レ―」。㊁四方の鹹地。○〔班固〕「經二領一―」。㊂天然の鹽分鹹氣、ふほ、ふほけ。○〔漢註〕「鹹―之田」。㊃土地に草木を生ぜざると。○〔唐〕「地瘠―」。㊄不毛の地、やせち、あれち。○〔唐〕「遠在二荒―一」。

鹵 ロ、ル。龍都切 虞 鑪に同じ。○〔道德〕「牖―天地之根」。

十一畫

鹽 鹵に同じ。

四畫

鹹 カン。各期切 覃 鹽澤、ふほさは。

鹺 キヨウ、コウ。居陵切 蒸 ㊀にがし、苦。㊁あはれむ、哀。

五畫

鹻 タン、テン。陟陷切 豏 鹹多し、ふほからし。

鹻 タン、テン。竹咸切 咸 ㊀かたる、かみり。○〔讀雅〕「―談也」。㊁檜に通じ用ふ。たて。○〔漢〕「流血漂レ―」。㊂鑊に通ず用ふ、かすむ。○〔漢〕「毋レ―掠一」。

〔鹻原〕ふたつ、鹹土。○〔易〕「其於地也爲―」。

〔鹻原〕前に同じ。○〔史〕「厥田―」。

〔鹻原〕前に同じ。○〔史〕「瀉―」。

〔鹻原〕塩陵にして五穀を生ぜざる土地。○〔左〕「―而不殖」。

〔鹻原〕さばの名。○〔史〕「―」。

〔土原〕草の名、かんあふひの異名。○〔爾〕「杜―」。

〔砂原〕ふたばを含みたる地。○〔北〕「地多―少水草」。

〔鹻原〕西方鹹地のふたば、又、ふたばけ。○〔史〕「山高―」。

〔冗原〕遠方のふれもの。○〔爾〕「臣節在―」。

〔羽原〕かろんじしるつかふ。○〔荀〕「皆手鄙禾野、而―之」。

鹻 イ。於宜切 支 かも（鳧）。

十九畫

鹽 リ。呂支切 支 レイ、郎題切 齊 ライ。切 黃―は、うぐひす、倉庚。○〔高誘外書〕「春―鳴二蠶桑一」。○〔爾雅〕「―黃―」。

鹽 ラン。落官切 寒 ㊀鳳凰の族、雞身赤毛、色五采を備へ聲五音に中たるもの、一說に、鳳の青色の多きもの。○〔李賀〕「銅鏡立二青―一」。㊁すゞ（鈴）。○〔詩〕「執二其―一刀一」。㊂特に、車駕の鑣につけたる鈴。○〔左〕「鍚―和鈴」。

廿二畫

鹽 ケン、ゴン。巨員切 先 鹽鹵、ひえごり。

鹵部

鹵 ロ、ル。郎古切 姥 ㊀鹹澤。鹹地。鹹土。ふほさは、ふほち、ふほつち。○〔書傳〕「其地變爲レ―」。㊁四方の鹹地。○〔班固〕「經二領一―」。㊂天然の鹽分鹹氣、ふほ、ふほけ。○〔漢註〕「鹹―之田」。㊃土地に草木を生ぜざると。○〔唐〕「地瘠―」。㊄不毛の地、やせち、あれち。○〔唐〕「遠在二荒―一」。

鹵 鹵に同じ。

十一畫

鹽 鹵に同じ。

四畫

鹹 カン。各期切 覃 鹽澤、ふほさは。

鹺 キヨウ、コウ。居陵切 蒸 ㊀にがし、苦。㊁あはれむ、哀。

五畫

鹻 タン、テン。陟陷切 豏 鹹多し、ふほからし。

鹻 タン、テン。竹咸切 咸 味なし、あはし。

鹼 カン、ケン。古甸切 霰 鹹味、ふほけ。

鹻 カン、ケン。古甸切 霰 ―鹻は、味なきと。

鹻 カン、ケン。居咸切 咸 古斬切 豏 ふほはゆし（鹹）。

鹺 タン、トン。吐雷切 灰 味なし、あはし。

鹼 シヤウ、サウ。爵長切 陽 ふほづけ（鹹漬）。

鹽 鹽に同じ。

九畫

鹼 カン、ケン。胡朗切 豏 古斬切 豏 ㊀鹹地。鹹土。ふほさは、ふほち、ふほつち。○〔書傳〕「其地變爲レ―」。㊁四方の鹹地。○〔班固〕「經二領一―」。㊂天然の鹽分鹹氣、ふほ、ふほけ。○〔漢註〕「鹹―之田」。㊃土地に草木を生ぜざると。○〔唐〕「地瘠―」。㊄不毛の地、やせち、あれち。○〔唐〕「遠在二荒―一」。

㊀鹽味、しほけ。○〔周〕「以レ—養レ脈」。㊁しほけあり、しほはゆし、又、しほけ多し、にがし。○〔素問〕「鹽之味—者」。

【鹵奏】ソウ、ス。倉癸切 しほ、（鹽）。

【鹵甚】カン、コン。苦紺切 鹹味厚し、しほはゆし、にがし。

【鹵扁】ヘン、ベン。薄泫切 しほ、（鹽）。

十畫

【鹵鬼】クワイ、エ。乎乖切 鹺に同じ。

【鹵鬼】アイ、エ。乙皆切 しほ、（鹽）。

【盬】コ、ク。公土切 鹽に同じ、しほ。

【鹺】サ、昨何切 ザ。切 シ、仕知切 ジ。切 鹽味多し、しほはゆし、にがし。○〔禮、註〕「大鹹若レ—」。

【鹻】カン、ケン。古斬切 鹼著せる鹵、しほ。

【鹵昷】ヲン。烏渾切 しほ、（鹽）。

十二畫

【鹵敢】カン、古覽切 コン。口敢切 味太だ醎し、にがし。

【鹵最】サイ。楚大切 ㊀ひしほ、（醬）。㊁しほ、（鹽）。

【鹵矞】キツ、キチ。巨聿切 ひしほ、（醬）。

十三畫

【鹼】ゲン、ゴン。魚占切 しほ、（鹵）。

【鹼】セン、七廉切 ソン。切 カン、古斬切 ケン。切 ㊀鹽の和したる水、しほみづ。㊁灰を漉したる水、あく。

【鹵感】カン、コン。古禫切 しほけ、（鹹味）。

【鹵感】カン、コン。古覽切 ㊀苦し。㊁味なし。

【鹽】エン、ヨン。余廉切 天然に結晶し又は人工によりて結晶されたる白色顆粒の粉末、特に海水を煮てつくる多し、しほ ○〔周〕「掌二—之政令二」。

〔形鹽〕しほをもりかためて虎などの形を作りたるもの。○〔左〕「形鹽—…」。〔苦鹽〕山西の鹽池よりいづるしほにてつぶをなして其の味尤も鹹苦なりといふ。○〔周〕「祭祀共其—…散鹽二」。〔散鹽〕末鹽のとにて海水を煮てなるもの。○〔本草〕「—…即末鹽」。〔顆鹽〕つぶをなしたるしほ即ち苦鹽のと。○〔名醫志〕「山西解州鹽池、解帝風、水化而成顆、鹽之—…」。〔飴鹽〕飴を調和したるしほ、一說には戎地よりいづるしほにて甘美の味あるものともいふ。○〔周〕「王之膳羞共—…」。〔戎鹽〕蜜爽のしほ。○〔本草〕「—…味苦臭、產海・湖水澄・山石、…北海青、南海赤」。〔食鹽〕食鹽と海鹽と。○〔周〕「幽州其利—…」。〔米鹽〕こめとしほと、又、細碎なる事にもいふ。○〔史〕「其拾—…」。〔海鹽〕海水を煮てつくれるしほ。○〔史〕「吳東有海鹽—…之饒」。〔石鹽〕（い）石の如くかたまりたるしほ。○〔南〕「出隴洮酒—…」。（ろ）礬石の異名。○〔本草〕「礬石一名—…」。（は）木の名。○〔益部〕「備有—…木」。〔鹽鹽〕しほのと。○〔史〕「椅頓用—…起」。〔鹽鹽〕牛の廟膝の上。○〔爾雅〕「—…」。

【鹽】エン。以瞻切 ㊀しほに漬す、つく。○〔禮〕「屑二桂與レ薑、以灑二諸上二而—レ之」。㊁豔に通じ用ふ。○〔禮〕「—二諸利二」。㊂歌曲、ふし。○〔古樂府〕「昔々—」、「神雀—」。

十四畫

【鹵齊】セイ、ザイ。才詣切 しほはゆし、（鹹）。

【鹵翟】テキ、チャク。亭歷切 しほはゆし、（鹹）。

【鹵監】カン、コン。貫暫切 しほはゆし、（鹹）。

【鹵監】タン、トン。吐濫切 鹵—は、味なし。

十五畫

【鹵襄】クワイ、エ。戸乖切 鹵—。

鹿部

【鹿】ロク。盧谷切 ㊀古昔は仙獸とした一種の獸、牡は枝多き雙角を有す、か、しか、さをしか。○〔詩〕「呦々—鳴」。㊁天下を掌握する權位の稱、即ち英雄の驅逐して獲んと爭ふ目的物。○〔晉〕「人希二逐レ—之圖二」。㊂麓に通じ用ふ、ふもと。○〔國〕「瞻二彼旱—二」。㊃綠又は祿に通じ用ふ。○〔漢〕「——未レ有二奇・節二」。㊄方形の米廩、こめぐら。○〔國〕「囷—空虛」。

〔牝鹿〕めじか。○〔詩〕「——伏伏」。〔御鹿〕官名。○〔左〕「山林之木、——守之」。〔野鹿〕野生のしか。○〔莊〕「下如——」。〔蕉鹿〕列子に鹿を斃して隍中に藏し蕉葉を以て之を覆ひ其の藏したる所を忘れたる故事あり、それより夢に夢中の事なりと思ひたる故事をもいふ。○〔黄師泰〕「世事同——」。〔逐鹿〕鹿島といふに同じ、物におそろきたるしか。○〔劉禹錫〕「——詩鵝族」。〔奔鹿〕疾くはしるしか。○〔管〕「走及——」。〔走鹿〕前に同じ。○〔杜甫〕「——無友麋」。〔鹿鹿〕鹿の子、こじか。○〔白虎通〕「古以——」。〔駭鹿〕一に指馬に作る、馬の瞬。○〔晉書〕「——馬瞬」。

二畫

【鹿匕】イウ、ウ。於糾切 牝鹿、めじか。○〔詩〕「——鹿麌々」。

【麁】俗の麤の字。○〔公羊〕「用意尚—」。

〔麁麁〕こまかならぬと、あらあらと。○〔晉〕「布帛——」。〔麁惡〕あらくしくしてこまやかならず。○〔後漢〕「被衣——」。〔麁細〕きめあらきぬの衣服。○〔晉書〕「——之中」。〔麁々〕あらくしくして細密ならず。○〔蘇軾〕「——布粥新宋」。〔麁疏〕おほまかあらくしくして微細ならず。○〔沈周〕「風雨漂不密」「——」。

【麂】キ。居履切 麞より小さくして長牙ある一種の獸。○〔本草、註〕「—麞屬」。

【鹿几】前條に同じ。

三畫

【鹿乞】シ、詳里切 ジ。切 キ。擧履切 二歲の鹿。○〔揚雄〕「麞—不レ行」。

【鹿丸】クワン、グワン。胡官切 一歲の鹿。

四畫

【鹿夭】アウ、烏晧切 オウ。切 エウ。於兆切 麛の子。○〔國〕「長二麞—二」。

【麃】ハウ、ベウ。薄交切 麞の屬、おほしか。○〔史〕「若レ—然」。

【麃】ヘウ。悲嬌切 ㊀武き貌にいふ字。○〔詩〕「駟介——」。㊁くさぎる（耘）。○〔詩〕「縣・縣其—」。

【麃】ヘウ、ベウ。滂表切 鳥の毛色變はる、かはる。○〔禮〕「鳥—色而沙鳴」。

【麃】ヘウ、蒲沼切 ベウ。切 蒲嬌切 きいちご、（莓）。○〔爾〕「藨—」。

【鹿斤】麒に同じ。

【鹿比】ヒ、ビ。房脂切 鹿に似たる獸。

【鹿殳】サツ、サチ。桑葛切 鹿の貌にいふ字。

【麄】俗の麤の字。

五畫

【麅】麃に同じ。

【麅】ハウ、ベウ。蒲交切 麃に同じ、鹿の屬。

【麆】ショ、秋據切 ソ。切 千余切 麛の子、くじかの子。

【麇】キン、居筠切 コン。切 クン、拘云切 コン。切 ㊀のろ、（麞）。○〔左〕「有二介—二焉」。㊁國の名。○〔左〕「—子逃歸」。㊂地の名。○〔左〕「吳・師居レ—」。

【麇】クン、ゴン。渠云切 むらがる（羣）。○〔左〕「求二諸侯—至」。

【麇】クン、コン。丘粉切 束縛す、まばる。○〔左〕「雖無レ男—レ之」。

【鹿至】サウ、シヤウ。所庚切 ㊀鹿に似たる獸。㊁大いさ兎の如き獸の名。㊂二歲の鹿。

【鹿吕】麚に同じ、なじか。○〔中山王〕「—宗驥・旅」。

【鹿本】ホン、ボン。部本切 牝麋、めじか。

【麈】シュ、ス。之庾切 麋の屬、大いなる鹿、おほしか、羣鹿之に從ひ其の尾の轉ずるを見て往くと傳ふ、よりて晉以後より清談なす人など其の尾を柄にすげて執り揮へり、之を「しゆび」「ほっす」といふ。○〔司馬相如〕「沈牛—麋」。

〔玉麈〕玉を以て柄を飾りたる拂子。○〔蘇軾〕「談鋒如雪——」。〔僧麈〕僧の用ふる拂子。○〔蘇軾〕「清談——」。〔談麈〕清談するに執る拂子。○〔黃庭堅〕「郷來捉——」。

六畫

【麐】クワン、グワン。胡官切 鹿に似たる一種の獸。

【麕】イン。於眞切 牝鹿、めじか。

【鹿圭】ケイ、ケ。古攜切 鹿の屬。

【鹿旨】キ。居履切 大麋、大鹿のろ、なれしか。○〔山海經〕「其獸多二—」。

【麉】ケン、古賢切 ケン。倪堅切 ケイ、詰戦切 キヤウ。詰定切 力の卓絶したる鹿。○〔爾〕「鹿其跡速、絕有レ力—」。

【麁】前條に同じ。

【鹿冥】ビ、武移切 ミ。切 ベイ、忙經切 ミヤウ。切 縣の名。○〔漢〕「交趾・郡—泠縣」。

【麋】ビ、ミ。武悲切 ㊀鹿の屬にて水牛に似たるもの、なれしか。○〔周〕「冬獻レ—」。㊁ほとり、みぎは、（湄）。○〔詩〕「居二河之—二」。㊂眉に同じ、まゆ。○〔荀〕「伊尹之狀無二鬚—二」。㊃靡に通じ用ふ。○〔楚辭〕「秋・蘭兮—蕪」。

〔山麋〕やまにすむなれしか。○〔陸陶〕「——獐、如牛朝堂」。〔巨麋〕おほいなるなれしか。○〔獨孤及〕「——」。〔野麋〕野生のなれしか。○〔賈島〕「別有——人不レ見」。

【鹿粦】リン、力近切 ロン。切 リン。力珍切 麒麟、きりん。

七畫

【麌】ゴ、グ。虞矩切 ギヨ、ゴ。牛居切 五乎切 ㊀牡鹿、牡麈、なじか、なのろ。○〔歐陽〕「道二麌—顯二其子二」。

㊂群れ聚まる貌にいふ字。○〔詩〕「麀鹿——」。

【䴦】サン。蘇官切 [寒] 獅子の別名。

【麍】リウ、ル。力求切 [尤] 鹿の屬。

【麎】シン、ジン。植鄰切 [眞] 是忍切 [軫] シ、ジ。常支切 [支] 牝麋、めのなれしか。

【麑】ゲイ、ギヤウ。五剄切 [齊] 鹿。

【麏】キン、クン。居筠切 [眞] 鹿の屬。

【[鹿廷]】テイ、チヤウ。他頂切 [迥] 鹿の走る貌にいふ字。

【[鹿孝]】カウ、ゲウ。下巧切 [巧] 瑞獸。

【麐】麟に同じ。

【麆】ショ、ソ。牀據切 [御] 鹿の子、かのこ。

【[鹿各]】麔に同じ。

【[鹿與]】ヨ。以於切 [魚] 山の驢。

八畫

【[鹿取]】シユ、ス。此主切 [麌] 小鹿、こじか。

【麖】ケイ、キヤウ。居卿切 [庚] 麠に同じ。○〔山海經〕「尸山獸多レ—」。

【[鹿昆]】コン。古渾切 [元] 鹿の屬。

【[鹿委]】井。於爲切 [支] 貯藏せる鹿肉、美味なる鹿肉、まかのかこひしゝ、あぢよきしかしゝ。○〔鄭康成〕「今益州有二鹿—一」。

【[鹿隹]】ス井。職追切 [支] 一歲の鹿。○〔揚雄〕「—麀不レ行」。

【麑】ゲイ、ガイ。五鷄切 [齊] ベイ、マイ。綿批切 [齊] ㊀猊に同じ、まゝ。○〔爾〕「狻—如二虦猫一」。㊁鹿子、かのこ。○〔論〕「素衣—裘」。

【麒】キ、ギ。渠之切 [支] 麟の牝。○〔郭璞〕「—似レ麟而無レ角」。

【麓】ロク。盧谷切 [屋] ㊀山の足、ふもと、ふもとにある林、はやし。○〔詩〕「瞻二彼旱—一」。○〔國〕「—不レ聞」。㊁山林を守る吏。㊂まろうす（錄）。○〔書〕「納二于大—一」。
〔林麓〕平地のはやしと山足のはやし。「—川澤」。
〔山麓〕山足の竹木のまゆりたる處。○〔杜甫〕「亭午下—…」。○〔韻〕「—…」。
〔卑麓〕あをくと竹木のまゆりたる山足のはやし。○〔鐵賦〕「坡陀——」。
〔蒼麓〕前に同じ。○〔宋松〕「行穿——助平岡」。

【麔】キウ、ク。其九切 [有] カウ、コウ。居勞切 [豪] ケウ、ゲウ。巨夭切 [篠] ヘウ、ベウ。被表切 [篠] 牡麋、をじか。○〔爾〕「—麕短脰」。

【麕】キン、クン。居筠切 [眞] 鹿の屬、のろ、性怯にして水を飲むに影を見れば驚き奔るほどなりといふ。○〔詩〕「野有二死—一」。

【[鹿困]】キン、クン。苦隕切 [軫] まばろ（束縛）。

【麗】レイ、ライ。郎計切 [霽] ㊀旅行す、つらなりゆく。○〔司馬相如〕「蟃蜒略委—」。㊁施行す、ほどこしおこなふ。○〔書〕「不レ克レ開二于民之—一」。㊂つく。（い）連らなる。○〔易〕「—澤兌」。（ろ）著く。○〔左〕「射レ麋—レ龜」。（は）附く。○〔易〕「日月—二乎天一」。（に）繫ぐ。○〔禮〕「—二于碑一」。（ほ）加ふ。○〔儀〕「—二于擧一」。㊃ふたつ（兩）、つゐ（耦）、ならぶ（偶）。○〔史〕「—皮爲レ禮」。㊄かず（數）。○〔詩〕「其—不レ億」。㊅うるはし。（い）うつくし（美）。○〔戰〕「佳—人之所レ出也」。（ろ）よし（好）。○〔張衡〕「旣姱—而鮮レ雙兮」。（は）華綺、はなやか、きらびやか。○〔書〕「敝レ化奢—」。（に）鮮潔、いさぎよし、あざやか。○〔後漢〕「淸—之志」。（ほ）光華、かゞやく、ひかる。○〔揚雄〕「—二萬世一」。「—」。㊆欐に同じ、やのむれ。○〔列〕「居則連レ—」。
〔華麗〕うつくしくはなやかなること。○〔魏、註〕「不レ—」。
〔美麗〕うつくし。○〔漢〕「媚入——」。
〔綺麗〕前に同じ。○〔後漢〕「容貌——」。
〔姝麗〕前に同じ。○〔晉〕「鮮—樹——」。
〔妍麗〕かはよくうつくし。○〔風俗通義〕「好容——」。—好德長創。
〔雅麗〕文字などのうつくしく力あるにいふ語。○〔附〕文甚——。
〔婉麗〕みやびやかにしてうつくし。○〔附〕「宋其尤——者」。
〔瑰麗〕車の名。○〔莊〕「——可二以衝一レ城」。
〔浮麗〕うはべのうつくしくはなやかなること。○〔九倉〕「倚傾——之材窮」。
〔巨麗〕巨大にして立派なること。○〔上林賦〕「君未レ覩二夫——一也」。
〔秀麗〕麗秀と美麗と。○〔高僧〕「群、秀——」。
〔俊麗〕容貌などのうるはしきにいふ語。○〔漢〕「帰—「——」」。
〔宏麗〕ひろやかにして立派なること。○〔史〕「瑰瑋——」。
〔弘麗〕前に同じ。○〔漢〕「——温雅」。
〔敞麗〕前に同じ。○〔傅休奕〕「嘉——之——」。
〔壯麗〕さかんに立派なること。○〔史〕「紛華——」。
〔壯麗〕前に同じ。○〔漢〕「見二其——一」。
〔富麗〕いたくうるはし。○〔漢〕「——紛華」。
〔奇麗〕前に同じ。○〔漢〕「——番舞」。
〔玲麗〕前に同じ。○〔後漢〕「叡二濟德之——一」。
〔絢麗〕綺好にしてはでやかなること。○〔漢〕「——之物」。
〔精麗〕前に同じ。○〔附〕「令二其——一」。
〔侈麗〕おほいにうるはし。○〔漢〕「——閎衍」。
〔贍麗〕いたくうるはし、又、美麗をきはめつくす。○〔漢〕「靡—妙——」。「—」。
〔溫麗〕溫和にしてうるはし。○〔後漢〕「詞必——」。
〔淸麗〕きよらかにうつくし。○〔附〕「居字——」。
〔俊麗〕すぐれてうつくし。○〔後漢〕「容儀——」。
〔淫麗〕淫靡にしてはなやかなり。○〔後漢〕「——之…」。

〔豐麗〕たすしくうつくし。○〔八王故事〕「容貌——」。
〔瑰麗〕高大壯麗なること。○〔後漢〕「玉堂——」。○〔賦〕「館宇——」。
〔閑麗〕おごそかにうつくし。○〔詩〕「姿容——」。○〔後漢〕「——之容」。「—」。
〔嚴麗〕前に同じ。○〔附〕「鬩垃——」。
〔鮮麗〕前に同じ。○〔附〕「風儀——」。
〔艷麗〕あざやかにうつくし。○〔晉〕「——故白」。
〔佳麗〕前に同じ。○〔附〕「單敬——」。
〔姣麗〕おほいにはでやかなること。○〔附〕「性——」。
〔富麗〕ゆたかにしてうるはし。○〔附〕「文甚——」。
〔宏麗〕前に同じ。○〔柳宗元〕「宏大——」。
〔華麗〕前に同じ。○〔陸贄〕「不レ宜レ使レ至二——一」。
〔哀麗〕悲哀の意を含みてうるはしき文字などにいふ。○〔附〕「文甚——」。
〔雅麗〕正しくうるはしきこと。○〔附〕「辭氣——」。
〔秀麗〕すぐれてうつくし。○〔附〕「姿表——」。
〔清麗〕前に同じ。○〔附〕「此地山川——」。
〔絕麗〕前に同じ。○〔孫綽〕「沈博——之文」。
〔英麗〕前に同じ。○〔陳子昂〕「何鬱木之——」。
〔瑤麗〕瑤は一に璆に作る、こまかくえりきざみありてうるはし。○〔北〕「——之物」。
〔縟麗〕縟密にしてうるはし。○〔書〕「文詞——」。
〔奇麗〕前に同じ。○〔太眞外傳〕「綵縟——」。
〔嬌麗〕かよわくうつくし。○〔宣和畫譜〕「——…之」。「鮮形」。
〔妍麗〕めづらしくうつくし。○〔拾遺錄〕「——」。
〔配麗〕配偶のこと。○〔雜事秘辛〕「不レ有二——一」。
〔妖麗〕つやゝかにうつくし。○〔拾遺記〕「娼飾——」。
〔新麗〕前に同じ。○〔洛陽花木記〕「繁盛——」。
〔靡麗〕おごりてはなやかなり。○〔拾遺記〕「以二——一相尙」。
〔明麗〕前に同じ。○〔詩品〕「——」。
〔輝麗〕てりかゞやく。○〔詩品〕「——萬有」。○〔銑選〕「三光——」。
〔朗麗〕あきらかにうるはし。○〔琴操〕「聲色——」。
〔流麗〕のびやかにうるはし。○〔蘇軾〕「端莊——」。○〔揮塵三錄〕「不レ習二——一」。
〔駢麗〕對句を用ふる一種の文體。○〔揮麈三錄〕「不レ習二——一」。
〔顯麗〕いちじるしく立派なり。○〔曹植〕「蒙二宮宇之——一」。
〔時麗〕そらの晴れてあきらかなること。○〔吳都賦〕「六山——」。
〔魚麗〕陣の名。○〔左〕「爲二魚麗之陣一」。

【麗】リ。呂支切 [支] レイ、ライ。憐題切 [齊] ㊀はなる（離）。○〔釋名〕「—離也、言一目視レ天、一目視レ地、目明分離、所レ視不レ同也」。㊁山の名。○〔史〕「—山之徒也」。㊂鸝に同じ。○〔張衡〕「—黃鸝—々」。
〔高麗〕むかし朝鮮の一邦國、こま。○〔魏〕「—句—在二遼東之東一」。

【[鹿麗]】レイ、ライ。里弟切 [薺] 彰—は澤の名。

【[鹿麗]】リ。力智切 [寘] うるはし（美）。

【[鹿麗]】シ。山宜切 [支] さく（析）。

【[鹿麗]】レキ、リヤク。郎狄切 [錫] 縣の名。

九畫

【麘】キヤウ、カウ。虛良切 [陽] 麝—は麝香に同じ。

【麙】カン、ゲン。五咸切 [咸] ケン、ゴン。其淹切 [鹽] ㊀角細く形大いなる山羊、やぎ。○〔揚雄〕「—羊野麋」。㊁力ある獸。○〔爾〕「絕有レ力—」。

【麚】カ、ケ。古牙切 [麻] 牡鹿、をじか。○〔馬融〕「特—昏彰」。

【[鹿書]】ショ、ソ。專於切 [魚] 鹿の類。

【[鹿耎]】ダン、ナン。奴亂切 [翰] かのこ（麑麛）。

【麛】ベイ、メイ。莫兮切 [齊] ㊀鹿子、かのこ。○〔禮〕「—裘」。㊁凡て獸の初生のものにいふ字。○〔禮〕「春田士不レ取二—卵一」。○

十畫

【[鹿逑]】ベイ、メイ。緜批切 [齊] ㊀鹿の跡、あしあと。㊁鹿の媒、をとり。

【麜】リツ、リチ。力質切 [質] 牝麡、めのろ。

【[丽鹿]】古文の麗の字。

【麝】シヤ、ゼ。神夜切 [禡] セキ、ジヤク。食亦切 [陌] ㊀臍のあたりに香料を有する一種の獸、おや、小麋の如き形にして虎豹の如き文あり、一名は射父。○〔字彙〕「—退レ香」。○㊁おやの臍のあたりにある香料。○〔退齋閒錄〕「武佩レ—」。
〔蘭麝〕香の名。○〔晉〕「掛蘭——」。
〔沉麝〕前に同じ。○〔韓詠〕「——不レ燒金鴨冷」。
〔腦麝〕前に同じ。○〔香譜〕「——斷香」。
〔龍麝〕前に同じ。○〔韓偓〕「——…」。
〔氷麝〕前に同じ。○〔王安石〕「——…」。

【麢】レイ、リヤウ。力丁切 [靑] 鹿。

十一畫

【[鹿畢]】ヒツ、ヒチ。壁吉切 [質] 鹿の子。

【[鹿速]】ソク。桑谷切 [屋] 鹿の迹。

【[鹿票]】ヘウ、ベウ。毗招切 [蕭] 鹿の屬。

【麞】シヤウ、サウ。諸良切 [陽] 麋の屬、のろ、形は小さき鹿の如くにて毛色美し。○〔南〕「平澤中逐レ—」。

十二畫

【麟】リン。力珍切 [眞] ㊀身は麕の如く尾は牛の如く額は狼の如く蹄は狼に似たる一種の獸、たけはなはだ高くして頭に肉角あり、又、支那古代の想像上の一種の神獸、聖人出で王道行はるれば見はると謂ひ傳へり。○〔司馬相如〕「射二麋脚レ—」。㊁燐に通じ用ふ、あきらか。○〔揚雄〕「炳炳——」。
〔麒麟〕神獸の名。○〔韓〕「鳳凰——」。
〔祥麟〕めでたきしるしとして世にあらはるゝ神獸。○〔玉澄〕「以爲——」。

【[鹿菐]】ホク、ボク。步木切 [屋] 麃相隨ふ、つれゆく。

【[鹿眉]】ヒ、ミ。門皮切 [支]

鹿。

十三畫

⿸鹿零 レイ、リヤウ。郎丁切 青
大羊。

麠 ケイ、キヤウ。擧卿切 庚
大鹿。

⿸鹿彊 麠に同じ。

⿸鹿祿 ロク。力谷切 屋
天—は、獸の名。○〔宋〕「天—者、純靈之獸」。

十四畫

麡 セイ、ザイ。祖奚切 齊 サイ、ゼイ。十皆切 佳
形は鹿に似て角は前に向かひたる一種の獸。

⿸鹿與 ヨ。羊茹切 御 以諸切 魚
ショ、ソ。象呂切 語
鹿に似て大いなる獸。

⿸鹿需 ジュ、ニュ。人朱切 虞 ドウ、ヌ。奴侯切 尤
ダン、ナン。奴亂切 翰
鹿の子、かのこ。

十七畫

麢 レイ、リヤウ。郎丁切 青
角の細く體大いなる羊、おほひつじ。○〔山海經〕「挽毛——麢」。

二十畫

⿸鹿嚴 ガン、ゲン。五咸切 咸
山羊。

廿二畫

麤 ソ、ス。倉胡切 虞
㊀行きて超かに遠し、とほし。㊁あらし。(い)くはしからず、こまやかならず。○〔公羊〕「用レ意尙—」。(ろ)きめこまかならず、なめらかならず。○〔史〕「上膚黄—」。(は)ざつなり、そまつなり。○〔後漢〕「袍衣疏—」。(に)はげし、あらくし。○〔晉〕「謝奕性—」。(ほ)うとし、〔疏〕。○〔禮〕「—而翹レ之」。(へ)あらまし、〔略〕。○〔史〕「—二述存亡之徵一」。㊂ふさし、おほいなり、〔大〕。○〔禮〕「其器高以—」。㊃大概、ほゞ。○〔宋〕「城郭—全」。㊄麻履、あさざうり。○〔急就篇註〕「—者麻枲雜履之名也」。㊅くろごめ、〔糲〕。○〔左〕「—則有レ之」。

麥部

麥 バク、ミヤク。莫獲切 陌
キヨク、ゴク。訖力切 職
五穀の一、芒ある穀、むぎ。○〔禮〕「孟夏—秋至」。
〔宿麥〕むぎのこと、冬に種を播き年を經て熟するよりいふ。○〔漢〕「勸レ種——」。
〔蕎麥〕そば、又蕎麥ともなづく。○〔後山詩話〕「——不レ實」。
〔雀麥〕すゞめむぎ。○〔爾雅〕「藋、雀——」。
〔燕麥〕前に同じ、又、からすむぎともいふ。○〔太平御覽〕「——」。
〔瞿麥〕とこなつ、なでしこの異名。○〔爾〕「大菊——」。
〔籧麥〕なでしこ。○〔本草綱目〕「——」。
〔菽麥〕まめとむぎと。○〔詩〕「禾——」。
〔熟麥〕みのいりたるむぎ。○〔後漢〕「大收——」。
〔野麥〕自然生のむぎ。○〔穆天子傳〕「爰有——」。「——□」。
〔秀麥〕生長したるむぎ。○〔林景熙〕「家在春風——」。
〔枯麥〕かれむぎ。(〔杜甫〕「荒城待——」)。
〔稻麥〕いねとむぎと。○〔周〕「其穀宜——」。
〔禾麥〕前に同じ。○〔易林〕「傷敗——」。
〔大麥〕おほむぎ。○〔後漢〕「——歌斛」。
〔小麥〕こむぎ。○〔後漢〕「——青々」。
〔穬麥〕おほむぎに似たる一種のむぎ。○〔齊志〕「—以大麥」。
〔稞麥〕はだかむぎ。○〔齊民要術〕「大麥露穀長—節今——也」。
〔晩麥〕おそまきのむぎ。○〔蘇軾〕「——若乾風似秋」。「玉」。
〔粉麥〕粉末にしたるむぎ。○〔宋濂〕「——白如」。
〔早麥〕あをくとりたるむぎ。○〔劉基〕「——黄花夾路岐」。
〔陳麥〕ふるむぎ。○〔升菴文集〕「——化蝨」。

麦 俗の麥の字。

三畫

⿰麥弋 ヨク、イキ。與職切 職
麥の殻の破れ碎けたるもの、むぎかす。

⿰麥才 サイ、ザイ。昨哉切 灰
かうち、〔麴〕。

⿰麥乇 タク、ダク。闥各切 藥
餺—は、餅の屬。

⿰麥山 サン、セン。所宴切 諫
かうち又、むぎのぬか。

麧 コツ、ゴチ。下沒切 月 ケツ、ゲチ。奚結切 屑
麥の糠の中の破れざる粒、又、くづ、〔糏〕。

四畫

⿰麥內 ダフ、ノフ。奴答切 合
—麳。

⿰麥反 キヨ、コ。求於切 魚
みのらざる麥、むぎのまひな。

麨 セウ、ゼウ。尺沼切 篠
米麥を熬り之を磨して屑末となせるもの、むぎこがし、こがし。○〔佛國記〕「授二—蜜一處」。

⿰麥气 麧の本字。

⿰麥勿 コツ、コチ。呼骨切 月
餅の屬、むぎのこもち。

⿰麥比 ヒ、ビ。符支切 支
むぎこがし、〔麨〕。

⿰麥斗 トウ、ツ。當口切 有
むぎ、〔麥〕。

麩 フ。芳無切 虞
小麥の屑皮、むぎのふすま。

⿰麥夬 ケツ、ゲチ。倪結切 屑
クワイ、ケ。去穢切 隊
もやし、かうち、〔麴〕。○〔周註〕「名二麴—一日レ媒」。

⿰麥屯 トン、ドン。徒渾切 元
餅—は、こなもち、〔餌〕。

麪 ベン、メン。彌箭切 霰
麥を粉末させしもの、むぎこ。○〔東皙〕「重羅之—、塵飛レ雪白」。
〔新麪〕しんむぎのこ。○〔陸游〕「五月——成」。
〔麥麪〕むぎのこ。○〔饑復古〕「——不レ療レ饑」。
〔麪粥〕むぎこのかゆ。○〔齊民要術〕「——別作」。

⿰麥开 ケイ、カイ。堅溪切 齊
むぎもち。

五畫

⿰麥它 タ。湯河切 歌
もち、〔餅〕。

麬 俗の麩の字。

⿰麥末 バツ、マチ。莫撥切 曷
むぎのふすま、〔麩〕、むぎこ、〔麪〕、こめのこ、〔䊬〕。

麭 ハウ、ヘウ。披敎切 效
こなもち、〔餌〕。

⿰麥巨 キヨ、コ。臼許切 語
くわし、〔蜜餌〕。

⿰麥禾 麵に同じ。

⿰麥主 トウ、ツ。天口切 有
もち、〔餅〕。

⿰麥穴 クワツ、グワチ。戶八切 黠
かうち、〔麴〕。

⿰麥占 黏に同じ。

⿰麥占 テン、チン。尼占切 鹽
靑—は、藥草。

麮 キヨ、コ。丘據切 御 羌擧切 語
麥汁、麥粥、麥飯、熬麥、むぎしる、むぎかゆ、むぎめし、いりむぎ。○〔荀〕「與二之麥——一」。

六畫

⿰麥并 ヘイ、ヒヤウ。必郢切 梗
索餅、もち。

⿰麥同 トウ、ツ。吐孔切 董
餅の屬。

麯 キク、コク。丘竹切 屋
麴に同じ、かうぢ。○〔劉伶〕「枕レ—藉レ糟」。

⿰麥各 カク、キヤク。古伯切 陌
麥の碎けたるもの、くだけむぎ、むぎぬか。

⿰麥台 タイ、テ。都回切 灰
もち、〔餅〕。

麰 ボウ、ム。莫浮切 尤
㊀一種の麥、飯とすべく酢さすべくまた其の蘖は飴さすべし、おほむぎ、大麥、穬麥。○〔詩〕「貽二我來——一」。㊁にたるむぎ、〔麩〕、又、かうぢ、〔麴〕。○〔釋名〕「—餲也、煮熱亦餲壞也」。

七畫

⿰麥肙 ケン。圭懸切 先
麥莖、麥藁、むぎわら。

⿰麥孚 ホウ、ブ。蒲蒙切 東
㊀煮麵、かうぢ。㊁熬麥、いりむぎ。

⿰麥沙 サ、セ。師加切 麻
麥を碎く。

⿰麥肖 麨に同じ。

⿰麥孛 ホツ、ボチ。薄沒切 月
屑麥、むぎこ。

⿰麥見 カン、ゲン。胡諫切 諫
麥屑、むぎこ。

⿰麥利 リ。良脂切 支
麥酒、むぎざけ。

⿰麥完 コン、ゴン。戶昆切 元
麥麴、むぎかうぢ。○〔酒經〕「女——甜醴」。

⿰麥完 クワン、ゲン。戶版切 潸
コン、ゴン。戶兗切 阮
黃蒸麴、むぎかうぢの類。

⿰麥完 クワン、グワン。胡官切 寒
女麴、ひめかうぢ、一にむぎかうぢ、黃子。

⿰麥予 麩に同じ。

⿰麥寸 ラ。虜臥切 箇
粟の粥、あはがゆ。○〔齊民要術〕「有二—麫粥法一」。

八畫

⿰麥果 クワ。古火切 哿
クワ、グワ。胡瓦切 馬
かうぢ、〔麴〕、ひめかうぢ、〔麩〕。

⿰麥果 フ。普果切 哿
麪の名。

⿰麥匋 タウ、ドウ。徒刀切 豪
こなもち、〔餌〕。

⿰麥昆 コン、ゴン。胡昆切 元
かたむぎ、つぶむぎ、まろむぎ、〔未破麥〕。

⿰麥侖 糒に同じ、ほしいひ。

⿰麥念 デフ、ヂフ。諾叶切 葉
—頭、むぎかた。

⿰麥其 キ、ギ。渠之切 支
餅の屬。

⿰麥困 キン、グン。巨隕切 軫
餅の屬。

麳 ライ。落哀切 灰
リヨク、リキ。六直切 職
小麥、こむぎ。

⿰麥來 リ。陵之切 支
むぎ、〔麥〕。

麩 コク。呼木切 屋
むぎこがし。〔稼、かて〕（糗。

九畫

麭 サ。蘇臥切 箇
餅ノ一ハ、あはがゆ（粟粥）。

麪 リ。力脂切 支
むぎいひ、むぎこがし。

麴 ロク。盧谷切 屋
酵ノ一ハ、黄たる餅。

麯 ヤ、エ。貴謝切 禡
むぎのひわか（麩麥皮）

麥 サン、セン。初限切 諫 刪 切 諫
むぎ（麥）。

麨 ヒ、ビ。符支切 支
かうぢ（麵）、むぎもち（炒餅）。

麭 キク、ゴク。丘六切 屋
❶酒を醸す原料、即ち、米麥を幽鬱（かもし）して朽敗し衣（はな）を生ぜしめたるもの、さけのもと、かうぢ、酒母、酵母。〇〔書〕若作二酒醴一爾惟麴蘗。❷黄桑色、かうぢいろ。〇〔國〕天子乃鬻二一衣于先帝一。❸かびこのえびら、笛。〇〔揚雄〕薄賦「之篇一或謂二之一一。〔唐風〕「さけのかすと酒參と。〇〔陸詩〕「糟一酒一。〔詩經〕「さけのもと。〇〔五〕「糟粕一」。

麩 セツ。尺少切 篠
麥に同じ。

麪 セツ。尺沼切 篠
むぎこがし（糗）。

麴 俗の黏の字。

麸 サク。心作切 藥
乾餅。かわきたるもち。

麥 ボウ、ム。莫後切 厚
麥。

十畫

麵 ソツ、ソチ。蘇骨切 月
麥屑、むぎのこ。

麵 俗の麵の字。

麵 麵に同じ。〔玄粘黄一〕

麵 ボウ、ム。莫後切 厚
麥。

麵 サク。心作切 藥
乾餅。かわきたるもち。

麵 セツ。尺沼切 篠
むぎこがし（糗）。

麵 ケツ。苦禾切 歌
一斗は、科斗（おたまじゃくし）の形をなしたる餅こなもち。

麵 フ、ボ。房故切 遇
麥の再生するもの、ひつじばえ。

麵 俗の麵の字。〇〔齊〕太廟四、時祭薦二宣皇帝一起餅二。

麵 テキ、ヂヤク。直隻切 陌
むぎのこ（麩）。

麵 テキ、ヂヤク。徒歷切 錫
麥屑、むぎのこ。

麵 ソツ、ソチ。蘇骨切 月
麥屑、むぎのこ。

麵 セツ、セチ。先結切 屑

麵 レン。力展切 銑
麵の字の絲を見よ。

麵 セン、ヒン。蘭畿切 微
むぎ（麥）。

麵 シヤク、サク。七亮切 藥
麵麭るくさる。

麵 ベン、マン。謨官切 寒
一頭は、まんぢう。

麵 テキ、ヂヤク。直隻切 陌
むぎのこ（麩）。

麵 テキ、ヂヤク。徒歷切 錫
麥屑、むぎのこ。

麵 ガウ、ゴウ。五牢切 豪
いる（煎）、かわかす（燥）。

麵 鄭に同じ。

麵 ボウ、ム。莫後切 厚
むぎのこ（麩）、〔一説に、かうぢ（麵）。

十三畫

麵 ガウ、ゴウ。五牢切 豪
麵に同じ。おほむぎ。〇〔後漢〕

麵 ボウ、ム。莫後切 厚
麥。

麵 ハク、バク。白各切 藥
麵の精ならざるもの、むぎのひきわり。

麵 コク。空谷切 屋
かうぢ（麵）。

麵 ハク、バク。白各切 藥
一飴は、餅。

十四畫

麵 ロウ、ル。郎口切 有
麵ノ一ハ、麵餅、まがりもち。

麵 サ。蘇果切 哿
麥の麵き屑、麥のふすま、むぎのこ。

麵 サ。蘇臥切 箇
麵の精ならざるもの、むぎのひきわり。

麵 ハク、バク。白各切 藥
一飴は、餅。

麵 ロウ、ル。郎口切 有
麵ノ一ハ、麵餅、まがりもち。

麵 サク。昔各切 藥
麵ノ一ハ、まがりもち。

麵 サン、初限切 諫 刪 切 諫
むぎ（麥）。

麵 ヒ、ビ。符支切 支
かうぢ（麵）、むぎもち（炒餅）。

麵 キク、ゴク。丘六切 屋
❶酒を醸す原料、即ち、米麥を幽鬱（かもし）して朽敗し衣（はな）を生ぜしめたるもの、さけのもと、かうぢ、酒母、酵母。〇〔書〕若作二酒醴一爾惟麴蘗。❷黄桑色、かうぢいろ。〇〔國〕天子乃鬻二一衣于先帝一。❸かびこのえびら、笛。〇〔揚雄〕薄賦「之篇一或謂二之一一。〔唐風〕「さけのかすと酒參と。〇〔陸詩〕「糟一酒一。〔詩經〕「さけのもと。〇〔五〕「糟粕一」。

麵 ケツ。苦禾切 歌
一斗は、科斗（おたまじゃくし）の形をなしたる餅こなもち。

麵 フ、ボ。房故切 遇
麥の再生するもの、ひつじばえ。

麵 俗の麵の字。〇〔齊〕太廟四、時祭薦二宣皇帝一起餅二。

麵 テキ、ヂヤク。直隻切 陌
むぎのこ（麩）。

麵 テキ、ヂヤク。徒歷切 錫
麥屑、むぎのこ。

麵 ソツ、ソチ。蘇骨切 月
麥屑、むぎのこ。

麵 セツ、セチ。先結切 屑

麵 麵の字を見よ。

麵 タン、ドン。徒含切 覃
餅の屬。

十七畫

麵 ケツ、ゲチ。魚列切 屑
むぎのもやし（蘖）。

麵 ハク、バク。白各切 藥
もち（餅）。

十八畫

麵 フウ、敷戎切 東 フ。切 送
麩に同じ。

麵 煮麥、熬麥、にむぎ、いりむぎ。

十九畫

麵 顰に同じ。

二十畫

麵 サク。郎各切 藥
麥の屑を舂したるもの、むしもち。

麻部

麻 バ、マ。莫遐切 麻
一皮は、績ぎて絲とすべく織りて布となすべく實は食とすべき一種の植物をあさ。〇〔詩〕「藝レ一如レ之何」。❷あさ皮、あさ絲、あさ布、あさ衣。〇〔論〕「一一晃禮也」。❸五穀の一、ごま、其の實より油をとる。〇〔禮〕「食ニ一與レ犬」。

麻 シヤク。戸灼切 藥
病を治むいやす。

麼 バ、マ。亡果切 哿 眉波切 支
歌 ビ、ミ。忙皮切 支
細小、こまか、ほそし。〇〔郭璞〕「蜾蠃惟一」。

麾 シヤク。戸灼切 藥
乾餅。

十五畫

麵 クヮウ、キャウ。古猛切 梗
大麥。

十六畫

麵 クヮウ、キャウ。古猛切 梗
大麥。おほむぎ、一説に、麥麩、ふすま。〇〔晉〕「況臣糠一粃二之雜一胡一」。

麵 クヮウ、ヲウ。胡光切 陽
麵麭、かうぢばな。

十三畫

麵 キョ、コ。求於切 魚
❶こむぎ（小麥）。❷なでしこ（瞿麥）。

麵 トク、ドク。徒谷切 屋
一一麩は、煮たる餅。

麵 クヮン、ゲン。胡關切 刪
❶もち（餅）。❷おこし、粔籹。

麵 クヮン、ゲン。戶版切 潸
きいろのもち。

麵 サウ、ソウ。蘇到切 號
乾餅。

十五畫

麵 クヮウ、キャウ。古猛切 梗
大麥。

十六畫

麵 ケツ、ゲチ。魚列切 屑
むぎのもやし（蘖）。

麵 ハク、バク。白各切 藥
もち（餅）。

十七畫

麵 フウ、敷戎切 東 フ。切 送
麩に同じ。

麵 煮麥、熬麥、にむぎ、いりむぎ。

十八畫

麵 顰に同じ。

十九畫

麵 サク。郎各切 藥
麥の屑を舂したるもの、むしもち。

麻部

麻 バ、マ。莫遐切 麻
一皮は、績ぎて絲とすべく織りて布となすべく實は食とすべき一種の植物をあさ。〇〔詩〕「藝レ一如レ之何」。❷あさ皮、あさ絲、あさ布、あさ衣。〇〔論〕「一一晃禮也」。❸五穀の一、ごま、其の實より油をとる。〇〔禮〕「食ニ一與レ犬」。

麻 シヤク。戸灼切 藥
病を治むいやす。

麼 バ、マ。亡果切 哿 眉波切 支
歌 ビ、ミ。忙皮切 支
細小、こまか、ほそし。〇〔郭璞〕「蜾蠃惟一」。

二十畫

麵 サク。郎各切 藥
麥の屑を舂したるもの、むしもち。

四畫

麼 ビ、ミ。陳爲切 支
ちる、ちらす（散）。

麼 フン、ホン。父吻切 吻
わかつ、わかる（分）。

麼 サン、ソン。蘇含切 覃
❶いとふ（厭）。❷すつ（舍）。

麼 麼に同じ。いとふる。

麼 レキ、リヤク。攴擊切 錫
こよみ。

麼 ビ、ミ。忙皮切 支
日光。

麼 サン、ソン。蘇含切 覃
いとふ（厭）。

麼毛 キ。許爲切 支
❶旌旗の屬、將帥の軍を指揮するに執れるもの、牙營に衆の麾標のために樹つるもの、さしづばた、あひづばた。〇〔周〕「建二大一一以田一以封一畿國一。❷さしまねく。〔い〕ほたを以て軍衆の向かふ所を示す。まねく。〇〔史〕「莊王自手」旗一「軍引レ兵去」。

（ろ指役す。さしづす、げぢす。○〔曹〕右衆二白施二以一。（は指招す。まねく、よぶ。○〔詩〕二一レ之以レ勘。❸こゝろよし。快。○〔禮〕祭祀不レ（曾通）さしづす。○〔論語〕（祐通）さもなく。○〔周〕（呂覽）二一敢先。（祐通）軍旅のとき又、師に於て出陣のときにもいふ。○〔禮〕（左傳）二以師一前行。（左傳）杜たのと。○〔江賦〕南市則二一二。（前通）大將のまねじ杜た。○〔王安石〕〔解剖〕之二一二。（大通）おはいなるはた又、旗の名。○〔周〕〔木路〕

麾 キ。呼毀切 圓

前條の㊀に同じ。○〔左〕〔周二前呼〕。

五畫

麾 エン、チン。於阮切 阮

麻殼ろ、をげる。

麾 キ。許爲切 支

絲一一はばた。

麻 ホン、ボン。部本切 阮

あさがら。〔麻蒸〕。

麼 キウ、グ。丘九切 有

麻。

六畫

麼 バ、マ。忙果切 哿

去る。

麻 チユ。陳倫切 虞

あさのみ。〔麻〕。

七畫

麻 リウ、ル。力求切 尤

あさ。〔麻〕。

麻 ヨク、オク。烏酷切 沃

繩の末だ練らざるもの、あさな。

八畫

麻 セキ、シヤク。先擊切 錫

細布。ほそぬの。

麻 シウ、ス。側鳩切 尤

あさがら。なからの。〔麻莖〕。○〔楚辭二蔓路維二於一蘇分〕。

麻 ビ、ミ。眉几切 紙

深し。

九畫

麼 ドン、ノン。奴昆切 元

ひぐはし。〔香〕。

麻 トウ、ヅ。度侯切 尤

蘇の屬、いちびあさ。

麻 コク。空谷切 屋

繩未だ練らざる、あさな。

十畫

麼 ビ。靡爲切 支

ひぐはし。〔香〕。○〔呂氏春秋二陽山之一〕。

十一畫

麼 樂に同じ。たいろ、うむ、やぶる。

麻 ビ、ミ。眉几切 紙

深し。

十二畫

麼 ドン、ノン。奴昆切 元

ひぐはし。〔香〕。

麻 トウ、ヅ。度侯切 尤

蘇の屬、いちびあさ。

麻 コク。空谷切 屋

繩未だ練らざる、あさな。

十三畫

麼 ヒ。靡爲切 支

ひぐはし。〔香〕。○〔呂氏春秋二陽山之一〕。

麻 キ。許爲切 支

麻。

麻 ヒ、ビ。房未切 未

亂麻、みだれあさ。又、破れたる麻衣。○〔列〕〔宋國有二田夫一、常衣レ一〕。

麻 フン、ブン。扶沸切 未

㊀子實のある麻。○〔淮〕一不レ類レ布。而可二以爲一布。㊁あさのみ。〔泉實。○〔禮〕「麻之有レ者也。

麻 前條に同じ。

二十畫

麻 サク。倉各切 藥

ごま、油麻。

黃部

黃 クワウ、ワウ。乎光切 陽

㊀五色の一、き、きいろ、土の色とし中央の色とす。○〔易二「一裳元吉。㊁きいろを帶ぶ、きばむ。○〔禮二草木一落。㊂老人の毛髮きいろなるとき、○〔詩〕「遐不二一耆二。㊃黃金、こがね。○〔禮「不三飾以二銀一一乎而。㊄きいろきもの。○〔詩二充レ耳以レ一。㊅さほひめ、だいわう、いわう、うわう、ふわうなどの略稱。○〔禮二來一不レ去レ手。㊆きいろのまされる辭馬。○〔詩二有レ驪有レ一。㊇幼嬰、いとけなし。○〔唐開元志〕凡男女始生爲レ一。㊈皮膚きいろに變する病、わうだん。○〔靈一病〕㊉支那上古の聖天子軒轅氏の稱、又之を祖とせる神仙養生の教方。○〔韓愈〕「二老子漢二。〔黃黃〕鳥の名。てうせんうぐひす。○〔禮二夫婦一二之首一。〔天黃〕（り）蟲の名。○〔禮〕黃身白其一一蟲。其神前。（ろ）藥草の名。○〔博雅二黃良一一也。〔地黃〕藥草の名。○〔博雅二地榆一一也。〔金黃〕參差失の說にいふ語。○〔風土記〕犬曾一一狀貌。〔玄黃〕天の色と地の色と。○〔禮二天一一地玄色也。〔銀黃〕白銀と黃金と。○〔白氏六帖〕一ス一鑄以一一。〔黃〕（い）き帶びたる綠。○〔古詩〕「少年郎一一」。（う）骨相上の面出する供饋の竹筍の名。○〔曾詩「珍重裕一一」。〔中黃〕（い）中央、又、星の名。○〔王勃〕「詩一一之宅」。（ろ）天子の角觝おくもの。○〔後漢二角一一戲〕。〔蟲黃〕蟲物の名。說者と說者との混合物にして卵の黃又は卵に用よ、又、幼蟲より變する草蟲黃といふものあり。蟲の具に用よ。○水經〔注〕「卵黃一一」。〔蟲黃〕蟲物の名。石首魚ともづく。○〔博雅〕「鮫一一」。〔蟲黃〕蟲の花。○本草〔菊花名一一〕。〔蟲黃〕目のくれがた、黃雀。○〔江淹二鳥一一」。〔蟲不一語。〔蟲黃〕前に同じ。○〔韻會〕「蟲月話一一」。〔蟲黃〕きいろなる蛾にいふ語。○〔博雅〕「蛾一一」。〔蟲黃〕草の名。○〔博雅〕「蛾蚣一一」。〔蟲黃〕うすき黃色。○〔韻會〕「蛾蚣一一」。

（蟲黃）一に蟲黃となづく蟲蛾にして黃身の卵數をうむ。○〔禮〕蟲黃の名。○〔周二一一其何不來下一。（蟲黃）蟲黃の名。○〔周〕「一一之鳥、吉光之獸。（蟲黃）押黃ともいふ、古の引黃のときにて歷の制に相當に反あれば黃紙を貼附して其の事柄に事目を記載して前の紙皮は其の事柄に事目を記載して前の紙皮は其のまゝ引黃といふ、後世は黃紙と略して黃紙を用ひず。○〔晉史傳〕「黃紙既行下有二小異一則一一」。

四畫

黃 キン、コン。居吟切 侵

黃色。

黃 クワウ、ワウ。姑黃切 陽

武勇の貌にいふ字。○〔班固〕「一一將軍威震不レ當」。

黃 カウ。苦浪切 養

黃色。

黃 タン。他官切 寒

黃色。

黃 トン、ドン。徒渾切 元

黃色。

五畫

黃 テン、他兼切 鹽 セン。將先切 先

黃色、黃白色、きいろ、たまごいろ。

黃 タク、チャク。恥格切 藥

黃色。

黃 テン、他兼切 鹽 セン。將先切 先

黃色。

黃 井。榮美切 紙

黃色。

黃 クワイ、エ。虎猥切 賄 古對切 隊

青黃色。

黃 ショウ、ソウ。諸應切 徑

青黃色。

黃 クイ、エ。戶圭切 齊

黃色の鮮明なるにいふ字。

黃 クワ、ケ。胡瓦切 馬 クワイ、エ。胡卦切 卦

對一は黃色。

黃 シウ、ジュ。昌終切 東

黃色。

黃 テン、他年切 先

黃白色。

黃 クワウ、ワウ。胡光切 陽

瘴に同じ。

六畫

黃 井。榮美切 紙

黃色。

黃 クワイ、エ。虎猥切 賄 古對切 隊

青黃色。

黃 ショウ、ソウ。諸應切 徑

青黃色。

黃 クイ、エ。戶圭切 齊

黃色の鮮明なるにいふ字。

黃 クワ、ケ。胡瓦切 馬 クワイ、エ。胡卦切 卦

對一は黃色。

黃 シウ、ジュ。昌終切 東

黃色。

黃 テン、他年切 先

黃白色。

黃 クワウ、ワウ。胡光切 陽

瘴に同じ。

七畫

黃 ケン。許兼切 豏

赤黃色、かばいろ。○黃色。

黃 テン、テン。直廉切 鹽

黃色。

八畫

黃 テン、トン。張廉切 鹽

黃色。

黃 セン。將先切 先

黃色。

黃 テン、テン。特廉切 鹽

黃色。

黃 曙に同じ。

黃色。

黃 蹄に同じ。

黃 イ。養里切 紙

黃病、わうれつびやう、わうだん。

黃 シヤク、サク。七略切 藥

皮の淡黃色、うすきいろ。

黃 トン。他昆切 元 タン。他端切 寒

黃色。

九畫

黃 テン、他廉切 鹽

黃色。

黃 テン、テン。特廉切 鹽

黃色。

黃 トン、ドン。他渾切 元

黃色。

黃 クワウ、ワウ。胡光切 陽

脳に同じ、はれやまひ。

十畫

黃 井。榮美切 紙

黃色。

黃 クワイ、エ。虎猥切 賄 古對切 隊

青黃色。

黃 ショウ、ソウ。諸應切 徑

青黃色。

黃 赤黃色。

黃 クワウ、ワウ。戶盲切 庚

藤の屬、織物となすべきもの。

黃 ウン、チン。云粉切 吻

面色、金に黃色となるにいふ字、きばむ。

黃 暉に同じ。

十一畫

黃 クワウ、ワウ。胡光切 陽

卵中の黃なるもの、きみ。

十二畫

黃 フウ、虞皓 ロウ 切 皓 耶到 切 號

黃色。

黃 セン。昌善切 銑

黃色。

黃 クワウ、ワウ。胡光切 陽

火の貌にいふ字。

十三畫

黃 クワウ、ワウ。戶盲切 庚

學會、まなびごころ。○〔後漢〕「更修二一宇一。

黃 シヤク、サク。七略切 藥

皮、淡黃なるもの、うすきいろ。

黍部

黍 ショ、ソ。舒呂切 語

一穀類の一、苗は蘆に似て高さ丈餘あり、穗は黑く實は淡黃なり、きみ、きびの實に黏分あるものは、もちきび。○〔禮〕一曰二藉一合二。

一古昔は輕重を量るにきびの粒を單位としたるより、極めて少なき重さにいふ字。○〔漢〕權二輕重一者不レ失二一黍一。

〔采菽〕いねともびと。○〔漢〕二長鋏一…。

〔角黍〕菰葉を以て黏米を包みてつみてむしたるもの、一種のちまき。○〔王仲甯〕駁俗尊風書傳…。

〔黃黍〕もちきびの異名。○〔右今註〕采之黏者

〔稷黍〕本謂之粢、亦曰…。

〔秬黍〕可の名。〔箱〕黍酒…古之貢弓。

〔黍米〕穀の名、ねめおしわらやむし、又、酒の名。○〔史〕夢二…一。

三畫

黎 ジョ、人渚 チョ、張興 ニョ。切ト。切 語

ればる、れやすし、黏。

剌 ヂツ、尼質 ニチ。切 質 ジン、而振 ニチ。切 震

一ればる〔黏〕、二のり〔膠〕。

黎 レイ、耶癸 ライ。切 齊 ソ。眞脂 切 支

一膩のさいくに用ふる黍黏、くつのり、もちきびのり。○〔詩〕「筆一」。

二衆庶、もろ〳〵、たみ。○〔書〕「厥土青一」。

三姓に同じ、くろし。○〔書〕「厥土青一」。

四遽に同じ、ころほひ、ころ。○〔史〕「一明園二宛一城一」。

四畫

黏 デン、チン。女廉切 鹽

一相著くつく。○〔禮器〕「須相一著」

二やはらかにして物に著くまろあるもの稠くなるればりを有すればる。○〔白居易〕「泥一雪滑足力不レ堪」。

三ればらしむれやす。○〔齊民要術〕「爲二膏澤所一」

四かゆ〔粥〕のり、糊、もち〔糯〕きびかうるし〔漆〕。○〔晉〕「飯一一粒」。

五ればるとき、ればるり力ればり、又ればりありて著きやすし、ればし。○〔戰〕膠漆至一也。

黏 ヘツ、蒲結 ベチ。切 屑 ヒツ、蒲必 ビチ。切 質

かうばし〔香〕。

黏 コ、ウ。戶吳切 虞

かゆ〔粥〕のり〔糊〕。

黏 リ。力其切 支

心ほる〔恍〕

六畫

黏 チュ。陟輸切 虞

ればる〔黏〕、れやす、〔黏〕。

黎 ダ、女下 馬 ジャ、女加 麻

一膩のさいくに用ふる黍黏、くつのり、もちきびのり。

二衆庶、もろ〳〵、たみ。○〔詩〕「筆一」

三姓に同じ。

七畫

黏 ナウ、ニュ。女九切 有

ればる、れやす、〔黏〕。

黏 コ、ウ。胡故切 遇

のり〔黏〕。

黏 キン、居隱 コン、切 吻 キン、馮中 コン、切 東

ればる、れやす、〔黏〕。

五畫

黏 ハウ、ヘウ。披教切 效

黍或皮、きびみそのかは。

黎 ダ、子。女下切 馬

黏著す、ればりつく、ればしつく。

黏 ヂツ、尼質 ニチ。切 質 ジツ、人質 ニチ。切 質

ればる、ればす、〔黏〕。

黏 ナウ、ニュ。女九切 有

ればる、れやす、〔黏〕。

黏 コ、ウ。胡故切 遇

のり〔黏〕。

黏 デン、チン。尼占切 豔

心の物事に著するにいふ字、つく。

黏 ホク、ボク。蒲北切 屋

黍禾や豆の潰れし下葉を治め去るにいふ字、又、黍豆の別名。

黏 ヒヨク、ヒキ。弼力切 職

一前條に同じ。二ればる〔黏〕。

黏 サイ、セ。所實切 質

黏ばらざる貌にいふ字。

黏 ダ、陟加 チヤ。切 麻 竹下 切 馬

膠に同じ。○〔禮四公記〕「實二碧一瑞」

二鏡に同じ。○〔左〕「擇二菜一」

〔黏蟲〕蚊の名。○〔爾雅〕「蟠有一一」。

〔黏蟬〕たみぐさ、庶民。○〔蘇軾〕「黍一過一」。

〔黏蟬〕前代の民。○〔黏蟬〕「蒸一一」。

〔黏蟬〕隨國のたみ。○〔杜甫〕「高齋及一一」。

黏 ヂツ、尼質 ニチ。切 質 ジツ、人質 ニチ。切 質

ればる、ればす、〔黏〕。

黏 ヒ。拜彌 切 支 ハイ、旁卦 ヘ。切 卦

黍の屬ひえ。

九畫

黏 デン、チン。尼占切 豔

心の物事に著するにいふ字、つく。

黏 キン、コ。居御切 御

一きび、〔黍〕。二ればる、ればす、〔黏〕。

黏 ケン。輕甸 切 霰 乞憐 切 先

牟典 切 銑

くろきび〔黍〕、もちきび〔稷〕。

黏 ヒ。拜彌 切 支 ハイ、旁卦 ヘ。切 卦

黍の屬ひえ。

黏 ヒ。拜彌 切 支 ハイ、旁卦 ヘ。切 卦

黍の屬ひえ。

黏 ケン、コン。去阮切 阮

一ひろし〔博〕。二ればる〔黏〕。

三こと〔物〕。

黏 ホウ、フ。方奉切 腫

參を臨ぐひる。

黏 キョ、コ。居御切 御

一きび、〔黍〕。二ればる、ればす、〔黏〕。

黏 ケン。輕甸 切 霰 乞憐 切 先

牟典 切 銑

くろきび〔黍〕、もちきび〔稷〕。

黏 ダ、陟加 チヤ。切 麻 竹下 切 馬

膠に同じ、さらす。

黏 ヨウ、ヤウ。與職切 職

黍に同じ、さらす。

黏 ケン、コン。胡玩切 翰

ればる〔黏〕。

黏 ヂツ、陟栗 チツ。切 質

黏る貌にいふ字。

黏 ヂツ、陟栗 チツ。切 質

黏に同じ。

十畫

黏 レン。勒兼切 鹽

禾黍の疎なる貌にいふ字、まばら。

黏 タウ、トウ。土皓切 晧

蜀黍、たうもろこし。

黏 ヂョク、ニク。呢力切 職

れればる〔黏〕。

黏 ヂ。丑知切 支

鳥を捕ちふるに用ふる黏、もち、とりもち。

十一畫

黏 レン。力展 切 銑 陵延 切 先

禾を縻ろ、もみする。

黏 バ、マ。莫加切 麻

もちきび〔黍〕。

黏 タク、チヤク。陟革切 麥

チヤク。竹益切 陌

一のり〔黏飯〕。二黏る貌にいふ字、れ、ひろし、〔博〕。

十三畫

黏 ドウ、ノウ。乃董切 董

一果子の總名。二耕種す、たつくる。

十六畫

黏 ドウ、ノウ。乃董切 董

一果子の總名。二耕種す、たつくる。

十七畫

黏 ロウ、ル。力董切 董

黏る貌にいふ字。

黑部

黑 コク。呼北切 職

一五色の一、くろ、火のふすべたる色、晦冥なる色。○〔禮〕「夏后氏尚レ一」。

二くろし。

（いくろ色なり。○〔書〕「厥土一墳、（ろ）晦冥なり、くらし。○〔漢〕「日一大風起」。

三くろくなる、くろくなす、くろむ。○〔魏註〕「池水盡一」。

四くろきもの。○〔漢〕「得レ一者斫二文一」。

五きび〔黍〕。○〔周〕「其實黍黃白一」。

六羊、豕。○〔詩〕「以二其騂一」。

〔黑黍〕きいろを含みたる黑き色にいふ字。○〔禮〕「即自一」。

〔黑黍〕みめもしく色くろし。○〔後漢〕「一面」。

〔黑黍〕目の入りてくろきをいふ。○〔管〕「時已一」。

〔黑黍〕色のくろきにいふ字。○〔韓詩外傳〕「黑色一」。

〔黑黍〕前に同じ。○〔禮〕「一幽」。

〔黑黍〕青色と黑色と、又、くろをいふ。○〔時〕「正黑」。

〔黑黍〕前に同じ。○〔管〕「一幽」。

〔黑黍〕前に同じ。○〔時〕「其色一」。

〔黑黍〕赤色と黑色と、又、くろをいふ。○〔古〕「一之貴」。

黑 ケン、チン。巨淹切 鹽

一くろし、〔黎〕。○〔戰〕「扶二社一稷一安」

二首に通じ用ふ。○〔易〕「長爲二一疇之躅一」。

黑 キン、ゴン。巨金切 侵

一蟲ほ神の名。

黑 タン、都感 トン。切 感 チン。勝甚 切 寢

一禪垢、汙濁、黑染、あか、けがれ、よみ。○〔莊子〕「或一一點而汙レ之」。

二黑き貌にいふ字。○〔潘岳〕「翠一幕一以禦二布一」。

黑 キ、ケ。許既切 未

黑き貌にいふ字、物の生ずる貌にいふ字。○〔左思〕「萬物蕃生一一！」。

黑 猫文の肱の字。

【黔】 ケン。吉典切 〔銑〕
一 皮黑しくろし。二 まわ（皮·皺）。

【黗】 トン。他衮切 〔阮〕 他昆切 〔元〕
にごる（濁）、くろし（黑）。

【默】 ボク、モク。亡北切 〔職〕
一 犬の暫く人を逐ふにいふ字、おふ。
二 もだす。
（い）言語なきと、聲音絶えたるを、ひッそりとしたると。○〔莊〕「至道之極昏々——」。
（ろ）傾語せざると、多言せざると。○〔晉〕「統靜——有二遠志一」。
（は）諒闇（きちう）の禮を守ると。○〔國〕「於レ是乎三年——以思レ道」。
（に）聞こえず顯れず。○〔傳亮〕「顯——之際」。
三 もだす、もだす、だまる、もづまる。○〔易〕「或——或語」。

【黛】 タイ。他盖切 〔泰〕
太だ黑し。

【黙】 カウ。虛郎切 〔陽〕
黑き貌にいふ字。

【黖】 ショ、ソ。上與切 〔語〕
黑し。

【黕】 黕に同じ。

【黝】 黑に同じ。

五畫

【黚】 ケン、ゴン。巨淹切 〔鹽〕 キン、ゴン。巨金切

黑し。
〔感〕 カン、コン。古暗切 〔勘〕

【黛】 タイ、デ。徒耐切 〔隊〕
一 まゆ。
（い）眉毛を去りて其の處に眉のさまを畫くに用ふる黑色のもの、まゆがき、まゆずみ。○〔楚辭〕「粉白——黑」。
（ろ）まゆずみにて畫ける眉、かきまゆ。○〔梁元帝〕「怨——舒還斂」。
二 青黑色。○〔黃庭堅〕「山撥レ——、水投レ藍」。
（粉黛）おしろいとまゆずみと。○〔陸〕「盛——」而戲二千夫一。
（鉛黛）前に同じ。○〔劉禹錫〕「夫——所二以飾レ容」。
（紅黛）べにとまゆずみと。○〔劉禹錫〕「——飾」容。
（翠黛）みどりのまゆずみ、又、山などのあをぐろき色にもいふ語。○〔杜甫〕「翠娥——」。
（眉黛）まゆずみ。○〔沈約〕「試畫——」。
（青黛）空青に似て一層色の深きもの。○〔隋〕「朱砂——」。
（淡黛）こきまゆずみ。○〔許子闕〕「——輕紅」「畫」。
（淺黛）うすきまゆずみ。○〔劉孝綽〕「——飛鴻」花色二。
（努黛）額上に高く黑むたるまゆずみ。○〔白居易〕「——舟人評」。

【黜】 チュツ、チュチ。丑律切 〔質〕
しりぞく。
（い）擯す。○〔書〕「——陟幽明二」。
（ろ）退く。○〔莊〕「君將レ——二嗜欲二」。
（は）逐ふ。○〔公羊〕「——レ公者非二吾意一也」。
（に）去る。○〔國〕「以揚二沈伏二而——二散越二」。
（ほ）放つ。○〔左〕「使レ無二——嫚二」。
（へ）廢す。○〔國〕「公將レ——二太子申生二」。
（と）けがす。○〔左〕「——二其事二」。
（ち）絶つ。○〔書、序〕「將レ——レ殷」。
（降黜）官位などの等級をおとしさぐ。○〔唐〕「狄、加——二」。○〔書〕「——夏命二」。
（放黜）はなちしりぞく。○〔書〕「——二師保二」。
（罷黜）やめしりぞく。○〔漢〕「卓然——二百家二」。
（廢黜）前に同じ。○〔漢〕「卒用——」「家二」。
（抑黜）おさへしりぞけて用ひず。○〔漢〕「——二百姓一」。
（削黜）官爵などを貶下するにいふ語。○〔漢〕「輕——二」。
（遷黜）前に同じ。○〔漢〕「——其官二」。
（貶黜）前に同じ。○〔漢〕「自傷——二父爵二」。
（斥黜）罪過ある者をたゞして退ける。○〔後漢〕「恐——」。
（屛黜）しりぞけて用ひず。○〔後漢〕「——二族」「邪」。
（竄黜）職務にある者をやめしりぞくるにいふ語。○〔後漢〕「——者三百餘人」。
（黜陟）人のよしあしなどを區別してしりぞく。○〔後漢〕「其器所——二」。
（黜幽）忠賢なるの進路をとぢふさぐ。○〔後漢〕「——忠功二」。
（黜免）いちじるしく貶下。○〔晉〕「宜加——」、以寵·朝倫と。
（譴黜）罪過などをせめて官位などの等級をおとす。○〔晉〕「少加——」と。
（寬黜）官位をおとし遠き處に放つ。○〔宋〕「彈劾」「——」。

【䵑】 バイ、メ。莫佩切 〔隊〕
淺黑、あさぐろ。

【黣】 バイ、マイ。莫貝切 〔泰〕
深黑色、くろ。

【黫】 タツ、タチ。當割切 〔曷〕
黑くして黯あると、くろびかり。

【黰】 シン。之刃切 〔震〕
黑し。

【黔】
俗の黔の字。

【黈】 チュ、ツ。知庾切 〔麌〕
文句の點、筆畫の點。○〔衛常、書勢〕「——點·黝」。

【黝】 イウ、ユ。於糾切 〔有〕
一 黑色の微しく青色を帶びたるにいふ字、あをぐろ、あをぐろし。○〔周〕「陰祀用二——牲二」。
二 ぬる（塗）。○〔禮〕「天子諸侯之楹——堊」。
三 ——糾は、特出せる貌にいふ語。○〔王延壽〕「互——糾而搏負」。
（黝々）あをぐろき色の貌にいふ語。○〔任昉〕「——桑柘繁」。
（翳黝）ひそれとなりて暗黑なると。○〔魏了翁〕「白晝翳——二」。

【黝】 イ。於脂切 〔支〕
縣の名。○〔漢〕「丹陽郡——縣」。

【䵎】 エウ。一笑切 〔嘯〕
黑色を用ひて地を塗る、ぬる。

【黯】 アン。多忝切 〔琰〕
一 細小なる痕迹、ちよぼ、ぼち、ほし。○〔詩疏〕「其白質如レ玉、粲——爲レ文」。
二 文辭のくぎり又は物事のしるしなどにしるす小標、くぎり、しるし。○〔宋〕「凡所レ續無レ不レ加二標——二」。
三 一處に打著したる筆迹。○〔王羲之〕「每レ作二——一、如二高峯墜石一」。
四 零滴、しづく。○〔陸游〕「雨——隨二車軸二」。
五 落片、ひら。○〔杜甫〕「風飄二萬——一正愁レ人」。

六 小存在、一著處。○〔五燈會元〕「法·師識二無·窮經·論一、還二——一倘不二奈何二」。
七 文字の抹消、字句の訂正、けし、なほし。○〔後漢〕「攬レ筆而作レ文、無レ加レ——」。
八 汚垢、過疵、けがれ、きず。○〔劉孝儀〕「百行無レ——」。
九 漏刻（みづどけい）の時を數ふるに用ふる字。○〔韓愈〕「鷄三號更五——」。
十 ぽちをしるす、しるしをつく、てんをうつ。○〔王羲之〕「安——二其點一、須二空中遙擲レ筆作一レ之」。
十一 物のてんをうちたるが如き情態をなすにいふ字。○〔庾信〕「連·珠疎——」。
十二 注ぐ。○〔梁簡文帝〕「露——二蜜·飴二」。
十三 檢す。○〔唐〕「——二檢兵·馬一萬三千二」。
十四 汚す。○〔司馬遷〕「適足三以發レ笑而自——二耳」。
十五 指す。○〔白居易〕「指——之下」。
十六 著す。○〔史達祖〕「蔌·々吳·醲輕——」。
十七 畫く。○〔南〕「眉·目如レ——」。
十八 燈に火を傳ふ、ともす。○〔岑參〕「火——伊·陽村」。
十九 諾して頭を下ぐ、うなづく。○〔中吳紀聞〕「石皆爲二——頭二」。
（點々）黑をうちたる如くぽちぽちとちりあると。○〔白居易〕「香·枝——翠苔々」。
（點翰）あかきまるし。○〔庾信〕「——翠空鳥」。
（點滴）ちのあと。○〔陸游〕「——漬々新報仇」。
（點漏）みづもり時計の水のぽちぽちとたるゝと。○〔岑參〕「曉·向·禅·頭·點——」。

【點】 セン。之廉切 〔鹽〕
人の名、轡——、鮑——。

【黖】 タ。丁賀切 〔箇〕
草の葉壞る、やぶる。○〔齊民要術〕「故·墟種レ麻、有二——·葉夭·折之患二」。

六畫

【黫】 ケン。古典切 〔銑〕
黑皴、くろしわ。

【黬】 ケン、ゲン。胡典切 〔銑〕
黑き貌にいふ字。

【黰】 テン。多殄切 〔銑〕
黑色、くろ。

【䵓】 ハウ、ホウ。匹江切 〔江〕
黑き貌にいふ字、くろし。

【黬】 クワイ、エ。呼恢切 〔灰〕
淺黑色、あさぐろ。

【黟】 エイ、烏雞切 〔齊〕 アイ。切 イ。於脂切 〔支〕
一 こくたん（黑·木）。二 くろし（黑）。

【䵒】 前條に同じ。

【黜】 ウツ、チチ。於勿切 〔物〕
一 くろし（黑）。二 ふかし（深）。

【䵕】 サツ、セチ。初轄切 〔黠〕
くろし（黑）。

【黖】 シヤ、セ。徐野切 〔馬〕
淺汙、けがれ。

【黫】 サン。相干切 〔寒〕

【黱】 サイ。作代切 〔隊〕
黲——は、下の色。
黑染、くろぞめ。

【黠】 カツ、ガチ。胡八切 〔黠〕
一 質堅くして色黑し、かたし、くろし。
二 慧敏なり、さとし、さかし。○〔晉〕「憕·之體·中擬——各半」。
三 惡才あり、わるがしこし。○〔戰〕「山·澤之獸、無レ——二於麋二」。
四 さとき人、わるがしこき者。○〔皇甫湜〕「彈レ豪糾レ——」。
（狡黠）わる智慧あると。○〔史〕「——奴人之所レ患也」。「——者」。
（慧黠）すばやくさかし。○〔魏、註〕「正·謁者爲之致——二」。
（姦黠）奸惡にしてさかし、又、其の者。○〔北〕「引·「——神·庭」。
（奸黠）輕薄にして奸才あり、又、其の者。○〔後漢〕
（凶黠）奸凶にして惡才あり、又、其の者。○〔後漢〕「胃·頓——」。
（猾黠）わるがしこし。○〔魏〕「善·雄——」。
（敏黠）さかし。○〔北〕「——善彈琵琶二」。
（聲黠）敏捷なると。○〔南〕「性甚——」。
（敏黠）前に同じ。○〔選〕「性點——二」。
（豪黠）すぐれてさかし、又、其の者。○〔唐〕「此皆番·將豪——」「歸·合二」。
（陰黠）陰險にしてさかし。○〔唐〕「——善宜·納鄉·臨——」。
（佞黠）みかしく柔順ならざると、又、其の者。○〔唐〕「至——未二曾曲·法假レ之」。

【黸】 ロ、ル。力姑切 〔虞〕
黑ぬりの弓。

七畫

【黢】 シュツ、シュチ。促律切 〔質〕
くろし（黑）。

【黥】 ケン、ゲン。倪甸切 〔霰〕

【黲】 バウ、モウ。莫江切 〔江〕
黲を濕す、すみずる。

【黮】 バン、モン。亡范切 〔豏〕
くらし（冥·暗）、わたくし（私）。

【黨】 セウ。七肖切 〔嘯〕
くらし（暗）。

【黵】 ラツ、ラチ。盧活切 〔曷〕
——黲は、面の點、あざ、ほくろ。

【黷】 ヨク、愈玉切 〔沃〕
くろし（黑）。

【黰】 バイ、メ。武罪切 〔賄〕
黑き貌にいふ字。

【黧】 レイ、ライ。力奚切 〔齊〕
面上又は皮膚の黑氣あるにいふ字、すすくろし。○〔列〕「肌·色䵟·——」。

【黳】 まだら（斑）。

八畫

【黗】 トン。暾頓切 〔願〕
——䵣は、事に堪へざると、おろか。

【䵣】 コン。古困切 〔願〕
一 純黑、まくろ。二 忘失す、わする。
二 黗——は、おろか。

【黤】 アン、エン。於檻切 〔豏〕 アン、オン。烏感切 〔感〕
青黑、あをぐろ。

【黶】 エン。衣檢切 〔琰〕

黮 タン、ドン。徒感切【感】 雲黑しくろくも。

黫 黰に同じ。

䵣 コン。虎本切【阮】 くろし（黑）。

䵒 ホン。逋昆切【元】 くろし。

䵛 セフ。七接切【葉】 綠環る、いさみだる。

黥 ケイ、ギヤウ。渠京切【庚】 面の墨刑、いれずみ。○〔書〕「爰始淫爲二劓刵椓―一」。（黥劓）いれずみ。○〔國〕「―・―之屬」。

䵗 俗の黥の字。

黔 キン、居吟 コン。切【侵】 カン、古咸 ケン。切【咸】 淺黃色、あさぎいろ。

䵍 クン、コン。許云切【文】 もゝいろ（淺絳）。

䵏 䵍に同じ。

䵎 ウツ、チチ。紆物切【物】 黃黑色、さくろ。

䵐 エツ、オチ。於謁切【月】 變色す、いろかはろ、あす。○〔韋莊〕「淚霑紅袖―」。

黧 ライ、レ。落哀切【灰】 ―黵は大いに黑し。

黎 リ。鄰知切【支】 ライ。洛代切【隊】 赤黑色、あかぐろ。

䵑 チ。展多切【紙】 字畫の點、句絕の點。○〔梁武帝〕「―黏點黵」。

黧 レイ、郎奚 ライ。切【齊】 リ。良脂 切【支】 ライ、力皆 レ。切【佳】

【支】 くろし（黑）。○〔戰〕「―牛之黃也」。（編案）黑色。○〔徐渭〕「黌泉赤地濕―・―」。

䵬 タフ、ドフ。徒合切【合】 ❶くろし、くろ（黑）。❷みだりにしげる（猥茸）。

黨 タウ。多朗切【養】 ❶周の行政區劃にて五百家の稱。○〔周〕「掌二其―之政令政治一」。❷郷里、むら、さと。○〔屈平〕「惟此―人其獨異」。❸朋黨、一類、歸趨共に同じき羣、意氣互ひに通ずる衆、ともがら、なかま、むれ、くみ、とも。○〔左〕「里丕之―」。❹親族、姻戚、ちつゝき、みより、えんじや。○〔禮〕「睦二于父母之―一」。❺阿附す、おもねる、つく。○〔國〕「比而不レ―」。❻相助けて非を隱す、たすく。○〔論〕「君子不レ―」。❼かたよる（偏）。○〔書〕「無レ偏無レ―」。❽たぐふ（比）、したしむ（親）。○〔荀〕「順二禮義一―二學者一」。❾まじはろ（交）。○〔後漢〕「無レ所二交―一」。❿かされて（累）、しきりに（頻）。○〔荀〕「怪星之―見」。⓫しろ（知）、さとろ（悟）。○〔揚雄〕「楚謂二之―一或曰レ曉、齊宋之閒謂二之晳一」。⓬讜に同じ、うつくし、よし。○〔荀〕「博而―正」。⓭儻に同じ、こひねがふ、もし。○〔漢〕「―可レ得レ見乎」。⓮ところ（所）、とき（時）。○〔公羊〕「往―」。

（偏黨）かたよる。○〔詩序〕「教無二―一」。

（吾黨）自己の黨類を指していふ語。○〔論〕「――之小子狂簡」。

（郷黨）郷里のこと、一萬二千五百戸を郷といひ五百戸を黨といふ。○〔論〕「―・―稱」。

（朋黨）彼此の別をたて互に相結びたる黨類、又、たがひにくみあひてなかまとなること。○〔史〕「禁―一以勵二百姓一」。

（比黨）互になかまを結び相比周すること、又、其のやから。○〔宋〕「―・―」。

（樹黨）黨徒をたて結ぶこと。○〔宋〕「挾田―一」。

（徧黨）前に同じ。○〔唐〕「―・―」。

（結黨）前に同じ。○〔張衡〕「―・―連羣」。

（阿黨）たがひにおもねりて相結合す、又、其のやから。○〔論〕「是謂―・―」。

（徒黨）徒黨のこと、ともがら。○〔中論〕「率二其―一」。

（賊黨）賊徒などのかしらぶん。○〔後漢〕「斂二其―一」。

（僚黨）朋黨のこと。○〔後漢〕「不レ交―・―」。

（凶黨）兇惡者のともがら。○〔漢〕「預在―・―」。

（內黨）內部の黨援。○〔韓〕「―・―外援」。

（強黨）つよき黨類。○〔新唐〕「以結―・―」。

黨 シヤウ、サウ。止兩切【養】 人の姓。○〔左〕「臨二―氏一」。

黬 ヨク、于逼 イキ。切 キヨク、況逼 ケキ。切【職】 イク、乙六 オク。切【屋】 羔裘の縫、ぬひめ。

九畫

䵭 シヤ、セ。之夜切【禡】 くろし（黑）。

䵤 エツ、オチ。於謁切【月】 色變はる。

䵩 レフ。盧協切【葉】 竹の裡のくろみ。

䵨 テフ。的協切【葉】 たみ（黔首）。

䵷 サツ、サチ。初八切【黠】 くろし（黑）。

黳 アン、烏閑 エン。切【刪】 イン。於仁 切【眞】 くろし（黑）。○〔史〕「―・然黑色甚明」。

䵺 テン、デン。堂練切【霰】 かす、おり（滓）。

䵿 メン、メン。莫還切【刪】 車輪を畫く、ゑがく。

䵳 チヨウ、ヂヨウ。丈證切【徑】 雲の色にいふ字。

䶃 カン、ゲン。五咸切【咸】 釜の底の黑、なべずみ。

黬 アン、乙減 エン。切【豏】 アン、鄔感 オン。切【感】 ❶直に聚まる氣、又、黑くして分別すべからざること。○〔莊〕「有レ生―」。❷きずあと（痕）。

黤 エン。衣檢切【琰】 中黑。

䵷 エイ、エ。烏圭切【齊】 けがる（汚）。

黭 アン、烏感 オン。切【感】 エン。衣檢 切【琰】 イン、於錦 オン。切【寢】 黑色の貌にいふ字、くろし、又、卒かに至る貌にいふ字、には（ー）。○〔荀〕「―然而雷擊レ之」。

䵸 アン、ナン。乃玷切【琰】 字畫の點。

䵽 ル井。力遂切【寘】 くろし（黑）。

黬 ヤウ。餘亮切【漾】 シヤウ、サウ。式羊切【陽】 赤黑し。

䵵 瞳に同じ。

黮 タン、他感 トン。切【感】 タン、他紺 トン。切【勘】 チン。陟甚 切【寢】 くろし（黑）、くらし（闇）、にごろ（濁）。○〔莊〕「受二其―闇一」。（黮々）雲などの黑き貌にいふ語。○〔東晳〕「――」。（黮闇）前に同じ。○〔張說〕「氣侵以―・―」。（黮黯）前に同じ。○〔國語〕「―・―之容」。（黮黮）瑕黑にしてあきらかならざる貌にいふ語。○〔疑說〕「皆―而不レ渙」。

䵋 チン、ザン。直稔切【寑】 けがる（汚）。

黮 セン、セン。時染切【琰】 くろし（黑）、又、葚に同じ。○〔詩〕「食二我桑―一」。

䵻 ヘイ、ヒヤウ。薄經切【青】 ヘイ、ヒヤウ。博名切【庚】 黑き色の飾。

黫 チク。烏谷 切【屋】 アク、乙角 オク。切【覺】 墨刑、いれずみ。

黯 アン、乙減 エン。切【豏】 アン、鄔感 オン。切【感】 アン、乙咸 エン。切【咸】 ❶くろし（黑）、くらし（暗）。○〔家語〕「―然而黑」。❷別離を傷む貌にいふ字、かなし。○〔江淹〕「―然銷レ魂」。（黯々）暗黑の貌にいふ語。○〔陳琳〕「――天晦」。（黯黮）雲氣などのうすぐらくあきらかならざるにいふ語。○〔揚雄〕「掃二乾坤之――一」。

䵼 黰に同じ。

䵾 グワイ、ゲ。牛會切【泰】 虎。

十畫

黣 ジヨク、ニク。如欲切【沃】 あかつく（垢黑）。

䵹 シ。子之切【支】 ❶深黑色、くろ。❷くろぞめ（染黑）。

䵺 ハン、バン。薄官切【寒】 ―黵は、下色。

䵽 ボク、モク。莫北切【職】 くろし（黑）。

黰 シン。章刃切【震】 黑髮美し、うつくし、くろし、又、美しき黑髮、くろかみ。○〔左〕「昔有仍氏生レ女、―黑而甚美」。

䵿 アン、エン。烏閑切【刪】 黑き染色、くろ。

䵿 ベキ、ミヤク。莫狄切【錫】 ❶くらし（闇）。❷草木叢がる、むらがる。

黱 タイ、デ。徒耐切【隊】 黛に同じ、まゆずみ、かきまゆ、こきあを。○〔杜甫〕「―色參レ天二千尺」。

䵹 チン、ザン。直稔切【寑】 黑色。

十一畫

黲 サン、ソン。七感切【感】 うすぐろし（淺青黑）、くらし（黯）。○〔文選〕「茫茫宇宙、上―下黷」。（黲黷）うすぐらし、又、くろし。○〔酉陽雜俎〕「仍帶――」。

䵴 サン、ザン。倉敢切【感】 日の暗色にいふ字。

䵷 ロク。盧谷切【屋】 黯―は、黑く垢つく。

黳 エイ、アイ。烏雞切【齊】 くろし（黑）、又、小黑、黑子、ぼち、ほくろ。○〔酉陽雜俎〕「色若レ―」。

䵲 セキ、倉歷 シヤク。切【錫】 セキ、七迹 シヤク。切【陌】 ―黵は、色敗る、くろむ。

䵱 チヨウ、チユ。丑凶切【冬】 穴の中の闇黑なるにいふ字、くらし、又、中くらき穴、あな。

䵸 ロ、ル。龍都切【虞】 黑き弓。

黐 リ。鄰知切【支】 赤黑色、あかぐろ。

黴 ビ、ミ。武悲切【支】 ❶垢つく、黑し、すゝく、くろし。○〔淮〕「舜―黑」。❷物の雨に中りて青黑くなれること、かび。❸やぶる（敗）。

黴 バイ、莫佩 メ。切【隊】 バイ、莫貝 切【泰】 筆を點ず、くだす、おとす。

䵻 シヤウ、サウ。式羊切【陽】 赤黑き色、くりいろ。

䵼 イ。羊利切【寘】 黃白し、かきいろ。

十二畫

黲 チョウ、ヂョウ。丈證切 徑
一ノ部ニハ「黑シ。二ノ部ニ同じ
米黒み壞ろ、くさる。

黮 ホク、ボク。普木切 屋
一くらし（暗。二うすぐろし（淺黒。

黯 サヲ、サチ。鬱括切 曷
くろし（黒。

黲 ウツ、チチ。於物切 物
俗の繁の字。

黰 タイ、デ。徒對切・隊
黄黒色。

黵 ソウ、ゾウ。昨亙切 徑
一面黒し、くろし。
二顏の黒子ほくろ。

黶 ソウ、ゾウ。昨亙切 徑
ほくろし（許慎。○〔佛書〕顏色端妙無諸好ー二。

黷 バツ、莫八 國 バイ、暮拜 卦 切 メ。
くろし（黒。

黰 キン、ゴン。巨金切 侵
黄黒色、ちやいろ。

黲 アン、エン。乙減切 豏
鬱暗し。

黵 キョク、ケキ 詐極切 職
赤黒き色。

黵 キ。虛其切 支
黒色。

黵 セキ、シャク。施隻切 陌
物の色にいふ字、一說に赤き色にいふ字。

黯 ソウ、ゾウ。昨亙切 徑
一ハ、ひい。二面黒し。

黵 アン、於檻 豏 アン、烏敢 感 エン。切 オン。切
エン。於瑛 銑 エン、乙鹽 鹽 オン。切
わすろ（忘。

黲 タイ、デ。徒對切 隊

黹部

黹 チ。陟几切 紙
一縫ふ、すふ。○〔爾〕註ニ今人呼ー鉄衣ニ為ルー。
二刺繍ぬひ。○〔爾疏〕「黼黻繡ー為ル」

四畫

黻 フン、ホン。方吻切 吻
いろどり（綵。○〔說文〕「黹衣山ー龍華蟲ー宴」

五畫

黼 フツ、ホチ。分勿切 物
一古昔の禮衣に施したる一種の繍文、あや、ぬひ、半黒半青なる色を以て兩の巳の字の相背ける形をぬひいだせるもの。○〔詩〕「ー衣繡裳」。二兩の巳の字の相背ける形のぬひを施せる禮衣。○〔禮ニ〕諸侯ー大夫ー」。三章名。「晃ー斑」。四〔左〕「黹ー山龍華蟲」。

黻 フツ、ホチ。分勿切 物
一古昔の禮衣に施したる一種の繍文、あや、ぬひ、半黒半青なる色を以て兩の巳の字の相背ける形をぬひいだせるもの。○〔詩〕「ー衣繡裳」。二兩の巳の字の相背ける形のぬひを施せる禮衣。○〔禮ニ〕諸侯ー大夫ー」。三章名。「晃ー斑」。四〔左〕「黹ー山龍華蟲」。
〔別錄〕黒白のまじれるを文の形のぬひを云ふなり。○〔疏〕「前ニ同じ。○〔疏〕「前上ー」。

六畫

絲 サイ、セ。子對切 隊
五采を給ける裙の色。

九畫

黼 ヘン、メン。民堅切 先
ぬふ（繍。

黼 ヘン、メン。民堅切 先
さす、ぬふ（鉄。

黼 ヘン、メン。綿典切 銑
服の底、くつぞこ。

十一畫

黼 ショ、ソ。創擧切 語
五采の鮮かなるを、あざやか。○〔詩〕「衣ー」。

黽部

黽 バウ、ミヤウ。莫杏切 梗 〔說文〕象形。
蛙の屬、かへる、あをがへる。○〔埤雅〕「善怒」。
〔別錄〕ろをかくるの一種。○〔爾〕「蒙ー」。

鼈 シヨ、ソ。創擧切 語
五采の鮮かなるを、あざやか。○〔詩〕「衣ー」。

十一畫

鼈 テウ、デウ。直遙切 蕭
堅ー、は蟲の名。

鼈 テウ、ヂウ。直遙切 蕭
朝に同じ。○〔楚辭〕「甲之ー吾以行」。

六畫

黿 シュク、ソク。七宿切 屋
ひき（蟾諸。

黿 シュク、ソク。七宿切 屋
一古文の蛙の字。○〔周〕「掌ー去ー」。「聲」。
二樂聲の淫猥なるを、○〔漢〕「紫色ー」。

黿 チュ。陟綸切 眞
前條に同じ。

黿 ア、エ。爲瓜切 麻
ひき（蟾諸。

黿 ア、エ。於郎切 唐
龍の屬。○〔郭璞〕「蛟ー鼉屬」。

黿 ハ。補火切 哿
ひき（蟾蜍。

黿 キヨ、丘据切 御 口擧 語 切 コ。
一ノ部ニハ「ひきがへる（蟾蠩。

黿 ク、コ。其俱切 虞
縄の屬。

黿 コウ、ク。居侯切 尤
一ノ部ニハ「龜に似たる一種の水鳥。
二小さき蟣蝨うみがめ。

黿 テウ、デウ。直遙切 蕭
堅ー、は蟲の名。

黿 テウ。陟遙切 蕭
朝に同じ。○〔楚辭〕「甲之ー吾以行」。

七畫

黿 シュク、ソク。七宿切 屋
一古文の蛙の字。○〔周〕「掌ー去ー」。「聲」。
二樂聲の淫猥なるを、○〔漢〕「紫色ー」。

黿 チュ。陟綸切 眞
前條に同じ。

黿 ア、エ。爲瓜切 麻
ひき（蟾諸。

黿 ア、エ。於郎切 唐
龍の屬。○〔郭璞〕「蛟ー鼉屬」。

黿 ハ。補火切 哿
ひき（蟾蜍。

黿 キヨ、丘据切 御 口擧 語 切 コ。
一ノ部ニハ「ひきがへる（蟾蠩。

黿 ク、コ。其俱切 虞
縄の屬。

黿 コウ、ク。居侯切 尤
一ノ部ニハ「龜に似たる一種の水鳥。
二小さき蟣蝨うみがめ。

黿 テウ、デウ。直遙切 蕭
堅ー、は蟲の名。

黿 テウ。陟遙切 蕭
朝に同じ。○〔楚辭〕「甲之ー吾以行」。

黿 シュク、ソク。七宿切 屋
ひき（蟾諸。

黿 ア、エ。爲瓜切 麻
ひき（蟾諸。

黿 チュ。陟綸切 眞
前條に同じ。

龜ー｜ー蓂は、くも。○〔爾註〕「今江・東呼三蜘蛛一、在二地中一布レ網者上。簡ー｜紹「幕草ー上二者草簡ー」。

七畫

龜 シン、時刃切 震 是忍切 軫 おほはまぐり「大・蛤。

八畫

龜 チ。陟離切 支 俗に蜘に作る。蟲の字の條を見よ。

龜 ベイ、マイ。莫兮切 齊 蟲の字の條を見よ。

九畫

黽 カヘ、カチ。丘葛切 曷 蛙の類、一に曰ふ蛙の聲にいふ字。

黿 シウ、シュ。七由切 尤 鼈に同じ。

十畫

鼇 ケイ、ガイ。胡雞切 齊 水蟲、かめのたぐひ。

鼉 ベウ、ミヤウ。亡狄切 錫 句ー｜は、魯の邑。○〔左〕「ー人門二於句ー二。

鼈 ベウ、ミヤウ。武庚切 庚 くらし（冥）。

十一畫

鼈 ガヘ、ゴヘ。五牟切 豪 海中の大鼈、おほすっぽん。○〔史〕「斷二ー足一以立二四・極一。

〔宜韻〕おほいなるすがめ。○〔爾〕「ー｜十五。〔師古〕「鼈能といふ上に同じ、時々出二水面一。○〔郭〕「ー｜負レ山。

十一畫

龐 ベ、マ。莫賢切 先 鼈ー｜は、龜の屬にして海邊の沙中に生ずるもの、一説に海鏡くちと。

龜 龜の木字。

龜 俗に繁に作る。

龜 ヘツ、拜列切 屑 へチ。切 屑

十二畫

鼈 タ、徒何切 歌 タン。唐干切 寒 セン、時戰切 霰

鼈に同じ。蟬蜴に似て長さ丈餘にして纖の如き甲あり。○〔爾〕「李・夏天、子命「蟬・蜕レ蛟取レ」。

十三畫

鼈 テン。多年切 先

鼎部

鼎 テイ、チヤウ。都挺切 迥

一かなへ。

（い）物を烹飪するに用ふる三足兩耳の金器。○〔周禮〕「引二重ー｜不レ程二其力一。

（ろ）古昔の極刑に處したる罪人を烹殺するに用ひし三足兩耳の金器。○〔史〕「見レ鼎起レ」。

（は）夏の禹の九牧の金を集めて九箇の宝器となす、王位承傳の寶器となす、夏亡びて殷の有さなり殷亡ぶるに及びて周の有さなり周また亡ぶるに及びて、王位帝業の稱にいふ字。○〔後漢二閻顯訊レ」。（に）かなへの三足は三公に象りたるより相位の稱にいふ字。○〔後漢〕「位登二台ー｜。

（ほ）易の卦の名。三三 離上 ○〔易〕「元亨吉。

（圖）鼎之

（ヘ）ときの名。○〔周禮〕「以二ー｜之法一。

（と）星の名。○〔史〕「ー｜有二大星一。

（ち）姓。○〔左〕「ー｜昭子。

鼐 ダイ、奴代切 隊 ナイ。切 泰 ドウ、寧鄧切 徑 ノウ。切 嘯

大いなる鼎、おほがなへ。○〔詩二ー｜鼎及鼐。

鼒 ベキ、ミヤク。莫狄切 錫

（ぬ）まさに二方一あたる（當）。○〔禮〕「天・子春秋一盛。

（る）のぶ（舒）でゆるやか（寛）。○〔禮〕「衆事ー｜、窗則小・人一。「謂二之ー｜。

（を）舟を維ぐ、つなぐ。○〔揚雄〕「維レ之（綱）つなぐもの（索）。○〔書經〕「敷勳鼎鉉ー｜。

（わ）かなへをもちゐて。○〔左〕「ー｜納二（カ）鼎ー｜。

（か）前に同じ。○〔周〕「カ鼎ー｜。

（よ）周の成王殷の九鼎を郟鄏に置し周業を大成したりしより後世帝業を守るものといふ。○〔儀禮〕「ー｜之設多。

（た）王位を圖謀する。○〔左〕「常主侯之子孫、無二覬ー｜之大小一皆貪二利。

（れ）三公の位をいふ。○〔後漢〕「位登ー｜二台一。

（そ）前に同じ。○〔後漢〕「配登ー｜之位一。

（つ）貴重なるかなへ。○〔左〕「貴重作ー｜ー｜。

鼎 俗の鼎の字。

鼎 ベキ、ミヤク。莫狄切 錫

（ね）樽を覆ふに用ふる疏巾、ふきん。○〔禮〕「樽・罍疏・布ー｜。

（な）鼎を蓋ふに用ふる竹木、かなへおほひ。○〔儀〕「設二ー｜一。

（ら）勢なく精の閉づる宮人。○〔廣雅〕「慢・閟也。

鼓部

鼓 コ、ク。工戸切 麌

（一）面に革を張りたる樂器、つづみ、古昔は春分の音にして軍樂の首たるものとし、其の柄を耳にてつくりたりといふ。（二）ます「升。○〔周〕「ー｜人掌二六ー｜二。（三）荷「瓜桃棗李一本數以二盆ー｜二。

〔爾註〕つぶがとつみと、二者ともに鼓部の主たるもの。○〔郭〕「ー｜鼓也。

〔爾註〕龜の名。○〔郭〕「似米有鱗ー｜ー｜。

三畫

鼓 シ。子之切 支 サイ、作代切 隊 サイ、昨哉切 咍

上すぼまりて口狹き一種の小鼎。○〔詩二「簋鼎及ー｜」。

堋 テイ、チヤウ。都挺切 迥 ー說は、ありづか二墳一封。

鼎 カン。古刊切 寒 かなへ（鼎）。

十一畫

鼒 セイ、サイ。祥歲切 霽 小さき鼎。○〔淮〕「ー｜在二其間一」。

將鼎 シヤウ、サウ。式羊切 陽 にる（煮）。

鼓部

鼓 コ、ク。工戸切 麌

（一）面に革を張りたる樂器、つづみ、古昔は春分の音にして軍樂の首たるものとし、其の柄を耳にてつくりたりといふ。（二）ます「升。○〔周〕「ー｜人掌二六ー｜二。（三）荷「瓜桃棗李一本數以二盆ー｜二。

〔爾註〕つぶがとつみと、二者ともに鼓部の主たるもの。○〔郭〕「ー｜鼓也。

〔爾註〕龜の名。○〔郭〕「似米有鱗ー｜ー｜。

五畫

鼓 サク、ソク。七盧切 合

鼓の聲にいふ字、一説に鼓の邊を打つにいふ字。

鼓 ハウ、ヒヤウ。蒲孟切 梗 鼓の聲にいふ字。

鼓 鼓に同じ。

六畫

鼓 ケキ、キヤク。吉逆切 陌 鼓の聲にいふ字。

四畫

鼓 ホウ、フ。蒲蒙切 東 鼓の聲にいふ字。

鼓 鼓に同じ。

三畫

鼓 ゴ、ク。公戸切 麌

（一）鼓を擊つつづみうつ。○〔左〕「公將レー｜北鼓一」。うつ（擊）。○〔呂氏春秋〕「以二其尾一」ひく（彈）。○〔論〕「ー｜瑟希。（四）なる、ならす（鳴）。○〔屈平〕「呂・望之ー｜刀分」。（五）舘の擊つ處。○〔周〕「晃・氏爲レ鎧・子辭二、又ー｜之舞レ之以震レ神。（六）振動す、うごかす、うごく、ふるふ。○〔易〕「二天・下之動一者存二乎辭一、又ー｜之舞レ之以震レ神。（七）厭燃す、あふぐ、あふる、おこる、おこす。○〔漢二鄧東曾國ー｜鑄鐵鼓一。

二畫

鼓 ブ。徒冬切 冬 徒弄 東 鼓の聲にいふ字。○〔唐二「鼓ー｜ー｜。

鼓 フ。遇無 虞 フ。斐父切 ホ。切 麌

軍擊の喧しきにいふ字、かまびすし。○〔書〕「乃鼓ー｜譟」。

鼓 テフ。他協切 葉 一鼓に擊なし、つづみならす。

鼓 ハウ、ホウ。西江切 江 鼓の聲にいふ字。

鼓 タフ、トフ。土盍切 合 鼓擊の聲にいふ字。

鼓 カフ、コフ。苦盍切 合 鼓の聲にいふ字。○〔史〕「鼓・鐘鏗ー｜。

鼓 トウ、ダ。徒冬切 冬 トウ、ヂユ。持中切 東 鼓の聲にいふ字。

鼓 イン、於中切 東 エン。烏聰切 送 鼓の聲にいふ字。

鼓 フン、ボン。符分切 文 長さ八尺の大鼓軍事にうちならすもの。○〔周〕「以二ー｜鼓ー｜軍事一。

鼓 タウ、ドウ。徒刀切 豪

柄を持ちて搖かせば兩耳の自ら擊ちて鳴るべく作りたる小鼓ふりつづみ。○

【書】「下二晉鼓一二。

鼓 【支韻】 カウ、コウ。古刀切 豪

つづみ。

七畫

鼓 【支青】 トウ、ダ。徒紅切 東

鼓の聲にいふ字。

八畫

鼓 【支合】 タフ、トフ。托合切 合

㊀鼓聲寬し。ゆるし。

㊁鼓聲雜容す。かまびすし。

鼓 【支寒】 エン。榮絢切 先 イン、オン。於巾切 眞

鼓の聲にいふ字。○詩「鼛鼓一一」。

鼓 【支寒】 ヘイ、ベイ。部迷切 齊

馬上にてつゞみうつ鼓、うまのりつゞみ。せめつゞみ。軍中にて鼓の節を稱助するに用ふ。鼙鼓。○周「旅師執レ一」。

鼓 【支寒】 鼙に通じ用ふ。○搜神記「鼗鼓作「一」婆二。

鼓 【支長】 チャウ。豬羊切 陽

九畫

鼓 【支洞】 トウ、ダ。徒弄切 送

鼓の聲にいふ字。

鼓 【支青】 テフ。他協切 葉

鼓に擊なし。

鼓 【支革】 ヘイ、ベイ。部迷切 齊

鼓に擊なし。

鼓 【支晨】 カン、ゲン。胡讌切 霰

鼓の聲にいふ字。

鼓 【支聲】 テフ。他協切 葉 シフ。七入切 緝

鼓に擊なし。

鼓 【支鼓】 フン、ボン。符文切 文

大鼓。

鼓 【支藥】 サウ。蘇耶切 陽

鼓の匡、つゞみばこ。

十畫

鼓 【支擊】 セキ、シャク。倉歷切 錫 サウ、ソウ

鼓の聲にいふ字。○玉篇「一乎鼓レ之」。

鼓 【支擊】 リウ、ル。耳中切 東

㊀鼓の音にいふ字。㊁鼓に擊なし。

鼓 【支擊】 コウ、ク。枯公切 東

鼓擊の震ふにいふ字。○靈樞經「一一然不レ堅」。

鼓 【支擊】 カウ、コウ。古勞切 豪

長さ一丈二尺ある大鼓、おほつゞみ。○詩「一鼓弗レ勝」。

十一畫

鼓 【支淵】 トウ、ダ。徒紅切 東

鼓の聲にいふ字。

鼓 【支音】 イン、オン。于蔡切 沁

鼓の聲にいふ字。

十二畫

鼓 【支鼓】 トウ。他登切 蒸

鼓の聲にいふ字。

鼓 【支鼓】 トウ、徒冬切 冬 ロウ、盧冬切 ル。

ドウ、力中切 東 ホウ、皮江切 江

鼓の聲にいふ字。

鼠部

鼠 【支】 シ。書呂切 語 ソ。切 語 ㊀穴に棲みて善く盜を爲す一種の小獸ねずみ。○詩「穿窬黑一」。㊁痕に同じ。うれふ。憂。○詩「一思泣血」。

【說文】 穴處食肉鼠之總名。象形。

【水部】 みづねずみ。○管錐編「案水鼠即獺、似狐而小食魚穴食蟹」。

【水部】 獺の一種。○東方朔「北荒積水下、皮毛柔耎謂之貍」。

【犬部】 獺の一種。○爾雅翼「有野一一、人取其毛、謂之貛火統布」。

【牙部】 むささび。○山海經「丹熏山有獸、狀如鼠、其毛如蝟」。

【魚部】 おやがらねずみ。○字彙「形似鼠而細腰、善山一一、食竹蕊、夏月毛落、秋深復生」。

【魚部】 鼠の一種。○玉篇之「一一背上有文」。

【天部】 鼠の名。○山海經「物狀之山有鳥、狀如鴟而鼠毛、其名曰一一」。

【鳥部】 鳥の直肉の下。○爾雅翼「相鳥法一一飲力」。

【首部】 腦蓋を持するも。○史「何謂一一腐首」。

【首部】 くるまされたるねずみ。○列「脩一一而中之」。

【足部】 牡中のねずみ。又、首個の基部にある總ていふ。○淮子「泰公開日、始皇何處學子對曰、始皇也大國亦有人焉人主若百歲老死亦一一也」。

【肉部】 田鼠、鼢鼠などの名あり、たねずみ、もぐらもち。○本草「一一、形如鼠而黑、腹下黑色長毛」。

【豸部】 獸の一種、人を見れば前足を拔（地をなするが如くするより名づく。○爾雅「一一、鼠而立」。

【鼠部】 前出同じ。○方言「一一、關西或謂之鼠、或謂之一一、或謂之常鼠、或謂之若鼠」。

【甘部】 小者或曰一一」。

【首部】 小さき鼠、はつかねずみ。○埤蒼「一一、青野鼠也」。

【鼠部】 鼠の異名。○爾雅「鼠雖一名觀、今一一似之」。

【鼠部】 鼠の屋もうんぐわともかみくびるもの上。○管一一一事由。

【元部】 一種のねずみ。○古今注「一一、形如鼠而大一一一首、似鼠」。

【鼠部】 鼠の名。

【鼠部】 ゼ、ジ。市之切 支

鼠の名。

【鼠部】 ゼ、ニ。而止切 紙

鼠の名。

七畫

鼠 【支鼠】 テイ、ヂャウ。特丁切 徑

豹の如き文彩ある鼠、まだらねずみ。○「正字通」「攸對曰一一鼠也」。

鼠 【支鼠】 ゴ、グ。五乎切 虞

鼬の本字。

鼠 【支語】 鼯鼠の如き肉翅ある一種の獸、翅尾項脊の毛は紫赤色、背上は蒼茶色、腹下は黃、喉領は雜白、脚短く爪長し、飛ぶこと三尺許なり、むささび、もゝんぐわ、飛生鼠、夜由。○「馬融」「一鼠夜叫」。

鼠 【支鼠】 【音義】 鼯ケむさゝび。○史「一一之技」。

【山經】 山中獸みな白にして赤耳、其名一一、其音如嬰兒之音。

鼠 【支鼠】 前條に同じ。

鼠 【支鼠】 ショク、ソク。蘆玉切 沃

一、鼬は、小鼠。

鼠 【支鼠】 シュン。鼠蛾切 震

なかつぎ、石鼠。

鼠 【支鼠】 テン、チン。南見切 霰

鼠の如き大いさにて水に棲むもの、きれねずみ。

鼠 【支鼠】 ウン、ニン。而振切 眞

鼠。

鼠 【支鼠】 シャク、サク。之若切 藥

胡地の風鼠。

鼠 【支鼠】 ハウ、ヘウ。巴皎切 巧

鼠の屬、能く飛びて虎豹の物を食らふとぞ、とびねずみ。

鼠 【支鼠】 シャク、サク。郎略切 藥

鼠に似て小さき獸。

鼠 【支鼠】 テキ、チャク。丁歷切 錫

鼠の名。

四畫

鼠 【支鼠】 カン、ゴン。胡男切 覃

鼠の屬。

鼠 【支鼠】 カン、コン。古南切 覃

やもり、蜥蜴。

鼠 【支鼠】 フン、ボン。房吻切 吻

地鼠、つちねずみ、一說に、鼹鼠、もぐらもち。○「爾」「一鼠」。

鼠 【支鼠】 フン、ボン。切 符分 文 符問 問

田中の鼠、だねずみ。

鼠 【支鼠】 チン、ザン。直林切 侵

水鼠、みづねずみ。

鼠 【支鼠】 ヘイ、ベ。符廢切 隊

雲は犬のほゆるが如き一種の鼠。

鼠 【支鼠】 ハウ、ホウ。分房切 陽

地鼠、ぢねずみ。

鼠 【支鼠】 ブン、モン。無分切 文

斑尾の鼠、まだらなのねずみ。

鼠 【支鼠】 ブン、モン。文運切 問

鼠のあや。

五畫

鼠 【支鼠】 ヘイ、ビャウ。獘經切 青

㊀鼠の子。㊁斑鼠、まだらねずみ。

鼠 【支鼠】 ハツ、バチ。蒲撥切 曷

肥えたる鼠。

鼠 【支鼠】 シ。即移切 支

尾の雞に似たる鼠、ひでりねずみ。

鼠 【支鼠】 古文の貂の字。○「史」「狐一裘千一皮」。

鼠 【支鼠】 リウ、ル。力求 尤 力九 有 切

竹鼠、たけねずみ。竹根を食ひし土穴に穿む大いさ兎の如しといふ。

鼠 【支鼠】 レイ、リャウ。郎丁切 青

一一は、まだらねずみ。斑鼠。

鼠 【支鼠】 ケイ、キャウ。古營切 青

前條に同じ。

鼠 【支鼠】 シウ、シュ。職戎切 東

トウ、ダ。徒冬切 冬

六畫

鼠 【支鼠】 ヘイ、ビャウ。步耦切 青

支那の邊地の鼠、其の皮は裘となすに堪ふとぞ。

鼠 【支鼠】 カク、ガク。切 下各 藥 ラク。盧各 切

豹の文ある鼠、まだらねずみ。

鼠 【支鼠】 ゲ、コ。其俱切 虞

鼠 【支鼠】 ㊀鼬一一、鼬一一は、はつかねずみ。㊁ちねずみ、のらねずみ。

鼠 【支鼠】 セイ、シャウ。所庚切 庚

飛生鼠、むさゝび、一說に、いたち、鼬。○「莊」「柱二一鼬之逐一」。

鼠 【支鼠】 セキ、シャク。常隻切 陌

㊀五技鼠、なかつぎ、大いさ鼠の如く頭は狐の如く尾に毛あり、全身青黃色なり、好みて田中の粟豆を食らふ。○「易」「如一一」。㊁けら、螻蛄。○「本草」「螻蛄一名一一」。

鼠 【支鼠】 ショウ、ニュ。而隴切 腫

鼠の屬。

鼠 【支鼠】 イウ、ユ。余救切 宥

㊀鼬に似たる一種の獸、全身赤黃色にて大いなる尾あり、いたち、鼬鼠、地猴、黃鼠狼。○「韓愈」「一一黠而一一」。㊁羽毛の飛揚する貌にいふ字。○「馬融」「羽一毛紛其影一」。

鼠 【支鼠】 ヘイ、ビャウ。步耦切 青

鼠 【支鼠】 カク、ガク。切 下各 藥 ラク。盧各 切

鼠。

鼠 【支鼠】 ヘイ、ベ。符廢切 隊

鼠の名。

鼠 【支鼠】 ブン、ボン。房吻切 吻

鼠 【支鼠】 フン、ボン。切 符分 文 符問 問

鼠 【支鼠】 セキ、シャク。常隻切 陌

鼠 【支鼠】 ショウ、ニュ。而隴切 腫

鼠 【支鼠】 イウ、ユ。余救切 宥

鼠 【支鼠】 ヘイ、ビャウ。步耦切 青